

上ノ村遺跡Ⅲ

波介川河口導流事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅴ

2012.3

高 知 県 教 育 委 員 会
(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

か み の む ら
上ノ村遺跡Ⅲ

波介川河口導流事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅴ

2012.3

高 知 県 教 育 委 員 会
(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

序

上ノ村遺跡は、高知平野の西部を潤す仁淀川下流にある縄文時代から近代にいたる遺跡です。これまで、仁淀川下流域では戦国期の山城が幾つか知られていただけで、平地部での遺跡の分布はほとんど認められていませんでした。平成16年度、国土交通省高知河川国道事務所による波介川河口導流事業に伴う試掘調査によって新居城周辺から2つの遺跡が新たに確認され、新居城西方の遺跡を北ノ丸遺跡、南に展開する遺跡を上ノ村遺跡と命名しました。

高知県埋蔵文化財センターでは、平成16年の秋から北ノ丸遺跡、17年度には上ノ村遺跡の発掘調査に着手し平成21年度まで6カ年にわたる調査を実施してまいりました。その結果、上ノ村遺跡は古代から中世前半を中心に営まれた集落であることが明らかとなりました。そして西日本各地の土器や貿易陶磁器が多く持ち込まれており、当時の地域間交流を知ることが出来ると同時に、当遺跡が河川交通要衝であったことが考えられるようになりました。このことはこれまでほとんど判っていなかった仁淀川下流域の歴史を飛躍的に明らかにすると共に、この地域が歴史の中で重要な役割を果たしてきたことを示すものです。

この度刊行になった『上ノ村遺跡Ⅲ』は、19年度調査に実施した第3地点の発掘調査報告書です。この地点は仁淀川に最も近い調査区ですが、中世の遺構・遺物が検出されており、中世集落がさらに広がっていたことを示しています。これまでの成果に加えて上ノ村遺跡の内容がさらに豊かになるものと確信しております。本書が斯学の向上と共に、地域理解のための一助となり、地域発展に資することができれば幸いです。今後とも埋蔵文化財の保護、調査に対しましてご理解とご協力を下さいますようお願い申し上げます。

最後に、調査に対して全面的な協力をして下さった地元新居地区のみなさま、国交省高知河川国道事務所、発掘作業に携わって下さった現場作業員のみなさまに厚くお礼申し上げます。

平成24年3月

財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター

所長 森田尚宏

例 言

1. 本書は、(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター（以下高知県埋蔵文化財センター）が平成19年に実施した波介川河口導流事業に伴う上ノ村遺跡第3地点の発掘調査報告書である。
2. 調査は、国土交通省四国地方整備局高知河川国道事務所の委託を高知県教育委員会が受託し、高知県埋蔵文化財センターが再委託して発掘調査を実施した。
3. 上ノ村遺跡は、土佐市新居上ノ村字土居屋敷5100-1他に所在する。
4. 調査期間及び調査面積
調査期間：平成19年6月～20年2月 面積：5,280㎡
5. 調査体制

総括	高知県埋蔵文化財センター所長	汲田幸一
	〃	次長 森田尚宏
	〃	調査課長 廣田佳久
総務	〃	総務課長 戸梶友昭
調査担当	〃	調査課第三班長 出原恵三
	〃	専門調査員 野田秀夫
	〃	〃 坂本憲昭
	〃	調査員 柴岡理恵
6. 執筆は第3地点1・4・5区を出原が、第3地点2・3区は坂本が行った。本書の編集は坂本が行ったが文章中の表現、表については統一を図っていない。
7. 19年度現場作業では下記の調査補助員から協力を得た。
高知県埋蔵文化財センター技術補助員 片岡和美 坂本憲彦
〃 測量補助員 岡林真史 谷川齊
8. 出土遺物については浜田恵子(高知市教育委員会)からご指導を頂いた。記して謝意を表したい。
9. 出土遺物の自然科学分析に付いては下記の機関に依頼した。
鍛冶関連遺物については金属学的調査を九州テクノリサーチ・TACセンターに依頼した。
10. 遺物実測、トレースなどの整理作業は下記の方々が従事して下さった。
片岡和美 岡林真史 高橋由香 竹村延子 土居初子 東村知子 吉本由佳 山中美代子
入野三千子 藤原ゆみ 竹村加奈子 志摩村美保 高橋加奈 その他多くの方々の協力を得た。
11. 遺構については、SK(土坑)、SD(溝跡)、P(ピット)、SX(性格不明遺構)、IKO(攪乱等近現代遺構の可能性がある部分)等の略号を使用した。掲載している挿図の縮尺はそれぞれに記載しており、方位Nは世界測地系による方眼北である。

12. 位置図、全体図は基本的に上を方位Nとした。方位Nは世界測地系による方眼北である。
13. 遺物については縮尺1/4を基本とし、石器等必要に応じて縮尺を変えているが、各挿図にはスケールを表示している。
14. 出土遺物は、18年度調査分が「06-8TK」、19年度調査分が「07-8TK」、20年度分が「08-8TK」と注記して高知県立埋蔵文化財センターで保管している。

本文目次

第 I 章 調査区の概要	1
第 II 章 3-1区の調査	3
1. 基本層準	3
2. 上層の遺構と遺物	6
3. 中層の遺構と遺物	11
4. 下層の遺構と遺物	44
第 III 章 3-2区の調査	75
1. 3-2区の概要	75
2. 上面の遺構と遺物	77
3. 中面の遺構と遺物	77
4. 下面の遺構と遺物	96
第 IV 章 3-3区の調査	127
1. 3-3区の概要	127
2. 上面の遺構と遺物	129
3. 下面の遺構と遺物	142
第 V 章 3-4・5区の調査	183
1. 3-4区の調査	183
2. 3-5区の調査	183
第 VI 章 自然科学的分析	199
1. 上ノ村遺跡出土鍛冶関連遺物の金属学的調査	199
2. 上ノ村遺跡出土土器の年代学的調査	208

挿図目次

1-1 図	上ノ村遺跡調査区位置図	2
2-1 図	3地点調査区位置図	3
2-2 図	3-1区上層全体図	4
2-3 図	3-1区基本層準	5
2-4 図	SK1・2 遺構・遺物	7
2-5 図	SK3・6・7 遺構・遺物	8
2-6 図	SD3～9 セクション・遺物	9
2-7 図	上層ピット出土遺物	11
2-8 図	中層遺構全体図	12
2-9 図	SK10・11・41 遺構・遺物	13
2-10 図	SK12・13・35 遺構・遺物	14
2-11 図	SK14・15 遺構・遺物	16
2-12 図	SK16・17 遺構・遺物	17
2-13 図	SK18～20・29 遺構・遺物	18
2-14 図	SK21～23 遺構・遺物	19
2-15 図	SK24・25 遺構・遺物	20
2-16 図	SK27・28 遺構・遺物	21
2-17 図	SK30～34 遺構・遺物	22
2-18 図	SK38・42～45 遺構・遺物	23
2-19 図	SK46～48 遺構・遺物	24
2-20 図	SD20集石出土状況	27
2-21 図	SD20セクション及び上層出土遺物①	28
2-22 図	SD20上層出土遺物②	29
2-23 図	SD20上層出土遺物③	30
2-24 図	SD20上層出土遺物④	31
2-25 図	SD20中・下層出土遺物	32
2-26 図	SD20集中出土遺物	33
2-27 図	SD22・23セクション及びSD21～23出土遺物	34
2-28 図	SD25セクション及びSD24・25出土遺物	35
2-29 図	中層ピット出土遺物①	36
2-30 図	中層ピット出土遺物②	37
2-31 図	集石1(W・E)平面・エレベーション及び出土遺物	38
2-32 図	集石2平面・エレベーション及び出土遺物	39
2-33 図	中層土器集中1～3出土遺物	40
2-34 図	下層遺構全体図	42

2-35図	SK49～51 遺構・遺物	43
2-36図	SD31セクション及び出土遺物	44
2-37図	SD32セクション及び出土遺物	45
2-38図	SD33・35a・35bセクション及びSD33出土遺物	46
2-39図	SD34～36出土遺物	47
2-40図	SD37・38セクション及び出土遺物	47
2-41図	SD39・40セクション及び出土遺物	48
2-42図	下層ピット出土遺物	49
2-43図	包含層出土遺物①	50
2-44図	包含層出土遺物②	51
3-1図	調査区位置図	75
3-2図	TR28・中央バンクセクション図	76
3-3図	中面遺構全体図	78
3-4図	中面遺物分布図	79
3-5図	SK1遺物集中出土遺物	82
3-6図	SK1	83
3-7図	SK9・13・23・26	84
3-8図	SK24・30・38	85
3-9図	SK44	86
3-10図	SD1・2	89
3-11図	SD3・4・6・7・9・10	90
3-12図	SD8	91
3-13図	SD20	92
3-14図	中面ピット出土遺物	94
3-15図	SX1	95
3-16図	下面遺構全体図	97
3-17図	下SK1～6	98
3-18図	SD35・36	100
3-19図	SD37	101
3-20図	4層出土遺物1	102
3-21図	4層出土遺物2	103
3-22図	4層出土遺物3	104
3-23図	4層出土遺物4	105
3-24図	4層出土遺物5	106
3-25図	4層出土遺物6	107
3-26図	4層出土遺物7	108
3-27図	4層出土遺物(石器・鉄器)	109
3-28図	4・5層出土遺物	110

3-29図	5層出土遺物	111
3-30図	5・5-2・6層・表採及び攪乱出土遺物	112
4-1図	調査区位置図	127
4-2図	セクション図	128
4-3図	上面遺構全体図	130
4-4図	SK1～5	131
4-5図	SE1	133
4-6図	SE1	134
4-7図	SE1	135
4-8図	SE1 出土遺物	136
4-9図	SD1・7・石列1	138
4-10図	石列1・2・3	139
4-11図	上面ピット出土遺物	141
4-12図	下面遺構全体図	143
4-13図	SB1・2	145
4-14図	SB3～6・柱穴列1	146
4-15図	下SK3・8・16	150
4-16図	下SK17・19・22	151
4-17図	下SK26・27・29・31	152
4-18図	下SD1	153
4-19図	下面ピット出土遺物	155
4-20図	下IKO1	157
4-21図	下IKO2	158
4-22図	下IKO2 遺物出土分布	159
4-23図	下IKO2 出土遺物	160
4-24図	下IKO2 出土遺物	161
4-25図	下IKO3	162
4-26図	包含層 4層 出土遺物1	163
4-27図	包含層 4層 出土遺物2	164
4-28図	包含層 4層 出土遺物3	165
4-29図	包含層 4層 出土遺物4	166
4-30図	包含層 5層 出土遺物	167
4-31図	包含層 5-2層 出土遺物	168
4-32図	包含層 出土遺物	169
5-1図	3-4区平面図	183
5-2図	3-4区基本層準	184
5-3図	3-5区遺構全体図	185
5-4図	3-5区基本層準	186

5-5図	SK1～3平面・エレベーション・出土遺物	187
5-6図	SK4・5平面・セクション及び出土遺物	188
5-7図	SK5出土遺物	189
5-8図	SK6・7平面・セクション及び出土遺物	190
5-9図	SK8平面・セクション	191
5-10図	SK8出土遺物	192
5-11図	護岸状遺構	192
5-12図	ピット出土遺物	193
5-13図	トレンチ出土遺物	193
5-14図	3-5区包含層出土遺物	194
6-1図	上ノ村1の確立密度分布	210
6-2図	上ノ村2の確立密度分布	210
6-3図	上ノ村3の確立密度分布	210
6-4図	大分市玉沢条里跡第7次出土上菅生B式土器と上ノ村遺跡出土土器	212

挿入表目次

表1	上層検出の土坑一覧	6
表2	中層検出の土坑一覧	15
表3	3-1区土器観察表1	55
表4	3-1区土器観察表2	56
表5	3-1区土器観察表3	57
表6	3-1区土器観察表4	58
表7	3-1区土器観察表5	59
表8	3-1区土器観察表6	60
表9	3-1区土器観察表7	61
表10	3-1区土器観察表8	62
表11	3-1区土器観察表9	63
表12	3-1区土器観察表10	64
表13	3-1区土器観察表11	65
表14	3-1区土器観察表12	66
表15	3-1区土器観察表13	67
表16	3-1区土器観察表14	68

表17 3-1区土器観察表15.....	69
表18 3-1区土器観察表16.....	70
表19 3-1区土器観察表17.....	71
表20 3-1区土器観察表18.....	72
表21 3-1区土器観察表19.....	73
表3-1 中面土坑一覧表.....	80
表3-2 中面ピット計測表.....	93
表3-3 下面土坑一覧表.....	96
3-2区遺物観察表1.....	113
3-2区遺物観察表2.....	114
3-2区遺物観察表3.....	115
3-2区遺物観察表4.....	116
3-2区遺物観察表5.....	117
3-2区遺物観察表6.....	118
3-2区遺物観察表7.....	119
3-2区遺物観察表8.....	120
3-2区遺物観察表9.....	121
3-2区遺物観察表10.....	122
3-2区遺物観察表11.....	123
3-2区遺物観察表12.....	124
3-2区遺物観察表13.....	125
表4-1 上面土坑一覧表.....	129
表4-2 溝跡一覧表.....	137
表4-3 上面ピット計測表.....	140
表4-4 掘立柱建物跡計測表.....	142
表4-5 下面土坑計測表.....	147
表4-6 下面ピット計測表.....	154
3-3区遺物観察表1.....	171
3-3区遺物観察表2.....	172
3-3区遺物観察表3.....	173
3-3区遺物観察表4.....	174
3-3区遺物観察表5.....	175
3-3区遺物観察表6.....	176
3-3区遺物観察表7.....	177
3-3区遺物観察表8.....	178
3-3区遺物観察表9.....	179
3-3区遺物観察表10.....	180
3-3区遺物観察表11.....	181

3-3区遺物観察表12	182
表3-5区土器観察表1	195
表3-5区土器観察表2	196
表3-5区土器観察表3	197
表6-1 供試材と履歴と調査項目	206
表6-2 供試材の化学組成	207
表6-3 出土遺物の調査結果のまとめ	207
表6-4 土器付着炭化物の測定結果一覧	209

写真目次

図版 1	3 地点調査前の全景 南上空から・同上 南東から
図版 2	3 地点調査前の全景 北から・渡し場跡
図版 3	3-1 区上層完掘状況 真上から・同上 南側上空から
図版 4	3-1 区上層石列 南から・同上 西から
図版 5	3-1 区上層石列 東から・北壁土層堆積状況①
図版 6	3-1 区北壁土層堆積状況②・SD7・SD9 セクション・SK7、SK3 土瓶 (3) 出土状況
図版 7	3-1 区中層完掘状況 直上から・同上 北上から
図版 8	〃 SD20 礫出土状況・同上遺物集中出土状況
図版 9	〃 SD20 礫出土状況 南から・同上 北から
図版 10	〃 中層集石 1 東から・SD22・23 完掘状況 南から
図版 11	〃 中層集石 1 南から・同 西から
図版 12	〃 SK10 完掘状況、SK12・14 セクション、SK15 検出状況・礫出土状況・完掘状況、SK17 土器出土状況
図版 13	〃 SK21～24・40 完掘状況、SK18・25 セクション、SK46 礫出土状況
図版 14	〃 SK42～44・47 完掘状況、SD20・22・23・25 セクション
図版 15	〃 SD20 土器集中出土状況、集石 2、4 層土器集中 2、4 層出土の瓦器椀
図版 16	〃 SD23 出土の青磁碗、4 層土器集中 1、4 層出土の青磁・白磁・土師質杯・瓦器椀
図版 17	3-1 区下層完掘状況・同上 北東方向上空から
図版 18	〃 SK51 完掘状況と焼土の広がり・下層東端の石列
図版 19	〃 SK51 セクション、SD31～33 セクション、SD33 出土の瓦器椀・青磁碗・SD39 出土の東播系甕

- 図版 20 3-1区 SK14・17・27・34 出土の土師質杯
- 図版 21 〃 SD20 出土の土師質杯
- 図版 22 〃 SD20 出土の土師器杯、SD23・32・33・集石2・包含層出土の瓦器椀
- 図版 23 〃 SK3 出土の土瓶、SD33 出土の青磁碗、土器集中1及び包含層出土の白磁碗・温石
- 図版 24 〃 東播系捏鉢、常滑甕・鉢
- 図版 25 〃 常滑甕胴部押印、紀伊型甕
- 図版 26 〃 青磁碗
- 図版 27 〃 青磁皿・碗底部、白磁碗・皿
- 図版 28 〃 近世陶磁器
- 図版 29 3-2区 中面完掘状況 北から・中面完掘状況 上から
- 図版 30 〃 中面完掘状況遠景 北から・中面完掘状況 南から
- 図版 31 〃 下面完掘状況 上から・下面完掘状況近景 北から
- 図版 32 〃 遺構検出状況・遺物出土状況
- 図版 33 〃 出土遺物
- 図版 34 〃 出土遺物
- 図版 35 〃 出土遺物
- 図版 36 〃 出土遺物
- 図版 37 〃 出土遺物
- 図版 38 〃 出土遺物
- 図版 39 〃 出土遺物
- 図版 40 〃 出土遺物
- 図版 41 〃 出土遺物
- 図版 42 〃 出土遺物
- 図版 43 〃 出土遺物
- 図版 44 3-3区 上面完掘状況 上から・下面検出状況 南から
- 図版 45 〃 下層完掘状況 上から・下面完掘状況 南から
- 図版 46 〃 遺構完掘状況・出土状況・検出状況・作業風景
- 図版 47 〃 遺構検出状況・遺物出土状況
- 図版 48 〃 出土遺物
- 図版 49 〃 出土遺物
- 図版 50 〃 出土遺物
- 図版 51 〃 出土遺物
- 図版 52 〃 出土遺物
- 図版 53 〃 出土遺物
- 図版 54 〃 出土遺物
- 図版 55 〃 出土遺物
- 図版 56 〃 出土遺物

- 図版 57 3 - 3 区出土遺物
図版 58 ヶ 出土遺物
図版 59 ヶ 出土遺物
図版 60 ヶ 出土遺物
図版 61 3 - 4 区完掘状況（西から）、同上（東から）
図版 62 3 - 5 区完掘状況、同東壁セクション
図版 63 ヶ 護岸状遺構（東から）、同上（北から）
図版 64 ヶ 北壁セクションと護岸状遺構（南から）、護岸状遺構（南から）、SK5 遺物出土状況、SK4・8 完掘状況、SD3・4 セクション
Photo.1 椀形鍛冶残滓の顕微鏡組織
Photo.2 ガラス質滓・椀形鍛冶残滓の顕微鏡写真
Photo.3 椀形鍛冶残滓の顕微鏡組織
Photo.4 微細遺物の顕微鏡組織

第 I 章 調査区の概要

第3地点は上ノ村遺跡の北東部に位置し、新居城山の東側山麓に立地している。旧堤防の外側にあり、戦後築かれた新堤防を一つ隔てて仁淀川となっている。仁淀川が城山北側の断崖にぶつかり流れをやや東に振ったところに形成された狭隘な平地部にあるが、古代以前は流路の中にあったことが2005年に実施した試掘調査の河川堆積物の状況から判っている。山裾部の高所には最近まで民家が建っており、その東側の低地部は水田が営まれていた。試掘調査では、城山裾部に近い地点から縄文晩期～中世の遺物が出土、低地部からは中世～近世の遺物・遺構が検出されたことから本調査の必要があると判断した。

調査面積は5,280 m²を測る。発掘調査においては、便宜上2-1図に示したように平地部を3-1～3-5区、斜面部を第3地点拡張区とし六つの小区に分けて実施した。第3地点拡張区については2010年度に『上ノ村遺跡Ⅱ』として報告書を刊行している。拡張区からは、斜面堆積ではあるが、縄文中期から中・近世にわたる遺物が大量に出土しており、当遺跡が長期間にわたって営まれていたことを示している。わけても晩期前葉の無刻目突帯文土器の出土は注目すべきである。周知のように無刻目突帯文土器は東九州に分布の中心があり、四国においては西南部にのみ認められていたが今次調査によって高知平野での分布が確認され、しかもその成立が晩期初頭にまで遡ることが確認されたのである。当該期の高知平野の位置付けを考える上で極めて注目すべき現象であろう。

3-1区～3-5区については、3-4区を除いて中世から近世にかけての遺構・遺物が出検された。遺構面は地点によって異なるが1～3面存在している。1面は近世面で、2～3面は12～14世紀の遺構が確認されたが、それぞれの面で新旧関係を峻別して掘り分けることはできなかった。検出遺構は土坑、溝、ピット、井戸である。各遺構や包含層からは、土師質土器や瓦器を中心に、貿易陶磁器や常滑、紀伊型甕など遠隔地との交流を示す土器類が多数出土している。1地点や2010年度に報告(『上ノ村遺跡Ⅰ』)した城山の南に広がるNW・NE・S区からの出土内容と同様のものである。当該期の遺跡の広がりを示すものであり、『上ノ村遺跡Ⅰ』で位置付けた河川交通の要衝としての上ノ村遺跡の性格をさらに補強するものである。3-3区からは近世の井戸が確認された。当遺跡での近世井戸は初めての検出であり、他の調査区では認められなかった近世屋敷の存在を示唆するものである。また当調査区に近接する仁淀川右岸には、近世から戦後にかけて利用されていた「渡し場」跡が残存している。対岸の春野町西畑を結んでいた「十文字の渡し」である。3-4区は厚い河川堆積物で覆われており遺構・遺物は全く認められなかった。3-5区も東側半分は河川堆積で覆われ、西半分は中世を中心とした遺構が認められ旧川岸護岸と考えられる石列も認められた。



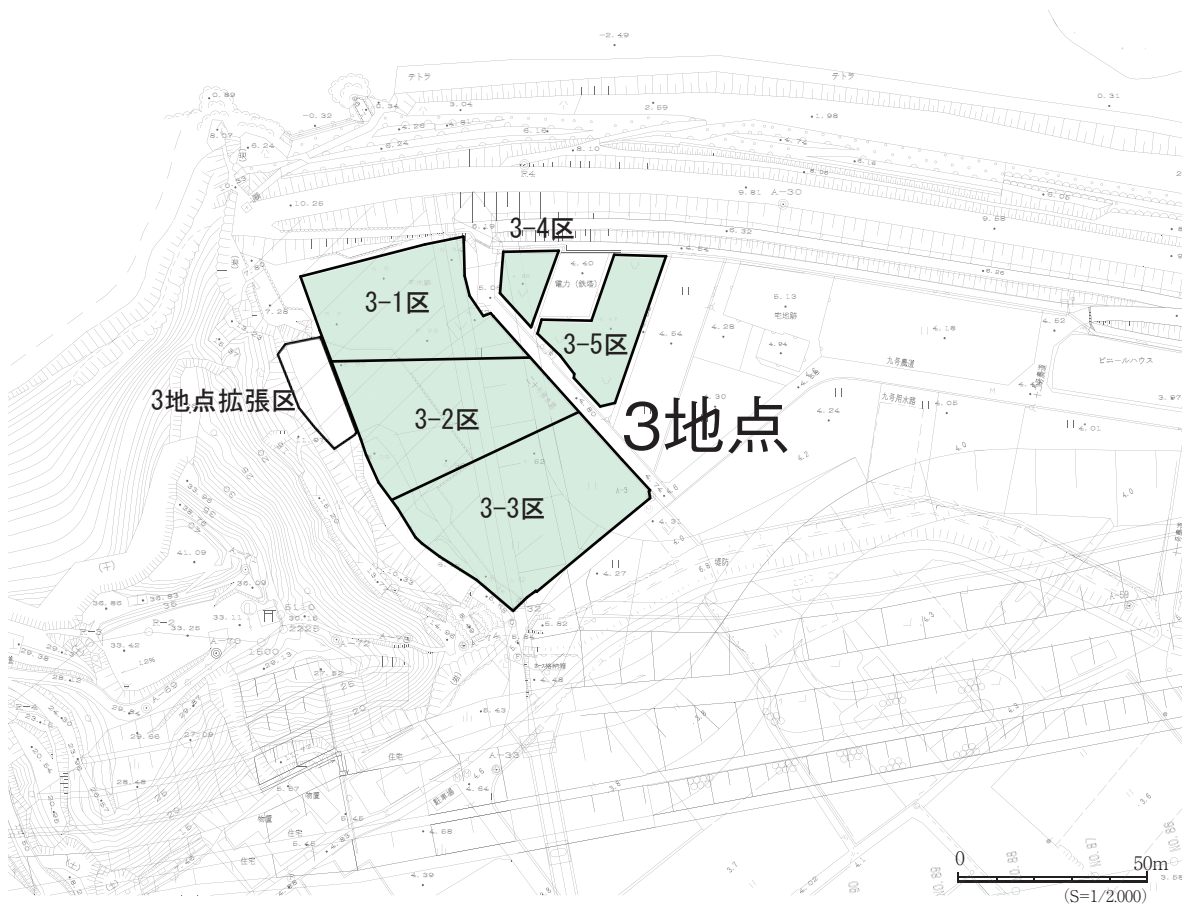
1-1図 上ノ村遺跡調査区位置図

第Ⅱ章 3-1区の調査

1. 基本層準 (2-3区)

3-1区の基本層準は、調査区北壁と中央部に東西方向のセクションベルトを二本残して観察した。山側(西部)裾に地山面の12層が斜めに堆積するが、それ以外はすべて仁淀川の河川堆積物である。その層準の中に山からの崩落した大型礫(多くの場合砂岩、砂岩風化礫)が散乱している。現代表土の地目である水田耕作を除去した段階からの基本層準であるが、北壁については耕作土が削られて厚い置土が見られた。河川による堆積土は深さ2m以上に及ぶ。各ベルトともに1層(灰色～灰褐色砂)は共通しており、本層準が上層遺構の検出面となっている。3～6層は中世の遺物を含む包含層である。4層の上面が中層の遺構検出面、4層、或は4・6層を除去した面に下層の遺構検出面はある。それよりも下層には生活面は形成されていない。しかし下層と中層とでは遺物を見る限り大きな差違は認められない。

『上ノ村遺跡Ⅱ』で報告した山側斜面裾では、標高2m程のレベルで縄文時代から古墳時代の遺物を

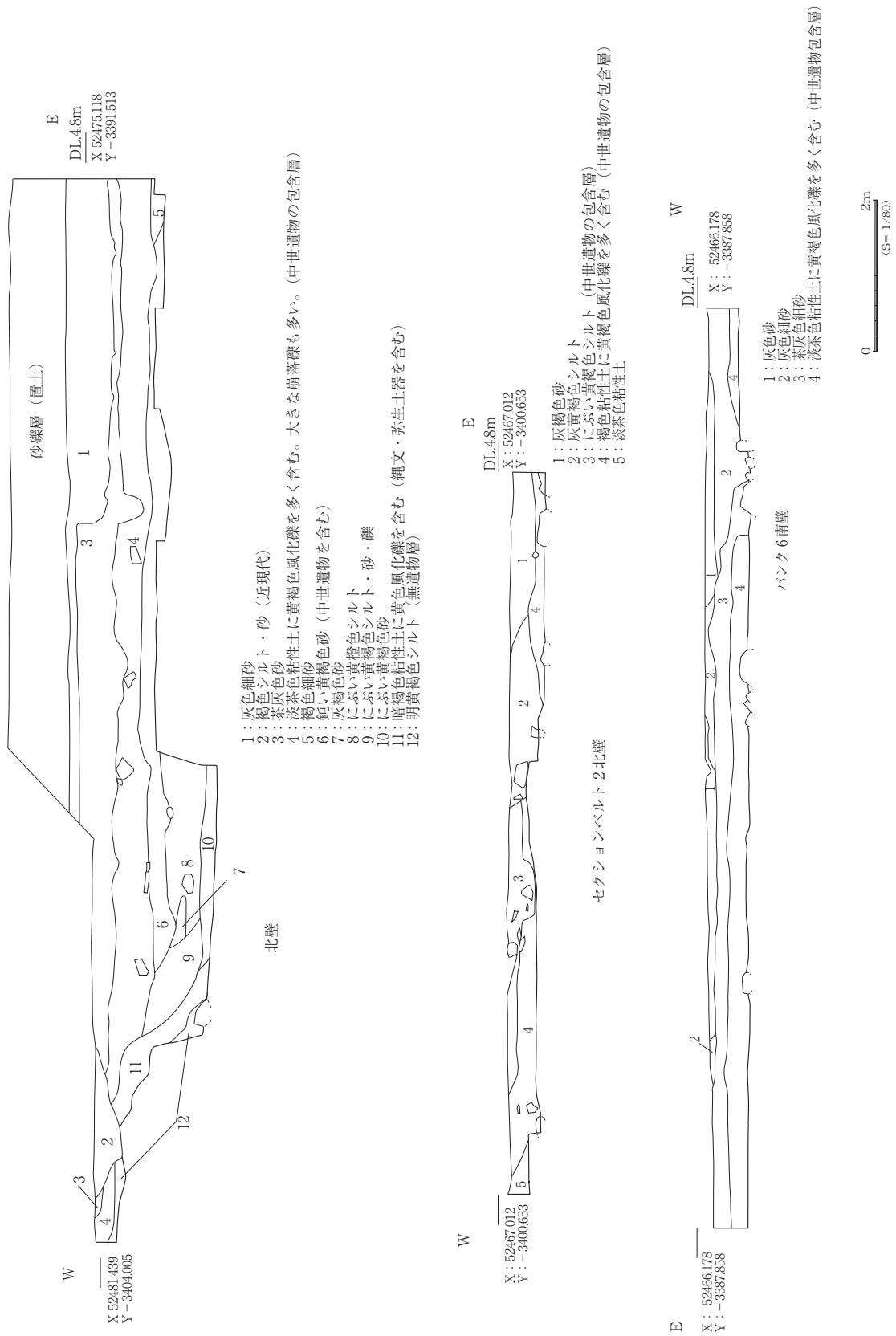


※ 3地点拡張区については「上ノ村遺跡Ⅱ」で報告

2-1 図 3地点調査区位置図



2-2図 3-1区上層全体図



2-3図 3-1区基本層準

含んだ砂層が確認できている。したがって3地点で安定した平野が形成され生活面として活用されるのは中世を待たなければならない。上ノ村遺跡の中世遺構の広がり、仁淀川の河川堆積による安定した平野形成が前提となっている。

2. 上層の遺構と遺物

(1) 土坑

SK1 (2-4図)

調査区の東北部にある。隅丸長方形の土坑で長軸 3.4m、短軸 1.16m、深さ 10cmを測る。埋土は茶灰細砂である。埋土中から土師質土器や瓦器細片が出土しており、瓦器椀 1点1のみ図示し得た。近世土坑である。

SK2 (2-4図)

SK1の南にある。長軸 2.5m以上を測る不整形の土坑である。埋土は茶灰細砂である。埋土中から土師質土器や瓦器細片が出土しており、瓦器椀 1点2のみ図示し得た。近世土坑である。

SK3 (2-5図)

調査区中央部に位置する。長軸 3.7m、短軸 2.56mの不整形プランを呈し、深さは 20cmを測る。埋土は灰色砂層である。埋土中から土師質土器や瓦器、常滑、須恵器、近世陶磁器などが出土している。3は土瓶、4は肥前系播鉢である。前者は赤褐色に発色し焼締めによる陶器土瓶丸形である。印刻による如意頭文が見える。内面にはロクロ目が顕著である。19世紀前半に多いタイプである。後者は外面鉄釉、内面は口縁部のみ施釉し、細い条線が認められる。19世紀中葉と考えられる。

SK6 (2-5図)

調査区南部にあり SD9に切られている、短軸 1m前後の楕円形プランを呈するものと考えられる。埋土は、鈍い黄褐色シルトである。埋土中から土師質土器や瓦器の細片が出土しているが図示できるものは無い。

SK7 (2-5図)

SK6の隣にある。SD9に切られているが、楕円形プランの土坑と考えられる。埋土は、鈍い黄褐色シルトに小礫を含んでいる。埋土中から土師質土器や瓦器、備前、近世磁器片が出土している。近世の陶器椀 5を図示した。口縁部が僅かに外反する。焼成不良で釉が白濁している。

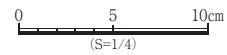
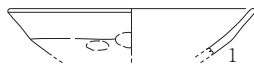
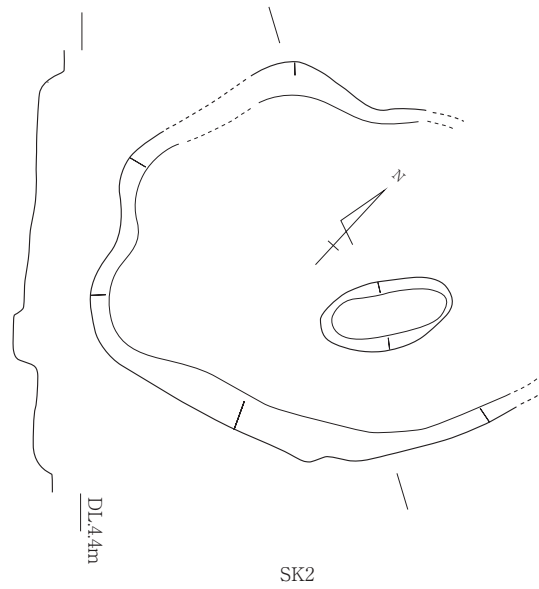
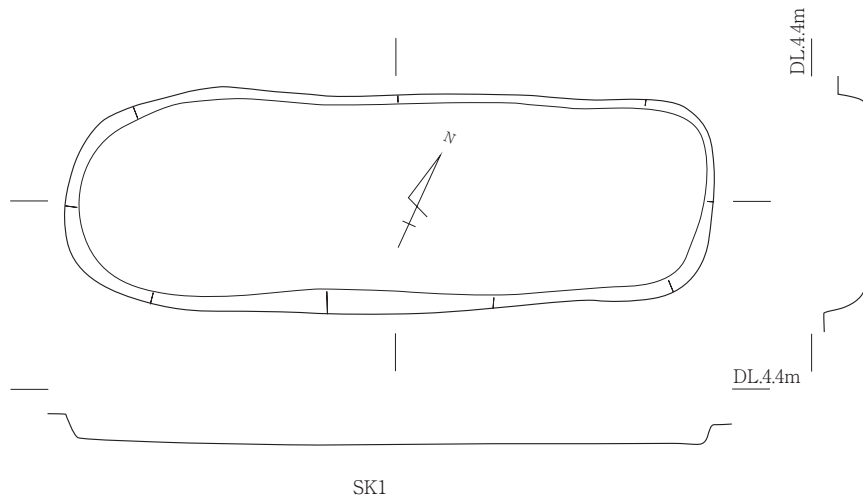
(2) 溝跡

SD3 (2-6図)

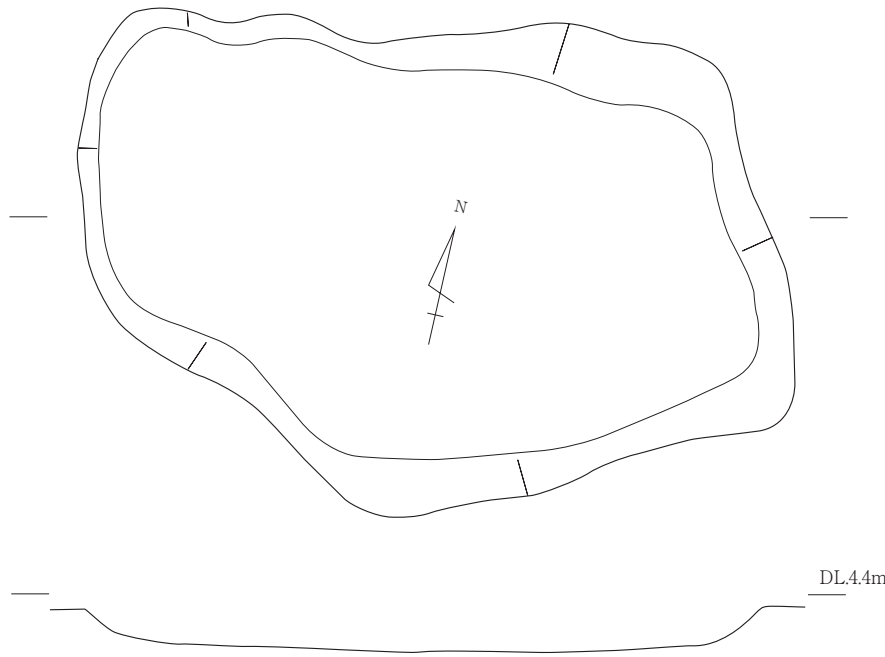
中央部を東西に走る溝で確認延長 11m、幅は 0.6～1.0m、深さ 10cm前後を測る。埋土は黄褐色シルトである。埋土中から土師質土器や瓦器の細片が多く出ている。6・7は土師質杯、8は口禿白磁皿である。

表1 上層検出の土坑一覧

土坑番号	平面形態	断面形態	長軸(m)	短軸(m)	深さ(cm)	備考
SK1	隅丸長方形	箱形	3.4	1.16	10	
SK2	不整形	U字形	2.5以上	1.8	8	
SK3	不整形	U字形	3.7	2.56	20	
SK6	楕円形	逆台形	不明	1	16	
SK7	楕円形	船底形	不明	不明	8	

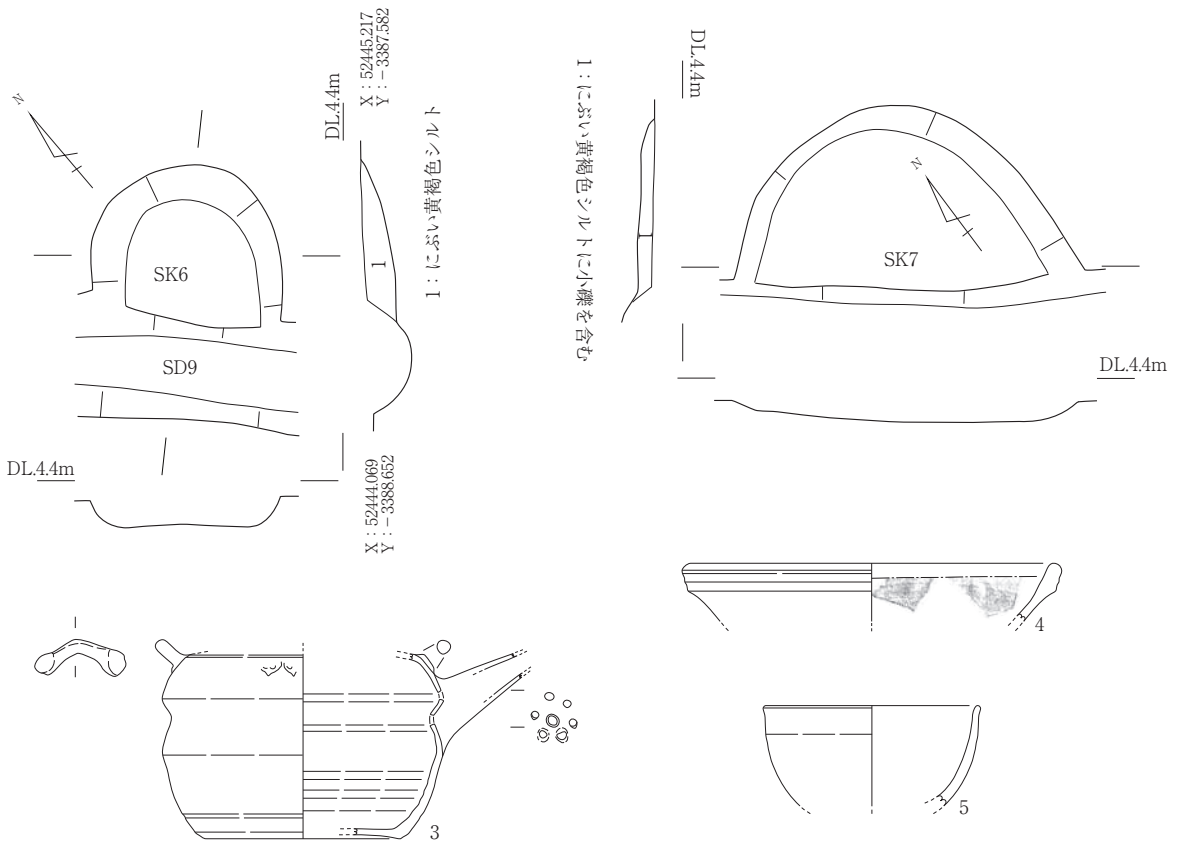


2-4図 SK1・2 遺構・遺物
SK1 (瓦器碗:1) SK2 (瓦器碗:2)

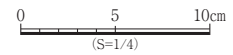


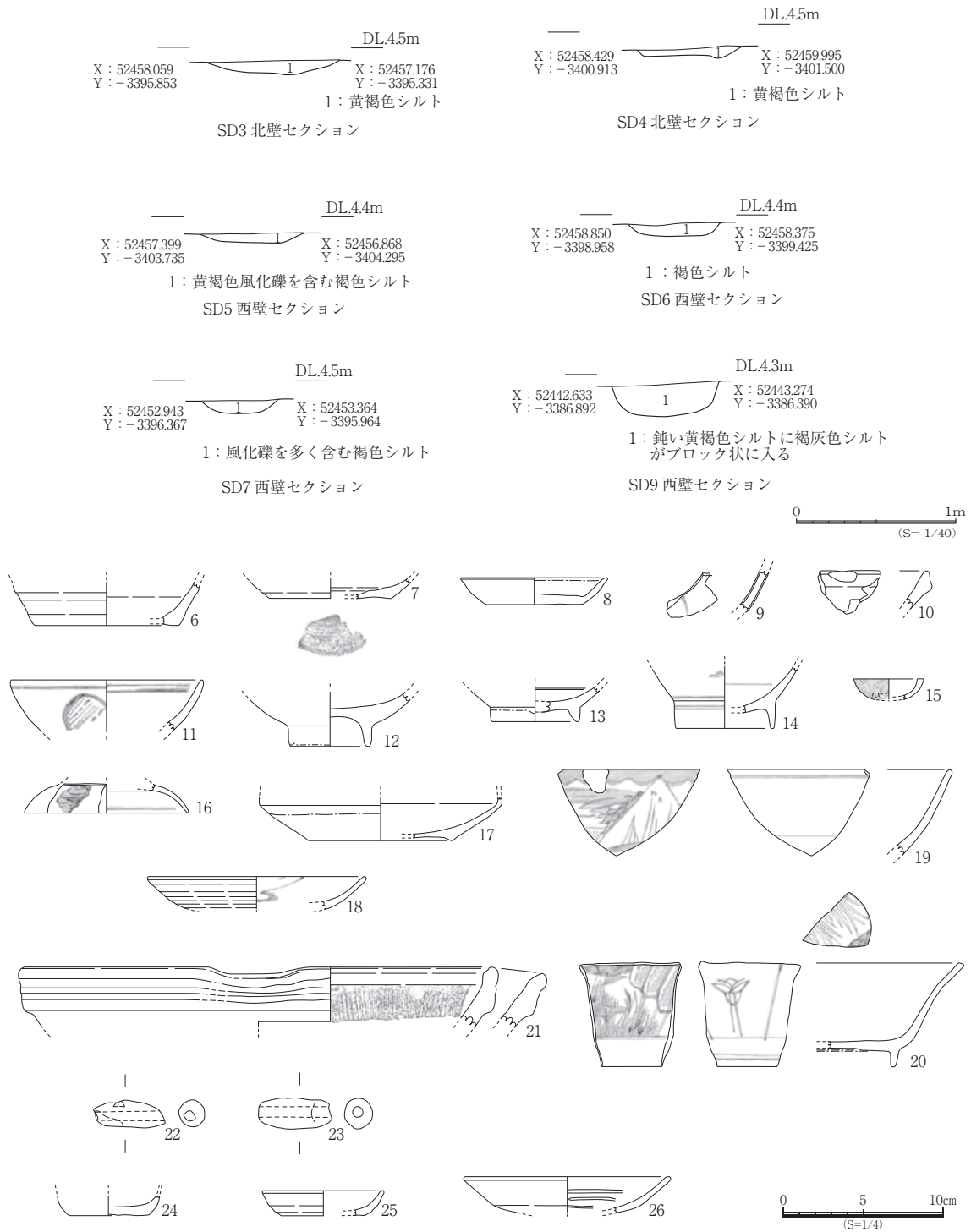
SK3

DL.4.4m



2-5 図 SK3・6・7 遺構・遺物
SK3 (土瓶: 3 肥前系播鉢: 4) SK7 (陶器碗: 5)





2-6図 SD3~9 セクション・遺物

SD3 (土師質杯：6・7 白磁皿：8) SD5 (青磁碗：9 東播系捏鉢：10) SD6 (染付碗：11)
SD7 (灰釉碗：12 白磁碗：13 染付碗：14・16・19 同鉢：20 同皿：18 土瓶：17 紅皿：15 備前播鉢：21
土鍾：22・23)
SD9 (土師質杯：24 同小皿：25 瓦器碗：26)

SD4 (2 - 6 図)

中央部にあり南北方向に走る溝である。延長 5m、幅 0.6m、深さ 10cm 前後を測る。埋土は黄褐色シルトである。埋土中から土師質土器、瓦器、近世陶磁器の細片が出土しているが、図示できるものはない。

SD5 (2 - 6 図)

調査区南にあり東西方向に伸びる確認延長 16.3m、幅 0.4 ~ 0.6m、深さ 10cm 前後である。埋土は黄褐色風化礫を含む褐色シルトである。遺物は埋土中から土師質土器、瓦器、近世陶磁器などの細片が出土している。9 は青磁碗、10 は東播系捏鉢である。9 は鎬蓮弁文を有する。

SD6 (2 - 6 図)

長さ 3.5m、幅 0.5 ~ 0.6m、深さ 10cm 前後の短い溝である。埋土は褐色シルトである。遺物は埋土中から土師質土器片、瓦器などの細片が出土している。近世染付碗 11 を図示し得た。11 は中碗丸形で内面に二重圏線、外面に丸文を施す。肥前産で 18 世紀後半から幕末期に属する。

SD7 (2 - 6 図)

東西方向に延びる溝で確認延長 25m を測る。西部は石列に破壊されており、中央部より西は土坑状に広がっている。土坑状部分の幅は 2.5m、深さ 20cm 前後、その外の部位では幅 35cm、深さ 10cm を測る。埋土は褐色シルトである。遺物は土坑状部分に多く、縄文土器から近世に至るまで出土している。13 は白磁碗、12・14 ~ 21 は近世陶磁器、22・23 は土錘である。12 は灰釉丸碗で肥前産あるいは肥前系である。18 世紀代に属する。14 は染付け広東碗で、肥前産または肥前系、18 世紀末 ~ 幕末に属する。15 は肥前産の白磁紅皿で、菊花形型押し成形による。18 世紀末 ~ 幕末に属する。16 は肥前産染付け、広東碗の蓋である。外面には松が描かれている。17 は陶器の鉄釉土瓶で内面全面施釉、外面は下半露胎、19 世紀に属する。18 は肥前産の染付け皿である。19 は中碗広東形で外面には山水を描き口縁内面に二重圏線を巡らしている。20 は肥前系染付け鉢旬千形で外面芙蓉手、内面と見込みに葦、蛇ノ目凹形高台を有す。18 世紀後半 ~ 幕末に属する。21 は備前播鉢である。

SD9 (2 - 6 図)

調査区東南部を東西方向に延びる。確認延長 15m、幅 0.6 ~ 0.7m、深さ 20cm を測る。SD5 と同一の溝になる可能性もある。埋土は鈍い黄褐色シルトに灰褐色シルトがブロック状に入る。遺物は土師質土器や瓦器細片が出土している。24 は土師質杯底部、25 は同小皿、26 は瓦器碗である。

(1) ピット出土の遺物 (2 - 7 図)

P3 : 27 は土師質杯底部である。

P4 : 40 は肥前産の磁器染付小皿で、見込みに編み目文を描き、口縁部は輪花形、高台には褐色の粗砂が付着している。

P9 : 28 は肥前産の陶器小皿丸形である。口縁部内外面は鉄釉、他は灰釉。肥前産で 1590 年代 ~ 1610 年に属する。

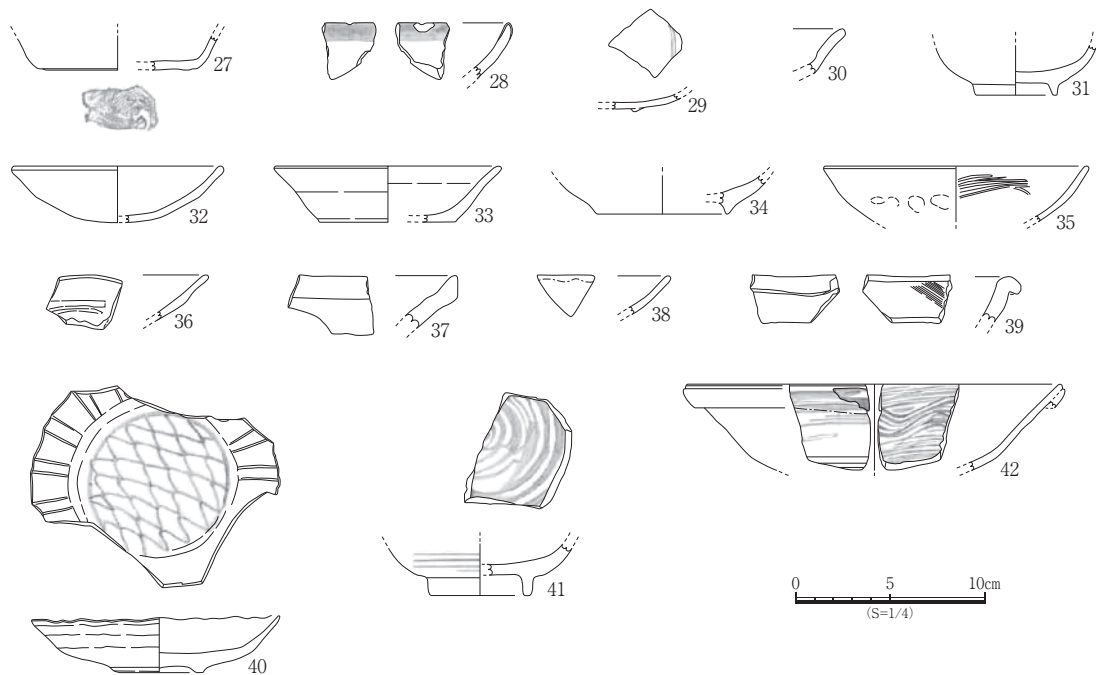
P14 : 29 は瓦器碗底部で退化した高台が付く。

P21 : 30 は近世陶器皿、内外灰釉を施釉。

P23 : 41 は肥前産の陶器中碗である。17 世紀第 4 四半期 ~ 18 世紀前半に属する。

P29 : 31 は肥前産陶器中碗、42 は同中皿である。ともに 17 世紀第 4 四半期 ~ 18 世紀前半に属する。

P33 : 32 は瓦器碗である。底部に高台は見られない。



2-7図 上層ピット出土遺物

P3 (土師質杯:27) P4 (染付小皿:40) P9 (陶器小皿:28) P14 (瓦器椀:29) P21 (陶器皿:30)
 P23 (陶器椀:41) P29 (陶器碗:31 同中皿:42) P33 (瓦器椀:32) P37 (土師質杯:33)
 P45 (瓦器椀:35・36 東播系捏鉢:37) P46 (陶器小皿:38) P54 (陶器鉢:39) P60 (陶器椀:34)

P37: 33 は土師質杯、内外横ナデ調整、糸切りである。

P45: 35 と 36 は瓦器椀、37 は東播系捏鉢である。37 は口縁部が黒色を帯びる。

P46: 38 は肥前内野山窯の小皿で内面銅緑釉、外面灰釉で 17 世紀後半～ 18 世紀前半に属する。

P54: 39 は陶器鉢である。産地などは判らない。

P60: 34 は近世陶器碗、二次的に被熱変色している。

(2) 石列

調査区西寄り で南北方向に並ぶ石列を検出した。延長 12m 程を測り、近世の SD7 を切っている。畑あるいは屋敷地の石垣の基底部と考えられる。

3. 中層の遺構と遺物

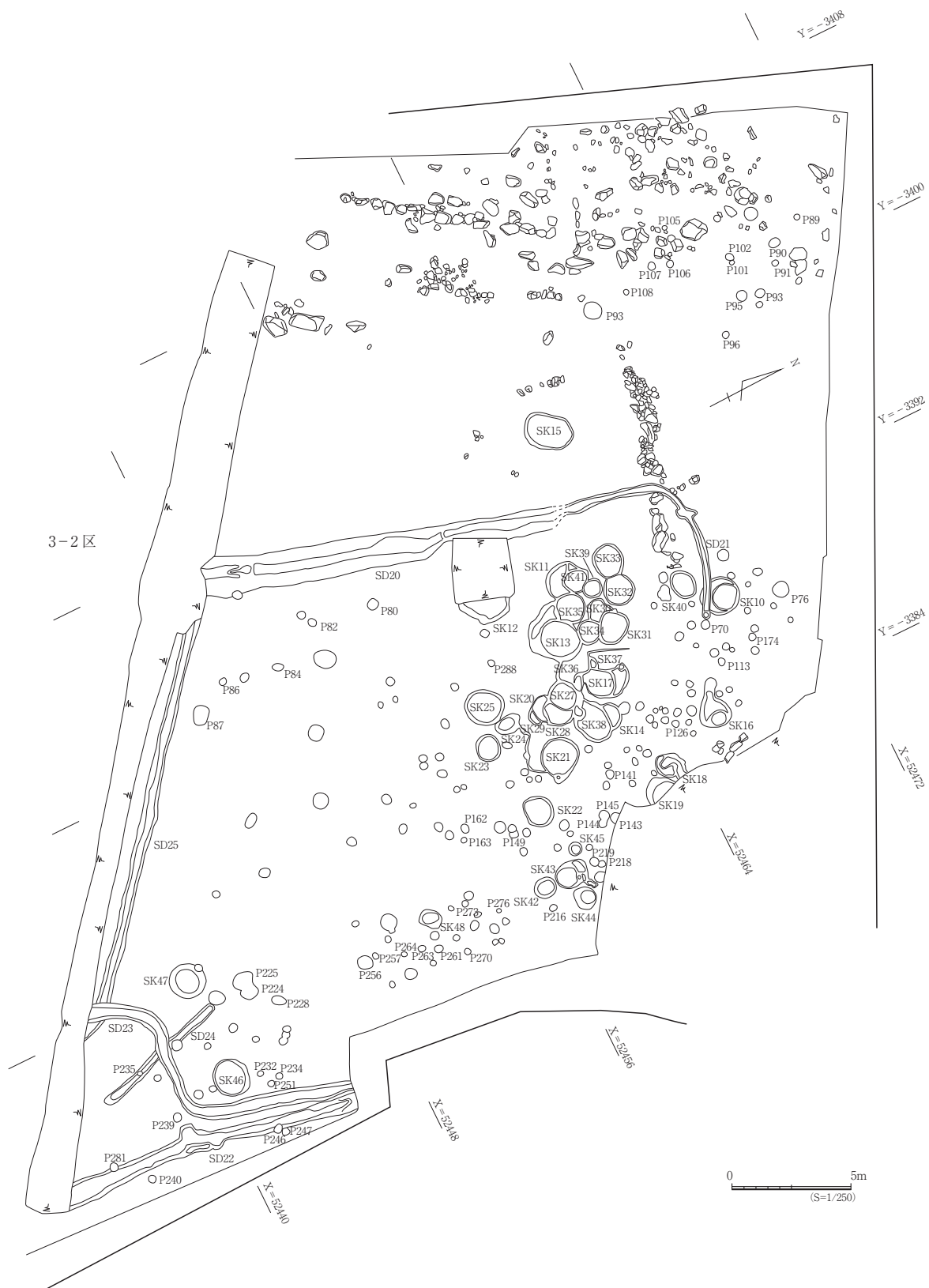
(1) 土坑

SK10 (2-9図)

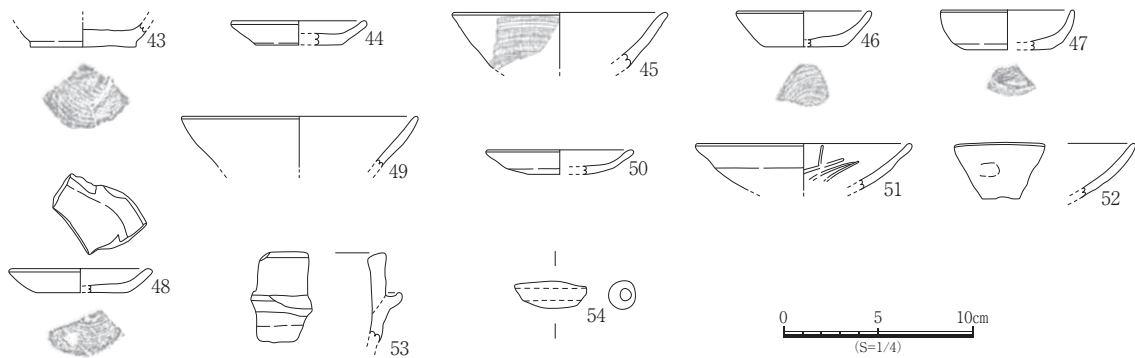
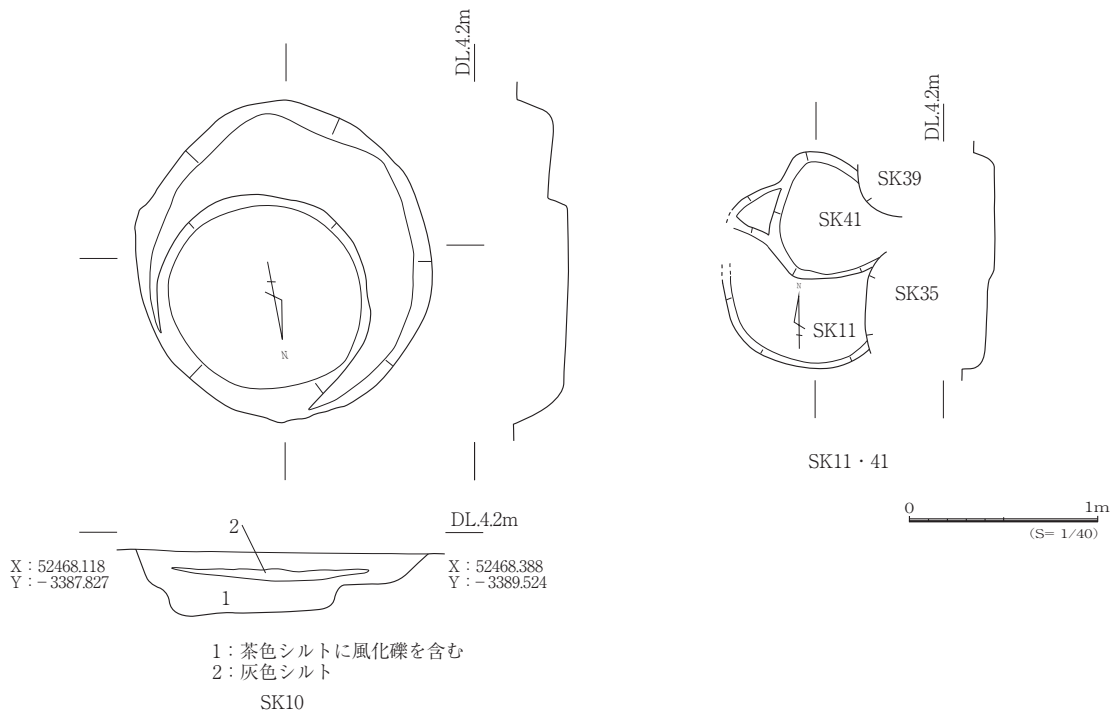
調査区北部に位置する。径 1.7m 前後の円形プランを呈し二段に掘り込まれており深さは 15～35cm を測る。埋土は 1: 茶色シルトに風化礫を含む、2: 灰色シルトである。埋土中から土師質土器や瓦器細片が多く出土している。43・45 は土師質杯、44 は同小皿、51 は瓦器椀、50 は同小皿、53 は瓦質羽釜、54 は土師質土錘である。

SK11 (2-9図)

中央部の土坑密集地点にある。径 1.1m 前後の隅丸方形状を呈し、深さ 15cm 前後を測る。SK41 や SK35 と切り合っている。埋土は、1～5cm 大の黄色風化礫を含む褐色シルトである。46 は土師質小杯、52 は瓦器椀である。この他、土師質土器や瓦器細片が多く出土している。



2-8図 中層遺構全体図



2-9図 SK10・11・41 遺構・遺物

SK10 (土師質杯: 43・45 同小皿: 44 瓦器小皿: 50 同椀: 51 瓦質羽釜: 53 土錘: 54)
SK11 (土師質小杯: 46 瓦器椀: 52) SK41 (土師質小杯: 47・48 同杯: 49)

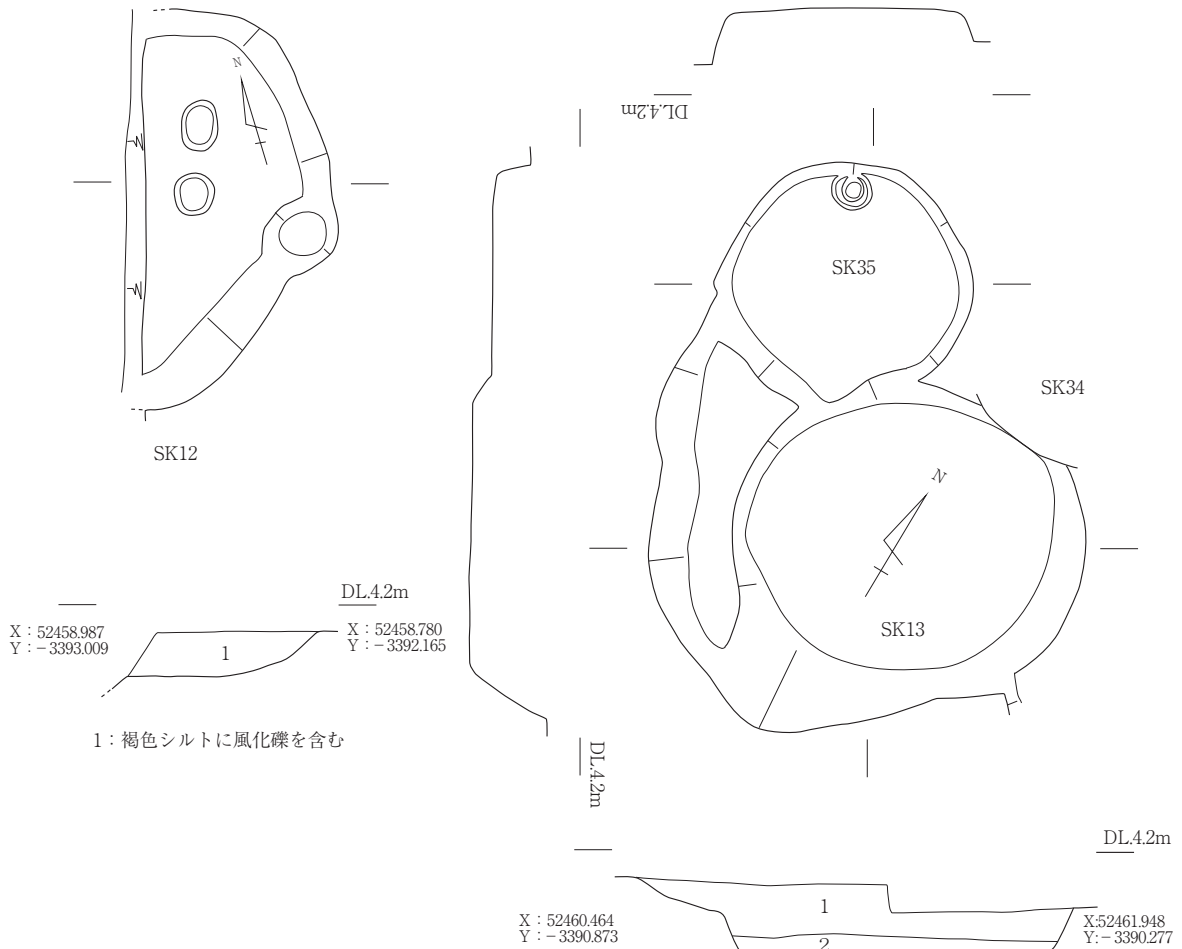
SK12 (2-10図)

中央部にある。長軸 2.1m 程の不整形土坑であるが攪乱坑に大きく切られている。埋土は褐色シルトで風化礫を含んでいる。土師質土器や瓦器細片が多く出土している。55～57 は土師質杯底部、58 は同小皿、61 は瓦器小皿、62 は同椀、67 は瓦質三足脚である。

SK13 (2-10図)

中央部の土坑密集地点にある。SK34・35 と切り合うが先後関係は不明である。長軸 2.2m 前後、短軸 1.8m 前後を測り、平面形は楕円形状を呈する。深さは 40cm である。埋土は 1: 風化礫を含む茶褐色シルトである。2: 0.5cm 前後の風化礫を含む暗褐色シルトである。

遺物は埋土中より出土している。59 は土師質杯、63 は瓦器椀、64 は東播系捏鉢、65・66 は常滑甕である。64 は内外面に自然釉がかかっている。常滑甕は袈裟形押印が見られる。この他、土師

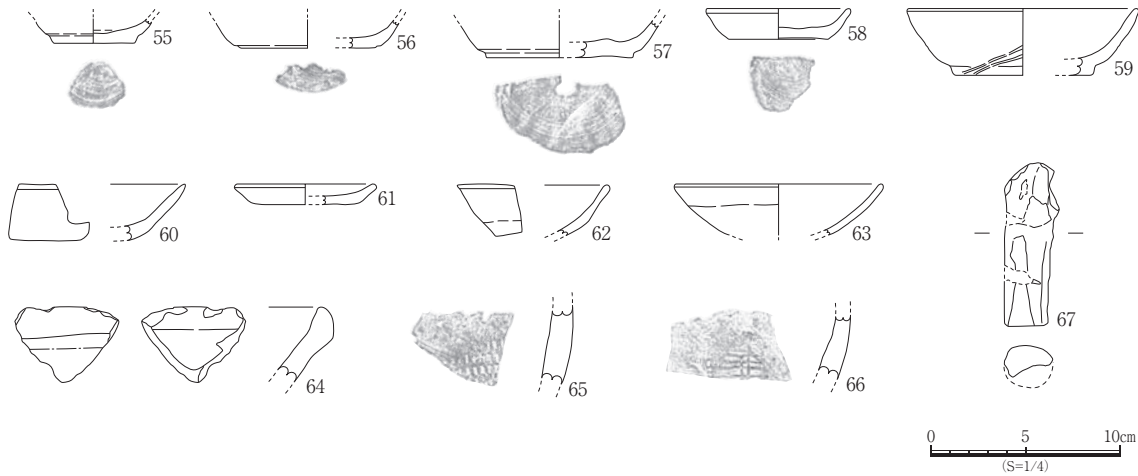


1 : 褐色シルトに風化礫を含む

1 : 茶褐色シルトに風化礫を含む
2 : 暗褐色シルトに 0.5 cm前後の風化礫を含む

SK13・35

0 1m
(S= 1/40)



2-10 図 SK12・13・35 遺構・遺物

SK12 (土師質杯 : 55~57 同小皿 : 58 瓦器小皿 : 61 同碗 : 62 瓦質羽釜足 : 67)
SK13 (土師質杯 : 59 瓦器碗 : 63 東播系捏鉢 : 64 常滑 : 65・66)
SK35 (土師質杯 : 60)

表2 中層検出の土坑一覧

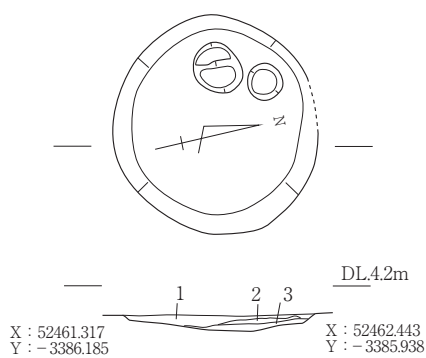
土坑番号	平面形態	断面形態	長軸(m)	短軸(m)	深さ(cm)	備考
SK10	円形	船底形	1.7		15～35	
SK11	隅丸方形	U字形	1.1		15	
SK12	不整形	船底形	2.1	1.39	25	
SK13	楕円形	船底形	2.2	1.8	40	
SK14	円形	船底形	1.1		10	
SK15	楕円形	船底形	2.04	1.4	24	
SK16	不整形	船底形	2	1.34	10～20	
SK17	不明	船底形	2.0以上	1.2以上	10～20	
SK18	楕円形	船底形	1.1	1		
SK19	不明					
SK20	楕円形	船底形	1.1		10	
SK21	〃	逆台形	1.67	1.53	20	
SK22	隅丸方形	逆台形	1.28	1.17	20	
SK23	〃	逆台形	1.1	0.98	20	
SK24	不整形	船底形	1.16	0.75	25	
SK25	〃	船底形	1.7	1.49	23	
SK27	楕円形	船底形	1.54	1.16	32	
SK28	〃		1.54	1.16	32	
SK29	楕円形	船底形	0.7			
SK30	不明	船底形	1.0以上		10	
SK31	隅丸方形	船底形	1.4	1.12	24	
SK32	円形	船底形	1.3		16	
SK33	楕円形	船底形	1.35以上	1.24	23	
SK34	〃	船底形	1.0以上		22	
SK35	隅丸方形	船底形	1.38		30	
SK38	楕円形	船底形	1.7以上	1.3	16	
SK41	不明	船底形				
SK42	楕円形	船底形	0.97	0.86	13	
SK43	〃	船底形	1.4	1.2	10～30	
SK44	〃	船底形	0.96	0.85	23	
SK45	〃	船底形	0.6	0.56	5	
SK46	円形	船底形	1.62	1.48	20	
SK47	〃	船底形	1.5		24	

質杯類、瓦器細片が多く出土している。

SK14 (2-11図)

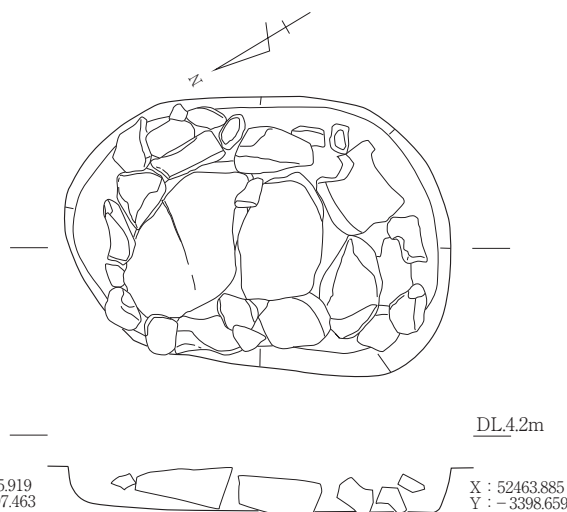
土坑集中地点の東よりにあり SK38 を切っている。直径 1.1m の円形プランを有し、深さは 10cm、断面船底形を呈する。埋土は 1:炭化物を多く含む黒褐色シルト、2:小礫を含む黄灰色シルト、3:小礫を含む黄茶色シルトである。床面に小ピットがあるが伴うものかどうか不明である。

遺物は埋土中から土師質土器片が多く出土している。68～72 は土師質小皿・小杯、73～79 は土師質杯である。すべてロクロ成形による。杯の多くには外面に器面調整時に生じたと考えられる細い沈線が見られる。



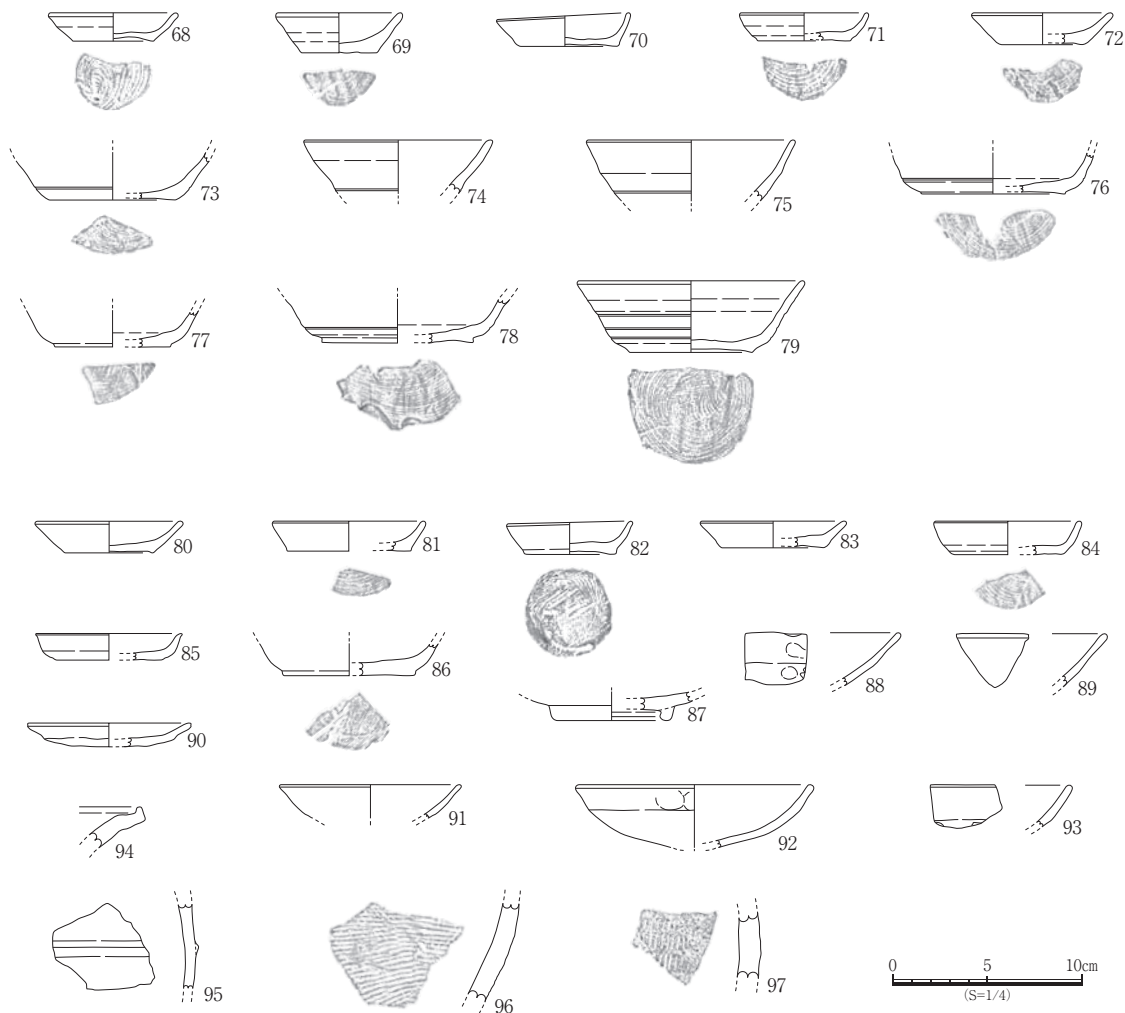
- 1: 黒褐色シルトに炭化物を多く含む
- 2: 黄灰色シルトに小礫を含む
- 3: 黄茶色シルトに小礫を含む

SK14



SK15

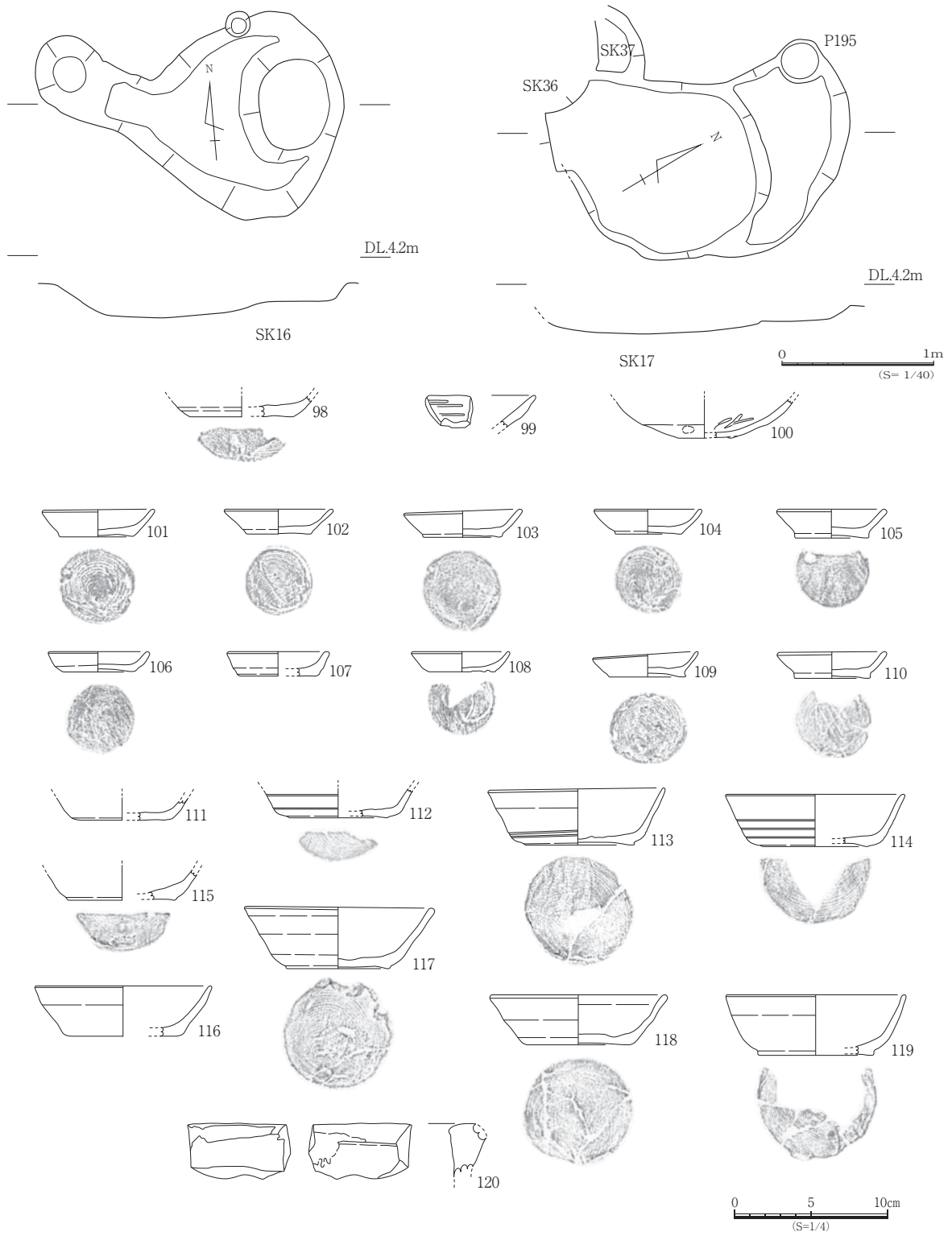
0 1m
(S=1/40)



2-11 図 SK14・15 遺構・遺物

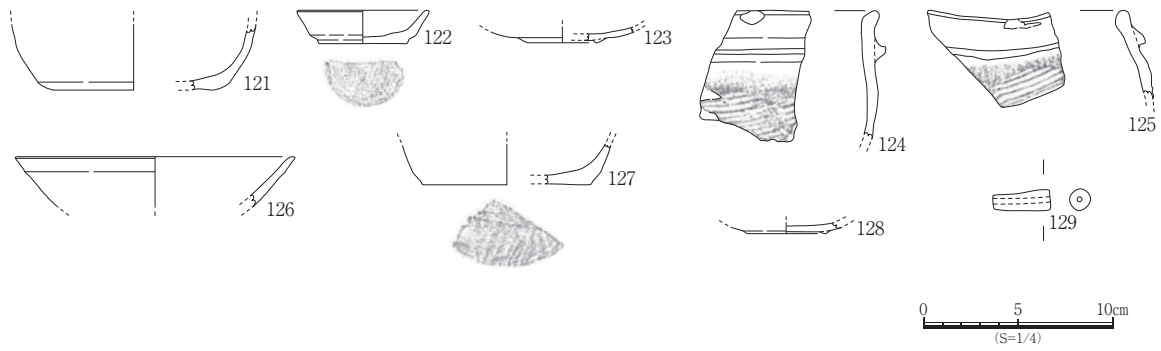
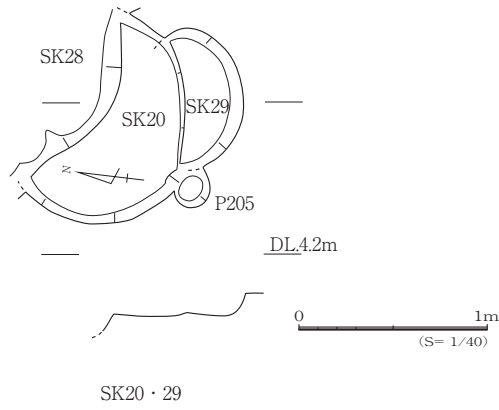
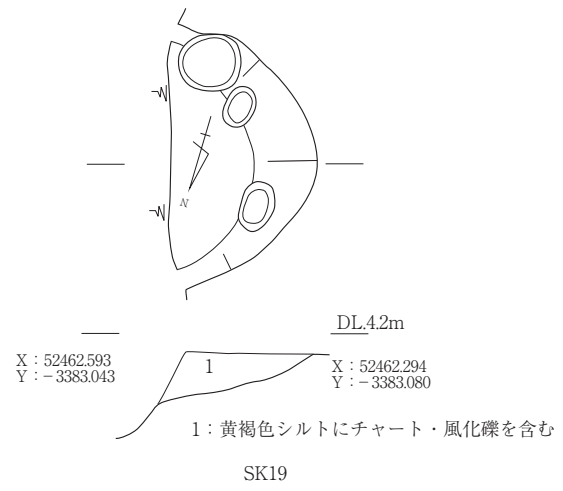
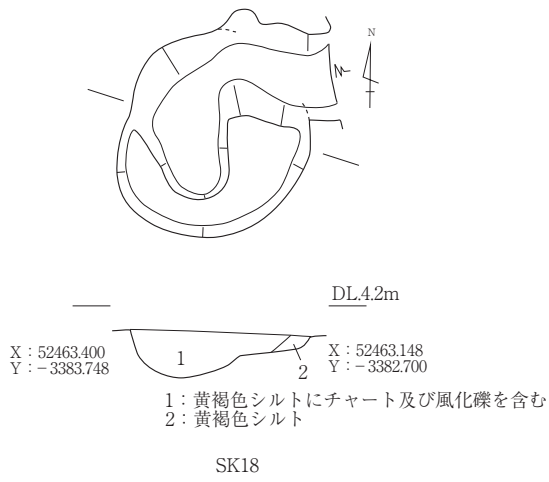
SK14 (土師質小杯・小皿: 68~72 同杯: 73~79)

SK15 (土師質小皿・小杯: 80~82・84・85 同杯: 86 同碗: 87 瓦器碗: 88・89・91~93 同小皿: 83・90
紀伊甕: 94・95 東播系甕: 96 常滑: 97)



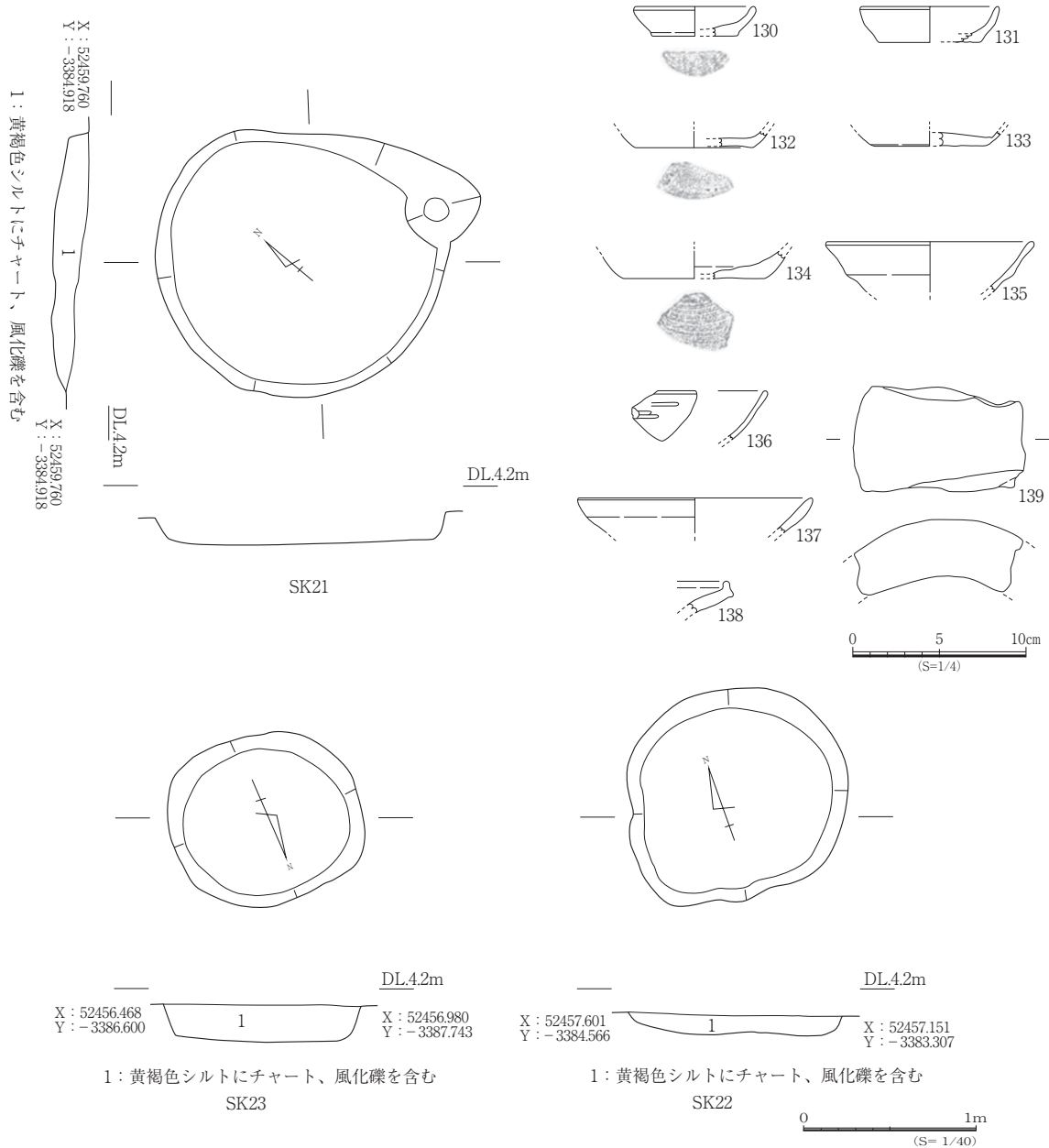
2-12図 SK16・17 遺構・遺物

SK16 (土師質杯：98 瓦器碗：99・100)
 SK17 (土師質小杯：101~110 同杯：111~119 瓦質火鉢：120)



2-13 図 SK18~20・29 遺構・遺物

SK18 (土師質杯: 121) SK20 (土師質杯: 126・127 瓦器椀: 128 土錘: 129)
SK19 (土師質小杯: 122 瓦器椀: 123 東播系羽釜: 124・125)



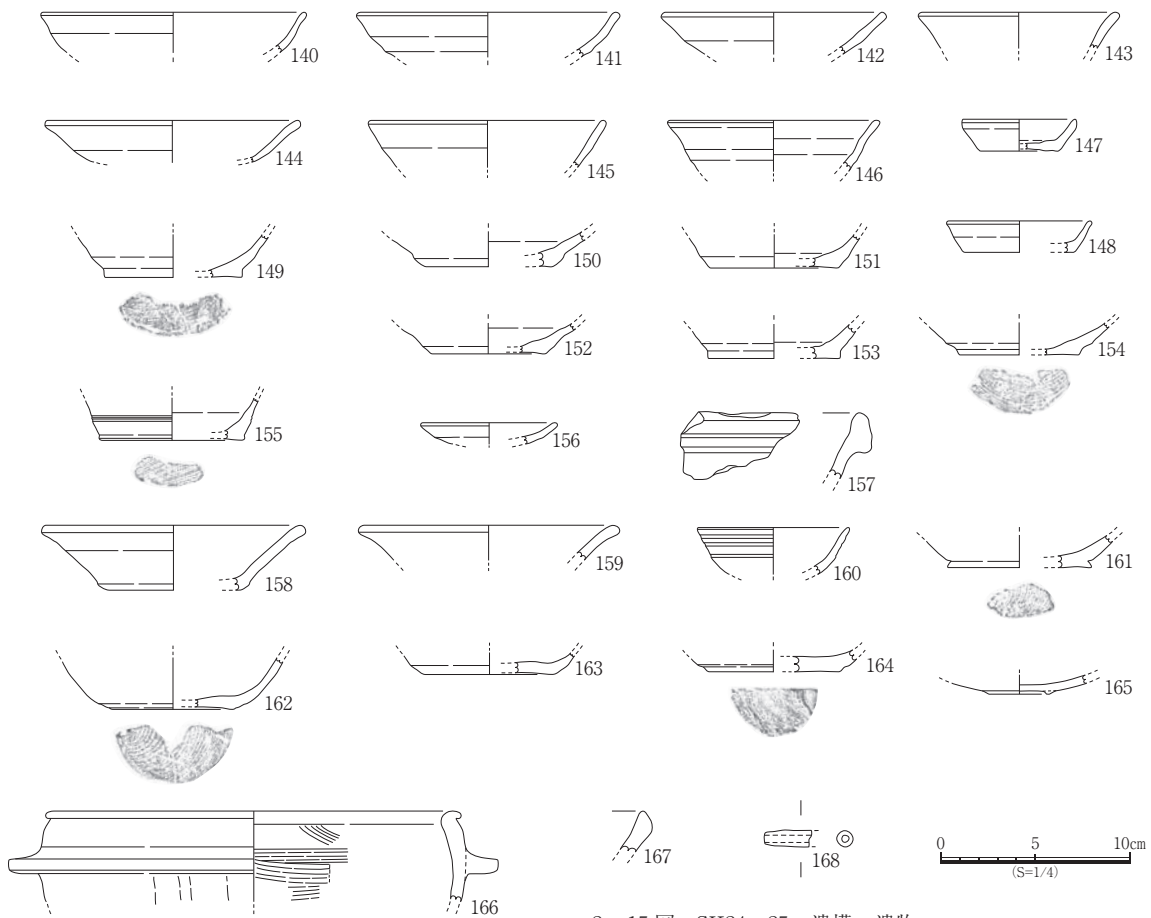
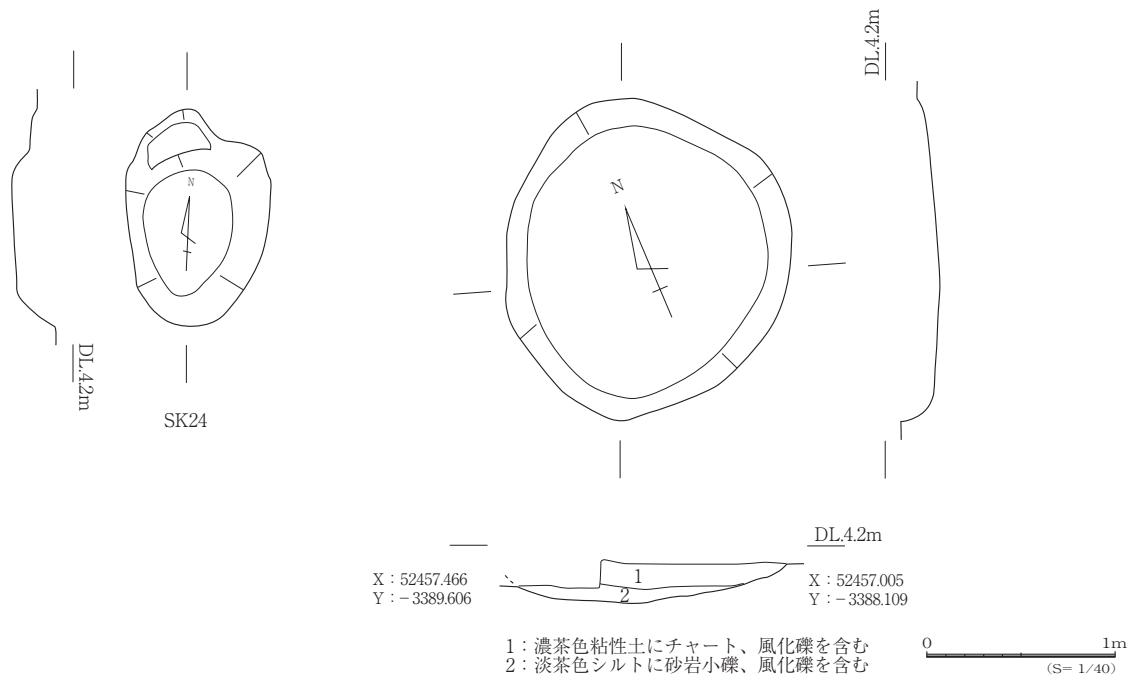
2-14 図 SK21~23 遺構・遺物

SK21 (土師質小杯: 130・131 同杯: 132・134 白磁皿: 133 瓦器椀: 135 瓦: 139)
 SK22 (土師質杯: 137 紀伊型甕: 138) SK23 (瓦器椀: 136)

SK15 (2-11 図)

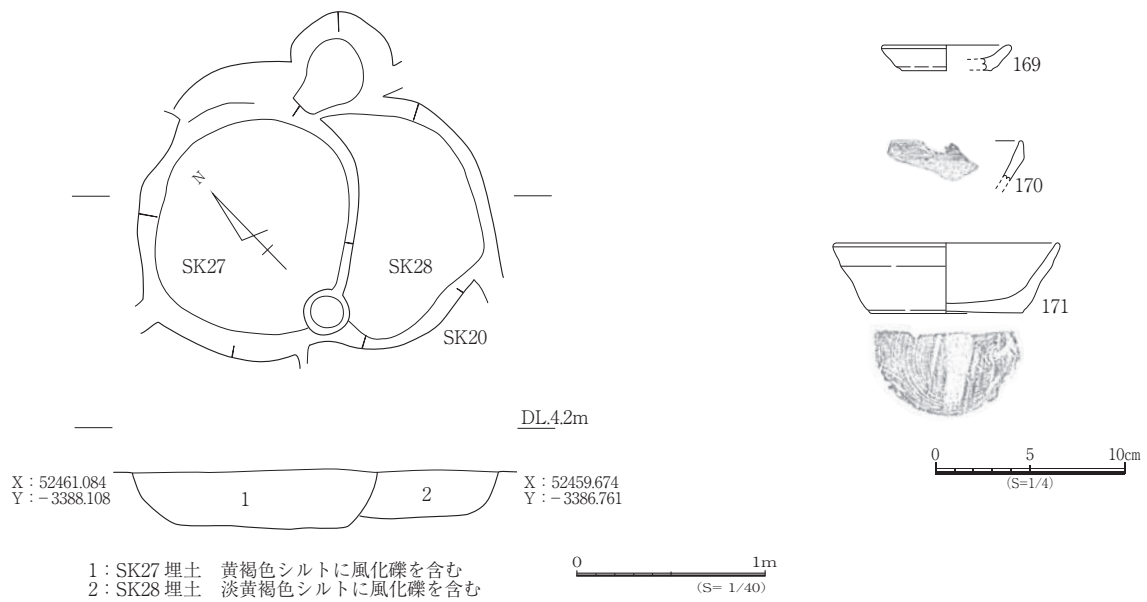
調査区中央部にある。長軸 2.04m、短軸 1.40m の楕円形のプランを呈し、深さは 24cm を測る。図示したように大小の礫が詰まっている。礫はすべて砂岩で円礫が多く中には角礫もみられ、被熱赤変しているものもある。なお、土坑プランを確認する上にも礫の集中が見られ、礫を取り除く中でプランが確認できた。この礫の集中については、集石 1 として後で取り上げる。

土坑埋土は黄褐色シルトである。埋土中から土師質土器や瓦器が多く出土している。80~82・



2-15 図 SK24・25 遺構・遺物

SK24 (土師質杯：140~146・149~155 土師質小杯：147・148 瓦器小皿：156 東播系捏鉢：157)
SK25 (土師質杯：158~164 瓦器碗：165 瓦質羽釜：166 東播系捏鉢：167 土錘：168)



2-16 図 SK27・28 遺構・遺物

SK27 (土師質小皿：169 同杯：171 東播系捏鉢：170)

84・85 は土師質小皿・小杯、86 は同杯、87 は同碗、88・89・91～93 は瓦器碗、83・90 は同小皿、94・95 は紀伊型甕、96 は東播系甕、97 は常滑甕である。土師質小皿・杯の多いのが特徴である。SK16 (2-12 図)

東北部に位置する。長軸 2.0m、短軸 1.34m の不整形プランを呈し、深さ 10～20cm を測る。埋土はチャートや風化礫を含む黄褐色シルトである。遺物は埋土中から出土している。98 は土師質杯底部、99・100 は瓦器碗である。この他にも土師質杯類や瓦器細片が多く出土している。

SK17 (2-12 図)

土坑集中部の中央に位置する。長軸 2.0m 以上、幅 1.2m 前後であるが、SK36、37 と切り合っており正確なプランや規模は不明である。深さは 10～20cm を測り、床面北側が高くなっている。埋土は風化礫を含む黄褐色シルトである。遺物は埋土中より出土しており、土師質杯類が多く瓦器は少ない。

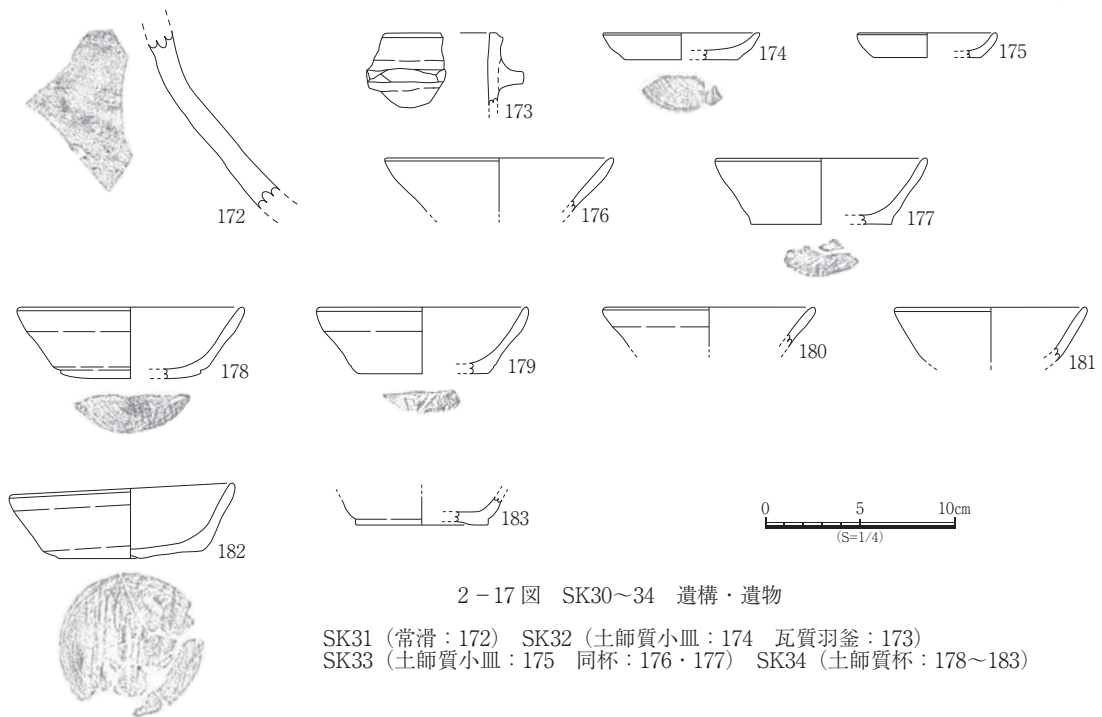
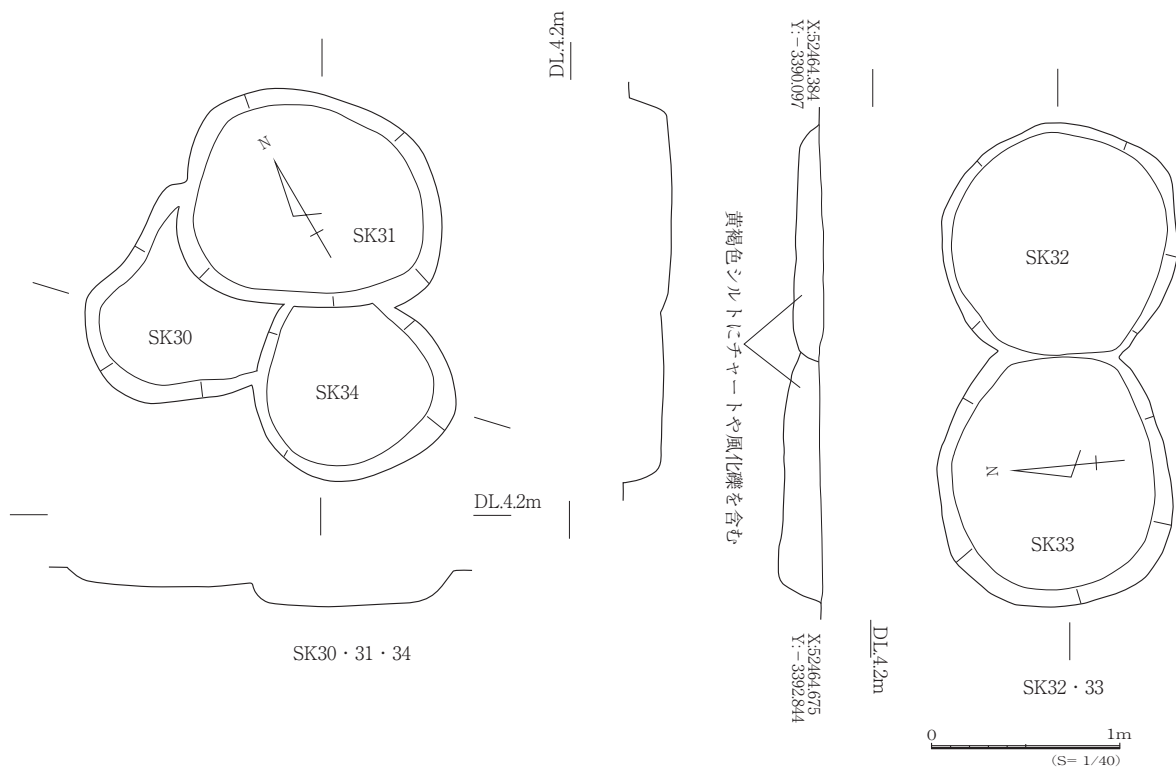
101～110 は土師質小杯、111～119 は同杯、120 は瓦質火鉢である。土師質小杯・杯が目立つ。土師質杯はここでも器面調整時に生じた条線(沈線)を持つ例 112～114 がある。

SK18 (2-13 図)

東部に位置する。長軸 1.1m、短軸 1.0m 前後を測る楕円形プランを持った土坑と考えられるが、北部を溝状の遺構と切り合っている。埋土は 1：チャート及び風化礫を含む黄褐色シルト、2：黄褐色シルトである。埋土 1 から土師質杯類や瓦器細片が多く出ているが図示可能なものは土師質杯 1 点 121 である。

SK19 (2-13 図)

SK18 に南接する。仁淀川の流水によって東側が大きく削り取られておりプランや大きさは不明である。埋土はチャート及び風化礫を含む黄褐色シルトである。遺物は埋土中から出土している。



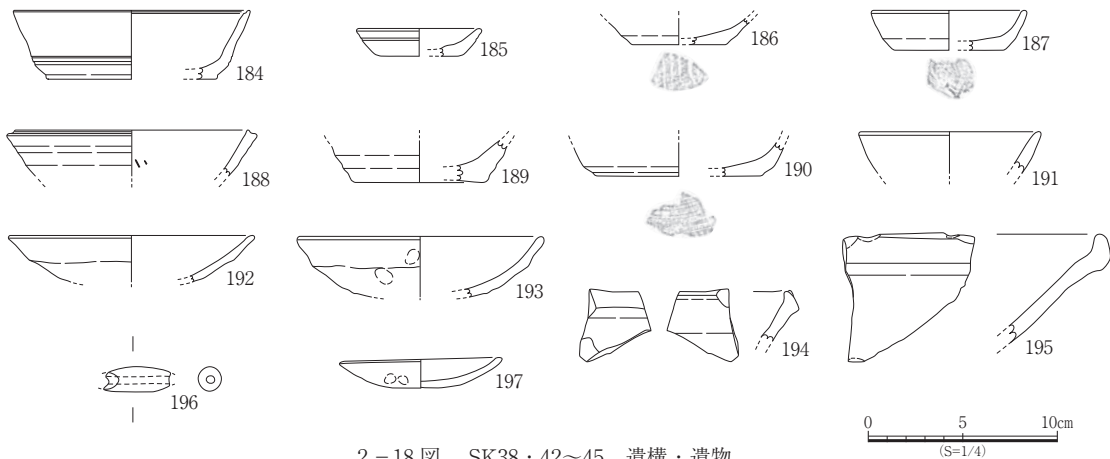
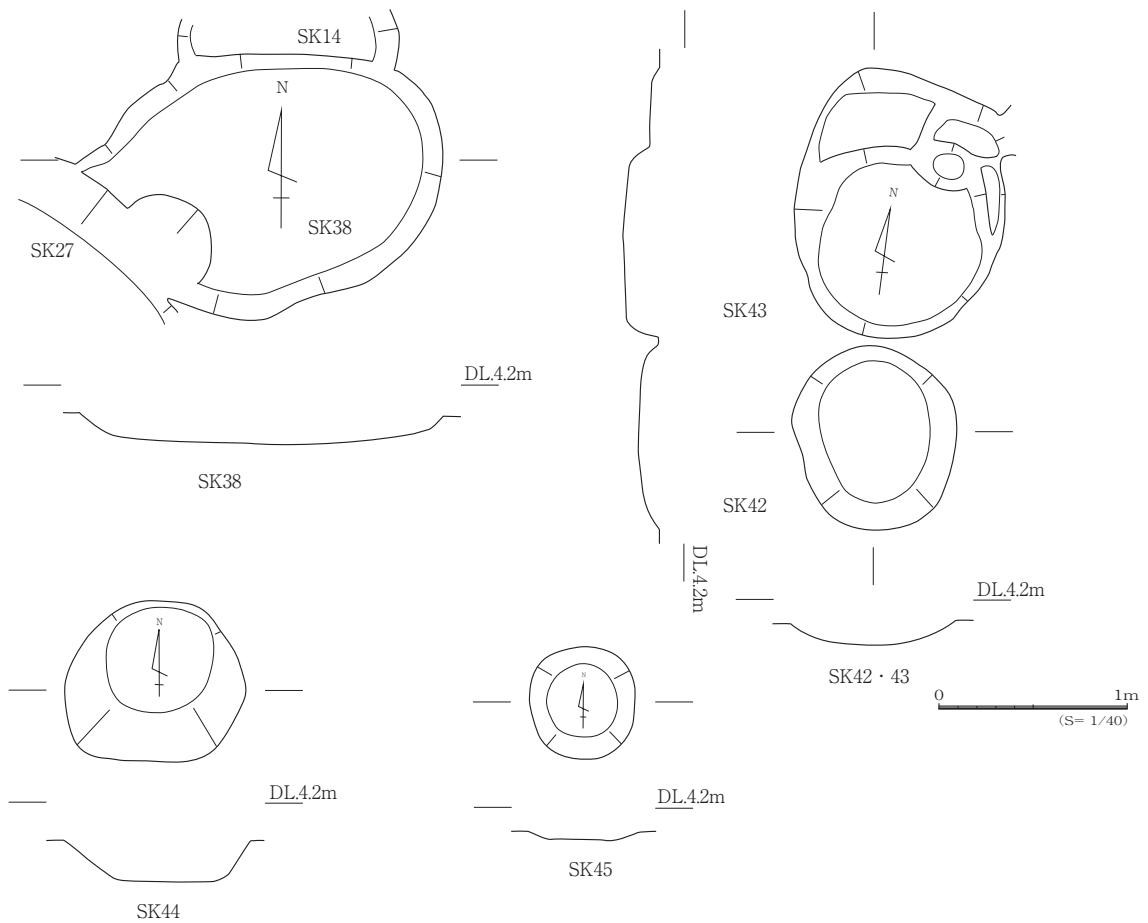
2-17 図 SK30~34 遺構・遺物

SK31 (常滑: 172) SK32 (土師質小皿: 174 瓦質羽釜: 173)
 SK33 (土師質小皿: 175 同杯: 176・177) SK34 (土師質杯: 178~183)

122 は土師質小杯、123 は瓦器椀底部、124・125 は東播系羽釜である。この他に土師質土器や瓦器細片が多く出土している。

SK20 (2-13 図)

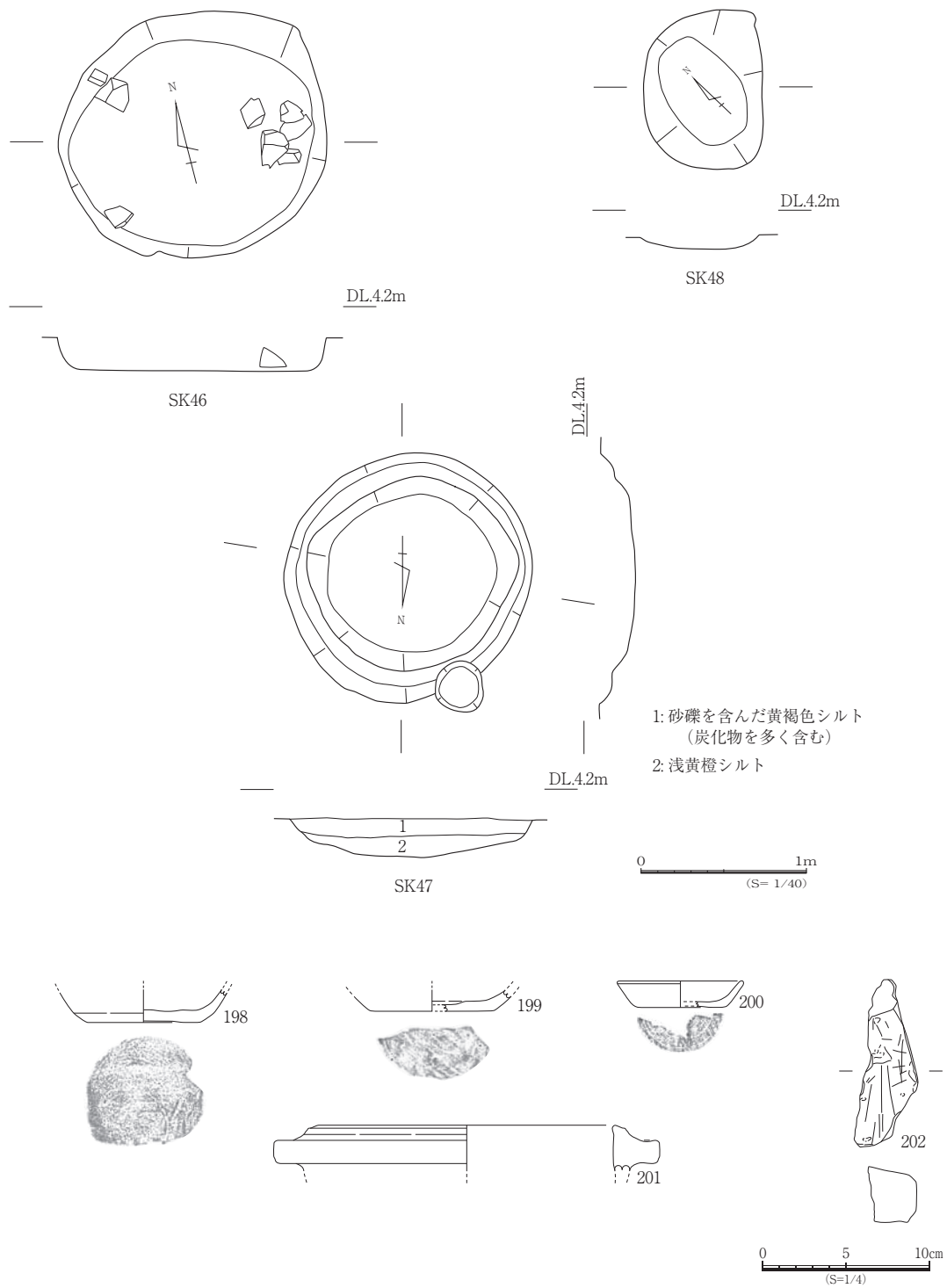
土坑密集部にあり SK28・29 と切り合っているが先後関係は不明である。長軸 1.1m 前後の楕円



2-18 図 SK38・42~45 遺構・遺物

SK38 (土師質杯：184 同小杯：185) SK42 (土師質杯：186)
 SK43 (土師質小杯：187 同杯：189~191 瀬戸皿：188 瓦器椀：192・193 瓦質挿鉢：194 東播系捏鉢：195
 土錘：196)
 SK45 (瓦器小皿：197)

形プランを有するものと考えられる。深さは10cm前後を測る。埋土はチャート及び風化礫を含む黄褐色シルトである。遺物は埋土中から出土している。126・127は土師質杯、128は瓦器椀、129は土師質土錘である。この他に土師質杯類や瓦器細片が多く出土している。



2-19 図 SK46~48 遺構・遺物

SK46 (土師質杯: 199 同小杯: 200 砥石: 202) SK47 (土師器羽釜: 201) SK48 (土師質杯: 198)

SK21 (2-14図)

土坑密集地の東部に位置する。長軸 1.67m、短軸 1.53m の楕円形を呈し、深さ 20cm を測る。東壁で小ピットと切り合っており変形しているが、ピットとの先後関係は不明である。埋土はチャート・風化礫を含んだ黄褐色シルトである。埋土中より土師質杯類の細片が多量に出土している。130・131 は土師質小杯、132・134 は土師質杯、133 は白磁皿底部である。口禿タイプであり外底も全面施釉されている。135 は瓦器椀、139 は瓦片である。139 は凹面にモコツ痕が見られる。

SK22 (2-14図)

土坑密集部の東隣にある。長軸 1.28m、短軸 1.17m の隅丸方形プランを有し深さ 20cm を測る。埋土はチャート・風化礫を含んだ黄褐色シルトである。埋土から多量の土師質杯類が出土しているが、図示できるものは少ない。137 は土師質杯、138 は紀伊型甕である。

SK23 (2-14図)

土坑密集地点の東部に位置する。長軸 1.1m、短軸 0.98m の隅丸方形のプランを有し、深さは 20cm 前後である。埋土はチャート・風化礫を含んだ黄褐色シルトである。遺物は少ない。136 は瓦器椀である。

SK24 (2-15図)

土坑密集地点の東部に位置する。長軸 1.16m、短軸 0.75m の不整形プランを呈する。北側は二段に掘られている。深さ 25cm を測る。埋土は SK23 と同じである。埋土中から多量の土師質杯類が出土しているが、瓦器は極少量である。140～146・149～155 は土師質杯、147・148 は土師質小杯、156 は瓦器小皿、157 は東播系捏鉢である。土師質杯はすべてロクロ成形であるが、口縁形態は外反するもの 140・143・144・146 と直線的に立上がるもの 141・142・145 が見られる。また 155 は外面体部下半に調整時に生じた条線が見られる。

157 の口縁部外面には 2 条の凹線が見られる。

SK25 (2-15図)

土坑集中地点にある。長軸 1.7m、短軸 1.49m の不整形円形を呈する。深さは 23cm を測る。埋土は 1: チャート・風化礫を含んだ濃茶色粘性土で炭化物も多く含んでいる。2: 砂岩小礫や風化礫を含む淡茶色シルトである。土師質杯類や瓦器片を多く含んでいる。158～164 は土師質杯で、160 の外面には調整時に生じた条線が顕著である。165 は瓦器椀、166 は瓦質羽釜、167 は東播系捏鉢、168 は土師質土錘である。

SK27 (2-16図)

土坑密集地の中央部にある。SK28 を切っている。SK20、36 などとも切り合っているが先後関係は不明である。長軸 1.54m、短軸 1.16m の楕円形プランを呈し、深さ 32cm を測る。埋土は風化礫を含む黄褐色シルトである。遺物は埋土から土師器杯類片を中心に出土している。169 は土師質小皿、171 は同杯、170 は東播系捏鉢である。

SK28 (2-16図)

SK27 とほぼ同様のプラン、大きさを持つ土坑である。埋土は風化礫を含む淡黄褐色シルトである。遺物は埋土中に少量の土師質細片や瓦器片を含んでいるが図示できるものは無い。

SK29 (2-13図)

土坑密集地点中央部にある。SK20 と切り合っているが先後関係は不明である。長軸 0.7m 前後

の楕円形の土坑である。埋土は風化礫を含む黄褐色シルトである。遺物は見られない。

SK30 (2 - 17 図)

土坑密集地点にある。SK31 や SK34 などと切り合っており正確なプランや大きさを掴むことができない。長軸 1.0m 以上を測り、深さは 10cm 前後である。埋土はチャート・風化礫を含む黄褐色シルトである。埋土中から土師質や瓦器細片が出ているが図示できるものはない。

SK31 (2 - 17 図)

長軸 1.4m、短軸 1.12m の隅丸方形プランを呈し、深さ 24cm を測る。埋土は SK30 と同じである。埋土中から土師質土器、瓦質土器細片が出土している。172 は常滑甕の肩部片である。

SK32 (2 - 17 図)

土坑集中地点にあり SK33 を切っている。径 1.3m の円形を呈し、深さ 16cm を測る。埋土はチャート・風化礫を含む黄褐色シルトである。埋土中から土師質や瓦器細片が出土している。174 は土師質小皿、173 は瓦質羽釜である。

SK33 (2 - 17 図)

長軸 1.35m 以上、短軸 1.24m の楕円形状を呈し、深さ 23cm を測る。SK32 に切られているが埋土は同じである。埋土中から土師質杯類や瓦器碗片が大量に出土している。175 は土師質小皿、176・177 は土師質杯である。この他に図示し得なかったが、片切り彫りの蓮弁文を持つ青磁碗 (I 5a 類) 細片が出土している。

SK34 (2 - 17 図)

SK30 や SK31 と切り合っているが先後関係は不明である。長軸 1.0m 以上の楕円形状プランを呈し、深さ 22cm を測る。埋土はチャート・風化礫を含む黄褐色シルトである。埋土中から土師質杯類、瓦器細片が多く出土している。178 ~ 183 は土師質杯である。図示し得なかったが鎬蓮弁文の青磁碗 (I 5b 類) の細片が出土している。

SK35 (2 - 10 図)

土坑密集地にあり SK13 と切り合っているが先後関係は不明である。長軸 1.38m 前後の隅丸方形を呈し、深さは 30cm を測る。埋土はチャート・風化礫を含む黄褐色シルトである。埋土中から土師質や瓦器細片が少量出土している。

60 は土師質杯である。

SK38 (2 - 18 図)

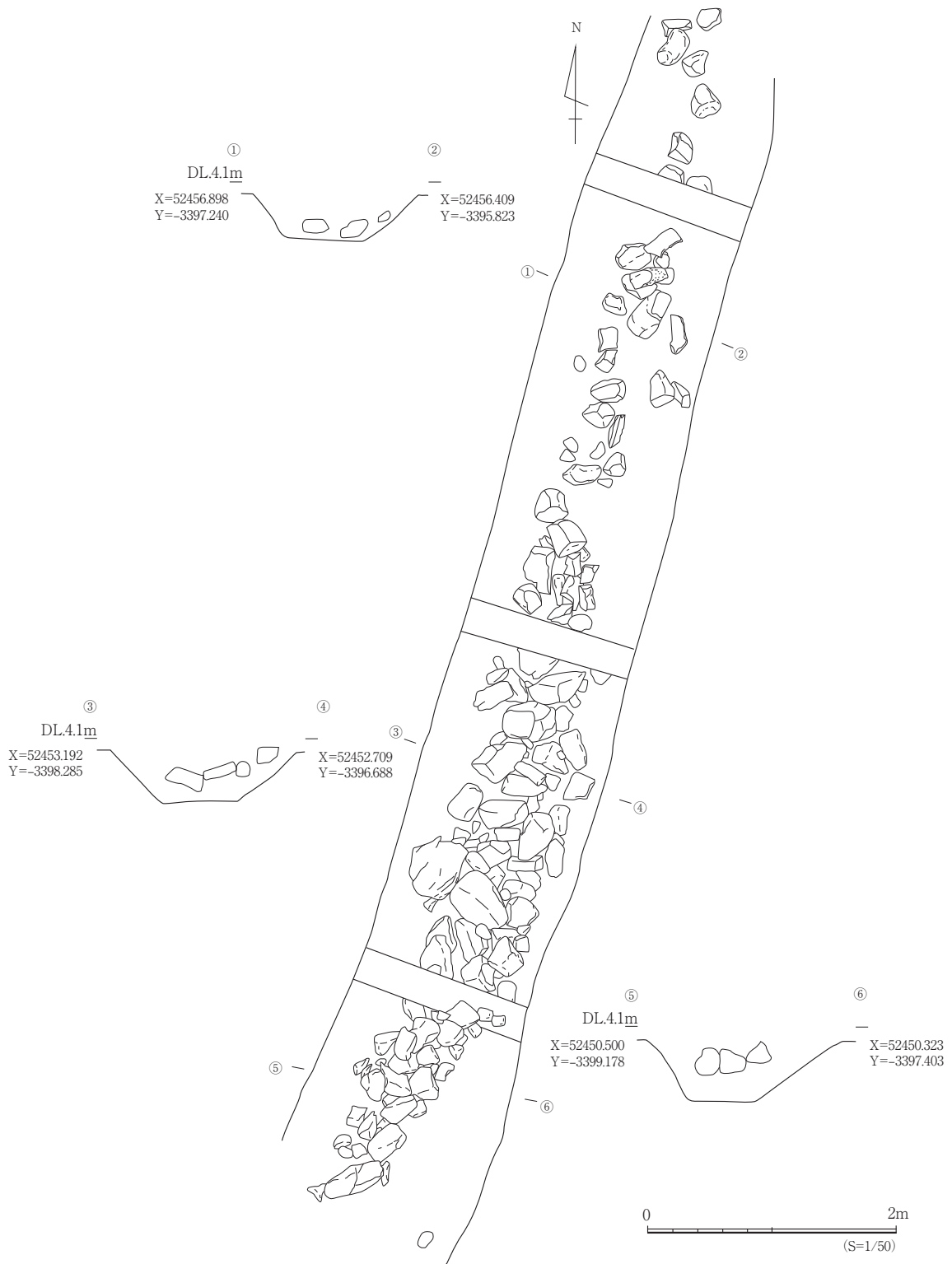
土坑密集地にあり SK14 や SK27 と切り合っているが先後関係は不明である。長軸 1.7m 以上、短軸 1.3m の楕円形状のプランを有し、深さは 16cm 前後を測る。埋土はチャート・風化礫を含む黄褐色シルトである。埋土中から土師質土器や瓦器片が出土している。184 は土師質杯、185 は同小杯である。184 の外面には調整時に生じた条線が見られる。

SK41 (2 - 9 図)

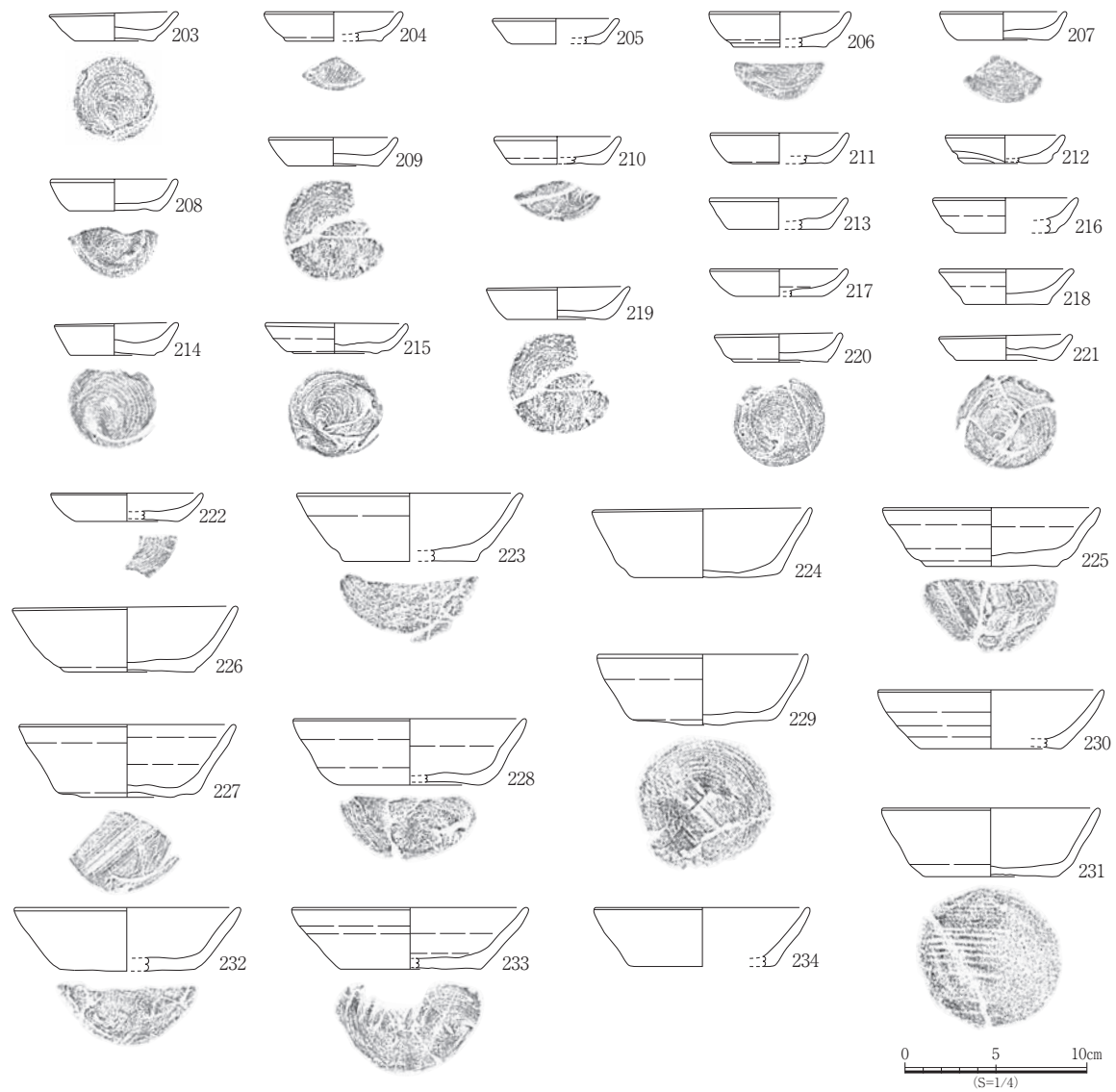
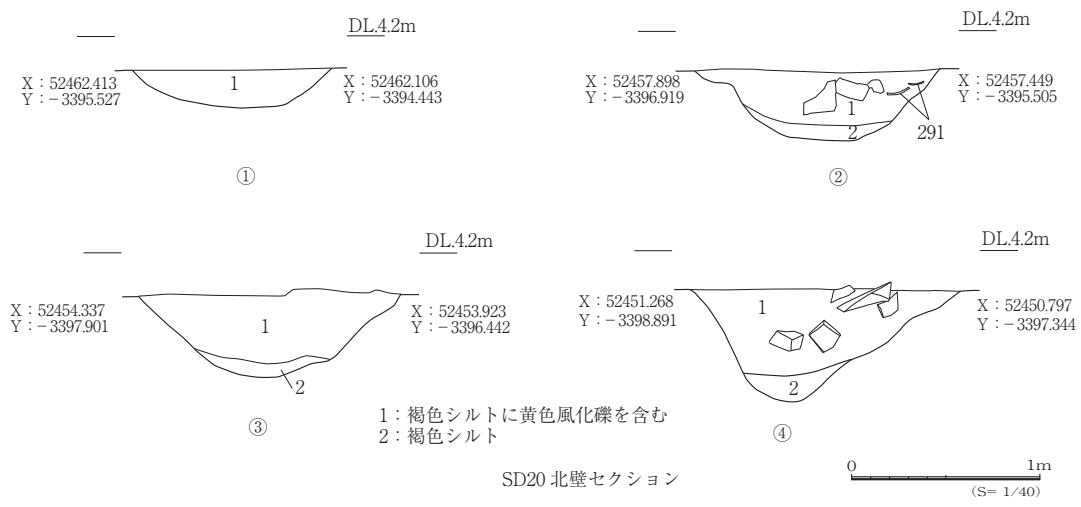
土坑密集地点にあり SK11 や SK35、SK39 と切り合っており、プランや規模を掴むことは難しい。埋土はチャート・風化礫を含む黄褐色シルトである。遺物は、土師質土器や瓦器細片が出土している。47・48 は土師質小杯、49 は同杯である。

SK42 (2 - 18 図)

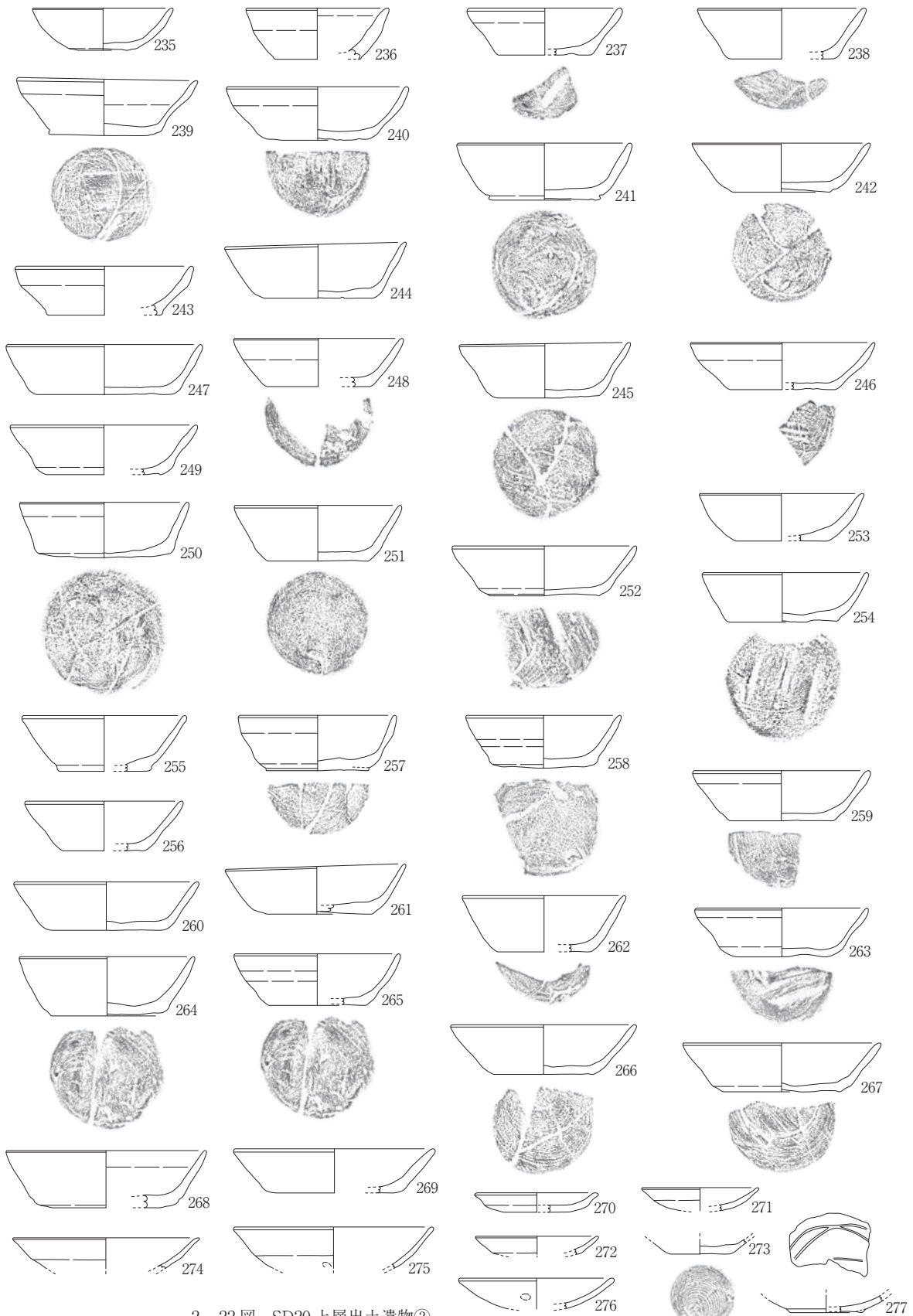
調査区東部にある。長軸 0.97m、短軸 0.86m の楕円形を呈し、深さは 13cm 前後である。埋土は



2-20 図 SD20 集石出土状況



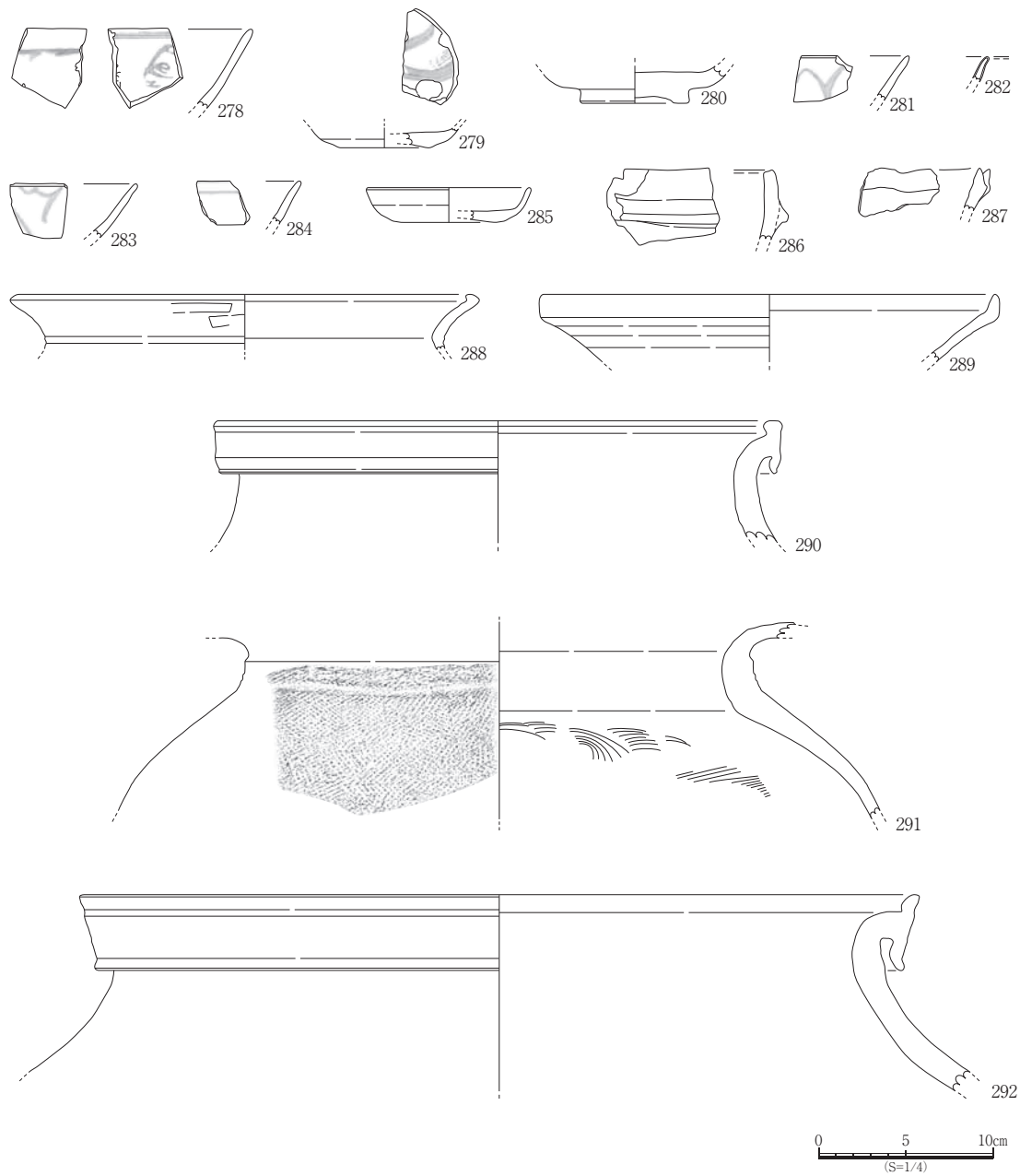
2-21 図 SD20 セクション及び上層出土遺物①
 土師質小杯：203～219 同小皿：220～222 同杯：223～234



2-22 図 SD20 上層出土遺物②

土師質杯：235～269・273 瓦器小皿：270～272 同碗 274～277

0 5 10cm
(S=1/4)



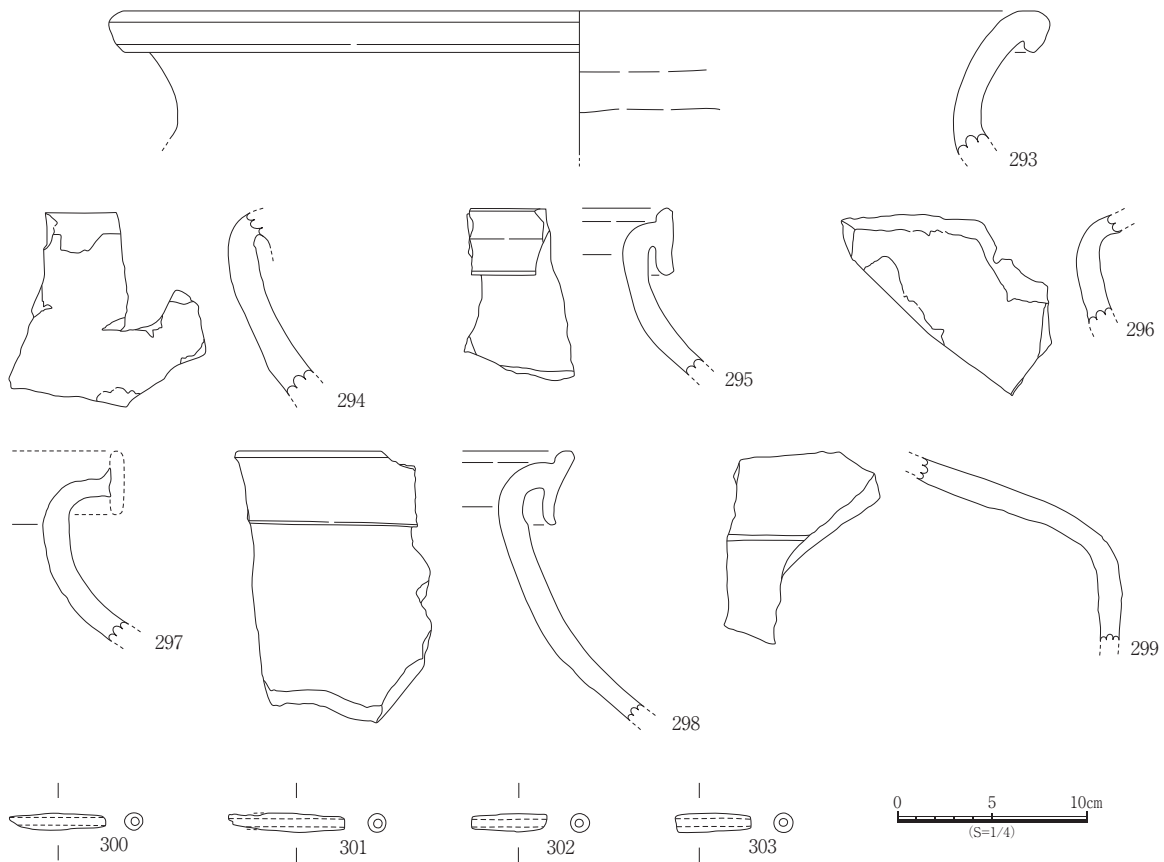
2-23 図 SD20 上層出土遺物③

青磁碗：278・280～284 青磁皿：279 瓦質羽釜：286 東播系捏鉢：287・289 東播系甕：291 紀伊型甕：288
常滑：290・292 白磁皿：285

チャート・風化礫を含む黄褐色シルトである。土師質杯類の細片が多く、瓦器片が少量出土している。186 は土師質杯である。

SK43 (2-18 図)

SK42 の北隣にある。長軸 1.4m、短軸 1.2m の楕円形を呈する。北側は二段に掘られており、深さ 30cm、テラス部は 10cm 前後を測る。埋土はチャート・風化礫を含む黄褐色シルトである。埋土中から土師質、瓦器片が多く出土している。187 は土師質小杯、189～191 は土師質杯、188 は古瀬戸おろし皿、192・193 は瓦器椀、195 は東播系捏鉢、194 は瓦質搦鉢、196 は土師質土錘である。



2-24 図 SD20 上層出土遺物④

須恵質甕：293 常滑甕：294～299 土錘：300～303

SK44 (2-18 図)

調査区東端にある。長軸0.96m、短軸0.85mの楕円形プランを有し、深さ23cmを測る。埋土はチャート・風化礫を含む黄褐色シルトである。埋土中から土師質土器や瓦器細片が出土している。

SK45 (2-18 図)

調査区東部にある。長軸0.6m、短軸0.56mの楕円形プランを有し、深さ5cmを測る。埋土はチャート・風化礫を含む黄褐色シルトである。埋土中から土師質土器や瓦器細片が出土している。197は瓦器小皿である。

SK46 (2-19 図)

調査区南東隅にある。長軸1.62m、短軸1.48mの円形プランを有し、深さ20cmを測る。埋土は灰茶色砂土である。床面直に人頭大の角礫が見られる。土師質・瓦器細片が多いが近世磁器片を含む。199は土師質杯、200は同小杯、202は砥石片である。泥岩製で使用面は一面、使用による条線が見られる。SK46は中層で検出したが近世遺構である。

SK47 (2-19 図)

調査区東南にある。径1.5mの円形プランを有し、深さは24cmを測る。段状に掘り込まれている。埋土は1：砂礫を含んだ黄褐色シルトで炭化物を多く含んでいる。2：浅黄橙シルトである。埋土中から土師質・瓦器細片が出土している。201は古代の土師器羽釜であり混入品である。



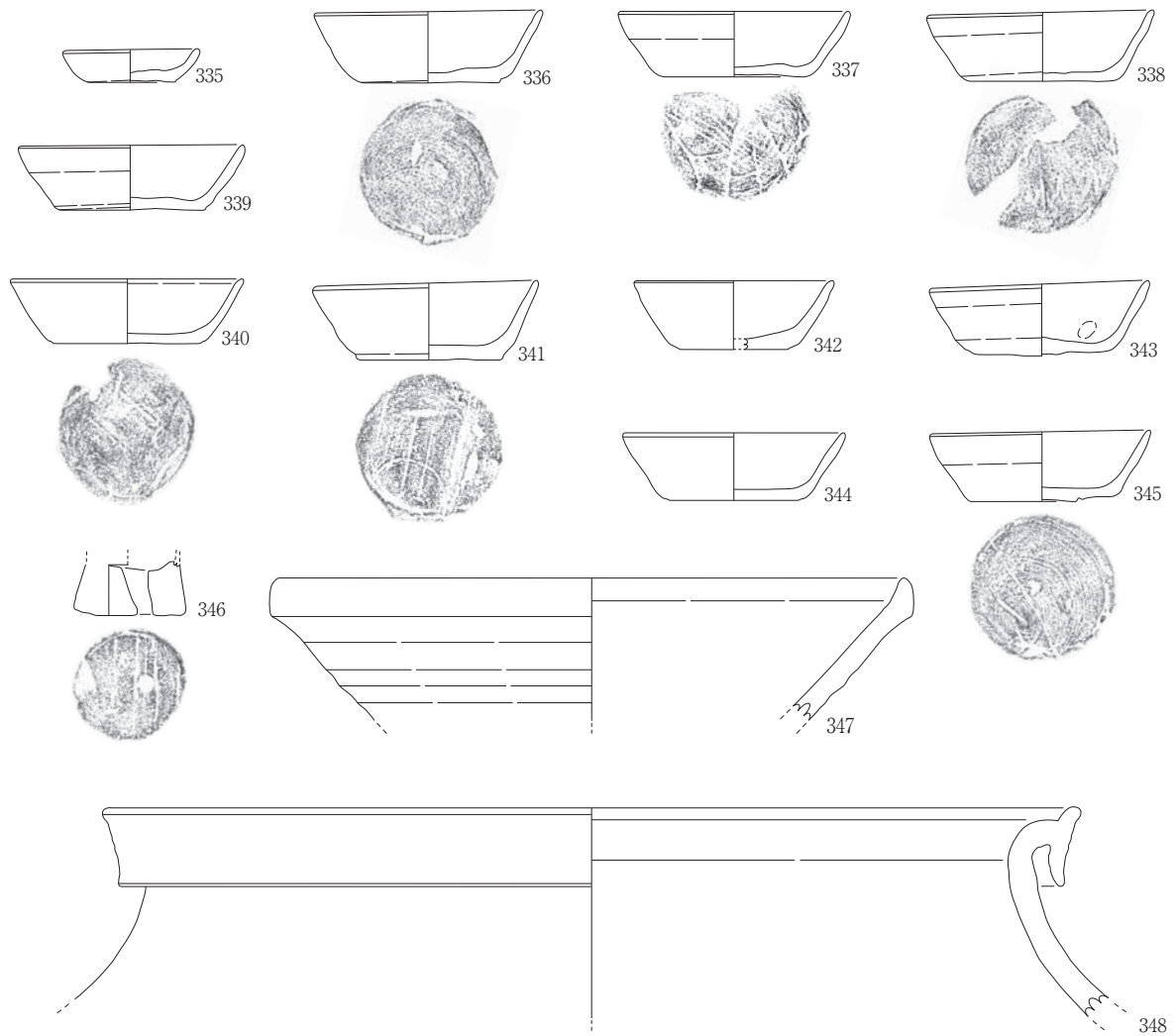
2-25 図 SD20 中・下層出土遺物

土師質小杯：304～306 同杯：307～326 白磁碗：327 東播系捏鉢：328・329 瓦質羽釜：330
 常滑甕：331・332 土錘：333 砥石：334

(2) 溝

SD20 (2-20～26 図)

調査区中央部を南北方向に延びる溝である。確認延長 15m、幅は南部で 1.5m、北部で 1.0m 前後

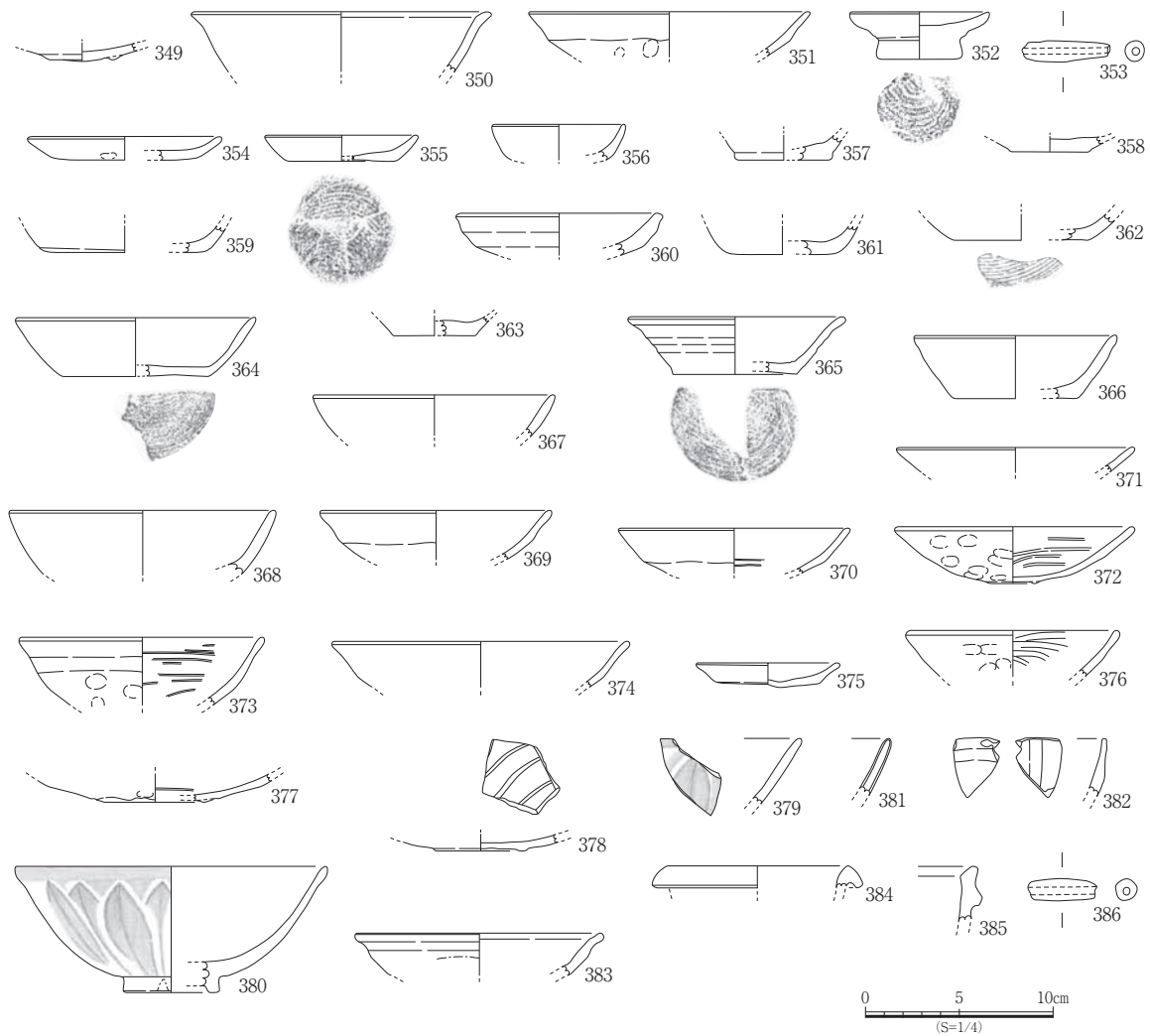
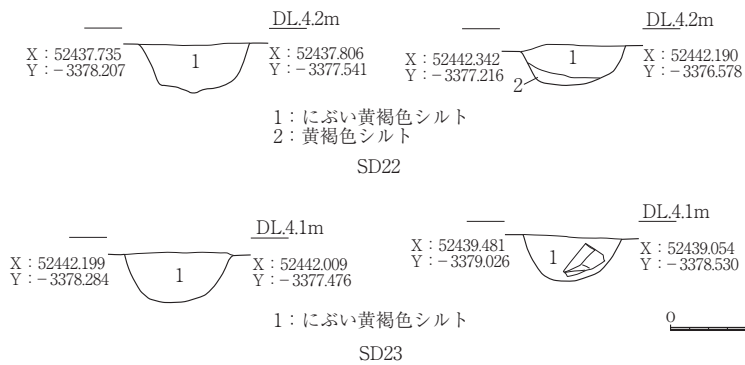


2-26 図 SD20 集中出土遺物
 土師質小杯：335 同杯：336~346 東播系捏鉢：347 常滑甕：348

を測る。SD20の北端には東西方向にトレンチが入っており、端部の形状を把握することができない。北端部から北に伸びる細い溝（SD21）とは同一の溝状遺構となることが考えられる。SD20の深さは南端部で60cm、北端部で20cm前後を測り、南程深くなっている。断面形は、概ねU字形をなし、2-21図北壁セクション④で示したように左右の壁の立ち上がりの長さが著しく異なっている場所も見られる。埋土は1：黄色風化礫を含む褐色シルトが大半を占め、2：褐色シルトは下層に薄く堆積している。1は先に見た土坑の埋土と共通するもので、2は下層に薄く堆積が見られる。2は壁の崩落土であろう。

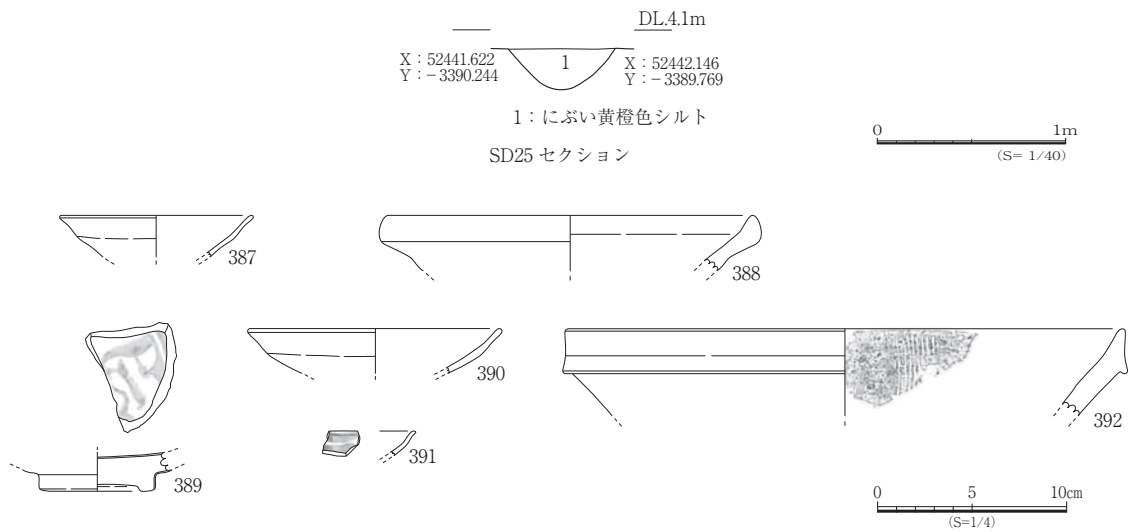
SD20は2-20図に示したようにほぼ全体から拳大から人頭大の礫が出土した。層位的には中～下層に多く床面には見られない。SD20廃絶時に意識的に投げ込まれたものと考えられる。

遺物は土師質土器を中心に大量に出土している。遺物は、埋土中位から上を上層、中位から下を



2-27 図 SD22・23 セクション及びSD21~23 出土遺物

SD21 (瓦器碗 : 349) SD22 (須恵器碗 : 350 瓦器碗 : 351 土師質杯 : 352 土鍾 : 353)
 SD23 (瓦器小皿 : 354・375 土師質小杯 : 355・356 同杯 : 357~368 瓦器碗 : 369~374・376~378
 青磁碗 : 379~381 白磁碗 : 382 灰釉皿 : 383 白磁四耳壺 : 384 東播系羽釜 : 385 土鍾 : 386)



2-28 図 SD25 セクション及びSD24・25 出土遺物

SD24 (瓦器碗: 387 東播系捏鉢: 388)
 SD25 (瓦器碗: 390 青磁碗: 389 染付皿: 391 備前播鉢: 392)

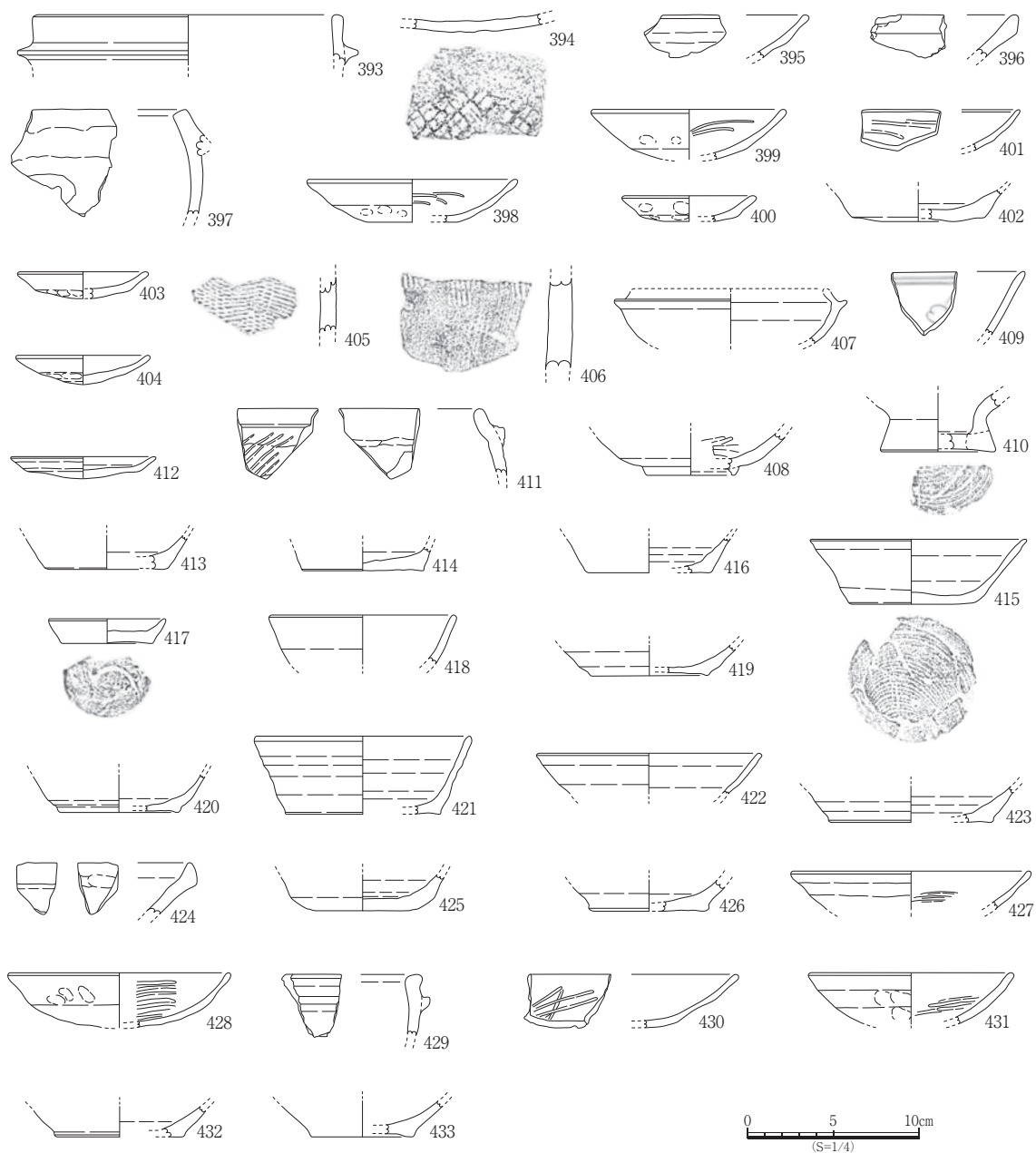
中・下層として取り上げ、さらに北部に土器の集中が見られ集中出土遺物として取り上げた。各層位・地点で出土遺物の時間的な違いは認められない。礫と共に廃絶時に廃棄されたものと考えられる。

上層の遺物 (2-21 ~ 24 図)

203 ~ 219 は土師質小杯、220 ~ 222 は同小皿、223 ~ 269・273 は同杯である。これらの土師質土器はすべてロクロ成形、糸切りである。273 の焼成は瓦質である。270 ~ 272 は瓦器小皿、274 ~ 277 は瓦器碗である。瓦器碗の胎土には精土とチャートの細・粗粒砂を含むもの (275・276) が見られる。278・280 ~ 284 は龍泉窯系青磁碗である。281 と 282 は鎬蓮弁を持つ I 5b 類、283 は片切彫りによる蓮弁の I 5a 類である。278 は口縁部外面を段状に削り、内面は櫛による横沈線と片切彫りによる飛雲文を描く。279 は龍泉窯系青磁皿、体部中位で屈曲するタイプで見込みに櫛状工具を用いて文様を描く I 2 類に属する。285 は白磁皿である。286 は瓦質羽釜である。287 と 289 は東播系捏鉢である。288 は口縁部を上方に拡張する紀伊型の甕である。290・292・294 ~ 299 は常滑甕である。291 は東播系の甕である。293 は灰色でやや軟質な須恵質甕で産地は不明である。300 ~ 303 は土師質土錘である。

中・下層の遺物 (2-25 図)

304 ~ 306 は土師質小杯、307 ~ 326 は同杯である。これらは例外無く粘土紐巻き上げによるロクロ成形、糸切り、横ナデ調整で仕上げられるが、319 は内底、体部内外面ともにハケ状原体によるナデ調整がなされている。326 は足高高台杯の底部と考えられるが、厚さ 3cm の底部に径 1cm の円孔が焼成前に貫通している。327 は白磁碗で口縁端部を水平に折り曲げている。太宰府分類 V 類に属する。328・329 は東播系捏鉢で、口縁部は断面三角形状に拡張されている。330 は瓦質羽釜である。



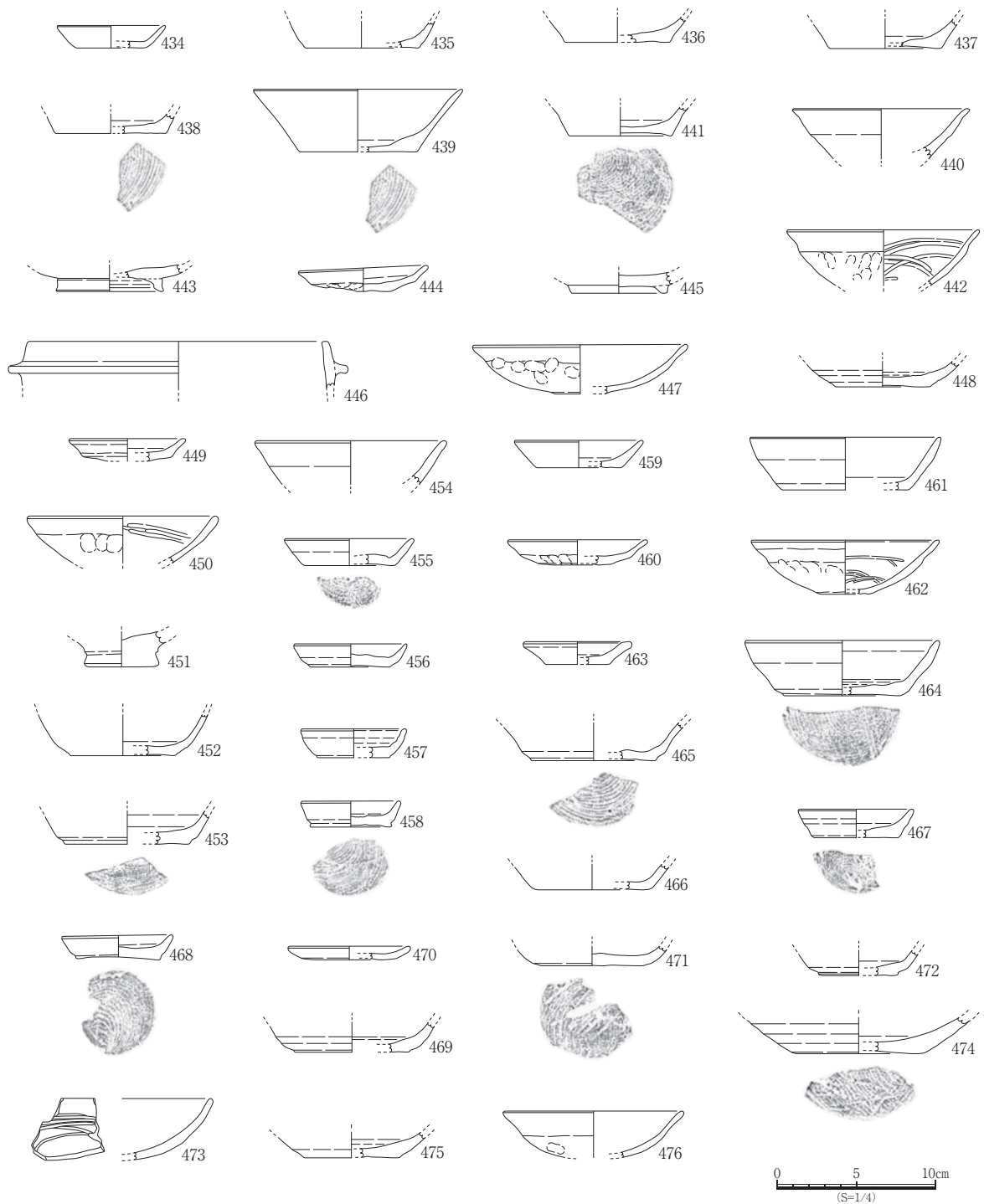
2-29 図 中層ピット出土遺物①

P70 (土師質鍋：394) P76 (東播系捏鉢：396) P80 (瓦器椀：398・399) P82 (瓦器椀：395) P84 (瓦器小皿：400)
 P86 (瓦質羽釜：393) P89 (東播系羽釜：397) P90 (瓦器椀：401) P91 (土師質杯：402) P93 (瓦器小皿：403)
 P95 (瓦器小皿：404) 須恵器杯：407) P96 (東播系甕：405) 常滑甕：406) P102 (土師質椀：408) P105 (青磁碗：409)
 P106 (土師質杯：410) P126 (東播系羽釜：411) 瓦器小皿：412) P141 (土師質杯：413～415) P143 (土師質杯：425)
 P144 (土師質杯：416) P145 (土師質小皿：417) 同杯：418～423) 東播系捏鉢：424) P149 (土師質杯：426)
 P162 (瓦器椀：427) P163 (瓦器椀：428) P174 (東播系羽釜：429) P207 (瓦器椀：430・431) P216 (土師質杯：432・433)

331・332 は常滑甕の胴部と肩部片で前者には細長格子の押印痕が見られる。333 は土錘、334 は砥石で使用面は三面、流文岩製である。

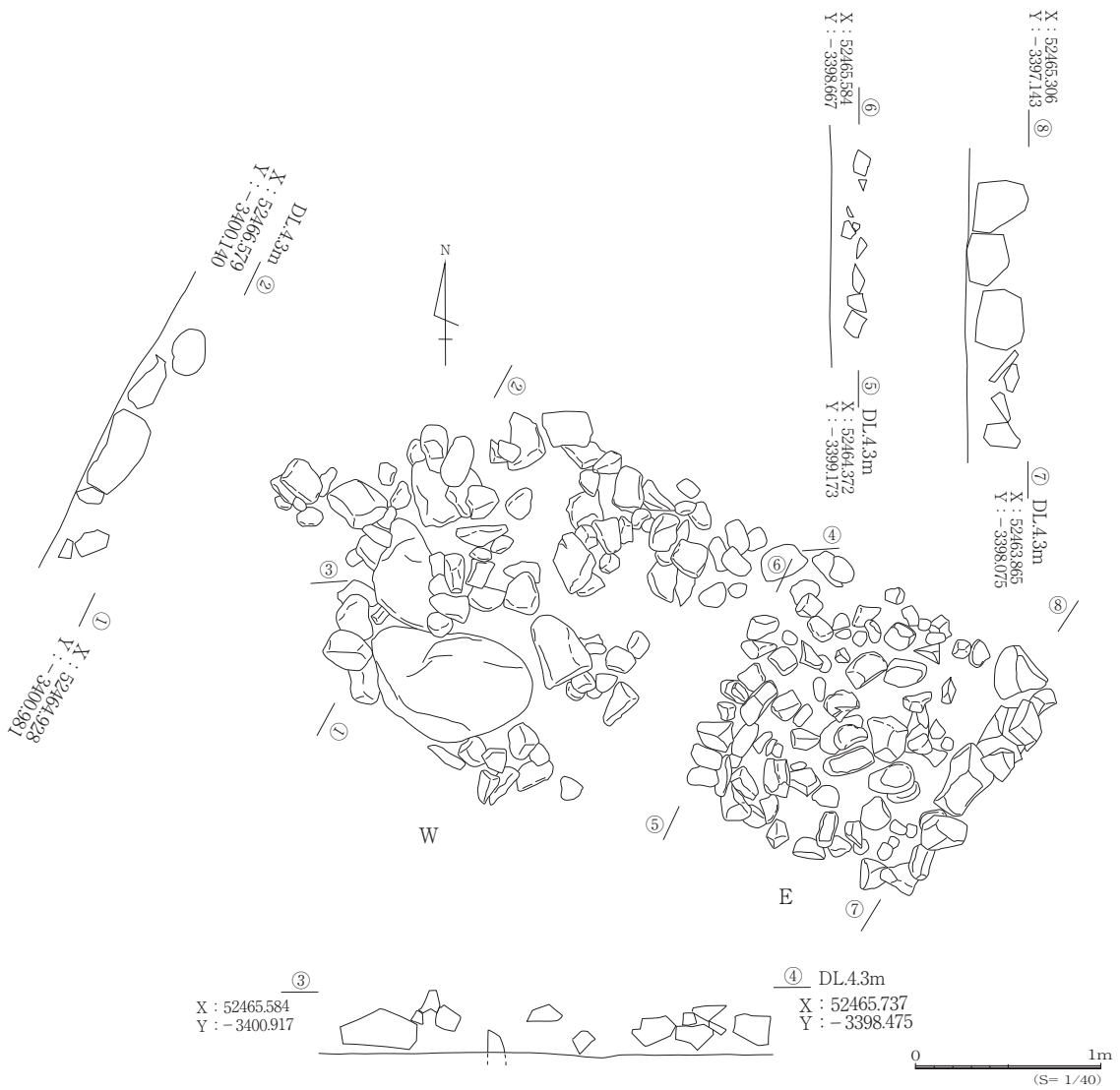
集中出土の遺物 (2-26 図)

335 は土師質小杯、336～345 は同杯である。346 は足高高台杯の底部と考えられるが、厚さ 3cm の底部に径 1cm 前後の円孔が焼成前に斜め貫通している。347 は東播系捏鉢で、口縁部は三角に肥

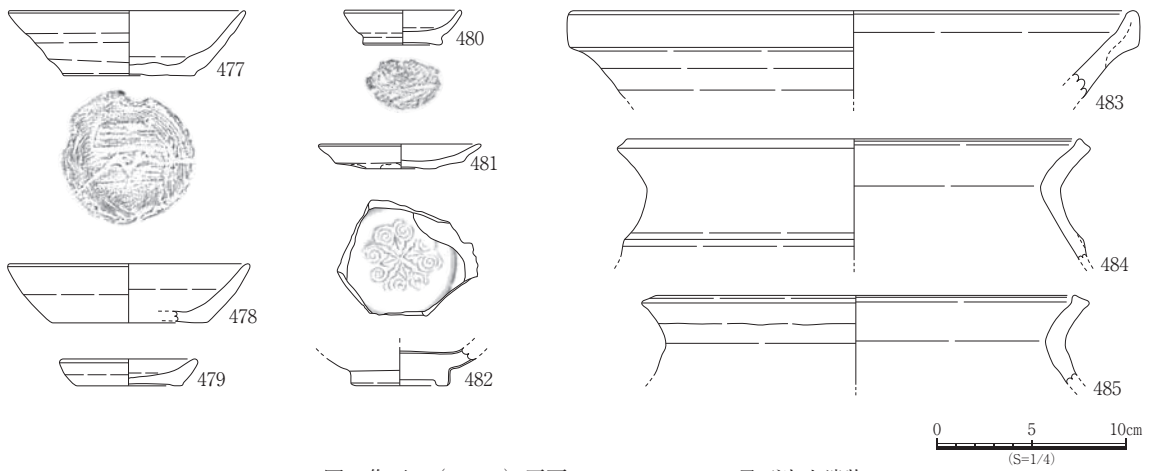


2-30図 中層ピット出土遺物②

- P219 (土師質小皿:434 同杯:435~441) P224 (瓦器椀:442 同小皿:444 土師質椀:443)
 P225 (土師質椀:445 瓦質羽釜:446) P228 (瓦器椀:447) P232 (土師質杯:448 瓦器小皿:449)
 P234 (瓦器椀:450) P235 (土師質杯:451) P239 (土師質杯:452) P240 (土師質杯:453)
 P246 (土師質杯:454 同小杯:455~457) P247 (土師質小杯:458・459) P251 (土師質杯:461 瓦器小皿:460)
 P256 (瓦器椀:462) P257 (土師質椀:463) P261 (土師質杯:464~466 同小杯:467・468) P263 (土師質杯:469)
 P264 (瓦器小皿:470) P270 (土師質杯:471) P273 (瓦器椀:473) P276 (土師質杯:472) P281 (東播系捏鉢:474)
 P287 (土師質杯:475) P288 (瓦器椀:476)

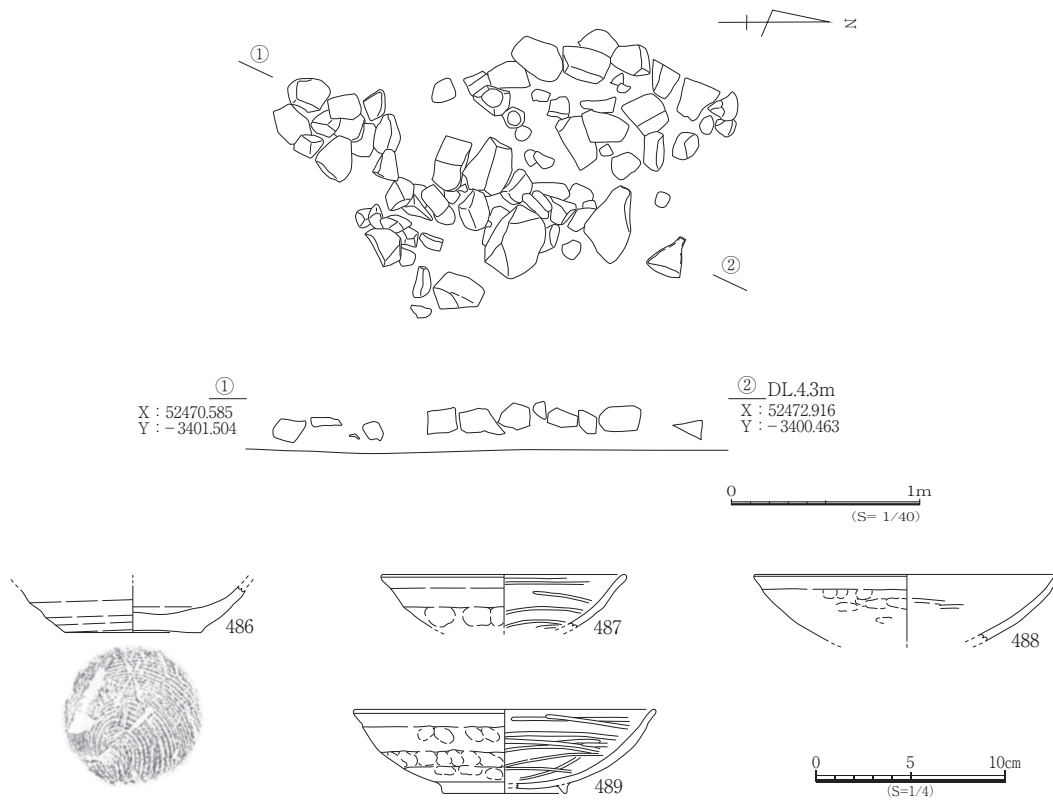


集石 1 (W・E) 平面図・エレベーション



2-31 図 集石 1 (W・E) 平面・エレベーション及び出土遺物

土師質杯 : 477・478 同小杯 : 479・480 瓦器小皿 : 481 青磁碗 : 482 東播系捏鉢 : 483 紀伊型甕 : 484・485



2-32図 集石2 平面・エレベーション及び出土遺物

土師質杯：486 瓦器碗：487～489

厚している。348は常滑大甕である。

SD21 (2-27図)

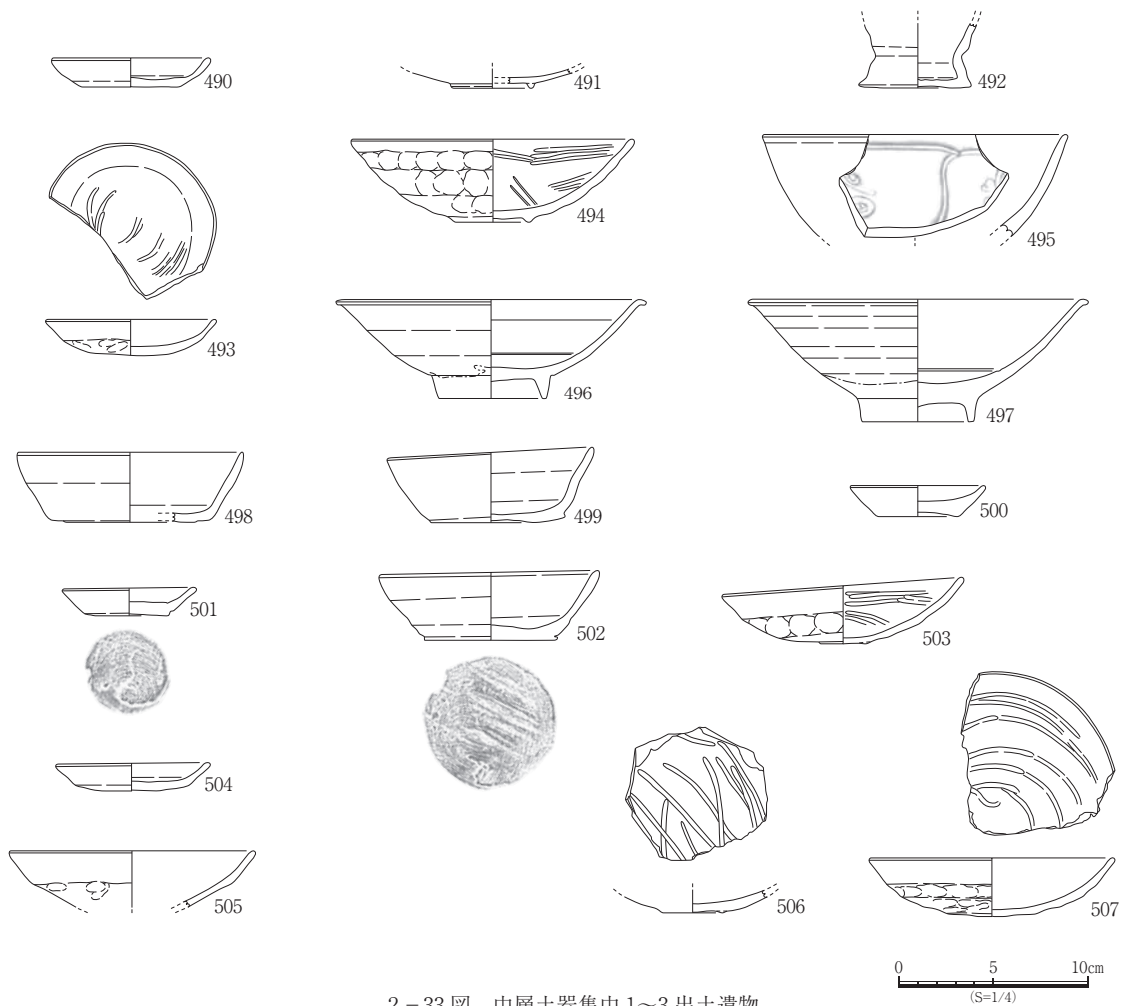
すでに触れたようにSD20の北から延びる細長い溝で、逆L字状にカーブしている。延長16m、幅0.4m、深さ20cmを測る。埋土はSD20の1と同じである。埋土中から土師質土器や瓦器細片が少量出土している。349は瓦器碗底部である。

SD22 (2-27図)

調査区東端を南北方向に延びる確認延長12.7m、幅0.5～1.0m、深さ25cm前後の溝である。埋土は1：にぶい黄褐色シルト、2：黄褐色シルトである。遺物は埋土中から土師質や瓦器片が中心に出土している。350は須恵器碗である。351は瓦器碗、352は足高高台杯、353は土錘である。

SD23 (2-27図)

調査区の東部に位置しクランク状を呈する。SD24を切っており、SD22とも重複しているが先後関係は不明である。確認延長13.5m、幅0.5～0.7m、深さ25cm前後を測る。埋土はにぶい黄褐色シルトである。遺物は土師質、瓦器を中心に多く出土している。355・356は土師質小杯、357～368は土師質杯、354・375は瓦器小皿、369～374・376～378は瓦器碗である。379～381は青磁碗、379・380は鎗蓮弁を有する。382は白磁碗で輪花に作られている。383は灰釉皿で近世に属するものである。384は白磁四耳壺の口縁部細片、385は東播系羽釜である。386は土錘である。383の灰釉皿は混入によるものと考えられる。



2-33 図 中層土器集中1~3出土遺物

土器集中1 (土師質小皿: 490 同杯: 492 瓦器椀: 491・494 同小皿: 493 青磁碗: 495 白磁碗: 496・497)
 土器集中2 (土師質小皿: 500 同杯: 498・499)
 土器集中3 (土師質小杯: 501 同杯: 502 瓦器小皿: 504 同椀: 503・505~507)

SD24 (2-28 図)

調査区の東部にあり、SD23に切られている。延長6m、幅50cm前後、深さ10cm程を測る。埋土は明黄褐色シルトである。土師質土器や瓦器片が出土している。387は瓦器椀、388は東播系捏鉢である。

SD25 (2-28 図)

調査区南を東西に走る溝でSD23に切られている。確認延長18m、幅0.5~0.6m、深さ20cm前後を測る。埋土はにぶい黄橙色シルトである。埋土中から土師質、瓦器細片が中心に出土している。389は青磁碗底部、390は瓦器椀、391は近世の染付皿、392は備前播鉢である。

(3) ピット出土の遺物 (2-29・30 図)

ピットからは、土師質杯 (P91: 402、P106: 410、P141: 413~415、P143: 425、P144: 416、P145: 418~423、P149: 426、P216: 432・433、P219: 435~441、P232: 448、P235: 451、P239: 452、P240: 453、P246: 454、P251: 461、P261: 464~466、P263: 469、P270: 471、P276: 472、P287: 475)、同小杯 (P145: 417、P219: 434、P246: 455~457、P247: 458・459、

P261:467・468)、同椀 (P102:408、P224:443、P225:445、P257:463)、瓦器椀 (P80:398・399、P82:395、P90:401、P162:427、P163:428、P207:430・431、P224:442、P228:447、P234:450、P256:462、P273:473、P288:476)、瓦器小皿 (P84:400、P93:403、P95:404、P126:412、P224:444、P232:449、P251:460、P264:470)、須恵器杯 (P95:407)、青磁碗 (P105:409)、東播系捏鉢 (P76:396、P145:424、P281:474)、土師質鍋 (P70:394)、東播系羽釜 (P89:397、P126:411、P174:429)、瓦質羽釜 (P86:393、P225:446)、常滑甕 (P96:406)、東播系甕 (P96:405) などが出土している。

(4) 集石遺構

集石1 (2-31図)

調査区中央部よりやや西で集石を検出した。4.5m × 2.0m の範囲に拳大から人頭大、或はそれよりも大きな河原石が集中していた。石の密集度から西 (W) と東 (E) に分けることができる。両者とも 2m 四方の広がりを持ち、E が比較的小さな礫を整然と並べているのに対して、W は大型の礫を含み密集度がやや弱い。先述したように E の集石を除くと大きな礫を並べ置いた SK15 が検出された。集石1のEはSK15と関連があるかもしれない。集石1の礫の間からは比較的多くの遺物が出土している。477・478は土師質杯、479・480は同小杯、481は瓦器小皿、482は青磁碗で見込みに印花文が見られる。483は東播系捏鉢、484・485は紀伊型甕である。477と478はWから他はEから出土している。13世紀後半から14世紀前半に属するもので、SK15と同時期と考えられる。

集石2 (2-32図)

調査区西よりに位置する。南北に長軸をとる 2.5m × 1.5m の範囲に拳大から人頭大の円礫が密集している。石材はすべて砂岩である。中には被熱赤変している礫も見られるが、集石で被熱したのではなく被熱した礫を用いたものと考えられる。この集石に伴う遺構は認められない。遺物は、集石間から瓦器椀や土師質土器が出土している。486は土師質杯、487～489は瓦器椀である。489はしっかりした断面三角形の高台を貼付し、内底が使用により磨耗し暗文が消えている。

(5) 土器集中地点出土の土器 (2-33図)

基本層準Ⅳ層からの出土であり遺構に伴うものではないが、狭い範囲から集中して出土しており出土状況から見て一括性が高いと判断することができる。

土器集中1

調査区西北部に位置する。490は土師質小皿、492は同足高高台杯、491・494は瓦器椀、493は同小皿である。495は青磁碗で内面を2条の沈線で区画し、その中に草花文などを配するⅠ4類に属する。496・497は白磁碗でともに口縁部が強く外反するⅤ類に属する。瓦器椀はⅢ-2期に属するものであり、青磁・白磁から13世紀初頭頃に属するものと考えられる。

土器集中2

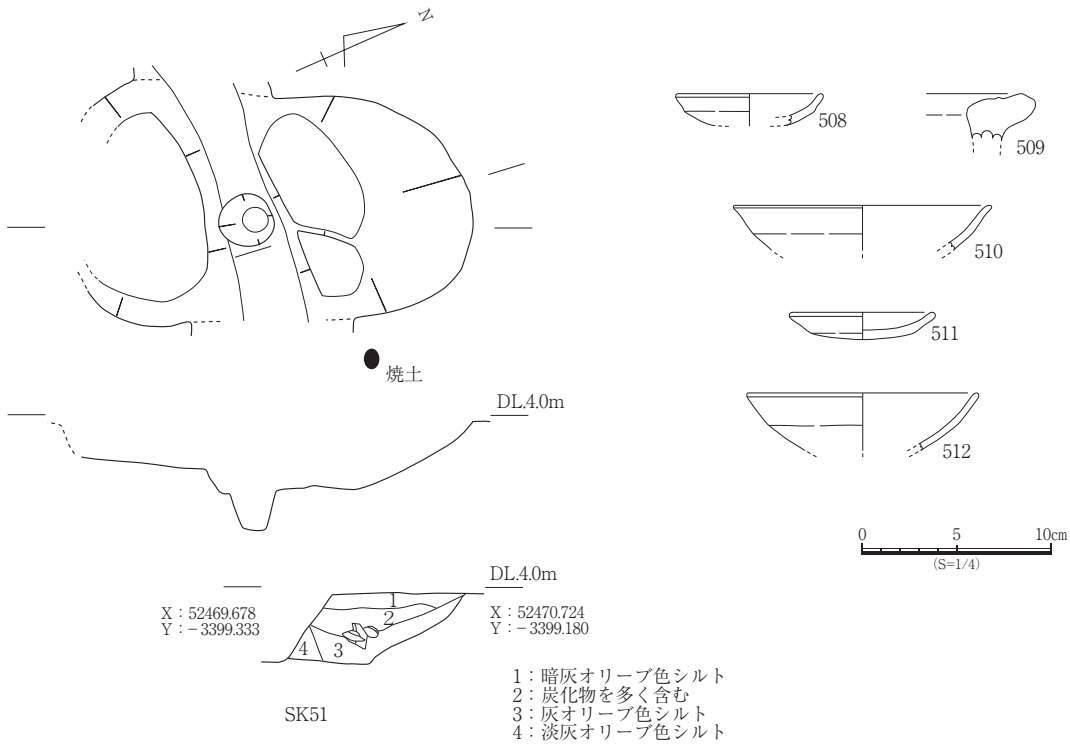
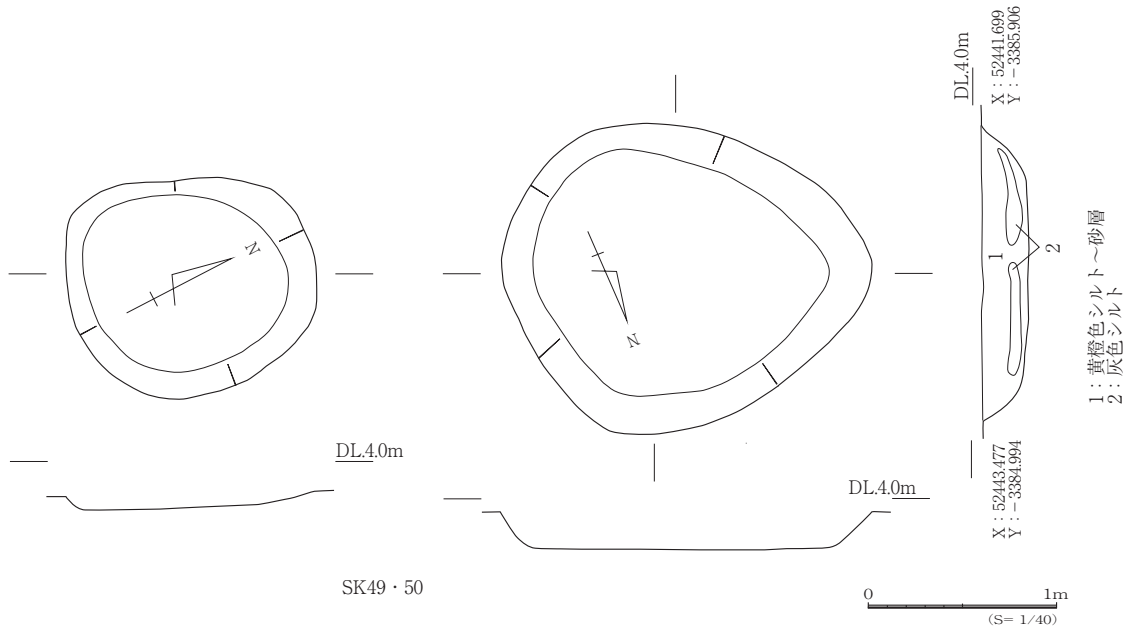
498・499は土師質杯、500は同小皿である。

土器集中3

調査区東部に位置する。501は土師質小杯、502は同杯である。503・505～507は瓦器椀、504は同小皿である。503・506の高台は著しく退化し507は高台が見られない。Ⅳ期に属し、14世紀代に属する。

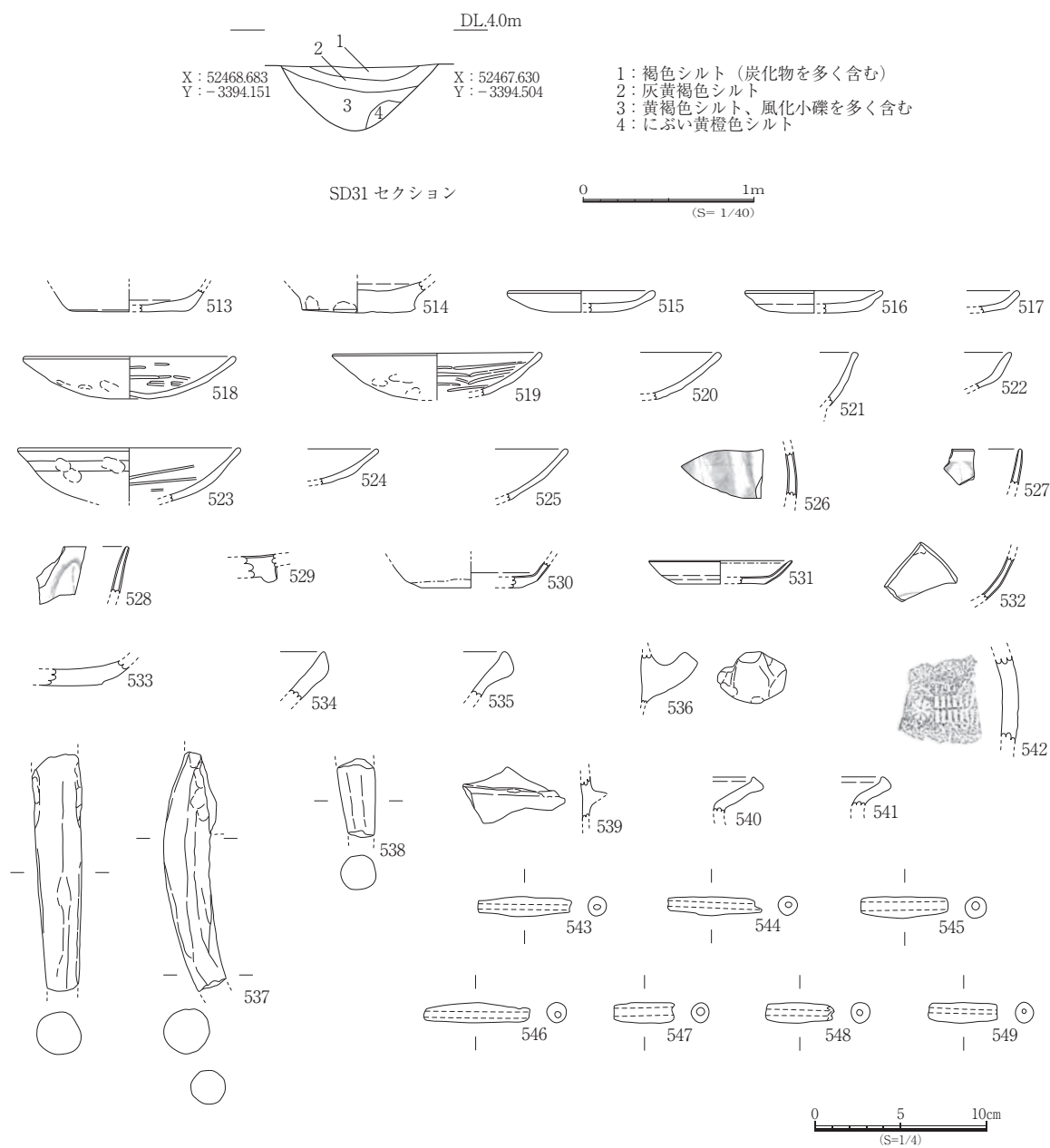


2-34 図 下層遺構全体図



2-35 図 SK49~51 遺構・遺物

SK49 (瓦器小皿 : 508 同碗 : 510 土師器羽釜 : 509) SK51 (瓦器小皿 : 511 瓦器碗 : 512)



2-36 図 SD31 セクション及び出土遺物

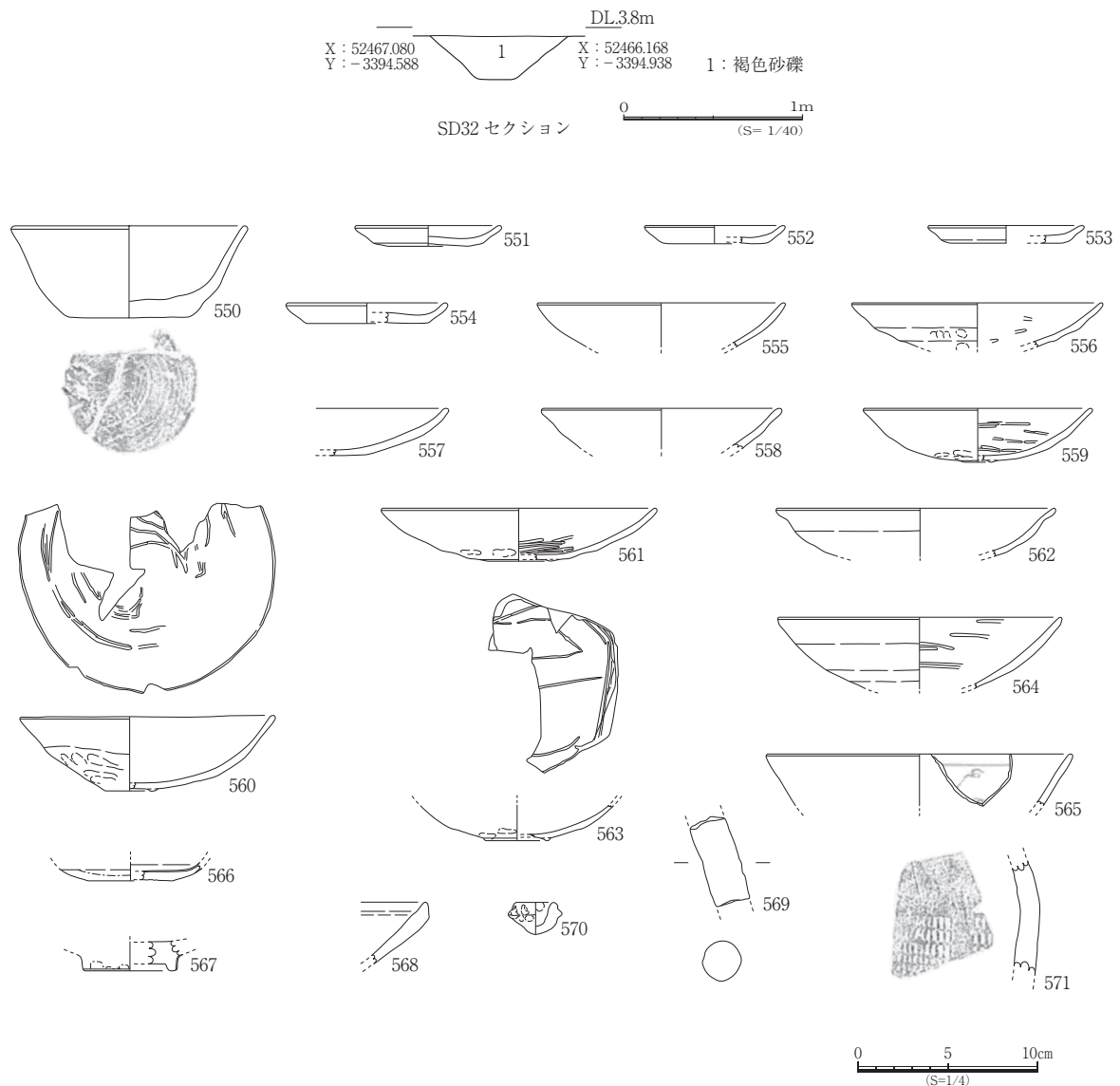
土師質杯：513・514 瓦器碗：518～525 同小皿：515～517 青磁碗：526～529 同皿：530 白磁皿：531 同碗：532
東播系捏鉢：533～535 須恵器把手：536 瓦質羽釜脚：537・538 瓦質羽釜：539 紀伊型甕：540・541 常滑甕：542
土鍾：543～549

4. 下層の遺構と遺物

(1) 土坑

SK49 (2-35 図)

調査区中央部にある。楕円形の平面形を呈し長軸 1.32m、短軸 1.13m、深さ 10cm を測る。埋土は黄橙色シルト～砂層である。埋土中から瓦器細片が多く出土している。508 は瓦器小皿で内面に暗文が施されている。509 は土師器羽釜、510 は瓦器碗である。509 は古代に属し混入品である。



2-37 図 SD32 セクション及び出土遺物

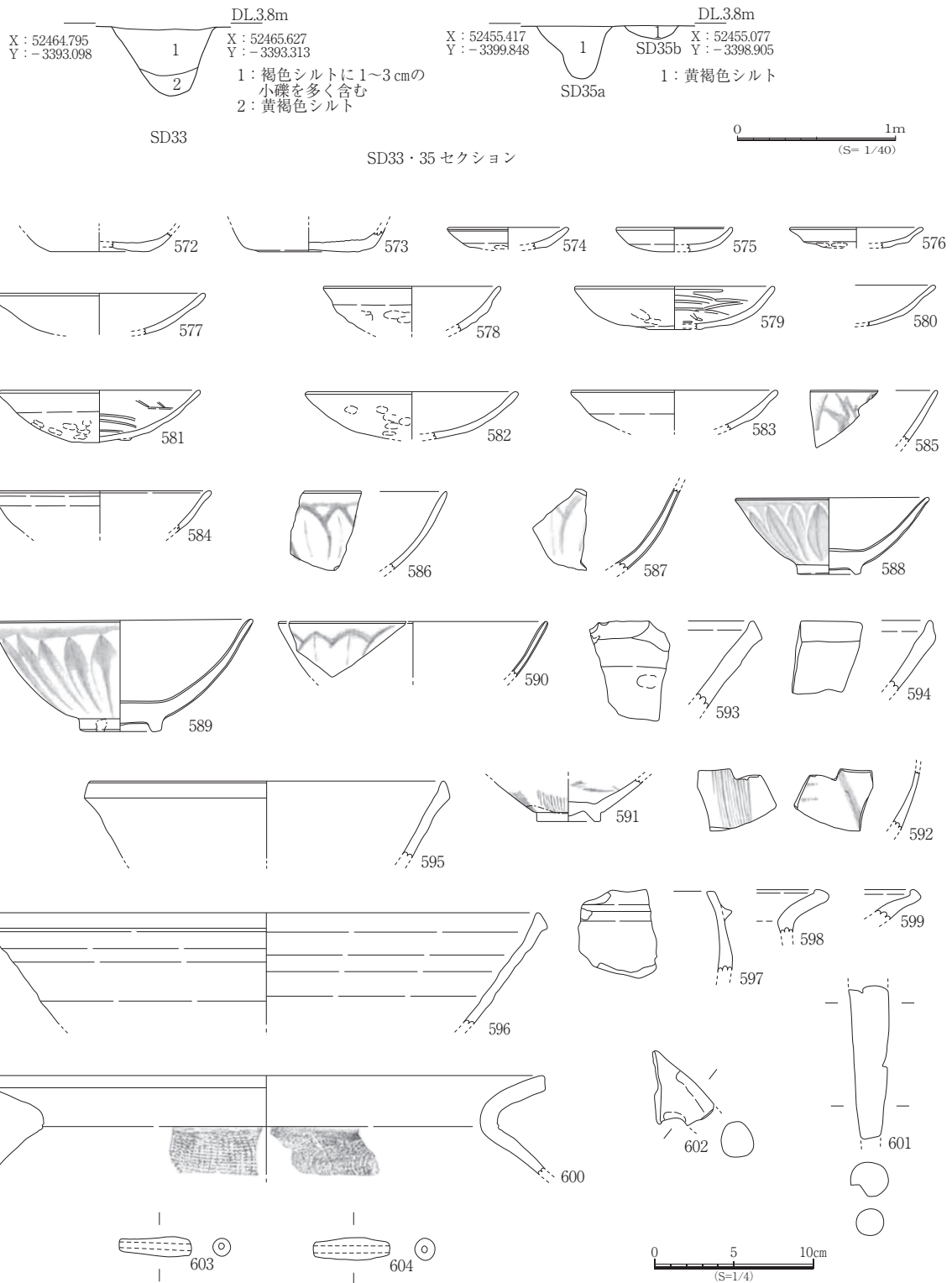
土師質杯：550 瓦器小皿：551～554 同碗：555～564 青磁碗：565・567 同小皿：566
 東播系捏鉢：568 瓦質羽釜脚：569 常滑甕：571 ミニチュア土製品：570

SK50 (2-35 図)

調査区東南に位置する。隅丸台形状の平面形を呈し長軸 1.97cm、短軸 1.6m、深さ 25cmを測る。埋土は 1：黄橙色シルト～砂層、2：灰色シルトである。土師質杯類や瓦器細片が多く出土しているが図示できるものはない。

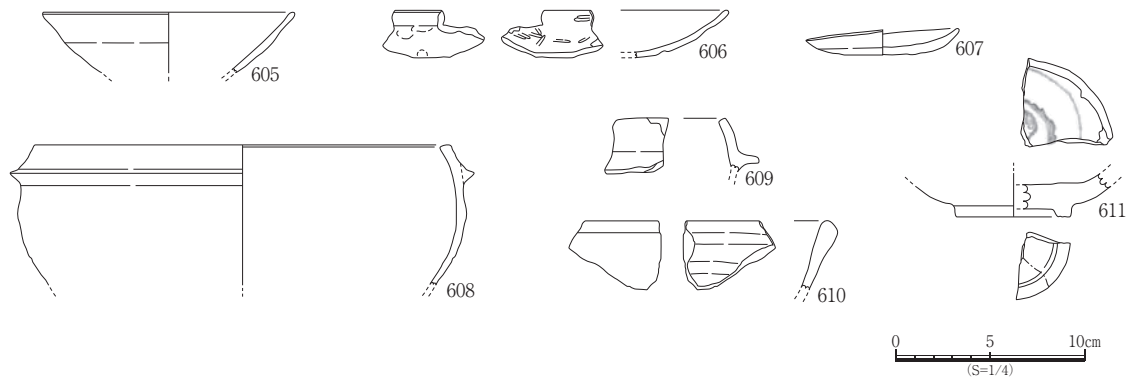
SK51 (2-35 図)

調査区西部に位置する。SD31 に切られており、且つ南半分の大部分は攪乱により切られている。楕円形の平面形を呈し長軸は 2m 余り、短軸 1.2m、深さ 40cm程を測る。SD31 の床面で柱穴と考えられる P383 を検出したが、SK51 に伴う可能性もある。また東壁の肩部には地面が径 15cmの円形に真黒変色しているところがある。高熱によって変色したものである。SK51 の埋土は 1：暗灰色



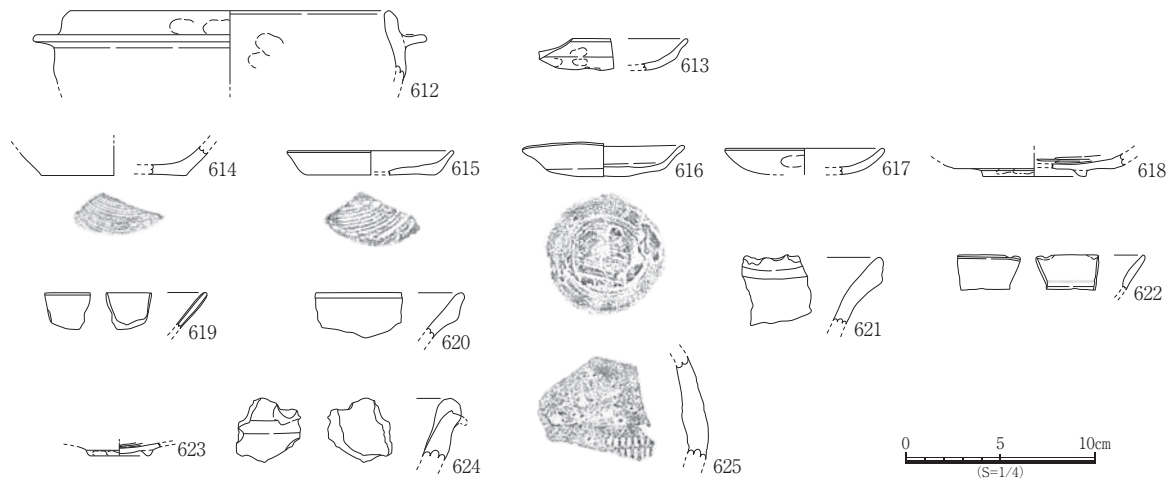
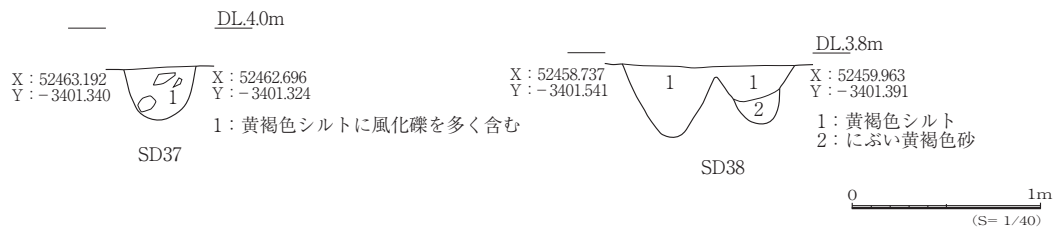
2-38 図 SD33・35a・35b セクション及びSD33 出土遺物

土師質杯 : 572・573 瓦器小皿 : 574~576 同碗 : 577~584 青磁碗 : 585~592 東播系捏鉢 : 593~596
 瓦質羽釜 : 597 同脚 : 601・602 紀伊型甕 : 598・599 陶器甕 : 600 土錘 : 603・604



2-39図 SD34~36 出土遺物

SD34 (瓦質羽釜: 608) SD35 (青磁碗: 611 瓦器碗: 605)
SD36 (瓦器碗: 606 同小皿: 607 瓦質羽釜: 609 東播系捏鉢: 610)

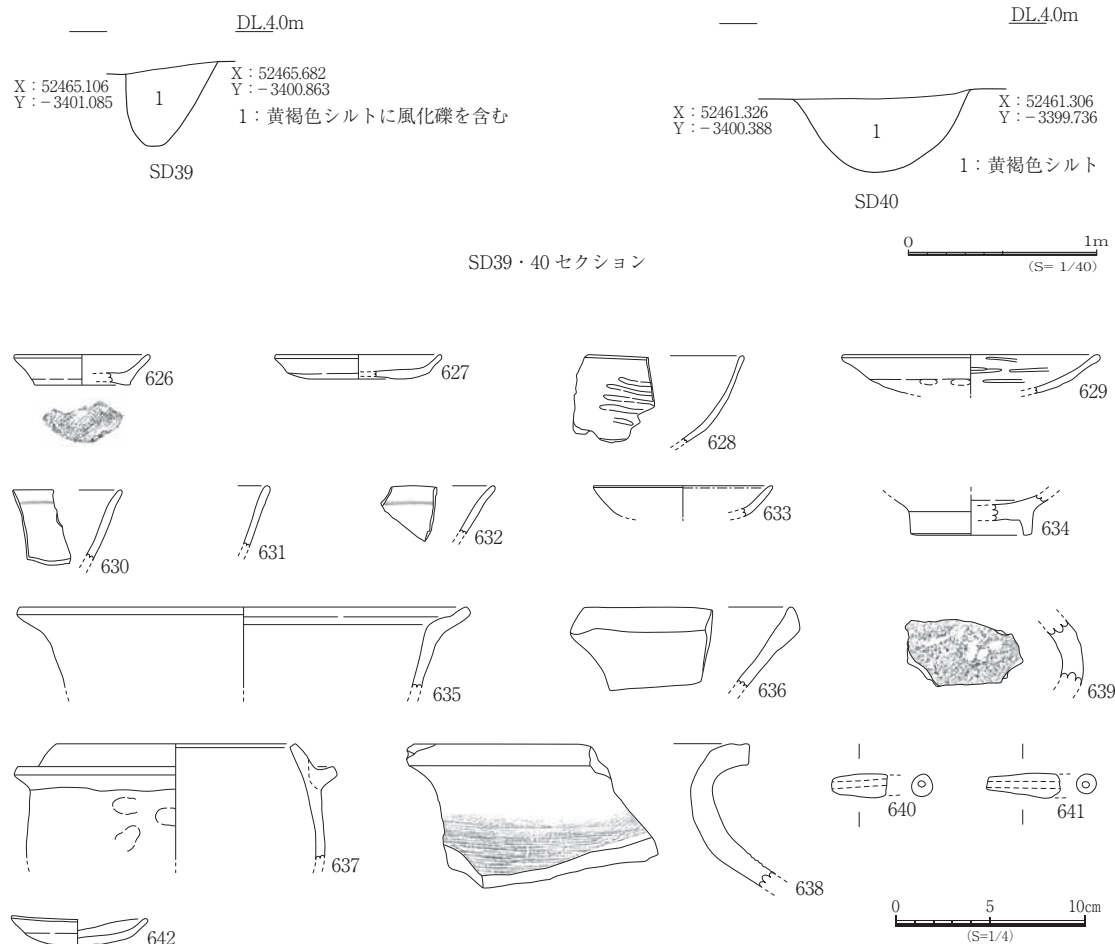


2-40図 SD37・38 セクション及び出土遺物

SD37 (瓦器小皿: 613 瓦質羽釜: 612)
SD38 (土師質杯: 614 同小杯: 615・616 瓦器小皿: 617 瓦器碗: 618・623 青磁碗: 619 東播系捏鉢: 620・621
白磁皿: 622 陶器鉢: 624 常滑甕: 625)

オリブ色シルト、2: 炭化物を多く含む、3: 灰オリブ色シルト、4: 淡灰オリブ色シルトであり、他の土坑埋土とは大きく異なっている。

遺物は瓦器や土師質土器片と共に、ふいごの羽口片や鍛冶滓、海綿状の土器片などが出土している。後述のように鍛冶滓や東壁肩部の変色部位の土壌について金属学的分析を行ったところ鍛錬鍛冶滓であることや微細遺物中から黒炭も確認された。SK51は鍛冶関連遺構、東壁肩部の熱変色部分は鍛冶炉跡と考えられる。511は瓦器小皿、512は同碗であり前者の内面には暗文が見られる。



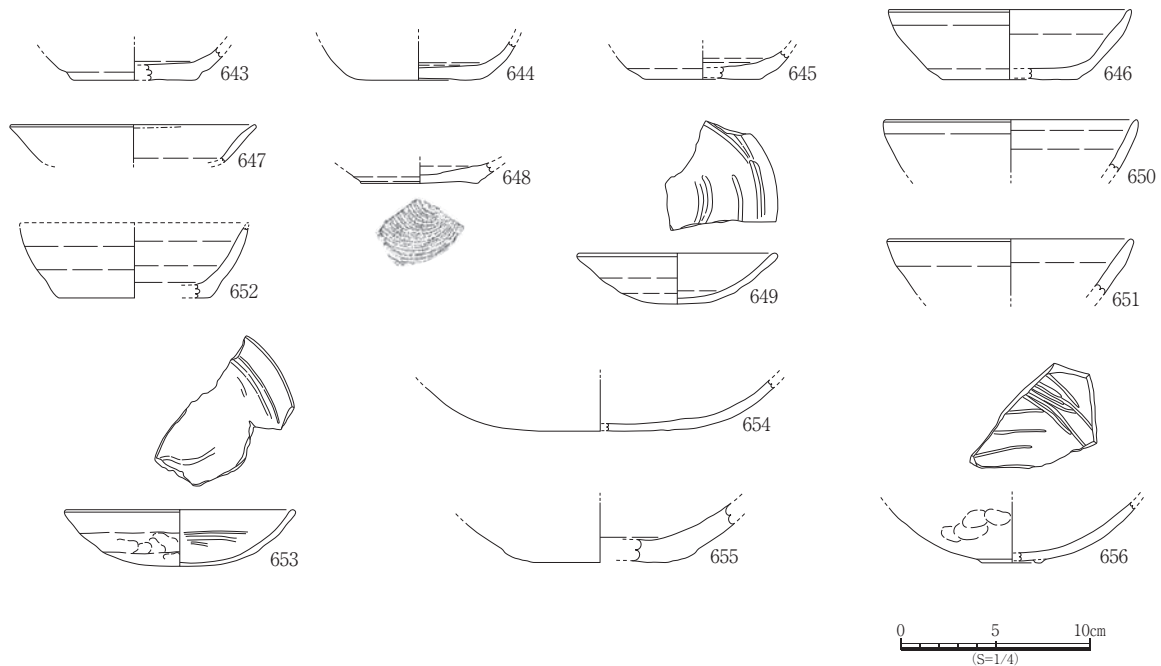
2-41 図 SD39・40 セクション及び出土遺物

SD39 (土師質小杯：626 瓦器椀：628・629 同小皿：627 青磁碗：630～632 白磁小皿：633 同碗：634 瓦質鉢：635 東播系捏鉢：636 瓦質羽釜：637 東播系甕：638 陶器壺：639 土錘：640・641)
 SD40 (瓦器小皿：642)

(2) 溝

SD31 (2-36 図)

調査区北よりを東西に走る溝でSK51を切っている。延長11.0m、幅0.9m、深さ25cm前後を測る。埋土は1：炭化物を多く含んだ褐色シルト、2：灰黄褐色シルト、3：風化小礫を多く含む黄褐色シルト、4：にぶい黄橙色シルトで、4は壁の崩落土である。遺物は埋土中から出土している。513・514は土師質杯で後者は底部ヘラ切りである。515～517は瓦器小皿、518～525は瓦器椀である。瓦器椀は細片が多いが、総じて口径12cm前後と小型が多く、高台は見られない。小皿も内面の暗文は認められない。IV期に属するものである。526～529は龍泉窯系青磁碗で、前三者は鎬蓮弁を持つI5b類である。530は腰折れタイプの同青磁皿で内面無文、外面屈曲部以下は無釉である。531は白磁口禿皿、532は白磁碗細片である。533は東播系捏鉢底部、534・535は同口縁部である。この他に瓦質羽釜脚(537・538)、瓦器羽釜(539)紀伊型甕(540・541)、常滑甕(542)、土錘(543)



2-42図 下層ピット出土遺物

P294 (土師質杯：644) P299 (土師質杯：643) P320 (土師質杯：645・646) P324 (白磁皿：647)
 P331 (瓦器椀：649) P358 (土師質杯：650～652) P361 (瓦器椀：653) P366 (土師質杯：648)
 P369 (瓦質羽釜底：654) P384 (東播系捏鉢：655) P414 (瓦器椀：656)

～549) などが出ている。白磁碗や須恵器など古いものも見られるが、瓦器椀や白磁小皿から見て14世紀前半代に埋没した溝と考えられる。

SD32 (2-37図)

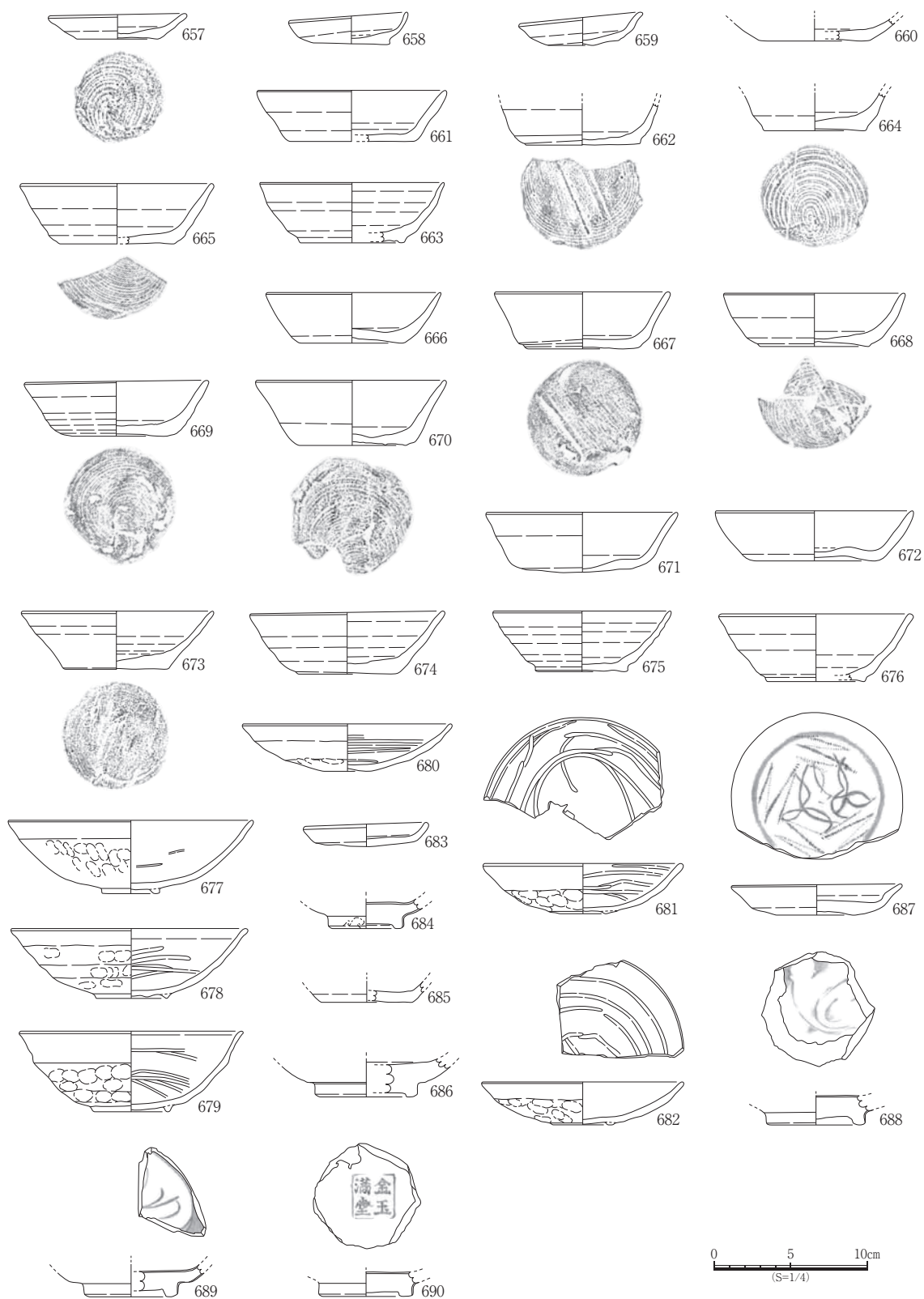
SD31と平行して走る溝である。延長5.5m、幅0.8m、深さ25cm前後を測り、東端でSD33と切り合っているが先後関係は不明である。埋土は褐色砂礫である。遺物は埋土中から瓦器片が多く出土している。550は土師質杯、551～554は瓦器小皿、555～564は瓦器椀である。瓦器椀は細片が多く正確な口径を測り難いものが多いが14cm前後を示しているものと考えられる。高台はかなり退化している。560は著しく左右対称性を欠いている。565・567は龍泉窯系青磁碗で、前者は内面区画内に文様を配するI4類に属する。566は腰折れの青磁小皿である。568は東播系捏鉢、569は瓦質羽釜脚、571は常滑甕、570はミニチュア状の土製品である。SD32の時期比定は難しいが、瓦器や青磁碗からみてSD31に先行するものと考えられる。

SD33 (2-38図)

東西方向に走る溝でSD39・34・32と切り合っているが先後関係は不明である。延長14m、幅0.5～1.0m、深さ45cm前後を測る。埋土は1：小礫を多く含んだ褐色シルト、2：黄褐色シルトである。埋土から瓦器や土師器杯類、貿易陶磁片などが出土しているが、瓦器類が最も多い。572・573は土師質杯、574～576は瓦器小皿、577～584は瓦器椀である。585～592は青磁碗で、585～590は鎬蓮弁文を持つ龍泉窯系青磁碗、591・592は櫛目文を有する同安窯系碗である。593～596は東播系捏鉢、597は瓦質羽釜、601と602は瓦質羽釜脚である。598・599は紀伊型甕、600は外面に格子目叩きを有する陶器甕である。603・604は土錘である。

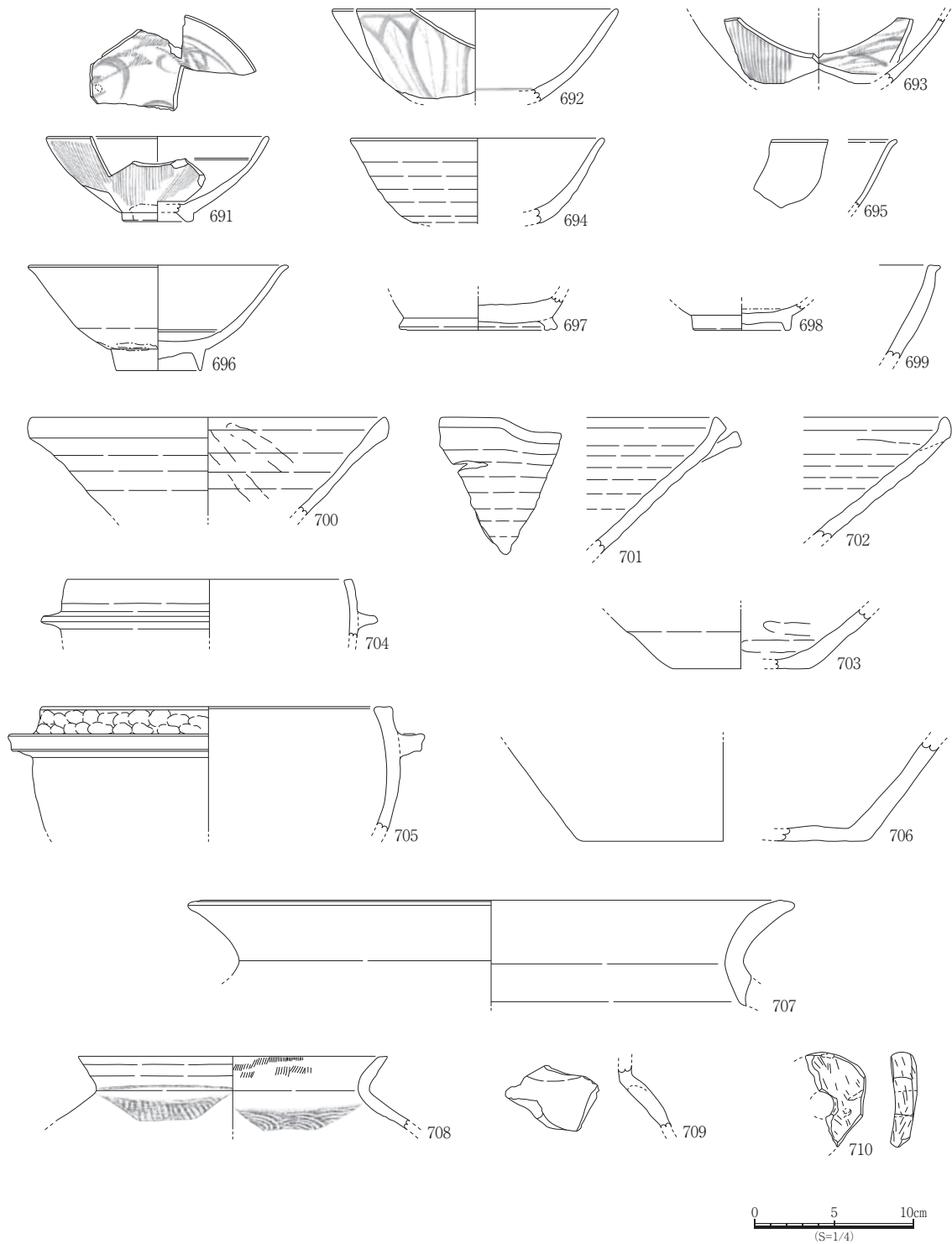
SD34 (2-39図)

確認延長3m、幅0.5～0.7m、深さ20cm前後を測る。埋土は黄褐色シルトである。遺物は瓦器椀



2-43 図 包含層出土遺物①

土師質小皿：657 同小杯：658・659 同杯：660～676 瓦器碗：677～682 同小皿：683
 青磁碗：684・686・688～690 青磁皿：687 白磁皿：685



2-44図 包含層出土遺物②

青磁碗：691～694 白磁碗：695・696・698 須恵器壺：697・708 常滑鉢：699 東播系捏鉢：700～703
 瓦質羽釜：704・705 常滑甕：706 陶器甕：707 古瀬戸梅瓶：709 温石転用品：710

細片が多く見られるが図示できるものは無い。608は瓦質羽釜である。

SD35 (2-38・39図)

南北方向に延びる溝である。北端でSD38と切り合っているが先後関係は不明である。確認延長

10m、幅 1.0m 前後を測る。SD38 と別個の溝として捉えたが、北で屈曲して SD38 と一つの溝になる可能性も考えられる。また 2 - 34 図では二条の溝が平行しているように見えるが、一条の溝が部分的に W 状を呈している。埋土は黄褐色シルトである。605 は瓦器椀、611 は龍泉窯系青磁碗底部である。見込みに印花文が見られる。

SD36 (2 - 39 図)

東西方向に僅かに弧を描きながら 9m 程延びた後、直角に折れて南に 5m 延びる。東西方向の西部で中層の SD20 に切られている。幅は東西方向で 0.4 ~ 0.5m、南北方向で 0.2 ~ 0.3m である。深さはそれぞれ 20 ~ 40cm、10cm 程である。埋土は黄褐色シルトである。遺物は埋土から出土している。606 は瓦器椀、607 は同小皿、609 は瓦質羽釜、610 は東播系捏鉢である。土師質土器類よりも瓦器椀類の破片が多い。

SD37 (2 - 40 図)

SD33 の南を走る細い溝である。確認延長 4.5m、幅 0.3 ~ 0.4m、深さ 30cm を測る。埋土は風化礫を多く含む黄褐色シルトである。遺物はここでも瓦器椀類が土師質杯類よりも多い。613 は瓦器小皿、612 は瓦質羽釜である。この他に鍛冶滓が出土している。

SD38 (2 - 40 図)

東西方向に延びる溝である。延長 7m、幅 0.7 ~ 1.2m、深さ 40cm 前後を測り、断面は SD35 で見たような W 字状を呈している。埋土は 1 : 黄褐色シルト、2 : にぶい黄褐色砂である。遺物は土師質杯類、瓦器椀類片が多く、特に後者が前者の 3 倍近く出土している。614 は土師質杯、615・616 は同小杯、617 は瓦器小皿、618・623 は瓦器椀である。619 は青磁碗、620・621 は東播系捏鉢、622 は白磁皿、625 は常滑甕、624 は常滑の片口である。この他に鍛冶滓も数点出土している。遺物の中で土師質小杯の 616 が床面、他は埋土からの出土である。616 は、これまでの土師質杯・皿類が全て糸切り手法であったのに対してヘラ切り手法である。SD35 と SD38 は断面形状が同じであり、遺物が同時期ものとして矛盾ないことから一体の溝として捉えるべきであろう。

SD39 (2 - 41 図)

SD33 に向かって幅を広げながら延びている。延長 5m、幅 0.4 ~ 1.0m、深さ 40cm 前後を測る。埋土は風化礫を含む黄褐色シルトで SD33 と同じである。SD33 と先後関係にあるのか、SD33 から分岐している溝であるのかを検出状態から判断することはできない。遺物は口縁口禿の白磁小皿 633 が床面出土、他は埋土出土である。626 は土師質小杯、628・629 は瓦器椀、627 は同小皿、630 ~ 632 は龍泉窯系青磁碗、634 は白磁碗、635 は瓦質鉢、636 は東播系捏鉢、637 は瓦質羽釜、638 は東播系甕、639 は産地不明の陶器壺、640・641 は土錘である。なお、ここでも土師質杯類に比べて瓦器椀類が多く出土している。

SD40 (2 - 41 図)

SD33 と SD38 を連結するような位置にあるが、両者と先後関係があるのか一体の溝であるのかを検出状況から明らかにすることは難しい。延長 3.9m、幅 0.4m、深さ 20cm 前後を測る。埋土は黄褐色シルトである。遺物は僅少で図示し得たのは瓦器小皿 642 のみである。

(3) ピット出土の遺物 (2 - 42 図)

ピットからは、土師質杯 (P294 : 644、P299 : 643、P320 : 645・646、P358 : 650 ~ 652、P366 : 648)、瓦器椀 (P331 : 649、P361 : 653、P414 : 656)、白磁皿 (P324 : 647)、東播系捏鉢 (P384 :

655)、瓦質羽釜底 (P369:654) が出土している。

5. 包含層出土の遺物 (2-43・44 図)

基本層準4層出土の主な土器を図示した。657は土師質小皿、658・659は同小杯、660～676同杯である。これら土師質供膳形態すべて回転台成形による横ナデ調整、糸切りを基調としているが、663・676外面にはハケ目状原体の痕跡が見られる。667・668・670の外底には板目状圧痕が見られる。677～682は瓦器椀、683は瓦器小皿である。瓦器椀は器高が5cm前後の深くて大振りのもの(677～679)と3cm前後の浅くてやや小振りもの(680～682)とに分けることができる。前者は高台もしっかりしている。684・686・688～694は青磁碗である。691と693が櫛目文を持つ同安窯系、他は龍泉窯系である。691は外面櫛目、内面は沈線下にジグザグ文と丸ノミによる文様が描かれる。I-1類に属する。688・689は見込みに片彫りの花文、690は「金玉満堂」の吉祥句のスタンプが施されている。692は鎬蓮弁文を有するI5b類である。687は同安窯系青磁皿で、内面に櫛目のジグザグ文と片彫りによる花文を配し、外底は釉を掻きとっている。皿I-2類に属する。685は口禿タイプの白磁皿底部、695・696・698は白磁碗、前二者はV類、698は見込みの釉を掻き取るⅧ類に属する。697は須恵器壺底部、708は同口縁部である。699は常滑鉢、706は同甕である。700～703は東播系捏鉢である。704・705は瓦質羽釜で705の胴部外面はナデ仕上げである。709は古瀬戸梅瓶の肩部、710は滑石製の温石の細片である。710は少し湾曲しており径1.5cmの円孔が穿たれている。

表3 3-1区土器観察表1

遺物番号	器種	出土地点	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土・色調	特徴	備考
1	瓦器 椀	SK1	(13.0)	(2.45)		精土 灰色	口縁部内外面横方向のナデ調整、体部外面指頭圧痕。	
2	〃	SK2	(13.0)	(2.0)		精土 黄灰色	口縁部内外面横方向のナデ調整、体部外面指頭圧痕。外面煤ける。	
3	陶器 土瓶丸形	SK3		(10.5)	10.4	精土 赤褐色	焼締め、刻印による如意頭文あり。内面にロクロ目顕著。外面上位と外底に煤と焦げ。	19世紀前半
4	陶器 肥前系播鉢	〃	(19.2)	(3.1)		精土 黒褐色	外面鉄釉、内面は口縁部のみ施釉、以下無釉。	
5	陶器 椀	SK7	(11.3)	(5.3)		やや粗い白色の粘土 淡黄色	口縁部が僅かに外反。焼成不足全面に白濁色の釉が付着。	
6	土師質 杯	SD3		(2.7)	(9.0)	精土 浅黄橙色	内外面横ナデ調整、糸切り。	
7	〃	〃		(1.2)	(7.6)	精土 明黄褐色	〃	
8	白磁 小皿	〃	(9.3)	1.68	(6.0)	やや粗い 白色	口禿、見込みに太い沈線あり。	
9	青磁 碗	SD5				灰色精緻 黄緑色釉	鎚蓮弁文。	太宰府分類 I 5b類
10	東播系 捏鉢	〃		(1.9)		やや粗く砂粒を含む 灰色	内外面横ナデ調整。	
11	磁器染付 中碗丸形	SD6	(12.0)	(3.2)		呉須が暗灰色に発色	外面に丸文・圏線、口縁部内面二重の圏線。	肥前産 18世紀後半～幕末
12	灰釉 丸碗	SD7	(3.4)		(5.0)	淡黄色褐色精緻	黄褐色の釉、細かな貫入、高台施釉。	肥前産または肥前系、18世紀
13	白磁 碗	〃		(2.2)	(5.4)	灰白色精緻 灰色味を帯びた釉	見込みに沈線。	太宰府分類 V類
14	染付 広東形碗	〃		(3.9)	(6.0)	白色精緻	見込みに一条の圏線、高台脇と高台外面にも圏線。	肥前産または肥前系、18世紀末
15	白磁 紅皿	〃	(4.3)	(1.3)		白色精緻	菊花形、型押し成形。	肥前産 18世紀後半～幕末
16	染付 広東形碗蓋	〃	(10.2)	(3.3)		〃	外面は松、内面に圏線。	肥前産
17	陶器 鉄釉土瓶	〃		(2.7)	(9.0)	灰黄褐色精緻	内面全面施釉、外面下半露胎、露胎部に炭化物付着。	19世紀
18	染付 皿	〃	(13.5)	(2.1)		白色精緻	内面に緑色の呉須。	肥前産
19	染付中碗 広東形	〃		(5.3)		〃	外面に山水文、口縁部内面に二重の圏線、見込みに圏線。	
20	染付鉢 旬千形	〃		(6.5)		〃	外面芙蓉手、内面葦。高台外に二重圏線、蛇ノ目凹形高台。	肥前系、18世紀後半～幕末
21	備前 播鉢	〃	(29.9)	(3.8)		灰褐色	口縁部外面に二条の凹線、内面に櫛目。	
22	土 錘	〃				精土 橙色	全長4.3cm、径1.6cm、孔径0.7cm、重さ9.1g	
23	〃	〃				〃	全長4.6cm、径1.9cm、孔径0.6cm、重さ11.9g	
24	土師質 杯	SD9		(1.2)	(5.0)	精土 橙色	糸切り、内外器表の荒れがひどい。	
25	〃 小皿	〃	(7.5)	(1.5)	(5.2)	チャート他の粗粒砂を多く含む。	内外面横ナデ調整、糸切り。	
26	瓦器 椀	〃	(12.9)	(2.3)		精土 灰色	口縁部外面横方向のナデ調整、内面数条の暗文。	
27	土師質 杯	P3			(7.7)	赤色風化礫を多く含む	内外面横ナデ調整、糸切り。	
28	陶器 小皿丸形	P9				灰釉 口縁部内外面に鉄釉		肥前産 1590年代～1610年
29	瓦器 椀	P14				精土	退化した高台。	
30	陶器 皿	P21				粗い胎土 灰白色 内外灰釉		
31	陶器 中碗	P29		(2.6)	4.3	灰釉 内外白化粧土による内刷毛目	高台施釉。	肥前産 17世紀第4四半期～18世紀前半
32	瓦器 椀	P33	(10.9)	3.1		精土	口縁部内外面横方向ナデ調整。	
33	土師質 杯	P37	(11.8)	2.9	(7.1)	〃	内外横ナデ調整、糸切り。	
34	陶器 碗	P60		(2.0)			二次的に被熱赤変。	
35	瓦器 椀	P45	13.7	(3.0)		〃	口縁部外面横方向のナデ調整。	
36	〃	〃				〃	〃	
37	東播系 捏鉢	〃				〃	内外面横ナデ調整。	
38	陶器 小皿	P46				内面銅緑釉 外面灰釉		肥前産内野山窯17世紀後半～18世紀前半

表4 3-1区土器観察表2

遺物番号	機種	出土地点	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土・色調	特徴	備考
39	陶器鉢	P54				精土	口縁部は強く折り曲げる。	
40	磁器染付小皿	P4	13.0	3.0	4.8		内面編み目文。口縁部輪花形。高台に褐色の粗砂が付着。	肥前産17世紀前半
41	陶器中碗	P23		(2.8)	5.3	灰釉 内外白化粧土 刷毛目	高台施釉。	肥前産 17世紀第4四半期～18世紀前半
42	陶器中皿	P29	19.8	(4.6)		〃	外面下半は無釉。口縁部外面に別個体の口縁部片が溶着。	肥前産 17世紀第4四半期～18世紀前半
43	土師質杯	SK10		(1.2)	(5.6)	精土 にぶい黄橙色	糸切り。	
44	〃小皿	〃	(7.0)	(1.3)	(4.6)	〃	内外面横ナデ調整、糸切り。	器高指数18.7
45	〃杯	〃	(11.0)	(2.9)		〃	外面は横ナデ調整による沈線の条線が見られる。	
46	〃小杯	SK11	(7.0)	1.9	(4.0)	〃	内外面横ナデ調整、糸切り。	器高指数27.1
47	〃	SK41	(6.9)	2.1	(4.6)	〃	〃	器高指数30.4
48	〃	〃	(7.5)	1.3	(4.8)	〃	内外面横ナデ調整、糸切り後両方から摘んでいる。	
49	〃杯	〃	(12.4)	(2.7)		〃	内外面横ナデ調整、糸切り。	
50	瓦器小皿	SK10	(7.6)	1.3	3.2	精土 灰白色	口縁部内外面四個ナデ調整。	
51	〃碗	〃	(11.3)	(2.5)		〃	〃	
52	〃	SK11		(2.9)		精土 にぶい黄褐色	口縁部外面弱い横方向のナデ調整。	
53	瓦質羽釜	SK10		(4.7)		チャートを多く含む 灰色	口縁部内外横ナデ調整。口縁部と胴部の接合痕を観察できる。	
54	土師質土鉢	〃				精土 橙色	全長3.8cm、径1.4cm、孔径0.6cm、重さ5.2g	
55	〃杯	SK12			(4.3)	精土 にぶい黄橙色	内外面横ナデ調整、糸切り。	
56	〃	〃			(7.2)	〃	〃	
57	〃	〃			(7.7)	〃	〃	
58	〃小皿	〃	(7.6)	1.6	(5.2)	〃	〃	
59	〃杯	SK13	(12.1)	3.5	(7.2)	〃	内外面横ナデ調整、糸切り。円盤高台状の底部を有する。	
60	〃	SK35		3.0		〃	内外面横ナデ調整、糸切り。	
61	瓦器小皿	SK12	(7.4)	1.1	(5.4)	精土 にぶい黄橙色	口縁部内外面は横方向のナデ調整。	
62	〃碗	〃		(2.7)		精土 橙色	口縁部内外面は横方向のナデ調整。内面に暗文を認む。	
63	〃	SK13	(11.0)	(2.7)		精土 灰黄色	口縁部内外面は横方向のナデ調整。体部外面は指圧痕あり。	
64	東播系捏鉢	〃		(4.0)		精土 灰色	重ね焼の痕跡が明瞭、内面と口縁部外面から下に自然釉がかかっている。	
65	常滑甕	〃		(4.0)		にぶい褐色	細い格子目の押印。	
66	〃	〃		(2.4)		灰黄色	〃	
67	瓦質羽釜の脚	SK12		(8.6)		精土 灰白色	基部近くは長軸2cmの楕円形を呈する。	
68	土師質小杯	SK14	(6.8)	(1.5)	(4.3)	精土 にぶい黄橙色	内外面横ナデ調整、糸切り。	器高指数21.9
69	〃	〃	(6.5)	2.1	(4.0)	〃	〃	器高指数32.3
70	〃	〃	6.9	1.6	5.1	〃	〃	器高指数23.2
71	〃	〃	6.7	1.5	4.8	〃	〃	器高指数22.4
72	〃	〃	(7.3)	1.7	(4.2)	〃	〃	器高指数23.3
73	〃杯	〃		(2.5)	(6.8)	〃	内外面横ナデ調整、糸切り。外面に回転による沈線を認む。	
74	〃	〃	(10.0)	(2.8)		精土 灰色	内外面横ナデ調整、糸切り。	
75	〃	〃	(11.0)	(3.3)		精土 黄灰色	内外面横ナデ調整、外面に回転による沈線を認む。	
76	〃	〃		(2.1)	(7.6)	精土 にぶい黄橙色	内外面横ナデ調整、糸切り。外面に回転による沈線を認む。	

表5 3-1区土器観察表3

遺物番号	機種	出土地点	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土・色調	特徴	備考
77	土師質杯	SK14		(2.9)	(6.2)	精土 にぶい黄橙色	内外面横ナデ調整、糸切り。	
78	〃	〃		(2.4)	(8.0)	精土 浅黄橙色	内外面横ナデ調整、糸切り。外面に回転による沈線を認む。	
79	〃	〃	12.0	3.8	6.4	精土 にぶい黄橙色	内外面横ナデ調整、糸切り。外面に回転による沈線を3条認む。	器高指数31.7
80	〃小皿	SK15	(7.8)	1.7	(4.6)	〃	内外面横ナデ調整、糸切り。	器高指数21.8
81	〃	〃	(8.0)	(1.6)	(8.1)	精土 浅黄橙色	〃	器高指数20.0
82	〃小杯	〃	6.6	1.7	4.8	精土 にぶい橙色	〃	器高指数25.8
83	瓦質焼成小皿	〃	(7.8)	1.4	(5.4)	精土 灰白色	内外面横ナデ調整、糸切り。土師質小皿の作りで焼成は瓦器。	
84	土師質小皿	〃	(7.6)	1.8	(6.0)	精土 にぶい橙色	内外面横ナデ調整、糸切り。	器高指数23.7
85	〃	〃	(7.8)	1.4	(5.4)	精土 浅黄橙色	〃	器高指数17.9
86	土師質杯	〃		(1.7)	(7.0)	〃	〃	
87	土師質椀	〃			(6.0)	〃	内外面横ナデ調整。貼付高台。	
88	瓦器椀	〃		(2.8)		精土 灰白色	口縁部横方向ナデ調整、内面に暗文あり。	
89	〃	〃		(2.8)		〃	〃	
90	瓦器小皿	〃	(8.7)	1.3	(4.5)	〃	口縁部外面横方向のナデ調整、外底指頭圧痕。	
91	瓦器椀	〃	(9.5)	(1.8)		チャートの粗粒砂多し 灰白色	口縁部内外面横方向ナデ調整。	
92	〃	〃	(12.0)	(3.4)		〃	口縁部内外面横方向ナデ調整。胴部外面は指圧痕+ナデ調整。	
93	〃	〃		(2.2)		精土 灰白色	口縁部内外面横方向ナデ調整。	
94	土師質甕	〃				石英・長石、チャート粗粒砂を含む 褐色	口縁部内面に拡張、内外横ナデ調整。	紀伊型甕
95	〃	〃		(4.5)		〃	外面に三角形の小突帯を貼付、内外面ナデ調整。外面煤ける。	〃
96	東播系甕	〃		(5.2)		暗灰黄色	外面平行叩き。	
97	常滑甕	〃		(3.5)		にぶい褐色	籐状の押印、外面自然釉がかかる。	
98	土師質杯	SK16		(1.3)	(6.8)	精土 灰褐色	内外面横ナデ調整、糸切り。	
99	瓦器椀	〃		(2.1)		〃	内面に暗文。	
100	〃	〃		(2.5)		精土 灰白色	内面に暗文、外面は指頭圧痕顕著。	
101	土師質小杯	SK17	7.2	1.8	4.9	粗粒砂を含む にぶい橙色	内外面横ナデ調整、糸切り。	
102	〃	〃	(7.1)	1.6	4.2	〃	〃	
103	〃	〃	7.7	1.9	5.2	〃	〃	
104	〃	〃	(6.9)	(1.6)	4.3	精土 にぶい橙色	〃	器高指数23.2
105	〃	〃	(7.1)	1.8	(4.8)	〃	〃	器高指数25.7
106	〃	〃	6.5	1.3	4.6	チャートの粗流砂を含む	〃	器高指数20.8
107	〃	〃	(6.7)	1.6	5.0	精土 にぶい橙色	〃	器高指数23.9
108	〃	〃	6.4	1.3	4.4	〃	〃	器高指数20.3
109	〃	〃	6.8	1.6	5.0	〃	〃	器高指数24.3
110	〃	〃	7.1	1.7	4.9	〃	内外面横ナデ調整、糸切り。外底に平行圧痕あり。	器高指数23.9
111	土師質杯	〃		(1.5)	(5.6)	精土 浅黄橙色	内外面横ナデ調整、糸切り。	
112	〃	〃		(1.9)	(6.3)	精土 にぶい橙色	内外面横ナデ調整、外面に横ナデ調整の際に生じた条線が巡る。糸切り。	
113	〃	〃	11.4	3.7	7.2	赤色風化礫を含む	外面ハケ状原体を用いた横ナデ調整、糸切り。下胴部に横ナデ調整の際に付いたと考えられる太い条線あり。	器高指数32.5
114	〃	〃	(11.7)	(3.4)	(6.9)	精土 にぶい橙色	外面ハケ状原体を用いた横ナデ調整、糸切り。外面に横ナデの際に付いたと考えられる太い条線あり。内外煤ける。	器高指数29.0

表6 3-1区土器観察表4

遺物番号	機種	出土地点	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土・色調	特徴	備考
115	土師質杯	SK17		(20)	(7.0)	精土 灰黄色	内外面横ナデ調整、糸切り。	
116	〃	〃	(11.7)	3.3	(7.4)	精土 橙色	〃	器高指数28.7
117	〃	〃	12.2	4.1	6.8	精土 にぶい黄橙色	内外面ハケ状原体による横ナデ調整、糸切り。外底にハケ状原体によると考えられる圧痕がある。	器高指数32.8
118	〃	〃	(11.4)	3.3	(6.9)	精土 灰黄褐色	内外面ハケ状原体による横ナデ調整、糸切り。内面煤ける。	器高指数28.9
119	〃	〃	(11.6)	4.0	(7.6)	精土 にぶい黄橙色	内外面ハケ状原体による横ナデ調整、糸切り。	器高指数34.5
120	瓦質火鉢	〃		(3.6)		精土	口縁部は内外に肥厚、内外面横ナデ調整。	
121	土師質杯	SK18		(3.5)	(8.7)	精土にぶい橙色	ナデ調整、糸切り。	
122	土師質小杯	SK19	(6.8)	1.78	(4.6)	〃	内外面横ナデ調整、糸切り。外底にハケ状原体の圧痕。	器高指数26.2
123	瓦器碗	〃			(3.6)	精土 灰色	内面暗文、断面三角形の高台。	
124	東播系羽釜	〃		(6.8)		精土 にぶい橙色	口縁部倍面、鑄上下は横方向ナデ調整、体部外面平行叩き、内面は横ハケ調整。	
125	〃	〃		(5.1)		精土 橙色	口縁部内外面横方向ハケ調整、胴外面平行叩き、内面は横ハケ調整+横ナデ調整。胴部外面煤ける。	
126	土師質杯	SK20	(14.7)	(2.6)		精土 浅黄橙色	内外面横ナデ調整。	
127	〃	〃		(2.1)	(8.9)	〃	内外面横ナデ調整、糸切り。	
128	瓦器碗	〃			(4.1)	精土 灰色	断面三角形の細い高台。	
129	土錘	〃				精土 にぶい橙色	全長3.1cm、径1.1cm、孔径1.1cm、重さ3.0g	
130	土師質小杯	SK21	(6.9)	(1.7)	(4.4)	〃	内外面横ナデ調整、糸切り。	器高指数246
131	〃	〃	(7.8)	2.1	(5.9)	精土 浅黄橙色	〃	
132	土師質杯	〃			(6.8)	〃	〃	
133	白磁皿	〃		(0.9)	(6.7)	白色精緻	底中央部が厚い作りである。全面施釉。	
134	土師質杯	〃		(1.6)	(8.2)	精土 にぶい橙色	内外面横ナデ調整、糸切り。	
135	瓦器碗	〃	(11.9)	(2.9)		チャートの粗粒砂を含む	口縁部外面強い横方向のナデ調整。	
136	〃	SK23		(2.8)		精土 灰色	〃	
137	土師質杯	SK22		(13.5)		精土 にぶい橙色	内外面横ナデ調整。	
138	紀伊型甕	〃				チャートの粗粒砂多し にぶい橙色	〃	
139	平瓦	SK21	全長9.6	全幅6.1	全厚3.6	精土 灰白色	凹面にモコツ痕が見られる。摩耗が激しい。	重量236.2g
140	土師質杯	SK24	(14.0)	(2.1)		精土 浅黄橙色	口縁部内外面横方向ナデ調整。	
141	〃	〃		(13.9)		精土 にぶい橙色	内外面ハケ状原体による横ナデ調整。	
142	〃	〃	(11.5)	(2.2)		〃	内外面横ナデ調整。	
143	〃	〃	(10.4)	(1.9)		〃	〃	
144	〃	〃	(13.4)	(2.2)		〃	内外面ハケ状原体による横ナデ調整。内面煤ける。	
145	〃	〃	(12.4)	(2.5)		チャート他の粗粒砂を多く含む	内外面横ナデ調整。	
146	〃	〃	(11.0)	(2.7)		チャートの粗粒を含む 浅黄色	内外面ハケ状原体による横方向ナデ調整。	
147	土師質小杯	〃	(6.0)	1.7	(4.2)	精土 橙色	内外面横ナデ調整、糸切り。	
148	〃	〃	(7.6)	(1.7)	(5.6)	精土 にぶい橙色	〃	
149	土師質杯	〃		(2.3)	(7.2)	精土 橙色	内外面ハケ状原体による横方向ナデ調整。内面はナデ消している。糸切り。	
150	〃	〃		(1.8)	(6.7)	〃	内外面横ナデ調整、外面はハケ状原体による。糸切り+ナデ調整。	
151	〃	〃		(2.3)	(6.7)	〃	内外面横ナデ調整、糸切り。	
152	〃	〃		(1.6)	(6.1)	〃	内外面ハケ状原体による横方向ナデ調整。糸切り。	

表7 3-1区土器観察表5

遺物番号	機種	出土地点	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土・色調	特徴	備考
153	土師質杯	SK24		(1.8)	(7.0)	精土 橙色	内外面横ナデ調整、糸切り。	
154	〃	〃		(1.7)	(6.3)	〃	〃	
155	〃	〃		(2.2)	(7.7)	精土 にぶい橙色	内外面横ナデ調整、外面条線、糸切り。	
156	瓦器小皿	〃		(7.1)	(1.1)	精土 灰色	口縁部内外面は横方向のナデ調整。	
157	東播系捏鉢	〃		(3.5)		精土 灰白色	口縁部外面に弱い凹線が二条巡る、内外面横ナデ調整。	
158	土師質杯	SK25	(13.7)	(3.4)	(7.2)	精土 浅黄橙色	内外面ハケ状原体による横ナデ調整、糸切り。	
159	〃	〃	(13.2)	(1.9)		風化した小礫を含む浅黄橙色	口縁部内外面は横方向のナデ調整。	
160	〃	〃	(8.0)	(2.5)		精土 にぶい橙色	内外面横ナデ調整、外面には横ナデの際に生じた条線が顕著。糸切り。	
161	〃	〃		(1.7)	(7.6)	精土 灰色	糸切り。	
162	〃	〃		(2.7)	(6.4)	精土 灰褐色	内外面横ナデ調整、糸切り。	
163	〃	〃		(1.1)	(7.0)	精土 浅黄橙色	〃	
164	〃	〃		(1.1)	(7.0)	〃	〃	
165	瓦器碗	〃		(1.0)	(3.0)	精土 灰色	内面に暗文、指頭圧痕あり。	
166	瓦質羽釜	〃	(21.8)	(4.8)		〃	口縁部は内湾しながら立ち上がり端部は短く折り曲げ、幅2cmのしっかりした鈔、胴部外面削り、内面横ハケ調整。	
167	東播系捏鉢	〃		(2.2)		精土	内外面横ナデ調整。	
168	土鍾	〃				精土 淡黄色	全長(2.5) cm、径0.9cm、孔径0.3cm、重さ1.6g	
169	土師質小皿	SK27	(6.8)	(1.3)	(4.7)	精土 にぶい橙色	内外面横ナデ調整、糸切り。	
170	東播系捏鉢	〃		(2.1)		精土 にぶい橙色	内外面横ナデ調整。	
171	土師質杯	〃	(11.8)	(3.7)	(8.1)	〃	内外面横ナデ調整、糸切り。外底に平行圧痕。	
172	常滑甕	SK31					内面横ナデ調整、粘土帯接合部にハケ、外面に自然釉。	
173	瓦質羽釜	SK32		(3.9)			長石粒を多く含む	内外面横ナデ調整、1.5cm幅のしっかりした鈔。
174	土師質小皿	〃	(8.2)	(1.4)	(6.0)	精土 にぶい橙色	内外面横ナデ調整、糸切り。	
175	〃	SK33	(7.2)	(1.3)	(5.6)	〃	〃	
176	土師質杯	〃	(12.0)	(2.8)		〃	〃	
177	〃	〃	(11.1)	3.5	(7.4)	〃	〃	
178	〃	SK34	(11.8)	3.8	(7.4)	〃	〃	
179	〃	〃	(11.0)	3.5	(6.9)	〃	〃	
180	〃	〃	(11.1)	(2.1)		〃	〃	
181	〃	〃	(1.0)	(2.9)		〃	〃	
182	〃	〃	(11.7)	4.0	7.7	〃	〃	器高指数29.9
183	〃	〃		(1.5)	(6.9)	〃	〃	
184	〃	SK38	(12.3)	(3.6)	(8.8)	〃	口縁部内面に段、内外面横ナデ調整、外面には横ナデの際に生じた条線が見られる。	器高指数29.3
185	土師質小杯	〃	(6.5)	(1.4)	(4.2)	〃	内外面横ナデ調整、糸切り。外面に沈線が巡る。	器高指数22.3
186	土師質杯	SK42			(5.0)	〃	内外面横ナデ調整、糸切り。外底に平行圧痕。	
187	土師質小杯	SK43	(8.0)	1.6	(5.7)	〃	内外面横ナデ調整、糸切り。	器高指数20.0
188	瀬戸おろし皿	〃	(12.2)	(2.4)		精緻 黄白色	口縁部は凹状を呈し、口縁部に薄い緑色の釉がかかる。それ以外は露胎。内面に僅かにおろし目が見られる。	
189	土師質杯	〃		(2.2)	(7.1)	精土 橙色	内外面横ナデ調整、糸切り。	
190	〃	〃		(1.8)	(8.8)	精土 にぶい橙色	〃	

表8 3-1区土器観察表6

遺物番号	機種	出土地点	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土・色調	特徴	備考
191	土師質杯	SK43	(9.5)	(2.2)		精土 におい橙色	〃	
192	瓦器碗	〃	(13.0)	(2.4)		精土 チャートの小礫を含む 灰黄色	口縁部外面強い横方向のナデ調整、胴部外面に指圧痕あり。	
193	〃	〃	(12.8)	(3.2)		精土 浅黄色	〃	
194	瓦質播鉢	〃		(2.6)		精土 灰色	内外面横ナデ調整。	
195	東播系捏鉢	〃		(6.0)		〃	〃	
196	土錘	〃				精土 におい橙色	全長(3.5) cm、径1.3cm、孔径0.4cm、重さ4.4g	
197	瓦器小皿	SK45	8.6	1.6	2.5	精土 灰色	内面ナデ調整、外面指頭圧痕。	器高指数17.4
198	土師質杯	SK48	(2.2)	(6.8)		精土 におい橙色	内外面横ナデ調整、糸切り。	
199	〃	SK46			(7.5)	精土 浅黄橙色	〃	
200	土師質小杯	〃	(7.4)	1.6	(5.4)	精土 におい橙色	〃	器高指数21.6
201	土師器羽釜	SK47	(17.8)	(3.3)		石英粒を多く含む におい橙色	内外面横ナデ調整。	
202	石器砥石	SK46	全長10.1	全幅3.3	全厚3.4	泥岩	仕様面1、無数の条線走る。。	重量117.6g
203	土師質小杯	SD20上層	7.0	1.6	4.4	砂粒多し 橙色	内外面横ナデ調整、糸切り。	器高指数21.4
204	〃	〃	(7.4)	1.6	(5.4)	精土 におい橙色	〃	
205	〃	〃	(6.8)	1.4	(4.9)	〃	〃	
206	〃	〃	(7.7)	1.9	(5.1)	〃	〃	器高指数25.3
207	〃	〃	(6.8)	1.5	(5.0)	〃	〃	器高指数23.2
208	〃	〃	(6.8)	1.7	(5.0)	〃	〃	
209	〃	〃	(7.0)	1.6	(5.0)	精土 浅黄橙色	〃	器高指数22.9
210	〃	〃	(6.9)	(1.5)	(5.0)	精土 におい橙色	〃	
211	〃	〃	(7.5)	(1.7)	(5.6)	精土 浅黄橙色	〃	
212	〃	〃	(6.5)	1.5	(4.6)	精土 におい橙色	内外面横ナデ調整、糸切り。糸掛け痕跡が大きく残る。	
213	〃	〃	(7.5)	1.7	(5.7)	〃	内外面横ナデ調整、糸切り。	
214	〃	〃	6.7	1.8	4.7	精土 橙色	〃	器高指数26.9
215	〃	〃	7.8	1.7	5.0	精土 浅黄橙色	〃	器高指数21.8
216	〃	〃	(7.8)	(1.9)	(5.6)	精土 におい橙色	〃	器高指数25.0
217	〃	〃	(7.5)	1.5	(4.8)	〃	〃	
218	〃	〃	(7.3)	1.9	(4.6)	精土 橙色	〃	
219	〃	〃	7.8	1.8	5.5	精土 浅黄橙色	〃	器高指数23.1
220	土師質小皿	〃	6.8	1.6	5.2	〃	〃	器高指数23.5
221	〃	〃	7.2	1.4	5.4	精土 におい橙色	〃	器高指数19.4
222	〃	〃	(8.3)	(1.5)	(5.7)	〃	〃	器高指数18.7
223	土師質杯	〃	(12.4)	3.7	(7.4)	チャートの小礫、赤色風化礫粗細粒砂を含む	〃	器高指数30.2
224	〃	〃	11.9	3.8	8.1	〃	内外面横ナデ調整、糸切り、底部に平行圧痕。	器高指数31.9
225	〃	〃	(11.8)	3.2	(7.2)	精土 におい橙色	〃	器高指数27.5
226	〃	〃	12.3	3.6	7.2	〃	内外面横ナデ調整、糸切り。	器高指数29.3
227	〃	〃	(11.7)	4.0	(7.5)	〃	内外面横ナデ調整、糸切り、底部に平行圧痕。	器高指数34.2

表9 3-1区土器観察表7

遺物 番号	機種	出土地点	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土・色調	特徴	備考
228	土師質 杯	SD20 上層	(12.6)	3.6	(7.8)	精土 橙色	内外面横ナデ調整、糸切り。	
229	〃	〃	(11.4)	3.9	(7.6)	細粒砂を含む 浅黄 橙色	内外面横ナデ調整、糸切り、底部に平行圧痕。	器高指数34.2
230	〃	〃	(12.3)	3.2	(7.7)	精土 にぶい橙色	内外面横ナデ調整、糸切り。	器高指数26.4
231	〃	〃	(11.8)	3.8	(7.4)	砂粒多し 浅黄橙	内外面横ナデ調整、糸切り、底部に平行圧痕。	
232	〃	〃	(12.3)	3.5	(7.4)	〃	内外面横ナデ調整、糸切り。	器高指数28.8
233	〃	〃	(12.8)	3.4	(7.8)	細粒砂を含む にぶ い橙色	〃	
234	〃	〃	(11.6)	3.2	(8.0)	精土 にぶい橙色	〃	
235	〃	〃	(9.5)	(2.8)	(4.6)	精土 浅黄橙色	〃	
236	〃	〃	(9.7)	3.5	(5.9)	精土 にぶい橙色	〃	
237	〃	〃	(10.4)	3.2	(6.4)	〃	〃	
238	〃	〃	(11.4)	3.5	(7.0)	〃	〃	
239	〃	〃	12.2	4.0	7.3	〃	内外面横ナデ調整、糸切り、底部に平行圧痕。	器高指数32.8
240	〃	〃	(12.2)	3.6	(7.4)	〃	内外面横ナデ調整、糸切り。	器高指数29.5
241	〃	〃	(11.7)	3.9	(7.6)	〃	〃	器高指数33.3
242	〃	〃	(12.1)	3.3	6.8	風化礫、他の砂粒多 し浅黄橙色	〃	器高指数27.3
243	〃	〃	(12.0)	3.3	(7.8)	精土 橙色	〃	
244	〃	〃	12.4	3.8	7.5	精土 にぶい橙色	〃	器高指数30.6
245	〃	〃	11.6	3.8	7.2	精土 浅黄橙色	内外面横ナデ調整、糸切り、底部に平行圧痕。	器高指数32.8
246	〃	〃	(12.5)	3.2	(7.4)	チャート、風化レキ の細粒を含む	外面ハケ状原体を用いた横ナデ調整、糸切り、平行圧痕あり。	
247	〃	〃	(13.6)	3.4	(6.4)	赤色風化礫を含む 橙色	内外面横ナデ調整、糸切り。	器高指数25.0
248	〃	〃	(11.5)	3.3	(7.1)	精土 にぶい黄橙色	〃	器高指数28.7
249	〃	〃	(12.7)	3.4	(7.8)	精土 にぶい橙色	内外面横ナデ調整、糸切り、内底強いナデ調整。	器高指数26.8
250	〃	〃	(11.4)	3.8	(9.0)	〃	内外面横ナデ調整、糸切り、内底はナデにより凹凸が見られる。	器高指数33.3
251	〃	〃	(11.3)	3.8	7.0	細粒砂を多く含む 浅黄橙色	内外面横ナデ調整、糸切り。	器高指数33.6
252	〃	〃	(12.5)	3.4	(7.5)	精土 にぶい橙色	外面ハケ状原体を用いた横ナデ調整、糸切り、平行圧痕あり。	器高指数27.2
253	〃	〃	(11.1)	3.2	(6.4)	〃	内外面横ナデ調整、糸切り。	
254	〃	〃	(11.2)	3.4	7.6	〃	外面ハケ状原体を用いた横ナデ調整、糸切り、平行圧痕あり、内 底に強いナデ調整。	器高指数30.4
255	〃	〃	(11.0)	3.8	(6.2)	〃	内外面横ナデ調整、糸切り。	
256	〃	〃	(10.6)	3.4	(5.7)	〃	〃	
257	〃	〃	(10.6)	3.8	(7.0)	〃	内外面横ナデ調整、糸切り。円盤状高台を有する。	器高指数35.8
258	〃	〃	(10.5)	3.6	(7.0)	粗粒砂を多く含む にぶい橙	内外面横ナデ調整、糸切り。	
259	〃	〃	(12.0)	3.4	7.2	精土 にぶい橙色	〃	器高指数28.3
260	〃	〃	(12.4)	3.3	(8.4)	精土 浅黄橙色	〃	器高指数26.6
261	〃	〃	12.2	3.4	7.3	〃	〃	器高指数27.9
262	〃	〃	(11.0)	3.8	(6.4)	精土 にぶい橙色	〃	器高指数35.0
263	〃	〃	(11.7)	3.3	(7.0)	〃	内外面強い横ナデ調整、糸切り、平行圧痕あり。	器高指数28.6
264	〃	〃	(11.9)	4.0	7.8	〃	内外面横ナデ調整、糸切り、内底強いナデ調整。	器高指数33.6
265	〃	〃	(11.2)	3.5	6.7	〃	内外面横ナデ調整、糸切り。	器高指数31.3

表10 3-1区土器観察表8

遺物番号	機種	出土地点	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土・色調	特徴	備考
266	土師質杯	SD20上層	(12.6)	3.4	(6.8)	粗粒砂を含む ぶい橙	内外面横ナデ調整、糸切り。	器高指数27.0
267	〃	〃	(13.5)	3.4	(8.0)	精土 浅黄橙色	〃	器高指数24.6
268	〃	〃	(13.6)	3.9	(9.0)	〃	〃	
269	〃	〃	(13.7)	2.5	(8.8)	精土 ぶい橙色	〃	
270	瓦器小皿	〃	(8.3)	1.3	4.6	精土 灰色	口縁部外面横方向の強いナデ調整。	
271	〃	〃	(8.0)	(1.5)	4.0	〃	口縁部外面横方向ナデ調整。	
272	〃	〃	(8.4)	(1.2)		〃	〃	
273	土師質杯	〃			4.2	〃	瓦質焼成、糸切り、土師器杯の作りで焼成は瓦器。	
274	瓦器碗	〃	(12.7)	(2.1)		精土 ぶい黄色	口縁部外面横方向の強いナデ調整。	
275	〃	〃	(13.6)	(2.8)		チャート他の細粒砂にぶい黄色	口縁部外面横方向ナデ調整。体部外面指頭圧痕。	
276	〃	〃	(10.6)	(2.1)		チャート他の粗粒砂灰色	内外ナデ調整、口縁部外面の強い横方向ナデ調整なし。	
277	〃	〃		(1.2)	(5.0)	精土 ぶい黄橙	扁平な三角高台を貼付する。土師質の焼成。	
278	青磁碗	〃		(4.6)		灰白色精緻	口縁部外面は段上に削り出し、内面は櫛による直線文、体部内面にも文様を彫る。	
279	青磁皿	〃		(1.1)	(5.2)	〃	見込みに櫛目、外底は釉掻き露胎。	I 2類
280	青磁碗	〃		(2.1)	(6.0)	灰色精緻	見込み縁部が段上に削られる。	
281	〃	〃		(2.6)		〃	鑄蓮弁文。	I 5b類
282	〃	〃		(1.4)		〃	〃	〃
283	〃	〃		(3.1)		〃	外面片切り彫りによる蓮弁文。	I 5a類
284	〃	〃		(2.5)		極めて精緻 褐色	口縁部内面に僅かに沈線を認む。	
285	白磁皿	〃	(9.3)	2.0	(5.9)	精土 灰色	外底以外に白濁の釉がかかる。	
286	瓦質羽釜	〃		(4.4)		〃	口唇部面取り、断面三角の鑄。	
287	東播系捏鉢	〃				精土	口縁部外面は凹状を呈する。片口部。	
288	紀伊型甕	〃	(26.0)	(3.2)		細粒砂を多く含む 赤褐色	口縁部内外面強い横ナデ調整、端部は断面三角形。	
289	東播系捏鉢	〃	(25.8)	(3.9)		精土 灰白色	内外面横ナデ調整。	
290	常滑甕	〃	(32.2)	(7.0)		ぶい赤褐色	口縁部は上下に拡張、内外面丁寧な横方向のナデ調整。	
291	東播系甕	〃		(11.3)		精土	頸胴部外面は平行叩き、胴部内面は部分的にハケ調整を認む。	産地不明
292	常滑甕	〃	(48.0)	(10.2)		小礫を含む 灰色	口縁部は上下に拡張、内外面ハケ状原体で丁寧な横方向ナデ調整を施す。	
293	須恵質甕	〃	(48.5)	(7.6)		細粗粒砂を含む 灰色	口縁部は外方に肥厚、内外面四個ナデ調整。	産地不明
294	常滑甕	〃				小礫を含む 黄灰色	内外面ハケ状原体によると思われる横方向ナデ調整。	
295	〃	〃		(9.1)		精土 ぶい褐色	内外面ハケ状原体による横方向ナデ調整。外面に自然釉。	
296	〃	〃				精土	内外面ハケ状原体による横方向ナデ調整。	
297	〃	〃				細粗粒砂を含む 灰色	口縁部が接合部から剥離、接合面にはハケ調整痕が見られる。内外面横方向のナデ調整。	
298	〃	〃		(14.3)		細粗粒砂を含む 灰褐色	口縁部上下に拡張、内外面横ナデ調整、外面自然釉。	
299	〃	〃				〃	外面横方向ナデ調整、内面は凹凸が顕著。	
300	土錘	〃				精土 ぶい橙色	全長5.1cm、径0.9cm、孔径0.4cm、重さ2.9g	
301	〃	〃				〃	全長6.1cm、径1.0cm、孔径0.4cm、重さ4.0g	
302	〃	〃				〃	全長4.0cm、径1.0cm、孔径0.4cm、重さ2.5g	
303	〃	〃				〃	全長4.0cm、径1.0cm、孔径0.4cm、重さ3.1g	

表11 3-1区土器観察表9

遺物番号	機種	出土地点	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土・色調	特徴	備考
304	土師質小杯	SD20中・下層	(7.2)	(1.8)	(5.0)	精土 灰黄褐色	内外面横ナデ調整、外面はハケ状原体による。糸切り。	
305	〃	〃	(7.0)	1.7	(4.3)	細粒砂を多く含む 灰黄褐色	内外面横ナデ調整、糸切り。	
306	〃	〃	(7.2)	1.6	(5.4)	精土 にぶい橙色	内外面横ナデ調整、糸切り。外底に平行圧痕。	
307	土師質杯	〃			(6.8)	〃	内外面横ナデ調整、糸切り。	
308	〃	〃			(7.4)	精土 灰黄色	〃	
309	〃	〃	(2.7)	(6.7)		細粗粒砂を含む 灰黄色	〃	
310	〃	〃	(1.2)	(6.8)		精土 にぶい橙色	〃	
311	〃	〃	(1.3)	(7.1)		〃	〃	
312	〃	〃	(2.5)	(6.7)		〃	〃	
313	〃	〃	(1.9)	(7.8)		〃	〃	
314	〃	〃	(2.4)	7.2		精土 浅黄褐色	内外面横ナデ調整、糸切り。外底に平行圧痕。	
315	〃	〃	(2.2)	(7.0)		細粒砂を含む にぶい黄褐色	内外面横ナデ調整、糸切り。	
316	〃	〃	(1.6)	(6.4)		精土 浅黄褐色	〃	
317	〃	〃	(1.7)	(6.7)		〃	〃	
318	〃	〃	11.4	3.5	7.4	精土 にぶい橙色	内外面横ナデ調整、糸切り。外底に平行圧痕。	器高指数30.7
319	〃	〃	(11.7)	3.4	(6.8)	精土 にぶい黄色	体部外面および内底はハケ状原体による横方向ナデ調整+指ナデ調整。糸切り。	
320	〃	〃	(11.5)	3.3	(7.2)	〃	内外面横ナデ調整、糸切り。	
321	〃	〃	(11.4)	3.9	(7.4)	〃	〃	器高指数34.2
322	〃	〃	(9.7)	3.9	(6.0)	〃	〃	
323	〃	〃	(11.9)	3.5	(7.6)	細粒砂を含む 浅黄褐色	〃	
324	〃	〃	(11.3)	3.3	(7.6)	精土 にぶい黄色	〃	
325	〃	〃	(8.6)	3.8	(5.1)	〃	〃	
326	〃	〃	(3.0)	5.6		細粒砂を含む 浅黄褐色	厚さ3cmの底部に径1cm前後の円孔を焼成前に穿つ。内外面横ナデ調整。	
327	白磁碗	〃	(3.8)			白色精緻	口縁部を水平に折り曲げる。内面口縁部下に極細圏線あり。器壁が薄い。	
328	東播系捏鉢	〃				精土 灰色	口縁部は断面三角形で上に拡張。内外面横ナデ調整。	
329	〃	〃	(3.4)			〃	内外面四個ナデ調整、口縁部外面は重ね焼により黒く発色。	
330	瓦質羽釜	〃	(3.8)			チャート、頁岩の粗粒砂を含む	断面三角形の鏝。口縁部内外面、鏝の上下は横方向ナデ調整。	
331	常滑甕	〃				精土 灰色	外面に横長格子の押印あり、内面には粘土紐の単位が明瞭。	
332	〃	〃				小礫を含む 黄灰色	内外面ハケ状原体による横方向のナデ調整。	
333	土錘	〃				精土 にぶい黄色	全長5.5cm、径1.3cm、孔径0.5cm、重さ8.1g	
334	石器砥石	〃	全長6.3	全幅7.0	全厚4.8	流文岩		重量313.3g
335	土師質小杯	SD20集中出土	7.2	1.8	4.7	〃	内外面横ナデ調整、糸切り。	
336	土師質杯	〃	12.0	3.9	7.4	チャート、石英など細粗粒砂を多く含む にぶい橙	〃	器高指数32.5
337	〃	〃	(12.2)	3.5	(7.6)	精土 にぶい黄色	内外面横ナデ調整、糸切り。底部平行圧痕。	器高指数28.7
338	〃	〃	12.0	3.8	8.0	細粒砂を含む にぶい橙色	内外面横ナデ調整、糸切り。	器高指数31.7
339	〃	〃	11.9	3.5	7.6	赤色風化礫を含む 薄黄褐色	〃	器高指数29.4
340	〃	〃	(12.3)	3.4	(8.0)	精土 にぶい黄色	〃	器高指数27.4
341	〃	〃	11.8	4.2	7.7	〃	内外面強横ナデ調整、糸切り。内面一部が煤ける。	器高指数36.0

表12 3-1区土器観察表10

遺物番号	機種	出土地点	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土・色調	特徴	備考
342	土師質 杯	SD20 集中出土	(10.6)	3.7	(5.8)	精土 浅黄橙色	内外面横ナデ調整、糸切り。	器高指数34.9
343	〃	〃	11.6	4.0	7.3	精土 におい黄色	〃	器高指数34.5
344	〃	〃	(11.8)	3.6	(7.0)	精土 浅黄橙色	〃	器高指数30.5
345	〃	〃	11.6	3.8	7.8	〃	〃	器高指数32.8
346	土師質 足高台杯	〃		(2.9)	6.1	〃	足高高台杯、横ナデ調整、糸切り、外底平行圧痕。底部に貫通孔が斜めにあけられている。内底側1.3cm、外底側0.8cm。	
347	東播系 捏鉢	〃	(33.4)	(6.9)		精土 灰白色	内外面横ナデ調整、口縁～外部内面に自然釉が厚くかかる。	
348	常滑 甕	〃	(51.8)	(10.7)		精土 灰褐色	口縁部を上下に大きく拡張、内外丁寧な横ナデ調整、外面は胡麻ふり状の自然釉がかかる。	
349	瓦器 碗	SD21			(3.6)	精土 におい黄橙色	内面に暗文あり。	
350	須恵器 碗	SD22	(16.0)	(3.2)		精土 浅黄色	内外面強い横ナデ調整。	
351	瓦器 碗	〃	(14.9)	(2.4)		チャートの細粒砂を多く含む 灰黄色	口縁部外面強い横方向のナデ調整。体部指頭圧痕顕著。	
352	土師質 足高台杯	〃	(7.4)	3.0	(4.4)	精土 におい橙色	内外面横ナデ調整、糸切り。厚さ1cmの高台。陶器のような焼成。	
353	土錘	〃				精土 赤褐色	全長4.7cm、径1.1cm、孔径0.4cm、重さ4.5g	
354	瓦器 小皿	SD23	10.1	1.2		精土 灰色	内外面横ナデ調整。	
355	土師質 小杯	〃	(8.0)	1.4	(5.9)	精土 におい橙色	内外面横ナデ調整、糸切り。	器高指数17.5
356	土師質 小杯	〃	(7.0)	(1.9)		〃	内外面横ナデ調整。	
357	土師質 杯	〃			(5.0)	〃	内外面横ナデ調整、糸切り。	
358	〃	〃			(4.2)	〃	〃	
359	〃	〃			(8.6)	〃	〃	
360	〃	〃	(11.0)			〃	〃	
361	〃	〃			(5.9)	〃	〃	
362	〃	〃			(7.2)	精土 灰黄色	〃	
363	〃	〃			(4.4)	赤色風化礫を含む 薄黄橙色	〃	
364	〃	〃	(12.7)	3.1	(7.8)	精土 におい橙色	〃	
365	〃	〃	11.6	3.6	6.6	精土 浅黄橙色	内外面横ナデ調整、糸切り。横ナデの原体が条線状に残る。	器高指数26.7
366	〃	〃	10.7	3.3	6.6	精土 におい橙色	内外面横ナデ調整。	
367	〃	〃	(12.7)	(2.2)		〃	〃	
368	〃	〃	(14.0)	(3.4)		〃	〃	
369	瓦器 碗	〃	(12.2)			精土 灰色	口縁部外面横方向ナデ調整。	
370	〃	〃	(12.2)	(2.4)		〃	口縁部外面横方向の強いナデ調整。	
371	〃	〃	(12.6)			〃	ナデ調整。	
372	〃	〃	(12.5)	3.0	2.3	チャート他の細粗粒砂を多く含む 灰色	口縁部外面の横方向ナデ調整がほとんど見られない。内面暗文あり。	
373	〃	〃	(12.9)	(3.6)		精土 灰色	口縁部外面は二段の横方向ナデ調整、内面細い暗文。	
374	〃	〃	(15.7)			〃	口縁部外面横方向ナデ調整。	
375	瓦器 小皿	〃	7.5	1.3	5.4	〃	口縁部内外面横方向のナデ調整、底部は凹凸が激しい。	
376	瓦器 碗	〃	11.0			〃	内面に幅広い暗文。	
377	〃	〃			5.3	精土 浅黄色	内面細い暗文を僅かに認める。	
378	〃	〃			4.8	精土 灰色	内面に暗文。	
379	青磁 碗	〃				灰色精緻	鎚蓮弁。	太宰府 I 5b

表13 3-1区土器観察表11

遺物番号	機種	出土地点	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土・色調	特徴	備考
380	青磁碗	SD23	(16.5)	6.7	5.1	灰色精緻	口縁部僅かに肥厚、高台は鋭く削り出し、畳付け露胎。	太宰府 I 5b
381	〃	〃				灰白色精緻	釉が厚い。	
382	白磁碗	〃				白色精緻	口縁部稜花風。	
383	灰釉陶器皿	〃	(13.0)			灰色精緻	口縁部内面に段、緑灰色の釉が内面と外面上半にかかる。	産地不明
384	白磁四耳壺	〃	(9.7)	(1.2)		灰白色精緻	口縁部強く下方に折り曲げる。	
385	東播系羽釜	〃				精土 にぶい橙色	内外面横ナデ調整。	
386	土錘	〃				〃	全長3.6cm、径1.1cm、孔径0.4cm、重さ4.0g	
387	瓦器碗	SD24	(10.0)	(2.1)		精土 灰色褐色	口縁部外面横方向ナデ調整。焼成は土師質。	
388	東播系捏鉢	〃	(19.3)			精土 灰色	口縁部内外面横ナデ調整、重ね焼の痕跡あり。	
389	青磁碗	SD25				灰色精緻	見込み片切り彫りによる花文。	
390	瓦器碗	〃	(13.4)	(2.3)		チャートの粗粒砂を含む オリーブ黒	口縁部外面強い横方向のナデ調整。	
391	肥前系染付皿	〃				白色精緻	口縁部外反。	
392	備前播鉢	〃	29.3			灰褐色	内外面横方向ナデ調整。	
393	瓦質羽釜	P86	(17.4)	(2.9)		精土 灰白色	口縁部内外面横ナデ調整、鈔上下横ナデ調整。	
394	土師質鍋	P70				粗粒砂を含む	外底格子目叩き。	
395	瓦器碗	P82				精土 にぶい黄橙色	口縁部外面横方向のナデ調整。	
396	東播系捏鉢	P76				精土 灰白色	内外面横ナデ調整。	
397	東播系羽釜	P89		(6.6)		粗粒砂を含む 橙色	鈔剥落、内外面横方向ナデ調整。	
398	瓦器碗	P80	(12.1)	(2.5)		精土 灰白色	口縁部外面横方向ナデ調整。内面に暗文。	
399	〃	〃	(11.0)	(2.9)		〃	口縁部外面、二段の横方向ナデ調整。	
400	瓦器小皿	P84	7.6	1.5		〃	外面強い横方向ナデ調整。	
401	瓦器碗	P90				小礫、細粗粒砂を含む にぶい黄橙色	焼成は土師質、内面に暗文。	
402	土師質杯	P91			7.7	精土 浅黄橙色	内外横ナデ調整、切り離し法不明。	
403	瓦器小皿	P93	7.4	1.6	5.0	精土 灰白色	口縁部外面横方向のナデ調整。	
404	〃	P95	7.6	1.7	5.0	〃	〃	
405	東播系甕	P96				精土 灰褐色	外面平行叩き、内面ナデ調整。	
406	常滑甕	〃				灰白色	外面格子の押印あり、内面は荒いナデ調整。	
407	須恵器杯身	P95		(3.2)		精土 灰色	内外面横ナデ調整、外面に自然釉。	
408	土師質碗	P102		(2.4)		精土 にぶい黄橙色	内面へラミガキ、外面横方向。断面三角の高台。	
409	青磁碗	P105				灰白色精緻	口縁部内面二条の圈線を片切り彫りで施す。	
410	土師質杯	P106		(3.4)	6.5	精土 にぶい黄橙色	足高高台、糸切り、内面煤ける。	
411	東播系羽釜	P126				精土 明黄褐色	口縁部内外面強い横ナデ調整、外面右上がりの叩き。	
412	瓦器小皿	〃	8.3	1.3	6.4	精土 灰色	口縁部外面横方向ナデ調整、底部押し出し顕著。	
413	土師質杯	P141		(2.0)	6.8	精土 にぶい橙色	内外面横ナデ調整、糸切り。	
414	〃	〃		(1.4)	7.0	〃	〃	
415	〃	〃	12.5	3.8	7.3	細粒砂を含む にぶい黄橙色	内外面強い横ナデ調整、糸切り。内外面赤色顔料塗布。	
416	〃	P144		(2.0)	7.0	精土 浅黄橙色	内外面横ナデ調整、糸切り。	
417	土師質小皿	P145	6.6	1.5	5.2	赤色風化礫を含む 橙色	内外面横ナデ調整、糸切り。一部陶質を呈する。	

表14 3-1区土器観察表12

遺物番号	機種	出土地点	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土・色調	特徴	備考
418	土師質杯	P145	(10.6)	(2.9)		精土 浅黄橙色	内外面横ナデ調整。	
419	〃	〃		(2.3)	6.8	〃	内外面横ナデ調整、糸切り。	
420	〃	〃			7.0	赤色風化礫を含む 橙色	〃	
421	〃	〃	12.4	4.5	9.0	精土 にぶい橙色	〃	
422	〃	〃	12.7	(2.4)		細粒砂を含む 橙色	内外面横ナデ調整。ハケ状原体による可能性あり。	
423	〃	〃	(2.1)	9.4		細粒砂を含む にぶ い黄橙色	内外面横ナデ調整、糸切り。	
424	東播系 掬鉢	〃		(3.0)		精土 灰色	内外面横ナデ調整。	
425	土師質杯	P143			5.6	精土 橙色	内外面横ナデ調整、糸切り。	
426	〃	P149			6.6	精土 灰褐色	〃	
427	瓦器 椀	P162	(13.7)			精土 灰色	口縁部外面横方向ナデ調整、内面暗文。	
428	〃	P163	(12.7)	(3.2)		精土 灰白色	口縁部外面横方向ナデ調整、内面暗文。	
429	東播系 羽釜	P174		(3.6)		精土 橙色	内外面横方向ナデ調整。断面三角形の鏝。	
430	瓦器 椀	P207		(5.1)		精土 にぶい黄橙色	口縁部外面横方向のナデ調整。胴部外面指圧痕、内面暗文。	
431	〃	〃	(11.6)	(3.0)		チャートの粗粒砂を 含む 浅黄色	口縁部外面横方向ナデ調整、内面暗文。器壁が厚い。	
432	土師質杯	P216		(1.8)	7.4	精土 にぶい黄橙色	内外面横ナデ調整。	
433	〃	〃			6.0	〃	内外面横ナデ調整、糸切り。	
434	土師質 小皿	P219	6.8	1.4	4.4	〃	〃	
435	土師質 杯	〃		(1.7)	(7.2)	〃	〃	
436	〃	〃		(1.6)	6.8	〃	〃	
437	〃	〃			7.0	細粒砂を多く含む にぶい黄橙色	〃	
438	〃	〃			7.0	精土 にぶい黄橙色	〃	
439	〃	〃	13.2	3.9	7.6	細粒砂を多く含む にぶい黄橙色	内外面横ナデ調整、糸切り。外底擦ける。	
440	〃	〃	(11.0)	(3.7)		細粒砂を含む にぶ い黄橙色	内外面横ナデ調整。	
441	〃	〃		(1.8)	6.4	精土 橙色	内外面横ナデ調整、糸切り。	
442	瓦器 椀	P224	(12.0)	(3.5)		精土 灰白色	口縁部外面強い横方向のナデ調整。内面暗文。	
443	土師質 椀	〃			6.7	精土 にぶい黄橙色	内外面横方向ナデ調整。しっかりした貼付高台。	
444	瓦器 小皿	〃	8.1	1.7	4.1	精土 灰白色	口縁部外面横方向ナデ調整、外底押し出し、内面丁寧なナデ調整。	
445	土師質 椀	P225			6.0	精土 にぶい黄橙色	外底は糸切り後、ナデ調整。貼付高台。	
446	瓦質 羽釜	〃	(19.0)			チャート他の細粒 砂を多く含む 灰色	内外面横ナデ調整。	
447	瓦器 椀	P228	13.3	(3.1)		精土 灰白色	口縁部外面横方向のナデ調整、胴部外面指圧痕。	
448	土師質 杯	P232			5.8	精土 橙色	内外面横ナデ調整、糸切り。	
449	瓦器 小皿	〃	7.3	1.4		精土 灰白色	体部外面強い横方向ナデ調整。	
450	瓦器 椀	P234	11.8			精土 灰色	口縁部外面横方向のナデ調整。	
451	土師質 杯	P235			4.3	精土 にぶい黄橙色	内外横ナデ調整。	
452	土師質 杯	P239		(2.6)	6.8	〃	内外面横ナデ調整、糸切り。	
453	〃	P240		(2.1)	7.8	〃	〃	
454	〃	P246	(9.4)	(2.8)		〃	内外横ナデ調整。	
455	土師質 小杯	〃	8.0	1.7	5.6	〃	内外面横ナデ調整、糸切り。	器高指数21.1

表15 3-1区土器観察表13

遺物番号	機種	出土地点	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土・色調	特徴	備考
456	土師質小杯	P246	7.5	1.5	5.0	精土 にぶい黄橙色	内外面横ナデ調整、糸切り。	器高指数20.0
457	〃	〃	6.6	1.8	4.6	細粒砂を含む にぶい黄橙色	〃	
458	〃	P247	6.0	1.6	5.0	精土 にぶい黄橙色	〃	器高指数27.7
459	〃	〃	8.0	1.7	5.4	精土 橙色	〃	器高指数21.2
460	瓦器小皿	P251	8.8	1.6	4.2	精土 灰色	底部押し出し、指頭圧痕顕著。	
461	土師質杯	〃	12.0	3.4	8.0	精土 褐灰色	内外横ナデ調整。	
462	瓦器碗	P256	11.8	3.4	3.2	精土 灰白色	口縁部外面強い横方向のナデ調整。内面暗文。外面指圧痕。	
463	土師質碗	P257	6.6	1.5	4.2	精土 にぶい黄橙色	内外面横ナデ調整、糸切り。	
464	土師質杯	P261	12.1	3.5	7.4	〃	口縁部が僅かに内湾。内外面横ナデ調整、糸切り。	
465	〃	〃		(2.1)	8.0	〃	内外面横ナデ調整、糸切り。	
466	〃	〃			7.6	〃	〃	
467	土師質小杯	〃	7.2	1.8	5.3	〃	〃	
468	〃	〃	5.9	1.6	5.2	〃	〃	
469	土師質杯	P263		(1.9)	7.2	〃	〃	
470	瓦器小皿	P264	7.6	0.9	6.0	精土 暗灰黄色	外面横方向のナデ調整。	
471	土師質杯	P270		(1.7)	(6.6)	精土 灰黄褐色	内外面横ナデ調整、糸切り。外底に平行圧痕。	
472	〃	P276		(2.6)	4.8	精土 にぶい橙色	内外面横ナデ調整、糸切り。	
473	瓦器碗	P273		(3.9)		精土 灰白色	口縁部外面横方向のナデ調整、内面暗文。	
474	東播系捏鉢	P281		(2.3)	8.0	風化礫の粗粒砂を多く含む	外底糸切り、外面横ナデ調整。	
475	土師質杯	P287		(1.6)	(6.0)	精土 浅黄橙色	内外横ナデ調整、糸切り。	
476	瓦器碗	P288	(11.2)	(3.0)		精土 黄灰色	強い横方向ナデ調整。	
477	土師質杯	集石1	(12.6)	3.4	7.0	精土 にぶい橙色	外面はハケ状原体によるナデ調整、糸切り。外底は平行圧痕。	
478	〃	〃	(12.7)	3.1	(8.4)	〃	内外横ナデ調整、糸切り。	
479	土師質小杯	〃	7.0	1.4	5.6	〃	内外横ナデ調整、糸切り。一部が煤ける。	器高指数20.0
480	〃	〃	6.0	1.9	4.0	〃	内外横ナデ調整、糸切り。	器高指数31.7
481	瓦器小皿	〃	8.6	1.3	3.5	精土 灰白色	口縁部外面強い横方向のナデ調整。内面暗文。外面指圧痕。	器高指数15.1
482	青磁碗	〃			4.9	灰色精緻	見込み印に印花文、壘付底部の露胎部は黄白色に発色。	
483	東播系捏鉢	〃	29.6	(4.7)		精土 黄灰色	内外面横ナデ調整。口縁部及び体部内面に自然釉。	
484	紀伊型甕	〃	24.4	(6.4)		結晶片岩、石英などの粗粒砂を含む 茶褐色	口縁部端の上に摘まみ上げ、口縁内外面横ハケ、上胴部に断面三角形の小突帯を貼付。外面煤ける。	
485	〃	〃	23.0	(4.7)		石英、チャート等の粗粒砂多し にぶい黄褐色	口縁内外面横ナデ調整、端部は摘まみ上げ。外面煤ける。	
486	土師質杯	集石2		(2.5)	7.3	精土 浅黄橙色	内外横ナデ調整、糸切り。	
487	瓦器碗	〃	(10.8)	(3.2)		精土 灰色	口縁部外面横方向のナデ調整。内面暗文。	
488	〃	〃	(16.0)	(3.5)		精土 灰黄色	〃	
489	〃	〃	16.0	4.4	6.6	精土 灰色	口縁部外面横方向の強いナデ調整、外面指頭圧痕顕著、内面暗文。断面三角のしっかりした高台貼付される。	
490	土師質小皿	土器集中1	8.4	(1.6)	5.2	精土 にぶい橙色	内外横ナデ調整、糸切りと考えられるが完全にナデ消している。	器高指数19.0
491	瓦器碗	〃		(1.0)	4.2	精土 灰色	断面カマゴコ状の高台。	
492	土師質杯	〃		(3.4)	5.9	精土 浅黄橙色	内外ナデ調整、ヘラ切り。	

表16 3-1区土器観察表14

遺物番号	機種	出土地点	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土・色調	特徴	備考
493	瓦器小皿	土器集中1	8.8	1.9		精土 灰色	口縁部外面横方向のナデ調整。内面暗文。	
494	瓦器碗	〃	14.7	4.4	3.8	細粗粒砂を含む 灰色	口縁部外面の横方向ナデ調整はほとんどない。指頭圧痕顕著、暗文あり。	器高指数29.9
495	青磁碗	〃	16.0	(5.4)		灰色精緻	透明度のある釉、口縁内面二条の沈線で区画され、区画内に草花文。	
496	白磁碗	〃	16.0	6.0	5.7	白色精緻	内底と体部内面に圈線、口縁は短く屈曲、高台は高く細い。高台脇まで施釉。	
497	〃	〃	17.4	6.5	5.9	〃	見込みに圈線、口縁部は短く屈曲する。高台は細く高い。外底中央部に僅かに兔輻を有す。	
498	土師質杯	土器集中2	12.0	3.7	8.4	精土 にぶい橙色	内外面横ナデ調整、糸切り。	
499	〃	〃	11.0	5.0	7.2	粗粒砂を多く含む にぶい橙	内外面横ナデ調整、糸切り。外底に平行圧痕。	
500	土師質小皿	〃	7.0	1.6	4.4	精土 にぶい橙色	内外面横ナデ調整、糸切り。	器高指数22.9
501	土師質小杯	土器集中3	7.0	1.5	4.3	精土 橙色	内外横ナデ調整、糸切り。	器高指数21.4
502	土師質杯	〃	11.5	3.7	7.0	〃	内外面横ナデ調整、糸切り。外底に平行圧痕。	器高指数32.8
503	瓦器碗	〃	13.2	3.5	2.5	チャートの粗粒砂を含む 灰色	口縁部外面横方向のナデ調整、内面に暗文。	器高指数22.7
504	瓦器小皿	〃	8.0	1.5		精土 灰色	外面横方向のナデ調整。	器高指数18.7
505	瓦器碗	〃	13.0	(3.0)		チャートの粗粒砂を含む 灰白色	口縁部外面横方向のナデ調整。	
506	〃	〃		(1.2)	3.2	チャートの粗粒砂を多く含む 灰白色	微隆起帯状に退化した高台。内底に暗文。	
507	〃	〃	12.8	3.1		粗粒砂を僅かに含む	口縁部外面横方向ナデ調整。底部が僅かに突出、高台無し。内面に暗文。	
508	瓦器小皿	SK49	(7.7)	(1.7)		精土 灰色	口縁部外面横方向のナデ調整。外底指頭圧痕。	
509	土師器羽釜	〃				石英、長石粒を多く含む	内外面四個ナデ調整、煤ける。	
510	瓦器碗	〃	(13.6)	(2.4)		精土 にぶい黄橙色	内外面横ナデ調整。	
511	瓦器小皿	SK51	(7.6)	(1.4)		精土 暗灰色	口縁部外面横方向のナデ調整。外底指頭圧痕。	器高指数19.1
512	瓦器碗	〃	(12.2)	(2.5)		精土 灰色	口縁部外面横方向のナデ調整。	
513	土師質杯	SD31		(1.3)	6.9	精土 にぶい黄橙色	内外面摩耗。	
514	〃	〃		(1.8)	6.5	チャートの粗粒砂を含む 橙色	内外面横ナデ調整。ヘラ切り(?)	
515	瓦器小皿	〃	(8.6)	(1.2)		精土 灰色	口縁部外面横方向のナデ調整。	
516	〃	〃	(8.0)	(1.3)		チャート他の粗粒砂を多く含む	口縁部外面横方向の強いナデ調整。	
517	〃	〃		(1.3)		精土 灰色	〃	
518	瓦器碗	〃	12.2	2.5		〃	口縁部外面のナデ調整は弱い。外面指頭圧痕。	
519	〃	〃	12.0	(2.8)		チャートの小礫を少し含む 灰色	口縁部外面横方向のナデ調整。胴部外面は指頭による凹凸顕著。内面に暗文。	
520	〃	〃		(2.5)		精土 灰色	口縁部外面横方向のナデ調整。	
521	〃	〃		(3.1)		精土 にぶい黄橙色	〃	
522	〃	〃		(2.1)		精土 灰色	〃	
523	〃	〃	12.9	(3.1)		チャート粗粒砂を含む 灰色	口縁部外面横方向の強いナデ調整。内面暗文。	
524	〃	〃		(2.1)		精土 灰色	口縁部外面横方向のナデ調整。	
525	〃	〃		(3.0)		チャート粗粒砂を含む 灰色	〃	
526	青磁碗	〃				灰色精緻	鎗蓮弁文、鉛色の釉がやや厚くかかる。	太宰府分類 I 5b類
527	〃	〃				灰白色精緻	鎗蓮弁文。	〃
528	〃	〃				〃	〃	〃
529	〃	〃				〃	畳付けまで施釉。	
530	青磁皿	〃			(5.8)	灰色精緻	腰折れタイプ。外底は無釉。	

表17 3-1区土器観察表15

遺物番号	機種	出土地点	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土・色調	特徴	備考
531	白磁皿	SD31	(8.3)	(1.3)	(5.2)	白色精緻	口禿。	
532	白磁碗	〃				〃	見込みに圈線。	
533	東播系捏鉢	〃				精土 灰色	外底糸切り。	
534	〃	〃				〃	内外横ナデ調整。口縁部外面に自然釉。	
535	〃	〃				〃	内外面横ナデ調整。口縁外面重ね焼による自然釉。	
536	須恵器把手	〃				精土 灰色	接合部付近に指頭圧痕顕著。	
537	瓦質羽釜 脚	〃				精土 灰色	丁寧なナデ調整。	
538	〃	〃				〃	〃	
539	瓦質羽釜	〃				〃	内外面横方向ナデ調整。	
540	紀伊型甕	〃				風化礫やチャートの砂粒を含む 明赤褐色	〃	
541	〃	〃				結晶片岩、チャートの砂粒を多く含む	〃	
542	常滑甕	〃				粗粒砂を含む にぶい橙	外面は簾状と菊花状の押印。	
543	土鍾	〃				精土 にぶい橙色	全長5.5cm、径1.0cm、孔径0.3cm、重さ4.9g	
544	〃	〃				〃	全長5.5cm、径1.1cm、孔径0.3cm、重さ4.5g	
545	〃	〃				〃	全長5.1cm、径1.2cm、孔径0.5cm、重さ6.3g	
546	〃	〃				〃	全長6.1cm、径1.1cm、孔径0.3cm、重さ5.4g	
547	〃	〃				〃	全長3.5cm、径1.2cm、孔径0.4cm、重さ3.7g	
548	〃	〃				〃	全長4.0cm、径1.2cm、孔径0.3cm、重さ4.4g	
549	〃	〃				〃	全長4.1cm、径1.2cm、孔径0.25cm、重さ4.4g	
550	土師質杯	SD32	10.8	4.9	7.1	赤色風化礫を含む 橙色	内外横ナデ調整、糸切り。底部が厚い。	
551	瓦器小皿	〃	8.0	1.6	6.0	精土 灰色	口縁部外面横方向のナデ調整。外底指頭圧痕顕著。	
552	〃	〃	6.7	1.0	5.7	〃	外面横方向の強いナデ調整。	器高指数149
553	〃	〃	(8.6)	(1.0)	(6.1)	〃	〃	
554	〃	〃	8.7	1.1	6.4	〃	〃	
555	瓦器碗	〃	13.8	3.9		精土 浅黄橙色	口縁部外面横方向のナデ調整は弱い。	
556	〃	〃	(14.0)	(2.5)		〃	口縁部外面横方向のナデ調整。	
557	〃	〃		(2.6)		精土 にぶい黄橙色	口縁部外面の横方向ナデ調整なし、内面はヘラ磨き。	
558	〃	〃	(13.2)	(2.3)		精土 灰色	口縁部外面横方向のナデ調整。	
559	〃	〃	(12.4)	3.1	1.6	〃	口縁部外面横方向のナデ調整。胴部は指頭圧痕、内面暗文。	
560	〃	〃	14.0	4.1	2.5	〃	口縁部外面横方向の強いナデ調整。胴部外面指頭圧痕顕著、断面カマボコ状の高台。高台の位置が中心線から大きくずれている。	
561	〃	〃	15.2	2.9	3.5	〃	口縁部外面横方向のナデ調整はほとんど見られない。	
562	〃	〃	(15.0)	(2.7)		〃	口縁部外面横方向のナデ調整。	
563	〃	〃		(2.0)		〃	内底に平行暗文。	
564	〃	〃	(15.6)	(4.0)		〃	口縁部外面横方向のナデ調整はほとんど見られない。内面に暗文。	
565	青磁碗	〃	16.8	(2.9)		灰白色精緻	口縁部内面に圈線。	
566	青磁小皿	〃		4.6		灰色精緻	外面底部付近露胎。	
567	青磁碗	〃		5.2		〃	高台脇まで施釉。	
568	東播系捏鉢	〃		(3.4)		精土 灰色	内外面横ナデ調整。	

表18 3-1区土器観察表16

遺物番号	機種	出土地点	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土・色調	特徴	備考
569	瓦質 羽釜 脚	SD32				精土 灰白色	ナデ調整。	
570	ミニチュア 土製品	〃	2.0	1.7		精土 にぶい黄橙色	指頭圧痕顕著	
571	常滑 甕	〃				粗粒砂を含む 灰褐色	格子目押印あり。	
572	土師質 杯	SD33		(1.2)	6.2	精土 浅黄色	内外横ナデ調整、糸切り。	
573	〃	〃		(1.6)	6.2	精土 にぶい橙色	〃	
574	瓦器 小皿	〃	7.4			精土 灰色	口縁部外面横方向のナデ調整。	
575	〃	〃	7.1			〃	〃	
576	〃	〃	8.2	1.2		〃	〃	
577	瓦器 椀	〃	13.2	(2.6)		精土 浅黄色	口縁部外面の横方向ナデ調整はほとんどない。土師質器の焼成である。	
578	〃	〃	11.0	(2.8)		精土 灰白色	口縁部外面横方向の強いナデ調整、体部外面凹凸が顕著。	
579	〃	〃	12.5	2.75	3.0	粗粒砂を含む 灰黄色	〃	
580	〃	〃		(2.5)		粗粒砂を多く含む	口縁部外面横方向のナデ調整。	
581	〃	〃	10.5	3.3	3.6	小礫、粗粒砂を含む 灰色	〃	器高指数26.4
582	〃	〃	(13.0)	(3.0)		精土 灰色	口縁部外面の横方向ナデ調整はほとんどない。	
583	〃	〃	12.9	2.5		赤色風化礫を含む	口縁部外面横方向のナデ調整。土師質土器の焼成。	
584	〃	〃	13.8	(2.7)		精土 灰色	口縁部外面横方向のナデ調整。	
585	青磁 碗	〃				やや粗い胎土 灰色	幅広い蓮弁文。	太宰府分類 I 5b類
586	〃	〃		(5.0)		灰色精緻	鎗蓮弁文。	太宰府分類 I 5b類
587	〃	〃				〃	〃	〃
588	〃	〃	12.1	4.8	4.0	やや粗い胎土 灰色	小振りの椀。高台外面まで施釉、壘付けも一部施釉。	〃
589	〃	〃	16.4	7.0	5.1	やや粗い胎土 灰色	鎗蓮弁文、壘付け外縁を斜めに削る。高台外面まで施釉。	〃
590	〃	〃	16.8	3.5		灰色精緻	鎗蓮弁文。	〃
591	〃	〃		(2.6)	4.0	灰色精緻	外面櫛描を縦方向に施文、内面はジグザク文。高台は断面台形状に丁寧に削る。外底は円錐状を呈する。	
592	〃	〃		(3.8)		灰白色精緻	外面櫛描を縦方向に施文、内面はジグザク文。	
593	東播系 捏鉢	〃		(6.6)		精土 灰色	内外面横ナデ調整。焼成は瓦質。	
594	〃	〃		(5.2)		〃	内外面横ナデ調整。口縁外面黒色。	
595	〃	〃	(23.0)	(4.8)		粗粒砂を含む 灰黄色	内外面横ナデ調整。	
596	〃	〃	(34.0)	(6.6)		精土 灰色	口縁部に自然釉。内外面横ナデ調整。	
597	瓦質 羽釜	〃		(5.1)		〃	口縁下に断面三角の鋳を貼付する。	
598	紀伊型 甕	〃		(2.5)		チャート他の粗粒砂 多し 橙色	内外面横方向ナデ調整。	
599	〃	〃		(2.0)		〃	〃	
600	陶器 甕	〃	(34.7)	(6.3)		精土 灰色	口頸部内外横ナデ調整、胴部外面格子叩き、内面は青海波状の当て道具痕跡あり。	
601	瓦質 羽釜 脚	〃				チャート粗粒砂多し 灰色	最大径2.4cm。ナデ調整。	
602	〃	〃				〃	体部接合部から剥落している。ナデ調整。	
603	土師質 土錘	〃				精土 浅黄橙色	全長(4.5) cm、径1.3cm、孔径0.4cm、重さ5.0g	
604	〃	〃				〃	全長4.8cm、径1.4cm、孔径0.4cm、重さ6.7g	
605	瓦器 椀	SD35	(13.3)	(3.2)		精土 浅黄色	口縁部外面横方向のナデ調整。	
606	〃	SD36		(2.5)		精土 灰色	口縁部外面横方向の強いナデ調整。	

表19 3-1区土器観察表17

遺物番号	機種	出土地点	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土・色調	特徴	備考
607	瓦器小皿	SD36	7.9	1.4	3.5	精土 灰色	口縁部外面横方向のナデ調整。内底一定方向のナデ調整、口縁内面に細い沈線。	器高指数17.8
608	瓦質羽釜	SD34	22.0	(7.4)		精土 灰黄色	断面三角のしっかりした鏝を有す。口縁部内外、鏝上下横方向ナデ調整。胴部外面は凹凸が見られる。外面煤ける。	
609	瓦質羽釜	SD36		(2.8)		精土 淡橙色	内外面横方向ナデ調整。	
610	東播系捏鉢	〃				粗粒砂を含む 灰黄色	内外面ナデ調整。	
611	青磁碗	SD35		(6.0)		やや粗い胎土 灰色	見込みに印花文。一部高台内面まで施釉。	
612	瓦質羽釜	SD37	(17.0)	(3.9)		精土 灰色	口縁部内外、鏝上下横方向ナデ調整、胴部外面煤ける。	
613	瓦器小皿	〃				精土 灰黄色	口縁部外面横方向のナデ調整、底部指頭圧痕顕著。	
614	土師質杯	SD38		7.7		精土 浅黄色	内外横ナデ調整、糸切り。	
615	土師質小杯	〃	8.6	1.8	7.0	精土 にぶい黄橙色	〃	
616	〃	〃	8.4	1.8	2.5	精土 浅黄橙色	ヘラ切り。	
617	瓦器小皿	〃	8.3	(1.4)		精土 灰黒色	口縁部外面横方向のナデ調整。	
618	瓦器椀	〃		(1.2)	5.4	精土 灰黄色	高台は断面台形状でしっかりしている。内面暗文。	
619	青磁碗	〃		(2.6)		灰白色精緻	内外無文。	
620	東播系捏鉢	〃		(2.5)		精土 灰白色	口縁部外面横方向のナデ調整。	
621	〃	〃		(3.6)		精土 灰色	口縁部外面に自然釉、内外横ナデ調整。	
622	白磁皿	〃		(1.8)		灰白色精緻	内面に細い沈線。	
623	瓦器椀	〃		(3.2)		精土 灰白色	断面カマボコ状の高台。	
624	陶器 片口(常滑?)	〃		(3.4)		粗粒砂を含む 褐色	口縁部は丸味をもつ。	
625	常滑甕	〃		(7.2)		灰白色	格子目押印あり。外面に自然釉。	
626	土師質小杯	SD39	7.1	1.6	5.1	精土 にぶい黄橙色	内外横ナデ調整、糸切り。	
627	瓦器小皿	〃	8.7	1.3	5.4	精土 灰黒色	外面横方向のナデ調整。	器高指数14.9
628	瓦器椀	〃		(4.6)		精土 灰白色	口縁外面横方向ナデ調整、内面暗文。	
629	〃	〃	(13.6)	(2.1)		〃	〃	
630	青磁碗	〃		(4.0)		灰色精緻	口縁部内面に沈線。	
631	〃	〃		(3.3)		〃	内外面無文。	
632	〃	〃		(2.9)		〃	内面に片切り彫りによる沈線が施される。	
633	白磁小皿	〃	5.4	(2.1)		白色精緻	口禿。	
634	白磁碗	〃		(2.1)	6.4	〃	外面露胎。	
635	瓦質鉢	〃	(24.0)	(4.5)		精土 灰色	口縁部は「く」字状に外反、内面は段をなす。外面煤ける。	
636	東播系捏鉢	〃		(4.2)		精土 にぶい黄橙色	内外面横ナデ調整。	
637	瓦質羽釜	〃	12.6	(6.1)		精土 灰色	口縁内外、鏝の上下横方向ナデ調整。胴部外面は指頭圧痕が残る。	
638	東播系甕	〃		(7.6)		精土 灰白色	口頸部外面横ナデ調整、同外面平行叩き。	
639	陶器壺	〃		(3.1)		細粗粒砂を含む、にぶい橙	外面自然釉。	
640	土鍾	〃				精土 にぶい黄橙色	全長2.9cm、径1.2cm、孔径0.3cm、重さ3.9g	
641	〃	〃				〃	全長3.9cm、径1.1cm、孔径0.3cm、重さ4.2g	
642	瓦器小皿	SD40	7.1	1.5	5.5	チャート粗粒を含む 暗灰色	外面強い横方向のナデ調整。	
643	土師質杯	P299		(1.8)	6.5	精土 灰黄褐色	内外面横ナデ調整。	
644	〃	P294		(2.0)	6.4	精土 橙色	〃	

表20 3-1区土器観察表18

遺物番号	機種	出土地点	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土・色調	特徴	備考
645	土師質杯	P320		(1.3)	6.1	精土 橙色	内外面横ナデ調整。	
646	〃	〃	12.8	3.7	7.0	精土 にぶい黄橙色	口縁部外面強い横ナデ調整。糸切り。	
647	白磁皿	P324	13.0	(2.0)		白色精緻	口禿。	
648	土師質杯	P366		6.2		精土 灰黄褐色	内外横ナデ調整、糸切り。	
649	瓦器碗	P331	10.6	2.7	3.6	精土 灰色	口縁外面横方向ナデ調整、内面暗文。	
650	土師質杯	P358	(13.2)	(2.8)		精土 にぶい黄橙色	内外面ナデ調整。	
651	〃	〃	(12.8)	(3.0)		〃	〃	
652	〃	〃		(3.3)	8.1	赤色風化礫を含む 橙色	〃	
653	瓦器碗	P361	12.0	3.0		精土 灰色	口縁外面横方向ナデ調整、内面暗文。	
654	瓦質羽釜	P369		(2.7)	10.0	精土 灰色	底部。内面はハケ状原体によるナデ調整、外面はナデ調整。煤ける。	
655	東播系捏鉢	P384		(3.1)	(7.0)	粗粒砂を含む 灰色	内面の摩擦が顕著である。	
656	瓦器碗	P414		(3.2)	3.0	精土 灰色	内底は平行の暗文。	
657	土師質小皿	4層	8.8	1.7	5.3	細粗粒砂を含む 橙色	内外面横ナデ調整、糸切り。	器高指数19.3
658	土師質小杯	〃	7.6	2.1	5.0	精土 にぶい橙色	〃	器高指数27.6
659	〃	〃	7.9	2.2	4.5	精土 橙色	〃	
660	土師質杯	〃			7.0	〃	〃	
661	〃	〃	12.2	3.4	8.0	精土 浅黄色	〃	器高指数27.9
662	〃	〃		(2.7)	7.6	〃	内外面横ナデ調整、糸切り。底部に平行圧痕。	
663	〃	〃	12.0	3.9	6.8	精土 灰黄褐色	内外面強い横ナデ調整、糸切り。外面はハケ目状の条線が顕著。	
664	〃	〃		(2.5)	6.6	精土 浅黄色	内外面横ナデ調整、糸切り。	
665	〃	〃	12.3	4.0	7.4	〃	〃	
666	〃	〃	11.2	3.3	6.8	細粗粒砂を含む 橙色	〃	
667	〃	〃	11.3	3.7	7.2	精土 浅黄色	内外面横ナデ調整、糸切り。底部に平行圧痕。	器高指数32.7
668	〃	〃	11.7	3.5	7.2	精土 にぶい橙色	〃	器高指数29.9
669	〃	〃	11.8	3.6	6.3	精土 黄橙色	内外面横ナデ調整、糸切り。	器高指数30.5
670	〃	〃	12.0	4.3	7.0	細粗粒砂を含む にぶい橙	内外面横ナデ調整、糸切り。底部に平行圧痕。	器高指数35.5
671	〃	〃	12.6	3.9	7.4	精土 にぶい橙色	内外面横ナデ調整、糸切り。	器高指数30.9
672	〃	〃	12.8	3.2	8.2	細粗粒砂多い 橙色	内外面横ナデ調整、内面僅かに煤ける。	器高指数25.0
673	〃	〃	12.4	3.8	6.7	精土 にぶい橙色	内外面横ナデ調整、糸切り。	
674	〃	〃	12.5	4.1	6.5	〃	〃	器高指数32.0
675	〃	〃	11.6	4.0	6.0	細粗粒砂多い にぶい橙色	内外面横ナデ調整、糸切り。底部に平行圧痕。	
676	〃	〃	12.2	4.4	6.4	精土 にぶい黄橙色	外面ハケ状原体による強い横ナデ調整、糸切り。	
677	瓦器碗	〃	16.0	4.8	3.8	精土 灰色	口縁部外面強い横方向のナデ調整。体部外面は凹凸が顕著、断面台形状のしっかりした高台。	器高指数30.0
678	〃	〃	15.5	4.6	4.6	精土 灰色	口縁部は僅かに外反、外面は横方向ナデ調整。体部外面は指頭による凹凸顕著。断面三角形のしっかりした高台。内面暗文。	器高指数29.7
679	〃	〃	14.5	5.3	5.0	〃	口縁部外面横方向の強いナデ調整。体部外面凹凸顕著。断面カメラボコ状のしっかりした高台。	器高指数34.5
680	〃	〃	13.5	3.1	3.0	精土 灰黄色	口縁外面横方向ナデ調整、内面暗文。	器高指数23.0
681	〃	〃	12.9	3.3	4.4	精土 灰色	口縁外面横方向ナデ調整、内面暗文。微粒起伏の高台。	
682	〃	〃	13.1	2.8	3.9	〃	〃	

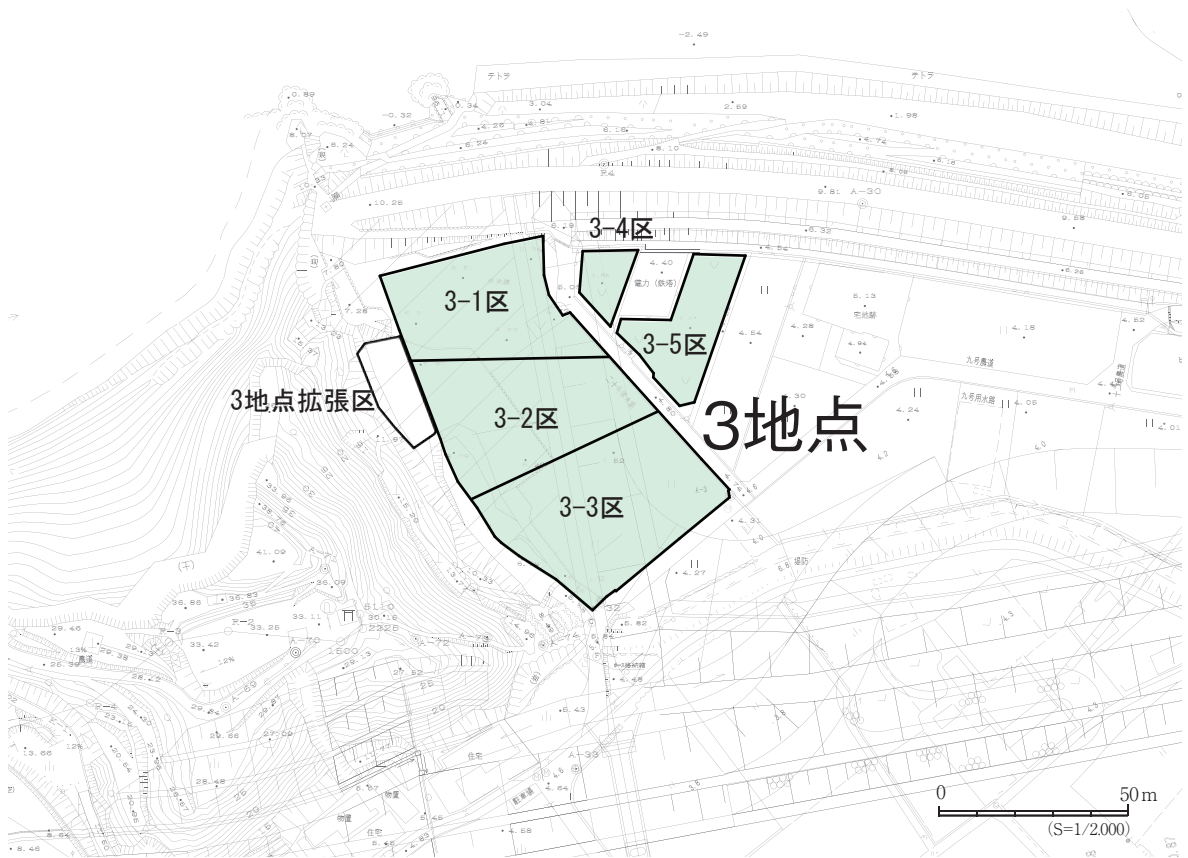
表21 3-1区土器観察表19

遺物番号	機種	出土地点	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土・色調	特徴	備考
683	瓦器 小皿	4層	7.9	1.6	6.5	精土 灰色	口縁部外面横方向のナデ調整。	器高指数20.2
684	青磁 碗	〃		(1.9)	4.5	灰色精緻	畳付けまで施釉。	
685	白磁 皿	〃		(1.3)	6.0	白色精緻	口禿。外底露胎、露胎部は褐色。	
686	青磁 碗	〃		(2.5)	6.7	灰黄色精緻	厚い底部である。	
687	青磁 皿	〃	11.0	2.0	5.2	灰白色精緻	見込みに櫛原体によるジグザク文と片切り彫り。全面施釉後に外底掻き取り。	同安窯系 I-2類
688	青磁 碗	〃		(1.9)	6.0	灰色精緻	外底に径3cm程の目跡、畳付けの一部にまで施釉。見込みに片切り彫り。	
689	〃	〃		(3.1)	6.1	灰白色精緻	見込みに片切り彫り。高台内面の釉を掻き取り。	
690	〃	〃		(1.6)	5.7	〃	見込みに四文字印刻、畳付けの一部にまで施釉。	
691	〃	〃	13.9	5.4	4.5	灰色精緻	外面縦方向の櫛描き、内面は沈線から下に櫛によるジグザク文と丸ノミによる文様を描く。高台は断面台形。	同安窯系 I-1b類
692	〃	〃	17.9	(5.8)		灰白色精緻	外面鑄蓮弁文。	龍泉窯系 I-5b類
693	〃	〃		(4.1)		灰色精緻	外面縦方向の櫛描き、内面は櫛によるジグザク文。	同安窯系 I-1b類
694	〃	〃	15.8	(5.4)		〃	内外面無文。	龍泉窯系 I-1類
695	白磁 碗	〃		(4.3)		灰白色精緻	口縁部が短く外反し端部は丸い。器壁が薄い。	V3類
696	〃	〃	16.4	5.9	5.4	やや粗い 黄白色	口縁部は短く外反し上面が水平な面をなす。見込みに沈線。高台は三角形を呈し細く長い。高台の近くまで施釉。	V4a類
697	須恵器 壺	〃		(2.1)	9.8	精土 灰色	太くしっかりした高台がハ字状に踏ん張る。内外面横ナデ調整。	
698	白磁碗	〃		(1.6)	6.1	灰白色精緻	見込みの釉を輪状にかき取る。外底は削りの上を丁寧に処理している。	VIII類
699	常滑 鉢	〃		(5.9)		小礫を含む	口縁部が短く外反。内面は胡麻ふり状に自然釉がかかる。	
700	東播系 捏鉢	〃	22.2	(6.2)		頁岩粗粒を含む	内外面横ナデ調整。内面は指頭による斜め方向のナデ。	
701	〃	〃		(8.6)		精土 灰色	内外面横ナデ調整。	
702	〃	〃		(7.6)		頁岩その他の粗粒砂を多く含む	〃	
703	〃	〃		(3.8)	8.6	小礫、粗粒砂を含む 灰色	外面横方向ナデ調整、糸切り。内面は使用による磨耗顕著。	
704	瓦質 羽釜	〃	18.0	(3.7)		精土 灰色	鑊の幅1.0cm。内外面、鑊の上下はハケ状原体による横ナデ調整。	
705	瓦質 羽釜	〃	22.8	(7.9)		粗粒砂を含む 灰白色	幅1.5cm前後のしっかりした鑊を有す。内面ハケ状原体による横方向のナデ調整、外面はナデ仕上げ。外面煤ける。	
706	常滑 甕	〃		(6.3)	18.4	精土 灰黄色	底部に目跡付着。内外面自然釉。	
707	陶器 甕	〃	(36.6)	(6.7)		精土 灰色	内外面強い横ナデ調整。胴部は接合部から剥離。	産地不明
708	須恵器 壺	〃	17.4	(4.7)		精土 灰黄色	口縁部は直線的に立上がり、口唇部は強い横ナデにより凹状をなす。胴部外面平行叩き、内面は青海波文。	
709	古瀬戸 梅瓶	〃		(3.6)		灰白色精緻	外面に灰釉、内面に粘土帯接合部を認む。	
710	石製品 温石転用	〃	全長 (6.0)	全幅 (3.8)	全厚 1.6			重量(41.8)g

第三章 3-2区の調査

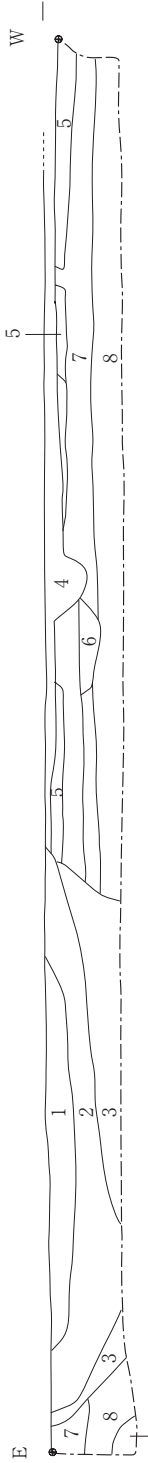
1.3-2区の概要

3地点は城山東山麓に位置し各調査区の中で現況最も仁淀川に近接する調査地点で、3-2区は3地点を調査の便宜上3分割した中央に位置し、北側を3-1区、南側を3-3区と接している。調査前は宅地及び水田となっており、標高は約5.5mであった。基本層序は1～6層に大きく分けることができ4～6層が遺物包含層となっている。遺物包含層からは古代から近世までの遺物が出土し、13世紀から14世紀の遺物が大部分で瓦器が多く出土している。遺構は上面、中面、下面の三面で検出しており、中面は2回に分け検出作業を行った。土坑43基、ピット89個、溝跡15条、井戸跡1基、性格不明遺構などを検出することができた。遺構の多くは中面から検出しており、上面はピット4個、下面は土坑6基、ピット6個、溝6条を検出したのみである。



3-1図 調査区位置図

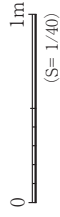
X=52443.167
Y=-3394.670



TR28

SX1

- 1: 褐灰色粘砂土 (少し礫混じる)
- 2: 灰褐色粘砂土 (砂質強い、10 cm大礫混じる)
- 3: 褐灰色砂質土 (礫土器入る 上層より礫少ない)
- 4: 灰黄褐 (4b 層を粘砂土 砂利混じる)
- 5: 砂利間層
- 6: 暗褐灰色粘砂土
- 7: 黄褐灰色粘砂土 (5 層)
- 8: 暗黄褐灰色粘砂土 (6 層 上層より粒子粗)

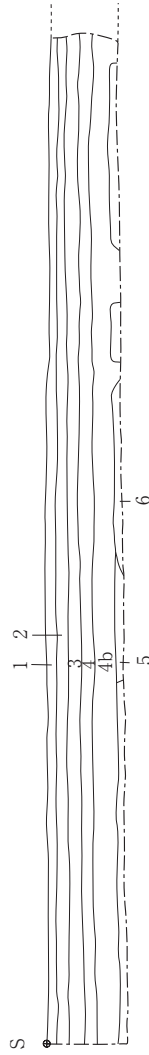


X=52431.875
Y=-3379.727
DL=40m

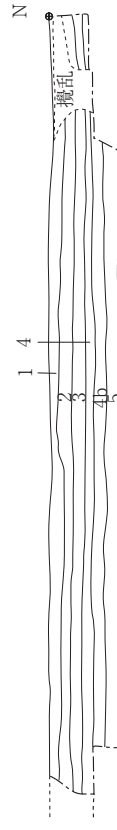


地山砂礫土

X=52396.204
Y=-3406.288

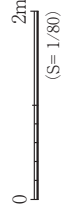


X=52420.063
Y=-3399.862



中央バンク

- 1: 1 回目表土
- 2: 2 回目表土
- 3: 3 回目表土
- 4: 4 回目表土
- 4b: 上層に表土時のマンガン附着
- 5: 暗灰褐色砂質土
- 6: 淡灰褐色砂質土



3-2 図 TR28・中央バンクセクション図

2. 上面の遺構と遺物

ピット4個を検出したのみである。いずれも灰色シルトが埋土となっており、近世以降のものと考えられる。

3. 中面の遺構と遺物

中面は2回に分け遺構検出、掘削を行った。中の上面の検出標高は約4.1～3.9mで埋土は暗褐色粘質土が多く4層相当と考えられる。検出した遺構は土坑22基、ピット43個、溝跡4条、井戸跡1基、性格不明遺構1基である。中の下面の検出標高は3.9～3.8mで埋土は中の上面と同じく暗褐色粘質土がその中心である。検出した遺構は土坑16基、ピット50個、溝跡8条、性格不明遺構1基である。

以下は精査の結果欠番となった遺構である。

中の上面

土坑 SK3・SK4・SK6・SK7・SK8・SK16

ピット P12・P14・P15・P16・P17・P19・P21・P23・P25・P27・P31・P33・P38・P39・P40・
P50・P51・P52・P58

溝跡 SD5

性格不明遺構 IKO3

中の下面

土坑 SK4・SK36・SK39・SK41

ピット P61・P69・P74・P76・P77・P80・P87・P88・P93・P94・P96・P98

溝跡 SD5



3-3図 中面遺構全体図



3-4図 中面遺物分布図

(1) 土坑 (SK)

土坑は47基検出しており、検出時遺構番号を付けたが精査の結果、掘削しなかったものが9基あり、いずれも遺構番号は欠番とした。中の上面で検出した土坑はSK1～28までで欠番を除くと22基である。中の下で検出した土坑はSK29～47で欠番を除くと16基である。埋土はSK5・9・10・12が灰色シルトで、その他は暗褐色～灰褐色系粘質土が埋土となっており4層相当と考えられる。遺構の時期は埋土が灰色シルトのものは近世以降と考えられ、それ以外は中世と考えられる。

遺構名	長径×短径×深さ (m)	平面形	断面形	長軸方向	付属遺構	出土遺物	時期	備考
SK1	1.38 × 1.25 × 0.17	隅丸 方形	皿状	N - 32° - E		土師質土器・瓦器・瓦質土器・土 鏝	14～15世紀初	土器多く出土
SK2	1.48 × 1.26 × 0.19	楕円形	皿状	N - 68° - W		土師質土器・瓦器		
SK3	欠番							
SK4	欠番							
SK5	0.8 × 0.77 × 0.10	楕円形	皿状	N - 37° - E		土師質土器		細片のみ
SK6	欠番							
SK7	欠番							
SK8	欠番							
SK9	(1.00) × 1.10 × 0.13	-	-	N - 68° - E	ピット	土師質土器・近現代陶磁器		SD4を切る
SK10	0.89 × 0.86 × 0.19	楕円形	皿状	N - 14° - E		土師質土器		細片のみ
SK11	1.12 × 0.89 × 0.14	楕円形	皿状	N - 40° - E		土師質土器・瓦器・須恵器		
SK12	1.10 × 1.03 × 0.20	楕円形	皿状	N - 0° - E				炭
SK13	1.78 × (1.55) × 0.56	円形	箱形	N - 14° - E		土師質土器・瓦器・瓦質土器・白 磁	12～13世紀	土器細片多く出土
SK14	1.30 × 1.15 × 0.34	長方形	逆台形	N - 18° - W		土師質土器・瓦器・青磁		
SK15	(1.20) × 1.60 × 0.04	-	皿状	N - 75° - W		土師質土器・瓦器・須恵器		
SK16	欠番							
SK17	0.70 × 0.66 × 0.20	楕円形	逆台形	N - 77° - W		土師質土器		
SK18	0.78 × 0.74 × 0.26	正方形	-	N - 63° - W		土師質土器		SD1を切る
SK19	0.85 × 0.72 × 0.21	楕円形	箱形	N - 21° - E		土師質土器・瓦器・須恵器		
SK20	1.05 × 0.90 × 0.17	楕円形	逆台形	N - 20° - E		土師質土器・瓦器・須恵器・白磁		細片多く出土
SK21	0.82 × 0.81 × 0.16	正方形	皿状	N - 20° - E		土師質土器		
SK22	0.98 × 0.90 × 0.25	長方形	箱形	N - 7° - E				
SK23	0.97 × 0.86 × 0.30	不整 方形	箱形	N - 66° - W		土師質土器・瓦器・常滑焼		土師質土器細片多い
SK24	2.86 × 1.03 × 0.33	長方形	箱形	N - 18° - E		土師質土器・瓦器・須恵器・青磁		土師質土器細片多い
SK25	(0.8) × 1.11 × 0.28	-	逆台形	N - 75° - W				
SK26	0.81 × 0.74 × 0.32	楕円形	箱形	N - 73° - W		土師質土器・瓦質土器		
SK27	1.03 × 0.84 × 0.16	楕円形	逆台形	N - 55° - E		土師質土器・瓦質土器		
SK28	1.35 × 1.23 × 0.29	長方形	逆台形	N - 73° - W		土師質土器・瓦器・須恵器		
SK29	0.83 × 0.62 × 0.20	楕円形	逆台形	N - 71° - W		土師質土器・瓦器		
SK30	(1.70) × 0.83 × 0.08	長方形	皿状	N - 41° - W		土師質土器・瓦器・鉄釘	13世紀半ば～	和泉型瓦器Ⅳ期～
SK31	1.12 × 0.67 × 0.18	楕円形	箱形	N - 85° - W		土師質土器・瓦器		
SK32	0.93 × 0.86 × 0.03	楕円形	皿状	N - 76° - W				
SK33	1.02 × 0.72 × 0.05	楕円形	皿状	N - 16° - E		瓦器		
SK34	1.36 × 1.28 × 0.14	正方形	皿状	N - 28° - E		土師質土器・瓦器		
SK35	0.83 × 0.73 × 0.60	楕円形	皿状	N - 30° - E		土師質土器		
SK36	欠番							
SK37	1.65 × 1.09 × 0.58	長方形	逆台形	N - 87° - W		瓦器・瓦質土器・須恵器・鉄滓		
SK38	3.65 × 0.98 × 0.62	楕円形	-	N - 20° - W		土師質土器・瓦器・瓦質土器・東 播系須恵器・青磁・鉄釘		土器多く出土
SK39	欠番							
SK40	1.00 × 0.70 × 0.05	楕円形	皿状	N - 66° - E		土師質土器		
SK41	欠番							
SK42	1.22 × 1.17 × 0.20	楕円形	皿状	N - 11° - E		土師質土器・瓦質土器		
SK43	1.12 × 0.93 × 0.38	楕円形	逆台形	N - 7° - W		土師質土器・瓦質土器		
SK44	1.47 × 0.71 × 0.34	楕円形	舟底形	N - 40° - W		土師質土器・瓦器		
SK45	1.18 × 0.87 × 0.12	楕円形	皿状	N - 0° - E	溝状部分	土師質土器・瓦器		
SK46	1.15 × 1.00 × 0.07	長方形	皿状	N - 8° - W		土師質土器・瓦器・須恵器		
SK47	3.14 × 0.50 × 0.16	楕円形	舟底形	N - 18° - E		土師質土器・瓦器・須恵器		

表3-1 中面土坑一覧表

SK1

SK1は調査区北端中央部で検出した。平面形は隅丸長形状で長軸1.38m、短軸1.25m、深さ約17cmを測る。断面形は長軸は皿状である。短軸は西側が浅くなっている舟形を呈する。埋土は褐灰色粘質土で炭化物が多く混じる。遺物は土師質土器杯、小皿を中心に多く出土しており一括性の高いものと考えられる。検出当初プランが確認できず遺物集中1として取り上げた遺物も同時に図示し、土師質土器、瓦器、瓦質土器、土錘などが図示できた。瓦器碗は器高が低く高台が無くなっており14世紀以降と考えられる。瓦質羽釜は鏝がやや退化しており瓦器碗と同じく14世紀代以降と考えられる。

SK13

SK13は調査区西側の山際に近い部分に位置し西側を調査区に切られる。平面形は円形に復元できる。残存長は1.78mで深さは56cmである。床面中央部から直径約30cm、深さ10cmのピットを検出した。土坑埋土は灰褐色粘質土で黄褐色小礫が混じる。埋土中からは土師質土器、瓦器、瓦質土器の細片が多く出土するが図示できたのは4点のみである。48は土師器の鍋で口縁端部を摘み上げ拡張するもので紀伊型甕の可能性もある。その他、白磁Ⅳ類碗、古代末と考えられる羽釜50が出土するが遺構の時期は中世と考えられる。

SK23

SK23はSD20の西で検出した不整形な方形の土坑で長軸0.97m、短軸0.86m、深さ約30cmを測る。断面形は箱形で埋土は褐灰色粘質土に黄褐色小礫が混じる。埋土中からは細片のみで土師質土器が大部分を占め、瓦器、常滑焼の細片がわずかに出土する。出土し図示できるものは無かった。

SK24

SK24は調査区西側に位置する長方形の土坑である。SK44と切り合い、中の上面で検出したSK24が中の下面で検出したSK44を切っている。長軸2.86m、短軸1.03m、深さ33cmを測る。断面形は箱形で埋土は褐灰色粘質土に黄褐色小礫が混じり、炭化物を含んでいた。遺物は土師質土器、瓦器が大部分を占め、その他須恵器、青磁が出土する。細片が多く図示できたものは52の青磁底部のみである。厚手の底部で高台見込みまで施釉される。中世に属すると考えられる。

SK30

SK30は中の下面で検出した遺構で調査区北側に位置する。SD2の確認用に設定したトレンチに東側を壊されるが、平面形は長方形に復元できる。長軸は残存長1.7m、短軸は0.83m、深さは8cmを測る。断面形は浅い皿状で埋土は灰褐色粘質土である。埋土中からは土師質土器、瓦器、鉄釘が出土している。図示できたものは土師質土器小皿、鉄釘である。瓦器は図示できなかったが高台が退化し無くなったのがみられSK30の時期を示すものと考えられる。

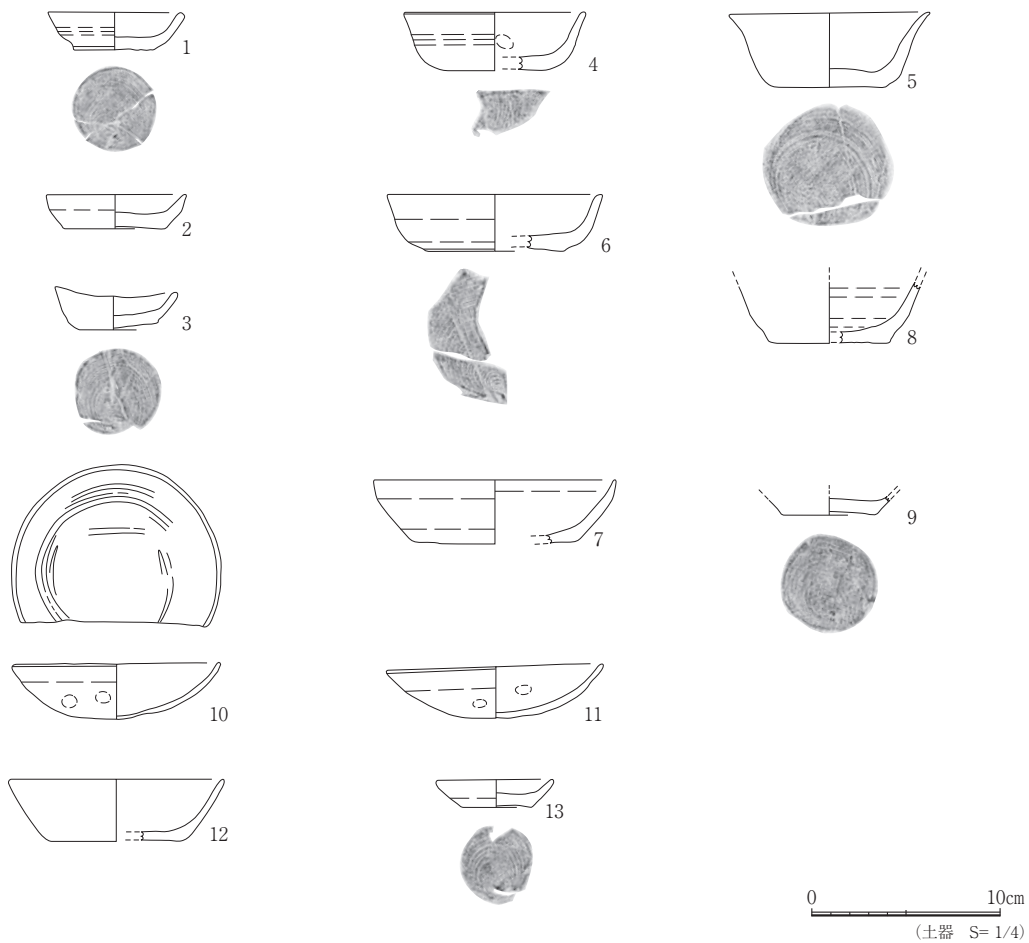
SK38

SK38は調査区西側で検出した南北方向の溝状の土坑である。長軸方向は全長3.65mで北端部から約2mで緩やかに屈曲する。短軸は北側では0.85mで南側では約1.0mである。また床面も大きく2つの部分からなり北側は約20cm、南側は中央部のピット状になっている最も深い部分で62cmとなっている。便宜的に北側をSK38、南側をSK38Bとする。2基の土坑が切り合っている可能性を検討したが、埋土は褐灰色粘質土に黄褐色小礫の混じったものでSK38からSK38Bへの漸次変化は認められるが検出時、掘削時とも判然とせず、2基に分離することは困難であった。埋土中か

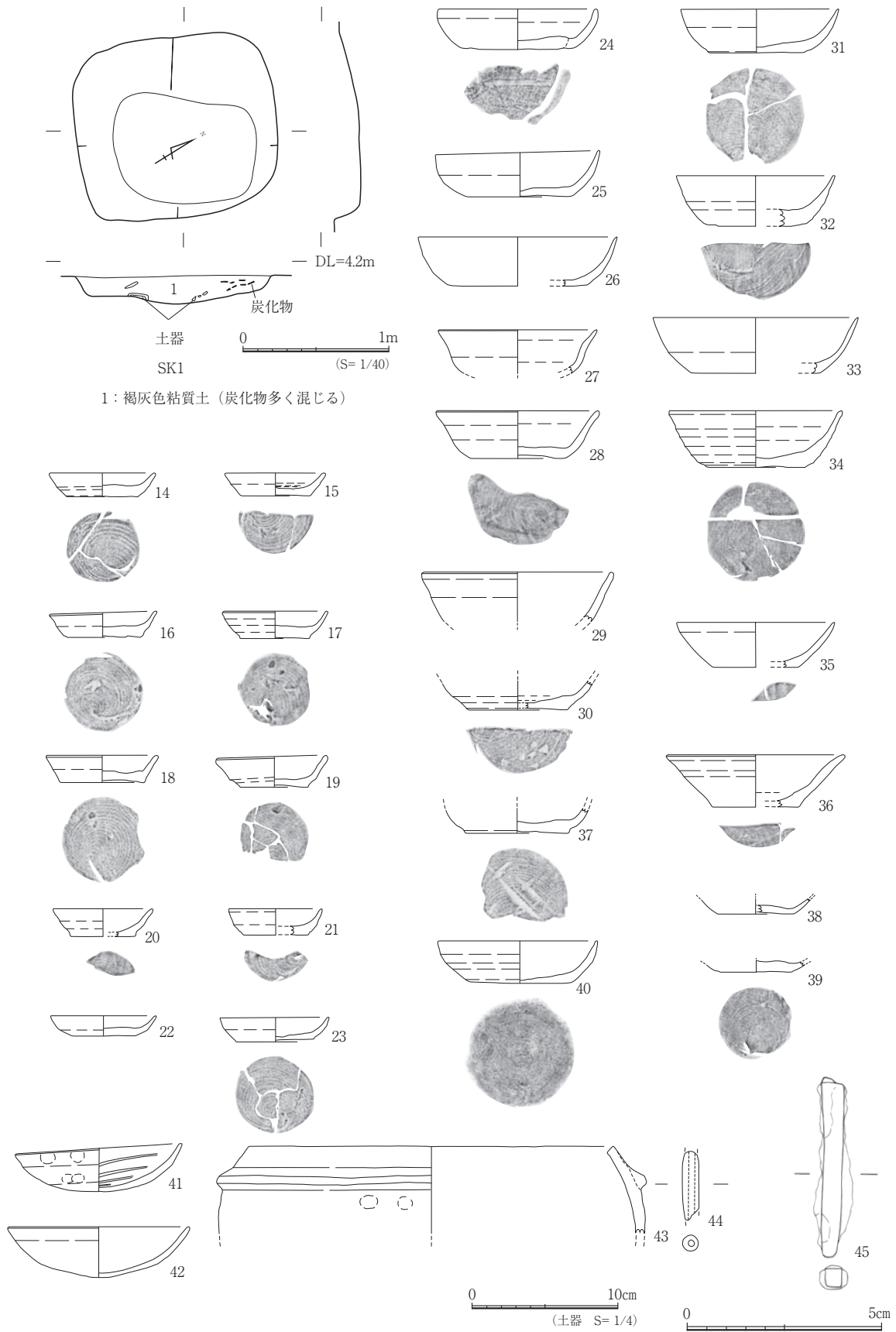
らは土師質土器、瓦器、瓦質土器、東播系須恵器、青磁、鉄釘が出土している。土師質土器、瓦器はいずれも細片であるが瓦器の方が比率が高くなっている。図示できたものでは55の瓦質鍋が注目される。掘削時、口縁を上にした状態で完形で残存していたが、取り上げて確認すると底部が抜けた状態であった。14世紀半ば～15世紀前半までの可能性が考えられる所謂「土佐型鍋」である。

SK44

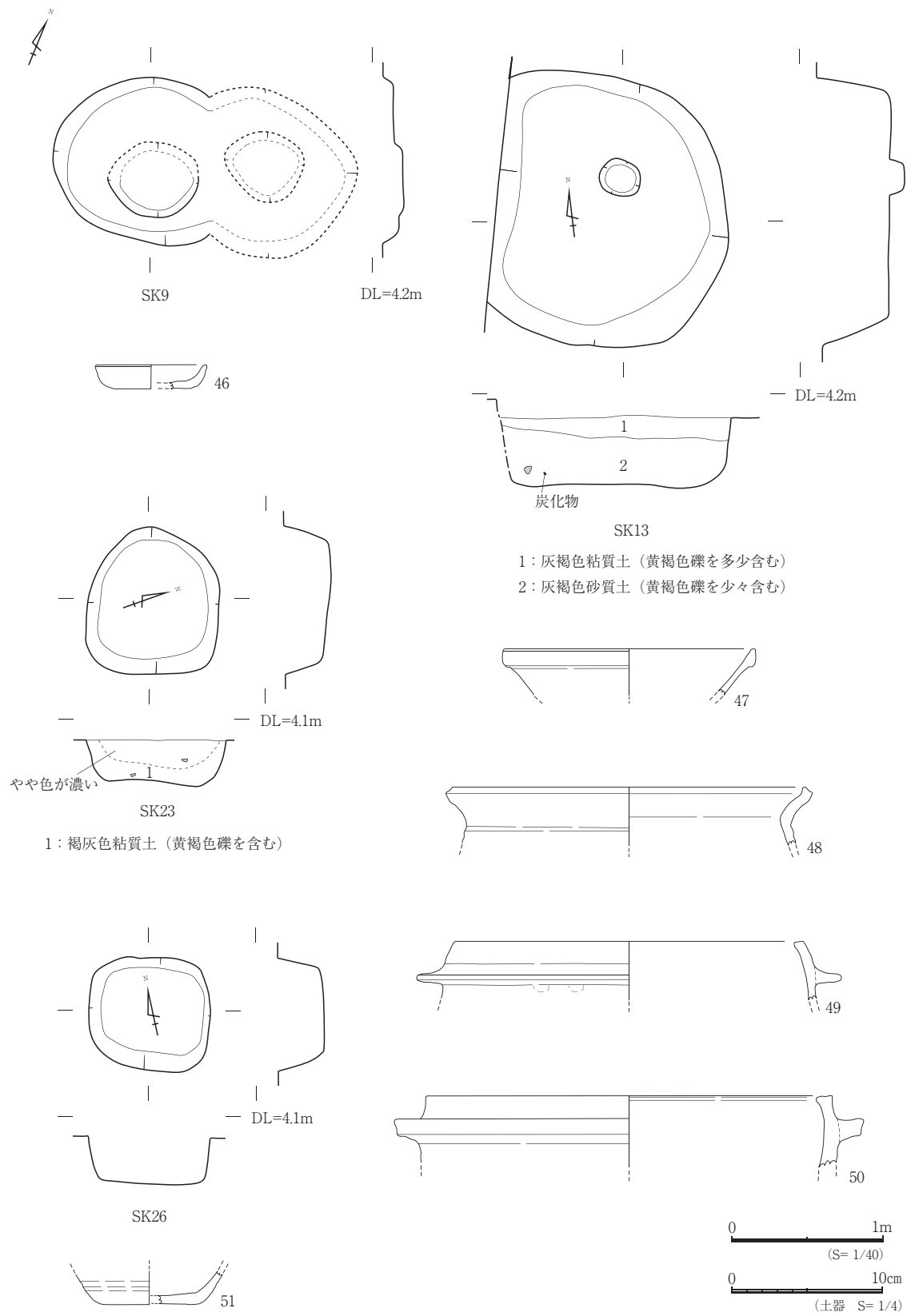
SK44は中の下面で検出した遺構でSK24に東側を切られる状態で検出した。平面形はやや歪みのある楕円形で長軸1.47m、短軸0.71mである。床面は長軸側に二段になっており西側が浅く約25cm、SK24に切られる東側がそれより約10cm深くなっている。断面形は外側に開くU字状で、埋土は上層が暗褐灰色粘質土で下層はやや暗い灰褐色砂質土である。埋土中からは土師質土器、瓦器の細片が出土し、図示できたのは平坦な底部の瓦器皿のみである。2基の土坑の可能性も考えられるが検出時や掘削時の埋土の状況から2基に分離することは困難であった。



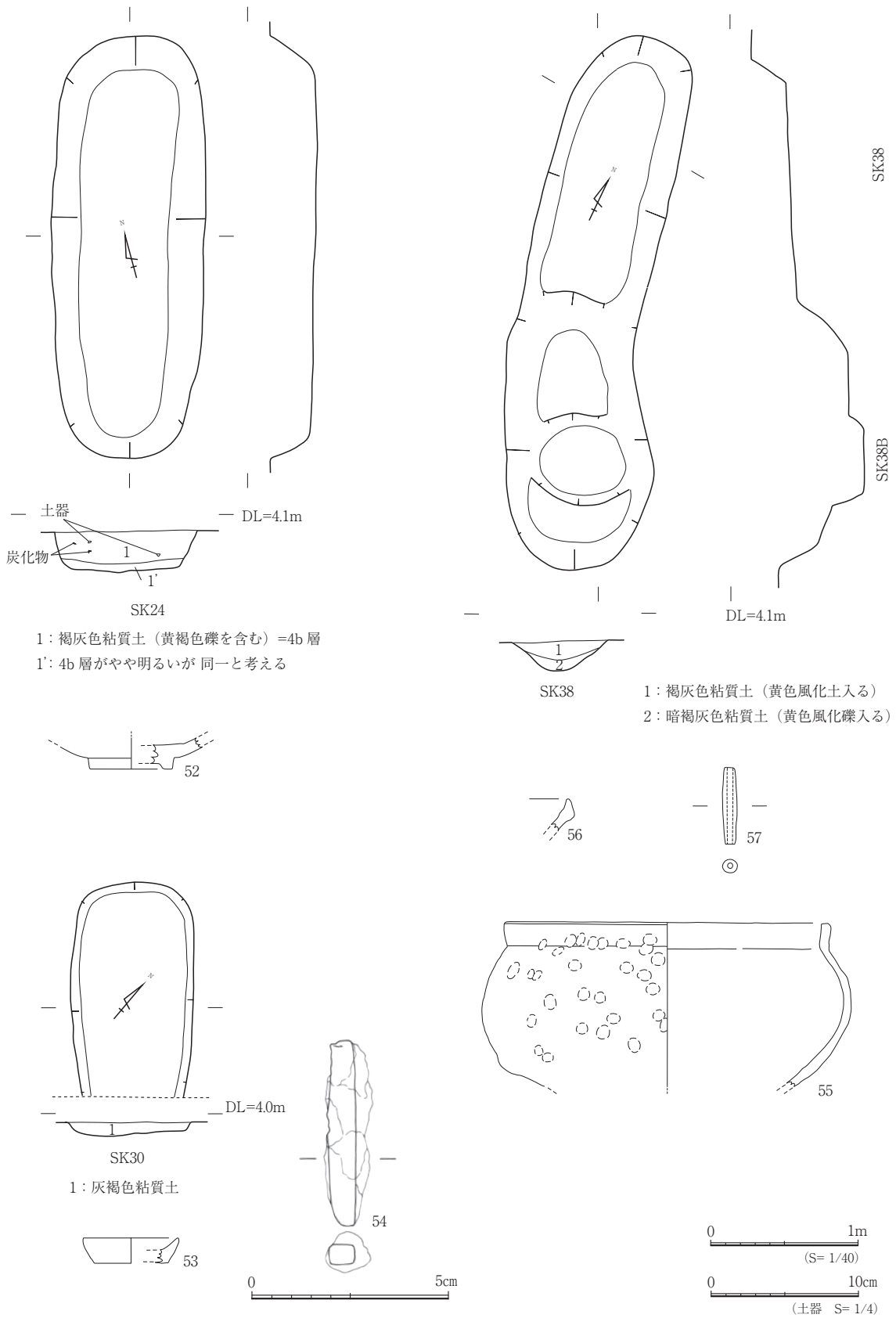
3-5図 SK1 遺物集中出土遺物



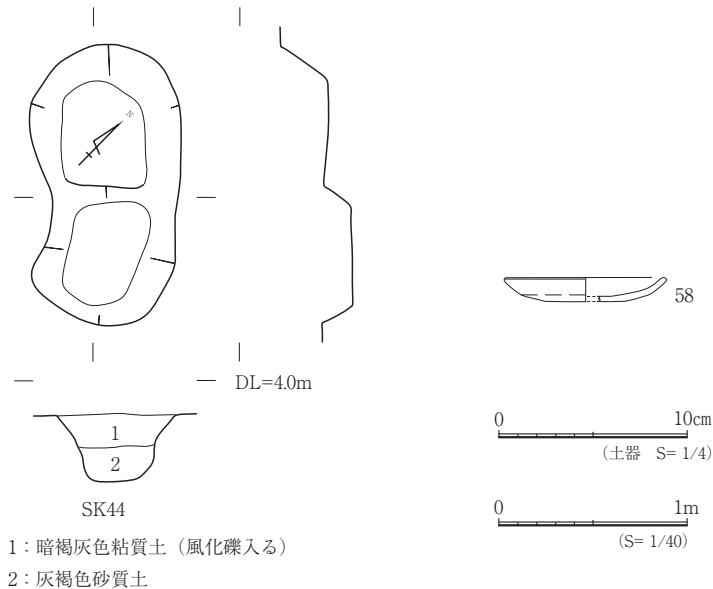
3-6図 SK1



3-7 図 SK9・13・23・26



3-8図 SK24・30・38



3 - 9 図 SK44

(2) 溝跡 (SD)

溝跡はSD1～10までとSD20の遺構番号を付け検出を行った。中の上面で検出した溝跡はSD1～5でSD5は欠番であるため4条の溝跡を確認できた。中の下面ではSD5～10までありSD2とSD5が中の上面と重複している。SD20は北側調査区である3-1区から連続したものであるため同一名称とした。

SD1

SD1は調査区北端部で中央バンクを貫通する状態で検出した。平面形態はL字状で東西方向の東端部に南に延びる部分が接続する。西端部はSD20が切る。検出規模は東西方向部分が延長約10.2m、上端幅0.8m、深さは約45cmを測り断面形は端部が開く逆台形である。埋土は褐灰色粘質土で黄褐色小礫を含む4b層相当と考えられ、床面直上には人頭大の黄褐色風化礫が多量に入る。南北方向は延長約6.0m、上端幅1.45mを測る。溝の断面形は逆カマボコ形で深さは約45cmを測る。埋土は灰褐色シルトであるが東西部分と大きな差違はなくやや暗く見える程度の違いである。上層に人頭大の黄褐色風化礫が多く入ることが東西部分と異なる。埋土中からは土師質土器、瓦器、瓦質土器、東播系須恵器、常滑焼、備前焼、鉄釘など多く出土している。図示した68は口縁部を上下に拡張し大きく下垂する常滑焼甕口縁である。14～15世紀代の可能性が考えられる。

SD2

SD2は調査区北側で検出した緩やかなL字状に延びる溝跡である。東西方向に直線的に延び調査区東側で緩やかに方向を南北に変える。南端部は攪乱坑によって切られている。下SD37と同一で合わせた検出規模は東西方向部分が延長約23.5m、上端幅0.6～0.9m、深さは約10～14cmを測り断面形は浅い皿状である。埋土は褐灰色粘砂土で4b層相当と考えられる。南北方向は緩やか

な弧状を描き延長約7.5 m、上端幅1.1 mで深さは約10cmを測る。溝の断面形は浅い皿状で埋土は褐灰色粘砂土である。埋土中からは土師質土器、瓦器、須恵器、備前焼、白磁、青磁が出土している。

SD3

SD3は中の上面の調査区東部で検出したSD7を切る溝跡である。直線的に北東方向に延びる。軸方向はN-21°-Eである。検出長は8.7 m、上端幅0.7 m、深さは約12cmを測る。断面形状は逆カマボコ形で埋土は黄褐灰色粘砂土である。埋土中からは土師質土器、瓦器、瓦質土器、青磁が出土するがいずれも細片で図示できた遺物は79の無文の青磁のみである。

SD4

SD4は中の上面で検出した遺構で調査区東端に位置する。南北方向の溝跡で3-1区に延長する。検出長は全長が26.8 mで3-2区部分は約13 mである。上端幅は0.5~1.2 mで深さは約40cmを測る。断面形は逆カマボコ形で埋土は黄灰色粘質土である。図示した80のような土師質土器も出土するが近世陶磁器が出土することやSK9・12など近世以降の土坑が埋土を切ることから近世の可能性が高いと考えられる。

SD6

SD6は中の下面で検出した遺構で調査区東部に位置する。東西方向の溝跡でSD3・4に切られる。検出長は11.2 m、上端幅0.75 m、深さ18cmを測る。断面形は薄いレンズ状で埋土は灰褐色粘砂土で、土師質土器、瓦器、瓦質土器、青磁細片が出土している。図示できたものは土師質土器小皿81と土師質釜のみで82は15世紀代の可能性が考えられる。下面で検出した下SD1と同一遺構と考えられるため検出長については下SD1とした部分も含む。

SD7

SD7は中の下面で検出した遺構で調査区東部に位置する。直線的にN-7°-Wに延び調査区を縦断し、3-3区に続いている。検出長は復元全長約45 mで3-2区検出部分は18.6 mで(間に約6 mのみ検出部分含む)、上端幅は0.35 mで、深さは約10cmを測る。断面形はレンズ状で浅い。埋土は灰褐色粘砂土で土師質土器、瓦器、白磁細片が出土している。図示できたものとして84の口禿げ口縁がある。

SD8

SD8は中の下面で検出した遺構で調査区東部に位置する。南北方向の溝跡でSD2の南北方向部分と並行する。検出長は約9 m、北端部はSX1確認トレンチに切られ、南端部は攪乱土坑に切られている。上端幅1.4 m、深さ20cmを測る。埋土は灰褐色粘質土で、埋土中には土器を多く含みそのほとんどが土師質土器である。そのほか瓦器、東播系須恵器、常滑焼などが出土している。図示できたのはいずれも土師質土器で杯、小皿である。99は叩石で混入と考えられる。SD8は南端部を攪乱土坑によって切られるが3-3区で下面で検出した下IKO1に接続している可能性が高いと考えられる。また北端部もSD37(下面)に接続し方向を東西に変える可能性が高いと考えられ、L字状になる区画溝と考えられる。3-3区下IKO1は区画溝端部の水溜状遺構の可能性が考えられる。

SD9

SD9は中の下面で検出した遺構で調査区西側に位置する。南北方向の溝跡で南端部はSK45に切られ、北側でわずかに曲がる。検出長は約2.6 m、上端幅0.25 m、深さ約10cmを測る。埋土中からは土師質土器細片がわずかに出土している。

SD10

SD10 は中の下面で検出した遺構で調査区西側に位置する。南北方向の溝跡で南端部は浅くなり消滅する。検出長は約 3.0 m、上端幅約 0.25 ～ 0.7 m、深さ約 15cmを測る。断面形は逆台形状で埋土は灰褐色粘砂土である。埋土中からは主に土師質土器細片が出土し、瓦器細片もわずかに混じる。

SD20

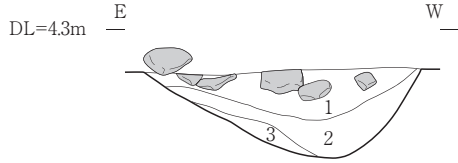
SD20 は中の下面で検出した遺構で調査区西側に位置する。直線的にはほぼ南北方向である N - 7° - E に延び 3 - 1 区に延長する。下面で検出した SD35 とほぼ並行している。検出全長は約 32 m で 3 - 2 区では約 15.5 mを検出している。上端幅は約 1.1 mで深さは 45cmを測る。断面形は逆凸形で中央部が深くなっており埋土は褐灰色粘質土、褐灰色粘性シルト、黄灰色砂質土である。埋土中からは土師質土器、瓦器、瓦質土器、青磁、白磁、常滑焼などが出土しており一遺構からの出土量としては 3 - 2 区では最も多いものとなっている。図示できた遺物は土師質土器 17 点、瓦器 4 点、青磁、土錘である。119 は瓦器椀で口縁部が二段ナデによって長くなっており紀伊産の可能性も考えられる。しっかりした溝跡であるが南端部で検出プランが弱くなり、近現代井戸跡 IKO2 が延長上にあるため確認できないが、南側には続かないものと考えられる。

X=52437.038
Y=-3389.927

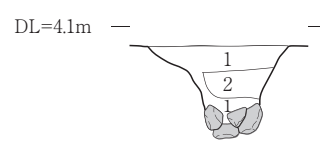
X=52437.279
Y=-3391.568

X=52442.167
Y=-3397.713

X=52443.024
Y=-3397.325



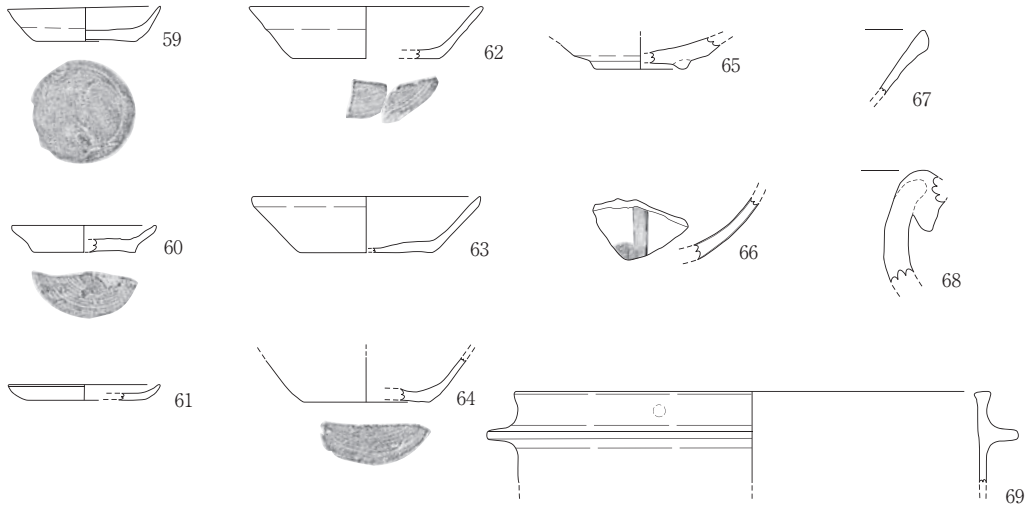
SD1 北壁



SD1W 西壁

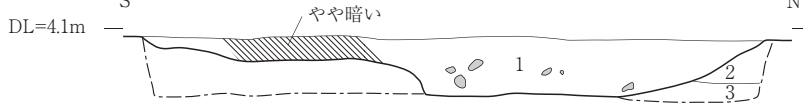
- 1: 灰褐色シルト (黄色風化礫入る)
- 2: 灰色粘砂土 (褐色土混ざる)
- 3: 灰色粘砂土 (褐色土少ない)

- 1: 褐灰色粘質土 (黄褐色礫を含む) =4b層
- 2: 灰黄色粘砂土 (1cm前後の礫が多少)



X=52431.579
Y=-3393.642

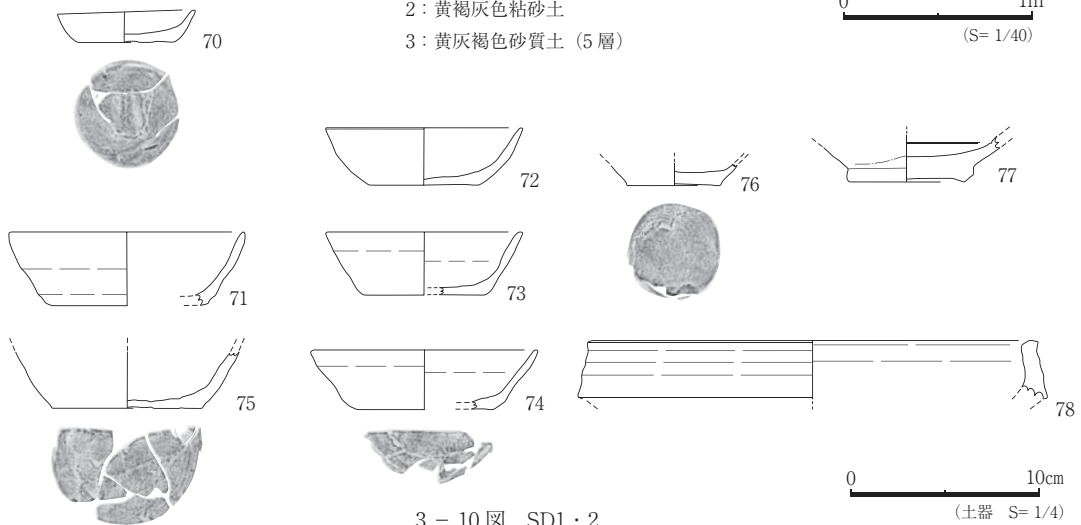
X=52434.142
Y=-3391.279



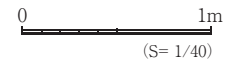
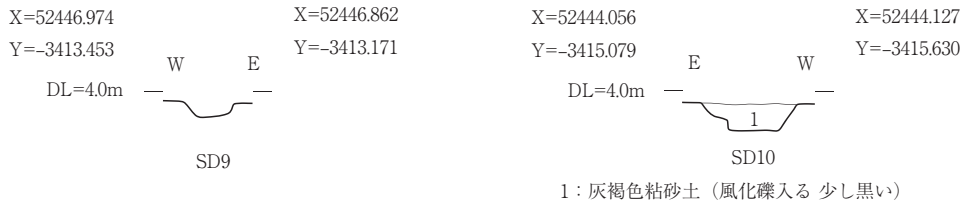
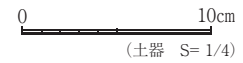
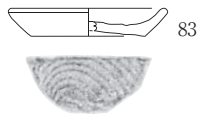
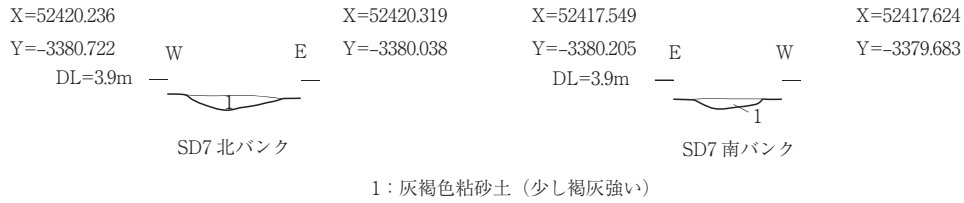
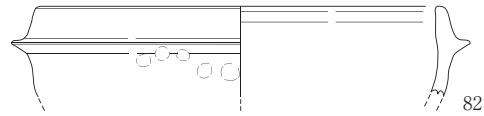
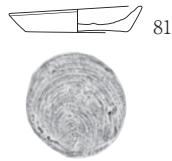
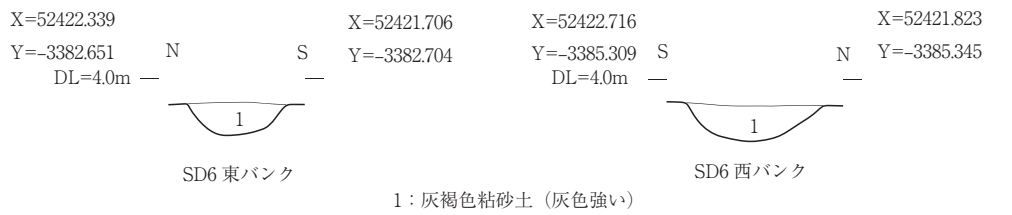
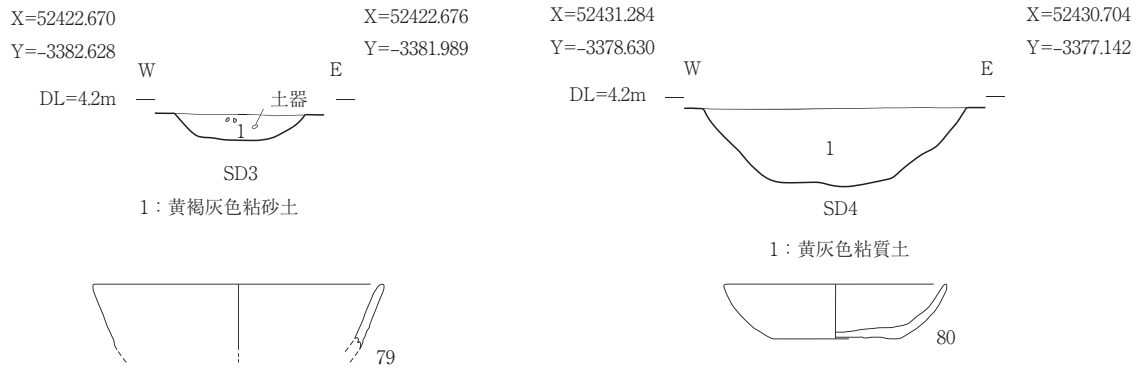
SD2

- 1: 褐灰色粘砂土
- 2: 黄褐灰色粘砂土
- 3: 黄灰褐色砂質土 (5層)

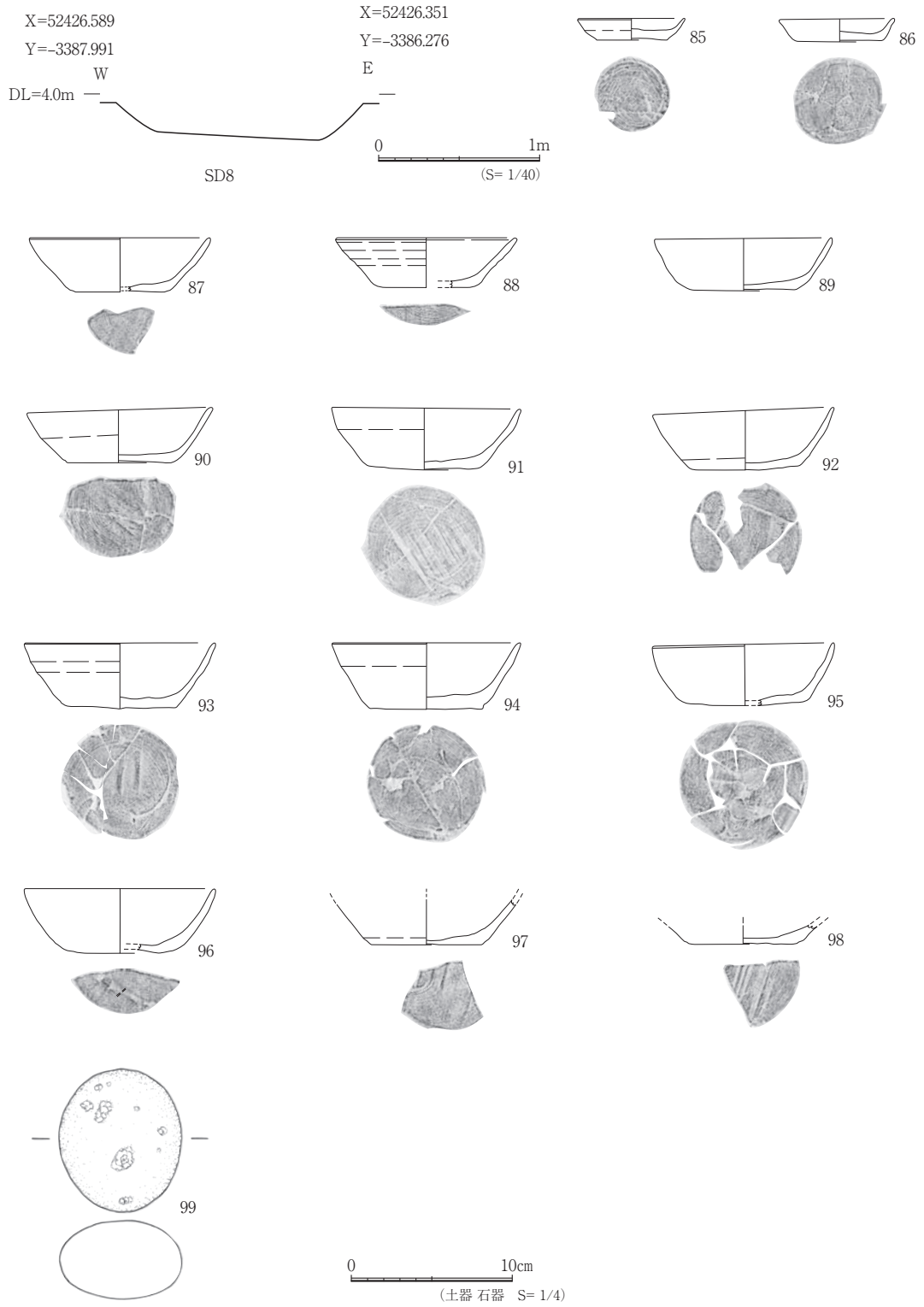
0 1m
(S= 1/40)



3-10 図 SD1・2



3 - 11 図 SD3・4・6・7・9・10



3-12 図 SD8

X=52438.258

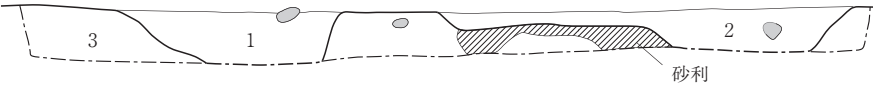
Y=-3404.821

W

DL=4.0m

X=52436.879

E Y=-3400.335



X=52441.008

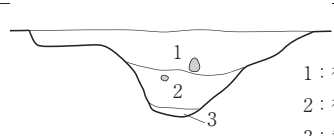
Y=-3401.652

W

DL=4.0m

X=52440.581

E Y=-3400.045



1: 褐灰色粘質土

2: 黄褐灰色粘砂土

3: 黄褐色砂質土 (SD20 と色調差なし)

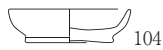
1: 褐灰色粘質土 (礫入る)

2: 褐灰色粘性シルト

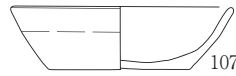
3: 黄灰色砂質土



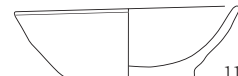
100



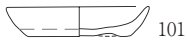
104



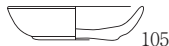
107



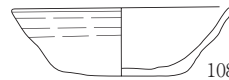
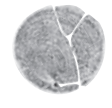
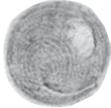
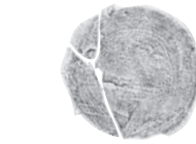
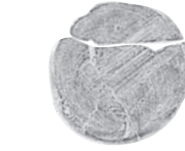
112



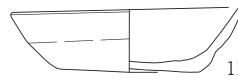
101



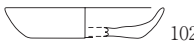
105



108



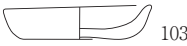
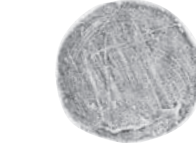
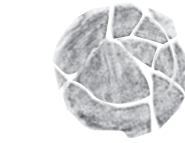
113



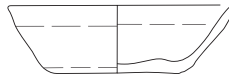
102



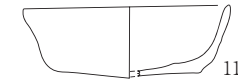
106



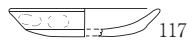
103



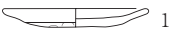
109



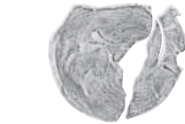
114



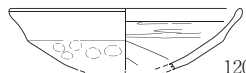
117



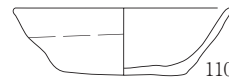
118



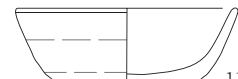
119



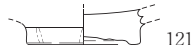
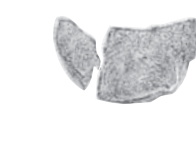
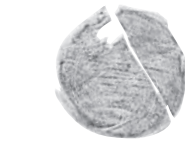
120



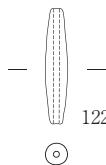
110



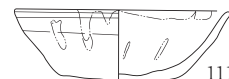
115



121



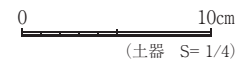
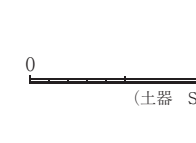
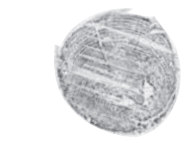
122



111



116



3 - 13 図 SD20

(3) ピット (P)

中面で検出したピットはP5～122までの遺構番号を付けたが精査の結果欠番となったものが中の上面19個、中の下面で6個あったため、中の上面で43個、中の下面50個の計93個を検出しており図示できる遺物が出土したピットは9個である。

遺構名	平面形	長径×短径 (直径) cm	深さ cm	埋土	図版No	出土遺物	備考
P1	円形	20	25	灰色シルト	123・124	瀬戸小皿、外面底部付近まで灰釉 古瀬戸Ⅲ期か、鉄釘	上面で検出
P6	(楕円形)	74×(68)	23	暗褐色粘質土	125	瓦器碗 口縁外反弱い	中の上面で検出 P5・22を切る TRに切られる
P8	円形	50	30	暗褐色粘質土	126	土師質土器杯 底部回転糸切り	柱痕上部分直径20cm、深さ9cm
P18	円形	67	27	暗褐色粘質土	127・128	127 備前播鉢 128 土錘 重さ4.0g	
P66	円形	38	23	暗褐色粘質土	129	土師器碗 丸みを帯びた体部口縁部は緩やかに外反	中の下面で検出
P93	円形			暗褐色粘質土	130	土師質土器杯 底部回転糸切り	SD20を切る
P113	楕円形	52×38	10	暗褐色粘質土	131	瓦器碗 深い体部、内面が比較的緻密	中の下面で検出
P116	円形	36×30	34	暗褐色粘質土	132	須恵器壺底部、高台有り	中の下面で検出
P122	楕円形	25	18	暗褐色粘質土	133	瓦器碗 高台消滅、和泉型瓦器Ⅳ-3～4期	中の下面で検出

表3-2 中面ピット計測表

(4) 性格不明遺構 (IKO)

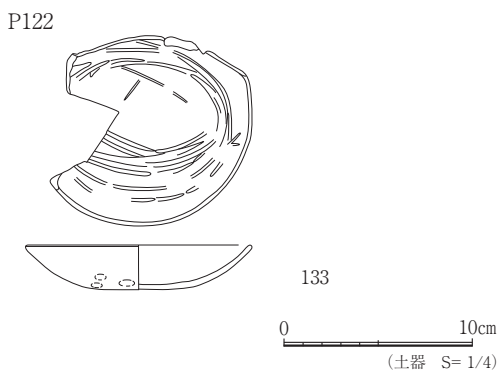
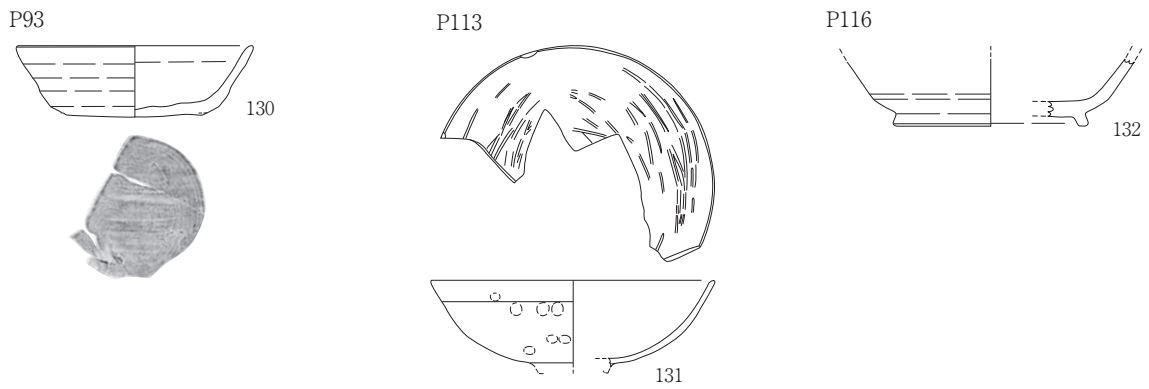
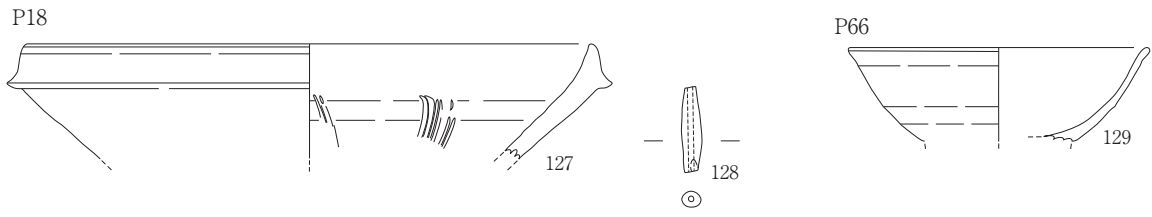
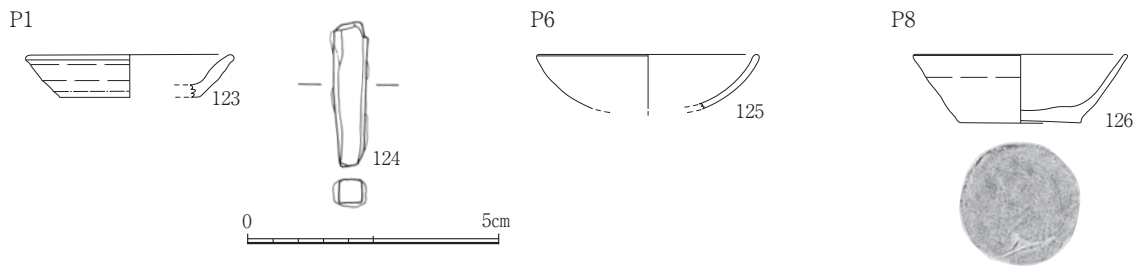
遺構検出当初規模性格不明であった遺構について IKO1～4 と名称を付け調査を行った。IKO3 は検出のみで掘削を行わず欠番とした。IKO1 は石列状遺構であったため石列1とし IKO2 は近現代井戸跡と判明したため掘削を行わなかった。IKO4 は SX1 と同一の遺構であることが判明した。SX1

SX1 は中の上面の調査区東北部で検出した遺構で北側を近現代溝跡 (TR28) が東西に貫き北半分が壊されている。検出規模は 7.0 m × 6.2 m、深さ約 80cm の不整形な円形の遺構である。検出時には埋土が同心円状に二重に確認でき内側を SK4、外側を IKO4 としたが同一の遺構であることが判明したため SX1 とした。

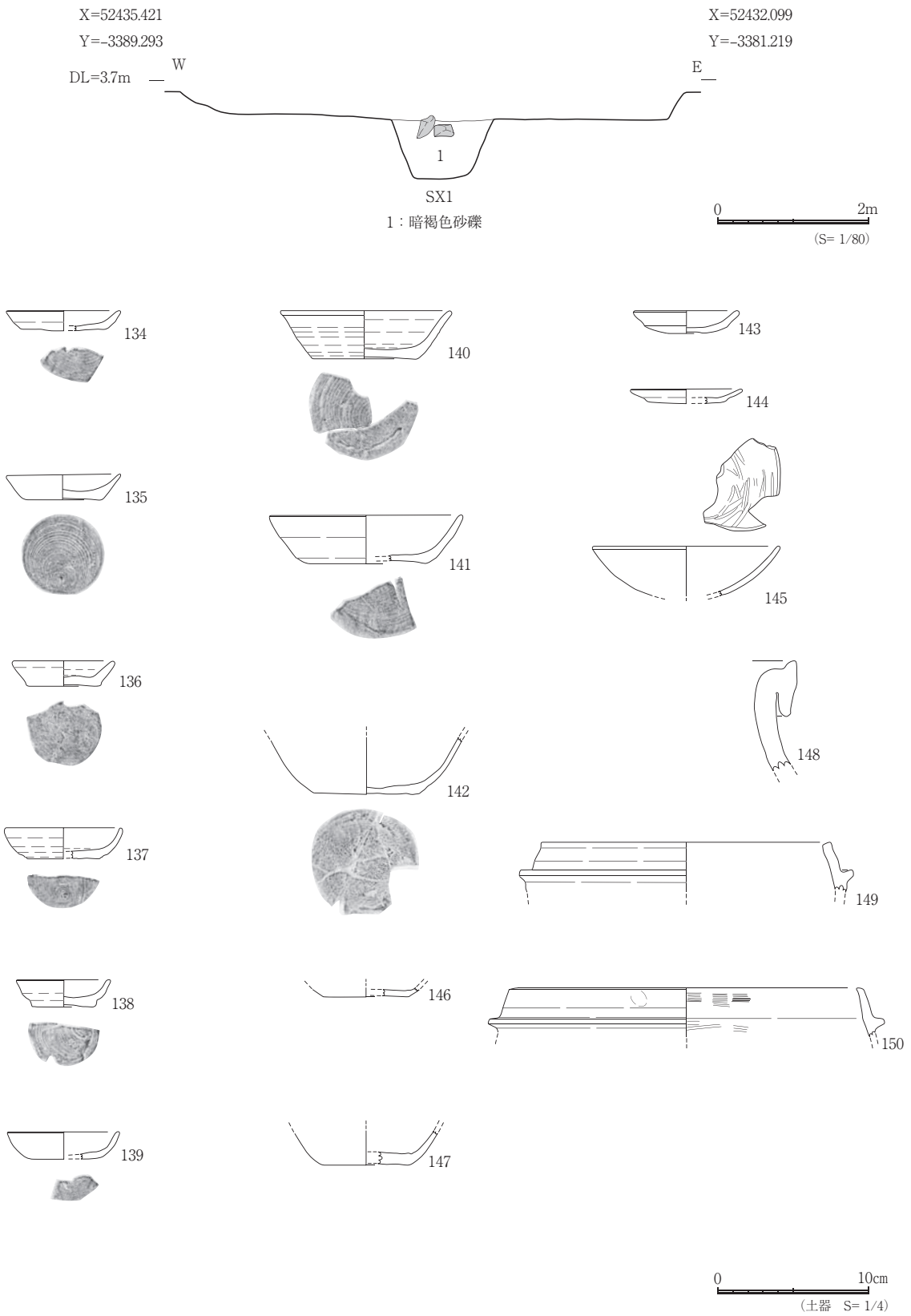
SX1 の南側の中心より外れた部分に全長約 1.8 m、全幅約 0.9 m の平坦な石が据えられた状態で検出したため、井戸跡の可能性が考えられたが直下では石組み等は検出できなかった。しかし、遺構中央部の検出面から約 20cm 下で 1.3 m × 0.9 m の範囲で集石状に石が検出できた。石材は砂岩の割石で最も大きなもので 30cm × 45cm 程度であった。積み石状にはならず床面から浮いた状態であった。

集石を除去すると三角形に近い不整形な土坑プランが確認でき、検出した土坑は全長 1.7 m、全幅 1.7 m、深さ 76cm を測る。床面標高は約 2.6 m である。埋土は暗褐色砂礫土で埋土中から遺物は確認できなかった。

SX1 の埋土は灰褐色粘砂土を中心としたもので埋土中からは土師質土器、瓦器、瓦質土器、東播系須恵器、白磁、青磁、常滑焼などが出土している。南側で検出した平坦な石の周辺で比較的まとまった状態で遺物が出土し土師質土器小皿 6 点、杯 3 点を図示した。その他では口縁部を頸部に付く程大きく拡張した 148 の常滑焼甕や 150 の土師質羽釜などを図示した。これらは 14 世紀末までの可能性が高いと考えられる。SX1 は井戸の可能性が考えられるが床面中央の土坑からは湧水もなく井筒も確認できなかったため特定できない。



3-14 図 中面ビット出土遺物



3-15 図 SX1

4. 下面の遺構と遺物

遺構検出標高は約 3.8 ～ 3.6 m である。土坑は 6 基を検出し下 SK1 ～ 6 までの遺構番号を付けた。ピットは 9 個検出でき下 P1 ～ 6 までの遺構番号を付けた。溝跡は 4 条を検出し SD35・36・37、下 SD1 とした。

(1) 土坑 (SK)

6 基検出し、いずれも調査区西側からの検出である。下 SK4 ～ 6 は直線上にはほぼ 2m の等間隔で並んでおり掘立柱建物跡の可能性が考えられたが他の柱穴が検出できなかったため土坑の中で報告する。

遺構名	長径×短径×深さ (m)	平面形	断面形	長軸方向	付属遺構	出土遺物	時期	備考
下 SK1	1.24 × 1.19 × 0.26	円形	皿状	N - 0° - E		土師質土器・瓦器・青磁		和泉型瓦器Ⅳ期～
下 SK2	(0.65) × 0.6 × 0.10	円形	逆台形	N - 10° - E				
下 SK3	0.91 × 0.74 × 0.08	楕円形	皿状	N - 81° - W				
下 SK4	1.01 × 0.73 × 0.18	楕円形	箱形	N - 50° - W	P5	土師質土器、瓦質土器		
下 SK5	0.93 × 0.85 × 0.06	楕円形	皿状	N - 32° - E		土師質土器		
下 SK6	0.76 × 0.65 × 0.14	円形	逆台形	N - 15° - E		土師質土器		

表 3 - 3 下面土坑一覧表

下 SK4

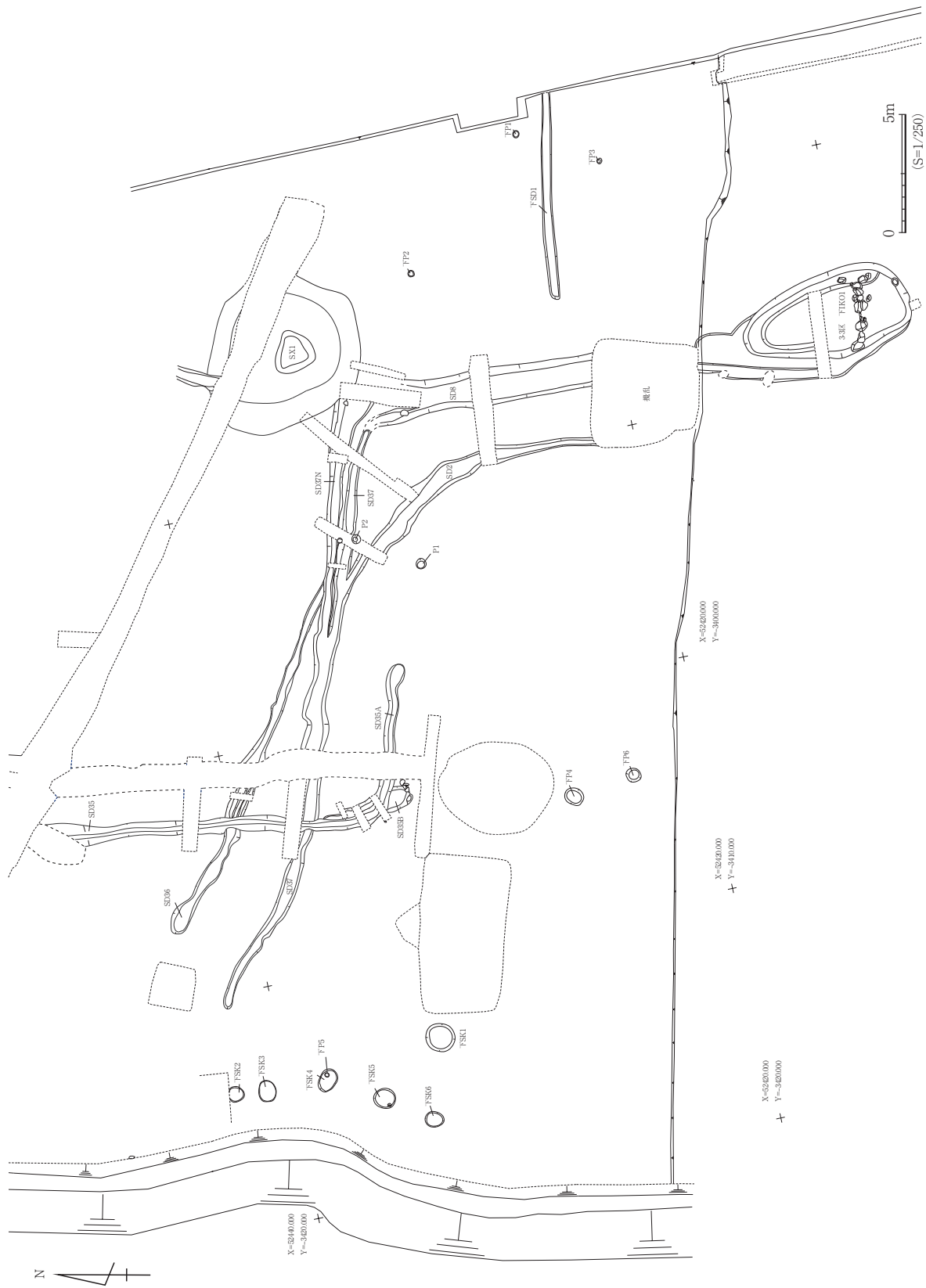
下 SK4 は下 SK4 ～ 6 の北端の土坑で平面形は楕円形で長軸約 1.0 m、短軸 0.73 m、深さ約 18cm を測る。断面形は箱形で埋土は淡灰褐色粘質土に黄色小礫が混じる。埋土中からは土師質土器、瓦質土器の細片が少量出土している。西側床面から下 P5 を検出したが、埋土も同一で下 SK4 の一部と考えられる。下 P5 は直径約 18cm、深さ約 7cm を測り遺物は出土しない。

下 SK5

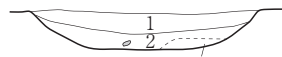
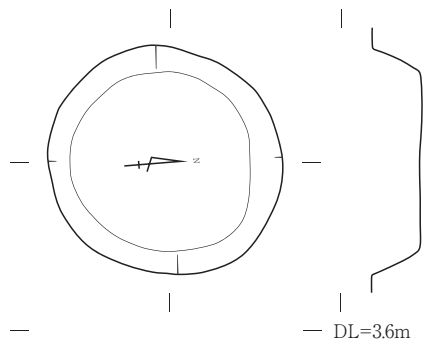
北側の下 SK4 と中心間で 2.2 m、南側の下 SK6 とは中心間で約 2.1 m 離れた土坑列の中央に位置する土坑である。平面形は円形で長軸 0.93 m、短軸 0.85 m、深さ約 6cm を測る。断面形は皿状で埋土は淡灰褐色粘質土に黄色小礫が混じる。埋土中からは土師質土器の細片が少量出土している。中の上面で検出した SK47 が上層に存在する。

下 SK6

土坑列の南端に位置する。平面形は楕円形で長軸 0.76 m、短軸 0.65 m、深さ約 14cm を測る。断面形は浅い逆台形で埋土は淡灰褐色粘質土に黄色小礫が混じる。埋土中からは土師質土器の細片が少量出土している。



3-16図 下面遺構全体図



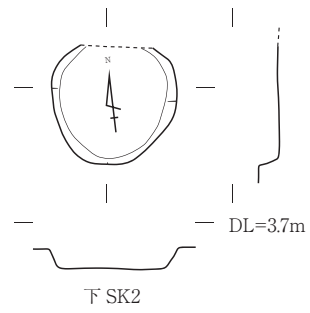
砂質ブロック

下 SK 1

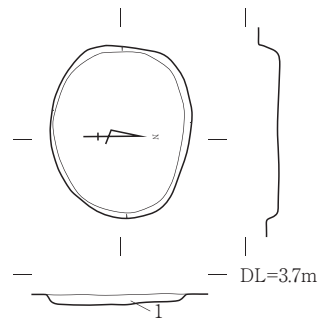
- 1: 褐灰色粘質土
- 2: 黄褐灰色粘砂土 (地山より少し色濃い)



0 10cm
(土器 S=1/4)

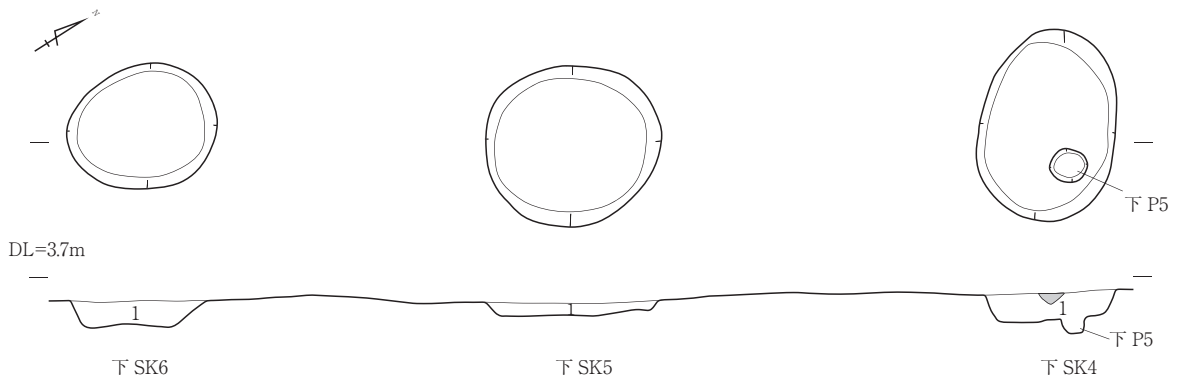


下 SK2



下 SK3

- 1: 淡灰褐色粘砂土 (黄色砂質礫入る)



- 1: 淡灰褐色粘質土 (黄色礫入る)

0 1m
(S= 1/40)

3 - 17 図 下 SK1 ~ 6

(2) 溝跡 (SD)

溝跡は4条を検出し遺構番号をSD35～37、下SD1とした。SD35～37は3-1区を担当した調査班が調査を行ったため3-1区からの連番となっており、3-2区ではSD21～34は存在しない。下SD1は中の下面で検出したSD6と同一遺構の可能性が高く、SD6で報告した。

SD35

SD35は南北方向部分から南端部で90°屈曲し東に延びるL字状の溝跡(A部分)と北端部から約9.7m南で重なるように分かれ短かく方向を東に変え終結する部分(B部分)が存在する。南北部分は検出長約12.5m、上端幅約0.6m、深さ約28cmを測る。東西部分は検出長約6.0m、上端幅約0.5m、深さ25cmを測る。断面形はいずれも舟底形であり埋土はにぶい黄褐色粘性土で黄褐色風化小礫を含む。埋土中からは土師質土器、瓦器、白磁、土錘などの細片が多く出土している。出土遺物では小皿が多く貯蔵具は出土しない。煮炊具は瓦質土器の胴部の細片のみが出土している。A部分とB部分については埋土に大きな違いが見られず検出も同一の溝跡として行っており、時間差のない掘り直しの可能性が考えられる。いずれも端部がやや丸みを帯び大きく水溜状になることなどから区画溝の可能性が高いと考えられる。

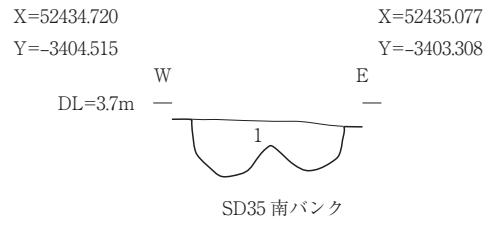
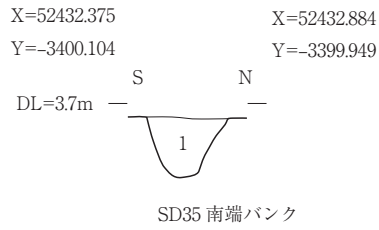
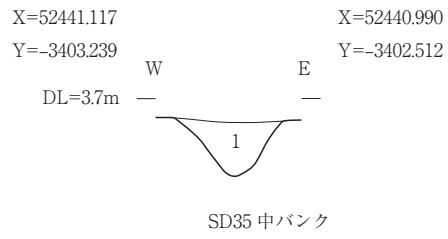
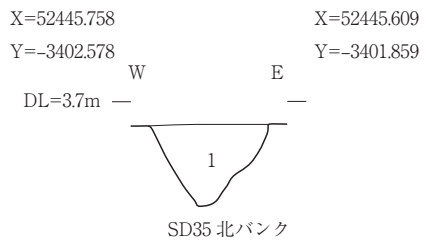
SD36

SD36は調査区北側で検出したN-54°-W方向に延びる溝跡でSD35とSD37に切られている。検出長は約15.8m、上端幅約0.85m、深さ8cmを測る。埋土は暗灰色シルトで埋土中からは土師質土器、瓦器、常滑焼などの細片が少量出土する。図示できた遺物は柱状高台の小皿と158の完形の瓦器椀のみである。158は口径約12cm、器高3.0cmと口径比して器高が低くなり高台も退化しわずかに残るのみで和泉型瓦器椀IV-2期～IV-3期で14世紀代と考えられる。

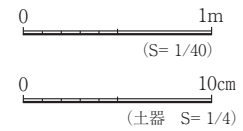
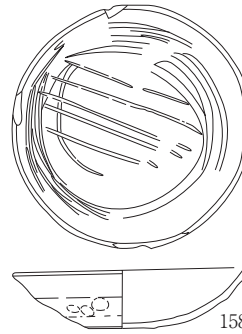
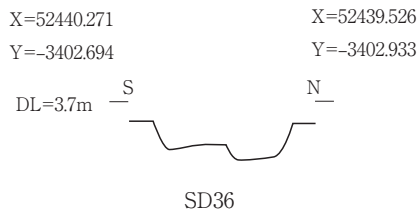
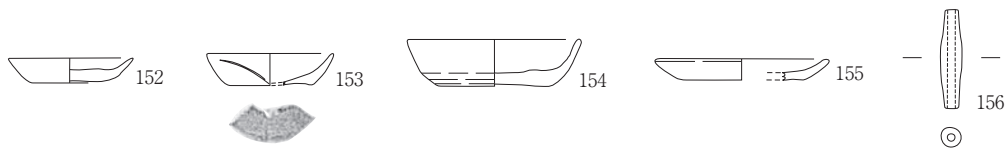
SD37

SD37は下面で検出したN-72°-W東西方向の溝跡で西端部から約16mの地点で2条の溝に分かれ並行して東進する。南側のSD37と北側のSD37NともにSX1より東側では検出できなかった。SD37の検出長は25.1m、上端幅約0.5m、深さ約19cmを測る。SD37Nは検出長約26.2m、上端幅約0.6m、深さ約35cmを測る。断面形はSD37が逆カマボコ形、SD37N部分が箱形で深くなっている。埋土は同一で灰褐色シルトに1～2cm大の礫を含むものである。また一部下層で洪水堆積によると考えられる灰黄色シルトが堆積している。埋土中からは土師質土器、瓦器、瓦質土器、須恵器、青磁、鉄滓が出土している。図示できたものでは159・162・165～167・171・173～175・178・179がSD37部分出土、160・161・163・164・168～170・172・176・177がSD37N部分出土の遺物である。土器様相に差異は認められず同時期と考えられる。177は、和泉型瓦器のIV-2期～IV-3期と考えられる。

SD37と他の溝跡との関係では中面で検出したSD2と南北の直線部分が重なることから同一の溝跡と考えられる。またSD2と並行するSD8とも下層で検出した東端部で接続している可能性が考えられる。いずれもL字状の平面形で区画溝の可能性が高く、同時併存もしくはあまり時期差のない掘り直しの可能性が考えられる。



1: にぶい黄褐色 (10YR) 粘性土

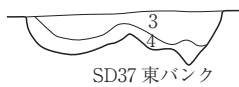


X=52432.657
Y=-3392.545 S
DL=3.9m

X=52433.797
N Y=-3392.145

X=52431.522
Y=-3389.366 S
DL=3.9m

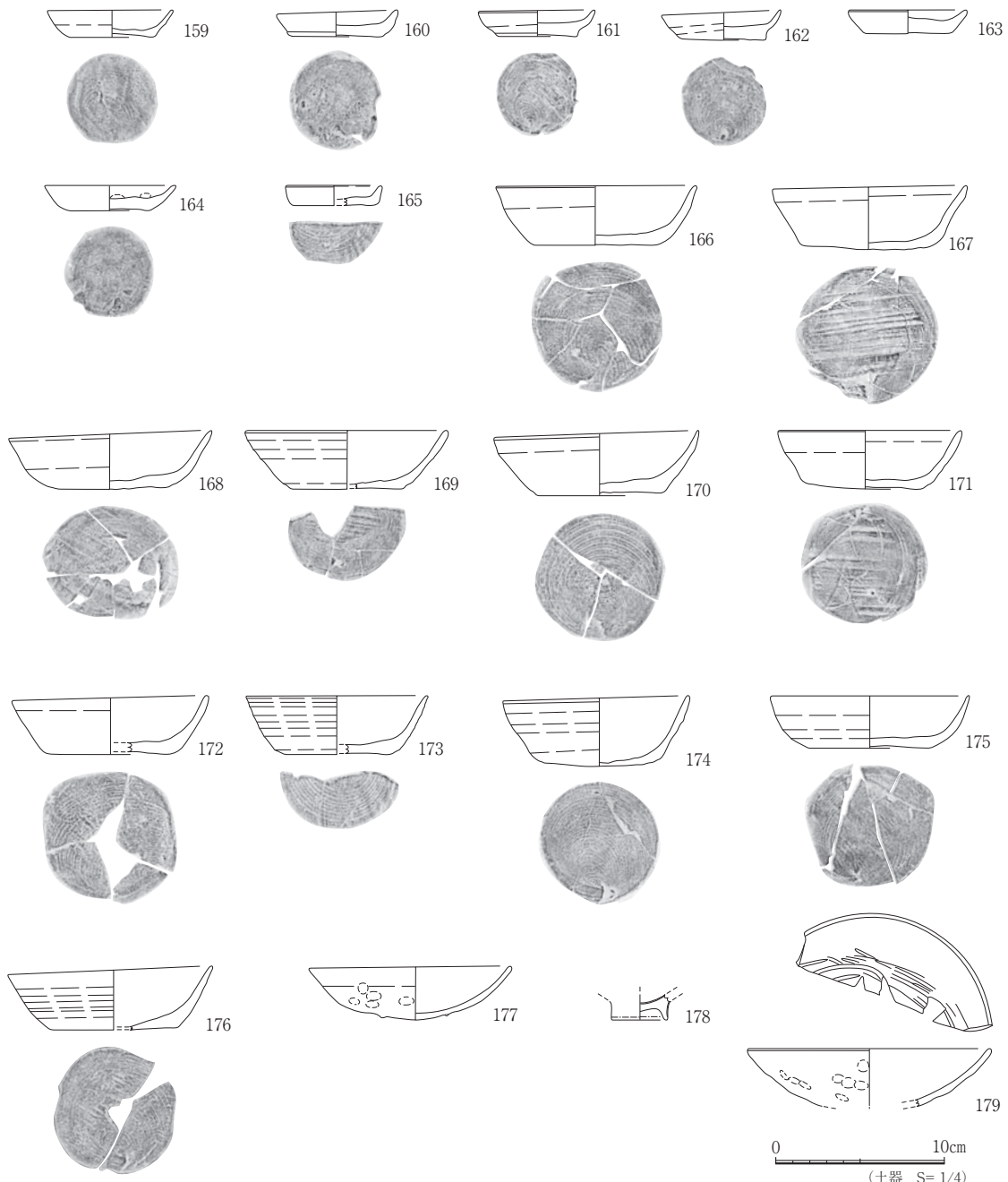
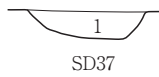
X=52433.039
N Y=-3388.823



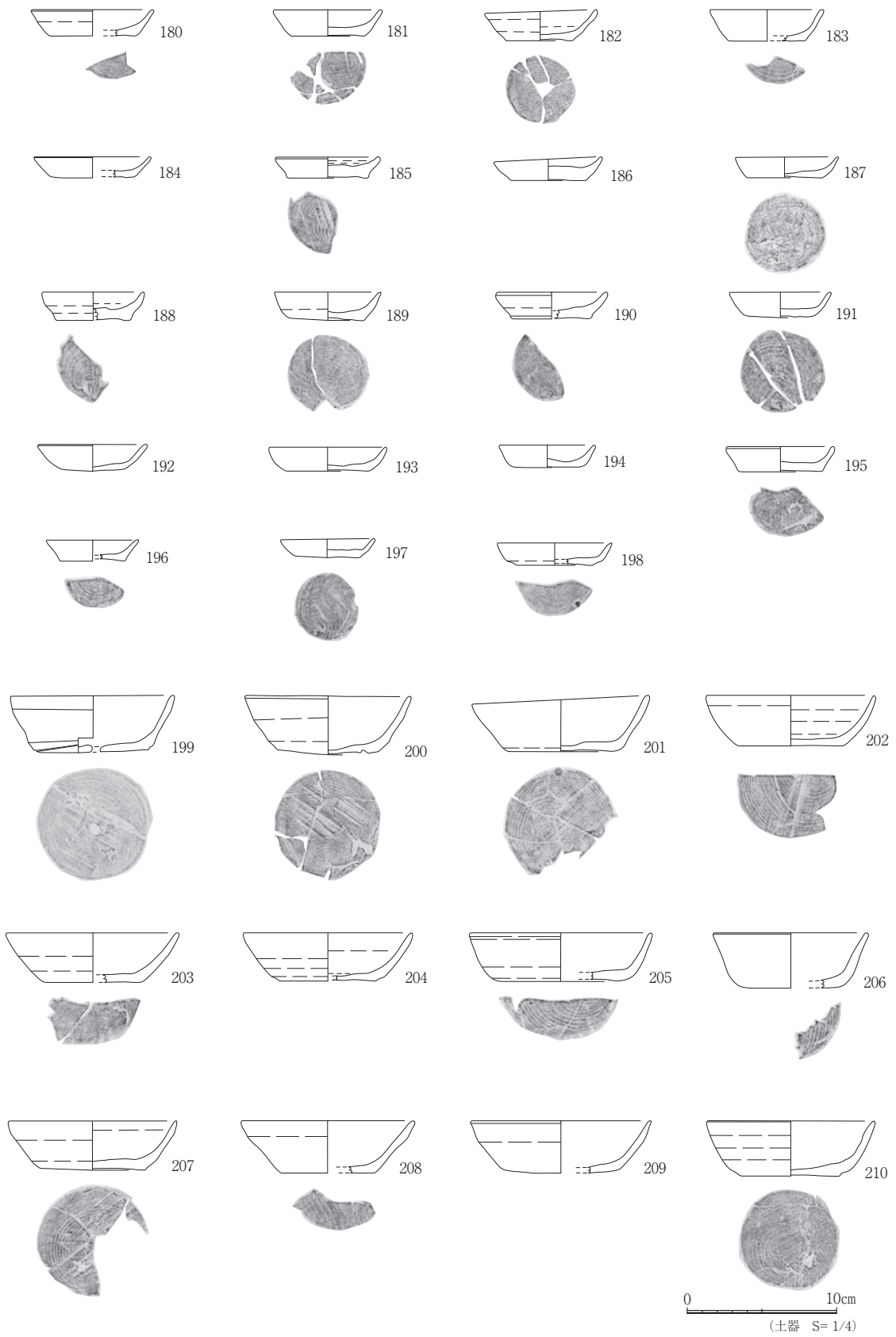
X=52436.232
Y=-3402.603 S
DL=3.7m

N X=52436.942
Y=-3402.400

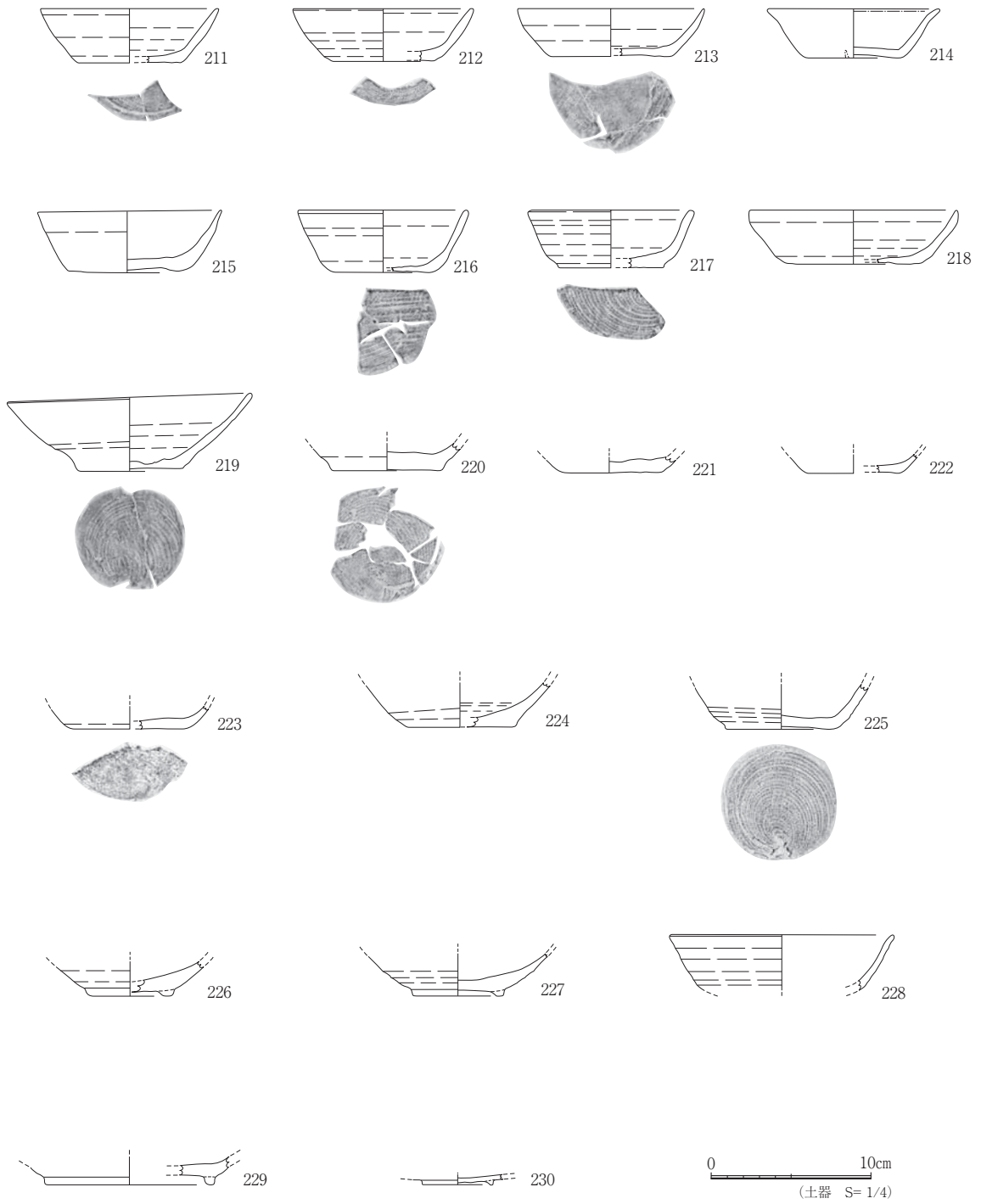
- 1: 黄褐色 (10YR) 細~粗砂 小礫
- 2: 灰褐色 (10YR 5/1) シルト (1~2cm大の礫が多く入る 黄色風化礫少量含む)
- 3: 灰黄褐色 (10YR 5/2) シルト (1~5cm大の礫含む 黄色風化小礫を含む)
- 4: 灰黄褐色 (10YR 4/2) シルト~砂 (河川堆積 洪水時に堆積したものか)



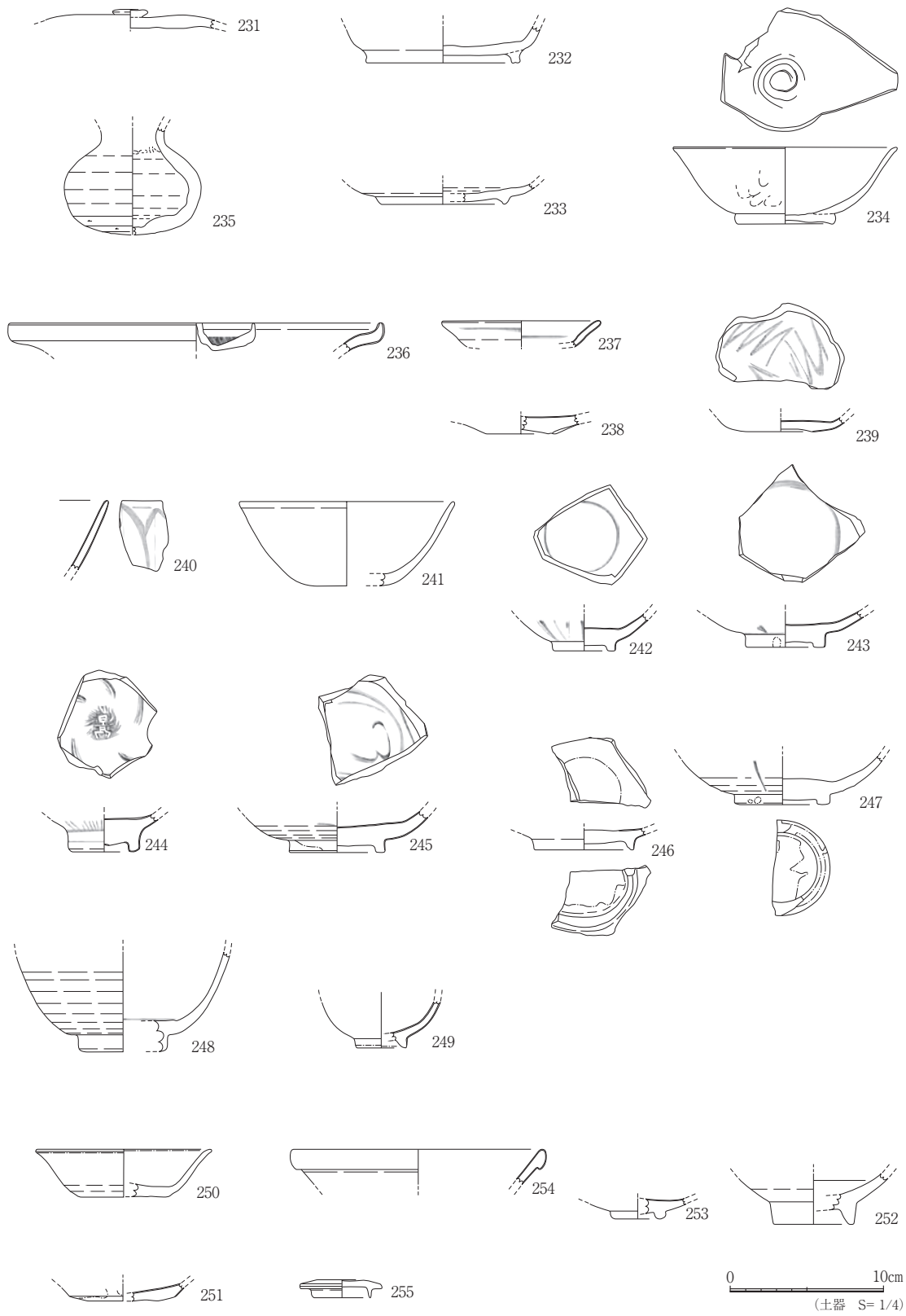
3-19図 SD37



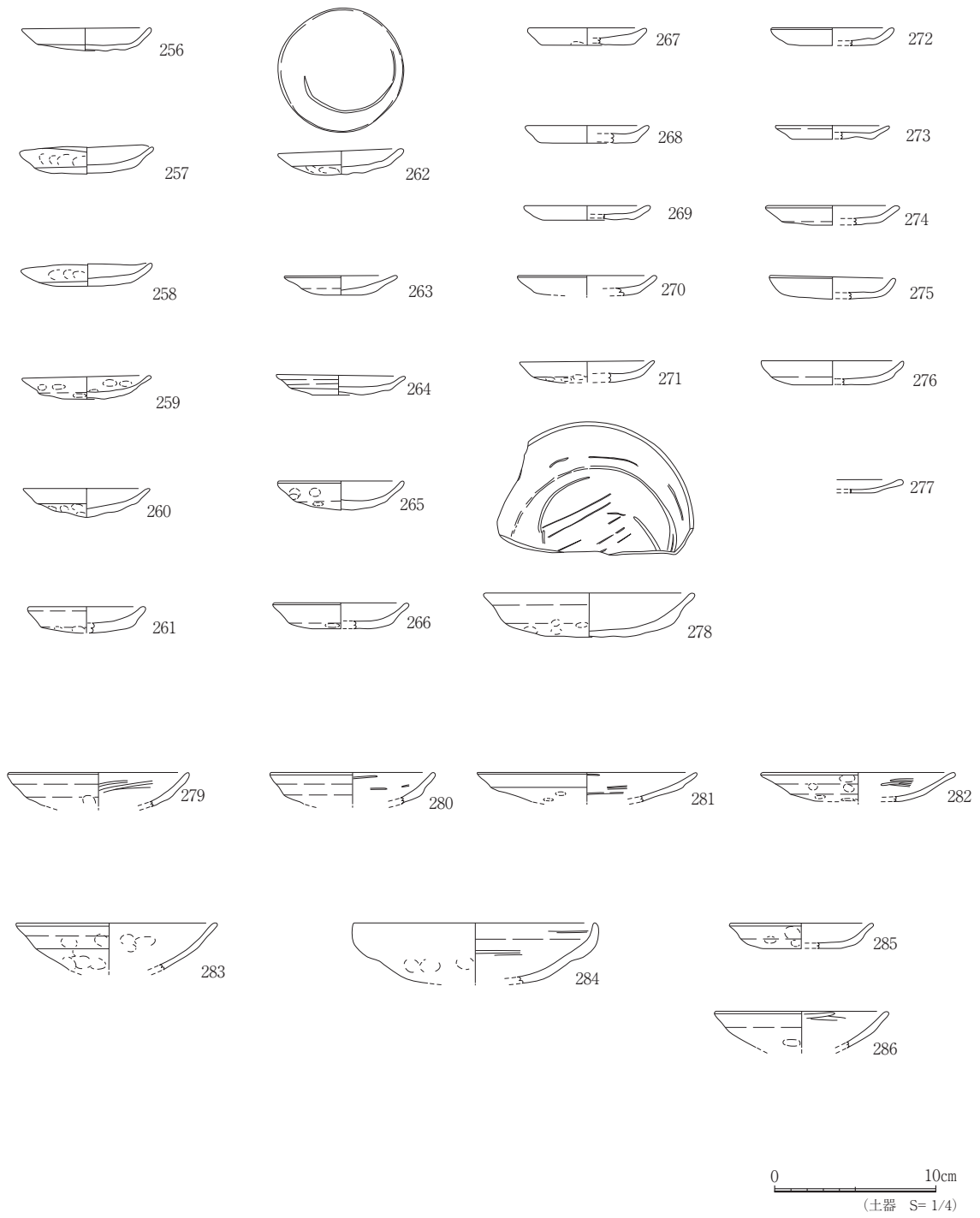
3 - 20 図 4 層出土遺物 1



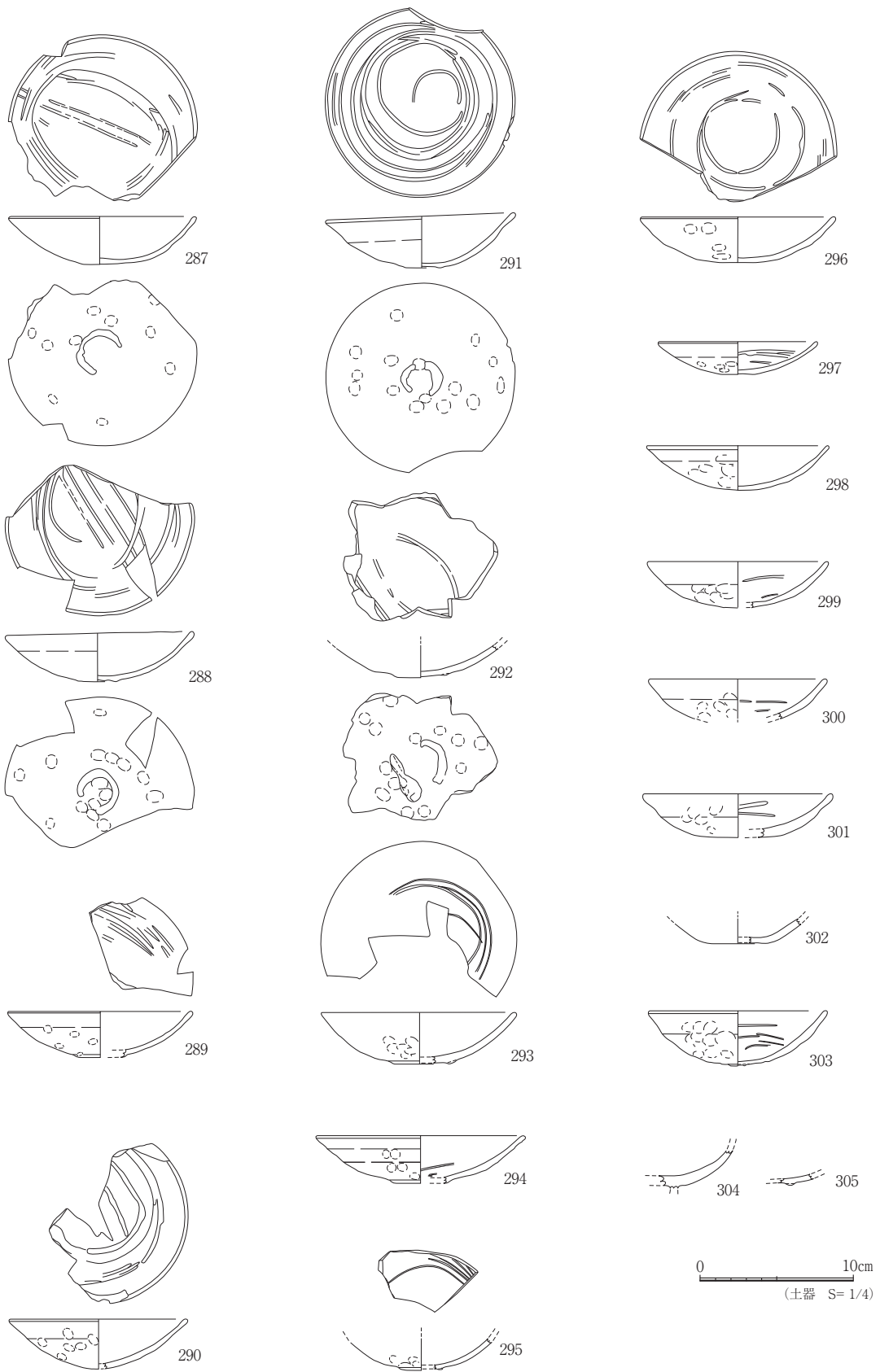
3-21 図 4層出土遺物 2



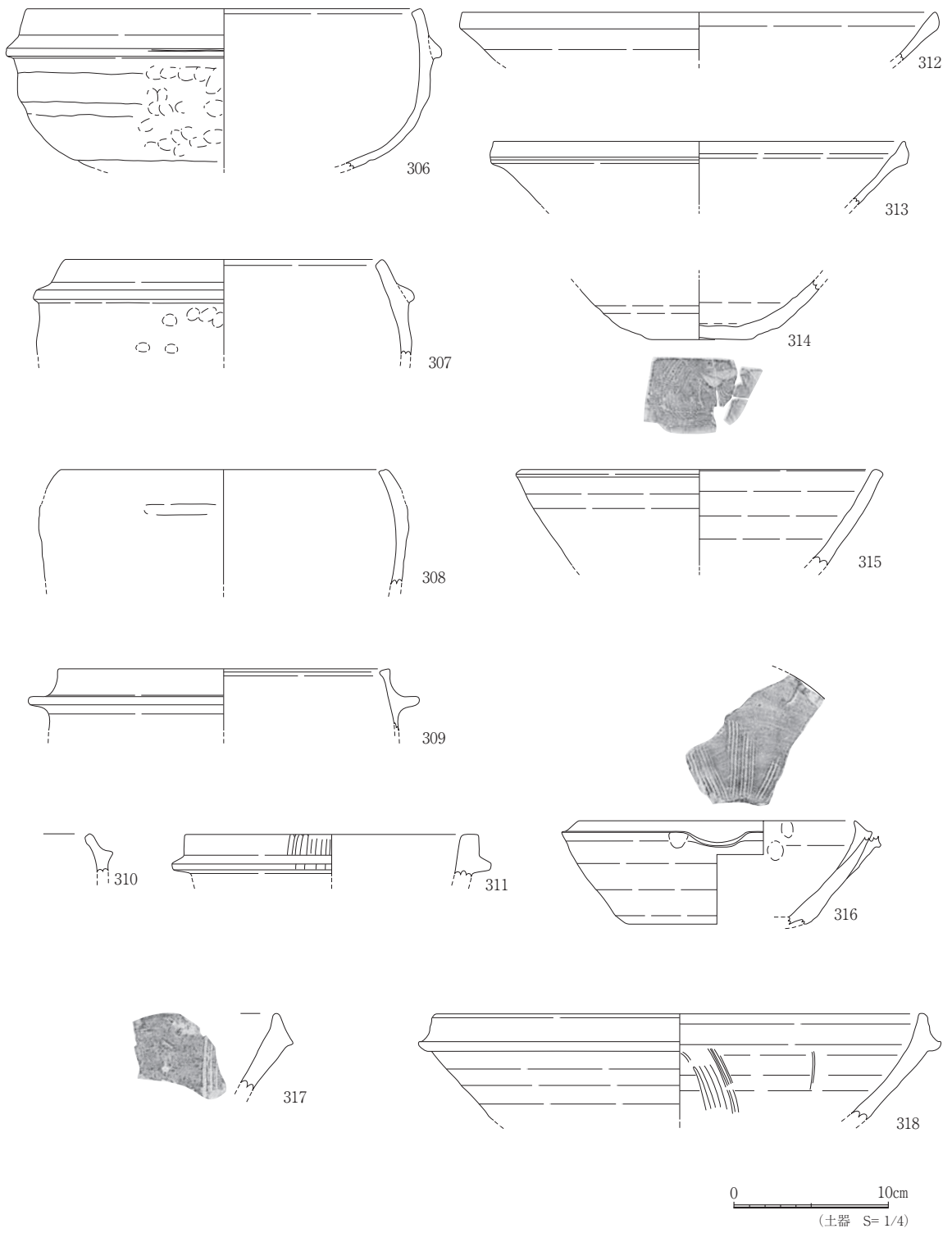
3 - 22 図 4 層出土遺物 3



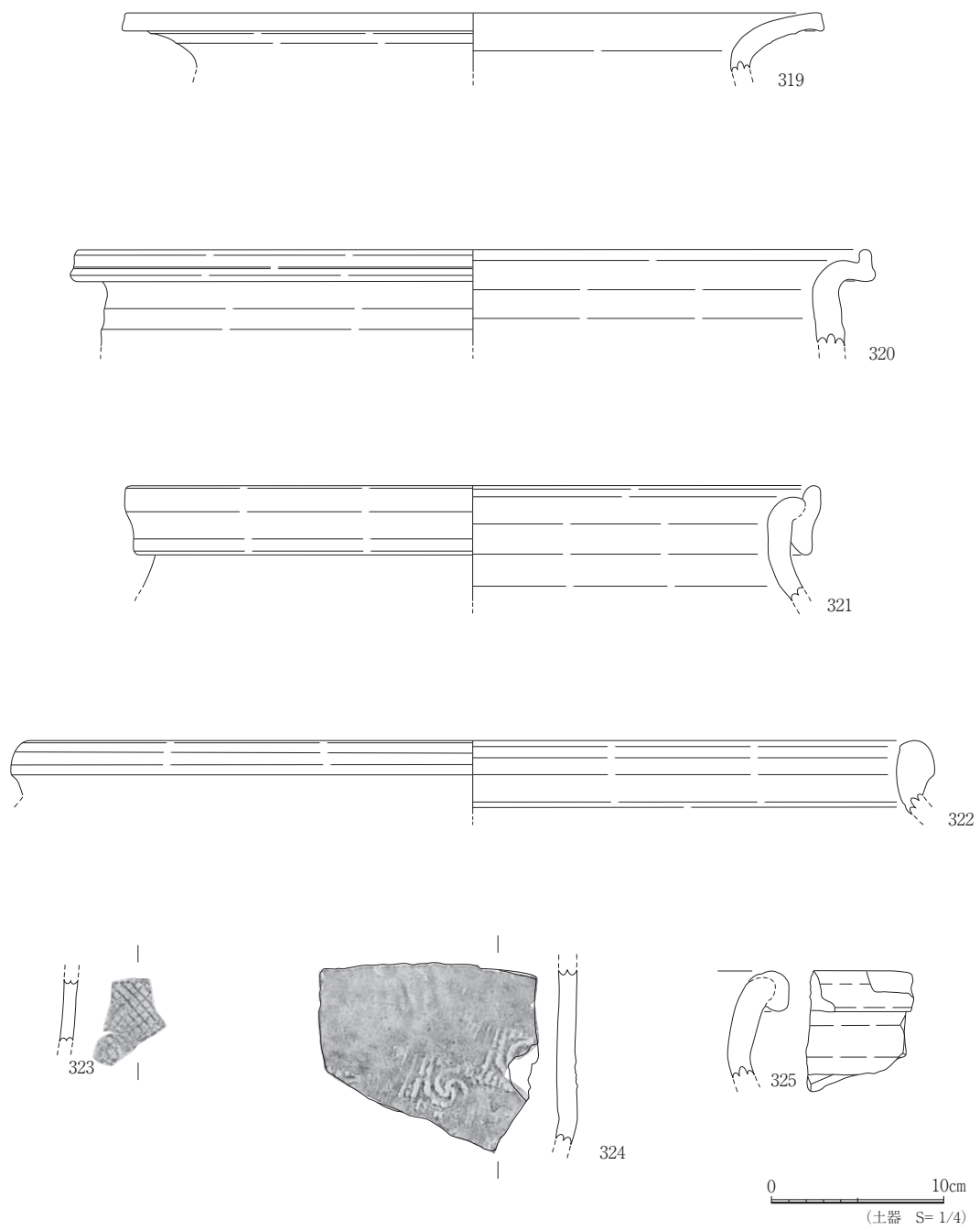
3-23 図 4層出土遺物 4



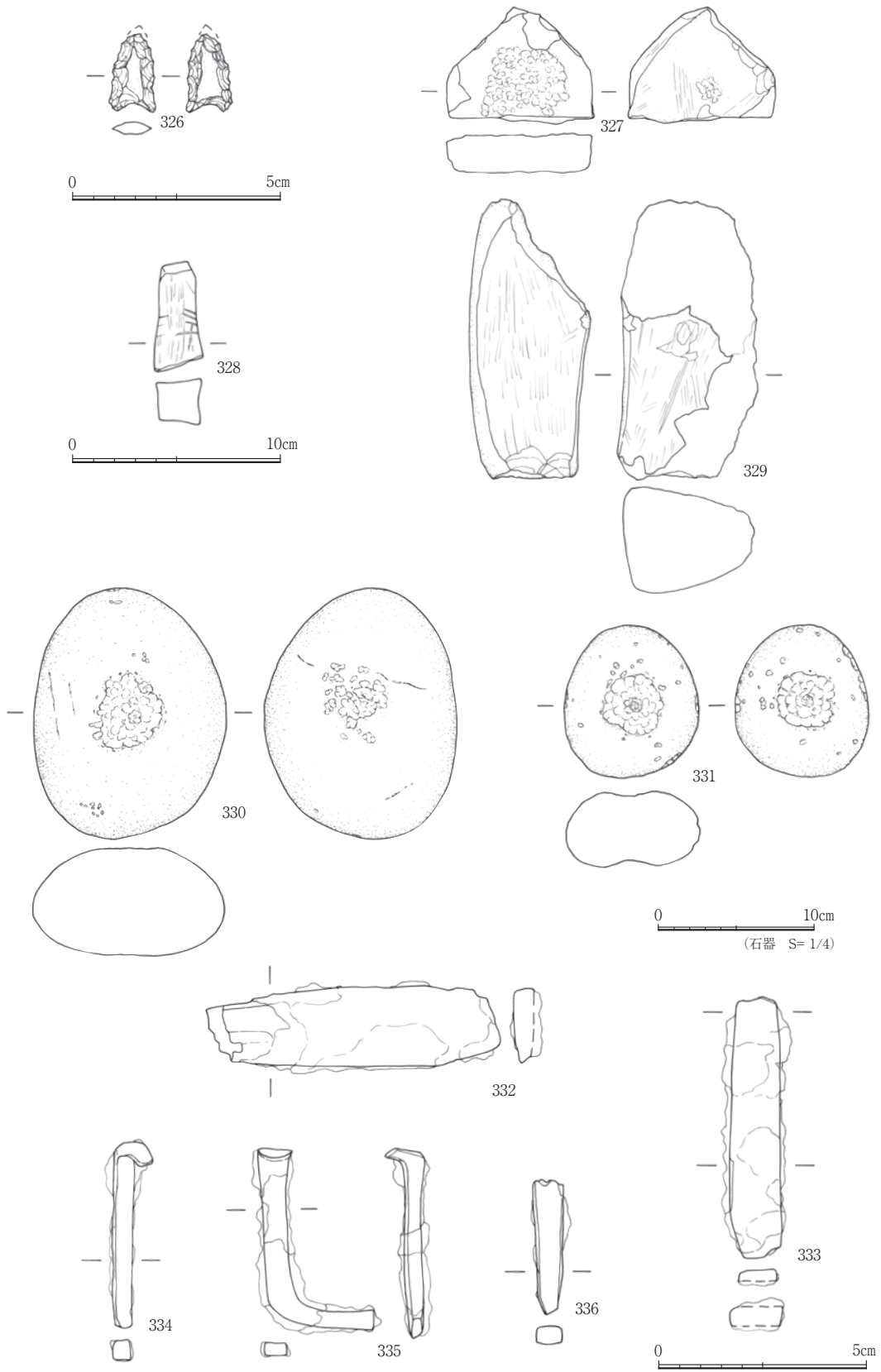
3 - 24 图 4 层出土遗物 5



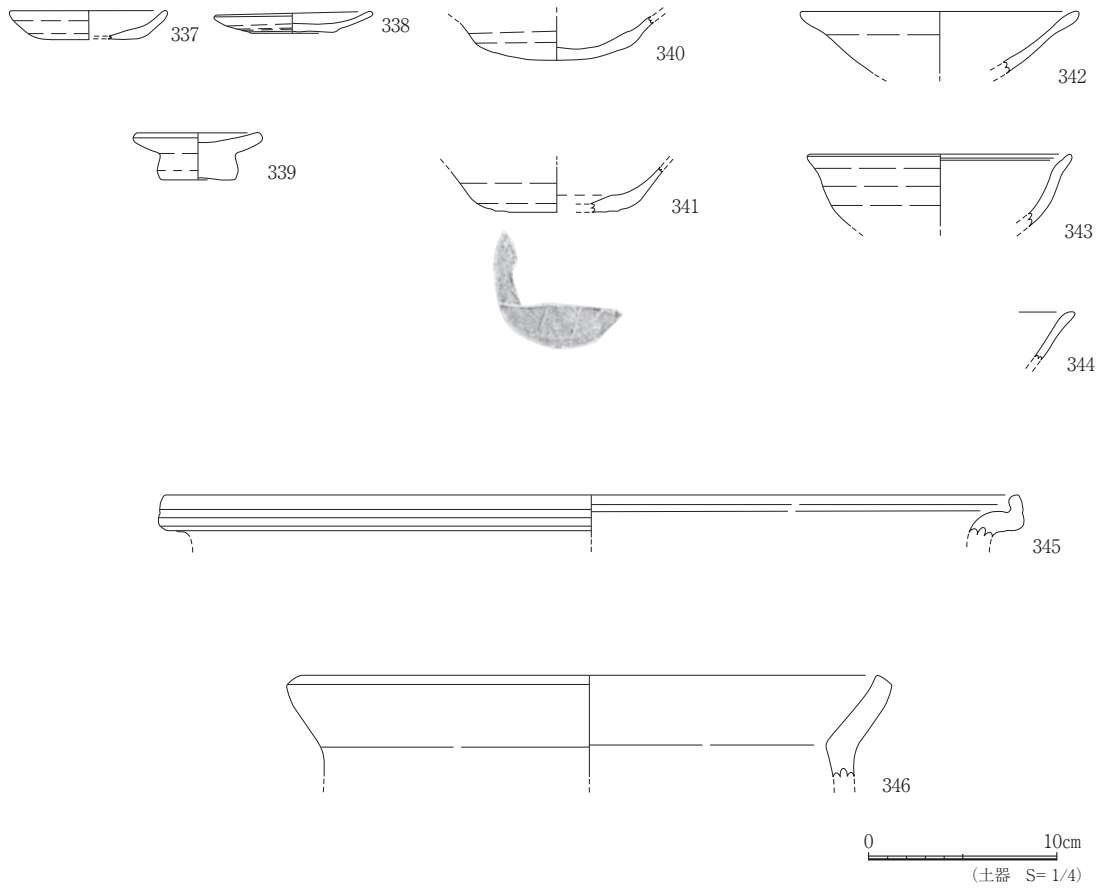
3-25図 4層出土遺物6



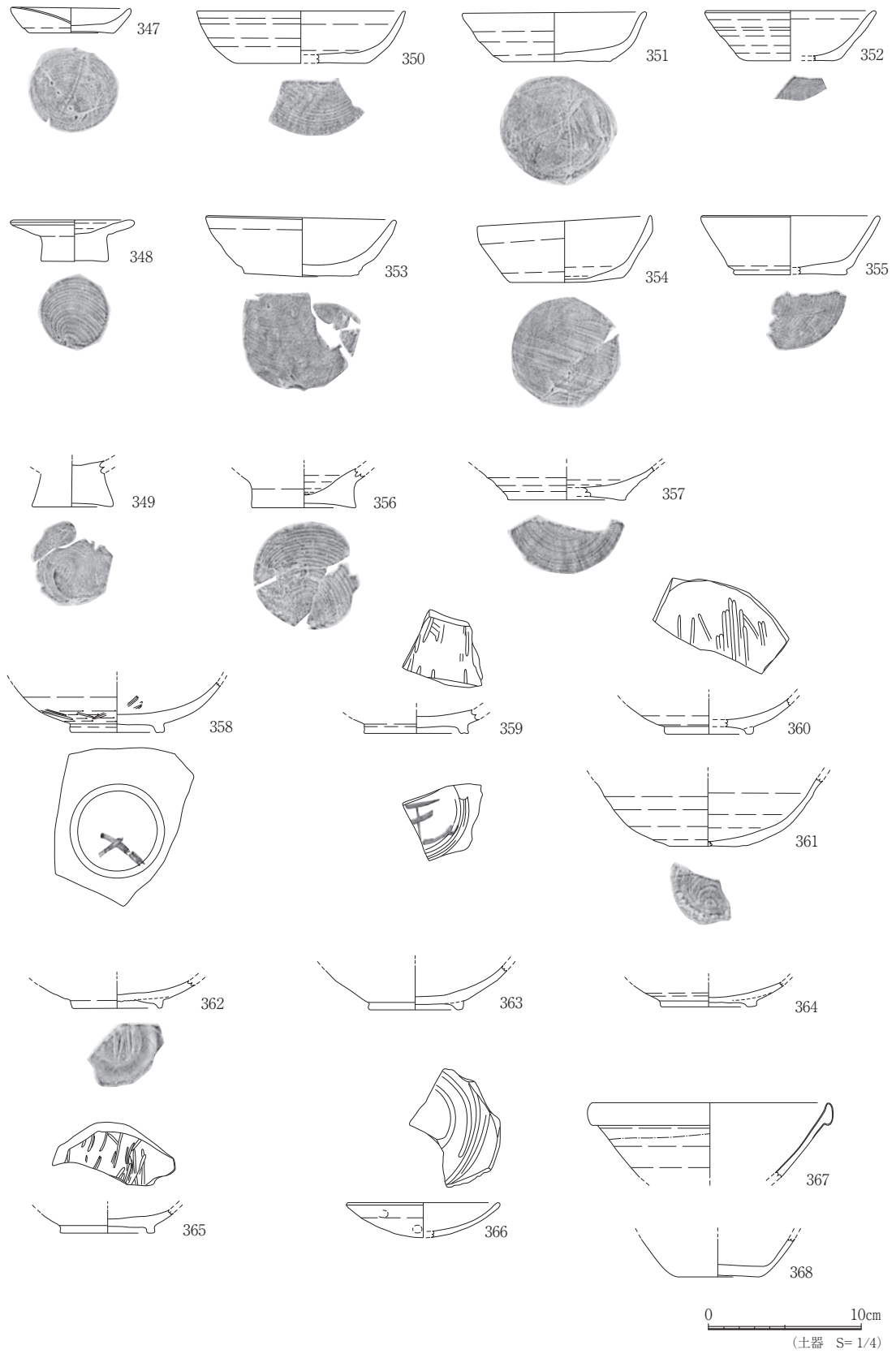
3 - 26 図 4 層出土遺物 7



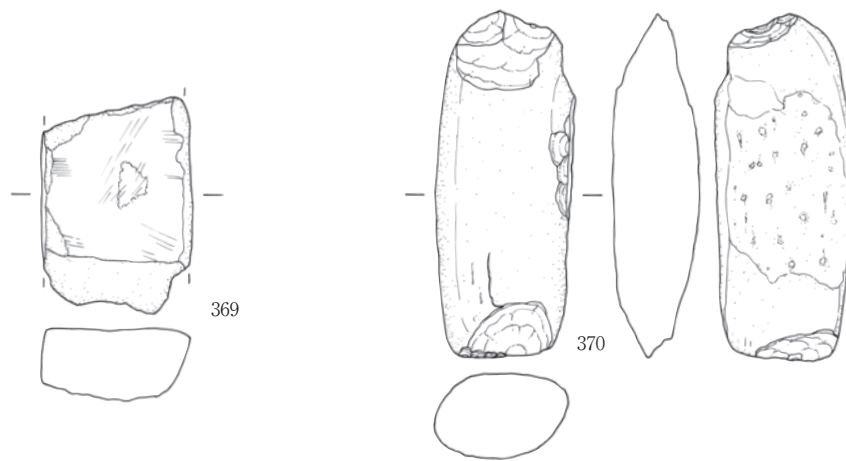
3-27 図 4層出土遺物（石器・鉄器）



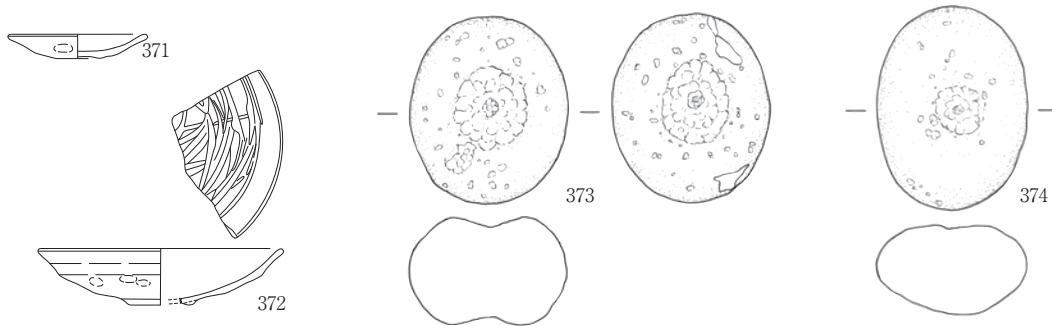
3 - 28 図 4・5 層出土遺物



3-29 図 5層出土遺物



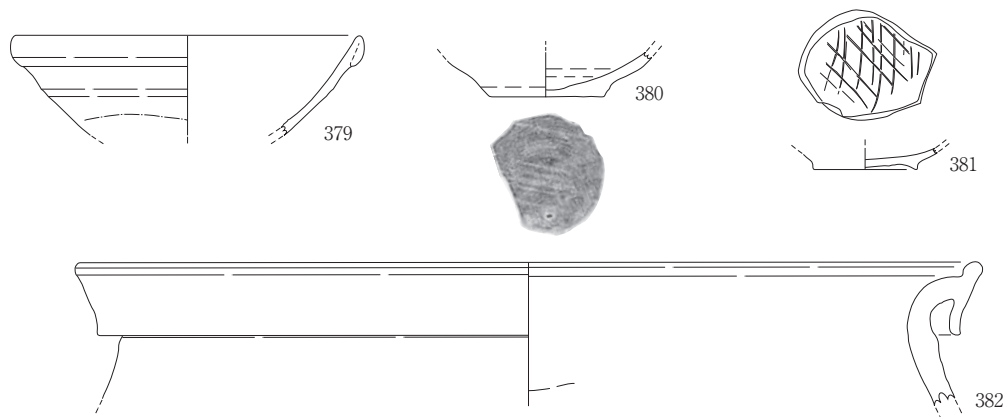
5層出土遺物石器



5-2層出土遺物



6層出土遺物



表採および攪乱出土遺物

0 10cm
(土器 石器 S=1/4)

3-30図 5・5-2・6層・表採及び攪乱出土遺物

3-2区遺物観察表1

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径 cm	器高 cm	底径 cm	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考
3-2	1	土師質土器	小皿	SK1	4層集中1	7.0	2.0	4.2	浅黄橙	浅黄橙	普通	底部完形 口縁周2/3残 磨耗	円盤高台状の底部から斜め上方に立ち上がる、外面、回転痕、内面、底部ナデ、回転糸切り	
3-2	2	土師質土器	小杯	SK1	4層集中1	7.3	1.8	5.4	にぶい橙	にぶい橙	普通	底部完形 口縁周3/4残 磨耗	平底の底部から直線的に立ち上がり口縁で屈曲、内面、体部底部境回転ナデ、糸切り	直線的
3-2	3	土師質土器	小杯	SK1	4層集中1	6.5	2.3	4.2	にぶい黄橙	にぶい黄橙	普通	底部完形 口縁周2/3残	不均整、歪み大きい、外面回転ナデ、回転糸切り	
3-2	4	土師質土器	杯	SK1	4層集中1	9.3	3.1	5.6	浅黄橙	浅黄橙	細かな砂粒	底部 口縁ともわずかに残 磨耗	平底の底部から立ち上がる、外面、板状工具の本口と考えられる押し当て回転痕が残る	外面 底部、体部境 板状工具木口押し当て痕
3-2	5	土師質土器	杯	SK1	4層集中1	10.6	4.0	6.4	にぶい黄橙	にぶい黄橙	細かな砂粒多	底部完形 口縁周1/2残	平底からゆるやかに外反して立ち上がる、深めの体部、外面ナデ、内面、体部、底部境、強いナデ、回転糸切り板目痕	
3-2	6	土師質土器	杯	SK1	4層集中1	11.3	3.0	7.3	にぶい黄橙	にぶい黄橙	細かな砂粒	底部 口縁とも一部残	底部からの立ち上がり甘く体部上方に立ち上がる、外面、回転痕、底部、粘土と体部接合により円盤高台状をなす、回転糸切り板目痕	
3-2	7	土師質土器	杯	SK1	4層集中1	12.8	(3.4)		浅黄橙	浅黄橙	普通	底部周口縁周ともわずかに残	平底から斜め上方に立ち上がり口縁つまみ上げ、口縁端部上向きに尖る、外面、口縁回転ナデ、内面、口縁回転ナデ	
3-2	8	土師質土器	杯	SK1	4層集中1		(3.3)	6.4	浅黄橙	浅黄橙	細かな砂粒多	底部周1/3残 磨耗	突出ぎみの底部から立ち上がる	
3-2	9	土師質土器	杯	SK1	4層集中1		(1.0)	5.0	橙	橙	普通	底部完形 磨耗	平底	
3-2	10	瓦器	椀	SK1	4層集中1	10.8	3.0		灰白(黄灰まじる)	灰黄		口縁周2/3残	丸底、口径小さく、体部浅い、外面、口縁ナデ、体部指オサエ、内面、ミガキ弱い、切り離しなし	軟質 炭素定着弱い
3-2	11	瓦器	椀	SK1	4層土器集中1	11.3	2.9		灰黄	黄灰		完形	丸底、口径小さく、体部浅い、外面、口縁ナデ、体部指オサエ、切り離しなし	軟質で炭素定着弱い 10とほぼ同じ
3-2	12	土師質土器	杯	SK1	4層集中1の下	11.3	3.3	7.2	浅黄橙	浅黄橙	普通	底部口縁ともわずかに残 磨耗	平底から斜め上方に立ち上がる	
3-2	13	土師質土器	小皿	SK1	4層集中1の下	6.1	1.5	3.8	浅黄橙	浅黄橙	普通	底部完形 口縁周1/2残	楕円形の平底から開く、外内面とも回転ナデ、回転糸切り	
3-2	14	土師質土器	小皿	SK1	マ	7.1	1.65	4.8	にぶい橙	にぶい橙	普通	底部完形 口縁周わずかに残	円盤高台状平底から斜め上方に立ち上がる体部、内底、体部境界強い回転ナデ痕、粗い回転糸切り痕が残る	
3-2	15	土師質土器	小皿	SK1	マ	6.8	1.55	4.8	にぶい黄橙	にぶい黄橙	普通	底部1/2残 口縁一部残	斜め上方に立ち上がる体部、内面、底部、体部境界強い回転ナデ(ツメ跡状)、回転糸切り	
3-2	16	土師質土器	小皿	SK1	マ	7.1	1.8	5.3	浅黄橙	浅黄橙	やや細かな砂粒多	ほぼ完形	正円でなく底部厚さ不均当かたむく、内底中央に向かって渦巻状回転痕、回転糸切り	
3-2	17	土師質土器	小皿	SK1	マ	7.0	1.85	4.7	橙	橙	良	底部完形 口縁周2/3残 磨耗少	斜め上方に立ち上がる、内底中央ナデによりやや突出、外内面ともわずかに回転ナデ残る、回転糸切り	
3-2	18	土師質土器	小皿	SK1	マ	7.5	1.9	5.8	浅黄橙	浅黄橙	細かな砂粒多め	底部完形 口縁周1/2残 磨耗少	切り離しによりやや上げ底状の底部、内底中央へソ状になる、内面、回転によるへソ状部分、体部立ち上がり強いナデ、回転糸切り	
3-2	19	土師質土器	小皿	SK1	マ	7.5	2.2	4.6	にぶい黄橙	にぶい黄橙	普	底部2/3残 口縁周1/2残	斜め上方に立ち上がる、内底中央部わずかにへソ状、底部付近強いナデ、回転糸切り	
3-2	20	土師質土器	小皿	SK1	マ	6.8	1.9	4.4	にぶい黄橙	にぶい黄橙	普通	底部周1/4 口縁周1/4残	円盤状高台から斜め上方に開く、外面回転ナデ痕、糸切り	
3-2	21	土師質土器	小皿	SK1	マ	6.4	1.8	4.4	浅黄橙	浅黄橙	普通	底部1/3残 口縁周1/4残	斜め上方に立ち上がる体部、外面ナデ痕残る、回転糸切り	
3-2	22	土師質土器	小皿	SK1	マ	7.1	1.4	5.4	橙	橙	普通	底部完形 口縁周2/3残 磨耗著しい	浅めの体部、やや丸みを帯びる、内底縁が凹む、不明	
3-2	23	土師質土器	小皿	SK1	マ	7.4	1.7	5.3	浅黄橙	浅黄橙	普通	ほぼ完形	円盤高台状の平底から丸みを帯びた体部、内底中央部凹み、外面回転ナデ、回転糸切り	
3-2	24	土師質土器	杯	SK1	マ	10.8	2.8	8.0	にぶい黄橙	にぶい黄橙	普通	底部、口縁一部残 磨耗	平底の底部から丸みを帯び、口縁端部はやや内湾、わずかに回転痕残る、切り離し痕なく、板目残る	円盤状の底部に体部を接合
3-2	25	土師質土器	杯	SK1	マ	11.2	3.15	7.1	橙	橙	良	底部完形 口縁周1/2残 磨耗多	やや丸みを帯びる、内面中央部ナデにより凹む、不明	
3-2	26	土師質土器	杯	SK1	マ	13.6	(3.4)		橙	橙	不	底部 口縁とも一部残存	平底の底部丸みを帯びた体部、外面にわずかに回転ナデ痕	
3-2	27	土師質土器	杯	SK1	マ	10.6	(3.0)		浅黄橙	浅黄橙	良	口縁周1/4残 磨耗 橙色化粧土はげる	下半は丸みを帯びる口縁端部は内湾に直立、内面回転ナデ痕	

3-2区遺物観察表2

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径 cm	器高 cm	底径 cm	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考
3-2	28	土師質土器	杯	SK1	マ	11.0	3.3	6.6	浅黄橙	浅黄橙	良	底部周1/4残 口縁一部残 磨耗あり	やや腰のある立ち上がり口縁部わずかに外反、内面磨耗少なく回転ナデ痕残る、回転糸切り	
3-2	29	土師質土器	杯	SK1	マ	12.8	(3.4)		浅黄橙	浅黄橙	普通	口縁一部残	斜め上方に立ち上がる体部、外面回転ナデ痕	
3-2	30	土師質土器	杯	SK1	マ		(2.0)	6.8	浅黄橙	浅黄橙	普通	底部周1/2残	円盤高台状の平底内底中央凹む、内底回転糸切り	
3-2	31	土師質土器	杯	SK1	マ	10.6	3.0	6.6	浅黄橙	浅黄橙	良	底部完形 口縁端部わずかに残る 磨耗	やや丸みを帯びる円盤高台状の平底、内面底部から体部わずかに回転ナデ痕残る、回転糸切り	
3-2	32	土師質土器	杯	SK1	マ	10.8	3.5	7.0	浅黄橙	浅黄橙	良	底部周1/2残 口縁一部残	やや不整形な底部やや丸みを帯びる、外面回転ナデ、糸切り	不整形に厚い底部
3-2	33	土師質土器	杯	SK1	マ	14.0	(3.9)		橙	黄橙	良	底部口縁ともわずかに残磨耗著しい	丸みを帯びながら直立きみ、不明	
3-2	34	土師質土器	杯	SK1	マ	11.8	3.9	6.8	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良	底部完形磨耗あり	立ち上がりは腰があるやや外反きみの口縁、底部はやや円盤状になる平底、外面にはわずかに回転痕残る、静止糸切り	
3-2	35	土師質土器	杯	SK1	マ	10.8	3.1	5.8	浅黄橙	浅黄橙	普通	底部わずかに残る 口縁一部残	やや開ききみの体部、外面口縁部回転ナデ痕、不明	
3-2	36	土師質土器	杯	SK1	マ	12.0	3.1	6.0	にぶい橙	にぶい橙	精良	底部周1/3残 口縁周1/4残 磨耗少	立ち上がり外反、外面、回転ナデ痕、内面ナシ、糸切り	
3-2	37	土師質土器	杯	SK1	マ		(1.7)	7.0	浅黄橙	浅黄橙	良	底部周1/3残 磨耗少	円盤高台状の平底から丸みをおび立ち上がる、内底中央凹むに突出、内面回転ナデ痕、回転糸切り板状痕	
3-2	38	土師質土器	小皿	SK1	マ		(1.1)	5.4	黄橙	黄橙	普通	底部周1/4残 磨耗著しい	平底、不明	
3-2	39	土師質土器	小皿	SK1	マ		(0.8)	4.9	にぶい黄橙	にぶい黄橙	普通	底部完形	底部のみ完形で円盤状に残る、回転糸切り	意図的に円盤状に加工の可能性
3-2	40	土師質土器	杯	SK1	マ	10.7	3.0	6.95	橙	橙	普通	底部完形 口縁周2/3残 磨耗著しい	外反きみに立ち上がり丸みをおびた体部、口縁端部は上方を向く内底中央凹む、残存せず、回転糸切り	
3-2	41	瓦器	椀	SK1	マ	11.3	3.3		灰	灰	2mm大の岩石入る	完形	法量小さく高台なし、同心円状に4条磨き有	炭素吸着するが、焼成甘い
3-2	42	瓦器	椀	SK1	マ	12.3	3.45		黄灰	黄灰	1mm大の砂粒	底部残 口縁周1/4残	浅い体部高台はない、口縁部ナデ弱い	外面に粒土のよこれあり
3-2	43	瓦質土器	羽釜	SK1	マ	24.6	(6.0)		灰	灰黄	2mm大の砂粒入る	口縁一部残 磨耗	やや内傾する口縁口縁歪み有銹不整形、口縁部、横ナデ、銹下、指オサエ	
3-2	44		土錘	SK1	マ	全長4.7	全幅1.1	孔径0.4	にぶい橙				両端欠損	重量 3.8 g
3-2	45	鉄器	釘	SK1	マ	全長4.6	全幅0.9(0.5)	全厚(0.6)						重量 3.8
3-2	46	土師質土器	小皿	SK9	マ	7.3	1.6	5.4	黄橙	黄橙	良	底部周1/4残 口縁周一部残 磨耗	底部から上方に立ち上がる、不明、糸切り	
3-2	47	白磁	椀	SK13	マ	16.6	(3.1)		灰白	灰白	白色	口縁周一部残	口縁部玉縁直線的な体部	IV類
3-2	48	土師器	鍋	SK13	マ	23.2	(3.9)		橙	橙	細かな砂粒入る	口縁周わずかに残る	口縁部屈曲弱い口縁下に弱い三角の突帯有り	紀伊型か
3-2	49	土師質土器	羽釜	SK13	マ	23.0	(3.9)		橙	橙	1~2mm大砂粒入る	口縁周一部残	口縁部内傾きみ銹薄、銹上へ口縁横ナデ	搬入の可能性
3-2	50	瓦質土器	羽釜	SK13	マ	26.8	(4.7)		黄灰	黄灰	1mm大の砂粒入る	口縁わずかに残る	口縁端部銹端部とも横ナデによる凹面、しっかりしたつくり、厚手	搬入の可能性。摂津世紀の系譜
3-2	51	土師器	杯	SK26	マ		(2.2)	7.2	にぶい橙	にぶい橙	普通	底部周1/4残 磨耗	平底の底部、外面、回転ナデ、不明	
3-2	52	青磁	椀	SK24	マ		(2.1)	5.6	にぶい黄	オリブ黄		底部周一部残	内底まで施釉	
3-2	53	土師質土器	小皿	SK30	マ	6.4	1.7	5.0	にぶい黄橙	にぶい黄橙	普通	底部周わずかに残 口縁周わずかに残 磨耗	底部から斜め上方に立ち上がる、内面傾斜ゆるやか底部厚い、切り離し不明	
3-2	54	鉄器	釘	SK30	マ	全長4.7	全幅1.1	全厚1.0					全体にサビ付着、断面形四角、釘	重量 5.8 g
3-2	55	瓦質土器	鍋	SK38 B	マ	21.7	(10.8)		灰白	褐灰	良	口縁全周残底部なし	直立する口縁最大径は胴部中央に位置、口縁内外面とも横ナデ	
3-2	56	東播系須恵器	片口鉢	SK38	マ		(2.1)		灰白	灰白	灰色	口縁周わずかに残	口縁端部上方につまみ上げる	口縁端部外面 焼成時灰付着
3-2	57		土錘	SK38	マ	全長5.2	全幅1.0	孔径0.4	にぶい黄橙		良	完形 磨耗	中央部のふくらむ円筒形	重量 3.7 g
3-2	58	瓦器	皿	SK44	マ	8.2	1.4		灰	灰	普通	口縁周1/4残 底径残1/2以下	浅い口縁直線的に開く底部平底きみ、口縁横ナデ体部～底部指オサエにより、指オサエにより平底きみ	
3-2	59	土師器	小皿	SD1	マ	8.0	1.9	5.4	にぶい黄橙	にぶい橙	普通	ほぼ完形 磨耗	平底から斜め上方に立ち上がる体部、不明、回転糸切り	
3-2	60	土師質土器	小皿	SD1	マ	5.6	1.5	5.4		橙	良		底部径1/2残周1/3残口縁わずかに残、浅く外反きみに大きく開く体部、内外面とも回転ナデ	

3-2区遺物観察表3

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径 cm	器高 cm	底径 cm	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考
3-2	61	瓦器	皿	SD1 W	マ	7.8	0.9		黒灰	黒灰		底径1/2以下 残 口縁周1部残 磨 耗	平底ぎみの底部短く内湾ぎみの体部、体部横ナデ底部指オサエ、底部切り離し痕なし	
3-2	62	土師質土器	杯	SD1	マ	12.2	2.8	7.8	浅黄橙	浅黄橙	良	底径1/2以下残 口縁周1部残る 磨耗	直線的に開く体部、外面にわずかに回転ナデ痕残る、糸切り	
3-2	63	土師質土器	杯	SD1	マ	12.0	3.0	7.2	浅黄橙	浅黄橙	良	底径1/2以下残 口縁周わずかに残る 磨耗著しい	やや反りながら開く体部口縁部はつまみ上げ状に取める、不明、糸切り	
3-2	64	土師質土器	杯	SD1 W	マ		2.35	6.8		にぶい黄橙	良		底部1/2以下残周1/4残磨耗、平底うすい体部、不明	
3-2	65	土師質土器	碗	SD1 W	マ		(1.7)	4.9	浅黄橙	浅黄橙	普通	底部一部残 磨耗著しい	碗と考える、断面カマボコ形の貼付高台	
3-2	66	青磁		SD1 W	マ		(3.3)		灰オリーブ	灰オリーブ	良 灰色	体部一部残	鍋連弁と見られる、片彫り、釉、透明度高く厚い	
3-2	67	東播系須恵器	片口鉢	SD1	マ		(3.5)		灰	灰	普通	口縁周1部残	口縁端部拡張ほとんどなし、口縁部やや外反きみ、口縁部回転ナデ	
3-2	68	常滑焼	甕	SD1	マ		(5.9)		灰黄	灰黄	2mm大の砂粒入る	口縁わずかに残	大きく拡張された口縁端部	
3-2	69	瓦質土器	羽釜	SD1	マ	25.0	4.9		にぶい黄橙	黒灰		口縁周1部残	口縁端部面をなす、体部は丸みを帯びないと考える	搬入の可能性
3-2	70	土師質土器	小皿	SD2 SD8 TR	マ	7.3	1.7	5.3	にぶい橙	にぶい橙	普通	底部完形 口縁周1/4残 磨耗	平底から短く立ち上がる、口縁横ナデ内底オサエ後ナデ、板目状圧痕、回転糸切り	
3-2	71	土師質土器	杯	SD2 SD5 サブ1	マ	12.2	3.9	8.6	にぶい黄橙	にぶい黄橙	普通	底部わずかに残 口縁周わずかに残	体部中央から内湾ぎみの口縁、底部は平底と考える、不明	
3-2	72	土師質土器	杯	SD2 TR	マ	10.3	3.1	6.0	にぶい橙	にぶい橙	普通	底部一部残 口縁周1部残 磨耗	平底の底部から丸みを帯びて立ち上がる、糸切り	
3-2	73	土師質土器	杯	SD2 サブTR	マ	10.2	3.4	6.7	浅黄橙	浅黄橙	普通	底部一部残 口縁一部残	平底の底部から直線的に立ち上がる	
3-2	74	土師質土器	杯	SD5 SD8 TR	マ	11.7	3.15	7.4	浅黄橙	浅黄橙	良	底部一部残 口縁一部残 磨耗	体部中央から内湾ぎみの口縁	
3-2	75	土師質土器	杯	SD2	マ		(3.0)	8.0	にぶい橙	にぶい橙	普通	底部1/2残 磨耗	平底から斜め上方に立ち上がる、回転糸切り	
3-2	76	土師質土器	小皿	SD2 サブ1	マ		(1.2)	4.9	橙	橙	普通	底部残 磨耗	体部より突出円盤高台ぎみの底部、糸切り	
3-2	77	白磁	碗	SD2 TR	マ		(2.4)	6.1	灰白	灰白	普通	底部1/2残	断面三角形に削り出された高台内底まで透明釉貫入、高台付近から高台内底露	IV類?
3-2	78	備前焼	鐏鉢	SD2	マ	23.0	(3.1)		褐灰	褐灰	良	口縁周わずかに残る	口縁拡張される、端部ナデにより突出、凹線弱くナデ痕か	
3-2	79	青磁	碗	SD3	マ	15.3	(3.5)		にぶい黄	にぶい黄	良	口縁周わずかに残	無文、貫入	
3-2	80	土師質土器	杯	SD4	マ	11.6	2.9	7.0	にぶい橙	にぶい橙	普通	底部周1/4残 口縁周1/4残磨耗	平底の底部から丸みを帯びて立ち上がる	外面付着物多
3-2	81	土師質土器	小皿	SD6	マ	7.0	1.4	5.4	浅黄橙	浅黄橙	普通	完形	平底から短く開く浅い体部、内底中央へソ状、内底回転ナデ、回転糸切り	
3-2	82	土師質土器	羽釜	SD6	マ	21.2	(4.8)		浅黄橙	浅黄橙	細かな砂粒多	口縁周1部残	口縁下に短い罫	
3-2	83	土師質土器	皿	SD7	マ	8.2	1.5	6.0	浅黄橙	浅黄橙	普通	底部径1/2以下残 口縁周わずかに残	平底のから短く開く浅い体部、内底中央部へソ状、静止糸切り	外面付着物多
3-2	84	白磁	皿	SD7 TR	マ	11.1	(2.5)		灰白	灰白	良	口縁周わずかに残	口縁部わずかに反る、口上げ	白磁皿Ⅱ類
3-2	85	土師質土器	小皿	SD8	マ	6.5	1.4	5.4	橙	橙		底部完形 口縁周一部残	平底の底部、短い体部中央で屈曲、板状圧痕回転糸切り	
3-2	86	土師質土器	小皿	SD8	マ	7.1	1.5	5.4	浅黄橙	浅黄橙	普通	ほぼ完形	平底から短く広く体部中央部わずかにへソ状、回転糸切り	粘土縫い残る
3-2	87	土師質土器	杯	SD8	マ	11.1	3.4	6.2	にぶい黄橙	にぶい黄橙	普通	底部一部残 口縁周一部残	平底の底部体部中央から内湾ぎみの口縁、糸切り	
3-2	88	土師質土器	杯	SD8	マ	10.9	3.1		黄橙	黄橙	普通	底部一部残 口縁周一部残	平底の底部、体部中央から内湾ぎみの口縁、外面弱い回転ナデ痕が残る、回転糸切り	
3-2	89	土師質土器	杯	SD8	マ	10.9	3.3	6.6	橙	橙	普通	底部1/2残 口縁周1/3残	全体に歪み平面形楕円平底から斜め上方に立ち上がる、内底中央回転ナデにより凹む、板目痕糸切り後ナデの可能性	
3-2	90	土師質土器	杯	SD8	マ	11.4	3.45	6.8	にぶい黄橙	にぶい黄橙	普通	底部周2/3残 口縁周1/2残	平底の底部から直線的に斜め上方に立ち上がる、内外面とも体部回転ナデ、内底ナデ、板目痕、回転糸切り	
3-2	91	土師質土器	杯	SD8	マ	11.6	3.9	7.0	浅黄橙	浅黄橙	普通	底部完形 口縁周3/4残	平底の底部、体部中央からやや内湾ぎみの口縁、内底中央凹む、口縁回転ナデ、板目痕、回転糸切り	
3-2	92	土師質土器	杯	SD8	マ	11.1	3.9	6.8	にぶい黄橙	にぶい黄橙	普通	底部径残口縁わずかに残 磨耗	押圧によると考える凹凸のある平底から丸みを帯び立ち上がる、やや深めの体部、回転糸切り	

3-2区遺物観察表4

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径 cm	器高 cm	底径 cm	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考	
3-2	93	土師質土器	杯	SD8	マ	11.6	4.1	6.7	にぶい黄橙	にぶい黄橙	普通	底部完形 口縁周1/4残	箱形、平底から斜め上方に直線的に立ち上がる、内底中央へソ状、外内面とも回転ナデ、回転糸切り、板目痕		
3-2	94	土師質土器	杯	SD8	マ	11.5	4.2	7.0	橙	橙	普通	底部ほとんど残 口縁周1/3残	やや突出ぎみの平底から直線的に斜め上方に立ち上がる、外面、回転ナデ、回転糸切り		
3-2	95	土師質土器	杯	SD8	マ	11.2	3.9	7.6	橙	橙	細かな砂粒多	ほぼ完形 底部中央のみ欠損 磨耗	平底の底部少し凸凹有 内底も凸凹有、体部中央からゆるやかに内湾ぎみの口縁、板目痕回転糸切り		
3-2	96	土師質土器	杯	SD8	マ	11.8	4.0	7.0	浅黄橙	浅黄橙	普通	底部周1/3残 底径1/2以下残 口縁周わずかに残	腰圧く体部丸みを帯びる、回転ナデ、内底、ナデ、指オサエ、回転糸切り、粘土のよりあり	火服れがある	
3-2	97	土師質土器	杯	SD8	マ	(28)	6.8		黄灰	にぶい黄橙	普通	底部一部残 磨耗 表面剥ける	平底、内面ナデ外底ナデ、糸切り後ナデ		
3-2	98	土師質土器	杯	SD8	マ	(12)	6.8		浅黄橙	浅黄橙	普通	底部周1/4残	体部開いて立ち上がる、回転糸切り痕を切る板目痕		
3-2	99	石器	叩石	SD8	マ	全長8.8	全幅7.6	全厚4.9						砂岩、片面中央に弱い敲打痕	重量 436.1 g
3-2	100	土師質土器	小皿	SD20	マ	7.9	1.9	5.1	浅黄橙	浅黄橙	普通	ほぼ完形 口縁わずかに欠損 磨耗	外反する下半口縁は立つ、内底中央に向かってナデ、不明		
3-2	101	土師質土器	小皿	SD20	マ	7.4	1.6	5.4	黄橙	黄橙	普通	ほぼ完形 磨耗	外反する下半口縁は立つ、外底一部凹む回転糸切り		
3-2	102	土師質土器	小皿	SD20	マ	8.2	1.6	6.1	にぶい黄橙	にぶい黄橙	普通	底部口縁ともわずかに残	平底から短く開く口縁、回転糸切り		
3-2	103	土師質土器	小皿	SD20	マ	7.6	1.8	5.9	にぶい黄橙	にぶい黄橙	普通	底部完形 口縁周3/4残 磨耗	平底から上方に立ち上がる、内底はゆるやかな凸凹有、内面中央部をS字状にナデ、磨耗		
3-2	104	土師質土器	杯	SD20 TR3	マ	6.4	1.8	4.7	にぶい黄橙	にぶい黄橙	普通	底部周1/2残 口縁周わずかに残	円盤高台状の底部から丸みを帯び立ち上がる、糸切り痕		
3-2	105	土師質土器	小皿	SD20 - ②	マ	6.9	1.8	4.6	にぶい黄橙	にぶい黄橙	普通	底部ほぼ完形 口縁周1/2残	薄い円盤高台状の底部から丸みを帯びた体部内底中央わずかに突出、外内面とも回転ナデ内底回転ナデ、回転糸切り		
3-2	106	土師質土器	小杯	SD20	マ	7.4	2.1	5.1	橙	橙	普通	底部変形 口縁一部残	平底から短く開く口縁	火服れ	
3-2	107	土師質土器	杯	SD20	マ	11.5	3.35	7.5	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良	底部完形 口縁周2/3残	平底からやや丸みを帯び立ち上がる、外面回転ナデ内底、中央部に向かってナデ、回転糸切り板目痕	表面残存良好 土の感じが在りと異なる	
3-2	108	土師質土器	杯	SD20	マ	11.6	3.7	6.6	浅黄橙	浅黄橙	普通	ほぼ完形 磨耗	不均整下半外反口縁立ちぎみ、外面弱い回転ナデ痕、糸切り板目痕		
3-2	109	土師質土器	杯	SD20	マ	11.8	3.6	7.0	にぶい黄橙	にぶい黄橙	普通	底部周3/4残 口縁周1/2残	平底から斜め上方に立ち上がる内底中央部凹む、内外面回転ナデ内底中央部に向かってナデ、回転糸切り	表面残存良好	
3-2	110	土師質土器	杯	SD20	マ	11.4	3.6	6.6	浅黄橙	浅黄橙	普通	完形	外反ぎみの体部口縁部は立ちぎみ、内底回転痕、回転糸切り板目痕		
3-2	111	土師質土器	杯	SD20	マ	11.3	3.85	6.2	浅黄橙	浅黄橙	普通	完形	外反ぎみの体部口縁は立ちぎみ外底平らでない、外内面、回転ナデ、回転糸切り板目痕強く残る	口縁内面油煙によるスス付着 口縁外面油煙ダレ有	
3-2	112	土師質土器	杯	SD20	マ	11.7	3.9	6.9	にぶい黄橙	にぶい黄橙	普通	底部完形 口縁周3/4残 磨耗	平面形楕円底部一部突出、下半は外反ぎみ口縁立ちぎみ、内底中央部やや盛り上がる、糸切り板目痕		
3-2	113	土師質土器	杯	SD20 TR2	マ	12.0	3.5	7.5	浅黄橙	浅黄橙	普通	ほぼ完形	全体に歪み底部やや突出、外面三段に回転ナデ、内底ナデ、糸切り板目痕	外底粘土キレツ有、火ぶくれ有	
3-2	114	土師質土器	杯	SD20	マ	10.9	3.9	7.5	浅黄橙	浅黄橙	普通	底部周3/4残	不均整平面楕円形になる、底部内外面とも不均整、回転糸切り、板目痕	110等と同じ規格、大幅に歪む	
3-2	115	土師質土器	杯	SD20	マ	11.4	4.1	7.4	浅黄橙	浅黄橙	普通	底部周1/2底径1/2残 口縁周1/3残	突出ぎみの平底から斜め上方に立ち上がる、外面回転ナデ、底部体部接合部押痕残る、回転糸切り	正門をなさない不整形な底部 全体に厚手	
3-2	116	土師質土器	杯	SD20	マ	9.8	3.9	7.4	浅黄橙	浅黄橙	細かな砂粒多	底部周一部残 口縁周一部残	不整形形の底部から斜め上方に立ち上がる内底不均整、痕跡残らず		
3-2	117	瓦器	小皿	SD20	マ	7.8	1.5	6.4	橙	橙	白色の細かな砂粒	底部口縁とも一部残存	底部は丸みを帯びる、口縁短く外反、口縁指オサエ、切り離しなし	被熱による変色	
3-2	118	瓦器	小皿	SD20	マ	7.7	1.0	5.4	灰	灰	白い細かな砂粒	底部口縁とも一部残	底部はわずかに丸みを帯びた平底ぎみ口縁は短く外反、底部指オサエ口縁横ナデ、切り離しなし	浅い	
3-2	119	瓦器	碗	SD20 - ②	マ	12.0	3.0		黒灰	黒灰		口縁周わずかに残る	口縁長く二段の外反、口縁二段横ナデ体部指オサエ、内面ミガキ	紀伊型?	
3-2	120	瓦器	碗	SD20 TR2	マ	11.9	(3.3)		灰	灰	白い細かな砂粒	口縁周一部残	口縁部長めに外反、外面、口縁横ナデ下半指オサエ	和泉型?	
3-2	121	青磁	碗	SD20 - ②	マ	(19)	6.0		黄褐	黄褐	灰色	底部周一部残	高台内側削り浅い、高台内側の一部まで施釉	高台内側 粘土 釉着	
3-2	122		土錘	SD20 TR3	マ	全長6.15	全幅1.15	孔径0.35		浅黄橙			中央に最大径	重量 6.4 g	
3-2	123	瀬戸?	小皿	P1	下層	10.6	2.25	7.4	灰白	灰白	良	口縁周一部残	斜め上方に開く、灰釉、外面、底部付近のみ無釉、外面、回転痕残る	古瀬戸Ⅲ期? 14世紀中葉?	

3-2区遺物観察表5

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径 cm	器高 cm	底径 cm	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考
3-2	124	鉄器	鉄釘	P1	マ	全長 2.9	全幅 0.8	全厚 0.5					鉄釘、頭部、先端欠損、断面方形、中空になる	重量 24 g
3-2	125	瓦器	碗	P6	マ	11.6	(2.9)		灰	灰	細かな白い砂粒	口縁周一部残 磨耗	口縁外反弱い、口縁ナデ弱い体部指オサエ弱い	外面 炭素はげ
3-2	126	土師質土器	杯	P8	マ	11.2	3.7	6.4	にぶい橙	にぶい橙	普通	底部完形 口縁周1/4残	平底から斜め上方に立ち上がる、外面回転ナデ、内底指オサエ、回転糸切り	外面底部から斜め方向に粘土の織り
3-2	127	備前焼	播鉢	P18	マ ホ	29.6	(6.1)		褐灰	灰黄褐	砂粒多	口縁周一部残	口縁拡張、下端引き出る、内面6条の播り目	内面 表面 摩滅なし
3-2	128		土錘	P18	マ	全長 4.55	全幅 1.05	孔径 0.3		橙		ほぼ完形	中央部に最大径	重量 40g
3-2	129	土師質土器	碗	P66	マ	15.8	5.0	8.0	にぶい橙			底部欠損 口縁周わずかに残	底部から丸みを帯び立ち上がる、口縁外反、外面回転ナデ	口縁から底部にかけて斜めにタール付着
3-2	130	土師質土器	杯	P93	マ	12.4	3.8	7.4	橙	橙	普通	底部周1/2残 口縁周1/2残	底部からの立ち上がり甘い、体部外反弱、口縁は立ち上がり、内底ナデ底の凸凹、外面回転ナデ、内底ナデ、回転糸切り、板目痕	
3-2	131	瓦器	碗	P113	マ	14.8	(4.6)		灰	灰		高台のみわずかに残る 口縁周1/2残	深い体部、口縁外反弱い、外面体部指オサエ、内面、短いミガキが比較的密に施される	
3-2	132	須恵器	壺底部	P116			(3.6)	10.3	灰白	灰白	普通	底部一部残	ハの字に開く高台から斜め上方に立ち上がる	
3-2	133	瓦器	碗	P122	マ	11.8	2.4		黄灰	黄灰		底部残 口縁周1/3残	浅い体部、高台なくわずかに平たい部分のある底部、平面形歪み有、内面ミガキ有、外面、口縁弱いナデ、体部、指オサエも弱、切り離しなし	炭素吸着まだら IV期-3~4
3-2	134	土師質土器	小皿	SX1 SK1	マ	7.2	0.9	5.6	橙	にぶい橙	普通	底部 口縁とも一部残	平底から短く立ち上がる、糸切り	
3-2	135	土師質土器	小皿	SX1		7.5	1.75		にぶい黄褐	にぶい黄褐	普通	底部完形 口縁周3/4残	平底から短く開く内底中央小さく突出、外面回転ナデ、内面、底部まで回転ナデ、回転糸切り	表面残存良
3-2	136	土師質土器	小皿	SX1	マ	6.5	1.7	4.7	にぶい黄橙	にぶい黄橙	普通	底部1/2残 口縁周わずかに残	平底から短く外反弱に開く、内底中央へん状、外内面とも回転ナデ	
3-2	137	土師質土器	小皿	SX1	マ	7.6	2.1	4.8	にぶい黄橙	にぶい黄橙	普通	底部周口縁周1/4残	平底から丸みを帯び立ち上がる、外面、強い回転ナデ	
3-2	138	土師質土器	小皿	SX1	マ	6.1	1.8	4.4	浅黄橙	浅黄橙	普通	底部周1/2残 口縁周1/3残	円盤高台の底部から丸みを帯びて短く立ち上がる、外面回転ナデ内面ナデ、回転糸切り	付着物有
3-2	139	土師質土器	小皿	SX1		7.4	1.8	4.6	にぶい橙	にぶい橙	普通	底部周口縁周とも一部残	平底から丸みを帯びて立ち上がる、内面回転ナデ痕、糸切り	
3-2	140	土師質土器	杯	SX1	マ	11.1	3.2	6.9	浅黄	浅黄	普通	底部周2/3残 口縁周1/2残	平底から直線に斜めに立ち上がる、口縁でわずかに外反、外面回転ナデ、内面、底部まで回転ナデ、回転糸切り	
3-2	141	土師質土器	杯	SX1	マ	12.4	3.2	8.0	にぶい橙	にぶい橙	普通	底部周口縁周とも一部残	底部立ち上がり甘い体部外反弱、口縁は立ち上がり、外面体部口縁回転ナデ、底部付近回転板ナデ状、回転糸切り	内面 スス付着
3-2	142	土師質土器	杯	SX1	マ		(3.8)	7.0	橙	橙	普通	底部完形	平底から立ち上がる、内底同心円状に回転痕、糸切り	
3-2	143	瓦器	皿	SX1	マ	6.6	1.5		黄灰	黄灰		底部 口縁一部残	口縁短く開き体部と段をなす、丸底弱、体部-底部指オサエ	炭素吸着の上に黄灰色のマク状(灰?)付着物
3-2	144	瓦器	小皿	SX1	マ	7.2	1.0	5.2	浅黄橙	浅黄橙		口縁周一部残	口縁大きく開く体部と段をなす、外面、口縁ナデ、体部、指オサエ、	表面ハクリ 炭素吸着なし クスベ(炭素吸着)前のもの?
3-2	145	瓦器	碗	SX1	マ	12.0	(3.3)		黒灰	黒灰	普通	口縁周わずかに残	内面ミガキ密に入る	
3-2	146	白磁	皿	SX1 SK1	マ		0.6	5.6	灰白	灰白	良	底部周1/2以下残	平底の底部、底部外面、露胎褐色	
3-2	147	白磁	皿	SX1			(2.3)	5.8	灰白	灰白	良	底部周1/3残 底径1/2以下残	平底から立ち上がる、底部まで施軸	白磁皿X類か
3-2	148	常滑焼	甕	SX1	マ		(7.3)		にぶい赤褐	にぶい赤褐		口縁周わずかに残	口縁上下に大きく拡張するが頸部には接着しない	8型式 15世紀まで
3-2	149	瓦質土器	羽釜	SX1		19.0	(3.3)		灰	灰	細かな砂粒多	口縁周わずかに残	内傾する口縁、口縁端部面をなす、短い鑿が巡る、外面、口縁ナデ	
3-2	150	土師質土器	羽釜	SX1		22.4	(3.2)		黄褐	黄褐	細かな砂粒多	口縁周わずかに残	内傾する口縁、口縁下に断面三角形の小さな鑿、内面、板ナデ	
3-2	151	瓦器	碗	下 SK1	マ	11.2	(2.7)		にぶい黄橙	灰黄褐	細かな砂粒入る	口縁周1/4残	浅い体部、口縁部二段横ナデ内面同心円状にミガキ	底部残存しないが高台はないものと考えられる
3-2	152	土師質土器	小皿	SD35	マ	6.6	1.3	4.2	浅黄橙	浅黄橙	普通	底部ほぼ完形 口縁周わずかに残	平面から短く開く口縁、内底体部との境強いナデ、糸切り	
3-2	153	土師質土器	小皿	SD35 二回目	マ	6.7	1.7	4.6	浅黄橙	浅黄橙	普通	底部 口縁とも一部残	うすい平底からわずかに丸みを帯び立ち上がる	体部外面 回転による傷痕
3-2	154	土師質土器	小杯	SD35 二回目	マ	9.0	2.5	6.0	にぶい黄橙	にぶい黄橙	普通	底部ほぼ完形 口縁周わずかに残 磨耗	平底からわずかに丸みを持ち立ち上がる、外面、底部近くに強い回転ナデ痕、不明	
3-2	155	瓦器	皿	SD35 二回目	マ	8.8	1.15	6.8	黒灰	黒灰	普通	底部周わずかに残る 口縁周1/4残	ほぼ平底から短く直線的に開く、口縁横ナデ、底部指オサエ	浅く 口径大きい

3-2区遺物観察表6

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径 cm	器高 cm	底径 cm	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考
3-2	156		土鉢	SD35	マ	全長 5.25	全幅 1.1	孔径 0.4		にぶい 黄橙			中央に最大径	重量 4.3g
3-2	157	土師質 土器	柱状 高台	SD36	マ		(26)	5.6		橙	普通	高台 1/3 残	不均整な柱状高台	
3-2	158	瓦器	椀	SD36	床	12.2	3.0	3.4	灰	灰		ほぼ完形	器高は低い高台は細く低くなり形骸化、外面口縁部横ナデ体部指オサエ、内面体部圏線ミガキ、見込み、平行ミガキ、	炭素吸着弱い
3-2	159	土師質 土器	小皿	SD37	マ	7.4	1.65	5.0	にぶい 橙	にぶい 橙	普通	底部完形 口縁周 1/2 残	平底から斜め上方に立ち上がる体部、外面回転ナデ内底ナデ、回転系切り、切り離して凹面状	
3-2	160	土師質 土器	小皿	SD37N	マ	7.1	1.6	5.4	にぶい 橙	にぶい 橙	普通	口縁周わずかに欠損	体部歪み有や突出する平底から立ち上がる、内面底部、体部境ナデ、粘土の縊り、回転系切り	
3-2	161	土師質 土器	小杯	SD37N	マ	6.7	1.6	4.7	橙	橙	普通	完形	円盤高台が短く立ち上がる、外面回転ナデ、内底中央部横ナデ、回転系切り	
3-2	162	土師質 土器	皿	SD37		7.0	1.8	5.0	橙	にぶい 赤褐	普通	底部完形 口縁周 1/2 残	円盤高台状の平底から短く立ち上がる内面半分煤、外内面とも回転ナデ、回転系切り	灯明皿
3-2	163	土師質 土器	小皿	SD37N	マ	6.8	1.4	5.0	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	普通	底部 口縁周とも 1/2 残	平底から短く斜め上方に開く、内面、底部、体部境強いナデ、不明	
3-2	164	土師質 土器	小皿	SD37N	マ	7.7	1.5	4.9	浅黄橙	浅黄橙	普通	ほぼ完形 磨耗	平底から斜めに開く口縁、内面、底部、体部境、指オサエ、中央部、指オサエ、粘土の縊り有、不明	
3-2	165	土師質 土器	小皿	SD37	下層	5.6	1.2	5.0	浅黄橙	浅黄橙	普通	底部周 1/3 残 口 縁周 1/3 残	全体に不均整体部歪む、平底から短く上方に立ち上がる口縁、内底凸凹、外面横ナデ内底指オサエ、系切り板目痕	
3-2	166	土師質 土器	杯	SD37	マ	11.7	3.6	7.4	にぶい 橙	にぶい 橙	普通	底部ほぼ完形 口 縁周 3/4 残磨耗	平底から丸みを帯びて立ち上がる体部、口縁は外反さみ、外面、口縁回転ナデ、回転系切り	
3-2	167	土師質 土器	杯	SD37	マ	11.4	3.8	7.9	橙	橙	普通	ほぼ完形	平底から外反さみに立ち上がる体部、口縁は立つ、底部、外内面とも凸凹、外面内面とも口縁回転ナデ、内底押ナデ、回転系切り、強い板目痕	外底 系切りによる粘土縊れ有り、174 と同一形
3-2	168	土師質 土器	杯	SD37N	マ	11.9	3.5	7.0	浅黄橙	浅黄橙	普通	ほぼ完形	体部立ち上がり甘く中央部から口縁外反さみ、外面回転ナデ、内底中央部、渦巻状の回転痕、系切り板目痕	
3-2	169	土師質 土器	杯	SD37N	マ	11.8	3.5	6.6	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	普通	底部周 1/2 残 口 縁周 1/4 残	体部外反さみの下半口縁部立ちさみ、内面中央部回転痕によりヘソか、外面回転ナデ、内底回転ナデ、回転系切り板目痕	表面残存良好
3-2	170	土師質 土器	杯	SD37N	マ	12.0	3.9	7.4	にぶい 橙	にぶい 橙	普通	底部完形 口縁周 わずかに残	平底から斜め上方に立ち上がる、口縁つまみ上げさみ、外面回転ナデ、内底底部体部境回転ナデ、回転系切り	付着物多
3-2	171	土師質 土器	杯	SD37	下層	10.6	3.5	6.9	浅黄橙	浅黄橙	普	底部完形 口縁周 1/4 残	平底から外反さみの体部、口縁部立ちさみ、内底低いヘソ状、外面、回転ナデ、内底ナデ、回転系切り板目痕	外面に粘土の縊り有
3-2	172	土師質 土器	杯	SD37N	マ	11.5	3.5	7.55	にぶい 橙	にぶい 橙	普通	底部中央部のみ欠 損口縁周 3/4 残	平底から斜め上方に立ち上がる、外面回転ナデ、底部体部境回転ナデ、回転系切り	
3-2	173	土師質 土器	杯	SD37	下層	10.8	3.5	6.4	浅黄橙	浅黄橙	普通	底部周 1/3 残口縁 周わずかに残	底部、体部境、回転ナデにより甘い、平底から斜め上方に立ち上がる体部、外面、底部まで回転ナデ(板状工具か)、内面、回転ナデ、系切り	外面付着物有
3-2	174	土師質 土器	杯	SD37	下層	11.0	4.2	6.6	にぶい 橙	にぶい 橙	普通	ほぼ完形	平面形不均整、平底から体部下は外反さみ口縁は直立ちさみ、内底中央部中央に向かって渦巻状に凹む、外面回転ナデ、内底強い回転ナデ痕、回転系切り	表面残存良好 167 と同一形
3-2	175	土師質 土器	杯	SD37	マ	11.6	3.1	7.3	褐灰	にぶい 黄橙	普通	底部ほぼ完形 口 縁周 1/3 残 磨耗	平面形不均整、平底から丸みを帯びて立ち上がる、外面回転ナデ、回転系切り	
3-2	176	土師質 土器	杯	SD37N	マ	12.0	3.8	7.5	にぶい 橙	にぶい 橙	普通	底部中央のみ欠損 磨耗	平底の底部から斜め上方に立ち上がる、外内面とも回転ナデ痕、不整形、方形に近い回転系切り	
3-2	177	瓦器	椀	SD37N	マ	11.8	3.2	3.7	灰白	灰白		ほぼ完形 磨耗	器高低く浅い体部高台は細く低く高台より底部が突出し実用をなさない、外面、口縁横ナデ	炭素吸着弱い
3-2	178	青磁	底部 小椀	SD37			(15)	3.3	明灰緑	明灰緑		底部完形	高台付内外面無軸赤褐色、	小型器種
3-2	179	瓦器	椀	SD37		14.0	(3.5)		灰白	灰白	普通	口縁周 1/3 残	口縁外反弱い、外面口縁横ナデ	外内面とも炭素吸着弱 須 恵質に近い
3-2	180	土師質 土器	小皿		4層	8.0	1.75	6.0	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	普通	口縁周 1/4 残	平面形、不整形に歪む、平底から斜めに立ち上がる、外面、回転ナデ	表面残存良好

3-2区遺物観察表7

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径 cm	器高 cm	底径 cm	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考
3-2	181	土師質土器	小皿		4層	7.2	1.75	5.0	にぶい橙	にぶい橙	普通	底部1/2残 口縁周わずかに残	平底から短く斜めに立ち上がる、糸切り、糸切り痕弱い	
3-2	182	土師質土器	小皿		4層	7.4	2.1	4.5	にぶい黄橙	にぶい黄橙	普通	底部完形 口縁周1/2残	平底から斜めに開く体部、外面ナデ、回転糸切り	完形復元
3-2	183	土師質土器	小皿		4層	7.3	2.1	5.1	にぶい黄橙	にぶい黄橙	普通	底部口縁周ともわずかに残	平底から斜め上方に立ち上がる、外面、二段にナデ、回転糸切り	
3-2	184	土師質土器	小皿		4層	7.7	1.4	5.6	にぶい橙	にぶい橙	普通	底部周わずかに残 口縁周わずかに残 磨耗	平底から斜めに開く	
3-2	185	土師質土器	小皿		4層	6.6	1.4	5.4	にぶい橙	にぶい橙	普通	底部周口縁周とも一部残	平底の厚い底部から短く開く、内面、多段の回転ナデ、回転糸切り板目痕	浅い 外面表面残存良
3-2	186	土師質土器	小皿		4層	7.1	1.6	5.1	にぶい橙	にぶい橙		ほぼ完形 磨耗	平底から短く立ち上がる、内底中央、カマボコ状になる、糸切り	
3-2	187	土師質土器	小皿		4層	6.9	1.4	5.0	橙	橙	普通	口縁のみ一部欠損 磨耗	平底から短く立ち上がる中央部へソ状に凹む、回転糸切り	
3-2	188	土師質土器	小皿		ホ(4層)	6.8	1.9	5.0	にぶい黄橙	にぶい黄橙	普通	底部周1/3 口縁周一部残	平底から反りぎみに立ち上がり口縁立ちきみ、内底中央へソ状に突出、外内面、回転ナデ、回転糸切り	
3-2	189	土師質土器	小杯		4層集中2	7.0	1.9	5.0	浅黄橙	浅黄橙	普通	底部完形 口縁周1/2残 磨耗	歪み有平底から短く立ち上がる、外面回転ナデ、回転糸切り	
3-2	190	土師質土器	小皿		4層	7.3	1.8	5.2	浅黄橙	にぶい黄橙	普通	底部周口縁周とも一部残 磨耗	突出ぎみで円盤高台状の底部から丸みを帯び立ち上がる、外面ナデ、回転糸切り	
3-2	191	土師質土器	小皿		4層	6.7	1.7	4.6	橙	にぶい橙	普通	底部完形 口縁周わずかに残 磨耗	平底から斜め上方に立ち上がる、糸切り	
3-2	192	土師質土器	小皿		4層	7.1	1.8	4.4	橙	橙	普通	底部周1/2残 口縁周一部残 磨耗著しい	平底から斜め上方に立ち上がる	全体に薄い
3-2	193	土師質土器	小皿		4層	7.8	1.6	5.6	橙	橙	普通	底部周1/2 口縁周1/2残 磨耗	平底から丸みを帯び立ち上がる、不明	
3-2	194	土師質土器	小皿		4層	6.4	1.5	4.6	にぶい橙	にぶい橙	普通	底部周3/4残 口縁周1/2残	全体に歪み、平底から短く立ち上がる、内底中央へソ状に突出、内面ナデ、不明	
3-2	195	土師質土器	小皿		4層	7.1	1.7	5.6	にぶい橙	にぶい橙	普通	底部周1/3残 口縁周1/4残 磨耗	不整形な楕円の底部から短く外反ぎみに立ち上がる、内底凸凹あり、内底ナデ、糸切り	
3-2	196	土師質土器	小皿		4層	5.9	1.4	4.4	浅黄橙	にぶい橙	普通	底部周口縁周とも一部残	平底から短く立ち上がる、外面回転ナデ、回転糸切り	外面 表面残存良
3-2	197	土師質土器	小皿		4層	6.3	1.25	4.2	橙	橙	普通	底部完形 口縁ほぼ完形 磨耗	平底から短く斜めに開く、内面、回転方向のナデ、回転糸切り板目痕	
3-2	198	土師質土器	小皿		4層	7.6	1.5	5.0	にぶい橙	にぶい橙	普通	底部周1/4残 底径1/2以下残 口縁周一部残 磨耗	平底から開いて立ち上がり屈曲し口縁は立つ、回転糸切り	
3-2	199	土師質土器	杯		4層	10.9	3.9	7.4	にぶい橙	にぶい橙	普通	ほぼ完形	平底部中央部穿孔、体部下半やや外反、口縁は立ちきみ、外面、回転ナデ、内面体部回転ナデ、回転糸切り板目痕	焼成後穿孔
3-2	200	土師質土器	杯		4層	11.0	4.0	6.8	浅黄橙	浅黄橙	普通	ほぼ完形	平底から外反ぎみに立ち上がる、口縁立ちきみ、外面、回転ナデ、回転糸切り板目痕	
3-2	201	土師質土器	杯		5層	11.7	3.8	7.1	灰黄褐	灰黄褐	普通	底部周1/2残 口縁周1/2残 磨耗	平底から外反ぎみに立ち上がり口縁立ちきみ、外面、回転ナデ、内底、底部ナデ、回転糸切り板目痕	
3-2	202	土師質土器	杯		4層	11.1	3.4	7.0	浅黄橙	にぶい黄橙		底部周1/4 口縁周わずかに残	平底から丸みを帯び立ち上がる、外内面とも回転ナデ、回転糸切り	内底 渦巻状痕跡残る
3-2	203	土師質土器	杯		4層	11.4	3.3	6.5	浅黄橙	浅黄橙	普通	底部周 口縁周とも一部残 磨耗	平底から立ち上がる内底凸凹	外面一部粘土欠損
3-2	204	土師質土器	杯		4層	11.2	3.2	6.5	にぶい黄橙	浅黄橙	普通	底部周口縁周とも一部残 磨耗	底部不整形、平底から立ち上がる	
3-2	205	土師質土器	杯		4層	11.8	3.3	8.0	黄灰	にぶい黄橙	普通		底部周1/3残底径以下残、口縁周わずかに残、平底、底部体部隆、上方に立ち上がる、外面、回転ナデ	回転糸切り
3-2	206	土師質土器	杯		4層	10.0	1.7	6.6	にぶい橙	にぶい橙	普通	底部周口縁周ともわずかに残	平底から立ち上がる、腰の甘い箱形、外内面とも回転ナデ、糸切り	
3-2	207	土師質土器	杯		4層	11.2	3.3	7.0	にぶい橙	にぶい橙	普通	底部周3/4残 口縁周わずかに残	平底外反ぎみの体部口縁立ちきみ、外内面、体部回転ナデ、内面、底部、渦巻状痕、回転糸切り	
3-2	208	土師質土器	杯		4層	11.5	3.5	6.4	にぶい黄橙	にぶい黄橙		底部口縁とも一部残	平底から外反ぎみに立ち上がる、口縁立ちきみ、外面、回転ナデ、糸切り板目痕	
3-2	209	土師質土器	杯		4層	12.0	3.5	6.6	灰黄褐	灰黄褐	普通	底部周1/2(中央部欠損) 口縁周わずかに残	平底から外反ぎみに立ち上がり口縁部で屈曲きみ、内底凸凹有、外面、回転ナデ、内面、体部回転ナデ、底部ナデ、回転糸切り	
3-2	210	土師質土器	杯		4層	11.0	3.7	6.6	橙	橙	普通	底部ほぼ完形 口縁周1/3残 内面磨耗	平底から斜め上方に立ち上がる、外面、回転ナデ、回転糸切り	

3-2区遺物観察表8

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径 cm	器高 cm	底径 cm	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考
3-2	211	土師質土器	杯		4層	10.9	3.4	6.5	浅黄橙	浅黄橙	普通	底部周口縁周とも一部残	平底から外反ぎみに立ち上がる、口縁部立ちぎみ、外内面とも回転ナデ	
3-2	212	土師質土器	杯		4層	11.0	3.3	6.3	浅黄橙	浅黄橙	普通	底部周口縁周ともわずかに残	平底から斜めに立ち上がる、外内面とも回転ナデ、回転糸切り	外内面とも粘土の縊り皺有り
3-2	213	土師質土器	杯		4層	11.6	3.0	7.5	浅黄橙	浅黄橙		底部周1/2残 底径1/2以下残 口縁周1/3残 磨耗著しい	平面、不整形に歪む、平底から立ち上がる、口縁部尖る	
3-2	214	白磁	皿		4層	10.6	3.1	6.0	灰白	灰白	良	底部周1/2残 口縁周一部残	平底から斜めに立ち上がり口縁で外反、口縁内面輪ハギ、外底まで施釉、発色濁った灰白	14世紀?
3-2	215	土師質土器	杯		ホ	11.5	3.9	7.4	にぶい黄橙	にぶい黄橙	普通	底部完形 口縁周2/3残 磨耗	平面形、歪み楕円、平底から立ち上がる、口縁は立ちぎみ、外面回転ナデ、横方向へのヘラ切り痕	
3-2	216	土師質土器	杯		ホ	10.4	3.9	6.2	にぶい黄橙	にぶい黄橙	普通	底部口縁とも一部残	平底から立ち上がる体部外反ぎみ 底部に比して深い、外面、回転ナデ、回転糸切り板目痕	
3-2	217	土師質土器	杯		ホ	9.8	3.6	6.6	浅黄橙	にぶい黄橙	普通	底部口縁とも一部残	円盤高台状の底部から立ち上がる、外面、回転糸有り、内面、底部回転糸、回転糸切り	
3-2	218	土師質土器	杯		ホ	13.0	(3.4)	8.5	浅黄橙	浅黄橙	普通	底部口縁ともわずかに残	平底から立ち上がる口縁部つまみ上げ状端部尖る、外内面とも弱い回転ナデ、粘土縊り板目痕	
3-2	219	土師質土器	杯		4層	15.0	4.9	6.6	浅黄橙	浅黄橙	普通	底部わずかに欠損 口縁周1/2残	底部、円盤高台状に見える、体部、直線的に斜め上方に開く、高台状部分、指オサエ後ナデ、外面、わずかに回転糸、内面、底部、円形にナデ同心円状にナデ痕、糸切り	円盤高台状に見えるが平底のつくり
3-2	220	土師質土器	杯		4層		(1.7)	7.0	浅黄橙	浅黄橙	普通	底部周1/3残 磨耗	やや突出ぎみの平底から立ち上がる、内面、底部ナデ、糸切り	
3-2	221	土師質土器	杯 底部		4層		(1.0)	6.6	にぶい黄橙	にぶい黄橙		底部完形 磨耗著しい	底部のみ残、円盤状	
3-2	222	土師質土器	杯		4層		(1.2)	6.0	黄	黄	普通	底部周わずかに残 磨耗	平底	
3-2	223	土師質土器	杯		4層		(1.4)	7.0	にぶい黄橙	にぶい黄橙		底部周わずかに残 磨耗	平底から立ち上がる	
3-2	224	土師質土器	杯		4層		(2.8)	6.8	浅黄橙	にぶい黄橙	普通	底部周3/4残 磨耗	平底から立ち上がる、外内面とも回転糸、糸切り	
3-2	225	土師質土器	杯		4層		(2.8)	6.9	にぶい黄橙	にぶい黄橙	細かな砂粒	底部完形	平底から斜め上方に立ち上がる、外面、底部まで強い回転糸、内面、回転ナデ、回転糸切り	木口状工具押し当てによる回転糸か
3-2	226	土師質土器	椀		4層		(2.2)	5.0	浅黄橙	にぶい黄橙		高台1/4残	幅の広いしっかりした貼付輪高台、外面、強い回転糸	表面一部に赤色残る
3-2	227	土師質土器	椀		4層		(2.7)	5.6	橙	橙	普通	高台周1/2残 (底部完形) 磨耗著しい	輪高台からゆるやかな丸みを持ち立ち上がる、外面、回転ナデ痕、不明	重い
3-2	228	土師質土器	椀		4層	14.0	(3.5)		浅黄橙	浅黄橙	普通	口縁周わずかに残	外面、回転糸残る。わずかに外反する口縁。体部丸みを帯びる。	
3-2	229	赤色塗彩土器			ホ		(1.75)	10.4	明黄褐一部赤	明黄褐一部赤	良	高台一部残	しっかりした輪高台、高台内側まで赤色塗彩	
3-2	230	黒色土器			4層			4.4	灰	灰	良	高台周1/4残	細い断面台形状の貼付輪高台	胎土黄橙色で軟質 黒色Bか
3-2	231	須恵器	蓋		4層				灰	灰	普通	つまみ部分残る	ボタン状のつまみ平坦な天井部、外面、ヘラケズリ	
3-2	232	須恵器	壺		4層		(2.4)	10.0	灰白	灰白	普通	高台1/4残	中央部が凹んだ高台、高台から上方に立ち上がる	外底 粘土紐接合痕残る
3-2	233	須恵器	杯 底部		4層		(1.3)	8.0	灰黄	灰黄		高台一部残	高台、粘土焼成前脱落で三角形になるか、内面、ナデ	
3-2	234	瓦質土器	椀		4層	14.5	5.0		灰白	灰	灰色	高台完形 口縁部わずかに残	高台円盤状で端部のみ突出ぎみで、壺付を作る、体部、丸みを帯び、口縁で外反、切り難し	内底に粘土紐巻き痕残り、底部粘土壺作成後 体部接合 器形は緑釉に似る
3-2	235	須恵器	小壺		4層		(7.0)		灰白	灰白	普通	体部のみ残存		
3-2	236	青磁	盤		4層	24.0	(1.8)		オリブ灰	オリブ灰		口縁わずかに残る	口縁折れ端部つまみ出す	
3-2	237	青磁	皿		4層	10.0	(1.7)		灰	灰	普通	口縁周わずかに残		
3-2	238	青磁	皿		ホ		(1.3)		灰オリブ	灰オリブ	良	底部一部残	碁笥底内底無文厚手の透明釉	底部外面褐色
3-2	239	青磁	皿		4層		(0.9)	4.5	灰オリブ	灰オリブ	普通	底部2/3残	碁笥底は露胎見込みクシ描き文	透明釉 青磁皿 . XI b
3-2	240	青磁	椀		4層				オリブ灰	オリブ灰	普通	口縁周わずかに残	片彫り蓮弁わずかに残	透明感強い釉
3-2	241	青磁	椀		ホ	13.7	(5.5)		オリブ黄	オリブ黄	普通	口縁周わずかに残	無文外面ピンホール多数有	
3-2	242	青磁	椀		4層		(2.4)	4.0	明緑灰	緑灰	良	高台完形	壺付～高台見込み露胎サビ(錆)色、外面、蓮弁文	小椀か
3-2	243	青磁	椀		4層		(2.3)	5.0	オリブ灰	オリブ灰	灰	高台完形	壺付～高台見込、露胎灰色、釉厚く透明	

3-2区遺物観察表9

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径 cm	器高 cm	底径 cm	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考
3-2	244	青磁	椀		ホ		(2.4)	4.2	緑灰	明緑灰	良	高台完形	厚い底部高台見込のみ無軸砂粒つく、内面、花卉文、見込みスタンプ文	14～15世紀
3-2	245	青磁	椀		4層		(2.7)	6.2	オリープ黄	灰オリープ	良	高台周 1/3 残	畳付～高台見込、露胎灰色、内面、見込、草花文、外面、ロケロ痕	
3-2	246	青磁	椀		ホ		(1.4)	6.4	灰オリープ	灰オリープ	良	底部周 1/3 残	高台見込み露胎、内面、見込み、軸ハギにより露胎、錆色	
3-2	247	青磁	椀		4層		(3.2)	6.2	灰オリープ	灰オリープ	普通	高台周 1/2 残	底部厚い削出し高台は低い、畳付～高台内側の一部まで施軸、外面にケズリ痕、	雷文帯のある青磁と考える
3-2	248	青磁	椀		4層		(6.5)	5.4	灰オリープ	灰オリープ	良	高台わずかに残	畳付まで施軸、外面、回転ケズリ痕	龍泉系? D類(歴博)
3-2	249	青磁	小椀		4層		3.0	3.2	オリープ灰	オリープ灰		高台周 2/3 残 高台見込みなし	高台から丸みを帯びて立ち上がる、畳付付近露胎、貫入有	
3-2	250	白磁	皿		4層	11.3	3.1	5.8	灰白		良	底部周 1/3 残 底部径 1/2 以下残 口縁周わずかに残	平底から斜めに立ち上がる、口縁外反、口縁端部、外内面露胎 底部一部露胎、露胎部錆色、外面、底部近く回転痕	白磁皿IV類(森田)
3-2	251	青磁	皿		4層		(1.1)	4.8	灰オリープ	灰白	普通	底部一部残	碁笥底さみ底部露胎、底部ケズリ	透明軸
3-2	252	白磁	椀		4層		(3.3)	5.2	灰白	灰白	普通	高台周わずかに残	断面三角形に近く高い高台、下半～高台露胎	
3-2	253	白磁	丸皿 or 椀		4層		(1.3)	3.6	灰白	白	普通	高台わずかに残	削り出し高台畳付に軸残る、体部下露胎	白濁軸
3-2	254	白磁	椀		4層	16.1	(2.3)		灰白	灰白	普通	口縁周わずかに残	大きな玉縁口縁	外面 ビンホール有 IV類
3-2	255	白磁	合子蓋	中央バ	4層				灰白	灰白		天井端部周 3/4 残	平坦な天井部内面露胎	透明軸
3-2	256	瓦器	皿		4層	7.9	1.4	6.1	灰	灰	普通	完形	平底さみから短く外反、外面、口縁回転ナデ体部指オサエ、内面、見込み中央以外回転ナデ、切り離しなし	外面 降灰付着物
3-2	257	瓦器	皿		4層	8.1	1.6	4.1	灰	浅黄(斑)		口縁周のみ一部欠損	平面形歪み、口縁歪む、平底さみ、口縁短く外反、外面、口縁指オサエ後ナデ、切り離しなし	内面 炭素吸着良好、外面 粘土キレツ有
3-2	258	瓦器	皿		4層	8.1	1.4	4.0	灰	灰	普通	ほぼ完形	平底さみのから短く外反、外面、口縁指オサエ後ナデ、体部指オサエ、内面、口縁ナデ、切り離しなし	
3-2	259	瓦器	皿		4層	7.9	1.5	5.8	黄灰	黄灰	普通	底部口縁周とも 1/2 残	平面形歪む楕円形、外底凸凹有る 丸底さみ、口縁外反、外面口縁横ナデ、内面、口縁～体部境まで回転ナデ(手持ち?)、切り離しなし	炭素吸着弱く黄灰色
3-2	260	瓦器	皿		4層	7.8	(1.8)		灰白	灰		底部径 1/2 残 口縁周わずかに残	口縁で外反、底部指オサエで凸凹、口縁ナデ体部強い指オサエ、切り離しなし	
3-2	261	瓦器	小皿		4層	7.2	(1.6)		灰	明オリープ灰	普通	底部径 1/2 以下残 口縁周 1/3 残	底部平たくゆるやかな舟底状、口縁短く外反、外面、口縁ナデ、切り離しなし	表面薄い膜状の付着物(灰?)
3-2	262	瓦器	小皿		4層	7.7	1.6	3.3	灰	灰	普通	完形	丸底さみから短く外反する口縁、外面、口縁ナデ、体部指オサエ、内面、口縁回転ナデ、見込み、横ナデ後 圏線ミガキ1条、切り離しなし	底部中央凹みさみ、外面 降灰付着物
3-2	263	瓦器	皿		4層	6.8	(1.2)		黒灰	黒灰	普通	口縁周約一部残	外反する口縁、平坦な底部	炭素吸着良
3-2	264	瓦器	皿		4層	8.0	1.3	3.1	灰黄	灰		完形	平底さみの中央部指オサエで凹む、口縁、短く外反、外面、口縁ナデ、体部指オサエ、底部中央強くオサエ、切り離しなし	外内面とも膜状の付着物(降灰によるか)
3-2	265	瓦器	皿		4層	7.7	1.7		黒灰	黒灰	普通	底部残口縁周 2/3 残	丸底さみ口縁外反、外面、口縁ナデ体部指オサエ、切り離しなし	完形復元
3-2	266	瓦器	皿		4層	8.2	1.6	6.4	灰	灰白	普通	底部周、口縁周ともわずかに残	平底さみの底部口縁は外反、外面、口縁横ナデ	外面 斑に炭素吸着(剥落の可能性) 内面降灰状付着物
3-2	267	瓦器	皿		4層	7.1	1.1	5.5	灰白	灰		底部わずかに残 口縁周 1/4 残	平底さみの底部から短く開く、身は浅い、外面、口縁横ナデ	
3-2	268	瓦器	皿		4層	7.6	1.1	5.8	灰黄	灰黄	普通	底部 口縁ともわずかに残	平底さみの底部から短く外反、外面口縁ナデ	炭素吸着弱い
3-2	269	瓦器	皿		4層	7.5	0.9	5.6	灰	灰	普通	底部径 1/2 以下残 口縁周 1/3 残	平底さみの底部から短く開く、浅い体部、外面底部指オサエ	表面薄い膜状の付着物(灰?)
3-2	270	瓦器	皿		4層	8.3	(1.2)		灰	灰	普通	底部口縁ともわずかに残	口縁短く開く	
3-2	271	瓦器	皿		4層	8.3	(1.3)		灰	灰		底部口縁ともわずかに残	底部は平底さみ口縁短く外反さみ 体部浅い、外面、口縁ナデ、体部指オサエ	
3-2	272	瓦器	皿		4層	7.5	1.1	5.6	黒灰	黒灰	普通	底部口縁ともわずかに残	平底さみの底部から短く直線的に開く、外内面とも口縁横ナデ	
3-2	273	瓦器	皿		4層	7.0	0.9	5.0	灰黄	黄灰	普通	底部口縁周とも一部残	凸凹のある平底さみの底部から外反する口縁、外面、口縁横ナデ、底部指オサエ	内面 炭素吸着ほとんどなし
3-2	274	瓦器	皿		4層	8.0	1.2	6.2	黒灰	黒灰	普通	底部口縁ともわずかに残	平底さみの底部から外反する口縁、外面、口縁横ナデ、底部指オサエ	外面 底部 炭素吸着弱い

3-2区遺物観察表10

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径 cm	器高 cm	底径 cm	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考
3-2	275	瓦器	皿		4層	7.5	1.5		黒灰	黒灰	普通 白色 粒子多	底部中央欠損 口縁わずかに欠損	歪み有り平底ぎみから短く立ち上がる、内外面とも底部凸凹、全体に指オサエ、切り離しなし	
3-2	276	瓦器	皿		4層	8.7	1.5	5.0	灰	灰	普通	底部口縁ともわずかに残る	平底ぎみの底部から外反する口縁、外内面横ナデ、切り離しなし	
3-2	277	瓦器	皿		4層		(0.9)		黒灰	黒灰	普通	底部 口縁周ともわずかに残	口縁長い、口縁端部下強いナデ	
3-2	278	瓦器	杯		4層	12.7	2.7		灰	灰白		底部周 1/2 残、口縁周 1/3 残	底部平底ぎみ、浅い体部、口縁は外反、外面口縁強い横ナデ、体部指オサエ、内面体部圏線ミガキ、見込み沈線状の平行ミガキ、切り離しなし、粘土縫り	在地
3-2	279	瓦器	碗?		4層	11.1	(2.1)		灰	灰	普通	口縁周 1/4 残	口縁二段に外反、口縁二段ナデ	紀伊?
3-2	280	瓦器	皿		4層	9.9	(2.0)		黒灰	黒灰	普通	口縁周 1/4 残	口縁二段に弱く外反、口縁二段ナデ	通常の皿より深い、紀伊型 13~14世紀?
3-2	281	瓦器	皿状		4層	13.3	1.8mm		灰白	にぶい 黄橙	普通	口縁周わずかに残	浅い体部口縁部、明瞭な段、外面、口縁横ナデ、内面、粗いミガキ	皿状の器形と考えるが不定形土器。在地 炭素吸着ほとんどなし 土師質の焼きの良い色
3-2	282	瓦器	皿		4層	11.8	(1.8)		灰	灰	普通	口縁周わずかに残	口縁二段に外反、口縁二段ナデ	紀伊型の可能性
3-2	283	瓦器	碗		4層	12.2	(2.9)		灰黄	黄灰	普通	口縁周 1/3 残	全体に歪み有、口縁長く二段に外反、外面、口縁二段ナデ体部指オサエ	内面 炭素剥落、紀伊型
3-2	284	瓦質土器	皿		4層	14.8	(3.7)		灰黄	黄灰	普通	口縁周 1/2 残	口縁つまみ上げ、端部上方に尖る、全体に手づくね状	在地、深皿?
3-2	285	瓦器	皿		4層	8.8	1.6	4.8	褐灰	にぶい 黄橙	普通	底部口縁周わずかに残	平底ぎみの底部口縁外反	外面炭素吸着なく土師質の発色 焼成時 酸化炎焼成か
3-2	286	瓦器	碗		4層	10.6	(2.3)		灰白	灰白	普通	口縁周一部残	口縁外反、外面、口縁横ナデ、内面、口縁粗いミガキ(ヘラナデ状)	炭素吸着ほとんどなし
3-2	287	瓦器	碗		4層	12.1	3.1	3.2	灰	灰	普通	高台完形 口縁周 1/2 残	高台矮小化環状にならず三日月形、形骸化、口縁外反弱い、外面、口縁弱いナデ、体部、指オサエも弱、内面、口縁弱いナデ、体部圏線ミガキ、見込み平行ミガキが入るが形骸化しヘラナデ状、切り離しなし	外面 粘土皺があり平滑感なし
3-2	288	瓦器	碗		4層	12.0	3.25	2.65	灰	灰	普通	底部完形 口縁周 1/2 残	高台矮小化環状を呈さず形骸化、外面、口縁部弱いナデ、体部指オサエ、内面、粗い圏線ミガキ平行ミガキ、形骸化しヘラナデ状、切り離しなし	
3-2	289	瓦器	碗		4層	11.9	(3.0)		にぶい 橙	にぶい 橙	普通	高台わずかに残 口縁周一部残	浅い体部口縁外反弱い、外面、口縁横ナデ体部指オサエ、内面、粗いミガキ	二次被熱? 全体土師質に近い発色 焼きは良い
3-2	290	瓦器	碗		4層	11.2	(3.25)		黒灰	黄灰	普通	底部中央欠損 口縁周 1/3 残	全体不整形、歪み有口縁外反弱く、明瞭な段なし、高台残存部に痕跡なし、外面、口縁弱いナデ体部指オサエ、内面、粗い圏線ミガキ	
3-2	291	瓦器	碗		4層	12.1	3.6	2.8	灰白	灰白		口縁周のみ一部欠損	高台矮小化環状を呈さず形骸化、口縁外反、外面、口縁ナデ、体部指オサエ、内面、粗い圏線ミガキが底部まで、切り離しなし	外面 指オサエ以外の仕上げなし 口縁のみ炭素吸着 外面付着物
3-2	292	瓦器	碗		4層		(2.1)	3.2	灰	灰	普通	底部残	輪高台著しく矮小化し粘土、環状に貼付なく粘土紐貼付、外面、指オサエで凸凹、内面、平滑、外面、指オサエ、内面、ナデミガキ痕、切り離しなし	雑なつくり
3-2	293	瓦器	碗		4層	12.5	(3.4)		灰白	灰白	普通	高台わずかに残る	歪みあり、高台矮小化し形骸化、口縁ほとんど外反なし、外面、口縁弱いナデ、体部指オサエ、内面、形骸化しヘラナデ状のミガキ	炭素吸着弱い(弱い須恵質)
3-2	294	瓦器	碗		4層	14.8	(3.1)		灰黄褐	にぶい 橙	普通	高台無 口縁周わずかに残	浅い体部、口縁外反長い体部下半凸凹多、外面、口縁二段ナデ、内面、粗い横ミガキ	外面 被熱による赤変 細かな光る粒子多く入る
3-2	295	瓦器	碗		4層		(2.1)		灰	灰	普通	高台周わずかに残	薄い粘土貼付による形骸化した高台、内面ミガキ	
3-2	296	瓦器	碗		4層	12.6	3.0		灰	灰	普通	底部完形 口縁周 1/2 残	高台なし丸底口縁の外反弱い、外面、口縁ナデ、体部-底部指オサエ、内面、口縁ナデ荒い圏線ミガキ、切り離しなし	IV期
3-2	297	瓦器	碗		4層	10.3	2.15		灰黄	灰黄 一部黒灰	普通	底部わずかに残る 口縁周一部残	浅く法量の小さな体部、口縁の外反弱い、丸底、外面、口縁弱い横ナデ体部指オサエ、内面、ナデ後粗いミガキ	IV期 14世紀代?
3-2	298	瓦器	碗		4層	11.8	2.9		灰黄	灰黄	普通	底部残口縁周 2/3 残	浅い体部、丸底で高台なし、口縁外反弱い、切り離しなし、	外内面とも炭素吸着後、降灰付着物多
3-2	299	瓦器	碗		4層	11.6	(3.0)		灰黄	灰黄	普通	口縁周わずかに残	浅い杯部、外面、口縁横ナデ、体部指オサエ	炭素吸着ほとんどなし
3-2	300	瓦器	碗		4層	11.3	(2.6)		灰白	灰白	普通	口縁周一部残	口径小さく体部浅くなると考えられる。外面、口縁ナデ、体部指オサエ、内面、わずかにミガキ痕残る	炭素吸着ほとんどなし 弱い須恵質

3-2区遺物観察表11

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径 cm	器高 cm	底径 cm	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考	
3-2	301	瓦器	椀		4層	122	(2.8)		灰白	灰黄	普通	口縁周一部残	口径小さく体部浅い口縁外反、外面、口縁ナデ、体部指オサエ、内面、ミガキ痕1条	炭素吸着弱い、粘土澁り有	
3-2	302	瓦質土器	杯状		4層		(1.6)	4.8	灰白	灰	普通	底部わずかに残 磨耗	不整形、平底から立ち上がる、	外面 粘土澁り感、炭素弱く吸着 在地の土器 播鉢の可能性もある?	
3-2	303	瓦器	椀		4層	114	(3.6)		橙	にぶい黄橙	普通	底部 高台一部残 口縁周一部残	浅い体部口縁外反弱い、高台幅細く、退化、楕円形、外面、口縁横ナデ体部指オサエ、切り離しなし	二次被熱と考える赤変	
3-2	304	須恵質	椀		4層				灰白	灰白	良	高台わずかに残	輪高台から丸みを帯びて立ち上がる、外面、強い回転痕	胎土須恵質と見られ緑釉の可能性	
3-2	305	瓦器	椀		4層				にぶい橙	にぶい黄橙	普通	高台わずかに残	細い断面三角形の高台		
3-2	306	瓦質土器	羽釜		4層	25.3	(10.4)		黄灰	黄灰	細かな砂粒多	口縁周一部残	内傾ぎみの口縁、端部は面を成す、口縁下短い髷、外面、接土接合部強い指オサエ	外面 焼ける	
3-2	307	瓦質土器	羽釜		4層	20.4	(6.2)		灰	灰		口縁周一部残	口縁下に退化した断面三角の短い髷がつく、体部指オサエ		
3-2	308	瓦質土器	羽釜		4層	21.0	(7.5)		黄灰	灰	普通	口縁周わずかに残	口縁内傾、口縁端部面、髷部分欠損	外面 炭化物付着	
3-2	309	瓦質土器	羽釜		4層	11.4	(4.0)		にぶい黄橙	灰	普通	口縁周わずかに残	口縁下に薄い髷		
3-2	310	土師質土器	羽釜		ホ				橙	橙	細かな白い砂粒	口縁周一部残	内傾する口縁下に短い髷	播磨型 15世紀代?	
3-2	311	石製品	石鍋		ホ	18.4	(2.8)		明褐色	明褐色		口縁周わずかに残 髷周1/4残	口縁下に不等辺台形の髷がある、髷下方を向く	木戸分類 13世紀 - 14世紀代	
3-2	312	東播系須恵器	片口鉢		4層	30.6	(3.1)		灰	灰	普通	口縁周わずかに残	口縁拡張弱い	外面 口縁端部黒い	
3-2	313	東播系須恵器	片口鉢		4層	26.5	(4.1)		灰	灰	普通	口縁周わずかに残	口縁端部、拡張し肥厚、体部薄い	外面 口縁端部黒い	
3-2	314	東播系須恵器	片口鉢		4層		(3.9)	7.0	灰	灰	普通	底部周一部残	平底から開く、内面回転ナデ、回転糸切り	外面 粘土帯積み上げ痕のこり 作り粗い Ⅲ期後半? 14世紀~15世紀?	
3-2	315	常滑焼	片口鉢		4層	22.6	(6.2)		にぶい褐	にぶい褐	1mm~2mm大の砂粒	口縁周わずかに残	口縁端部面を成す、体部直線的、外内面、回転ナデ	常滑片口鉢と考える 7型式? 14世紀半.	
3-2	316	備前焼	播鉢		ホ	17.7	6.7		橙	橙	1mm大の砂粒	片口部のみ一部残	底部剥落、外面、回転痕	器高低い	
3-2	317	備前焼	播鉢		4層				灰黄	灰黄褐	2mm大の石	口縁周わずかに残	口縁端部上下に拡張		
3-2	318	備前焼	播鉢		ホ	31.2	(6.9)		灰	褐灰					
3-2	319	瓦器	甕		4層	40.2	(3.4)		黒灰	黒灰	普通	口縁周わずかに残	大きく開く口縁端部は面を成しわずかに下方に垂れる、外内面とも強い回転ナデ	瓦質土器、胎土 陶質に近い 産地不明	
3-2	320	常滑焼	大甕		ホ	40.2	(6.7)		にぶい褐	灰褐		口縁周わずかに残	口縁部大きく拡張頭部に接着する	素口縁に粘土帯を貼付. 大きな口縁を作る 9型式? 1400~	
3-2	321	備前焼	大甕		ホ	51.0	(4.3)		にぶい赤褐	にぶい赤褐		口縁わずかに残	大きな玉縁の口縁		
3-2	322	常滑焼	甕		4層	45.6	(5.6)		灰	灰	普通	口縁周のみわずかに残	口縁上方のみに拡張、口縁中央、強いナデ凹面、外面、回転ナデ痕	常滑(中野) 5-6a 型式	
3-2	323	瓦質土器			4層				灰白	灰	1mm~2mm大の砂粒	胴部わずかに残る	外面、細かな格子目タキ残る	瓦質で軟質、亀山系?	
3-2	324	常滑焼	甕		ホ				灰褐	灰褐	普通	体部のみわずかに残	肩部のスタンプが残る		
3-2	325	炆器	甕		ホ				灰	黒灰		口縁周わずかに残	口縁部玉縁状になり下方同拡張、中央部はナデにより面になる、外面、口縁ナデ、内面、口縁強いナデ板状工具か	東南アジアの可能性	
3-2	326	石器	石鏃		4層	全長 1.9	全幅 1.0							サヌカイト、凹基式無茎石鏃、挟り深く縄文時代の可能性	重量 0.7 g
3-2	327	石器	台石		4層	全長 7.2	全幅 9.3							砂岩、平坦な石片面に敲打痕裏面は摩擦により粒子潰れる	重量 260 g
3-2	328	石器	砥石		4層	全長 5.25	全幅 2.3							泥岩、角柱状四面とも凹面になり表面粒子潰れる、金属刃物によると考える傷有、金属砥石	重量 32.1 g
3-2	329	石器	砥石		4層	全長 17.8	全幅 8.5							泥岩、2面擦痕、砥石、被熱による赤変煤付着、元白色?、鉄砥石か	重量 1370 g
3-2	330	石器	叩石		4層	全長 16.0	全幅 12.3							砂岩、両面に敲打痕、敲打弱い片面、摩擦により粒子つぶれる、この面を上にした時や不安定	重量 2010 g
3-2	331	石器	叩石		4層	全長 9.7	全幅 8.6							砂岩、両面に敲打による凹み、縁辺には敲打擦痕なし	重量 600 g
3-2	332	鉄器	板状		4層	全長 7.0	全幅 2.1	全厚 0.8						板状鉄製品、刀子の可能性	重量 24.6 g
3-2	333	鉄器	板状鉄器			全長 6.3	全幅 1.5	全厚 0.8						細長い板状	重量 13.5 g
3-2	334	鉄器	鉄釘		4層	全長 4.5	全幅 1.2	全厚 0.5						鉄釘、頭部折り曲げ、先端欠損	重量 3.3 g

3-2区遺物観察表12

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径 cm	器高 cm	底径 cm	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考
3-2	335	鉄器	鉄釘		4層	全長 4.6	全幅 2.8	全厚 0.7				釘頭部折り曲げ、L字状に曲り、先端わずかに欠損		重量 5.8 g
3-2	336	鉄器	鉄釘		4層	全長 3.3	全幅 1.0	全厚 0.5				鉄釘、頭部欠損、断面方形、中空状、未処理		重量 2.1 g
3-2	337	土師質土器	小皿		ホ下層	8.3	1.55		浅黄橙	浅黄橙		底部口縁とも一部残磨耗	平底ぎみの底部から開く、切り離しなし	
3-2	338	土師器	皿		ホ下層	8.2	1.15	4.6	浅黄橙	浅黄橙	普通	高台周口縁周とも1/2残	薄い円盤高台状の底部から大きく開き浅い体部、外内面とも回転痕、切り離し不明板目痕	
3-2	339	土師質土器	柱状高台小皿		ホ下層	6.4	2.5	4.0	浅黄橙	浅黄橙	普	高台周 2/3 残	柱状高台から大きく開く、内底少し凹む、皿部外内面とも回転ナデ	
3-2	340	土師質土器	杯		ホ下層		(2.3)	8.2	浅黄橙	浅黄橙		底部完形	丸みを帯びた平底から外反ぎみに開く、外内面回転痕、切り離しなく底部型づくり的	県内の類例あまりない
3-2	341	土師質土器	杯		ホ下層		(2.5)	6.5	浅黄橙	にぶい黄橙	普通	底部周 1/2 残	薄い円盤高台状の平底から立ち上がる、内底中央に向かって凹む	
3-2	342	土師質土器	碗		ホ下層	14.7	(3.3)		浅黄橙	浅黄橙	普通	口縁周わずかに残	大きく開く体部口縁外反ぎみ、外面、口縁回転ナデ	杯より碗の可能性が高い
3-2	343	土師質土器	碗		ホ下層	13.8	(3.8)		橙	橙	普通	口縁周わずかに残	口縁外反口縁内面に1条沈線	外面わずかに赤色残り、赤色塗彩の可能性
3-2	344	瓦質土器又は須恵質	碗		ホ下層				黄灰	黄灰	良	口縁周わずかに残	口縁ゆるやかに外反	碗と考える
3-2	345	須恵器	甕		ホ下層	45.0	(2.2)		灰白	灰オリーブ		口縁わずかに残。口縁つまみ上げる端部わずかに凹面状。		
3-2	346	土師器	長胴甕		ホ下層	30.4	(5.4)		にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm大の砂粒	口縁周わずかに残	くの字に屈曲し上方に立つ口縁、内面、口縁横ナデ	内面 口縁煤付着
3-2	347	土師質土器	小皿		5層	7.8	2.2	5.7	にぶい橙	にぶい橙	普通	ほぼ完形	平底から短く開く、外面、体部回転ナデ、内面、体部回転ナデ、回転糸切り	外面に糸切り時に糸が巻き付いた痕跡
3-2	348	土師質土器	柱状高台小皿		5層	7.6	2.7	4.4	にぶい黄橙	にぶい黄橙	普通	完形	円柱状高台大きく開く体部、体部浅い、外面、回転ナデ、内面、底部まで回転ナデ、静止糸切りの可能性	丁寧な作り
3-2	349	土師質土器	柱状高台		5層		(3.0)	5.3	黄灰	黄灰	普通	底部周 1/2 残 磨耗	断面台形状の円柱、小皿状の体部が付くと考えられる。皿、見込み部分は生きる、回転糸切り	
3-2	350	土師質土器	杯		5層	13.5	3.4	8.6	にぶい橙	にぶい橙	普通	底部周わずかに残 口縁周一部残	平底から丸みを帯びて立ち上がる、外内面とも回転ナデ、回転糸切り	
3-2	351	土師質土器	杯		5層	11.9	3.2	7.2	黄橙	浅黄橙	7mm大の砂粒入る	口縁周わずかに欠損	平底体部中央で屈曲口縁外反ぎみ、外面、口縁回転ナデ、内面、底部横ナデ、回転糸切り	底部～体部中央に斜め方向の粘土縞り皺 表面残存良好
3-2	352	土師質土器	杯		5層	11.0	3.3	6.0	にぶい黄橙	にぶい黄橙		底部口縁ともわずかに残	平底から開く体部外反ぎみで口縁部でゆるやかに屈曲、糸切り	
3-2	353	土師質土器	杯		5層	12.1	4.0	7.5	浅黄橙	浅黄橙	普通	底部周 2/3 残 口縁周 1/2 残	厚い底部から立ち上がる、外面回転痕、糸切り	底部粘土盤に積み上げか、底部付近に粘土縞り皺
3-2	354	土師質土器	杯		5層	11.2	4.4	7.4	浅黄橙	にぶい黄橙	普通	ほぼ完形	平底から斜め上方に立ち上がる体部、口縁つまみ上げ状先端尖る、内底中央部へソ状に凹む、外面、回転ナデ、回転糸切り、板目痕	外面 付着物
3-2	355	土師質土器	杯		5層	11.5	3.9	7.2	浅黄橙	浅黄橙	普通	底部 口縁とも一部残	突出ぎみの平底から斜め上方に立ち上がる、外面、体部回転ナデ、回転糸切り	
3-2	356	土師質土器	杯		5層		(2.55)	6.7	浅黄橙	浅黄橙		底部完形	円盤高台内底落ちこみ、内面、強い回転痕、ヘラ状工具による螺旋状のケズリ、回転糸切り	ケズリ痕に木質繊維残る
3-2	357	土師質土器	杯		5層		(2.2)	7.7	にぶい橙	にぶい橙	普通	底部周 1/3 残 底径 1/2 以下残	平底から開く外面回転痕により凹線状、外面、強い回転痕、回転糸切り	
3-2	358	土師器	碗		5層		(3.3)	6.0	浅黄橙	浅黄橙	良	高台完形	高台見込み、Xの墨書、内底中央へソ状、輪高台から丸みを持ち立ち上がる、外面、下半、回転ケズリ痕	碗上質 搬入 白瓷系
3-2	359	土師質土器	碗墨書土器		5層		(1.5)	6.8	黄白	黄白	良	高台周一部残	径の大きいしっかりした輪高台、高台内側に墨書有、回転糸切り	
3-2	360	土師質土器	碗		5層		(2.4)	5.6	浅黄橙	浅黄橙	良	底部周 1/3 残 底径 1/2 以下残	貼付輪高台剥落、外面、下部回転痕	
3-2	361	土師質土器	碗		5層		(4.5)	5.1	浅黄橙	浅黄橙	良	底部 1/2 残 高台剥落	輪高台剥落痕有り丸みを帯びる体部口縁付近は外反ぎみ、外面、下部回転ケズリの可能性、回転糸切り	表面残存良好
3-2	362	土師器	碗		5層(下面)		(1.8)	5.8	橙	黄橙	普通	高台周 1/2 残	輪高台からゆるやかに丸みを帯び開く高台、底部に錠目状に幅広の粘土帯を貼付、作り出す。高台内側、板状圧痕	内面 橙色の表面残存良好 化粧土の可能性 搬入？
3-2	363	土師質土器	碗		5層下		(2.9)	6.1	橙	浅黄橙	普通	高台完形 磨耗	輪高台から立ち上がる	内外面とも橙色部分表面に残る化粧土の可能性

3-2区遺物観察表13

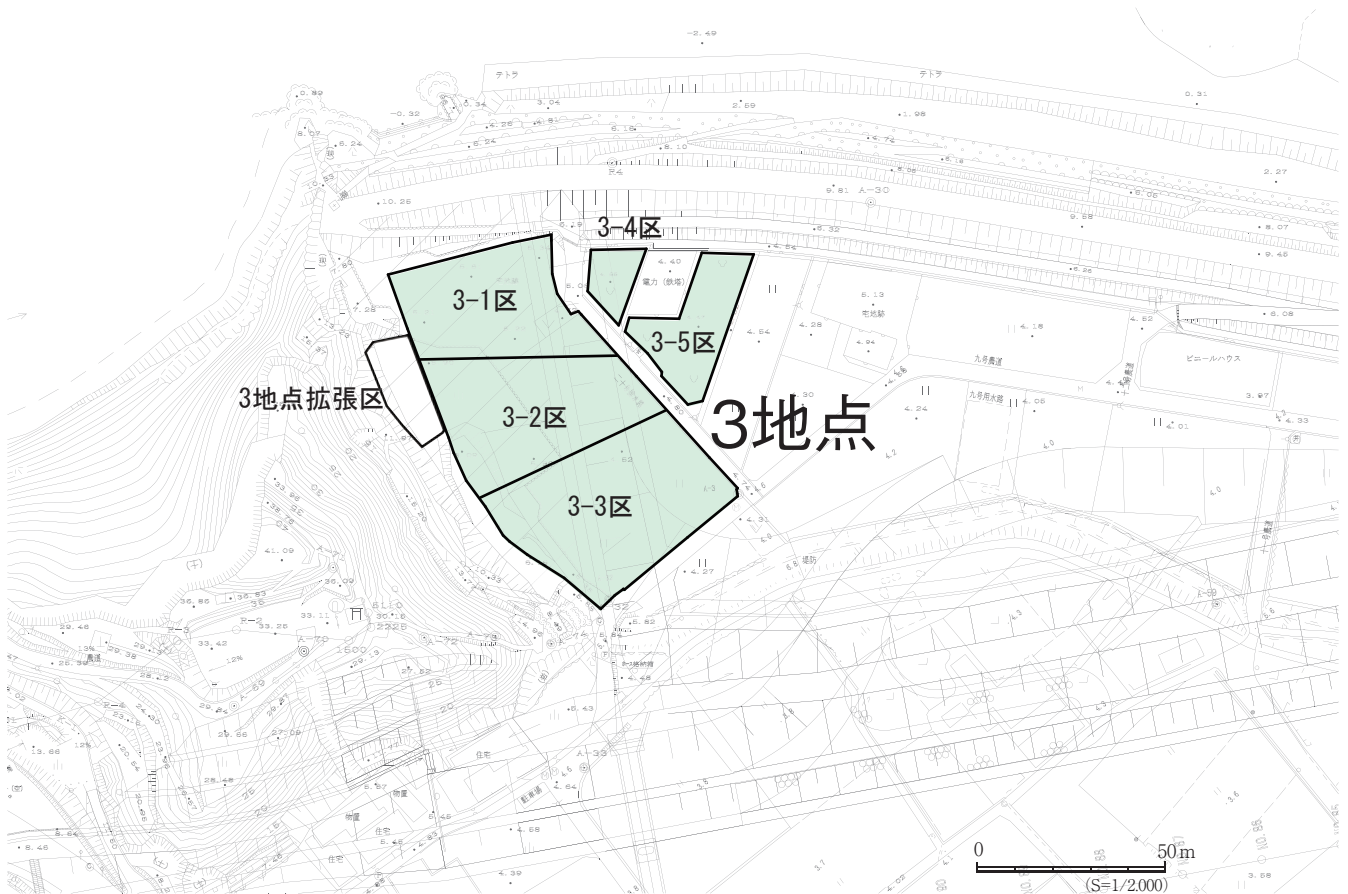
調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径 cm	器高 cm	底径 cm	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考
3-2	364	土師器	椀		5層		(1.6)	6.3	浅黄橙	浅黄橙	普通	高台完形	高台見込み残り削出し高台ゆるやかに丸みを持ち開く、高台見込みナデ、削出し高台	緑釉? 白瓷系搬入?
3-2	365	黒色土器B類	椀		5層		(1.5)	6.0	オリーブ黒	灰	細かな砂粒入る	高台周1/2残	径が大きく断面四角のしっかりした輪高台、見込みミガキ	黒色土器B類 搬入の感じなし
3-2	366	瓦器	椀		5層	9.7	(2.3)		灰白	灰白	普通	口縁周わずかに残	浅い体部口縁外反弱い、外面、口縁横ナデ、内面、粗い圈線ミガキ	IV-3or4
3-2	367	白磁	椀		5層	15.3	(4.9)		灰白	浅黄	良	口縁周1/3残	口縁端部大きな玉縁、白濁釉、外面口縁のみ、外面、回転ケズリ痕	内面ピンホール有
3-2	368	白磁	皿		5層(下面)		(2.5)	5.6	灰白	灰白		底部周1/2残底部径残	平底からわずかに腰に丸みを持ち立ち上がる、外面底部わずかに軸ハギ	白磁皿IV類
3-2	369	石器	砥石		5層	全長11.2	全幅8.0						砂岩または泥岩、表面側面、表面粒子つぶれる、裏面、粗削成形	重量 50.1 g
3-2	370	石器	石斧		5層	全長18.3	全幅7.1						緑色泥岩、敲打痕有、石斧、未製品か	
3-2	371	瓦器	小皿		5層-2	7.1	1.3		灰	灰	普通	底径残口縁周わずかに残	平坦部のある底部口縁外反、外面、口縁横ナデ体部指オサエ、切り離しなし	外面 炭素吸着強い
3-2	372	瓦器	椀		5層-2	12.7	(3.0)		黒灰	黒灰	普通	高台わずかに残口縁周1/4残	浅い体部口縁長く外反高台薄い断面三角形、外面、口縁二段ナデ体部指オサエ、内面、粗いミガキ	紀伊型?
3-2	373	石器	叩石		5層-2	全長9.9	全幅8.35						砂岩、両面に凹み、縁辺には敲打痕、擦痕なし	重量 690 g
3-2	374	石器	叩石		5層-2	全長10.75	全幅7.9						砂岩、片面に敲打による凹み、縁辺に敲打擦痕なし	重量 580 g
3-2	375	須恵器			6層		(1.6)	11.0	灰	灰	普通	高台周1/4残	底部端に高台、高台内側回転ケズリ痕	高台内側 中心付近円周状にツメ状在痕
3-2	376	土師質土器	椀		6層		(3.3)		にぶい橙	浅黄橙	普通	高台完形	断面台形状のしっかりした貼付輪高台、丸みを帯びて立ち上がる、外面、回転ケズリ痕残る	高台径 5.9cm
3-2	377	手づくね	皿		6層	10.8	2.0	5.4	黄橙	浅黄橙	普通	底部径1/2残 口縁周わずかに残磨耗著しい	平底からゆるやかに丸みを帯び開く内底中央部渦巻状にヘソ、不明	内面に粘土とも巻き上げ痕 手づくねか
3-2	378	瓦器	皿		6層	10.1	(1.5)		灰	黄灰	普通	底部1/3残 口縁周約1/2残	丸底ぎみになると考えられる底部から強く外反する口縁、外面、口縁回転ナデ体部指オサエ、内面、体部中央近くまで回転ナデ	
3-2	379	白磁	椀		表採	18.2	(5.3)		灰白	灰白	普通	口縁周一部残	口縁玉縁、直線的な体部、体部下露胎、外面、回転痕	白磁椀IV類、内面 口縁端部、使用痕 10世紀後~11世紀半
3-2	380	土師質土器	杯		攪乱		(2.4)	6.1	浅黄橙	浅黄橙		底部周3/4残 磨耗	底部から大きく開く、内底中央凹む、板目痕	内底に粘土巻き上げ痕
3-2	381	瓦器	椀		攪乱		(1.1)	5.5	灰	灰	普通	高台完形	断面三角形の丁寧な作りの径の大きな高台、見込み格子状のミガキ、切り離しなし	和泉 III-1まで?
3-2	382	常滑焼	大甕		表採	47.6	(7.7)		にぶい赤褐	にぶい赤褐		口縁周わずかに残	上下に大きく拡張された口縁端部頸部とは密着しない	

第IV章 3-3区の調査

1. 3-3区の概要

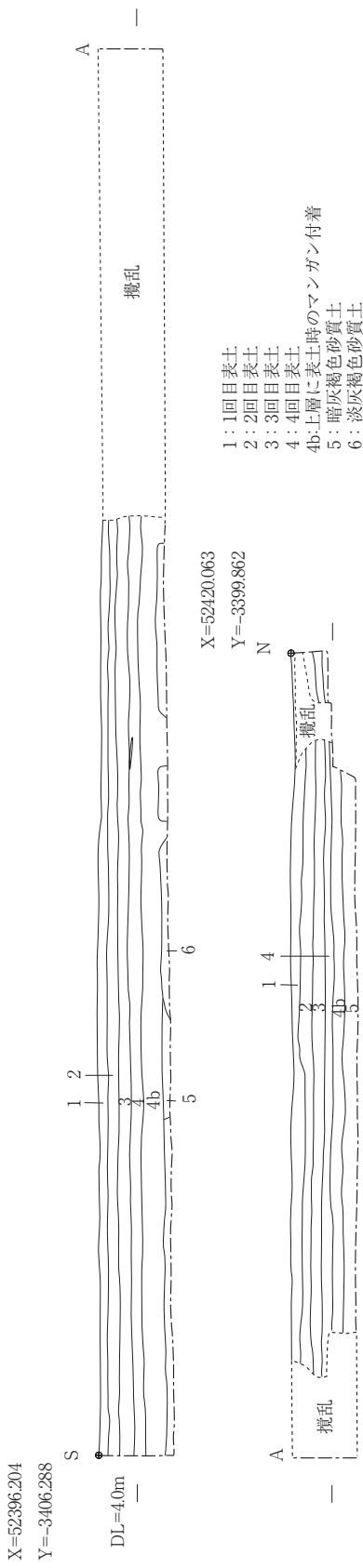
3地点は城山東山麓に位置し各調査区の中で現況では最も仁淀川に近接する調査地点である。3-1区は3地点を調査の便宜上3分割した南端部に位置し北側を3-2区と接している。調査前は宅地及び水田となっており、標高は約5.5mであった。基本層序は3-1区と同様で1~6層に大きく分けることができ4~6層が遺物包含層となっている。遺物包含層から出土した遺物も3-1区と同様に古代から近世までの遺物が出土している。出土遺物では13世紀半ばから14世紀と考えられる高台の退化した瓦器が多く出土していることが注目される。3-1区と異なる点として12世紀代と考えられる遺物がやや多い点が上げられる。

遺構は、上面、下面の二面で検出しており、上面では土坑5基、ピット109個、溝跡1条、井戸跡1基などを検出した。また下面からは土坑33基、ピット401個、溝跡1条、性格不明遺構4ヶ所を検出した。ピットは多く検出できたが掘立柱建物跡として復元できたものは6棟のみであった。

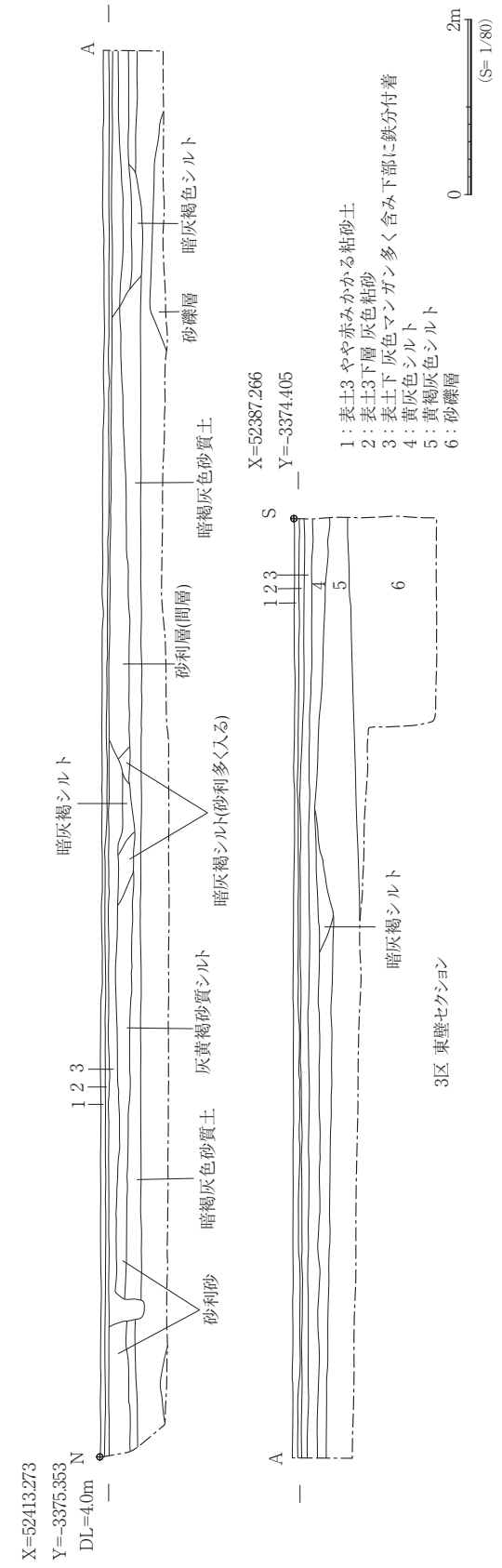


※ 3地点拡張区については「上ノ村遺跡II」で報告

4-1図 調査区位置図



3区 中央バンク



4-2 図 セクション図

2. 上面の遺構と遺物

上面で検出した遺構は土坑5基、ピット109個、溝跡1条、井戸跡1基である。遺構検出標高は3.8～3.9mで検出遺構埋土は7種類を確認しており灰褐色粘質土と暗褐色粘質土がほとんどである。灰褐色粘質土、暗褐色粘質土は4層相当と考えられ、当該埋土の遺構は4層出土遺物に伴う時期の可能性が高いと考えられる。遺構の分布は中央部と調査区西側山裾に偏った状態で分布している。

以下は精査の結果欠番とした遺構である。

土坑 SK6

ピット P3・P12・P14・P15・P21・P29・P71・P72・P96・P111・P115・P122・P123

(1) 土坑 (SK)

土坑は5基検出しておりSK3を除きいずれも長方形のプランをもったものである。遺構埋土から土師質土器、瓦器などの中世に属する遺物が出土しているが出土量は少なく細片が出土するのみである。

遺構名	長径×短径×深さ (m)	平面形	断面形	長軸方向	付属遺構	出土遺物	時期	備考
SK1	0.94 × 0.79 × 0.23	長方形	逆台形	N - 21° - W		土師質土器・瓦器		
SK2	1.93 × 1.10 × 0.12	長方形	皿状	N - 88° - W		土師質土器・瓦器・備前焼		
SK3	0.78 × 0.74 × 0.41	円形	舟底形	N - 84° - E		土師質土器・須恵器		二段底
SK4	1.42 × 0.77 × 0.19	長方形	箱形	N - 4° - E		瓦器・瓦質土器・常滑焼・須恵器	13世紀半ば	和泉型瓦器IV期～
SK5	0.92 × 0.60 × 0.15	長方形	皿状	N - 16° - W		土師質土器・瓦器・常滑焼		

表4-1 上面土坑一覧表

SK1

SK1は調査区東端部で検出した平面形は楕円に近い長方形の土坑である。長軸0.94m、短軸約0.8m、深さ約23cmを測り、断面形は逆台形状を呈する。埋土は1層が暗灰褐色粘砂土、2層が褐色粘砂土である。埋土中からは土師質土器、瓦器が出土しているが細片が多く、図示できた1は被熱した瓦器である。

SK2

SK2は調査区中央部で検出した。平面形は長方形で長軸約1.9m、短軸約1.1m、深さ約12cmを測り浅く平坦な土坑である。断面形は皿状で埋土は1層が灰褐色粘砂土、2層が黄褐色砂質土である。埋土中からは土師質土器、瓦器、備前焼播鉢が出土している。

SK3

SK3は調査区中央部の遺構が密集する場所で検出した円形の土坑である。直径は約0.8m、深さは約41cmを測る。二段底状で埋土は1層は暗灰褐色粘砂土に黄褐色小礫が混じる土、2層は暗灰褐色粘砂土である。埋土中から土師質土器細片が5点出土している。

SK4

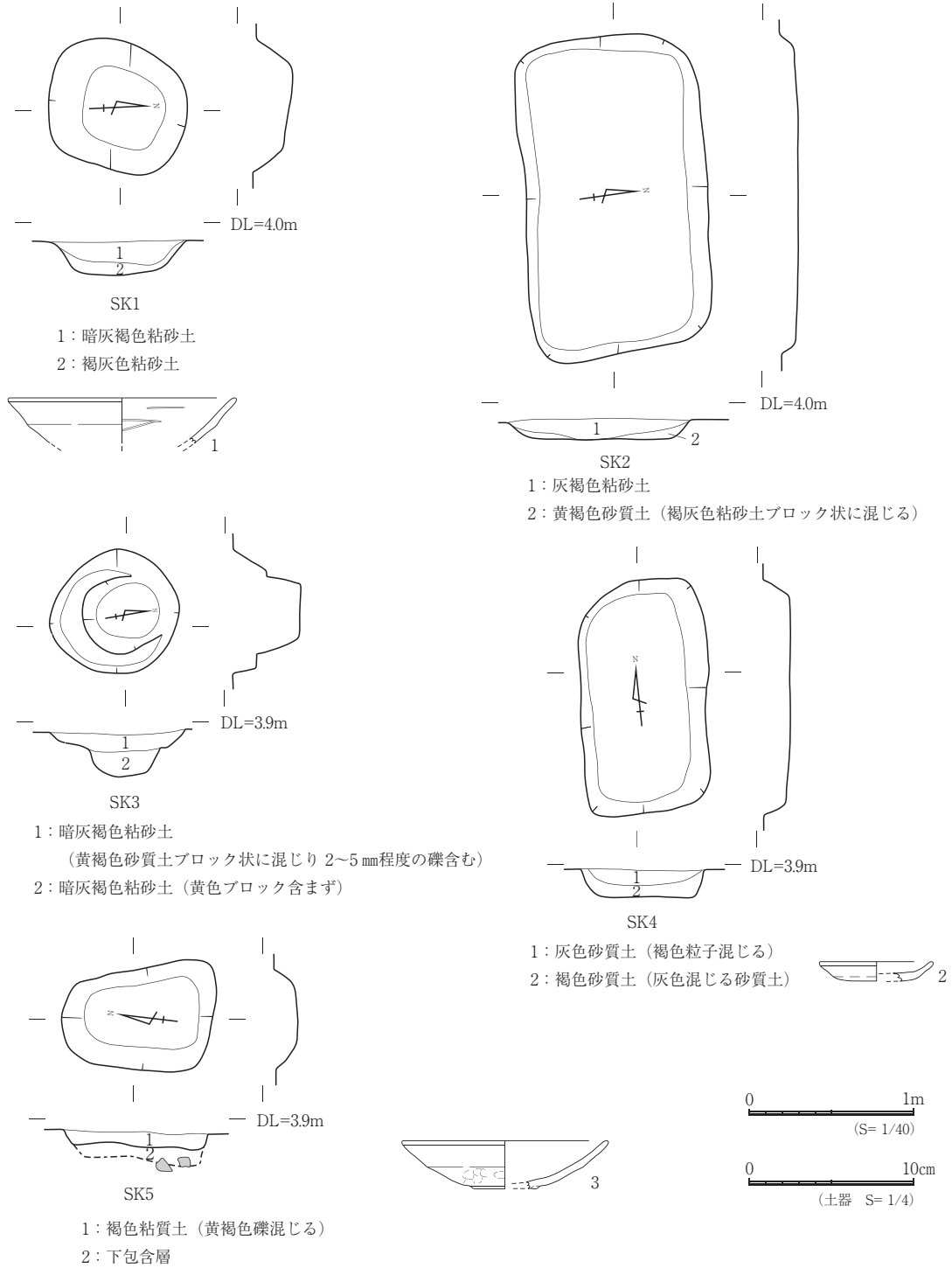
調査区西側よりで検出した長方形の土坑である。長軸は約1.4m、短軸は約0.8m、深さは約20cmを測る。断面形は箱形で遺構埋土は1層が灰色に褐色粒子が混じる砂質土、2層は褐色に灰色混じる砂質土であった。埋土中からは瓦器細片が約30点と須恵器の細片が1点出土している。図示できた2は瓦器皿で平坦な器形である。



4-3 図 上面遺構全体図

SK5

SK5は調査区西側で検出した。平面形は楕円に近い長方形で長軸約0.9m、短軸約0.6m、深さ約15cmを測る。断面形は皿状で埋土は褐色粘質土である。埋土中からは土師質土器、瓦器、常滑焼が出土している。図示できた3は瓦器椀で高台は扁平になっており和泉型瓦器椀IV期と考えられる。被熱によって赤変している。



4-4図 SK1~5

(2) 井戸跡 (SE)

SE1は調査区西側で検出した遺構である。検出時6.6×7.0mの不整形な円形プランを呈していた。検出埋土は他の遺構と異なり、黄褐色砂質土で部分によって異なっていた。このため埋土が異なった部分を当初IKO1とIKO2として遺構番号を付けた。検出面下約40cm、標高約3.45mで石の集中した部分が確認した。上層の20cm程度の石を除去すると大きな石が中央部の空間を囲む様に円形に配置された状態を検出でき石積の井戸枠であることを確認した。このためIKO1・2は井戸掘方としSE1は石積み井戸枠本体の遺構番号とした。

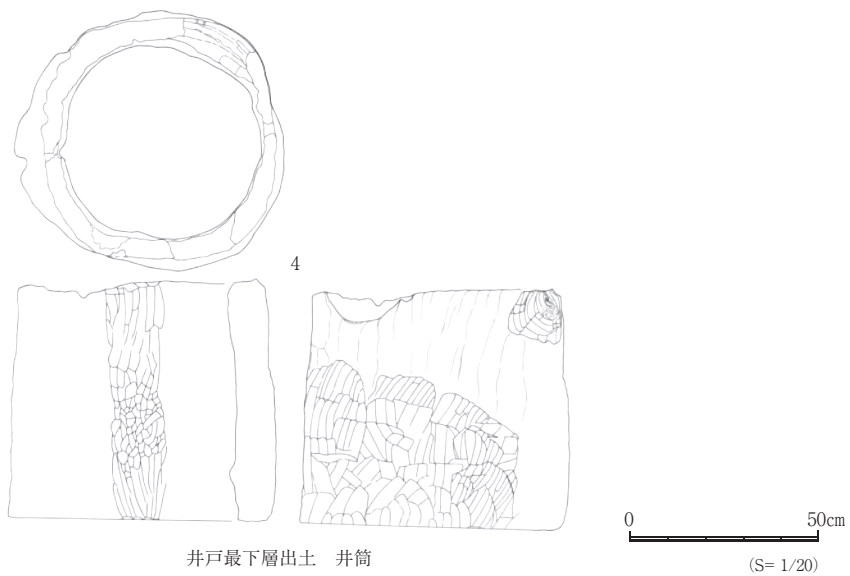
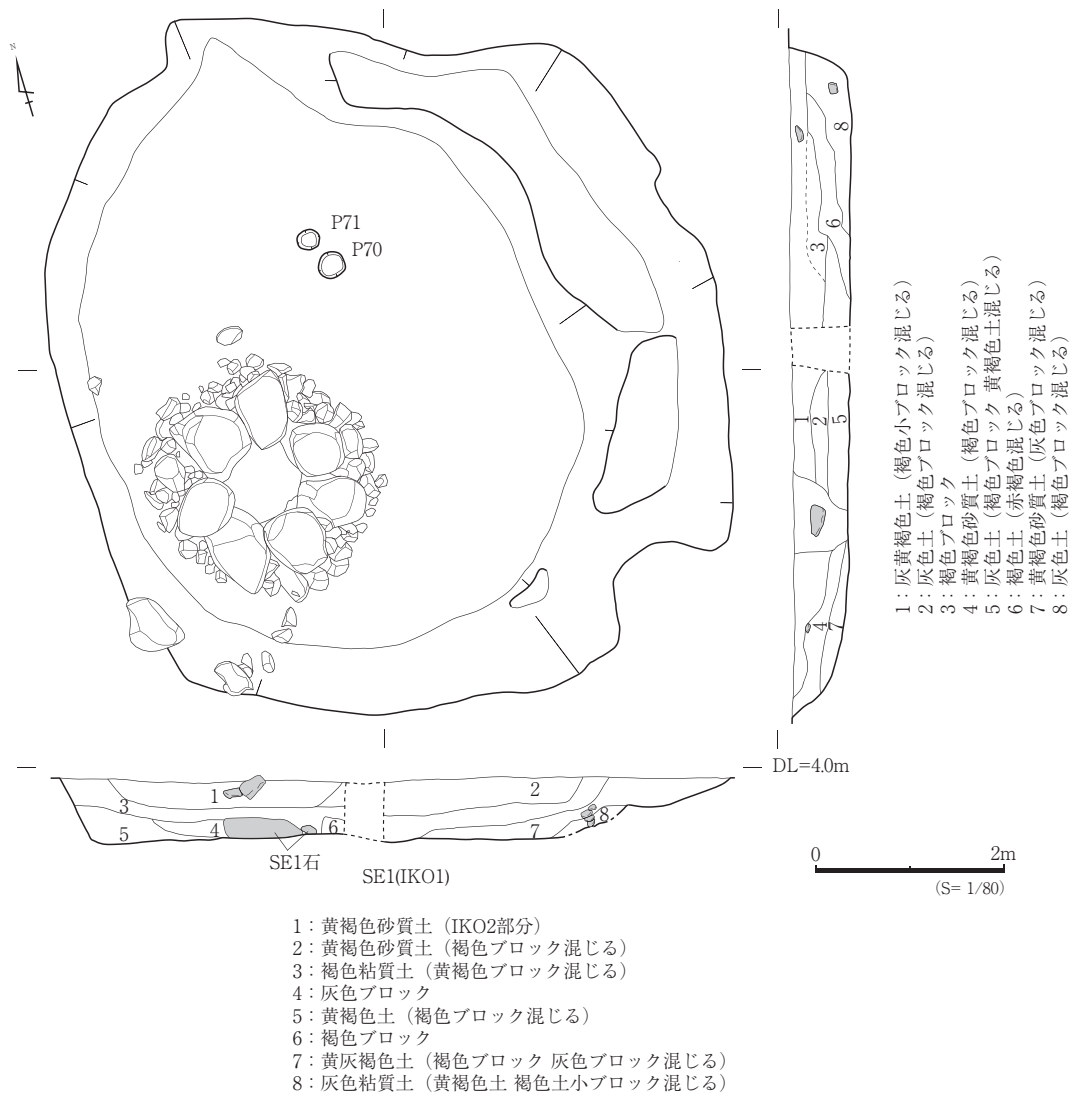
調査は井戸枠内部の掘削から行い、石組みの確認を行ったところ非常にしっかりした石組みであることが判明した。このため安全を確認しながら内部を掘削し石組み最下部まで約4.3m検出を行い、最下部下に削り抜き井戸枠が存在することを確認することができた。しかし、井筒部分については安全確保が困難と判断し井戸枠内部調査を終了した。

掘方部分は安全確保を行いながら調査するためには、大規模な掘削を必要とすることから人力掘削による調査を断念し、重機掘削による半截により井筒検出までの調査を行った。

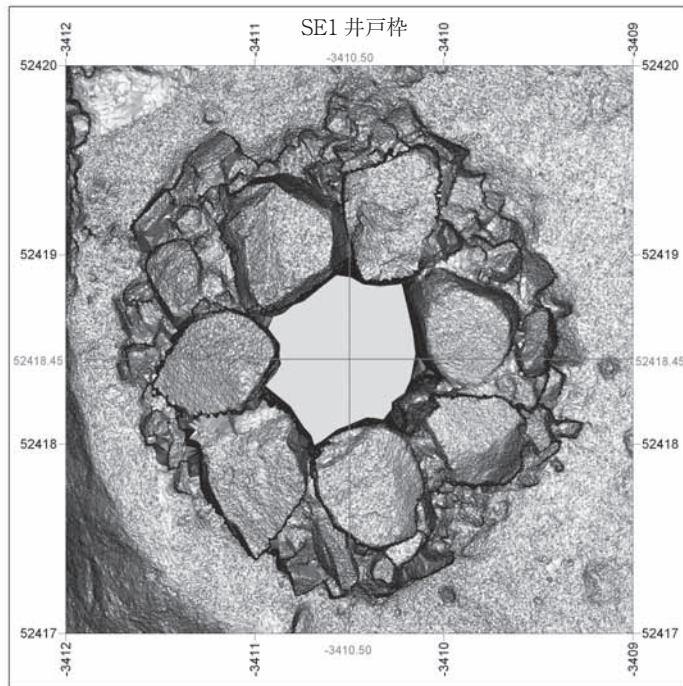
石積み井戸枠は、内径約0.7m、深さ約4.3mで上端から最下部まで円筒形の断面形を呈する。

検出面では井戸枠組石の外側に直径約2.4mの範囲に裏込め状の直径20cm程度の割石がみられ、組石は裏込めに向かって長軸を取り、短軸を井戸枠内部の表面とする構造がみられた。組石に用いられた石材は長軸約70cm、短軸約50cm、幅約15～20cmの白色砂岩質のものである。最下部の井筒は削り抜き式の木製で外径62cm、内径50cm、高さ62cmを測る。樹種鑑定は行ってないが肉眼観察では松の可能性が高いと考える。

埋土の状況は石組が検出されるまでの掘方埋土はブロック状になっており埋め戻しが想定される。井戸枠内部は粘土状になっていた。また井筒内部には砂が多量に詰まった状態であった。埋土中から出土した遺物は、掘方部分から中世遺物が多く出土し特に瓦器椀、瓦器皿が多く出土している。3地点で検出した他の中世遺構と差異は認められないが1点近世遺物が出土しており、中世遺構を壊して掘り込まれた可能性を示している。井戸枠内部からは遺物の出土は少ないが近世陶磁器3点図示できた。22は内野山窯産の銅緑釉椀で外面透明釉、内面銅緑釉が施釉されている。内野山窯I期、1610年を上限として17世紀第2四半期頃（「内野山北窯跡」1996年 佐賀県教育委員会）のものと考えられる。この井戸跡は近世初頭の時期と考えられる。

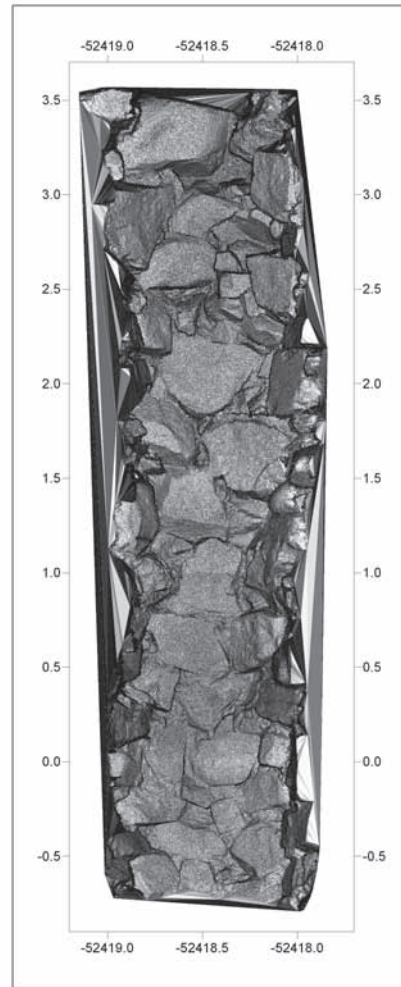
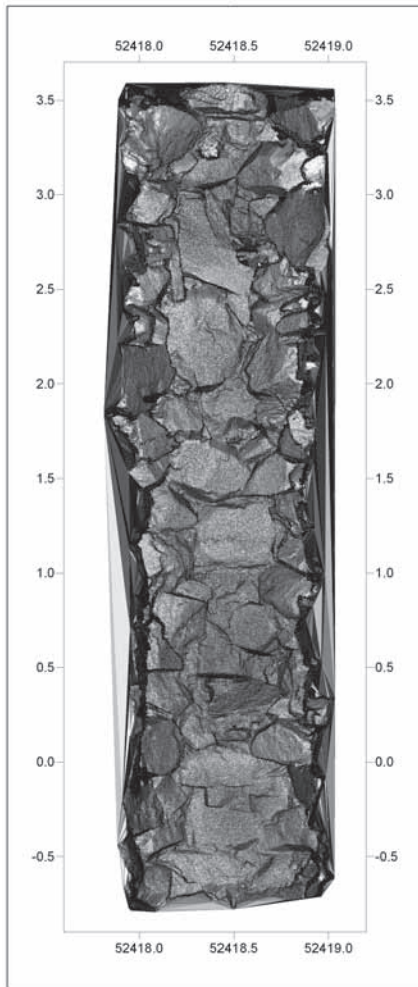


4-5図 SE1

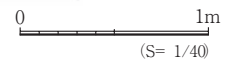


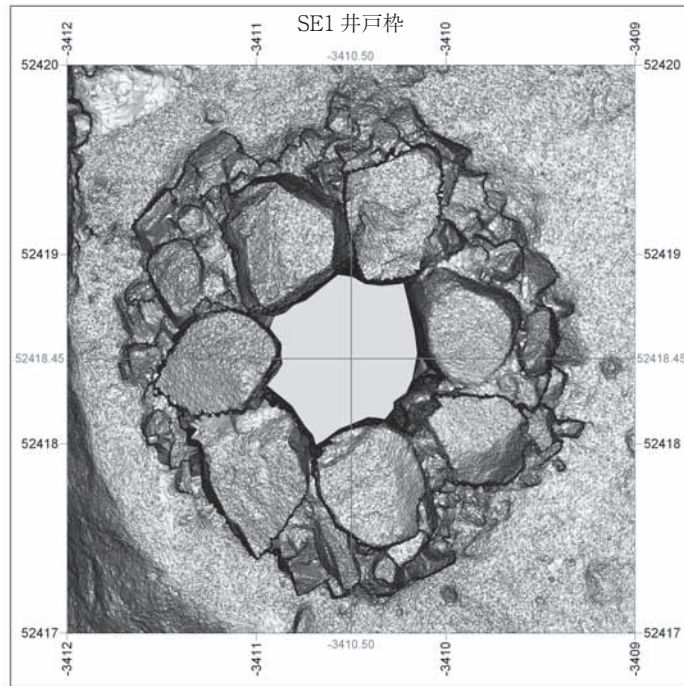
SE1 井戸枠東側

SE1 井戸枠西側



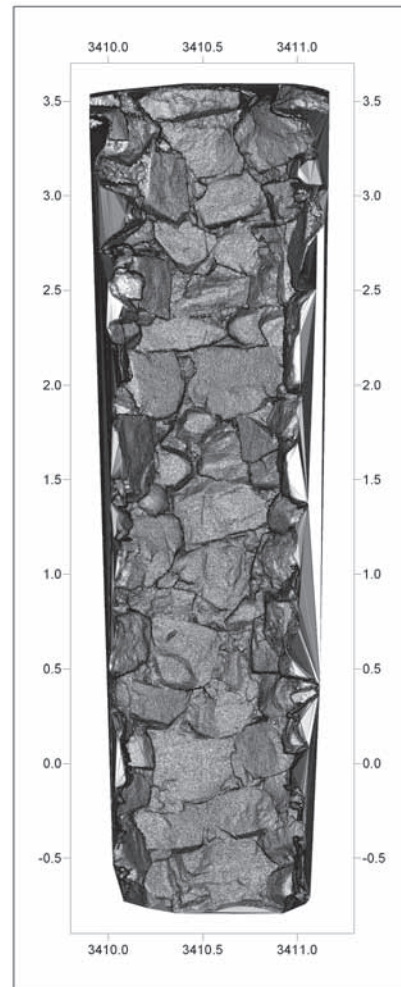
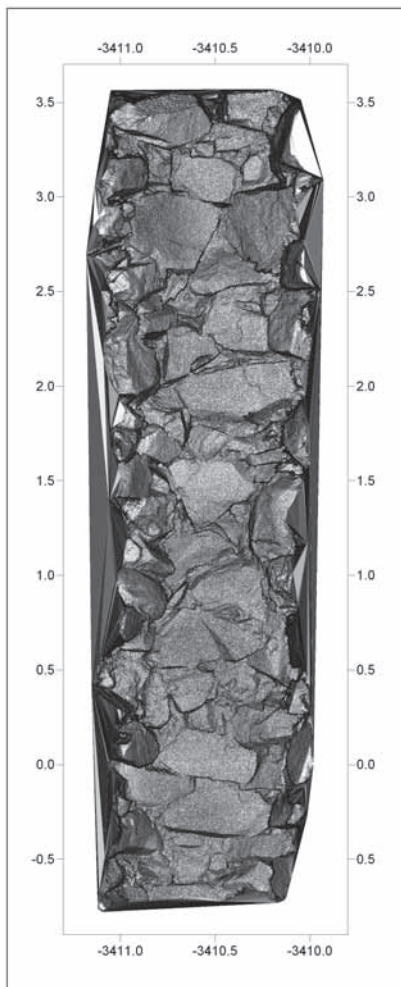
4 - 6 図 SE1



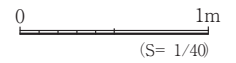


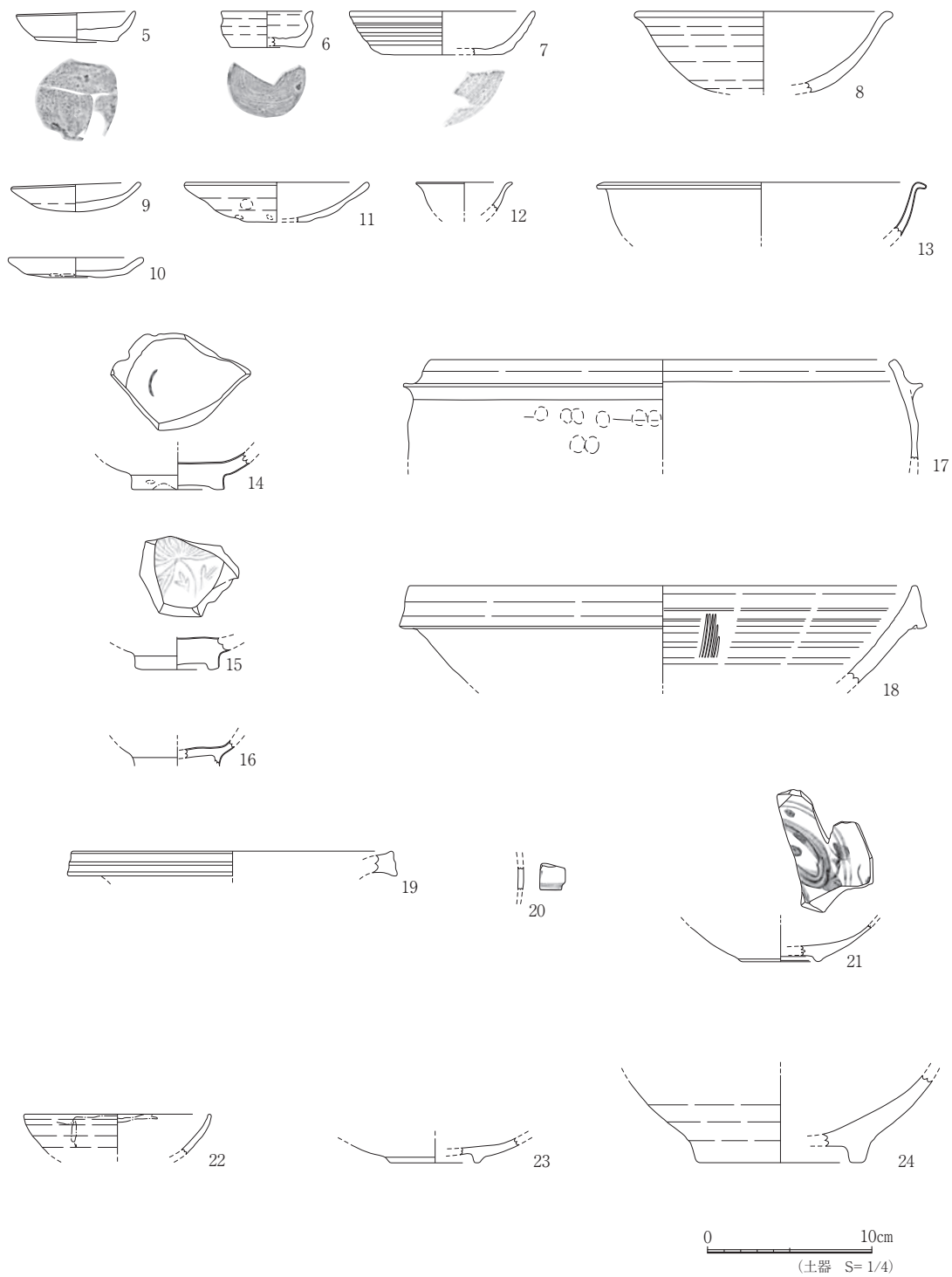
SE1 井戸枠北側

SE1 井戸枠南側



4-7図 SE1





4 - 8 図 SE1 出土遺物

(3) 溝跡 (SD)

溝跡はSD1とSD7の2条検出しており、SD7は3-2区で検出したSD7の延長部分である。

SD1

SD1は調査区西側で検出した東西方向の遺構である。検出規模は延長約3.7m、上端幅0.5m、深さは約16cmを測り断面形は箱形である。埋土は灰褐色粘砂土に黒褐色ブロックで多く混じり下層では黒褐色ブロックが少なくなる。埋土中からは土師質土器、瓦器、瓦質土器、須恵器の細片が出土している。図示できるものはなかったが、瓦質のしっかりした鏝が付く羽釜口縁が出土している。

遺構名	長さ×幅×深さ (m)	平面形	断面形	主軸方向	接続	出土遺物	時期	備考
SD1	3.7 × 0.5 × 0.16	直線	箱形	N - 88° - E		土師質土器、瓦器、瓦質土器、須恵器		
SD7	22.5 × 0.5 × 0.2	直線	U字状	N - 2° - W	3-1区SD25	近世陶磁器、土師質土器		3-2区SD7と同一

表4-2 溝跡一覧表

(4) 石列

調査区西側で検出した。石列1は3-2区南端部で検出した東西方向の石列である。3-3区で検出した南北方向石列2とは直交し、石列3ともほぼ直交する。石列1~3の内側部分は多量の黄褐色砂質小礫を含み整地土の可能性が考えられる。このため石列1~3は整地に伴う区画石列の可能性が考えられるが、石列1の西端部は石列2より西側に延びていることや石列1に並行する石列が検出できなかったことなどから確定できない。石列内側からはピットが検出されているが建物跡は復元できなかった。下面では溝状の窪地と考えられる下IKO2を検出していることから、これに伴う地業が行われた可能性は高いと考えられる。

石列1

石列1は3-2区南端部で検出した東西方向の石列である。検出長は6.1m、軸方向はN-80°-Wである。検出標高は約4.0mで三段になる部分もみられ基底部の標高は3.6mである。石の大きさは比較的大きなものが多く長軸80cm、短軸60cm、高さ15cmの石もみられる。石材は白色の砂岩である。

石列2

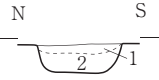
石列2は石列1の南西で検出した南北方向の石列である。検出長は5.8m、軸方向はN-10°-Eで石列1と直交する。検出標高は約3.6~3.7mで積み石状にはならない。石の大きさは石列1のものに比べて小さなものが多く大きなものでも長軸30cm、短軸25cm程度である。石材は白色の砂岩のものがほとんどであるが、黄褐色風化礫もみられる。

石列3

石列3は4石が並ぶのみであったが、石列1・2が整地層を区画する石列の可能性が考えられたため検出を行うと石列2に並行する状態で石が並んだため石列とした。検出長は1.3m、軸方向はN-8°-Eである。

検出標高は約3.6~3.7mで石列2と同様に積み石状にはならない。石は長軸でも20cmを超えるものが無く小さい。石材は白色の砂岩である。

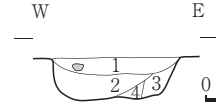
X=52403.311
Y=-3408.668
DL=3.9m



SD1

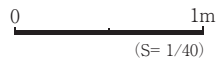
X=52402.694
Y=-3408.660

X=52403.135
Y=-3379.426
DL=4.0m



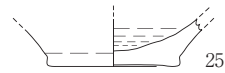
SD7

X=52403.157
Y=-3378.621



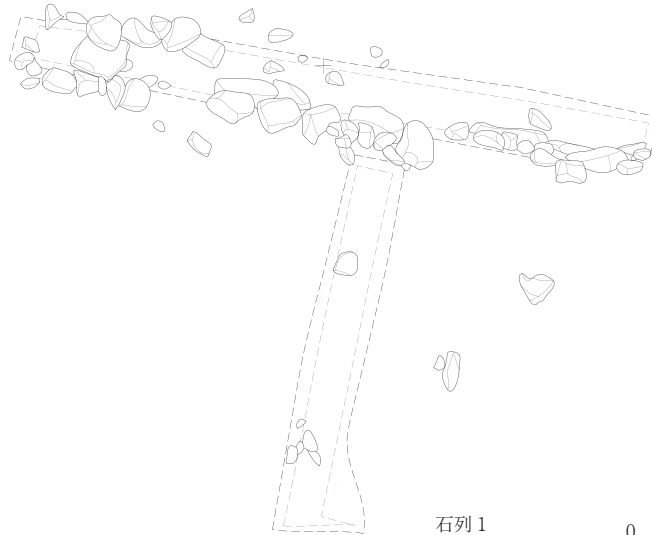
- 1: 灰褐色粘砂土 (黒褐色ブロック多く混じる)
- 2: 灰褐色粘砂土 (黒褐色ブロック少ない)

- 1: 黄灰褐色粘砂土 (マンガン多く混じる)
- 2: 灰褐色粘砂土 (マンガン混じる)
- 3: 黄灰褐色粘砂土 (炭化物多く混じる)
- 4: 黄灰褐色粘砂土



X=52428.000
Y=-3416.000

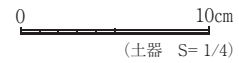
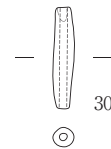
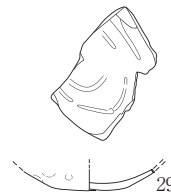
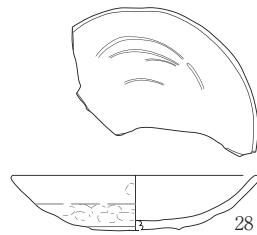
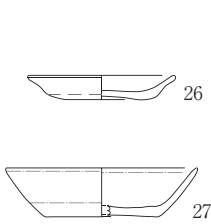
X=52428.000
Y=-3408.000



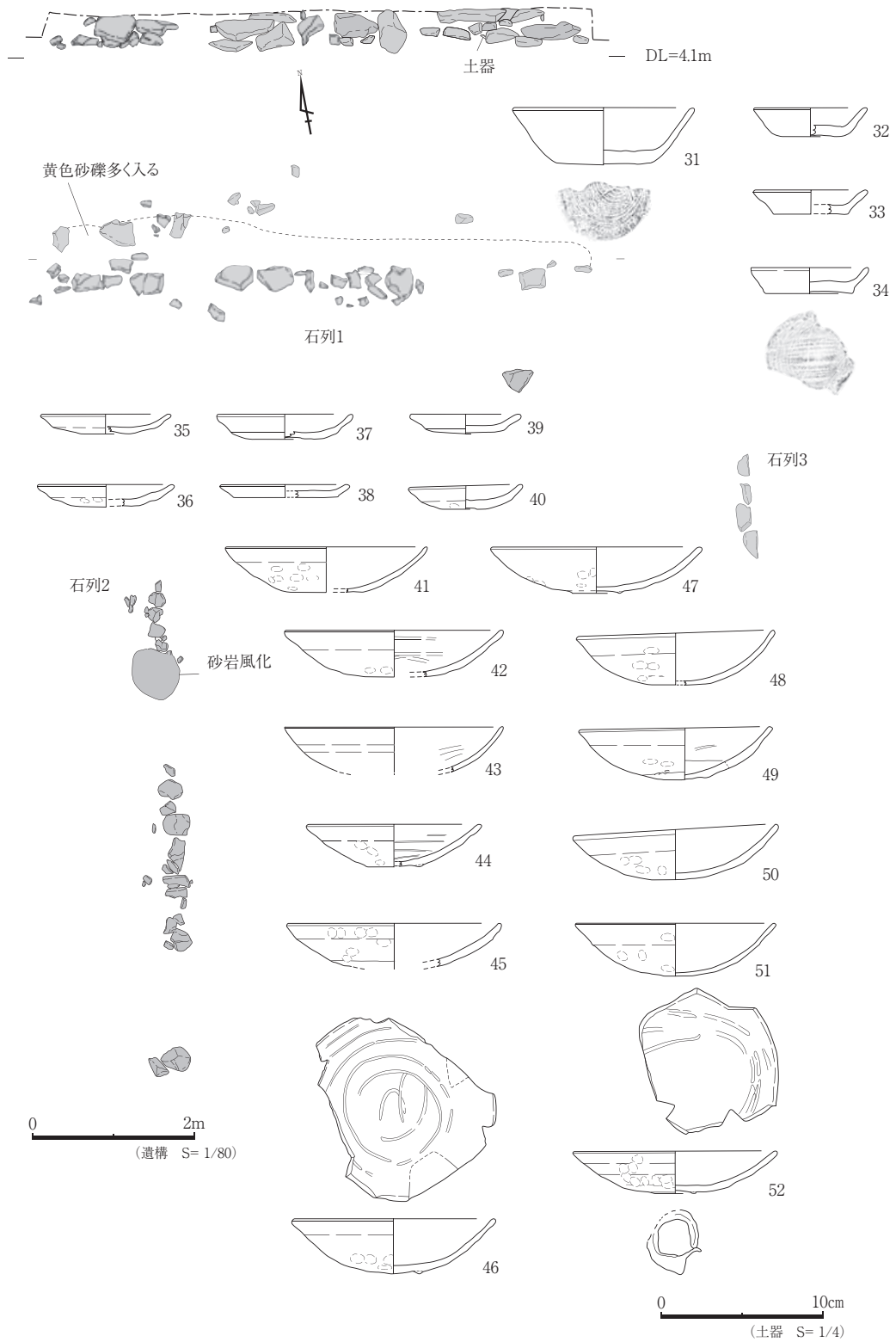
石列1

X=52425.000
Y=-3416.000

X=52425.000
Y=-3408.000



4-9図 SD1・7・石列1



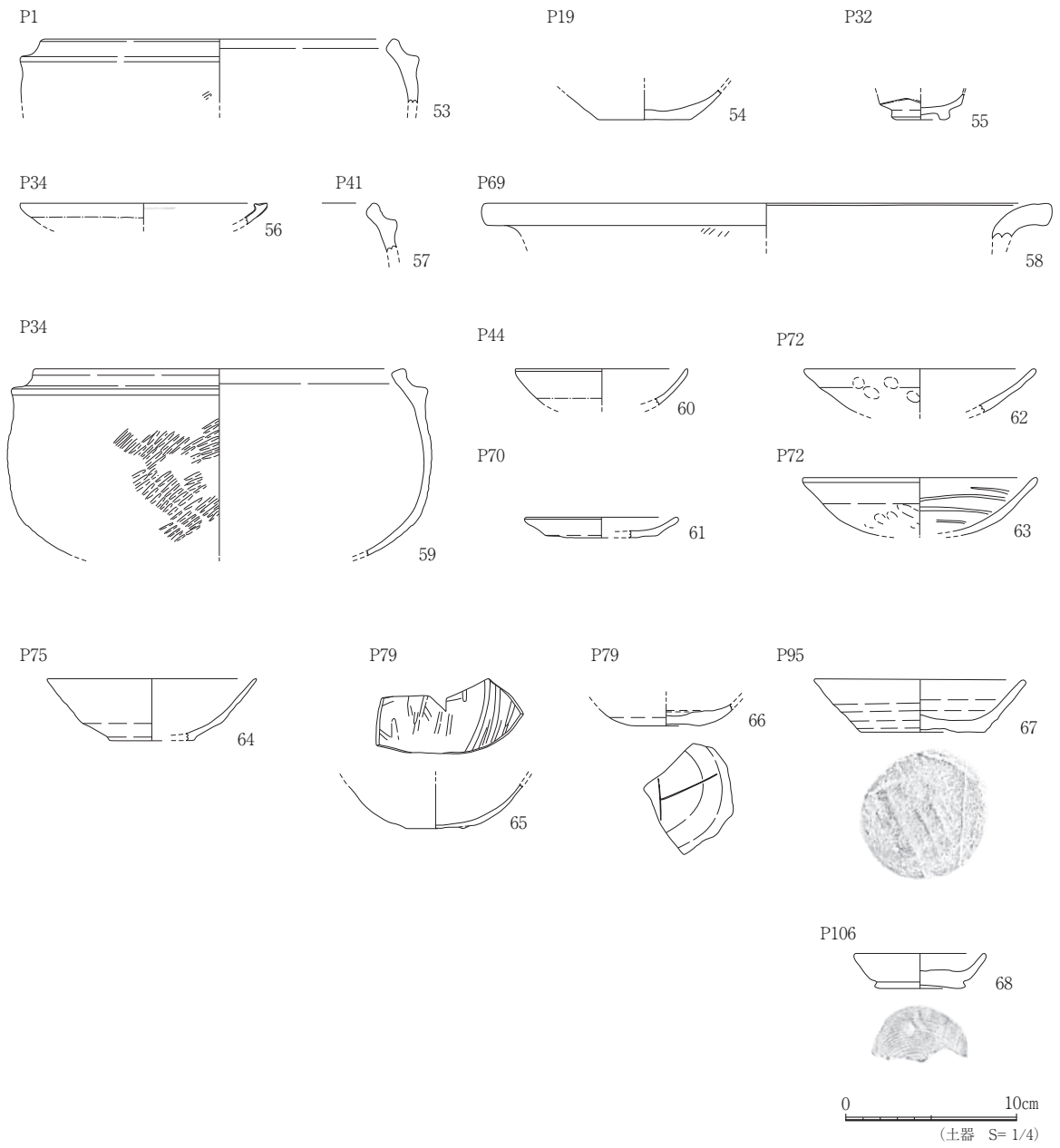
4-10図 石列1・2・3

(5) ピット (P)

上面では検出時 P1～124 までを遺構番号を付けたが調査の結果、13 個が欠番となりピットと確認できたものは 109 個であった。出土遺物が図示できたピットと下層で検出したピットと掘立柱建物跡の柱穴になる可能性がある物だけを下記の表にして特徴をあげる。

遺構名	平面形	長径×短径(直径)(cm)	深さ(cm)	埋土	図版No	遺物	備考
P1	円形	50	43	暗褐色粘質土	53	播磨型土師質羽釜 16世紀代の可能性	
P19	円形	35	46	暗褐色粘質土	54	土師質土器底部 摩耗	
P30	不整形	100×58	47				
P32	円形	60	73	暗褐色粘質土	55	白磁 八角皿 15世紀後半	
P33	円形	20	49				SB3
P34	楕円形	60×53	50	暗褐色粘質土	56・59	56 施釉 瀬戸卸皿の可能性 59 播磨型土師質羽釜 16世紀代の可能性	
P41	円形	26	30	暗褐色粘質土	57	播磨型土師質羽釜 16世紀代の可能性	P27に切られる
P44	円形	44	15	暗褐色粘質土	60	白磁皿小型丸い体部	P45を切る
P45	楕円形	50×32	44	暗褐色粘質土		土師質土器 瓦器	SB3
P46	円形	30	30	暗褐色粘質土		土師質土器 瓦器	SB3
P47	楕円形	58×50 柱痕16	47	灰褐色粘質土		土師質土器 瓦器	SB1 柱痕
P50	隅丸方形	46	30	灰褐色粘質土			SB1
P52	円形	32	40	暗褐色粘質土			P32と切り合う
P53	円形	28	17	暗褐色粘質土		土師質土器	P45と切り合う
P56	不整形	50×28		灰褐色粘質土		土師質土器	P33と切り合う
P57	不整形	52×29	34	灰褐色粘質土		土師質土器	P59と切り合う 2個の可能性
P59	円形	30	25	暗褐色粘質土			P57と切り合う
P69	円形	32	29	暗褐色粘質土	58	須恵器 甕	
P70	円形	28	15	黄褐色粘質土	61	瓦器皿 扁平な器形	SE1 井戸枠検出面で検出 近世か
P72	円形	34	52	灰褐色粘質土	62・63	63 瓦器碗 口縁外反長い	
P75	円形	32	29	暗褐色粘質土	64	土師質土器杯 薄手	柱痕状部分有り
P79	楕円形	52×34	53	暗褐色粘質土	65・66	65 瓦器碗 断面小さな三角形の高台 66 須恵器 外底へら記号	
P95	楕円形	32×25		暗褐色粘質土	67	土師質土器杯 底部切り離し痕無し板目 もしくはへら痕跡	
P106	円形	19	33	暗褐色粘質土	68	土師質土器小皿 体部丸み、回転糸切り	
P110	楕円形	60×48	39	暗褐色粘質土		土師質土器 瓦器	SB1
P112	円形	46	15	暗褐色粘質土		土師質土器 瓦器	SB3

表4-3 上面ピット計測表



4-11 図 上面ピット出土遺物

3. 下面の遺構と遺物

下面で検出した遺構は掘立柱建物跡を6棟とピット列1条、土坑33基、ピット401個、溝跡1条、性格不明遺構4ヶ所である。遺構検出標高は約3.6mで遺構検出埋土は上面と同じく7種類確認しており暗褐色粘質土の遺構がほとんどだが、灰褐色粘質土の埋土の遺構が約10%混じる。暗褐色粘質土は5層相当と考えられ、5層出土遺物に伴う時期の遺構の可能性が高いと考えられる。遺構の分布は中央部と調査区西側山裾に偏った状態で分布しているのは上面の状況と同じであるが中央部の密集度が高くなり南側まで遺構の分布が広がっている。

以下は精査の結果欠番とした遺構である。

土坑 下SK12・下SK14・下SK23

ピット 下P5・下P8・下P10・下P15・下P16・下P17・下P18・下P34・下P63・下P66・下P92・下P112・下P115・下P140・下P164・下P238・下P301・下P309・下P314・下P321・下P322・下P323・下P376・下P400・下P401

(1) 掘立柱建物跡・柱穴列 (SB・柱穴列)

掘立柱建物跡は調査中は建物跡と認識することはできなかったが、上面、下面で検出したピットから6棟を図上復元することができた。主に下面で検出したピットが柱穴となっているが一部上面で検出したピットが柱穴となる掘立柱建物跡もみられる。上面、下面で検出したピットで一つの掘立柱建物跡を復元した理由として、上面遺構の埋土となる4層相当包含層出土遺物と下面埋土となる5層相当包含層出土の遺物に明瞭な時間的差異が認められないこと、ピットの分布がほぼ同一であること、掘立柱建物跡の柱穴としたピットの底面のレベルがほぼ同一であることなどがあげられる。

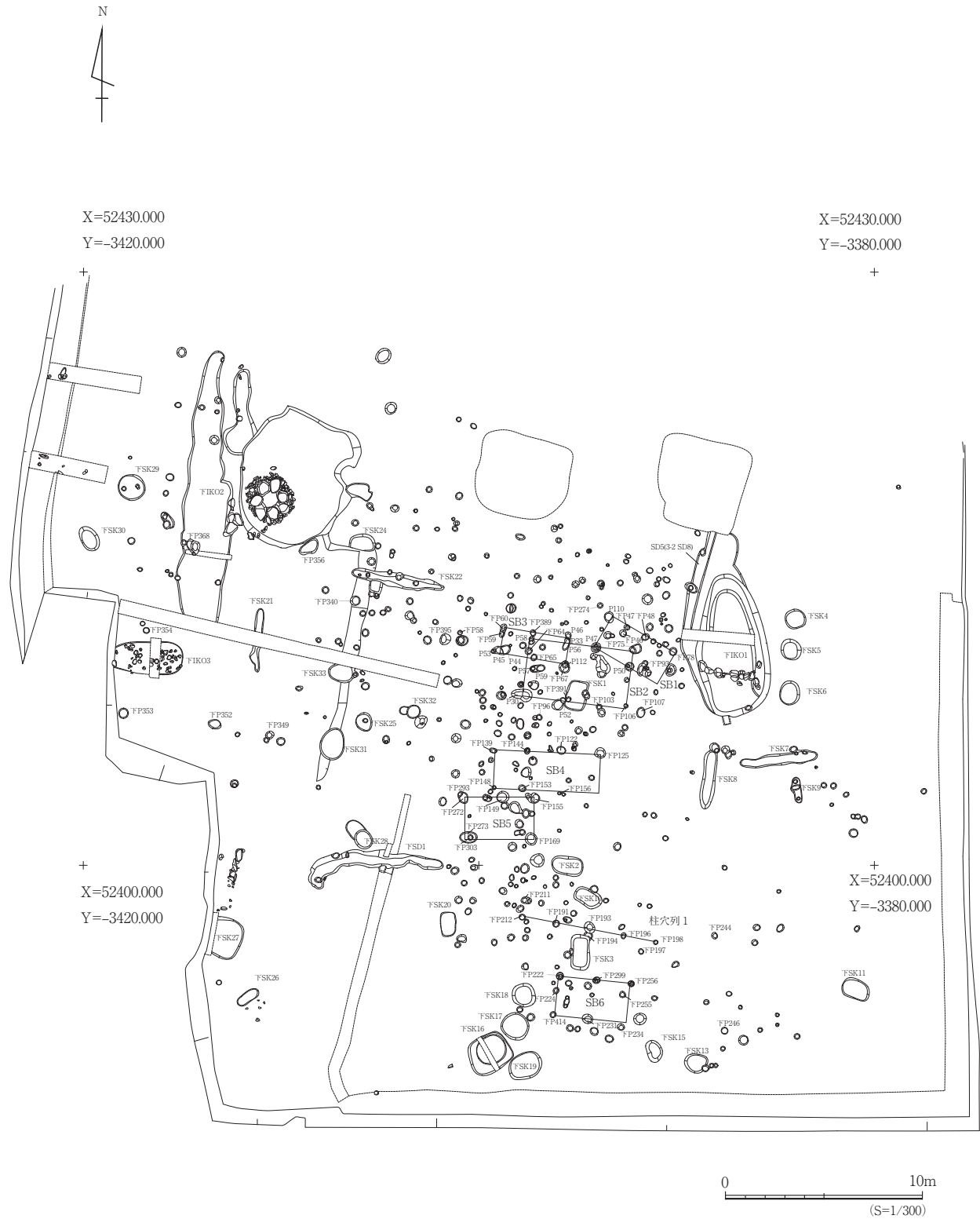
SB1～3は重複している。またSB4・5は近接している。SB1～5はピットが最も集中する調査区中央部で検出した。柱穴列1はピットが1.5～1.8mの等間隔で並ぶが、対面側が無く建物跡にはならなかった。

遺構名	梁行×桁行 (間)	梁行×桁行 (m)	棟方向
SB1	1×2	1.8×3.6	N-60°-W
SB2	2×3	2.8×5.1	N-86°-W
SB3	1×2	1.5×3.3	N-75°-W
SB4	1×3	1.8×5.4	N-88°-W
SB5	1×2	2.0×3.8	N-90°-W
SB6	2×2	2.0×3.6	N-82°-W
柱穴列1	4	6.9	N-80°-W

表4-4 掘立柱建物跡計測表

SB1

SB1は調査区東側に位置し下IKO2に隣接しSB2とは重複している。柱穴は5個を検出しており、梁行1間×桁行2間の建物を復元することができる。柱間距離は1.6～2.0mを測り、建物規模は1.8m×3.6mで面積は6.48㎡である。棟方向はN-60°-Wである。検出した柱穴では上面で検出したものが3個、下面で検出したものが2個である。柱穴埋土は灰褐色粘質土、暗褐色粘質土で柱穴規模は直径40～50cmである。埋土中からは土師質土器、瓦器が出土するがいずれも細片で図示できるものはなかった。



4-12図 下面遺構全体図

SB2

SB2は調査区東側に位置しSB1・3と重複している。柱穴は10個を検出しており、梁行2間×桁行3間の建物を復元することができる。柱間距離は梁行が1.3m、桁行が1.3～1.8mを測る。建物規模は2.8m×5.1mで面積は14.28㎡である。棟方向はN-86°-Wである。検出した柱穴では上面で検出したものが6個、下面で検出したものが4個である。柱穴埋土は灰褐色粘質土、暗褐色粘質土で柱穴規模は直径25～50cmである。埋土中からは土師質土器、瓦器、青磁が出土しているがいずれも細片で図示できるものはなかった。

SB3

SB3は調査区東側に位置しSB2と重複している。柱穴は6個を検出しており、梁行1間×桁行2間の建物を復元することができる。柱間距離は梁行が1.3～1.5m、桁行が1.5～1.8mを測る。建物規模は1.5m×3.3mで面積は5.25㎡である。棟方向はN-75°-Wである。検出した柱穴では上面で検出したものが3個、下面で検出したものが3個である。柱穴埋土は灰褐色粘質土、暗褐色粘質土で柱穴規模は直径35cm程度である。埋土中からは土師質土器、瓦器でいずれも細片で図示できるものはなかった。

SB4

SB4は調査区中央部に位置しSB5と隣接している。柱穴は7個を検出しており、梁行1間×桁行3間の建物を復元することができる。柱間距離は梁行が1.8m、桁行が1.5～2.0mを測る。建物規模は1.8m×5.4mで面積は9.72㎡である。棟方向はN-88°-Wである。検出した柱穴はすべて下面で検出したものである。柱穴埋土は灰褐色粘質土、暗褐色粘質土で柱穴規模は直径20～55cm程度である。埋土中からの出土遺物は少なく下P144から瓦質播鉢の細片が出土したのみである。

SB5

SB5は調査区中央部に位置しSB4と隣接し並行している。柱穴は5個を検出しており、梁行1間×桁行2間の建物を復元することができる。柱間距離は梁行が2.0m、桁行が1.8～2.0mを測る。建物規模は2.0m×3.8mで面積は7.6㎡である。棟方向はN-90°-Wである。検出した柱穴はすべて下面で検出したものである。柱穴埋土は灰褐色粘質土、暗褐色粘質土、黄褐色粘質土で柱穴規模は直径50～90cmである。埋土中からの出土遺物は少なく土師質土器、瓦器細片がわずかに出土するのみである。

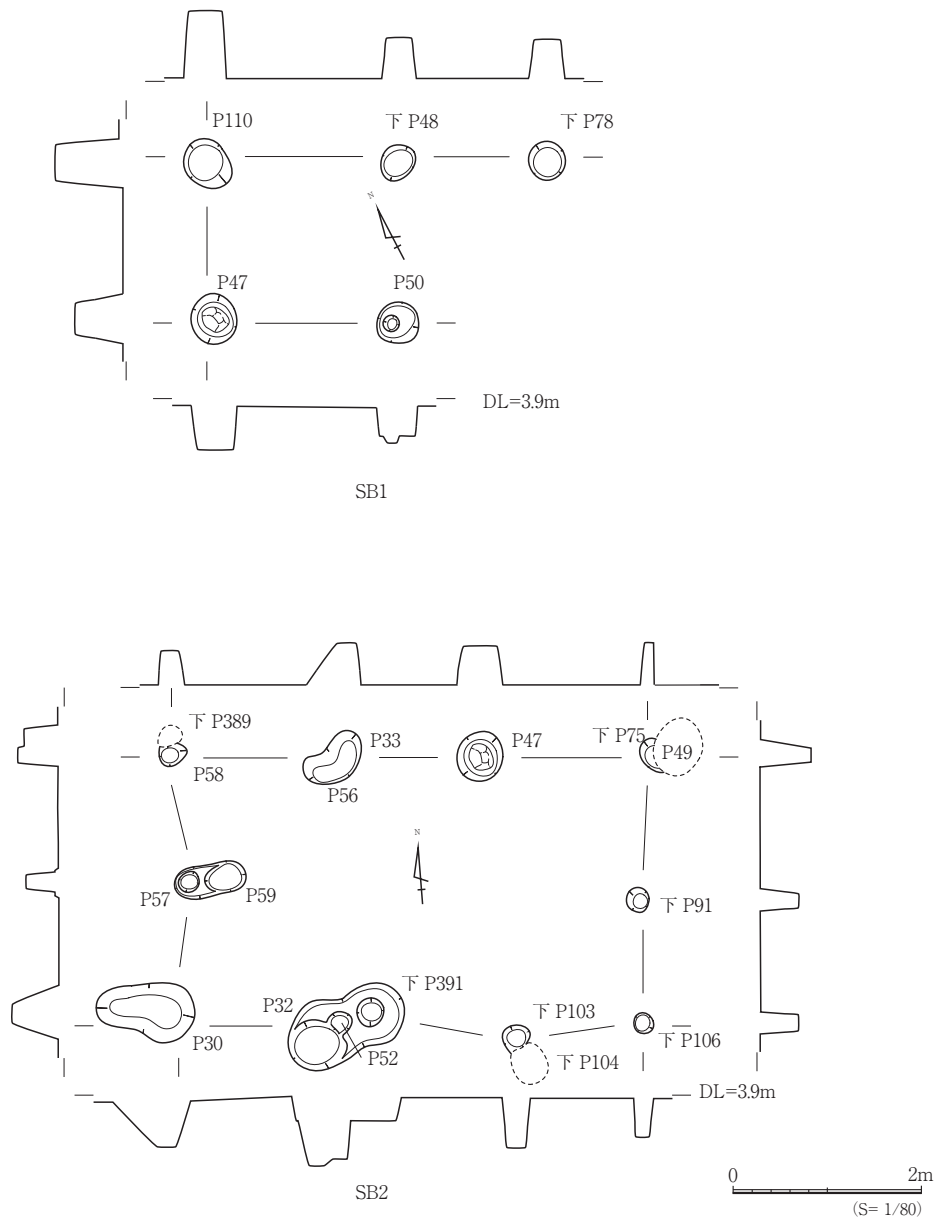
SB6

SB6は調査区南側に位置し他の掘立柱建物跡からは離れている。柱穴は6個を検出しており、梁行2間×桁行2間の建物を復元することができる。柱間距離は梁行が0.8～1.2m、桁行が1.8mを測る。建物規模は2.0m×3.6mで面積は7.2㎡である。棟方向はN-82°-Wである。検出した柱穴はすべて下面で検出したものである。柱穴埋土は灰褐色粘質土、暗褐色粘質土で下P229のみ茶褐色粘質土である。柱穴規模は直径40～60cmである。埋土中からの出土遺物は他の掘立柱建物跡と同じく少ない。土師質土器、瓦器細片がわずかに出土するのみで図示できるものはなかった。

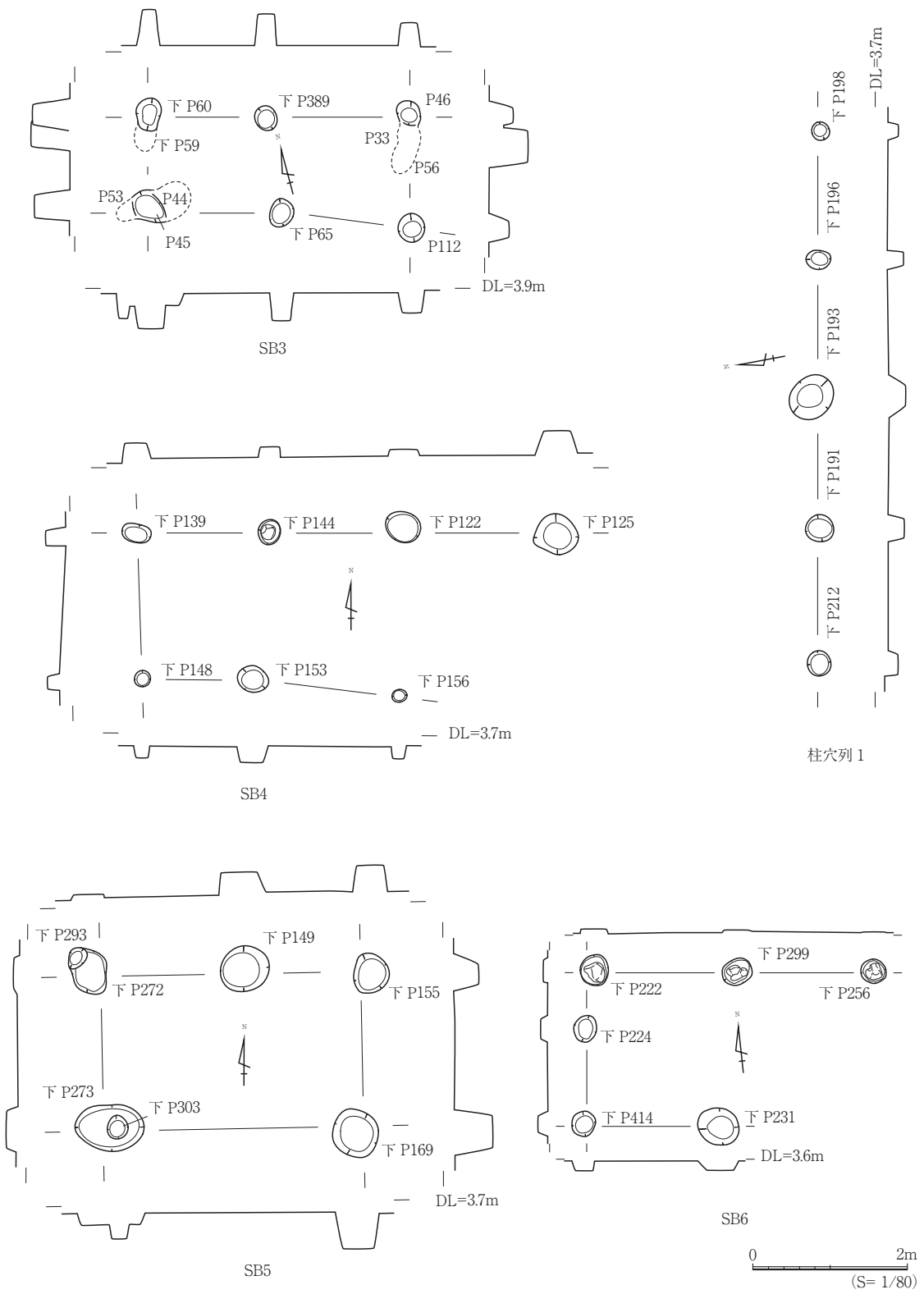
柱穴列1

柱穴列1は調査区南側に位置する。1.7～1.8mの等間隔で直列する柱穴5個を検出するが対応する柱穴を確認することができず建物跡を復元することはできなかった。柱穴列全長は6.9mで方

向はN-80°-Wである。検出した柱穴はすべて下面で検出したものである。柱穴規模は直径25~60cmを測る。柱穴埋土は全て暗褐色粘質土である。埋土中からの出土遺物は土師質土器、瓦器細片がわずかに出土するのみで図示できるものはなかった。



4-13図 SB1・2



4 - 14 図 SB3 ~ 6 · 柱穴列 1

(2) 土坑 (SK)

土坑は下面では33基検出しており下SK1～33までの遺構番号を付け調査した。精査の結果下SK12・14と下SK23は検出のみで欠番とした。遺構埋土は暗褐色粘質土のものが多く主に暗い褐色系の色調の埋土であるがわずかに灰色土のものもみられる。埋土からは土師質土器、瓦器などの中世に属する遺物が出土しているが白磁や東播系須恵器などの古代末の遺物も出土している。細片の出土が多く図示できる遺物は少なかった。

遺構名	長径×短径×深さ (m)	平面形	断面形	長軸方向	付属遺構	出土遺物	時期	備考
下SK1	1.52 × 1.06 × 0.13	長方形	皿状	N - 16° - W		土師質土器・瓦器・青磁・鉄釘		下P89に切られる
下SK2	1.60 × 0.95 × 0.38	楕円形	箱形	N - 83° - W		土師質土器・瓦器・青磁	13世紀半～	和泉型瓦器Ⅳ期
下SK3	1.78 × 0.95 × 0.27	長方形	逆台形	N - 0° - E		土師質土器・瓦器・青磁・鉄釘		下P220に切られる
下SK4	1.04 × 1.04 × 0.16	円形	皿状	N - 32° - W		土師質土器・瓦器・須恵器		
下SK5	1.10 × 1.00 × 0.29	楕円形	逆台形	N - 24° - W		土師質土器・瓦器		
下SK6	1.23 × 1.01 × 0.31	楕円形	逆台形	N - 7° - E		土師質土器・瓦器		炭入る
下SK7	3.92 × 0.57 × 0.12	溝状	皿状	N - 84° - E		土師質土器・瓦器		
下SK8	2.98 × 0.65 × 0.26	溝状	逆台形	N - 8° - E		土師質土器・瓦器・東播系須恵器・青磁・土鍾	14世紀～	下P127に切られる
下SK9	1.29 × 0.51 × 0.12	楕円形	箱形	N - 8° - W				下P289に切られる
下SK10	1.43 × 0.80 × 0.57	楕円形	箱形	N - 58° - W		土師質土器・瓦器・白磁・青磁		和泉型瓦器Ⅳ期
下SK11	1.46 × 0.97 × 0.92	楕円形	箱形	N - 68° - W		土師質土器・瓦器		
下SK12	欠番							
下SK13	1.20 × 1.03 × 0.16	楕円形	皿状	N - 80° - W		土師質土器・瓦器		
下SK14	欠番							
下SK15	1.13 × 0.75 × 0.24	楕円形	U字状	N - 22° - W		土師質土器・瓦器・青磁		
下SK16	2.14 × 1.89 × 0.25	長方形	二段底状	N - 57° - E		土師質土器・瓦器・青磁・炆器		近世土坑の可能性
下SK17	1.45 × 1.45 × 0.34	円形	箱形	N - 30° - W		土師質土器・瓦器・黒色土器・須恵器		近世土坑の可能性
下SK18	1.23 × 1.17 × 0.38	楕円形	U字状	N - 21° - W		土師質土器・瓦器		近世土坑の可能性
下SK19	1.76 × 1.32 × 0.38	楕円形	箱形	N - 65° - E		土師質土器・瓦器・白磁・青磁		近世土坑の可能性
下SK20	1.22 × 0.78 × 0.08	長方形	皿状	N - 0° - E				
下SK21	3.22 × 0.46 × 0.27	溝状	逆台形	N - 3° - E		土師質土器・瓦器		
下SK22	4.71 × 0.56 × 0.27	溝状	舟底形	N - 79° - W		土師質土器・瓦器	13世紀半～	
下SK23	欠番							
下SK24	(1.70) × 1.31 × 0.16	楕円形	皿状	N - 81° - W		土師質土器・瓦器・瓦質土器・青磁		
下SK25	0.92 × 0.84 × 0.15	楕円形	皿状	N - 31° - W		土師質土器・瓦器・東播系須恵器・炆器		床面より下P315
下SK26	1.25 × 0.51 × 0.20	楕円形	箱形	N - 56° - E		土師質土器・瓦器・東播系須恵器	13世紀半～	東播系須恵器Ⅲ期～
下SK27	2.20 × (1.68) × 0.33	-	舟底形	N - 13° - E		土師質土器・瓦器・須恵器・白磁・近世陶磁器・土鍾・鉄釘		
下SK28	1.67 × 0.86 × 0.16	楕円形	皿状	N - 43° - W				
下SK29	1.37 × 1.31 × 0.11	円形	皿状	N - 67° - W		須恵器		床面からビット
下SK30	1.33 × 0.86 × 0.26	楕円形	皿状	N - 30° - W		弥生土器	弥生	
下SK31	1.63 × 1.22 × 0.11	楕円形	皿状	N - 18° - E		土師質土器・瓦器・青磁		
下SK32	0.74 × 0.68 × 0.07	楕円形	皿状	N - 21° - E		土師質土器・瓦器		
下SK33	(1.75) × 1.31 × 0.06	-	皿状	N - 68° - W		土師質土器・瓦器		

表4-5 下面土坑計測表

下 SK3

下 SK3 は調査区中央部南側で検出した長方形の土坑である。長軸は約 1.8 m、短軸約 1.0 m、深さは約 27cm を測る。断面形は逆台形上である。埋土は 1 層が黄褐色砂質土、2 層は褐灰色粘砂土に灰色土が混じった土である。埋土中から土師質土器、瓦器、青磁の細片と鉄釘が出土している。図示できた 69 は土師質土器小皿で底部は回転糸切りである。70 は平底の青磁皿で内面には櫛描き文が施される同安窯系の青磁と考えられる。

下 SK8

下 SK8 は調査区東側で下 P127 に切られた状態で検出した溝状の土坑である。長軸は約 3.0 m、短軸約 0.65 m、深さは約 26cm を測り、長軸 N - 8° - E である。断面形は逆台形状である。埋土は 1 層が灰褐色砂質土に砂利が混じる土、2 層は淡灰褐色砂質土である。埋土中から土師質土器、瓦器、東播系須恵器、青磁、土錘片が出土している。図示できた 72 は完形の瓦器椀で口径に比して器高が低く高台は無くなっている。二次被熱によると考えられる赤変がみられる。和泉型瓦器Ⅳ期でも新しい時期のものと考えられ 13 世紀後半以降の時期と考えられる。

下 SK16

下 SK16 は調査区で検出した土坑で検出時は方形の土坑であったがトレンチによる断面観察で二段底状になってることが確認できていたため、上層埋土を掘削し検出作業を行うと中央よりやや東側で円形プランを確認することができた。完掘状態は方形土坑の床面に円形土坑が存在する形となっている。長方形土坑の長軸は約 2.1 m、短軸約 1.9 m、深さ約 25cm を測り、長軸方向は N - 57° - E である。円形土坑は直径約 1.45 m で深さ約 10cm を測る。掘方は直線的で二段になる。埋土は長方形土坑部分が灰色砂質土に黄褐色粒子が混じった土と灰色粘質土である。円形土坑は灰色粘質土に砂利が混じったものであった。いずれも灰色の埋土であり、円形土坑は長方形土坑の一部と考えられ同一遺構と考えられる。埋土中からは土師質土器、瓦器、青磁、常滑焼又は備前焼と考えられる炆器などが出土している。図示できた 73 は青磁の盤で口縁部は薄手で内面には植物を描いたとみられる陰刻文がみられる。

下 SK17

下 SK17 は下 SK16 に隣接する円形の土坑である。直径は約 1.45 m を測り断面形は箱形を呈する。埋土は 1 層は淡い灰褐色砂質土に砂利が混じる土、2 層は灰色粘質土であった。埋土中からは、土師質土器、黒色土器、瓦器、須恵器の細片が出土し摩耗しているものが多い。図示できた 75 は黒色土器 A 類の可能性のある瓦器である。

下 SK19

下 SK19 は SK16 に隣接する楕円形の土坑である。長軸は約 1.8 m、短軸は約 1.3 m、深さ約 38 cm を測り長軸方向は N - 65° - E である。断面形は箱形で埋土は 1 層は灰色粘砂土に褐色粒子が混じった土、2 層は灰色粘砂土に砂利が混じった土であった。埋土中からは土師質土器、瓦器、瓦質土器、白磁、青磁の細片が出土している。図示できた 76 は平底の青磁皿で内面には櫛描き文が施され、底部は露胎している。同安窯系の青磁と考えられる。

下 SK22

下 SK22 は中央部西側で下 P366・372・373 と切り合った状態で検出した東西方向の溝状の土坑である。長軸約 4.7 m、短軸約 0.6 m、深さ 27cm を測り長軸方向は N - 79° - W である。断面形

は舟底状で埋土は1層が暗褐灰色粘砂土に黄褐色砂質小礫と黄灰色砂が入った土、2層は暗灰褐色粘砂土に黄褐色砂質小礫が入った土である。土師質土器、瓦器が出土している。図示できた77は底部回転糸切りの小皿、78は瓦器椀で高台は退化し扁平になっている。

下SK26

下SK26は調査区南西部で検出した楕円形の土坑である。土坑の規模は長軸約1.2m、短軸約0.5m、深さ約20cmを測る。断面形は箱形を呈する。埋土は1層が灰黄褐色粘質土に黄褐色砂質小礫が混じる土、2層は灰黄褐色粘質土である。埋土中には炭化物が入る。埋土中からは土師質土器、瓦器、東播系須恵器の細片が出土している。図示できた79は東播系須恵器片口鉢口縁である。

下SK27

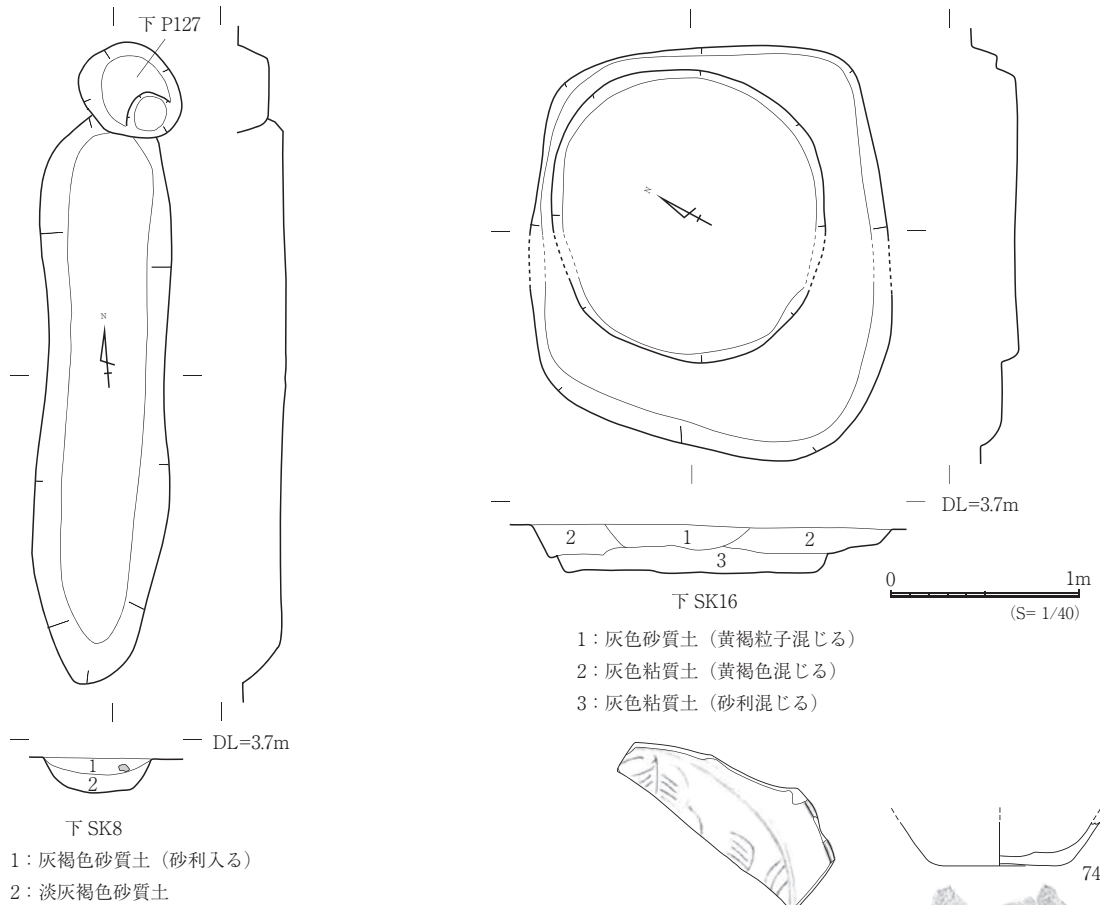
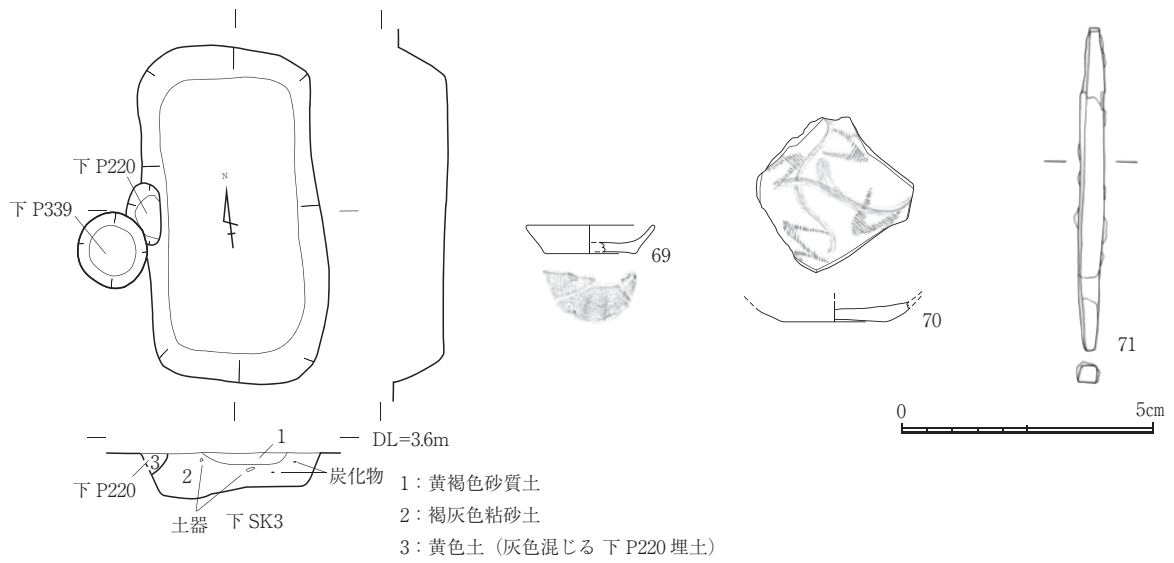
下SK27は調査区南西部で検出した土坑で西側を調査区によって切られる。検出長は約2.2m、上端幅約1.7m、深さ33cmを測る。検出時輪郭が明瞭でないため調査区西壁にかけて設定した確認トレンチで確認を行ったところ4b相当層から掘削開始し4a相当層が埋土になっていることが判明した。また中央部にピット状の落ち込みが確認できたが平面確認はできなかった。土坑埋土は1層は淡灰褐色粘砂土に黄褐色砂質小礫が少し混じった土、2層は淡褐灰色粘砂土で3層の落ち込み部分は淡褐灰色粘砂土に小礫が混じる土である。埋土中からは土師質土器、瓦器、東播系須恵器、白磁、土錘、鉄釘が出土しており、図示できた80は白磁椀Ⅳ類の底部と考えられる。

下SK29

下SK29は調査区西側で検出した円形の土坑で床面からはピットを検出している。土坑の規模は直径約1.3m、深さ約11cm、ピットは直径約25cm、深さ約5cmを測る。埋土は淡い黄灰褐色粘質土で人頭大の石が入る。埋土中からは出土遺物は少ないが図示した83は完形の瓦器皿で扁平な器形であるが大きく歪んでいる。

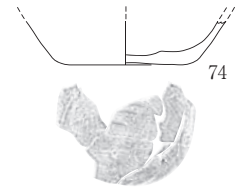
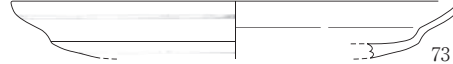
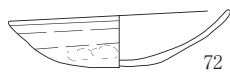
下SK31

下SK31は中央部南西側で検出し下SK25に隣接した楕円形の土坑である。土坑の規模は長軸約1.6m、短軸約1.2m、深さ約11cmを測り長軸N-18°-Eである。断面形は皿状で浅く埋土は暗褐色粘質土である。埋土中からは土師質土器、瓦器細片と図示した84の青磁盤が出土している。内面無紋の盤である。



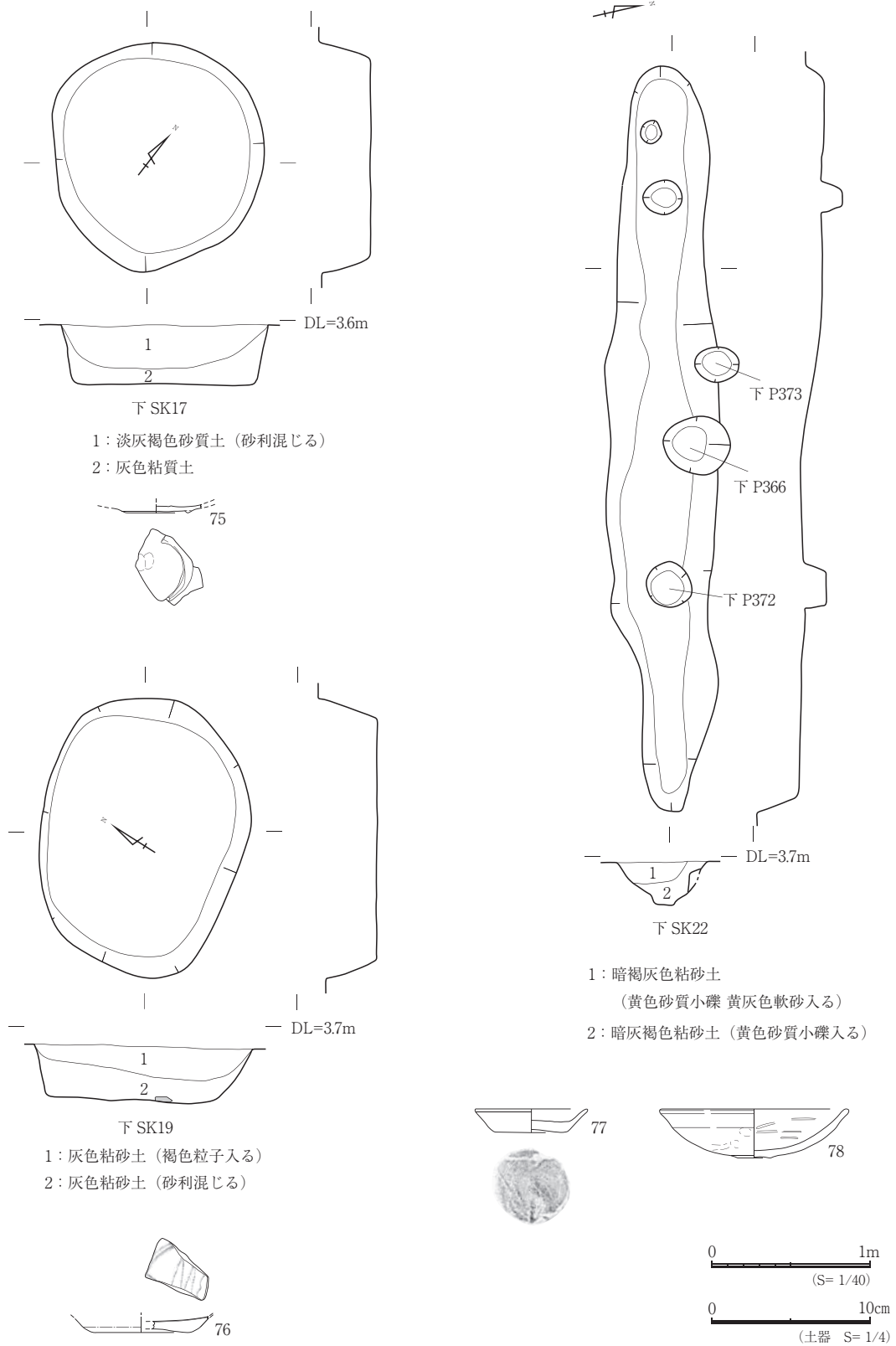
下 SK8

1: 灰褐色砂質土 (砂利入る)
2: 淡灰褐色砂質土

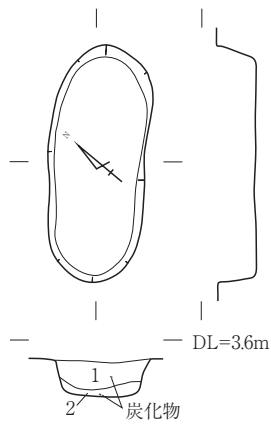


0 10cm
(土器 S= 1/4)

4 - 15 図 下 SK3・8・16

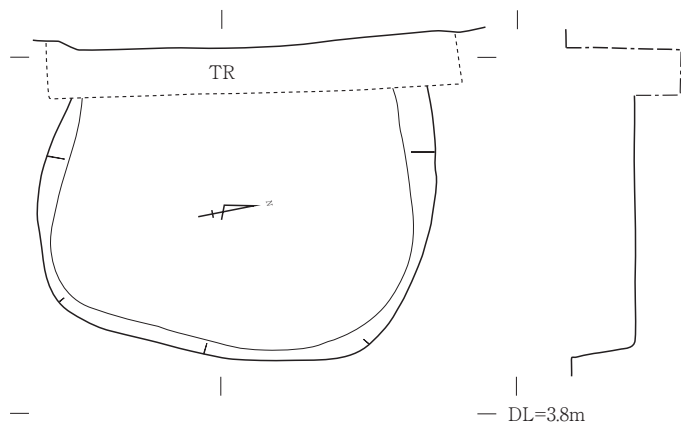
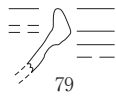


4-16 図 下 SK17・19・22



下 SK26

- 1: 灰黄褐色 (濁った色) 粘質土 (黄色砂質小礫入る)
- 2: 灰黄褐色 (濁った色) 粘質土

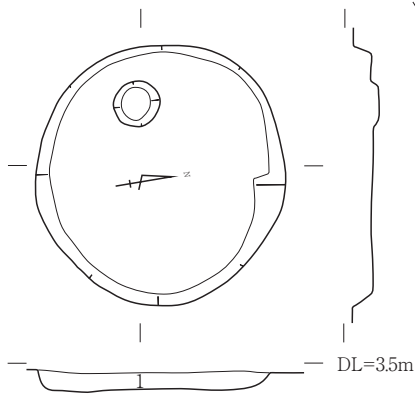
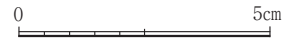
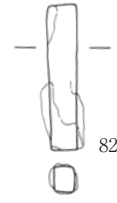
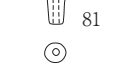
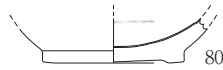


下 SK27

- 1: 淡灰褐色粘砂土 (黄色砂礫土少し入る)
- 2: 淡褐灰色粘砂土
- 3: 淡褐灰色粘砂土 (少し礫多い)
- 4: 暗褐灰色粘質土 (多量に黄色砂質礫入る)
- 4b: 褐灰色粘質土 (黄褐色礫含む)
- 5: 灰褐色粘砂土
- 6: 明黄灰褐色粘砂土
- 7: 黄灰褐色粘砂土

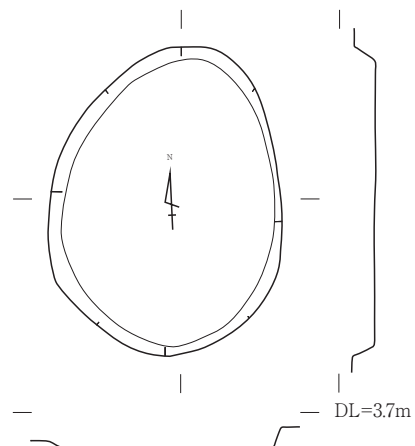
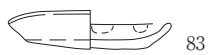
下 SK27
埋土色薄い

TR

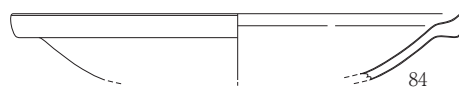


下 SK29

- 1: 淡黄灰褐色粘質土 (人頭大石入る)



下 SK31



(S= 1/40)



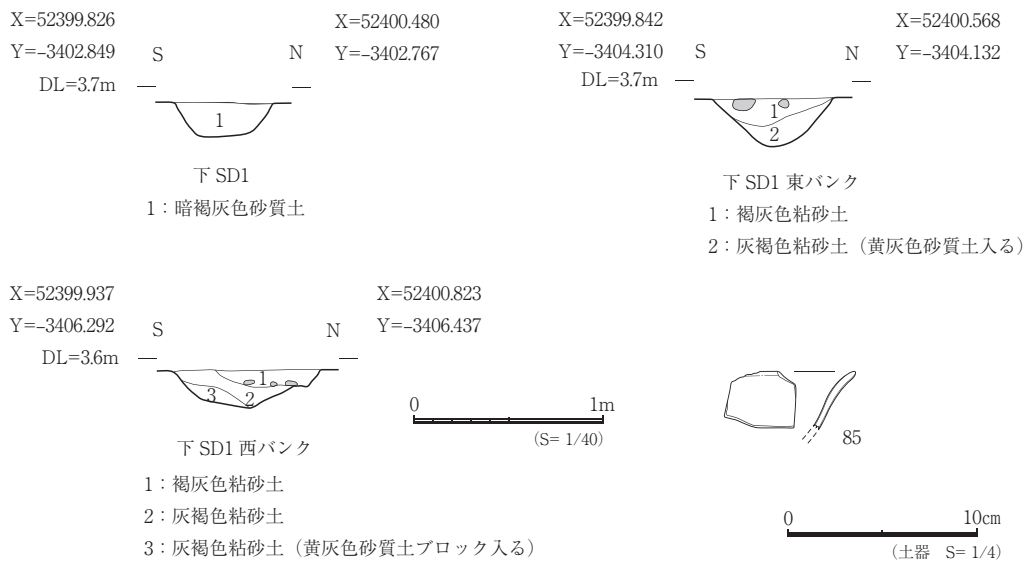
(土器 S= 1/4)

4 - 17 図 下 SK26・27・29・31

(3) 溝 (SD)

溝跡は2条検出している。SD5は3-2区SD8の延長部分と考えられIKO2に接続し終結していると考えられる。下SD1は不整形な溝状を呈する遺構で検出長約7mで調査区内で終結している。下SD1

下SD1は調査区西側で検出した溝状遺構である。上面で検出したSD1の南東約3mに並行するように位置する。不整形な溝跡で東西方向に約5m延びたのち南西方向に約2m延長し終結しており検出長は約7mである。上端幅は約0.5~1.0m、深さは約25~33cmを測る。断面形は箱形からU字状で埋土は褐灰色粘砂土、灰褐色粘砂土に黄灰色砂質土が入った土である。埋土中からは土師質土器、瓦器、青磁、白磁が出土している。85は白磁八角皿である。また図示できなかったが口禿げ口縁の白磁の細片も出土している。



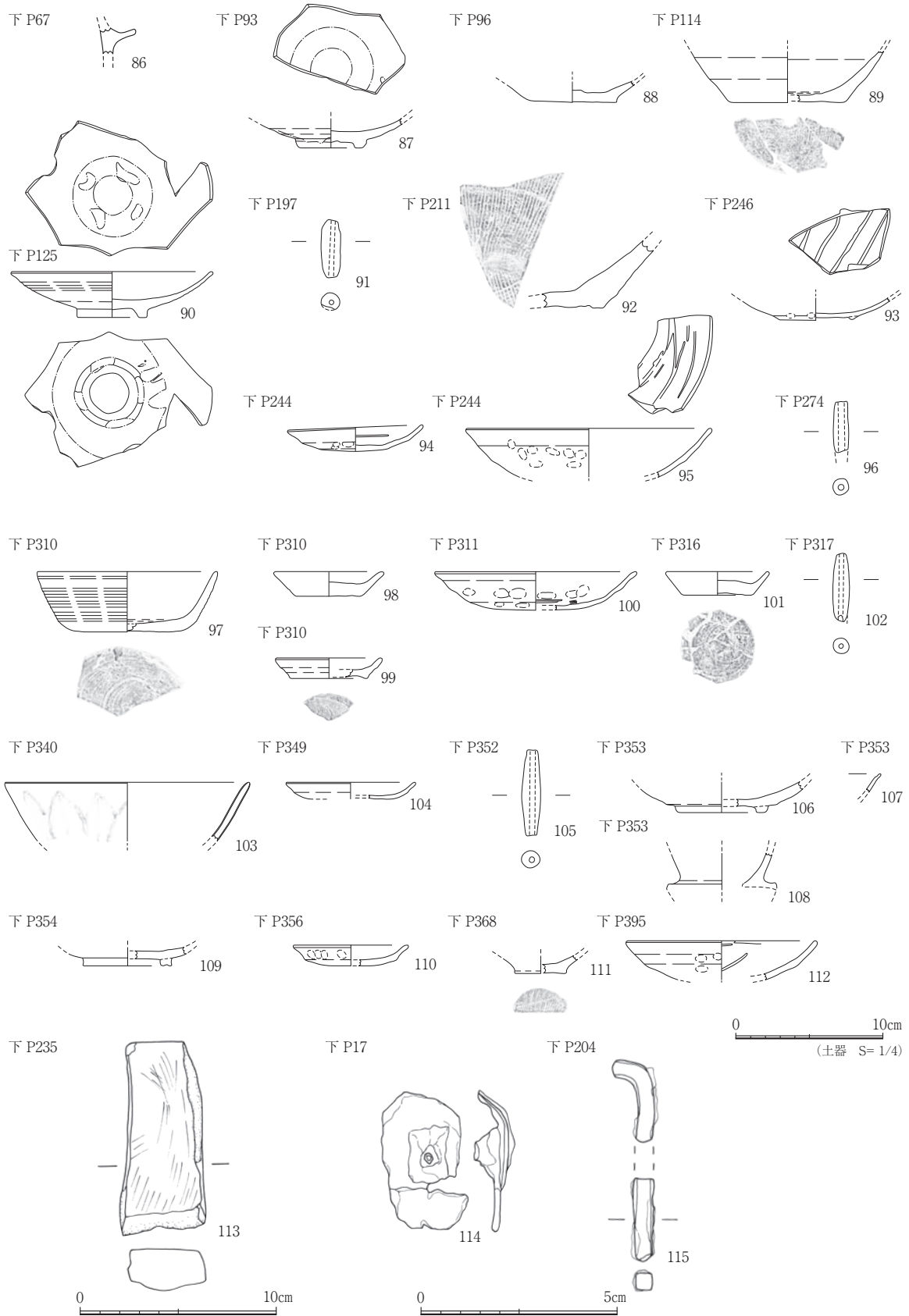
4-18図 下SD1

(4) ピット (P)

下面では検出時、下P1~415までを遺構番号を付けたが調査の結果、ピットと確認できたものは401個であった。出土遺物が図示できたピットと掘立柱建物跡の柱穴となるピットだけを表にして特徴をあげた。

遺構名	平面形	長径×短径(直径)(cm)	深さ(cm)	埋土	図版No.	遺物	備考
下 P48	楕円	40 × 35	18	暗褐色粘質土		土師質土器	SB1
下 P60	楕円	42 × 33	26	暗褐色粘質土		土師質土器	SB3
下 P64	円形	40	15	暗褐色粘質土		鉄釘重さ約 1g 土師質土器 瓦器	
下 P65	楕円	35 × 35	12	暗褐色粘質土		土師質土器 瓦器	SB3
下 P67	円形	53	20	黄褐色粘質土	86	瓦質土器釜 土師質土器 瓦器 青磁	
下 P75	楕円	45 × (35)	20	暗褐色粘質土		青磁	SB2
下 P78	楕円	33 × 30	17	黄褐色粘質土			SB1
下 P93	円形	21	12	暗褐色粘質土	87	銅緑釉 内面濃緑色 外面淡緑色 土師質土器 瓦器 土錘状石	近世
下 P96	円形	30	18	黄褐色粘質土	88	摩耗著しい土師質土器杯底部	
下 P103	円形	30	22	暗褐色粘質土		土師器土器	SB2
下 P106	円形	20	14	茶褐色粘質土			SB2
下 P107	楕円形	55 × 42	33	暗褐色粘質土		鉄釘重さ約 1g 土師質土器 瓦器	
下 P114	円形	30	27	暗褐色粘質土	89	土師質土器杯 静止糸切り 瓦器	
下 P125	不整形円形	58 × 55	31	黄褐色粘質土	90	銅緑釉 内外面とも透明感の強い釉	近世 SB4
下 P139	楕円	40 × 25	26	暗褐色粘質土			SB4
下 P144	楕円	35 × 28	15	暗褐色粘質土		瓦質挿鉢	SB4
下 P148	円形	20	15	暗褐色粘質土			SB4
下 P149	円形	60	29	暗褐色粘質土		土師器土器	SB5
下 P153	楕円	40 × 35	20	暗褐色粘質土			SB4
下 P155	楕円	50 × 45	34	暗褐色粘質土			SB5
下 P156	楕円	20 × 15	15	暗褐色粘質土			SB4
下 P169	方形	60	47	暗褐色粘質土		土師器土器	SB5
下 P191	円形	35	20	暗褐色粘質土		土師器土器	柱穴列 1
下 P193	楕円	60 × 50	22	暗褐色粘質土		土師器土器 瓦器	柱穴列 1
下 P194	(円形)	45	15	暗褐色粘質土		鉄釘重さ約 4g 土師器土器 瓦器	下 SK3、下 P193 に切られる
下 P196	楕円	30 × 25	21	暗褐色粘質土		土師器土器 瓦器	柱穴列 1
下 P197	円形	27	20	暗褐色粘質土	91	土錘重さ 4.7g 土師器土器	
下 P198	円形	25	13	暗褐色粘質土			柱穴列 1
下 P211	楕円形	56 × 36	19	暗褐色粘質土	92	備前焼挿鉢 土師器土器	2つのビット状になる
下 P212	円形	30	17	暗褐色粘質土		土師器土器 瓦器	柱穴列 1
下 P222	楕円	40 × 35	12	暗褐色粘質土		土師器土器	SB6
下 P224	楕円	35 × 30	17	暗褐色粘質土		土師器土器 瓦器	SB6
下 P231	楕円	55 × 50	24	暗褐色粘質土		土師器土器 瓦器	SB6
下 P244	不整形円形	36 × 30	22	暗褐色粘質土	94・95	94 はほぼ完形瓦器皿、95 口径大きく(16.2cm) 土師器土器	
下 P246	円形	38	21	暗褐色粘質土	93	断面小さな三角形の高台、平坦な底部	
下 P256	円形	30	2	暗褐色粘質土			SB6
下 P272	方形	60 × 45	4	暗褐色粘質土			SB5
下 P273	楕円	90 × 60	15	暗褐色粘質土		土師器土器	SB5
下 P274	円形	29	21	暗褐色粘質土	96	土錘 重さ 3.4g 土師器土器	
下 P293	楕円	30 × 23	26	暗褐色粘質土			SB5
下 P299	楕円	50 × 33	7	灰褐色粘質土		土師器土器 瓦器	SB6
下 P303	楕円	30 × 27	32	暗褐色粘質土		瓦器	SB5
下 P310	楕円形	34 × 28	27	暗褐色粘質土	97 ~ 99	土師質土器小皿、杯 97・99 回転糸切り瓦器	
下 P311	円形	20	18	暗褐色粘質土	100	瓦器碗 浅い体部 土師器土器	
下 P316	円形	34	24	灰褐色粘質土	101	土師質土器小皿 回転糸切り 瓦器	下 IKO2 を切る
下 P317	楕円形	42 × 34	25	黄褐色粘質土	102	土錘重さ 4.3g 土師器土器 須恵器	柱痕状部分直径 20cm 深さ 25cm
下 P340	円形	50	22	暗褐色粘質土	103	青磁 鎗蓮弁文 土師器土器 瓦器	
下 P349	円形	44	31	暗褐色粘質土	104	瓦器皿 土師器土器	
下 P352	楕円形	70 × 48	15	暗褐色粘質土	105	土錘重さ 6.2g 土師器土器 瓦器	
下 P353	円形	55	20	暗褐色粘質土	106 ~ 108	106 土師器碗底部 108 土師器体部より突出する底部 107 黒色土器 B 類口縁内面沈線	
下 P354	円形	31	21	暗褐色粘質土	109	土師器碗底部 底部回転糸切り	
下 P356	不整形	110 × 65	26	灰褐色粘質土	110	瓦器碗 炭素吸着弱い 土師質鋼 須恵器	IKO1 の掘方部分で検出したビット状遺構 遺物は中世でも近世の可能性
下 P368	不整形円形	34	27	暗褐色粘質土	111	須恵器底部 静止糸切り 土師器土器 瓦器	下 IKO2 を切る
下 P389	楕円	33 × 30	20	灰褐色粘質土			SB3
下 P395	楕円形	19 × 16	9	暗褐色粘質土	112	瓦器碗 口縁二段にナデ	
下 P414	楕円形	42 × 30	25	灰褐色粘質土		土師器土器 瓦器	SB5

表 4 - 6 下面ビット計測表



4-19図 下面ピット出土遺物

(5) 性格不明遺構 (IKO)

下 IKO として遺構番号を付けた遺構は 3 基検出している。下 IKO2・3 は遺物が集中して出土した部分、下 IKO1 は 3 - 2 区から続く SD5 (3 - 2 区 SD8) の終端部に位置しており溝跡関連遺構の可能性が考えられる。

下 IKO1

下 IKO1 は調査区北東部に位置する楕円形の土坑状の遺構で北側は溝状に細くなり攪乱によって切られており北側辺は SD5 と切り合っている。土坑中央部西よりには遺構を横断するように 50cm 大の河原石が石列状に並んでいる。遺構の検出規模は長軸約 9.2 m、短軸 4.4 m、深さ約 50cm を測る。遺構埋土は 1 層が暗黄褐色粘砂土、2 層は黄褐色粘砂土、3 層は褐色粘砂土で床面は砂礫土であった。埋土中からは土師質土器、瓦器須恵器、青磁、備前焼などの細片が出土しているが図示できたのは柱状高台の底部だけである。混入と考えられる近世陶磁器が 1 点出土するがそれ以外はすべて中世の遺物であるため中世の遺構と考えられる。不定型な遺構であるが区画溝の可能性が考えられる 3 - 2 区の SD8 やその延長と考えられる SD5 に接続している可能性が高く、区画溝終端の水溜状遺構の可能性が考えられる。区画溝終端の水溜状遺構は時期は 15 世紀代と考えられ田村遺跡群でもみられる。

下 IKO2

下 IKO2 は調査区西側の石列状遺構で区画された部分の下層から検出した南北方向の不整形な溝状の遺構である。検出長は長軸約 13.6 m、上端幅約 2.4 m、深さ約 10cm を測る。断面形は皿状を呈し埋土は濁った灰色砂質土で下層には鉄分が沈殿付着する。埋土中からは土師質土器、瓦器、須恵器、白磁、青磁、土錘などが多く出土し、特に土錘は 41 個出土し 15 個を図示した。重さは 3.7 ~ 5.9 g の小型のもので端部がめくれる様に欠損したものが多い。119 は小型の無文の青磁碗である。

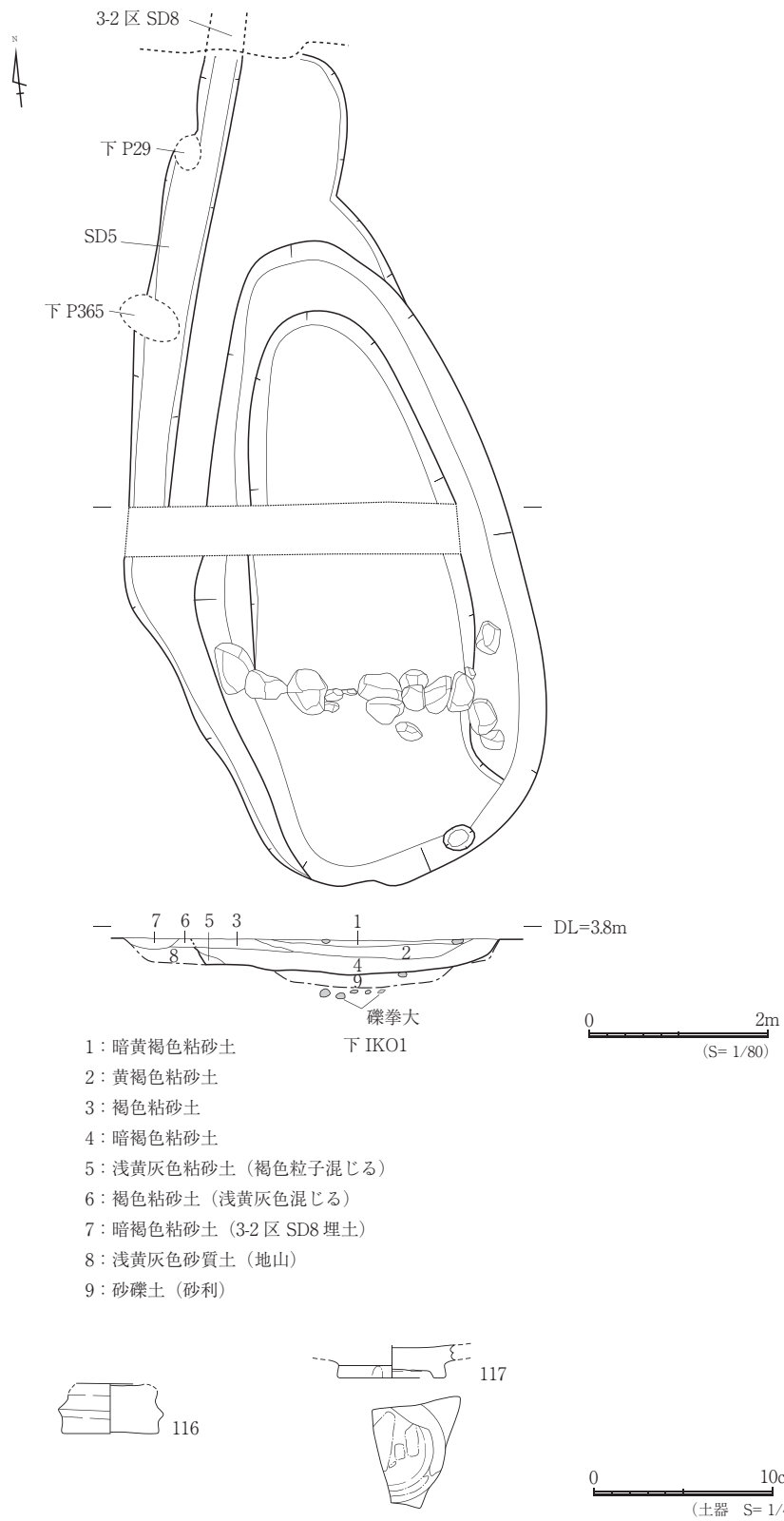
下 IKO2 は上面で多くの土器が出土した遺物集中 1 ~ 3 と重なり、遺物集中 4 も隣接している。これらは下 IKO2 を形成する一連のものと考えられ、遺物集中 1 ~ 4 出土の遺物は下 IKO2 に伴うものと考えられる。

遺物集中から特に瓦器が多く出土し完形復元できるのが多い。また瓦器皿が目立ち平底状で口縁のみ短く外反させた特徴的な遺物が出土している。瓦器碗は口径に比べて器高が低くなり、高台が退化したものがほとんどで 146 のように高台が無いものもみられる。

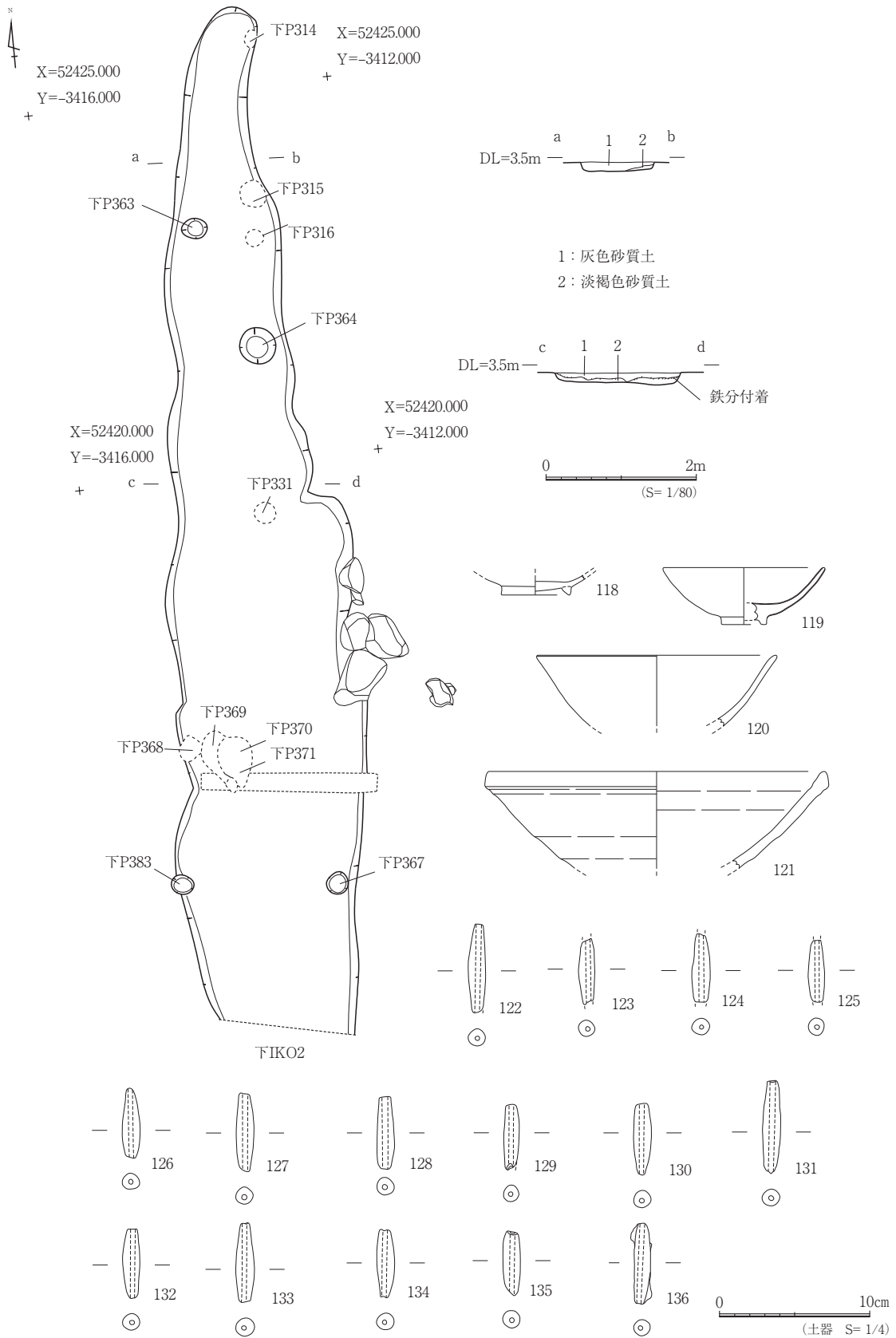
下 IKO2 は溝状の窪地部分に土器を廃棄するとともに埋め立ててゆき最終的に石列で区画し整地した可能性が考えられる。

下 IKO3

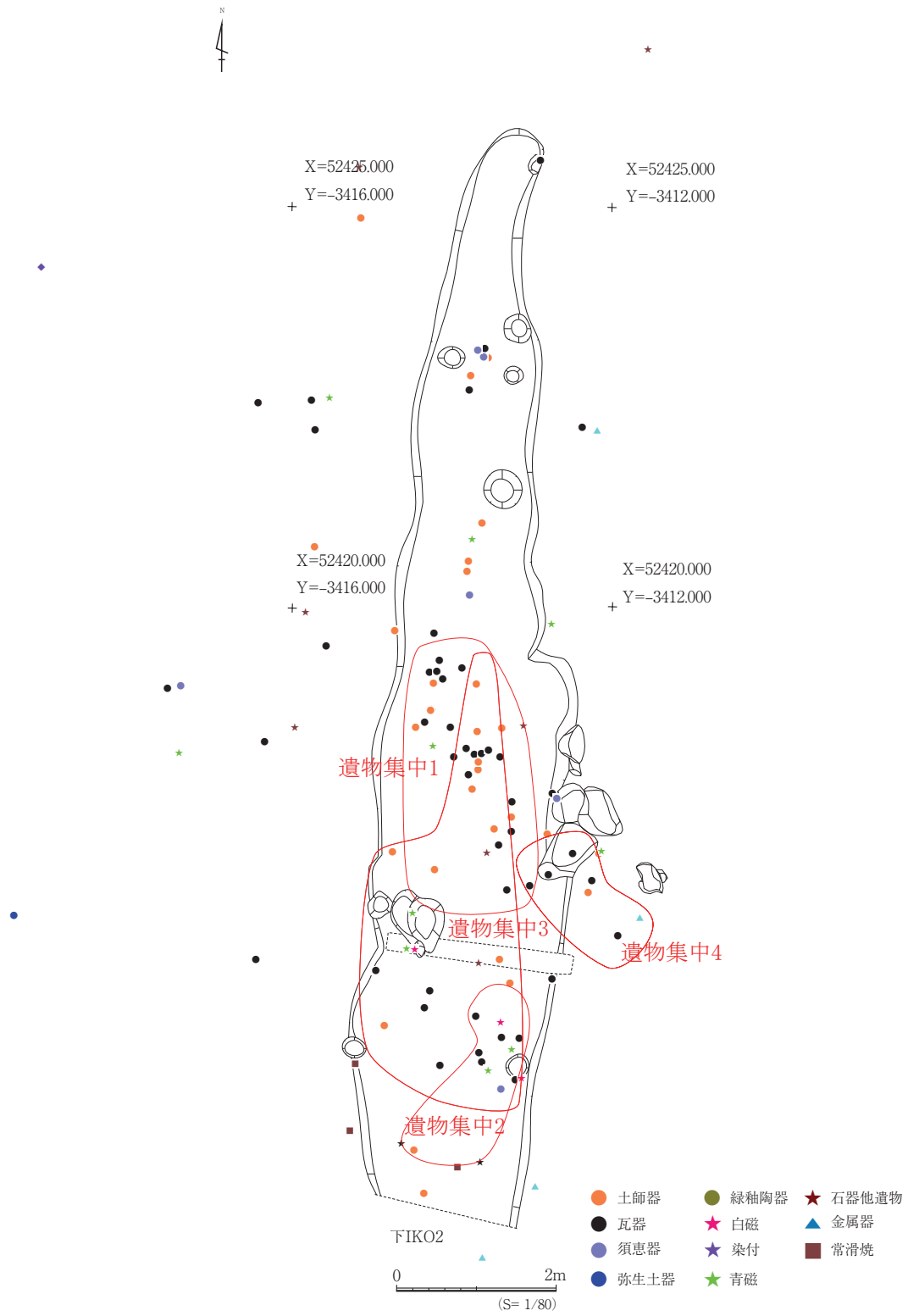
下 IKO3 は調査区西側で検出した楕円形の遺構で西側端部を調査区に切られる。検出規模は長軸約 3.4 m、短軸約 1.7 m、深さ約 8cm を測る。埋土は暗褐色粘質土の焼土、炭化物が多くはいるもので、土師質土器細片約 50 点、須恵器細片 5 点、白磁細片 1 点、2cm 大の粘土塊 1 点が出土している。掘方のある土坑でなく焼土、炭化物のまとまった平面的範囲の可能性が高い。



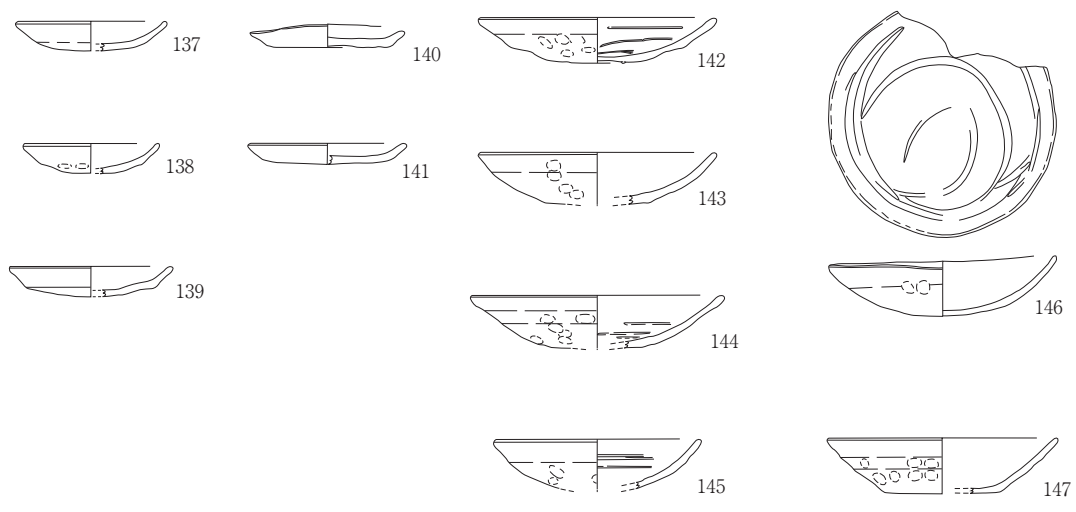
4-20 図 下 IKO1



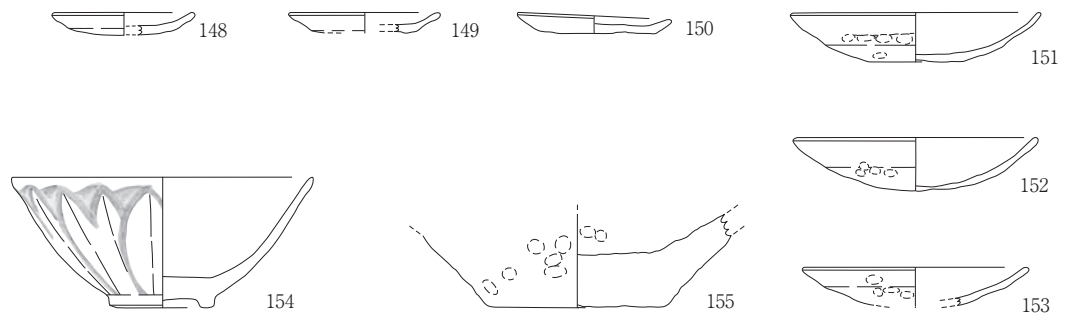
4 - 21 図 下IKO2



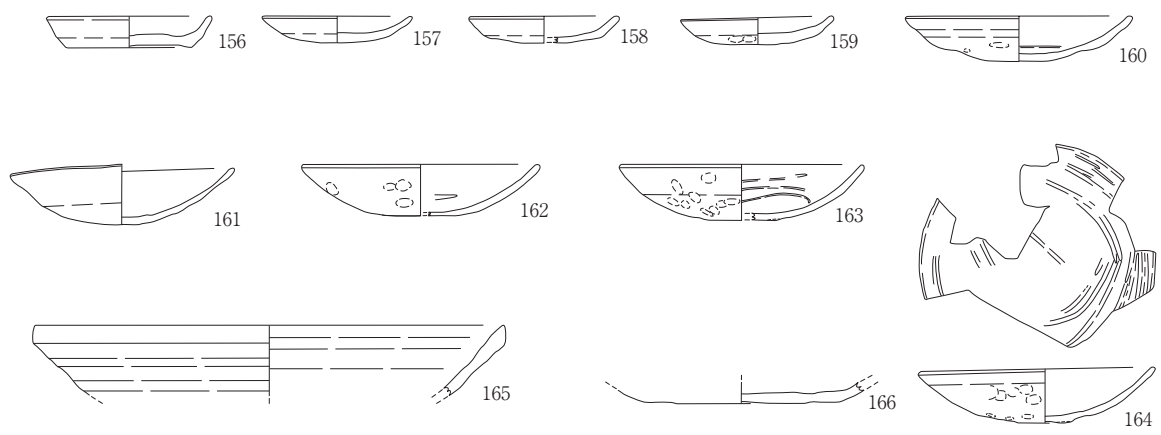
4-22 図 下IKO2 遺物出土分布



遺物集中 1



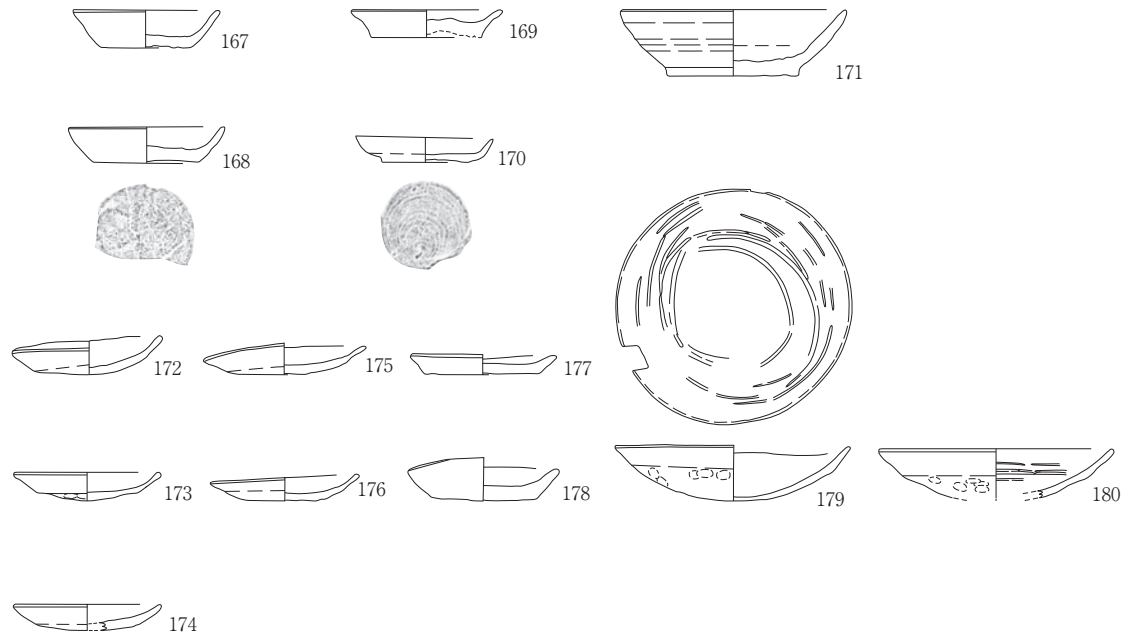
遺物集中 2



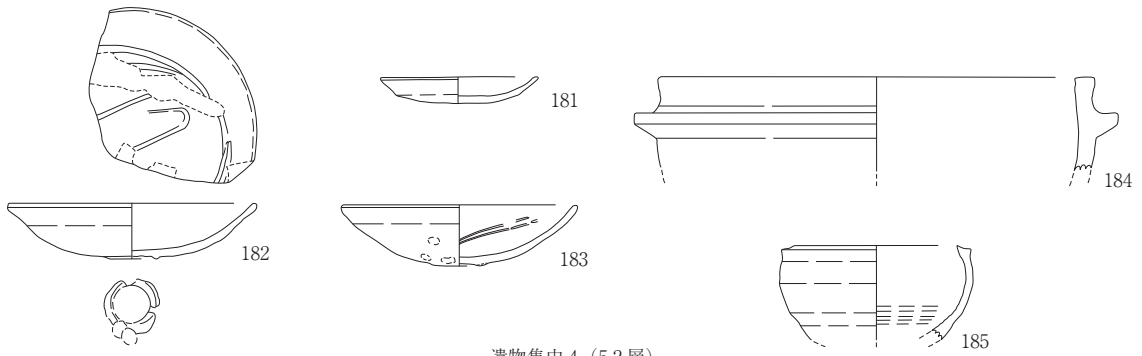
遺物集中 3 (4層)

0 10cm
(土器 S=1/4)

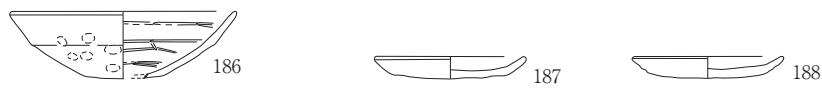
4-23 図 下 IKO2 出土遺物



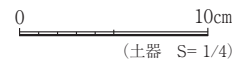
遺物集中3 (5層)



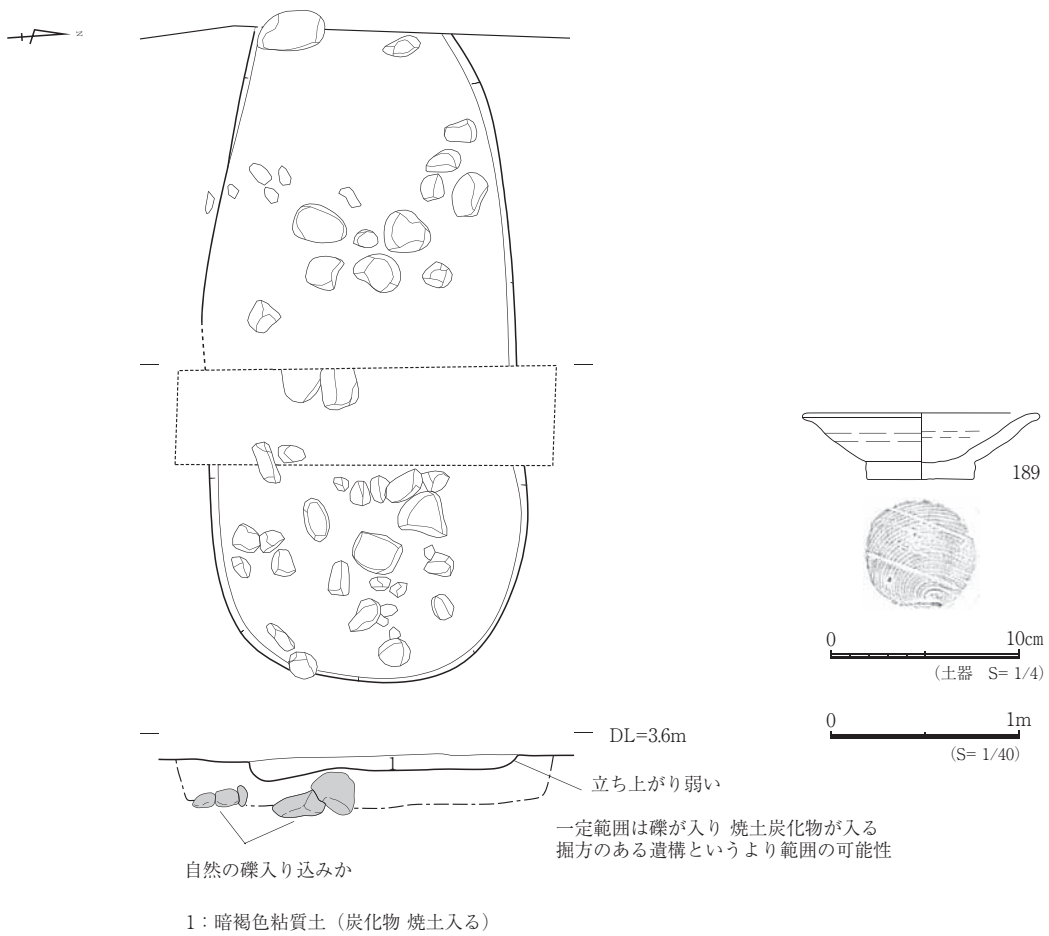
遺物集中4 (5-2層)



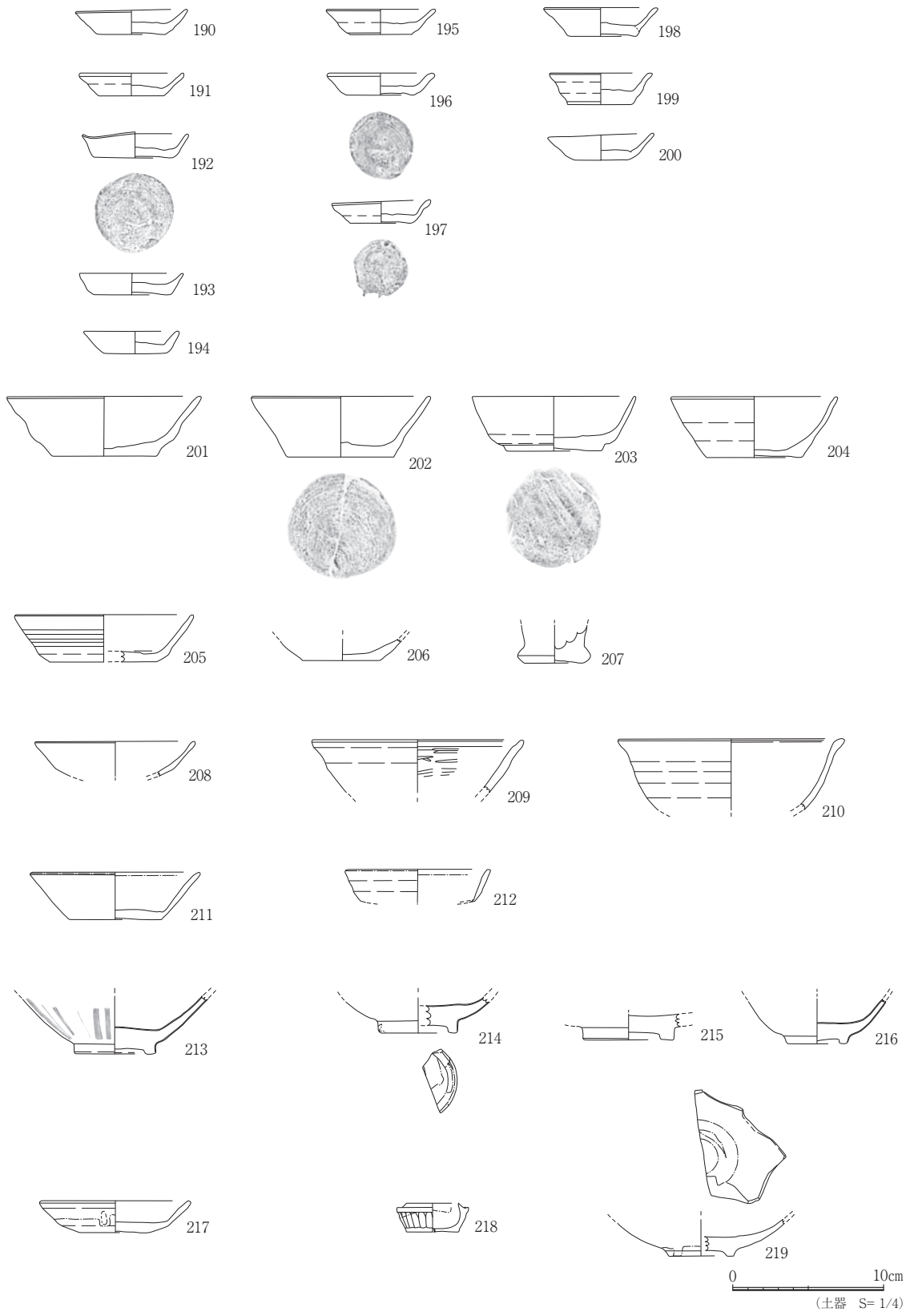
遺物集中4



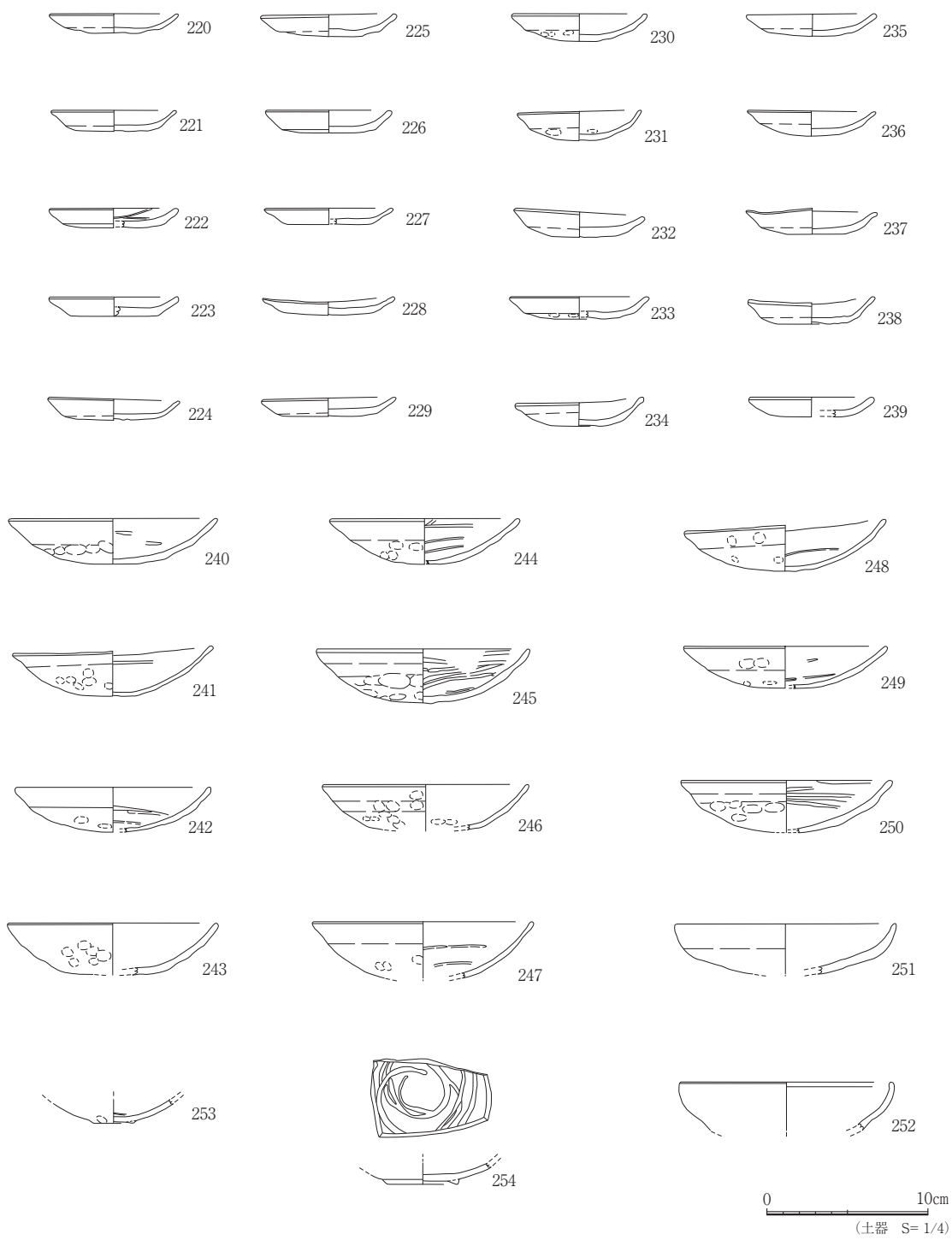
4-24図 下IKO2出土遺物



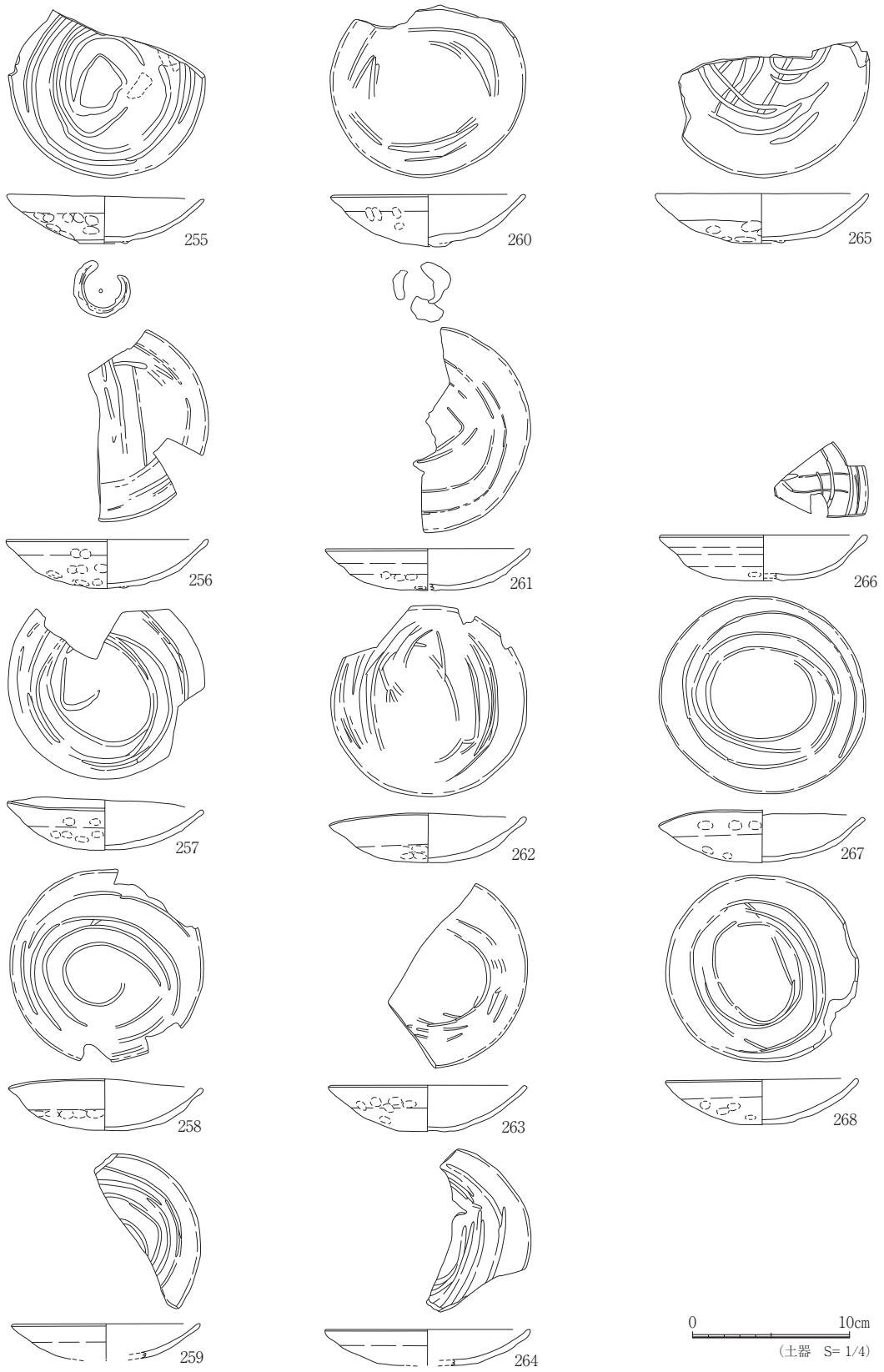
下 FIKO3



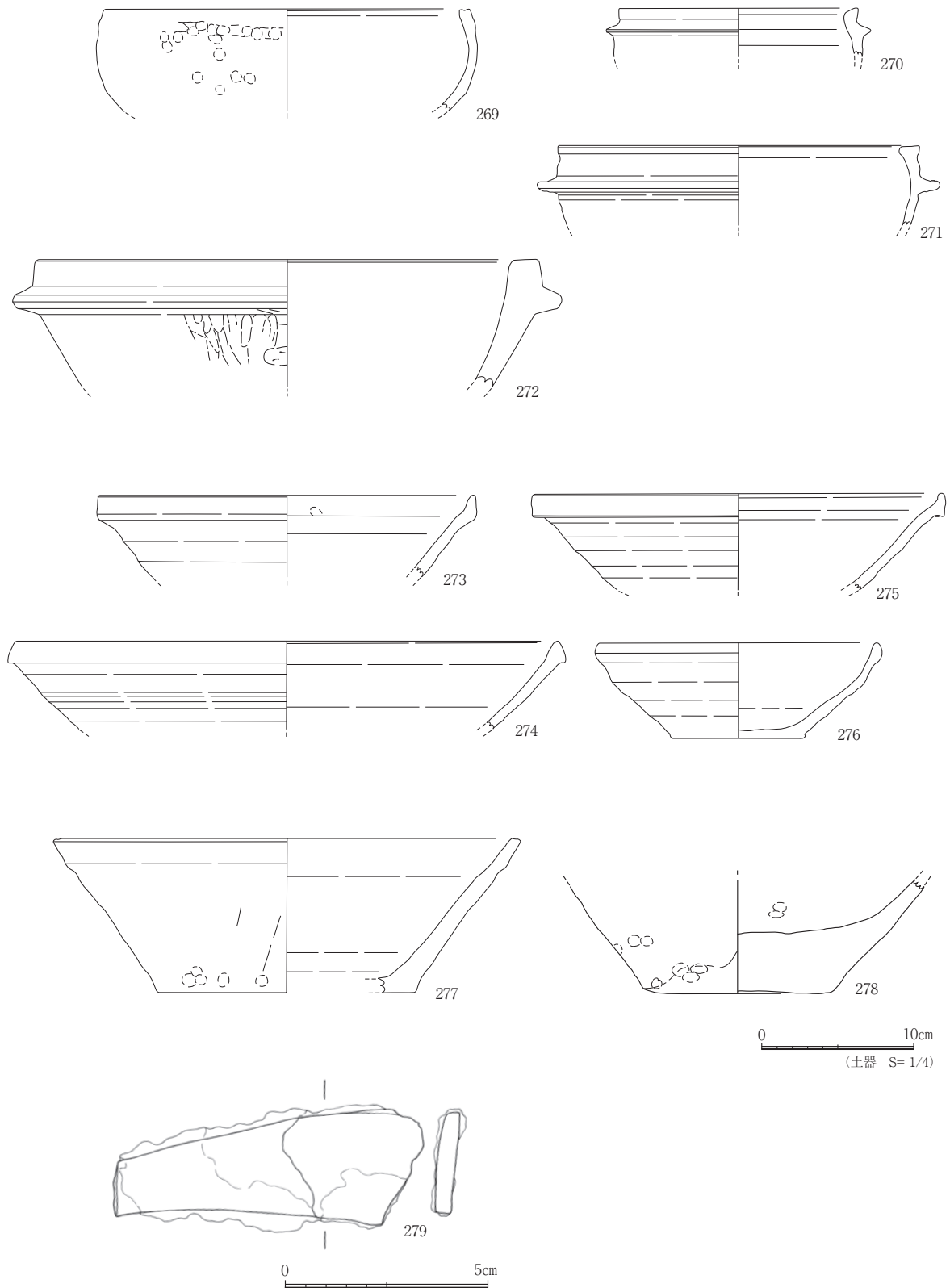
4-26図 包含層4層出土遺物1



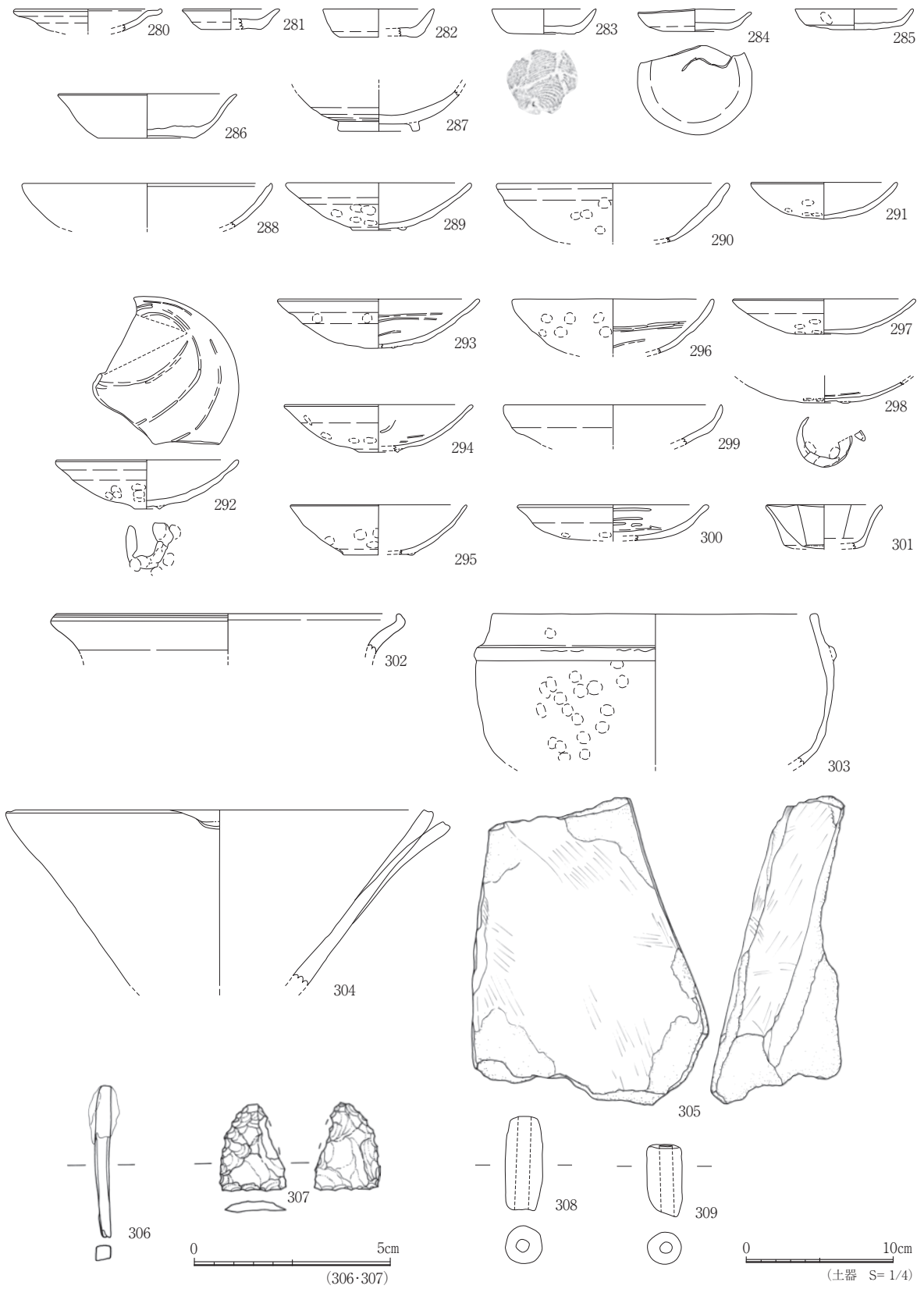
4 - 27 図 包含層 4 層出土遺物 2



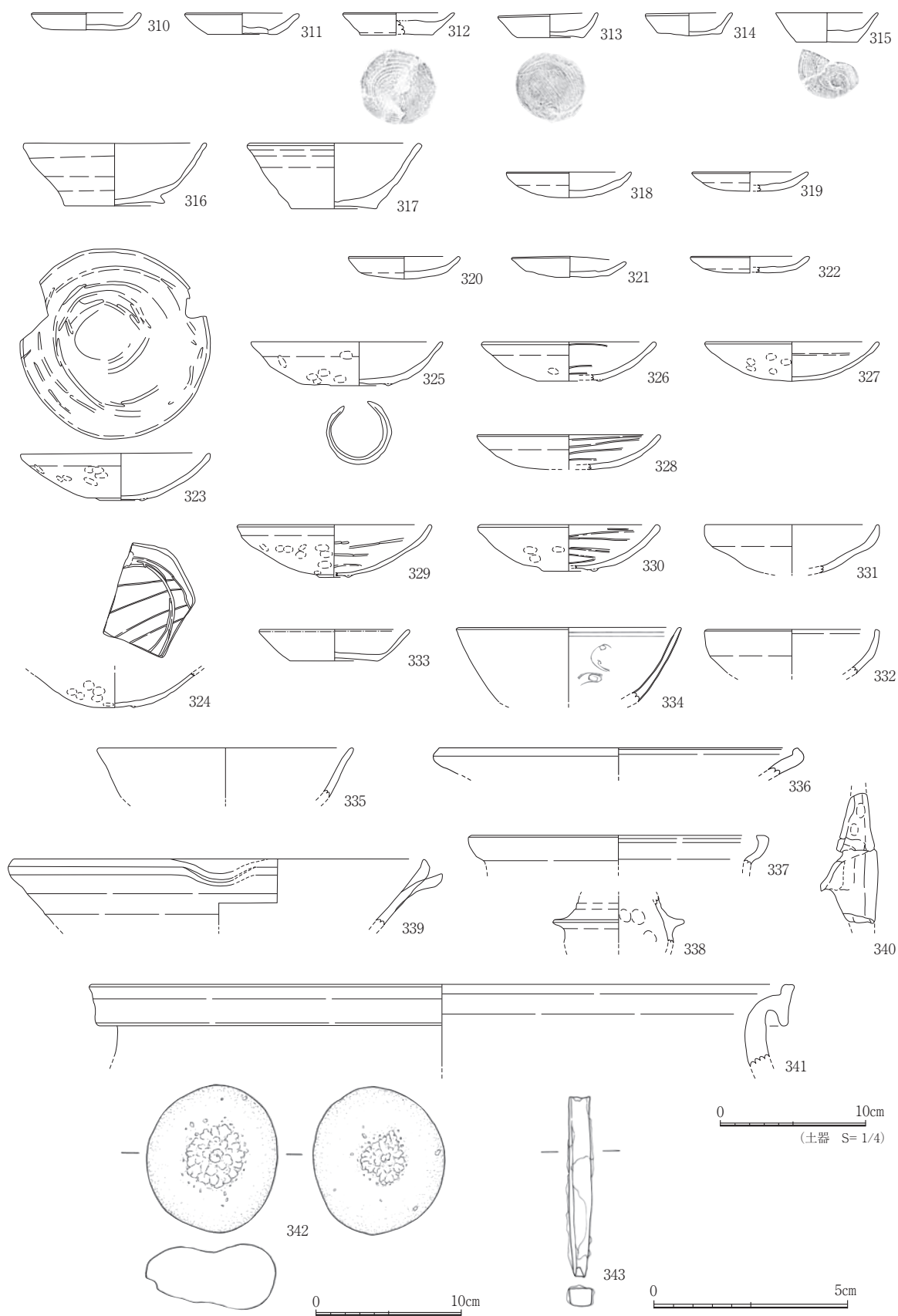
4-28図 包含層4層出土遺物3



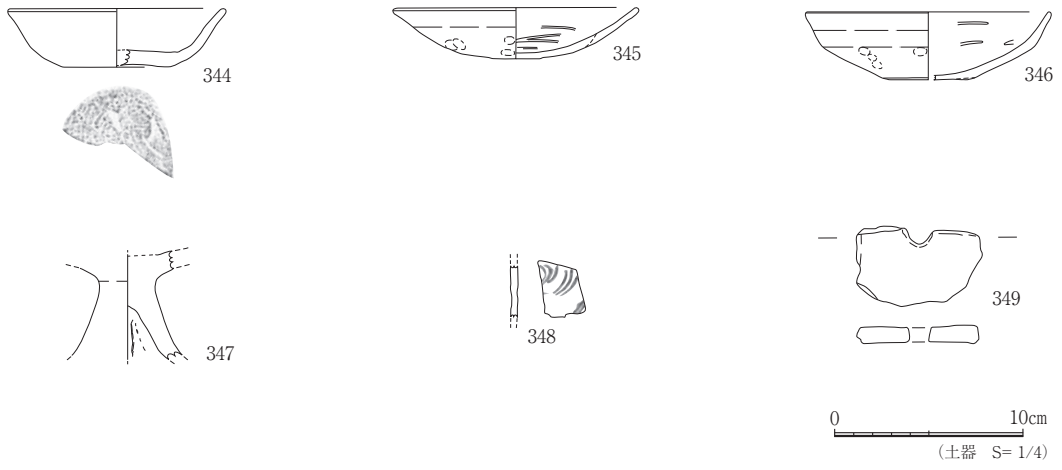
4 - 29 図 包含層 4 層出土遺物 4



4-30図 包含層5層出土遺物



4-31 図 包含層 5-2 層出土遺物



4-32図 包含層出土遺物

3-3区遺物観察表1

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考
3-3	1	瓦器	碗	SK1	マ	13.8	(2.7)		にぶい黄	にぶい橙	普	口縁周わずかに残	口縁外反	二次被熱
3-3	2	瓦器	皿	SK4	マ	6.7	(1.2)		黄灰	黄灰	普	底部わずかに残、口縁周わずかに残	口縁短く外反、外面、口縁ナデ	炭素吸着弱い
3-3	3	瓦器	碗	SK5	マ	12.4	2.9	4.0	にぶい黄橙	にぶい黄橙	細かな赤色砂粒入る	高台周口縁周ともわずかに残	扁平な高台口縁外反長め、外面体部指オサエ、貼付高台	二次被熱で赤変
3-3	4	木器	井筒			外径 62.0	内径 50.0	高さ 62.0						松か
3-3	5	土師質土器	小皿	SE1		7.2	1.9	5.0	橙	橙	普通	底部完形、口縁周2/3残	円盤高台状の底部から丸みを帯びて立ち上がる、糸切り	
3-3	6	土師質土器	小杯	SE1		5.5	2.2	4.5	橙	橙		底部周2/3残、口縁周1/2残	平底口縁、短く上方を向く、外内面とも回転ナデ、回転糸切り	ミニチュアでなくこれで実用? 焼成良く内面 表面残存良好
3-3	7	土師質土器	杯	SE1		10.9	2.7		にぶい黄橙	にぶい黄橙	砂っぼい	口縁周一部残	平底から立ち上がる、器高低め、外面に強い回転痕、回転糸切り	
3-3	8	土師質土器	碗	SE1		15.0	(4.9)		黄橙	黄橙	普通	口縁周一部残	丸みを帯びた体部、口縁大きく外反、外面、強い回転痕	
3-3	9	瓦器	皿	SE1		7.6	1.8		灰白	灰白	普通	底部残、口縁周1/3残	全体歪み有、口縁わずかに外反、外内面とも回転ナデ、内面中央部指頭痕、切り離しなし	内面 炭素吸着ほとんどなし
3-3	10	瓦器	皿	SE1		7.9	1.2		黄灰	黒灰	普通	口縁周1/4残	平底ぎみの底部、短く外反する口縁、外面、口縁指オサエ後横ナデ、体部、指オサエ、切り離し痕なし	
3-3	11	瓦器	碗	SE1		11.1	(2.4)		黒灰	黒灰	1mm大の砂粒多い	口縁周わずかに残	口縁、体部境、屈曲強い、口縁長く二段になる、体部浅い、外面、口縁下段、指オサエ、上段、横ナデ	
3-3	12	白磁	碗	SE1	バ S	5.8	(1.8)		灰白	灰白	良	口縁周わずかに残	小型碗、口縁端部外反	
3-3	13	青磁	碗	SE1		18.9	(3.3)		灰オリーブ	灰オリーブ	良	口縁周わずかに残	口縁歪み有、全体に薄手、口縁端部、外側に折れる	
3-3	14	青磁		SE1		(2.3)	5.6		灰オリーブ	灰オリーブ	灰色	底部完形	高台見込み浅い、タタミ付高台見込み露胎	
3-3	15	青磁	碗底部	SE1		(2.0)	5.1		オリーブ灰	オリーブ灰	良	底部1/2残	厚い底部、高台低い、内面見込、陰刻文、高台見込露胎、にぶい褐色	
3-3	16	青磁		SE1		1.55			緑灰	緑灰	良	底部一部残	緑灰色の透明感のない釉が厚手にかかる、全体に薄手	
3-3	17	瓦質土器	羽釜	SE1	バ 2層	27.9	(6.0)		灰	灰黄		口縁わずかに残	口縁内傾し端部は面をなす、口縁下、うすく小さな断面三角形の跡が付く、外面、口縁横方向ハケ、	
3-3	18	備前焼	播鉢	SE1		30.8	(5.9)		にぶい橙	にぶい橙	砂粒多く入る	口縁わずかに残	口縁上下に拡張しナデ痕残る、内面段上の回転痕残る、外面、口縁回転ナデ、内面、面回転ケズリまたは回転ヘラナデ	内面表面粒子つぶれる
3-3	19	近世 or 近現代		SE1		19.4	(1.5)		にぶい褐	にぶい褐	黒い粒子入る	口縁端部のみ残	外面、褐色に鉄部浮き出る、端部自然釉、口縁大きく開き凹線	近世又は近現代 備前焼か常滑焼
3-3	20	近現代陶磁器	磁器	SE1					灰色にうすく赤みがかる	灰白	良	体部 細片	外面施釉、茶褐色染付文様、内面露胎	近現代磁器か
3-3	21	染付		SE1		(2.2)	4.8		灰白	灰白		底部一部残	萐筍底状に近い低い高台、タタミ付のみ露胎見込の砂白、白濁釉、見込み、文様有	胎土 陶質 コバルト青灰色に発色 漳州窯安土桃山期
3-3	22	近世陶磁器	銅緑釉	SE1	マ	11.3	(2.4)		灰白	濃緑		口縁周わずかに残	内面、濃緑色釉、外面、透明釉に一部濃緑色釉	
3-3	23	近世陶磁器	磁器	SE1	マ	(1.5)	高台径 5.4		明緑灰	明緑灰	白	高台周わずかに残	青、白磁に近い発色のうすい釉塗付のみ露胎	近世磁器
3-3	24	近世陶磁器	陶器	SE1	マ	(5.3)	10.2		褐灰	灰褐	良	高台周わずかに残	外面、無軸罎器状、内面、施釉輪高台	近世陶器
3-3	25	土師質土器	杯	SD7	マ	(2.5)	6.9		橙	にぶい褐	赤色粒子入る	底部周完形	円盤高台、内面、同心円状の回転痕、静止糸切り	底部外面煤付着
3-3	26	瓦器	皿	石列1-内	マ	7.6	1.3	5.8	灰	灰	普通	底部1/2残、口縁周1/2残	底部中央に向かってわずかに凹む、内底凸凹有り、口縁外反、外内面、口縁横ナデ、切り離しなし	外内面とも降灰と考える付着物
3-3	27	白磁	皿	石列1-内	マ	10.1	2.6	6.1	灰白	灰白	良	底部周1/2残、口縁周1/3残	平底から直線的に斜めに立ち上がる、口縁端部内外面露胎、内面白、外面褐色外面下半-底部露胎、下半白色底部褐色、釉垂れあり、貫入る	白磁Ⅹ類
3-3	28	瓦器	碗	石列1内側	マ	12.8	(2.9)	(4.6)	灰	灰	普通	高台わずかに残、口縁周1/3残	浅い体部、口縁外反、高台退化し形骸化、外面、口縁横ナデ体部指オサエ、内面、粗いミガキ(ヘラナデ状)	外面 口縁のみ炭素吸着 内面 ほぼ炭素吸着
3-3	29	瓦器	碗	石列1-内側	マ	(1.1)			にぶい黄橙	灰黄	普通	底部わずかに残	高台なく平底状、切り離しなし	手づくね状に成形か
3-3	30		土錘	石列1-内側	マ	全長 5.4	全幅 1.1	孔径 0.4	橙			完形	中央部に最大径	重量 5.1g
3-3	31	土師質土器	杯	石列1	4層	10.9	3.5	6.2	にぶい黄橙	にぶい黄橙	細かな赤色砂粒入る	底部周1/2残、口縁周一部残	平底から斜め上方に立ち上がる外面、回転ナデ内面、見込み回転痕回転糸切り	

3-3区遺物観察表2

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考
3-3	32	土師質土器	小皿	石列1	4層	6.8	1.8		橙	橙	細かな砂粒入る	口縁周1/2残、摩耗	底部から斜めに立ち上がる	
3-3	33	土師質土器	小皿	石列1	4層	6.8	1.5		橙	橙	細かな赤色砂粒入る	口縁周1/2残、摩耗	底部から外反ぎみに開く、回転系切り	
3-3	34	土師質土器	小皿	石列1	4層	7.2	1.6	5.4	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良	底部周1/4残、口縁周わずかに残	底部から短く直線的に開く、外面回転ナテ回転系切り板目痕	内面薄く煤付着
3-3	35	瓦器	皿	石列1	4層	7.8	1.2		黒灰	灰	細かな白い砂粒入る	口縁周1/2残	扁平な器形、底部一部ふくらむ、口縁外反外面、口縁ナテ、底部指オサエ内面、底部近辺まで回転方向ナテ切り離し痕無	
3-3	36	瓦器	皿	石列1	マ	8.2	1.3		黒灰	黒灰	細かな白い砂粒	口縁周一部残	口縁短く外反、外面口縁ナテ、体部指オサエ	外面からの強い指オサエにより内面一部重む
3-3	37	瓦器	皿	石列1	4層	8.3	1.6		灰	灰	細かな白い砂粒入る	口縁周1/4残	口縁外反面、口縁ナテ、口縁下横方向ナテ、底部指オサエ切り離し痕無	内外面とも焼成時降灰状付着物
3-3	38	瓦器	皿	石列1	マ	7.6	0.8	6.4	黒灰	黒灰	普通	底部残1/2以下、口縁周1/4残	浅い体部外反ぎみに開く口縁、底部は平底さみ、口縁部横ナテ、底部指オサエ切り離し痕なし	底部一部炭素吸着なし
3-3	39	瓦器	皿	石列1	4層	6.7	1.2		黒灰	黒灰	細かな白い砂粒入る	口縁周わずかに残	平底さみの底部から外反し開く口縁、切り離し痕無	外面焼成時降灰状付着物
3-3	40	瓦器	皿	石列1	マ	6.8	1.5	3.0	灰	灰	普通	底部残、口縁周2/3残	口縁外反ぎみに開く丸皿さみ、底部中央凹さみ、口縁部横ナテ底部中央指オサエ、底部中央凹さみ	外面一部炭素吸着なし
3-3	41	瓦器	椀	石列1	マ	12.3	2.8		灰黄	灰黄	細かな白い砂粒	口縁周一部残	浅い体部、外面、口縁横ナテ、体部3段に指オサエ、	炭素吸着弱い
3-3	42	瓦器	椀	石列1	マ	12.4	2.8		口縁にぶい黄橙	口縁にぶい褐	細かな白い砂粒	口縁周わずかに残	口縁長め、外面、口縁二段ナテ、下段ナテ幅狭い、内面わずかにミガキ痕	口縁にぶい黄橙色体部炭素吸着
3-3	43	瓦器	椀	石列1	マ	12.4	2.8		口縁にぶい黄橙	口縁にぶい褐	細かな白い砂粒	口縁周わずかに残	口縁長め、外面、口縁二段ナテ、下段ナテ幅狭い、内面わずかにミガキ痕	口縁にぶい黄橙色体部炭素吸着
3-3	44	瓦器	椀	石列1	4層	10.5	2.6		にぶい黄橙	にぶい黄橙	細かな白い砂粒入る	口縁周わずかに残	形骸化した輪高台、口縁外反外面、口縁ナテ、体部指オサエ貼付高台	外内面とも炭素吸着無し
3-3	45	瓦器	椀	石列1	4層	13.1	(2.7)		灰	灰		底部欠損、口縁周2/3残、摩耗	口縁短く外反、外面三段の調整痕外面、口縁ナテ、体部二段の指オサエ	外面凸凹多く雑
3-3	46	瓦器	椀	石列1	5層-2	12.2	3.4	3.3	灰白	灰白		高台周完形、口縁周わずかに残	矮小化した低い高台口縁外反外面、口縁ナテ体部回転方向に指オサエ内面、圏線ミガキ貼付高台	内面、炭素吸着ほとんど無し
3-3	47	瓦器	椀	石列1	4層	12.7	2.9	2.9	黒灰	黒灰	1mm大の角礫入る	高台周1/2残、口縁周一部残	形骸化した輪高台、口縁外反外面、体部指オサエ貼付高台	
3-3	48	瓦器	椀	石列1	マ	12.0	3.4		灰白	灰白	普通	底部なし、口縁周3/4残	口縁外反弱い、口縁横ナテ体部指オサエ、底部中心部残存せず高台なかったと考えられる	炭素吸着ほとんどなし体部 底部境界に粘土キレ痕残る
3-3	49	瓦器	椀	石列1	マ	11.6	3.3	3.2	灰白	灰白	2mm大の砂粒入る	底部残、口縁周1/2残	浅い体部口縁は外反さみ、口縁回転ナテ底部体部接合部爪痕残る内面ミガキわずかに残る、高台の突出あるが全周まわらず	炭素吸着ほとんどなし IV-4-5
3-3	50	瓦器	椀	石列1	マ	12.5	3.1		灰白	灰白	普通	底部残、口縁全周はほ残	体部浅い口縁外反弱い、体部~底部、指オサエ、高台なし	炭素吸着ほとんどなし土中鉄分付着多 IV-3
3-3	51	瓦器	椀	石列1	マ	12.2	3.3		灰白	灰白	細かな砂粒入る	底部残、口縁周1/2残	浅い体部口縁外反、口縁横ナテ体部指オサエミガキ見えず、高台なし丸底底部有	炭素吸着弱い IV-3
3-3	52	瓦器	椀	石列1	4層	12.2	2.6	2.6	灰	灰		高台周完形、口縁周一部残	形骸化しながら環状になる輪高台、口縁長く二段外面、口縁二段ナテ、体部横方向指オサエ内面、口縁ナテ、ミガキ痕有り貼付高台	
3-3	53	土師質土器	羽釜	P1	マ	20.2	(3.8)		黄橙	黄橙	細かな砂粒多	口縁わずかに残	短く内傾する口縁、口縁端面、口縁下、小さな鑊が付く、外面、口縁ナテ体部タタキ、内面、口縁ナテ	播磨型
3-3	54	土師質土器		P19	マ		(1.8)	5.4	にぶい橙	にぶい橙	赤色粒子入る	底部周完形 磨耗著しい	平底から開く体部	皿の可能性高い
3-3	55	白磁	八角皿	P32	マ		(1.5)	3.4	灰白	灰白		高台周2/3残	小さな八角皿、体部下部~高台露胎、透明感のある釉貫入	
3-3	56	瀬戸?		P34	マ	14.4	1.2		灰白	オリーブ黄		口縁わずかに残	口縁端部受け状になる、外面、口縁下露胎	瀬戸卸皿?
3-3	57	土師質土器	羽釜	P41	マ		(2.85)		にぶい橙	にぶい橙		口縁わずかに残	内傾する短い口縁、口縁端面口縁下には小さな鑊が付く	播磨型
3-3	58	須恵器		P69	マ	32.9	(2.0)		にぶい橙	にぶい黄橙	細かな砂粒入る	口縁わずかに残	大きく開く口縁、内面、横方向ハケ、二次被熱	
3-3	59	土師質土器	羽釜	P34	マ	21.6	(10.9)		橙	橙	細かな砂粒多	口縁周一部残	短く内傾する口縁端面は面をなす、短い断面三角形の鑊が付く、外面口縁横ナテ、体部タタキ	播磨型 二次被熱
3-3	60	白磁	丸皿	P44	マ	10.0	(2.1)		灰白	灰白	良	口縁周わずかに残	丸みを帯びた体部、乳白色の釉貫入、体部下部露胎	
3-3	61	瓦器	皿	P70	マ	8.8	1.2	6.6	暗灰	暗灰	細かな砂粒	口縁周わずかに残	平底さみの底部短く外反する口縁、外面、口縁横ナテ、底部指オサエ	
3-3	62	瓦器	椀	P72	マ	13.4	(2.56)		灰	灰	良	口縁周わずかに残	口縁外反、外面、口縁横ナテ、体部指オサエ、内面、横方向ナテ痕	

3-3区遺物観察表3

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考
3-3	63	瓦器	碗	P72	マ	134	(3.4)		灰	灰	良	口縁周一部残	口縁長く外反、外面、口縁横ナデ、体部指オサエ、内面、横方向ミガキ痕	
3-3	64	土師質土器	杯	P75	マ	122	36	5.0	橙	橙	角礫砂粒入る	底部周1/3残、口縁周一部残 表面 磨耗著しい	歪み有、うすい円盤高台	
3-3	65	瓦器	碗	P79	マ		(2.6)	3.2	灰	灰	良	高台周2/3残	断面三角形の扁平な高台残る、切り離しなし	
3-3	66	須恵器	底部	P79	マ		(1.3)		灰	灰	白い砂粒入る	底部一部残	平底状の底部、底部外面うすいヘラ記号、内底凹む、外面、強い回転痕、切り離し痕なし	
3-3	67	土師質土器	杯	P95	マ	123	3.1	7.3	にぶい黄橙	にぶい黄橙	細かな砂粒多	ほぼ完形 磨耗	平底から直線的に斜めに開く、外面、段上に回転痕、外面、強い回転ナデ、内面、回転ナデ、内底、同心円状に凹む、切り離し痕なし、板目痕かハラ痕	
3-3	68	土師質土器	小皿	P106	マ	7.4	2.1	4.8	にぶい橙	にぶい橙	赤色粒子入る	底部周、口縁周とも1/2残	全体に歪みあり、うすい回転高台状になる、短く立ち上がる体部、内面、体部、底部境、強いナデ、回転系切り	内面 わずかにタール付着
3-3	69	土師質土器	小皿	下SK3	マ	6.7	1.5	4.7	にぶい橙	にぶい橙	細かな砂粒入る	底部周1/2残、口縁周一部残	平底から短く立ち上がる、外面、体部回転ナデ、回転系切り	
3-3	70	青磁	皿	下SK3	マ		(1.1)	5.6	灰白	灰白	良	底部完形	平底、底部外面露胎、内面、見込、櫛描き文、貫入、透明感の強い釉	同安窯 皿
3-3	71	鉄器	鉄鏃	下SK3		全長6.5	全幅0.6	全厚0.5					両端部尖る、断面方形、鉄鏃の可能性	重量3.9g
3-3	72	瓦器	碗	下SK8	マ下層	11.7	3.1	3.0	淡赤橙	にぶい黄橙		完形	口縁端部近くやや肥厚下で外反、外面、口縁下横ナデ体部指オサエ、切り離しなし	二次被熱 IV期
3-3	73	青磁	盤	下SK16	マ	23.7	(3.0)		灰オリーブ	灰オリーブ	良	口縁わずかに残	口縁段を持ち開く端部はつまみ上げる、内面、陰刻文	口縁径に比して器壁うすい、軸うすく 外面にケズリ痕透ける
3-3	74	土師質土器	杯	下SK16	マ		(2.3)	6.4	浅橙	浅黄橙	普通	底部周1/2残	平底から立ち上がる、内面、底部2本指で中央部に横ナデ、回転系切り	
3-3	75	瓦器	碗底部	下SK17	マ		(0.5)	4.4	灰	灰黄褐	細かな角礫砂粒	高台周一部残	器壁うすい、高台低い	胎土赤褐で外面黄色がかり 黒色土器A類の可能性あるが 高台粗雑な作り
3-3	76	青磁	皿	下SK19	マ		(1.0)	6.0	淡緑	淡緑	良	底部わずかに残	外面下部～底部露胎、内面見込、櫛描き文、透明感のある釉、外面～底部、回転ヘラケズリ	底部煤ける
3-3	77	土師質土器	小皿	下SK22	マ	7.1	1.5	4.6	にぶい橙	橙	砂っぽい胎土	底部周完形、口縁周わずかに残 磨耗	平底から短く外反みに開く、内底に円形に回転痕、回転系切り	
3-3	78	瓦器	碗	下SK22	マ	11.8	3.1	3.0	浅黄橙	浅黄橙		高台周、口縁周ともわずかに残	口縁外反、高台扁平に退化、外面、口縁ナデ体部指オサエ、内面、わずかに横方向ミガキ残る、貼付高台	二次被熱
3-3	79	東播系須恵器	片口鉢	下SK26	マ				灰	灰	砂粒入る	口縁わずかに残	口縁端部、上下に大きく拡張、外面、口縁端部下強い横ナデ	東播系片口鉢
3-3	80	白磁	碗	下SK27	マ		(2.4)	7.5	灰白	灰白	砂粒入る	高台周1/2残	低い削出し高台、外面、下部～底部露胎	白磁碗IV類
3-3	81		土錘	下SK27	マ	全長5.3	全幅1.1	孔径0.4		にぶい橙			土錘、完形、最大径中央部	重量4.4g
3-3	82	鉄器	釘	下SK27	マ	全長2.9	全幅0.9	全厚0.6					鉄釘、頭部、先端欠損、断面方形、中空状、未処理	重量2.7g
3-3	83	瓦器	皿	下SK29	マ	8.4	2.1	6.4	灰	灰		ほぼ完形	大きく歪む、口縁体部境段、外面、口縁横ナデ、体部指オサエ、切り離しなし	焼成良く 一部いぶし銀状
3-3	84	青磁	盤	下SK31	マ	23.8	(3.5)		オリーブ黄	オリーブ黄	小さな黒い粒子入る	口縁わずかに残	水平に開く口縁、口縁端面をなす、無文、貫入有	胎土焼成一部斑赤褐色部分有
3-3	85	白磁	皿	下SD1	マ	16.2	(3.1)		灰白	灰白		口縁わずかに残	口縁端部、外内面、軸ハギ	
3-3	86	瓦質土器	羽釜	下P67	マ		(17.5)		黄灰	灰		鏝わずかに残	うす手の鏝	
3-3	87	近世陶器	銅緑釉	下P93	マ		(2.0)	高台径4.4	暗オリーブ	灰白	良	高台周2/3残	内面、濃緑色釉蛇ノ目状釉ハギ、外面、淡緑色釉	近世銅緑釉
3-3	88	土師質土器	底部	下P96	マ		(1.4)	6.0	にぶい橙	にぶい橙	赤色の粒子入る	底部周ほぼ完、磨耗著しい	円盤高台状になる底部	土師質土器杯の可能性高い
3-3	89	土師質土器	杯	下P114	マ		(3.5)	7.8	にぶい黄橙	にぶい黄橙	細かな砂粒多	底部周1/3残	平底から開く、外面、回転ナデ痕、内面、底部回転痕、静止糸切り	厚手
3-3	90	近世陶器	銅緑釉	下P125	マ				オリーブ黄	オリーブ黄	良	高台周完形、口縁周わずかに残	しっかりした高台浅く丸みを帯びた体部、内外面とも淡緑色の透明感の強い釉、内面、見込、蛇ノ目状に釉ハギ、4コの砂止め跡、体部下露胎、高台畳付、砂止め跡、外面、回転ケズリ痕	近世 緑釉
3-3	91		土錘	下P197	マ	全長4.0	全幅1.25	孔径0.3					土錘、両側面欠損、葉巻形	重量4.7g
3-3	92	備前焼	摺鉢	下P211	マ		(4.6)		にぶい褐	にぶい褐	細かな砂粒	底部わずかに残	隙間なく入る摺目内底にも摺目、外面、底部近く回転痕	備前の焼成

3-3区遺物観察表4

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考	
3-3	93	瓦器	椀	下 P246	マ		(1.5)	5.0	灰	灰	良	高台周一部残	断面小さな三角形の雑な高台、高台径は大きく底部平坦、内面見込平行ミガキ、貼付高台		
3-3	94	瓦器	皿	下 P244	マ	9.1	1.9	4.1	灰	灰	1mm大の砂粒入る	全体4/5残	口縁外反、丸底さみ、口縁横ナデ体部指オサエ、切り離しなし		
3-3	95	瓦器	椀	下 P244	マ	16.2	(3.3)		灰	にぶい黄褐	良	口縁わずかに残	口縁外反、口縁横ナデ口縁下横方向に指オサエ、内面、ミガキ	口径大きい	
3-3	96		土錘	下 P274	マ	全長 3.5	全幅 1.1	孔径 0.4					土錘、両端、欠損	重量 3.4g	
3-3	97	土師質土器	杯	下 P310	マ	12.2	4.1	7.6	灰黄褐	灰黄褐	砂っぽい胎土	底部周、口縁周とも一部残	立ち上がり甘く直立さみの体部、体部外面、幅の狭い回転痕残る、外面、強い回転痕、回転糸切り		
3-3	98	土師質土器	小皿	下 P310	マ	7.3	1.7	4.5	にぶい橙	にぶい橙	細かな砂粒多	底部周完形、口縁周1/2残、磨耗	一部円盤状になる平底から短く外反さみの口縁、内面、底部、口縁境回転痕	円盤の底部から巻き上げる痕跡	
3-3	99	土師質土器	小皿	下 P310	マ	7.2	1.4	5.2	橙	橙	良	底部周、高台周とも一部残	糸切りによってしゃくれた平底の底部、体部、短く立ち上がる、外面、二段の回転ナデ、回転糸切り	焼成良く かわらけ状	
3-3	100	瓦器	椀	下 P311	マ	13.6	(2.6)		黒灰一部橙	橙		口縁周一部残	口縁端部、短く外反、浅い体部、見込平坦、外面口縁強いナデ、ナデ下指オサエ	二次被熱 一部赤変	
3-3	101	土師質土器	小皿	下 P316	マ	6.8	1.6	4.9	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良	底部周完形、口縁周わずかに残 磨耗著しい	平底から短く立ち上がる、回転糸切り		
3-3	102		土錘	下 P317	マ	全長 4.65	全幅 1.1	孔径 0.3					土錘、両端部わずかに欠損、最大径中央部	重量 4.3g	
3-3	103	青磁	椀	下 P340	マ	16.5	(4.0)		灰オリーブ	灰オリーブ	良	口縁一部残	鑄造弁文 片彫 貫入有		
3-3	104	瓦器	皿	下 P349	マ	8.6	(1.2)		黒灰	黒灰	細かな白い砂粒	口縁周わずかに残	平底さみの底部、口縁短く外反、外面、口縁横ナデ、底部指オサエ		
3-3	105		土錘	下 P352	マ	全長 5.8	全幅 1.3	孔径 0.4					土錘、完形、最大径中央部	重量 6.2g	
3-3	106	土師器	椀	下 P353	マ		(2.1)	6.0	灰白	浅黄橙		高台周1/4残、磨耗	幅のある高台、丸みを帯びて立ち上がる体部、外面回転痕		
3-3	107	黒色土器 B類	椀	下 P353	マ				黒	黒	雲母入る	口縁周わずかに残	口縁内面小さな段上になる	黒色土器 B類搬入	
3-3	108	土師器		下 P353	マ		(2.5)	7.4	浅黄橙	にぶい橙	細かな赤色の粒子	底部円盤が脱落か	体部より突出する底部か		
3-3	109	土師器	椀	下 P354	マ		(1.2)	6.0	橙	橙	普通	高台周一部残	高台中央部凹む、貼付高台回転糸切り		
3-3	110	瓦器	皿	下 P356	マ	7.8	1.4		灰黄	黄灰	細かな砂粒入る	口縁周1/3残	丸底さみの底部、口縁外反、外面口縁指オサエ後ナデ、切り離しなし、粘土割れ有	炭素吸着 外内面とも弱い	
3-3	111	須恵器		下 P368	マ		1.2	3.4	灰白	灰白	良	底部周1/2残	円盤高台状の底部、外面内面とも回転ナデ、静止糸切り	須恵器 小型器種	
3-3	112	瓦器	椀	下 P395	マ	12.6	(2.6)		灰	灰		口縁周わずかに残	口縁部、体部境、稜を持つ、口縁外反弱い、外面、口縁二段にナデ		
3-3	113	石製品	砥石	下 P235	マ	全長 (9.4)	全幅 (4.2)	全厚 (2.1)						泥岩裏面欠損表面、両側面、表面粒子潰れる擦痕有	重量 132g
3-3	114	鉄器		P下 17		全長 3.5	全幅 2.0	全厚 1.0							重量 4.7g、うすい板状部分中央から、釘状突起有、金具か。
3-3	115	鉄器	釘	下 P204	マ	全長 (5.0)	全幅 1.1	全厚 0.5					鉄釘、接合ないが同一個体、頭部、折り曲げ、先端欠損、未処理	重量 2.3g	
3-3	116	土師質土器	底部	下 IKO1	下層		2.8			にぶい橙	赤色粒子多く入る	底部周完形	柱状高台中央部突出、切り離しなし	柱状高台 底部の可能性	
3-3	117	近世	陶器	下 IKO1			(1.8)	6.0	灰白	灰白	須恵質	高台周一部残	外面、高台見込まで施釉、砂目跡、つやのない白濁釉		
3-3	118	土師質土器	底部	下 IKO2	TR1①		(1.3)	4.6	浅黄橙	浅黄橙	砂っぽい	高台周2/3残	断面三角形の輪高台、貼付高台	焼成良 かわらけ状	
3-3	119	青磁	椀	下 IKO2 ⑤		10.6	3.8	3.0	緑灰	緑灰	良	高台周、口縁周とも1/3残	小型の椀、畳付一部釉、高台見込露胎、透明感の強い釉		
3-3	120	青磁	椀	下 IKO2	マ	15.8	(4.7)		暗灰黄	灰オリーブ	良	口縁周わずかに残	濁った厚手の釉、ピンホール有		
3-3	121	須恵器	片口鉢	下 IKO2 ⑦		22.4	(6.5)		灰	灰	白色粒子入る	口縁わずかに残	口縁端部拡張弱い、外面粘土積み上げ痕	東播	
3-3	122		土錘	下 IKO2		全幅 1.15	全厚 1.1	孔径 0.4						片側端部欠損、IKO2出土のものより大きい	重量 5.1g
3-3	123		土錘	下 IKO2		全長 4.4	全幅 1.1	孔径 0.3						両側端部欠損	重量 3.8g
3-3	124		土錘	下 IKO2		全長 4.6	全幅 1.2	孔径 0.3						両側端部欠損	重量 5.0g
3-3	125		土錘	下 IKO2		全長 4.1	全幅 1.1	孔径 0.3						両側端部欠損	重量 3.7g

3-3区遺物観察表5

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考
3-3	126		土鍾	下 IKO2		全長4.7	全幅1.2	孔径0.3					両端部わずかに欠損、	重量 3.7g
3-3	127		土鍾	下 IKO2		全幅1.2	全幅1.2	孔径0.4					両端部わずかに欠損、	重量 4.4g
3-3	128		土鍾	下 IKO2		全長4.8	全幅1.2	孔径0.4					片側端部欠損	重量 5.2g
3-3	129		土鍾	下 IKO2		全長4.4	全幅1.0	孔径0.3					両側端部欠損	重量 3.4g
3-3	130		土鍾	下 IKO2		全長4.75	全幅1.15	孔径0.3					両側端部欠損	重量 4.2g
3-3	131		土鍾	下 IKO2		全長6.3	全幅1.2	孔径0.4					片側端部欠損、他の IKO2 出土のものより長い	重量 5.9g
3-3	132		土鍾	下 IKO2		全長4.6	全幅1.2	孔径0.3					両側端部欠損	重量 4.0g
3-3	133		土鍾	下 IKO2		全長5.3	全幅1.3	孔径0.3					両側端部わずかに欠損、	重量 5.2g
3-3	134		土鍾	下 IKO2		全長4.5	全幅1.2	孔径0.3					両側端部わずかに欠損、	重量 4.2g
3-3	135		土鍾	下 IKO2		全長4.3	全幅1.2	孔径0.3					両端部、欠損	重量 4.2g
3-3	136		土鍾	下 IKO2		全長5.4	全幅1.1	孔径0.3					両端部わずかに欠損、鉄分付着	重量 4.8g
3-3	137	瓦器	皿	遺物集中1		7.9	1.55		灰	灰	普通	口縁周 1/4 残	口縁歪む、丸みを帯びた底部口縁反外面、口縁ナデ、底部指オサエ	内外面とも焼成時降灰状付着物
3-3	138	瓦器	皿	遺物集中1		7.1	1.6		灰	灰	細かな白い砂粒入る	口縁わずかに残	口縁歪む、丸みを帯びた底部口縁反外面、口縁ナデ、底部指オサエ内面、口縁ナデ	内外面とも黒色、重ね焼き痕か
3-3	139	瓦器	皿	遺物集中1		8.5	1.6		にぶい黄橙	にぶい黄橙	細かな白い砂粒入る	口縁周一部残	口縁歪む、外反底部平坦部分なし外内面とも口縁ナデ切り離し痕無し	二次被熱
3-3	140	瓦器	皿	遺物集中1		7.9	1.25		灰	灰	2mm大の砂粒入る	ほぼ完形	全体に歪む、扁平な器形平底から短く開く口縁 外面、口縁ナデ切り離し痕無し	焼成時降灰状付着物
3-3	141	瓦器	皿	遺物集中1		8.0	1.1		黒灰	黒灰	細かな白い砂粒入る	口縁周 1/2 残	扁平な器形平底から短く開く 外面口縁ナデ切り離し痕無し	
3-3	142	瓦器	碗	遺物集中1		12.4	2.35		黒灰	黒灰	白い砂粒多く入る	口縁周一部残	形骸化した輪高台口縁歪み口縁 外反二段で長い外面、口縁二段上段指オサエ後ナデ、下段横方向指オサエ粘土貼り付けるが輪高台になっていない	
3-3	143	瓦器	碗	遺物集中1		12.2	(27)		黒灰	黒灰	白い砂粒多く入る	口縁周 1/4 残	口縁外反弱い外面小石が浮き出凸凹外面、口縁弱いナデ内面横方向ヘラナデ	外面雑な仕上げ
3-3	144	瓦器	碗	遺物集中1		13.3	(28)		灰	灰黄	1mm大の砂粒入る	口縁周 1/4 残	口縁長く外反外面、二段に弱いナデ内面粗いナデ	
3-3	145	瓦器	碗	遺物集中1		10.7	(26)		灰	灰	白い砂粒入る	口縁周一部残	口縁外反外面、口縁ナデ内面、幅の狭いミガキ	外面、口縁黒い重ね焼き痕跡か
3-3	146	瓦器	碗	遺物集中1		11.8	3.2		灰	灰	1mm大の砂粒入る	完形	全体に歪む口縁で外反しない 外面、口縁ナデ内面、粗くヘラナデ状の圏線ミガキ、切り離し痕無し	外内面とも炭素吸着弱い
3-3	147	瓦器	碗	遺物集中1		12.0	2.95		灰黄褐	灰黄褐	細かな雲母入る。	口縁周 1/4 残	口縁長く二段になる底部平坦な部分ある、口縁長く二段ナデ外面、口縁ナデ、横方向指オサエ	炭素吸着なし、土師器状
3-3	148	瓦器	皿	遺物集中2		7.4	1.2		黒灰	黒灰		口縁周 1/4 残	丸みを帯びた底部、口縁外反 外面、口縁ナデ内面、底部近辺まで回転方向ナデ、見込み横ナデ	焼成時降灰状付着物
3-3	149	瓦器	皿	遺物集中2		7.9	1.1		灰	灰	細かな白い砂粒入る	口縁周わずかに残、摩耗	扁平な器形口縁強く外反	
3-3	150	瓦器	皿	遺物集中2		8.0	1.1		黒灰	黒灰	白い砂粒入る	口縁周 2/3 残	扁平な器形平底気味の底部、口縁短く大きく外反 外内面とも、口縁ナデ切り離し痕無し	焼成時降灰状付着物
3-3	151	瓦器	碗	遺物集中2		12.9	2.6		黒	灰黄	白い砂粒入る	口縁周 1/3 残	口縁屈曲強く口縁長く二段状外面、口縁上部横ナデ、下部横方向指オサエ切り離し痕無し	外面炭素吸着弱い
3-3	152	瓦器	碗	遺物集中2		12.8	2.8		黒灰	黒灰	白い砂粒入る	口縁周 2/3 残	口縁長い、外反は弱い切り離し痕無し凸凹有り	外内面とも炭素吸着良
3-3	153	瓦器	碗	遺物集中2		10.7	(26)		黒灰	黒灰	細かな白い砂粒入る	口縁周一部残	口縁外反弱い外面、口縁ナデ、下横方向指オサエ	
3-3	154	青磁	碗	遺物集中2		15.9	6.9	5.5	灰オリーブ	灰オリーブ	細かな砂粒入る	高台完形、口縁周 1/4 残、完形復元可	鎗蓮弁文青磁器付一部まで施釉	I-5類。高台見込み軸着物有り
3-3	155	弥生土器	底部	遺物集中2			(49)	9.6	黄灰	にぶい橙	赤色砂粒多量入る	底部周ほぼ完形、表面剥離著しい	厚手の底部	弥生土器
3-3	156	土師質土器	小皿	遺物集中3	4層	8.6	1.65	6.6	にぶい橙	にぶい橙	砂っぽい胎土	底部周、口縁周とも一部残	平底の底部、体部中央で屈曲外面二段にナデ回転条切り	
3-3	157	瓦器	皿	遺物集中3	4層	7.8	1.4		黒灰	灰黄	3mm大の角礫入る	口縁周一部残	丸みを帯びた底部外面、口縁ナデ切り離し痕無し	外内面とも炭素吸着ほとんど無し
3-3	158	瓦器	皿	遺物集中3	4層	7.9	1.4		黒灰	黒灰	細かな白い砂粒入る	口縁周わずかに残	口縁外反外面、口縁ナデ切り離し痕無し	

3-3区遺物観察表6

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考
3-3	159	瓦器	皿	遺物集中3	4層	7.85	1.5		黒灰	黒灰		口縁周1/2残	丸みを帯びた底部口縁外反外面、口縁ナデ、ナデ下横方向指オサエ	
3-3	160	瓦器	椀	遺物集中3	4層	11.8	2.4		灰白	暗灰	細かな白い砂粒入る	口縁周一部残	口縁外反浅い体部外面、口縁ナデ内面、粗いミガキ切り離し痕無し	外内面とも炭素吸着ほとんど無し
3-3	161	瓦器	椀	遺物集中3	4層	11.8	3.2		灰	灰	1mm大の砂粒入る	完形	全体に歪む口縁で外反しない外面、口縁ナデ切り離し痕無し	外内面とも炭素吸着弱い
3-3	162	瓦器	椀	遺物集中3	4層	12.4	2.7		暗灰	暗灰	白い砂粒入る	口縁周一部残	口縁、外反弱い浅い体部外面、口縁指オサエ、弱いナデ切り離し痕無し	
3-3	163	瓦器	椀	遺物集中3	4層	12.8	2.95		黒灰	にぶい黄橙	1cm大の角礫入る	高台完形、口縁周1/2残	高台の名残と見られる粘土帯貼り付く口縁外反弱い外面、口縁ナデ、体部指オサエ内面、ミガキ底部粘土貼付	外面二次被熱の可能性
3-3	164	瓦器	椀	遺物集中3	4層	12.25	2.95	2.8	にぶい黄灰	にぶい黄灰	細かな白い砂粒入る	高台完形、口縁周1/2残	形骸化し環状にならない高台口縁外反弱い、外面、口縁ナデ、体部指オサエ内面、圏線ミガキ	外内面とも炭素吸着弱い。
3-3	165	束播系須恵器	片口鉢	遺物集中3	4層	24.6			灰	灰	2mm大の白い砂粒入る	口縁一部残	口縁端部わずかに肥厚し拡張しない先端尖る外内面、回転ナデ	
3-3	166	不明	不明	遺物集中3	4層		(1.1)	10.7	灰黄	にぶい褐	丸い砂粒多量に入る	一部残	うすく平坦な底部	内面タール付着
3-3	167	土師質土器	小皿	遺物集中3	5層	7.6	2.1	4.8	にぶい橙	にぶい橙	細かな砂粒多く入る	底部周、口縁周とも2/3残、摩耗	平底から斜めに立ち上がる	やや大振りな小皿
3-3	168	土師質土器	小皿	遺物集中3	5層	8.0	1.9	5.6	浅黄橙	浅黄橙	細かな赤色砂粒入る	底部周1/2残、口縁周わずかに残	平底から斜めに立ち上がる、外面、二段に回転ナデ回転糸切り	
3-3	169	土師質土器	小皿	遺物集中3	5層	7.6	1.5	5.8	浅黄橙	にぶい黄橙	砂っぽい胎土	底部周一部残、口縁周わずかに残	底部外面不整形に凸凹面脱落の可能性。口縁外反	
3-3	170	土師質土器	小皿	遺物集中3	5層	7.3	1.4	4.6	橙	橙	細かな赤色の粒子入る	完形	平底から開き口縁斜め上方を向く、外面二段にナデ回転糸切り	
3-3	171	土師質土器	杯	遺物集中3	5層	11.7	3.5	6.9	にぶい橙	にぶい橙	細かな砂粒多く入る	底部周完形、口縁周一部残	円盤高台状の底部から開く、外面回転ナデ内面同心円状に指オサエ回転糸切り	
3-3	172	瓦器	皿	遺物集中3	5層	7.8	2.1	6.0	黒灰	黒灰	細かな角礫入る	口縁わずかに欠損	全体に歪み、丸みを帯びた底部口縁外反 外面底部指オサエ、切り離し痕無し	
3-3	173	瓦器	皿	遺物集中3	5層	7.7	1.5		黒灰	黒灰	白い角礫入る	口縁周1/3残	丸みを帯びた底部口縁外反 外面、口縁ナデ、口縁下回転方向指オサエ内面、口縁一見込回転方向ナデ切り離し痕無し	
3-3	174	瓦器	皿	遺物集中3	5層	7.6	1.4		黄灰	黄灰	細かな白い砂粒入る	口縁周一部残	口縁外反弱く開く口縁外面、口縁指オサエ後ナデ	内外面とも焼成時降灰状付着物
3-3	175	瓦器	皿	遺物集中3	5層	8.4	1.65	6.4	黄灰	黄灰	細かな白い砂粒入る	口縁わずかに欠損	全体に歪み、底部ふくれる、口縁外反 外面口縁指オサエ後ナデ切り離し痕無し	
3-3	176	瓦器	皿	遺物集中3	5層	7.7	1.4		黒灰	黒灰	細かな白い砂粒入る	口縁周一部欠損	平底ぎみの底部口縁外反 外面、口縁ナデ、ナデした回転方向ナデ内面、底部近辺までナデ切り離し痕無し	
3-3	177	瓦器	皿	遺物集中3	5層	7.4	1.1	6.1	黒灰	黒灰	細かな白い砂粒入る	ほぼ完形	扁平な器形平底から短く外反、外面、口縁ナデ、底部指オサエ内面、底部縁までナデ切り離し痕無し	
3-3	178	土師質土器	小皿	遺物集中3	5層	7.8	1.75	5.6	橙	橙	1cm大の小石入る	口縁わずかに欠損、摩耗	口縁歪む平底から立ち上がる	厚手で重い
3-3	179	瓦器	椀	遺物集中3	5層	12.3	(3.0)		灰	灰	7mm大の角礫入る	完形	浅い体部、外反する口縁 外面、口縁ナデ、体部指オサエ内面、口縁ナデ、見込み横ナデ、圏線ミガキ切り離し痕無し	外内面とも炭素吸着弱い。
3-3	180	瓦器	椀	遺物集中3	5層	12.3	(2.6)		灰	灰	細かな白い砂粒入る	口縁周1/3残	外反する口縁 外面、口縁ナデ、体部指オサエ内面、口縁ナデ、ミガキ	
3-3	181	瓦器	皿	遺物集中4	5層-2	8.3	1.4		黒灰	黄灰	細かな角礫入る	口縁周わずかに欠損	丸みを帯びた底部口縁外反 外面、口縁ナデ切り離し痕無し	外面、炭素吸着弱い
3-3	182	瓦器	椀	遺物集中4	5層-2	12.8	2.9		暗灰	灰白		高台周完形、口縁周1/4残	矮小化した高台口縁外反、外面、口縁ナデ内面、口縁ナデ、ミガキわずかに残る貼付高台	外面、炭素吸着弱い
3-3	183	瓦器	椀	遺物集中4	5層-2	12.8	2.9		灰	灰	2mm大の細かな角礫入る	高台周1/2残、口縁周わずかに残	雑な作りの低い高台、口縁外反ほとんど無し 外面、口縁弱いナデ内面、ミガキ貼付高台	
3-3	184	土師質土器	羽釜	遺物集中4	5層-2	21.8	(5.0)		にぶい橙	にぶい橙	赤色砂粒多く入る	口縁周わずかに残	口縁直立ぎみ、端部上方を向く面をなす、口縁下厚手の鐙が付く口縁、ナデ	内面こげ付き有り
3-3	185	小型土器	羽釜	遺物集中4	5層-2	8.6	(5.0)		にぶい黄橙	にぶい黄橙	細かな砂粒に入	口縁周1/3残	口縁端部受け部有り 外面、回転ナデ内面、下半強い回転ナデ	土師質土器羽釜ミニチュア
3-3	186	瓦器	椀	遺物集中4		11.9	(3.9)		灰	黒灰	1~2mm大の砂粒入る	口縁周一部残	全体に歪む口縁外反弱い 外面、口縁ナデ内面、口縁ナデ、粗いミガキ、	
3-3	187	瓦器	皿	遺物集中4		7.8	1.2		黒灰	黒灰	2mm大の砂粒入る	口縁周一部残	扁平な器形平底状の底部、短く開く口縁、外反弱い外面、口縁弱いナデ切り離し痕無し	
3-3	188	瓦器	皿	遺物集中4		7.8	1.15		黄灰	黄灰	2mm大の角礫入る	口縁一部残	扁平な器形、平底から外反ぎみに開く 口縁外面、口縁ナデ内面、切り離し痕無し	外内面とも炭素吸着無し

3-3区遺物観察表7

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考
3-3	189	土師質土器	皿	下IKO3	マ	12.0	3.5	5.6	にぶい橙	にぶい橙	普通	高台完形、口縁周1/3残	円盤高台、外反して開き口縁下大きく外反、外内面とも回転ナデ、回転糸切り	焼成良 かわらけ状炭附着
3-3	190	土師質土器	小皿		4層	7.5	1.6	4.6	にぶい橙	にぶい橙	細かな黒い粒子入る	底部完形、口縁周2/3残、摩耗	平面形、楕円平底から短く開く回転糸切り	
3-3	191	土師質土器	小皿		4層	(6.9)	1.5	4.4	黄橙	黄橙	細かな砂粒入る	底部完形、口縁周1/4残、摩耗	平底から開き口縁わずかに外反 外面、回転ナデ回転糸切り	
3-3	192	土師質土器	小皿		4層	6.8	1.7	5.4	灰黄褐	灰黄褐	細かな砂粒入る	口縁周2/3残、摩耗著しい	底部から外反ぎみに開く	内面タール付着、内面粘土巻き痕
3-3	193	土師質土器	小皿		4層	6.9	1.4	5.0	橙	橙	細かな黒い粒子入る	口縁周一部欠損	平底から短く立ち上がる。内外面回転ナデ回転糸切り	焼成良、かわらけ状
3-3	194	土師質土器	小皿		4層	(7.2)	1.7	4.2	橙	橙	1mm大の角礫入る	完形、摩耗	平底から直線的に短く立ち上がる内底中央部突出ぎみ回転糸切り	
3-3	195	土師質土器	小皿		4層	(7.2)	1.7	4.2	にぶい黄橙	橙	砂っぽい	底部完形、口縁周わずかに残、摩耗	円盤高台状の底部から外反して開く、外面、回転ナデ回転糸切り	
3-3	196	土師質土器	小皿	石列	4層	6.8	1.45		橙	橙	細かな赤色砂粒入る	口縁周完形、口縁周1/3残、摩耗	底部から外反ぎみに開く 内面、見込み回転ナデ回転糸切り	
3-3	197	土師質土器	小皿		4層	6.6	1.6	4.0	橙	橙	細かな白い砂粒入る	口縁周一部欠損	歪み有り平底外反気味に開く口縁、外面二段に回転ナデ回転糸切り	焼成良、かわらけ状
3-3	198	土師質土器	小皿		4層	7.3	1.9	4.6	橙	橙		口縁周2/3残、摩耗著しい	底部から外反ぎみに開く	
3-3	199	土師質土器	小皿		4層	6.7	2.1	4.2	にぶい橙	にぶい橙	細かな白い砂粒入る	口縁周1/3残、表面荒れる	歪み有り円盤高台状の底部、口縁端外反外面三段に回転ナデ	
3-3	200	土師質土器	小皿		4層	7.0	1.8	3.4	橙	橙	細かな砂粒入る	ほぼ完形、摩耗	平底から外反ぎみに開く、内底円盤状に平たく盛り上がる	
3-3	201	土師質土器	杯		4層	(12.8)	4.0	6.9	浅黄橙	浅黄橙	細かな赤色砂粒入る	底部3/4残、口縁周1/3残、摩耗	全体歪み、平面形、楕円口縁から体部二段に緩やかに二段の屈曲	
3-3	202	土師質土器	杯		4層	11.8	4.0	7.1	にぶい黄橙	にぶい黄橙	赤い粒子入る	底部完形、口縁周1/3残、摩耗	平底から斜め上方に立ち上がる、やや厚手回転糸切り	
3-3	203	土師質土器	杯		4層	(10.7)	4.1	6.2	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm大の角礫入る	底部完形、口縁周わずかに残、摩耗	円盤高台状も底部から立ち上がる。外面、回転痕底部板目状痕	
3-3	204	土師質土器	杯		4層	10.8	4.0	6.3	にぶい橙	橙	細かな赤色砂粒入る	底部1/2残、口縁周一部残	全体歪み、平底から立ち上がる。外面三段に回転ナデ回転糸切り後調整	
3-3	205	土師質土器	杯		4層	11.8	3.1	7.1	にぶい橙	にぶい橙	5mm大の小石入る	底部周、口縁周とも1/3残	平底から立ち上がる底部、体部接合部強いナデ外面、体部幅の狭い回転痕回転糸切り	外内面とも炭素吸着無し、土師器状、器壁凸凹なし
3-3	206	土師質土器	杯		4層		1.4	5.2	浅黄	にぶい橙	細かな赤色の粒子入る	底部周完形、摩耗	平底から開く	
3-3	207	土師質土器	柱状高台		4層				にぶい橙	にぶい橙	細かな白い砂粒入る	高台周1/2欠損	柱状部から突出する底部切り離し、痕無し	
3-3	208	瓦器	椀		4層	10.5	(2.3)		にぶい黄橙	にぶい黄橙	細かな角礫入る	口縁周わずかに残	口縁外反	
3-3	209	緑釉陶器	椀		4層	13.9	(3.5)		灰	灰	細かな砂粒入る	口縁周わずかに残	口縁外反、口縁内面ナデにより段になる。うすい釉外面にわずかに残	胎土硬陶、うすい釉、京都産か
3-3	210	須恵器	椀		4層	14.8	(4.7)		灰白	灰白	細かな白い砂粒入る	口縁周わずかに残	丸みを帯びた体部口縁端外反外面、回転ナデ	白色に発色 白堊
3-3	211	白磁	皿		5層	11.0	3.1	6.2	灰白	灰白		底部周完形、口縁周わずかに残	外内面とも口縁端部露胎底部、外面施釉直線的に開く体部	
3-3	212	白磁	皿		4層	9.2	(2.2)		灰白	灰白		口縁周1/3残	外内面とも口縁端部露胎褐色。外面回転ケズリ	
3-3	213	青磁	椀		4層		(3.8)	5.4	灰オリーブ	灰オリーブ	良	高台周完形	厚みのある底部外面、片影蓮弁文、わずかに鑄あり高台低く高台外面まで施釉、畳付けに釉残る	I-5類
3-3	214	青磁	椀		4層		2.3	5.2	灰オリーブ	灰オリーブ	良	高台周1/3残	厚みのある底部釉が畳付、内面の一部までかかる	椀底部
3-3	215	青磁	椀		4層		(1.7)	6.0	灰オリーブ	灰オリーブ	良	高台周完形	厚みのある底部高台低く幅広い高台外面まで施釉、畳付けに釉残るピンホール有り	椀底部
3-3	216	青磁	椀		4層		(3.0)	4.1	オリーブ灰	オリーブ灰	良	高台周完形	透明感の強い釉貫入あり、高台外面まで施釉、一部畳付けに残る	小椀 持ち重り感ある
3-3	217	青磁	皿		4層	9.6	2.05	4.3	オリーブ灰	オリーブ灰	細かな砂粒	底部周完形、口縁周1/2残	平底から屈曲して開く体部、体部下半露胎外面、三段の回転ケズリ痕底面ケズリ込む	青磁皿I 1b 12世紀半後～後半
3-3	218	青白磁	合子		4層	3.4	1.9	3.4	明緑灰	灰白	良	底部周、口縁周とも1/4残	小型の合子蓋受けあり、体部菊花文を浮き彫り	
3-3	219	近世陶磁器	皿		4層	(2.5)	4.3		オリーブ灰	灰オリーブ	良	高台周1/2残	輪高台から丸みを帯び開く。内面見込み蛇の目状外面透明釉を体部下段まで施釉。外面回転ヘラケズリ	近世銅緑釉 内野山窯か
3-3	220	瓦器	皿		4層	7.9	1.2		浅黄	灰黄	細かな白い砂粒	口縁周1/3残	口縁歪む口縁外反内底平坦、外底凸凹内面とも口縁ナデ外面指オサエ切り離し痕無し	内面炭素吸着弱い
3-3	221	瓦器	皿		4層	7.6	1.3		黒灰	黒灰	細かな白い砂粒入る	口縁周とも1/2残、表面荒れる	平面形、楕円扁平な器形平底状の底部、口縁短く外反切り離し痕無し	

3-3区遺物観察表8

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考
3-3	222	瓦器	皿		4層	7.8	1.2	6.3	灰白	灰白	1mm大の角礫入る	口縁周1/2残	平底ぎみの底部口縁外反 外面、底部指オサエ内面、口縁ナデ、ヘラナデ切り離し痕無し	外内面とも炭素吸着無し、粘土割れ有り
3-3	223	瓦器	皿		4層	7.8	1.2	5.0	黒灰	灰	普通	口縁周1/4残	平底の底部、口縁短く外反 内面底部近辺まで回転方向ナデ切り離し痕無し	外内面とも炭素吸着良好
3-3	224	瓦器	皿		4層	7.9	1.4		黒灰	黒灰	1mm大の角礫入る	口縁周わずかに欠損	平底気味の底部、口縁外反 外面、口縁ナデ、底部指オサエ切り離し痕無し	焼成時降灰状付着物
3-3	225	瓦器	皿		4層	8.2	1.4		灰白	灰白		完形	全体少し歪む、丸みを帯びた底部、口縁短く外反 外面、口縁ナデ、底部指オサエ内面、底部近辺まで回転方向ナデ、見込み横ナデ切り離し痕無し	外内面とも炭素吸着弱い
3-3	226	瓦器	皿		4層	7.6	1.4		黒灰	黒灰	細かな白い砂粒入る	口縁周1/4残	歪み有り平底ぎみの底部から斜めに開く口縁 外面、底部指オサエ切り離し痕無し	内外面とも焼成時降灰状付着物
3-3	227	瓦器	皿		4層	7.7	1.0		灰	灰	細かな白い砂粒入る	口縁周わずかに残	扁平な器形平底ぎみの底部、口縁短く外反切り離し痕無し	
3-3	228	瓦器	皿		4層	8.0	1.15		黄灰	黄灰		完形	扁平な器形、平底状の底部から短く大きく外反する口縁外面、口縁ナデ、底部指オサエ内面、底部縁辺まで回転方向ナデ、見込み横ナデ切り離し痕無し	外内面とも炭素吸着弱い
3-3	229	瓦器	皿		4層	8.1	1.2		黒灰	黒灰	1mm大の角礫入る	底部周、口縁周とも2/3残	扁平な器形平底気味の底部、口縁大きく外反外面、口縁ナデ、底部指オサエ内面、底部近辺まで回転方向ナデ、見込み横ナデ切り離し痕無し	外内面とも炭素吸着良好
3-3	230	瓦器	皿		4層	8.3	1.7		暗灰	暗灰	細かな白い砂粒入る	口縁周一部残	丸みを帯びた底部、口縁外反、外内面とも、口縁ナデ切り離しなし	焼成時降灰状付着物
3-3	231	瓦器	皿		4層	7.5	1.9		灰	灰	普通	完形	丸みを帯びた底部、口縁短く外反内定少し凹む外面 外面、口縁ナデ、底部指オサエ 内面、底部近辺まで回転方向ナデ、見込みナデ切り離し痕無し	外内面とも炭素吸着良好
3-3	232	瓦器	皿		4層	7.8	1.8		暗灰	暗灰	黒色粒子入る	口縁周一部欠損、摩耗	丸みを帯びた底部、口縁短く外反切り離し痕無し	
3-3	233	瓦器	皿		4層	8.4	1.4		黒灰	黒灰	細かな白い砂粒入る	口縁周1/4残	口縁外反外面、口縁ナデ、底部指オサエ内面、底部付近までナデ、見込み横ナデ	外内面とも炭素吸着良好
3-3	234	瓦器	皿		4層	7.9	1.8		灰白	灰白	2mm大の角礫入る	完形	全体に歪む丸みを帯びた底部、口縁外反切り離し痕無し	外内面とも炭素吸着ほとんど無し、粘土割れ有り
3-3	235	瓦器	皿		4層				灰	灰		完形	丸みを帯びた底部、口縁外反、外面、口縁ナデ底部指オサエ、内面、口縁～底部境ナデ底部横ナデ、切り離し無し	
3-3	236	瓦器	皿		4層	7.7	1.9		黒灰	黒灰	1mm大の砂粒入る	口縁周1/3欠損	わずかに歪む、丸みを帯びた底部、口縁外反外面、口縁ナデ切り離し痕無し	底部粘土割れ有り
3-3	237	瓦器	皿		4層	7.9	1.6		灰	灰		完形	全体少し歪む、丸みを帯びた底部、口縁短く外反 外面、口縁ナデ、底部指オサエ内切り離し痕無し	焼成時降灰状付着物
3-3	238	瓦器	皿		4層	7.6	1.7		灰	灰		完形	全体に歪む、底部中央すこし凹む、口縁外反、外面、口縁ナデ、底部指オサエ、内面、回転方向ナデ底部縁辺まで、切り離しなく凹む	一部煤状に炭素付着
3-3	239	瓦器	皿		4層	7.6	1.2		暗灰	暗灰	1mm大の角礫入る	口縁周1/3残	口縁外反弱い外面、口縁ナデ	
3-3	240	瓦器	椀	石列-S	4層	(130)	2.8	(26)	灰白	灰白	細かな白い砂粒入る	口縁周一部残	口縁歪む長く外反外面、口縁ナデ、体部横方向指オサエ内面、口縁ナデ	外内面とも炭素吸着ほとんど無し
3-3	241	瓦器	椀	遺物集中2、中	4層	122	3.1		黒灰	灰黄	1mm大の角礫入る	ほぼ完形	口縁で外反外面、口縁ナデ内面、ミガキわずかに有り、切り離し痕無し	内面とも炭素吸着、外面口縁のみ
3-3	242	瓦器	椀		4層	120	2.8		暗灰	暗灰	2mm大の角礫入る	口縁周一部残	口縁外反、底部高台は付かないと考える、浅い体部、外面口縁ナデ、内面、粗いミガキ有、切り離し無し	
3-3	243	瓦器	椀		4層	128	3.2		灰	灰	赤色粒子入る	口縁周わずかに残	口縁外反なし 外面、体部指オサエ	在地産の可能性
3-3	244	瓦器	椀		4層	119	2.8		暗灰	暗灰	2mm大の角礫入る	口縁周1/4残	口縁外反 外面、口縁弱いナデ内面、口縁端ヘラナデ状粗いミガキ、	
3-3	245	瓦器	椀	石列	4層	132	3.1		灰	灰	細かな砂粒入る	底部周1/2残、口縁周1/4残	底部高台の名残が認識できる 口縁二段に外反 外面、口縁ナデ、底部指オサエ内面、圏線ミガキ有り切り離し痕無し	
3-3	246	瓦器	椀		4層	127	(28)		にぶい黄橙	にぶい黄橙	白い砂粒入る	口縁周一部残	口縁長く二段に外反 外面、口縁ナデ、体部指オサエ内面、口縁ナデ切り離し痕無し	二次焼成の可能性
3-3	247	瓦器	椀		4層	135	(35)		黒灰	黒灰	普通	口縁周わずかに残	口縁外反、外内面とも口縁ナデ、	体部 粘土割れ
3-3	248	瓦器	椀		4層	123	3.2		黒灰	黒灰		完形	全体に歪む口縁で外反 外面、口縁ナデ体部指オサエ内面、わずかにミガキ痕残る、切り離し痕無し	

3-3区遺物観察表9

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考
3-3	249	瓦器	椀		4層	125	26		灰白	灰白	白い粒子入る	口縁周1/3残	口縁外反、底部は高台は付かないと考える、浅い体部、外面、口縁横ナデ、体部指オサエ、内面、粗いヘラナデわずかに有、切り離しなし	体部 粘土割れ有
3-3	250	瓦器	椀		4層	(13.2)	(3.2)		灰	灰	3mm大の砂粒入る	口縁周一部残	底部高台の名残か粘土貼付口縁二段に外反 外面、口縁ナデ、体部指オサエ内面、圏線ミガキ有り切り離し痕無し	
3-3	251	瓦器	椀		4層	136	(3.1)		灰白	灰	細かな砂粒入る	口縁周1/4残	直線的な体部、口縁上方を向き痛み上げ状、端部尖り気味	不定型な器形、在地産か内面炭素充ける
3-3	252	瓦器	椀		4層	128	(3.0)		灰	暗灰	細かな砂粒入る	口縁周わずかに残	口縁直立きみ、端部丸く収める内面、口縁ナデ	不定型な器形、在地産か。
3-3	253	瓦器	椀	石列-S	4層		(14.5)	2.4	灰白	灰白	細かな白い砂粒入る	高台周2/3残	形骸化し環状にならない高台粘土貼付高台状	内面とも炭素吸着ほとんど無し、粘土割れ有り
3-3	254	瓦器	椀		4層		(2.2)	4.4	灰	灰白	細かな白い砂粒入る	高台周完形	断面三角形の低いがしっかりした高台 内面見込みまで緻密なミガキ貼付高台	
3-3	255	瓦器	椀		4層	125	3.1		灰白	灰白	白い砂粒入る	高台完形、口縁周2/3残	形骸化したU字状で輪高台にならない 粘土貼付内面粘土薄く貼り付く、重ね焼き痕跡か 外面、口縁弱いナデ内面、圏線ミガキ粘土貼付	外内面とも炭素吸着ほとんど無し
3-3	256	瓦器	椀	石列-S	4層	127	3.1		暗灰	灰白	白い砂粒入る	底部周、口縁周とも1/2残	形骸化した輪高台、口縁外反 外面、口縁ナデ、体部指オサエ 内面、口縁ナデ、ミガキ有り細い粘土帯貼付	外内面とも炭素吸着ほとんど無し
3-3	257	瓦器	椀		4層	122	3.1		灰	灰	1mm大の角礫入る	口縁周一部欠損	全体にわずかに歪む口縁で外反 外面、口縁ナデ体部指オサエ内面、圏線ミガキ、切り離し痕無し	底部粘土割れ有り
3-3	258	瓦器	椀		4層	120	3.25		灰	灰		完形	全体に歪む口縁で外反 外面、口縁指オサエ後ナデ、体部指オサエ内面、圏線ミガキ、切り離し痕無し	
3-3	259	瓦器	椀		4層	118	(2.2)		黒灰	黒灰	細かな砂粒入る	口縁周1/3残	口縁長めに外反、大きく開く体部外面、口縁弱い横ナデ内面比較的密なミガキ	外面体部火ぶくれ有り
3-3	260	瓦器	椀		4層	120	3.3		暗灰	暗灰	4mm大の角礫入る	口縁周一部欠損	口縁外反底部、雑な粘土貼付、輪高台にならない形骸化、不安定外面、口縁ナデ、内面、圏線ミガキ切り離し痕無し	表面に小石が浮き出る、凸凹多く表面雑な作り
3-3	261	瓦器	椀		4層	129	2.75		暗灰	暗灰	1mm大の角礫入る	口縁周1/2残	扁平で形骸化した高台口縁長く二段ナデ外面、口縁二段ナデ内面、ミガキ高台有り	外面体部火ぶくれ有り
3-3	262	瓦器	椀		4層	122	3.15		灰	灰		完形	全体に歪む口縁で外反 外面、口縁ナデ体部指オサエ内面、粗くヘラナデ状の圏線ミガキ、切り離し痕無し	底部粘土割れ有り
3-3	263	瓦器	椀		4層	123	2.9		黒灰	灰白	白い砂粒多く入る	口縁周1/3残	口縁外反長く弱い 底部高台無く平坦部分有り内面ミガキ切り離し痕無し	外面炭素剥げる
3-3	264	瓦器	椀		4層	128	2.3		灰白	灰白	良	口縁周1/4残	口縁外反弱い、体部大きく開く外面、口縁弱い横ナデ、体部指オサエ	外内面とも炭素吸着ほとんど無し
3-3	265	瓦器	椀		4層	(13.6)	3.2	3.7	灰	灰	細かな白い砂粒入る	高台周1/3残、口縁周2/3残	形骸化した輪高台、環状にならない口縁外反弱い外面、体部指オサエ内面見込み、平行ミガキ粘土高台状に貼付	
3-3	266	瓦器	椀	石列-S	4層	131	2.9		黒	黒		底部周、口縁周ともわずかに残	形骸化した輪高台、口縁二段に外反 外面、口縁ナデ、体部指オサエ内面、口縁二段にナデ、体部、指オサエ内面ミガキ有り粘土帯貼付	外内面とも炭素吸着良好
3-3	267	瓦器	椀		4層	128	3.3		灰	灰	7~8mm大の小石入る	ほぼ完形	全体に歪む平面形、楕円口縁外反弱い外面、口縁ナデ、体部、指オサエ内面、圏線ミガキ、切り離し痕無し	
3-3	268	瓦器	椀		4層	121	2.95		黒灰	黒灰	白い砂粒入る	完形	口縁外反弱い外面、口縁弱い横ナデ、体部指オサエ内面、圏線ミガキ弱い切り離し痕無し	全体に炭素吸着
3-3	269	瓦質土器	鍋		4層	24.0	(6.7)		灰白	黄灰	細かな白い砂粒入る	口縁周わずかに残	口縁わずかに内湾、端部面をなす外面、口縁下横方向に指オサエ内面口縁横方向ナデ、口縁下横ハケ	
3-3	270	土師質土器	羽釜		4層	15.6	(3.2)		橙	橙	細かな砂粒多く入る	口縁わずかに残	口縁内傾し端部外側に引き出される口縁下に小さな鈎が付く	播磨型羽釜
3-3	271	土師質土器	羽釜		4層	23.6	(5.3)		にぶい黄橙	にぶい黄橙	細かな白い砂粒入る	口縁周わずかに残	口縁端部拡張し面をなし上方を向く口縁下に鈎が付く	シャープな作り、搬入品か
3-3	272	石器	石鍋		4層	37.0	(8.3)					口縁一部残		大きく厚手、Ⅲ-a b期 12世紀後半~13世紀
3-3	273	東播系須恵器	片口鉢		4層	24.6	(5.4)		灰	灰	細かな白い砂粒入る	口縁周わずかに残	口縁端部上方に拡張 外面、回転ナデ内面、口縁強い回転ナデ	
3-3	274	東播系須恵器	片口鉢	石列-S	4層	35.3	(5.8)		灰	灰	細かな白い砂粒入る	口縁わずかに残	口縁端部拡張 外面、回転ナデ内面回転ナデ、体部斜め方向ナデ	粘土帯凸凹有り
3-3	275	東播系須恵器	片口鉢		4層	26.8	(6.3)		灰	灰	細かな白い砂粒入る	口縁わずかに残	口縁端部上下拡張、外面、口縁端部下強い横ナデ	
3-3	276	東播系須恵器	片口鉢		4層	18.5	11.3	8.8	灰白	灰白	白い砂粒多く入る	底部完形、口縁周1/3残、完形復元可	器高低い、口縁拡張弱く丸みを帯び端部尖り気味 外面凸凹に回転痕内面、回転ナデ回転糸切り雑な底部	内面表面粒子つぶれていない、14世紀後半~15世紀前半か

3-3区遺物観察表10

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考	
3-3	277	常滑焼	片口鉢		4層	29.4	10.1	17.0	褐	灰黄	細かな砂粒入る	口縁周一部残	平底から直線的に開く体部 外面、口縁回転ナデ内面、回転ナデ	内面、胡麻斑状、表面粒子つぶれなし	
3-3	278	弥生土器	壺		4層		(7.5)	12.4	浅黄橙	浅黄橙	赤色の砂粒多量に入る	底部完形	底部から開きぎみに立ち上がる	大型弥生土器壺底部	
3-3	279	鉄器	板状鉄器		4層	全長 7.6	全幅 2.9	全厚 0.7				先端、基部欠損	扁平な板状、やや湾曲、先端幅狭く、基部広い、鉄鎌の可能性	重量 28.5g	
3-3	280	土師質土器	小皿		5層	10.0	(1.5)		浅黄橙	にぶい橙	細かな赤色の砂粒入る	口縁周わずかに残	薄手口縁水平に開き上方に小さく痛み上げる	ての字状口縁皿か 11世紀代の可能性	
3-3	281	土師質土器	小皿		5層	6.3	1.35	4.3	にぶい橙	にぶい橙	細かな赤色の砂粒入る	底部周、口縁周とも一部残	平底から口縁外反 外面二段にナデ回転糸切り		
3-3	282	土師質土器	小皿		5層	7.5	1.9	5.2	にぶい橙	にぶい橙	細かな赤色の砂粒入る	底部周、口縁周とも1/3残	平底から上方に立ち上がる 外面二段にナデ回転糸切り		
3-3	283	土師質土器	小皿		5層	7.0	1.7	4.7	にぶい黄橙	にぶい黄橙	細かな砂粒多く入る	完形、外面摩耗	平底から立ち上がる 内面回転ナデ回転糸切り		
3-3	284	瓦器	皿 集中3		5層	7.6	1.5	6.2	灰	暗灰		口縁周2/3残	平底ぎみの底部丸みを帯びた腰、口縁外反 外面、口縁ナデ、底部指オサエ内面、底部近辺までナデ切り離し痕無し	粘土割れ、粘土切り込み痕有り	
3-3	285	瓦器	皿 集中3		5層	8.0	1.4		灰	灰	2mm大の角礫入る	口縁周1/4残	扁平な器形短い口縁。外面、口縁ナデ、底部指オサエ切り離し痕無し	内外面とも焼成時降灰状付着物、うすく軽い	
3-3	286	土師質土器	杯		5層	12.0	3.0	6.6	にぶい橙	にぶい橙	細かな砂粒入る	底部周、口縁周とも1/2残、摩耗	平底から開きぎみに立ち上り、口縁外反、内面見込み同心円状の回転痕		
3-3	287	須恵器	椀		5層		(2.5)	5.4	浅黄	浅黄	白い砂粒入る	高台周1/2残	やや不整形の輪高台から丸みを帯びた体部。内面見込み同心円状痕外面下部回転ヘラケズリ貼付高台	内面、表面ツルツル	
3-3	288	瓦器	椀		5層	16.8	(3.0)		灰	灰	2mm大の砂粒入る	口縁周一部残	口縁端部内面沈線状に段になる	軟質 桶型 12世紀代の可能性	
3-3	289	瓦器	椀		5層	12.4	3.2	3.5	にぶい橙	にぶい橙	細かな白い砂粒入る	高台周1/2残、口縁周一部残	雑ながらしっかりした低い高台口縁長く外反弱い 外面、口縁二段ナデ、口縁下横方指オサエ貼付高台	二次被熱による赤変	
3-3	290	瓦器	椀		5層	15.6	(4.0)		にぶい橙	灰黄褐	細かな砂粒多く入る	口縁周一部残	厚手、口縁短く外反 外面、口縁ナデ、体部指オサエ	厚手、重たい、不整形在地産か	
3-3	291	瓦器	椀		5層	9.8	2.5		にぶい黄橙	にぶい黄橙	細かな白い砂粒入る	口縁周一部残	口縁歪み有り小型化した丸みを帯びた器形	和泉型瓦器椀IV期 14世紀後半か	
3-3	292	瓦器	椀		5層	12.4	3.3		黒灰	黒灰	細かな白い砂粒入る	底部周完形、口縁周1/3残	形骸化した環状をなさない高台、口縁外反 外面、二段ナデ、体部指オサエ内面ヘラナデ状の粗いミガキ粘土貼付高台状		
3-3	293	瓦器	椀		5層	15.1	3.35		暗灰	暗灰	細かな角礫入る	高台周1/2残、口縁周1/4残	断面小さな三角形の高台、口縁長く二段になる 外面、口縁二段ナデ、体部指オサエ内面、圏線ミガキ貼付高台		
3-3	294	瓦器	椀		5層	12.7	3.2	2.6	灰白	灰白	細かな白い砂粒入る	高台周完形、口縁周一部残	形骸化した高台、口縁弱く外反 外面、口縁弱い二段ナデ、ナデ下指オサエ内面ヘラナデ状の粗いミガキ貼付高台	内面とも炭素吸着ほとんど無し	
3-3	295	瓦器	椀		5層	11.9	3.4		黄灰	黄灰		高台周、口縁周一部残	底部端に雑な高台、体部深め、口縁薄く上方に延びる外面体部指オサエ貼付高台	不定形、雑な作り	
3-3	296	瓦器	椀		5層	13.6	(3.7)		灰	灰	細かな砂粒入る	口縁周とも1/3残	全体に歪む口縁外反なく立ちぎみの体部。外面凸凹有り 外面、口縁ナデ内面ヘラナデ状の粗いミガキ	焼成良好いふし銀状、雑な作り	
3-3	297	瓦器	椀		5層	12.2	2.4		暗灰	暗灰	細かな白い砂粒入る	口縁周わずかに残	底部中央部わずかに凹む、高台の名残か口縁外反弱い 外面、口縁弱いナデ		
3-3	298	瓦器	皿		5層	12.5	2.4		黒灰	黒灰	細かな白い砂粒入る	口縁周わずかに残	ゆるやかな丸みを帯びた底部、口縁外反して開く外面、口縁ナデ内面、圏線ミガキ	器高低く高台なし、皿と判断	
3-3	299	瓦器	椀		5層		(1.4)		灰白	黒褐		底部残、口縁周1/3残	形骸化した環状にならない高台、外面剥離後タール付着粘土貼付高台状	二次使用された可能性。内面炭素剥ける	
3-3	300	瓦器	椀		5層	12.6	(2.7)		灰白	灰白	細かな砂粒多量に入る	口縁周わずかに残	直線的な体部から痛み上げぎみに立つ口縁、口縁端部尖る	炭素吸着弱く軟質、不定形瓦器椀、在地産か	
3-3	301	白磁	皿		5層	7.7	(3.0)		灰白	灰白	良	口縁周一部残	八角皿透明感の強い袖下半露胎ピンホール、貫入有り	15世紀代か	
3-3	302	土師器	甕		5層	23.0	(2.7)		橙	褐	雲母、砂粒多く入る	口縁周わずかに残	口縁端部上方に痛み上げ状に拡張面をなす外面、口縁端部ナデ	外面煤付着	
3-3	303	瓦質土器	羽釜 集中3		5層	22.0	(10.2)		灰	灰	細かな赤色砂粒入る	口縁わずかに残	内傾き延びる口縁、口縁端部は甘い面をなす口縁下断面台形状の矮小化した鋸が付く。外面、体部指オサエ	在地産の可能性	
3-3	304	常滑焼	片口鉢		5層	29.0	(12.0)		赤褐	赤褐	白い砂粒多く入る	口縁、片口部分わずかに残	直線的に開く体部口縁端部弱い凹面外面、口縁ナデ内面、回転ナデ	内面、鉄分浮き出る	
3-3	305	石器	砥石		5層	全長 20.4	全幅 16.0	全厚 (8.1)							重量 2613g
3-3	306	鉄器	釘		5層	全長 3.8	全幅 0.8	全厚 0.3				鉄釘、一部錆に覆れる、断面方形			重量 2.0g
3-3	307	石器	石鏃		5層	全長 2.2	全幅 1.6	全厚 0.3						サスカイト製、平基式、側辺欠損	重量 1.0g

3-3区遺物観察表11

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考
3-3	308		土鍾		5層	全長6.4	全幅2.5	孔径0.9					大型土鍾ほぼ完形、表面摩耗	重量35.4g
3-3	309		土鍾		5層	全長4.85	全幅2.4	孔径0.9					大型土鍾円筒形	重量21.3g
3-3	310	土師質土器	小皿		5層-2	7.2	1.15	4.0	にぶい橙	にぶい橙	細かな砂粒に入る	底部周1/3残、口縁周わずかに残	扁平な器形平底から短く立ち上がる口縁 外面口縁ナデ、底部指オサエ切り離し痕無し	瓦器皿の器形。発色土師器状、焼成の問題か
3-3	311	土師質土器	小皿		5層-2	7.7	1.45	4.9	にぶい橙	にぶい橙	細かな砂粒多量に入る	完形	底部中央部ボタン状に盛り上がる外面二段にナデ平底から上方に立ち上がる外面二段にナデ回転系切り後ヘラ起こし	円盤状の底部外がら粘土巻き上げ成形、外面タール附着
3-3	312	土師質土器	小皿		5層-2	7.5	1.5	5.0	にぶい橙	にぶい橙	砂っぽい胎土	底部周完形、口縁周一部残	平底の厚い底部から直線的に開く口縁 回転系切り	
3-3	313	土師質土器	小皿		5層-2	6.8	1.7	4.6	浅黄橙	浅黄橙	細かな赤色の粒子が入る	ほぼ完形	平底から立ち上がる 外面回転ナデヘラ起こし回転ヘラ切り	
3-3	314	土師質土器	小皿		5層-2	5.9	1.6	4.5	にぶい黄橙	にぶい黄橙	細かな砂粒に入る	底部周、口縁周とも一部欠損	平底から外反きみに上方に立ち上がる 外面、回転ナデ回転系切り後ヘラ起こし	外内面薄くタール附着
3-3	315	土師質土器	小皿		5層-2	7.0	2.0	4.2	にぶい橙	にぶい橙	砂粒少ない	底部周、口縁周とも1/2残	平底から斜め上方に立ち上がる 外面口縁ナデ回転系切り	
3-3	316	土師質土器	杯		5層-2	3.3		6.9	橙	橙	細かな赤色の粒子が入る	底部周完形、口縁周2/3残	薄手、歪み有り平底から斜め上方に立ち上がる 外面回転ナデ	
3-3	317	土師質土器	杯		5層-2	11.6	4.5	5.9	にぶい橙	橙	細かな赤色の粒子が入る	底部周完形、口縁周1/2残	平底から立ち上がる 外面回転ナデヘラ起こし	
3-3	318	瓦器	皿		5層-2	8.4	1.75		黒灰	黒灰	細かな角礫入る	口縁周1/4残	丸みを帯びた底部口縁外反弱い 外面、口縁指オサエ後ナデ切り離し痕無し	
3-3	319	瓦器	皿		5層-2	7.8	(1.3)		灰白	灰	細かな角礫入る	口縁周1/3残	丸みを帯びた底部口縁外反弱い 外面、口縁弱いナデ切り離し痕無し	外面、炭素吸着弱い
3-3	320	瓦器	皿		5層-2	7.4	1.55		灰白	灰白	細かな角礫入る	底部完形、口縁周2/3残	丸みを帯びた底部口縁外反 外面、口縁ナデ、体部指オサエ、内面、底部縁辺までナデ切り離し痕無し	外面、炭素吸着弱い
3-3	321	瓦器	皿		5層-2	7.7	1.45		暗灰	暗灰		底部周、口縁周とも1/2残	丸みを帯びた凸凹のある底部、口縁外反 外面、口縁ナデ、体部指オサエ、内面、口縁ナデ切り離し痕無く中央部強い指オサエ	内面見込み円盤状に接合痕残る 接合部外面強い指オサエ痕
3-3	322	瓦器	皿		5層-2	8.4	1.75		黒灰	灰	2mm大の細かな角礫入る	口縁周一部残	扁平な器形、平坦な底部、口縁外反 外面、口縁ナデ、体部指オサエ内面、底部縁辺までナデ切り離し痕無し	外面、炭素吸着弱い
3-3	323	瓦器	椀		5層-2	12.8	3.25		暗灰	暗灰	細かな白い砂粒入る	高台周1/2残、口縁周ほぼ完形	小さく退化した高台、1/2剥落口縁外反弱い、口縁二段になるが外反弱い 外面、口縁上部弱いナデ、ナデ下指オサエ 内面、圏線ミガキ貼付高台	
3-3	324	瓦器	椀		5層-2		(2.4)	2.6	黒灰	灰		高台周一部残、口縁周わずかに残	形骸化した基筒底状に近い底部、内面見込み、平行ミガキ	外面、炭素吸着良
3-3	325	瓦器	椀		5層-2	13.1	3.0	3.9	黒灰	黒灰	1mm大の角礫多量に入る	底部完形、口縁周1/2残	口縁歪む底部平坦部分あり、形骸化した環状をなさない高台、口縁外反 外面、ナデ、粘土貼付高台状	箱形で不定型な器形、雑な作り
3-3	326	瓦器	椀		5層-2	11.7	(3.7)		黒灰	灰	細かな白い砂粒入る	高台周一部残、口縁周わずかに残	形骸化した高台が底部端部に有る外面、口縁ナデ底部粘土貼付	
3-3	327	瓦器	椀		5層-2	11.6	2.7		黒灰	黒灰	3mm大の角礫入る	口縁周一部残	高台なし口縁外反弱い口縁、楕円形に歪む、外面、口縁ナデ、体部指オサエ切り離し痕無し	胎土、にぶい黄褐色で土師器状、表面炭素吸着
3-3	328	瓦器	椀		5層-2	12.4	(2.4)		灰白	灰白	細かな白い砂粒入る	口縁周3/4残	口縁外反弱く浅い体部。外面、口縁ナデ内面、圏線ミガキ	内面とも炭素吸着ほとんど無し、外面粘土割れ
3-3	329	瓦器	椀		5層-2	13.0	3.6		暗灰	暗灰		高台周、口縁周とも1/2残	矮小化した高台、1/2剥落口縁外反口縁二段になるが外反弱く外面、口縁ナデ、体部横方向指オサエ内面圏線ミガキ貼付高台	
3-3	330	瓦器	椀		5層-2	12.1	3.2		暗灰	暗灰		高台周1/2残、口縁周1/4残	口縁、楕円形に歪む、形骸化した環状にならない高台口縁外反 外面、口縁ナデ内面、ミガキ貼付高台	
3-3	331	瓦器	椀		5層-2	11.9	(3.3)		黄灰	黄灰	細かな砂粒入る	口縁周一部残	口縁で屈曲し上方に積み上げ状端部突る外面、口縁弱いナデ、体部指オサエ、内面、口縁ナデ	不定型な器形、在地産か
3-3	332	瓦器	椀		5層-2	11.5	(3.0)		黄灰	黄灰	細かな砂粒多量に入る	口縁周わずかに残	口縁で屈曲し直立きみ、端部不定形で突る部分と面の部分ある外面、口縁下指オサエ、内面、口縁ナデ	不定型な器形、在地産か
3-3	333	白磁	皿		5層-2	10.3	2.15	6.0	灰白	灰白	良	底部周1/2残、口縁周1/3残	平底から直線的に開く口縁端部外面とも露胎底部外面まで施釉	口禿げ口縁皿。13世紀後半~14世紀
3-3	334	青磁	椀		5層-2	15.3	(5.1)		オリーブ灰	オリーブ灰	良	口縁周わずかに残	内面、口縁二条陰刻沈線、飛雲文	龍泉窯系
3-3	335	青磁	椀		5層-2	17.3	(3.4)		オリーブ黄	オリーブ黄	良	口縁周わずかに残	わずかに外反する口縁黄色味がかった釉、ピンホール有り	
3-3	336	土師器	甕		5層-2	24.6	(1.8)		にぶい橙	にぶい橙	砂粒多量に入る	口縁周わずかに残	口縁端拡張され部面をなす	紀伊型甕か

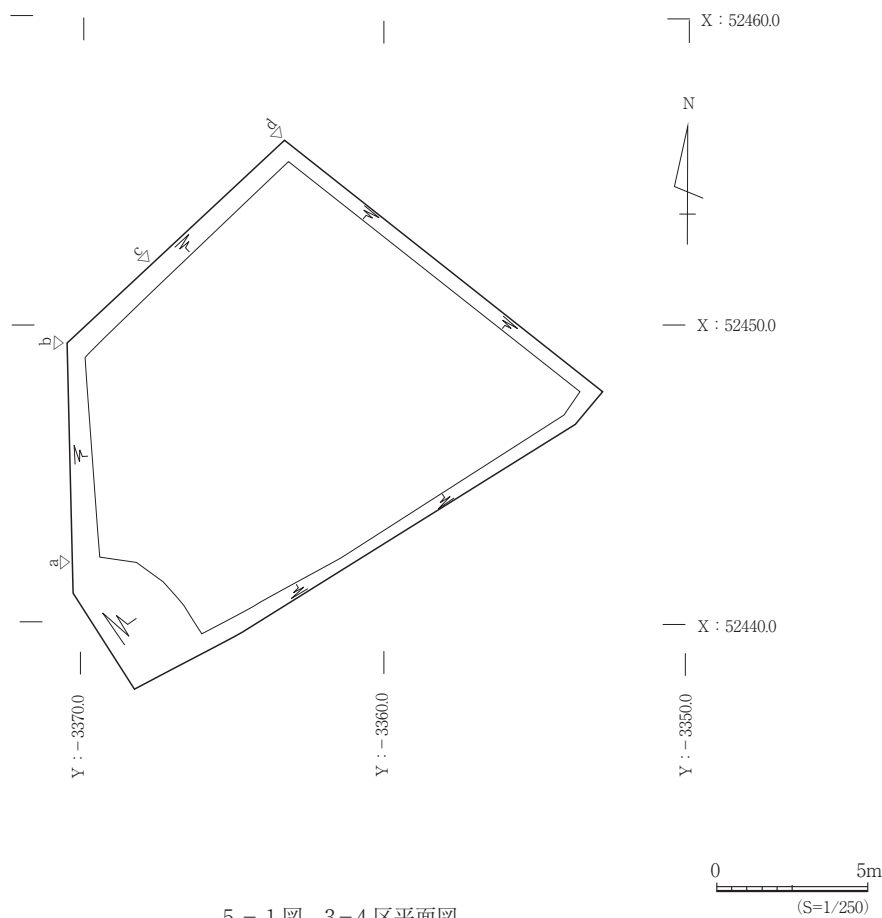
3-3区遺物観察表12

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考
3-3	337	瓦質土器	鍋		5層-2	19.8	(2.0)		灰	灰	細かな雲母多く入る	口縁周わずかに残	受け口状の口縁外内面ともナデ	13世紀後半か
3-3	338	小型土器	羽釜		5層-2		(3.2)		灰白	灰白	細かな雲母入る	鏝周 1/3 残	口縁凹線あり、口縁下に鏝外面、口縁から鏝回転ナデ、内面指オサエ後ナデ	外面煤付着、河内型羽釜に忠実なミニチュア、使用した可能性有り
3-3	339	東播系須恵器	片口鉢		5層-2	28.1	(4.5)		灰	灰	白い砂粒入る多く	口縁、片口一部残	口縁端部ほとんど拡張なく尖る。外内面、回転ナデ内面、横、斜めにナデ	
3-3	340	瓦質土器	三足脚釜		5層-2		(8.9)		黒灰	黒灰	雲母多く入る			搬入品の三足釜脚か
3-3	341	常滑焼	甕		5層-2	48.1	(5.6)		灰黄褐	暗赤褐	砂粒多、大きな砂粒入る	口縁わずかの残	口縁上下に拡張、縁帯状になる	13世紀後半～14世紀前半
3-3	342	石器	叩石		5層-2	全長 10.1	全幅 8.9	全厚 4.5					砂岩両面中央部凹み、側縁一部敲打痕	重量 56g
3-3	343	鉄器	釘		5層-2	全長 4.7	全幅 0.6	全厚 0.5				先端、基部とも欠損、断面方形		重量 5.3g
3-3	344	土師質土器	杯		4層	11.3	4.1	6.0	にぶい橙	にぶい橙	細かな赤色砂粒入る	底部一部残、口縁周わずかに残、摩耗著しい	平底立ち上がり甘い、口縁外反きみ余切り	
3-3	345	瓦器	椀		4層	12.6	2.7		黒灰	黒灰	1mm大の角礫入る	口縁周わずかに残	口縁外反弱い 浅い体部外面、口縁弱いナデ、体部、指オサエ内面、ミガキ有り切り離し痕無し	外内面とも炭素吸着良
3-3	346	瓦器	椀	P123	マ	12.7	(3.6)		灰白	灰白		高台周、口縁周とも一部残	扁平で形骸化した高台口縁屈曲強い、口縁ナデ二段、貼付高台	
3-3	347	土師器	高杯		5層-2		(6.5)		橙	橙		脚部わずかに残	柱状、径小さい内面シボリ目残る	
3-3	348	青白磁	梅瓶	TR14			(2.7)		明オリーブ灰	明オリーブ灰	精良		青白磁梅瓶胴部片	
3-3	349	不明	不明		5層-2				にぶい橙	にぶい橙	細かな砂粒に入		杯底部、円盤状中央部に径12cmの孔、焼成後穿孔	二次利用の可能性

第V章 3-4・5区の調査

1. 3-4区の調査

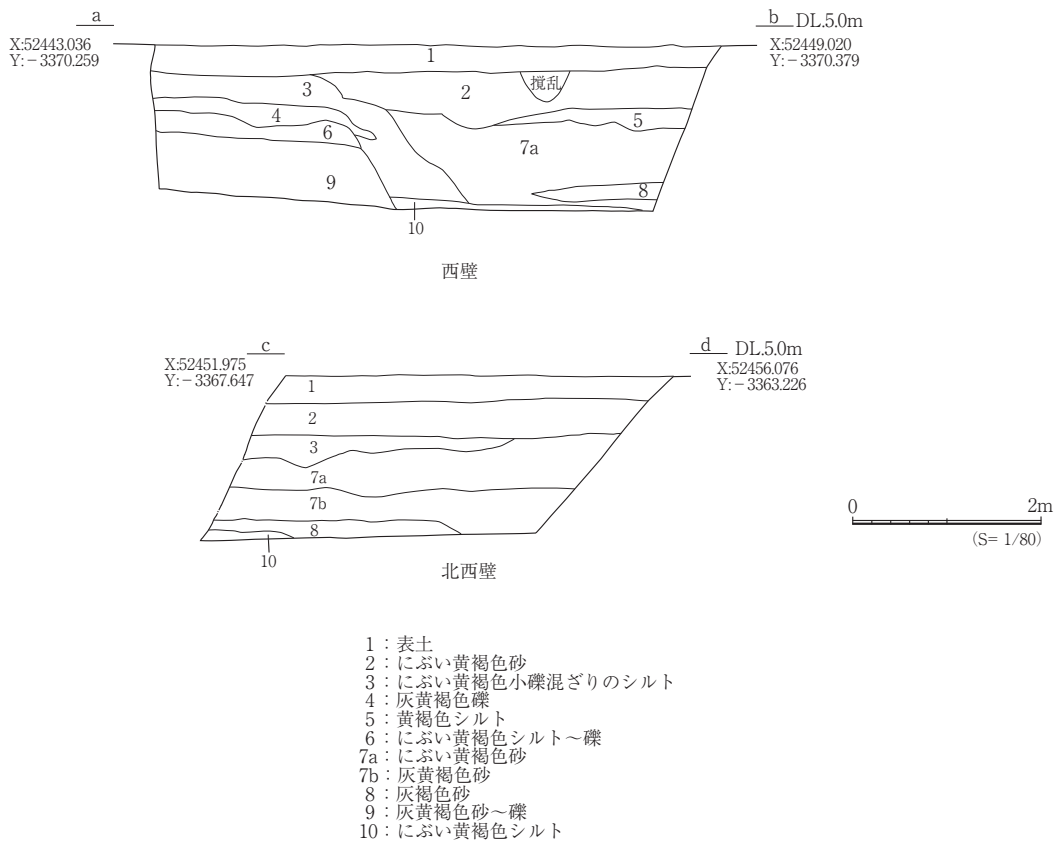
3-1区の東隣、現堤防内側直下にある調査区で170㎡を測る。現表土下2m程掘り下げたが、図示したようにシルト、砂、礫の堆積が厚く見られ生活面の形成は全く確認できない。遺物も見られない。3-1区東端部の法面から東側は仁淀川の河川堆積である。3-1区には近世遺構が確認されていることから近世以降の堆積と考えられる。この付近の仁淀川の流れは、時代が下るにしたがって東に動いている。



2. 3-5区の調査

(1) 基本層準 (5-4図)

3地点東部の調査区で550㎡を測る。東側の大部分は、近世以降の河川堆積で遺物・遺構は認められなかった。基本層準は調査区上半分の東壁と東壁から東に屈曲する北壁で観察した。仁淀川に隣接する調査区であることから3-1区に比べて全体に砂層が多くなっている。護岸の可能性のある石積痕跡も認められる。



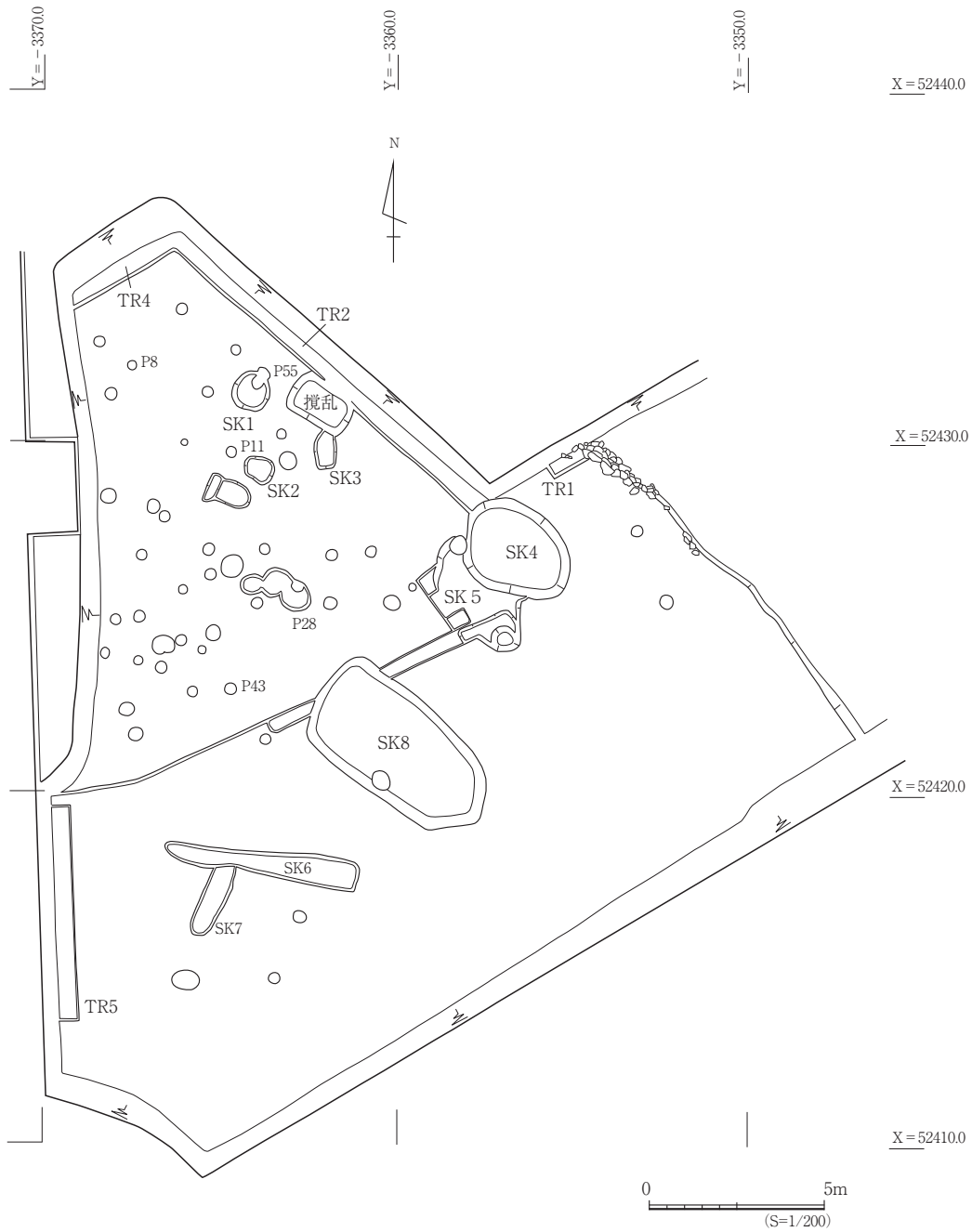
5 - 2 図 3-4 区基本層準

① 北壁基本層準

- 1 : 客土で層厚 20 ~ 30cm 前後を測る。
- 2 : 灰褐色細砂層で層厚 8 ~ 18cm を測る。旧耕作土である。
- 3 : にぶい黄橙色細砂層で層厚 8 ~ 20cm を測り東に(仁淀川に)向かって層厚が厚くなっている。
- 4 : 灰黄褐色細砂層で層厚 10cm 前後を測る。
- 5 : にぶい黄褐色砂層で層厚 60cm 以上を測る。
- 6 : 黄橙色細砂層で層厚 60cm 前後を測る。図示したように人頭大あるいはそれ以上の大きさの砂岩角礫を含むが、これは後述する 7 層の法面に積まれた護岸石積みが崩落したものと考えられる。
- 7 : 小礫を含む黄橙色シルト層で層厚 20 ~ 30cm を測る。東端は法面を形成しており下半には護岸の石積みが見られ、上部は垂直に削られている。中世の遺物包含層を形成している。
- 8 : にぶい黄橙色シルトで層厚 20cm 以上を測る。上面は中世の遺構検出面である。

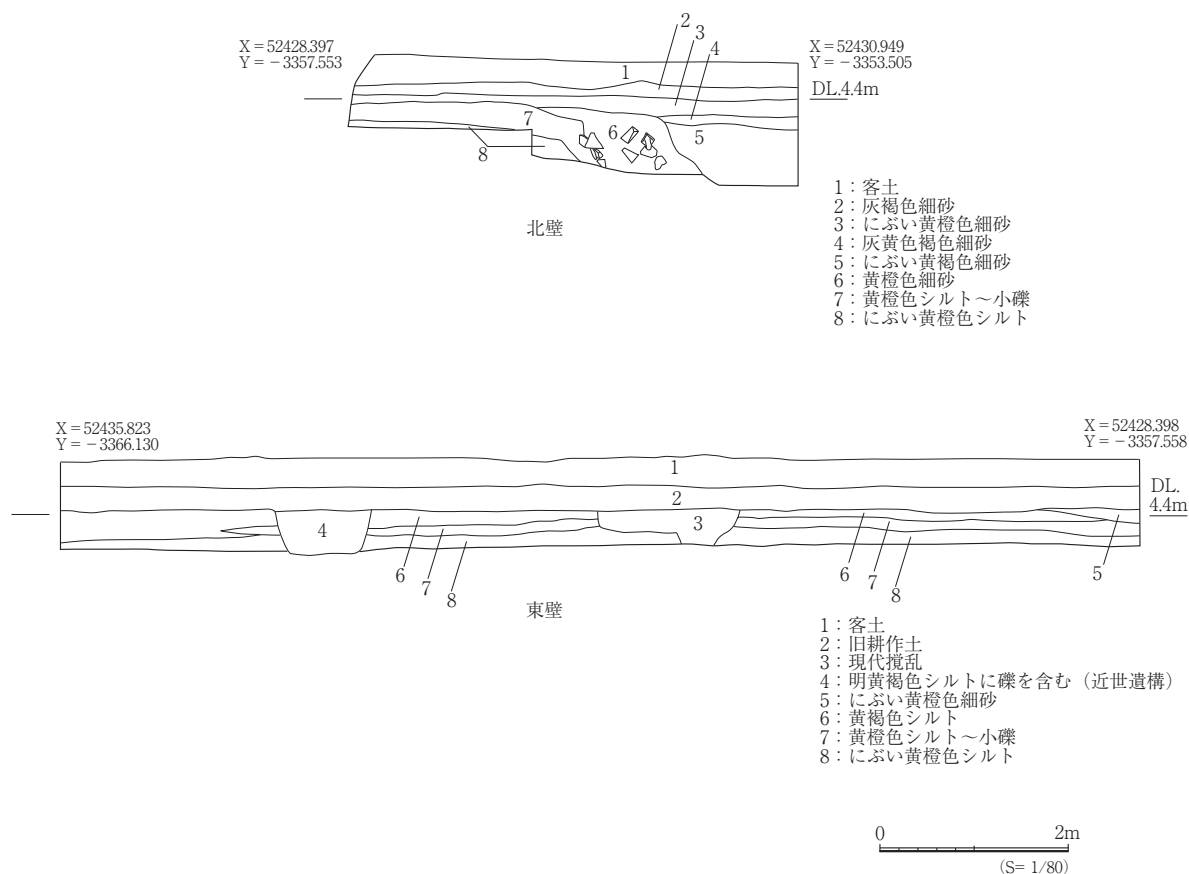
② 東壁基本層準

- 1 : 客土で層厚 30cm 前後を測る。
- 2 : 灰褐色細砂層で層厚 20 ~ 25cm を測る。旧耕作土である。
- 3 : 現代攪乱である。



5-3図 3-5区遺構全体図

- 4：近世遺構埋土である。
- 5：北壁の3に対応する層準である。南端部においてのみ認められる。
- 6：黄褐色シルトである。北部では30cmの層厚を示すが南に寄るにつれて層厚を減じ南端部で5に切られている。
- 7：北壁の7に対応する層準である。層厚は5～15cmを測る。
- 8：北壁の8に対応する層準である。層厚は10～20cmを測る。



5 - 4 図 3-5 区基本層準

(2) 遺構と遺物

① 土坑

SK1 (5 - 5 図)

調査区北部にある。長軸 1.14m、短軸 1.1m の楕円形を呈し深さ 12cm を測る。北部を P55 に切られている。埋土は 1～3cm 大の礫を含む褐色シルトである。遺物は埋土から土師質土器片 20 点余りと瓦器細片数点が出土している。土師質小皿 1 を図示し得たのみである。

SK2 (5 - 5 図)

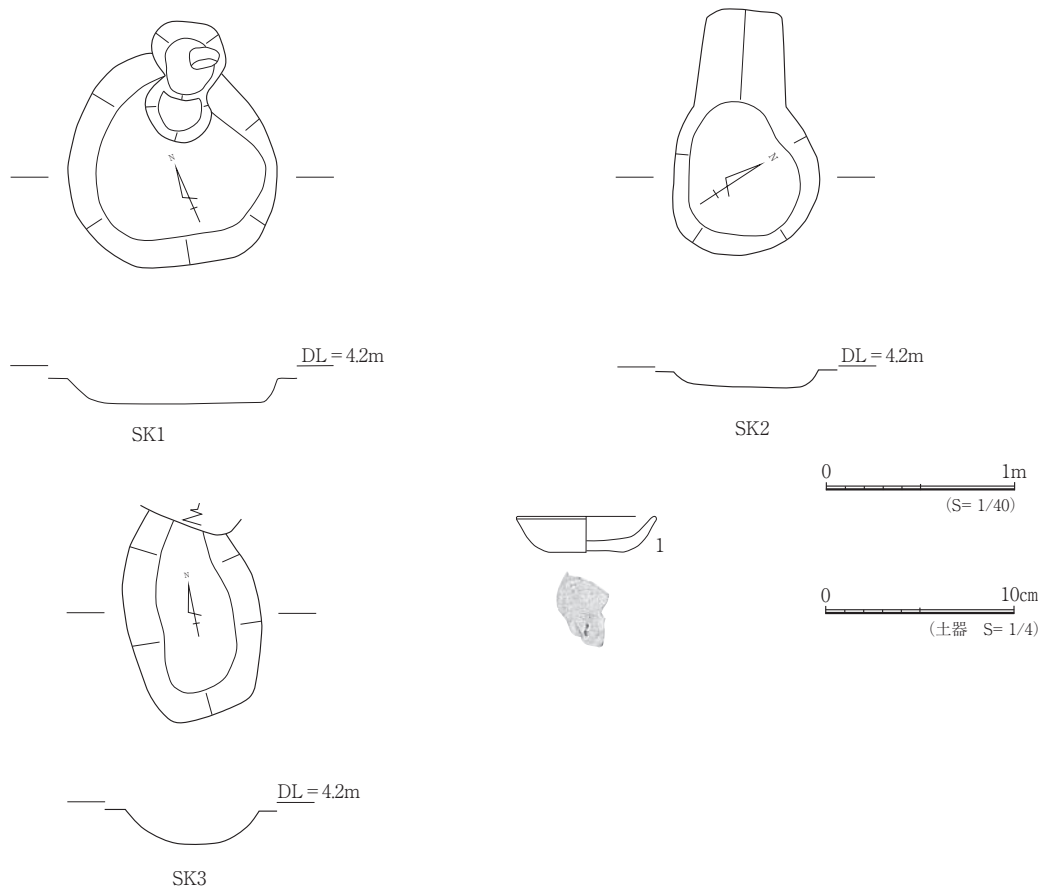
SK1 の南にある。長軸 0.92m、短軸 0.76m の不整形の平面形を呈し、深さは 10～15cm を測る。埋土は SK1 と同じである。遺物は埋土から土師質土器細片 10 点程が出土している。

SK3 (5 - 5 図)

SK1 の南にある。一部を現代攪乱に切られているが、長軸 1.2m 前後、短軸 0.72m の楕円形状をなす。埋土は 1～3cm 大の礫を含む灰褐色シルトである。土師質土器細片 25 点、瓦器細片 2 点、東播系捏鉢細片 1 点が出土しているが図示できるものはない。

SK4 (5 - 6 図)

調査区の中央部にあり SK5 を切っている。長軸 3.44m、短軸 2.56m の楕円形を呈し、深さ 20cm 前後を測る。埋土は 1: 1～3cm 大の礫を含む明黄褐色シルト、2: にぶい黄橙色シルトである。遺



5-5図 SK1~3平面・エレベーション・出土遺物
SK1 (土師質小皿: 1)

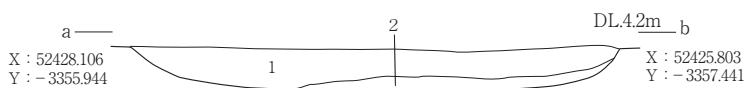
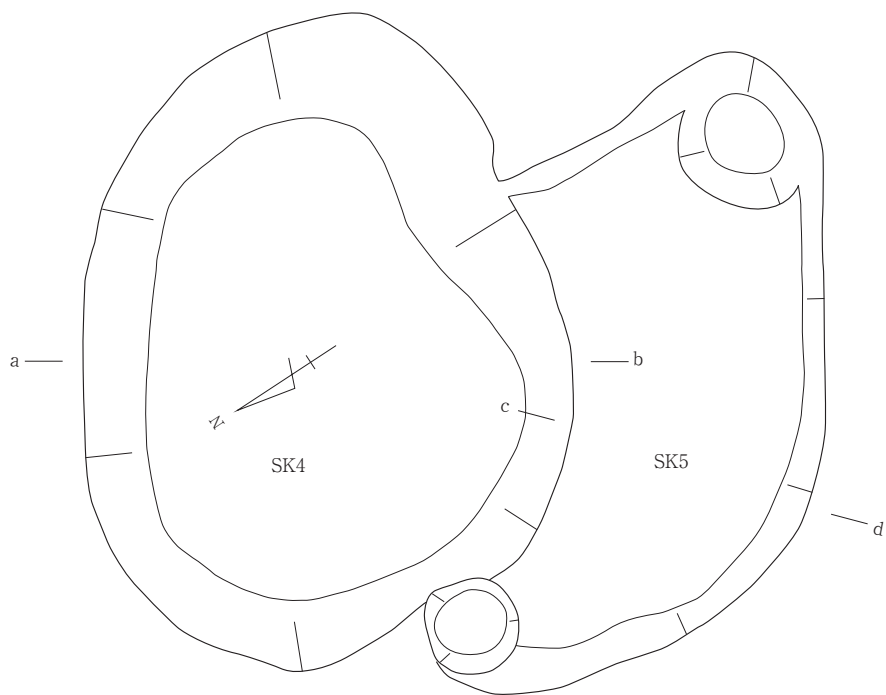
物は埋土1から土師質土器細片50点余り、瓦器片10点余り、東播系捏鉢、唐津系灰釉陶器、床面から中国銭が8枚接着した状態で出土している。永楽通寶1枚(Z1)、○元○寶(Z2)、開元通寶2枚(Z3)は判読できるが他は摩耗と癒着により銭種は不明である。Z1は銭径2.5cm、内径2.1cm、孔は一辺0.58cm、Z2は銭径2.3cm、内径1.95cm、孔は一辺0.65cm、Z3は銭径2.3cm、内径1.7cm、孔は一辺0.65cmである。土器は、2が唐津系灰釉陶器皿、3は東播系捏鉢、4は土師質杯、5は同小皿である。17世紀初めの土坑である。

SK5 (5-6・7図)

SK4に切られる平行四辺形状の平面形を図示したが、輪郭を明確に示すことは難しい。長軸2.7m、短軸2m前後、深さ15~20cm前後の土坑と考えられる。埋土は1~3cm大の礫、炭化物を多く含む黄褐色シルトである。遺物は多く出土しており土師質土器片250点を中心に、瓦器や青磁細片が見られる。6~10は土師質小皿、11~20は同杯、21・22は土師器碗底部、23~29は瓦器碗、30・31は青磁碗である。土師質杯19はハケ状原体による横ナデ調整が認められる。

SK6 (5-8図)

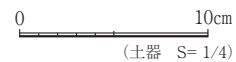
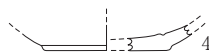
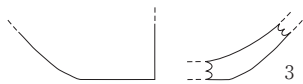
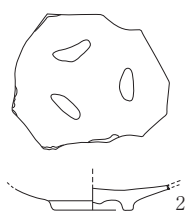
調査区南部にありSK7と切り合っているが先後関係は不明である。長軸5.5m、短軸0.9mの溝



1: 明黄褐色シルト (1~3 cmの礫を含む明黄褐色シルト)
2: にぶい黄橙色シルト



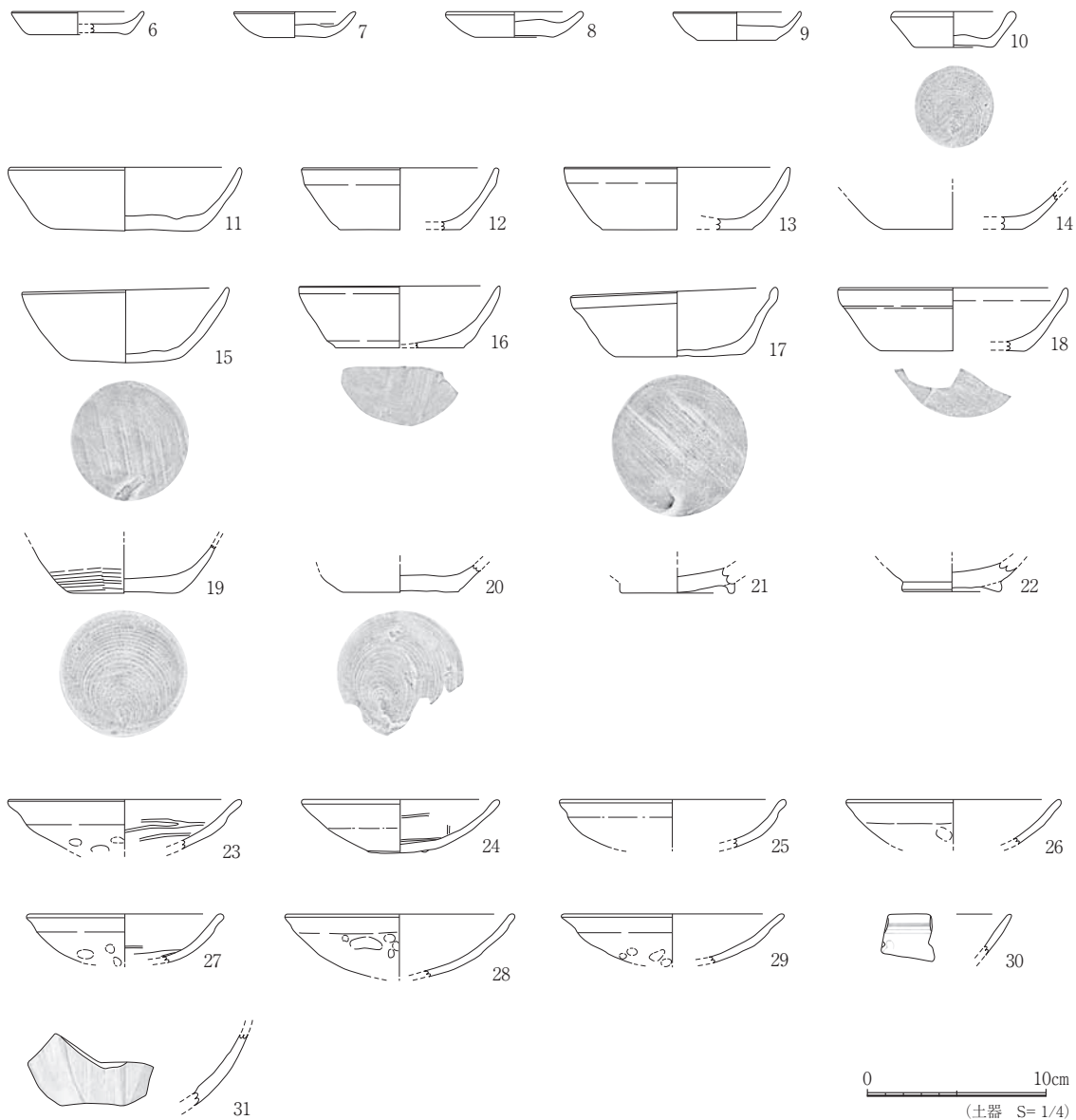
1: 黄褐色シルト (炭化物、1~3 cm大の礫含む)



(古銭は 1/2)

5-6図 SK4・5平面・セクション及び出土遺物

SK4 (唐津系灰釉陶器皿: 2 東播系捏鉢: 3 土師質杯: 4 同小皿: 5 中国銭: Z1~3)



5-7図 SK5出土遺物
 (土師質小皿：6~10 同杯：11~20 土師器椀：21・22 瓦器椀：23~29 青磁碗：30・31)

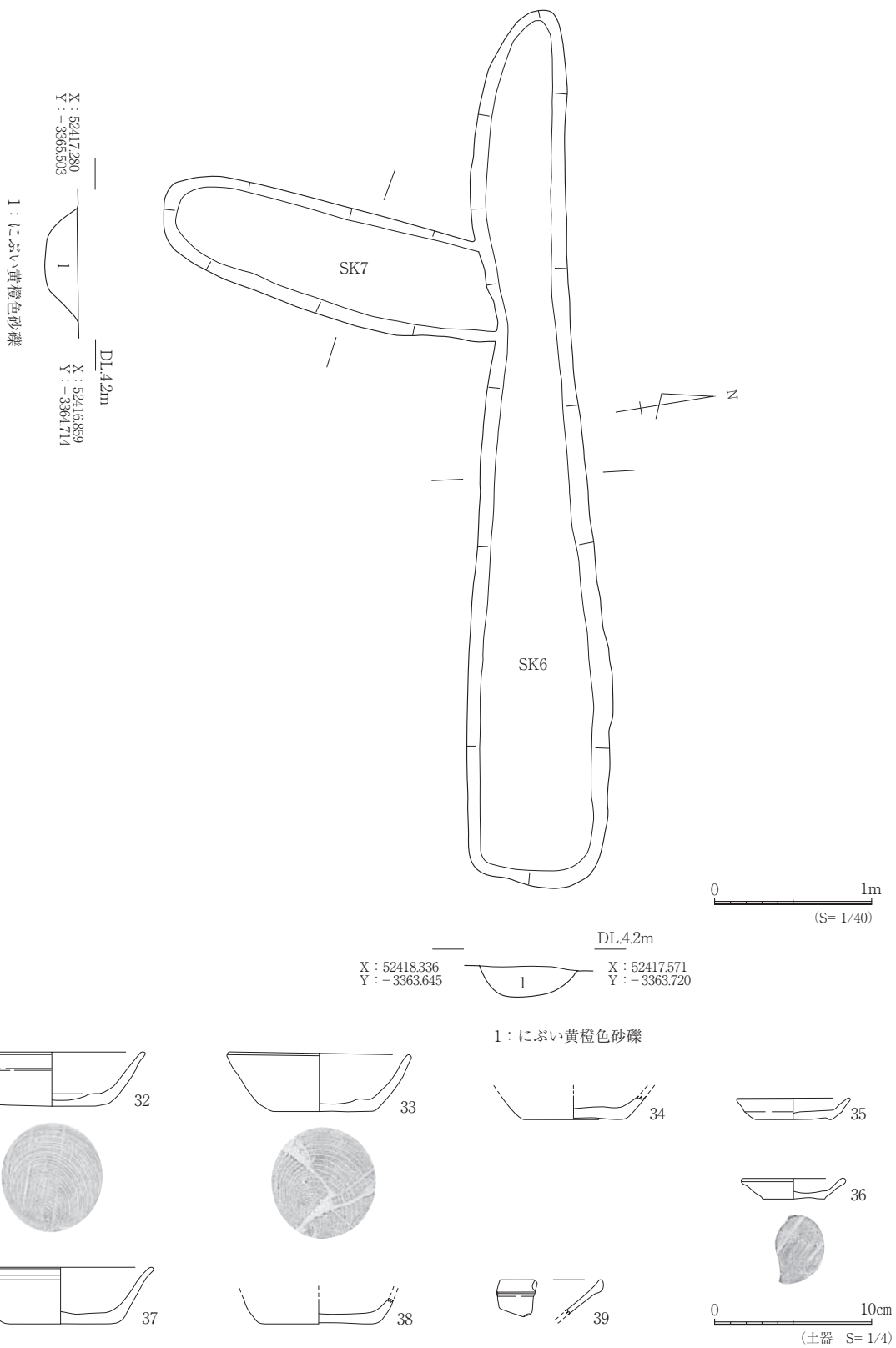
状を呈し、深さは20cm前後である。埋土はにぶい黄橙色砂礫層である。遺物は土師質土器細片が多く出土している。32~34は土師質杯、35・36は同小皿である。

SK7 (5-8図)

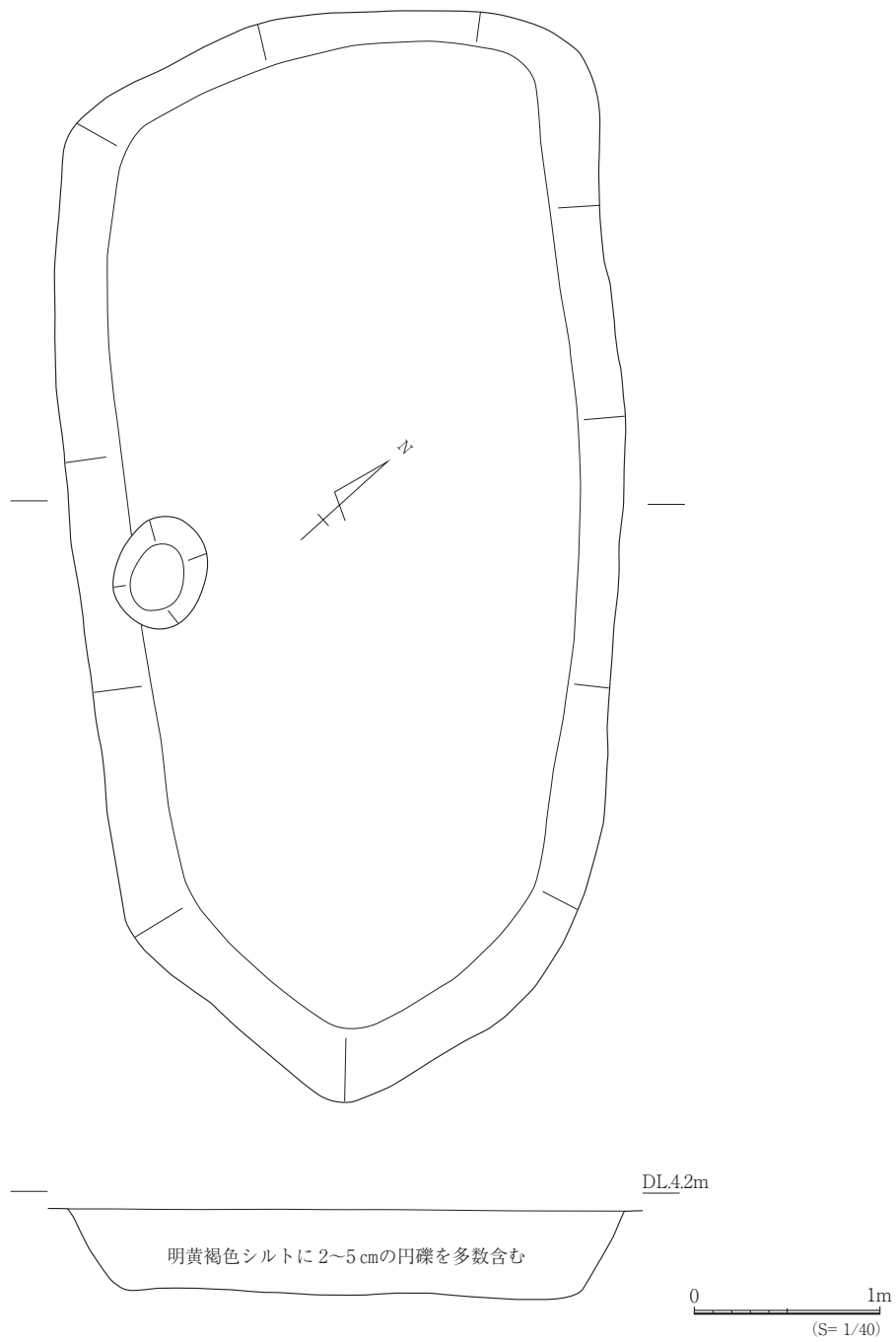
確認長軸2.2m、短軸0.7mの溝状を呈し、深さ20cmを測る。埋土はにぶい黄橙色砂礫層である。遺物は埋土中から土師質土器細片を中心に出土している。37・38は土師質杯、39は白磁碗である。

SK8 (5-9・10図)

調査区中央にある。長軸5.8m、短軸2.95mで五角形状を呈し、深さは25cm前後を測る。埋土は2~5cm大の礫を含む明黄褐色シルトである。遺物は土師質土器片が500点余りと最も多く瓦器は僅少である。他に常滑、備前、東播系捏鉢、白磁、青磁などの細片が見られる。遺物は、41は土



5 - 8 図 SK6・7 平面・セクション及び出土遺物
 SK6 (土師質杯 : 32~34 同小皿 : 35・36) SK7 (土師質杯 : 37・38 白磁碗 : 39)

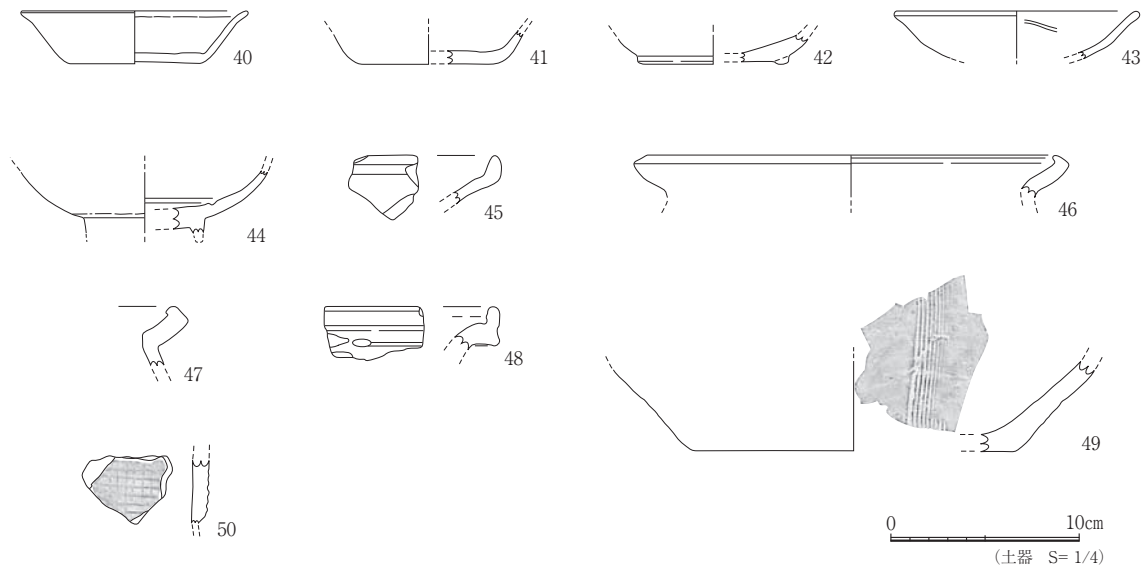


5-9図 SK8平面・セクション

師器杯、42は土師質椀、43は瓦器椀、40は白磁皿、44は同碗底部、45は東播系捏鉢、46・47は紀伊型甕、48は常滑甕、49は備前擂鉢、50は瓦質甕の細片である。

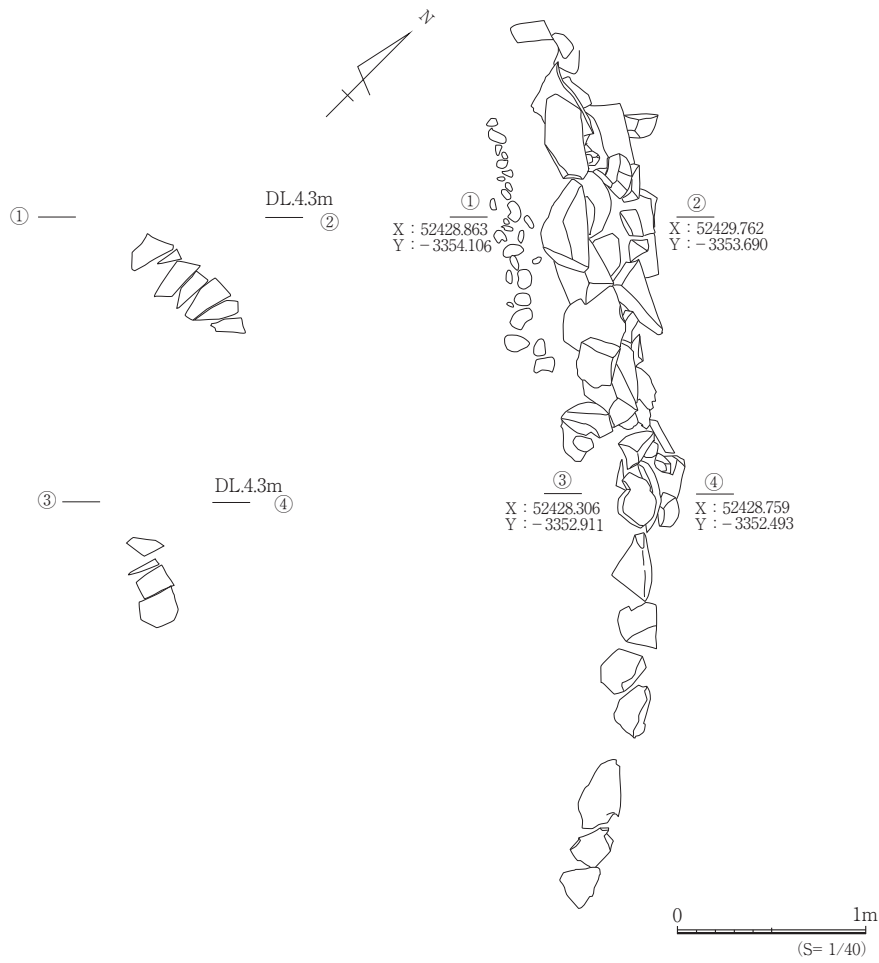
② 護岸状遺構 (5-11図)

既に触れたように北壁の7層の法面に護岩と考えられる石積みが確認できた。平面的には北壁から南に向かって僅かに弧を描きながら長さ4.7mの範囲に人頭大の角礫が列状に並び、法面には45

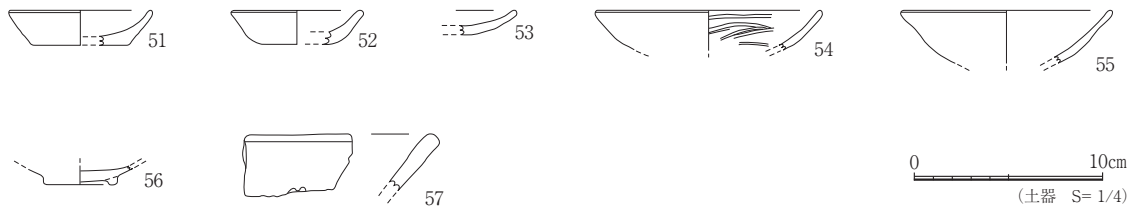


5-10 図 SK8 出土遺物

土師質杯：41 同碗：42 瓦器碗：43 白磁皿：40 白磁碗：44 東播系捏鉢：45
 紀伊型甕：46・47 常滑甕：48 備前插鉢：49 瓦質甕：50



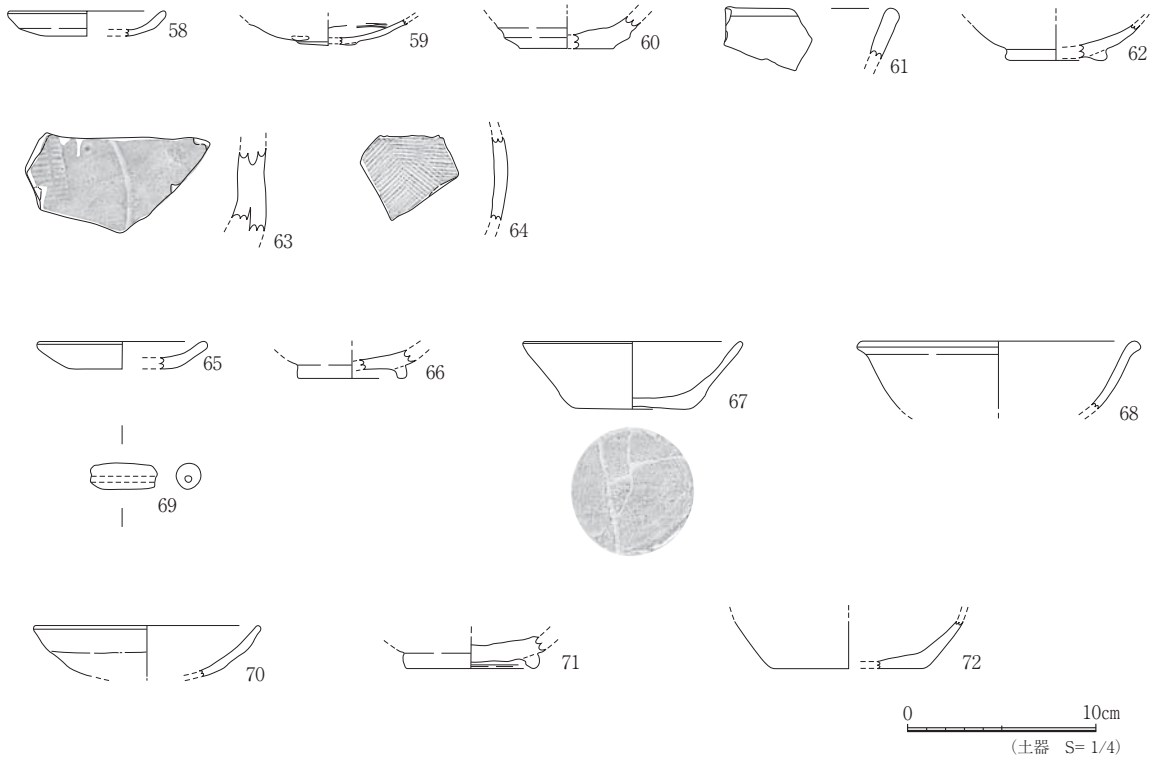
5-11 図 護岸状遺構



5-12図 ピット出土遺物

P8 (瓦器小皿: 53) P11 (土師質小皿: 52 瓦器碗: 54) P28 (土師器碗: 56)

P43 (土師質小皿: 51) P55 (瓦器碗: 55 陶器鉢: 57)



5-13図 トレンチ出土遺物

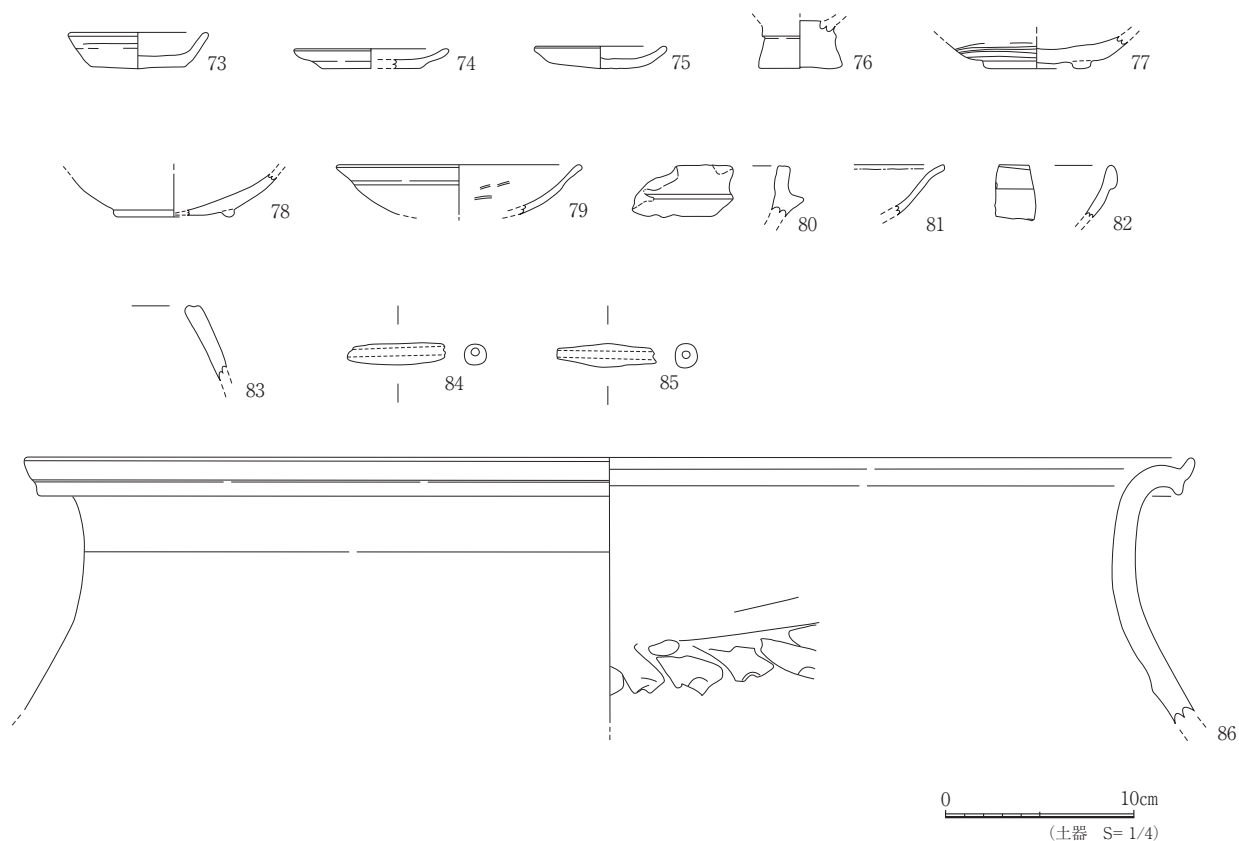
トレンチ2 (瓦器小皿: 58 瓦器碗: 59 土師質杯: 60 陶器鉢: 61 土師器碗: 62 常滑甕: 63 陶器甕: 64)

トレンチ3 (土師質小皿: 65 同杯: 67 土師器碗: 66・68 土師質土錘: 69)

トレンチ4 (土師質杯: 72)

トレンチ5 (土師器碗: 71 瓦器碗: 70)

～70°の角度で礫を斜めに小口積みをしている。確認できる石積みの高さは60cm程度、積み石の数は4個から10個程度で、南に行くに従って残りが悪い。北壁断面で見たように7層の法面は、かなり切り立っているところから意識的な法面の整形が成された後に礫が積上げられたものと考えられる。遺物が見られないことから次期比定は難しいが、7層が中世の遺物包含層となっていることか、中世以降、そして17世紀初めのSK4の存在から、17世紀初め頃に構築時期を求めることが妥当ではなかろうか。すなわち近世初期の護岸として理解することができよう。この護岸から川側には遺構面は存在せず厚い河川堆積が続いていることから、この護岸が近世初期の生活面と河川域との境界をなしていたものと考えられる。この護岸は3-1区の東端で検出した石列に続き、さらに南700mで確認された大規模護岸(2地点)に続く可能性も考えられる。当調査区は近世初期の仁淀川流域の景観復元を行う上で重要な地点である。



5-14 図 3-5区包含層出土遺物

土師質小皿：73 同足高高台杯：76 土師器椀：77 須恵器椀：78 瓦器椀：79 同小皿：74・75
 白磁皿：81 同碗：82 瓦質羽釜：80 土師質鍋：83 常滑甕：86 土師質土錘：84・85

③ ピット出土の遺物 (5-12 図)

ピットからは、土師器椀 (P28:56)、土師質小皿 (P11:52、P43:51)、瓦器椀 (P11:54、P55:55)、瓦器小皿 (P8:53)、産地不明の陶器鉢 (P55:57) などが出土している。

④ トレンチ出土の遺物 (5-13 図)

TR2からは瓦器小皿 (58)、同椀 (59)、土師質杯 (60)、土師器椀 (62)、常滑甕 (63)、産地不明の陶器甕 (64)、同じく鉢 (61) が出土している。TR3からは土師質小皿 (65)、同杯 (67)、土師器椀 (66・68)、土師質土錘 (69) が出土している。TR4からは土師質杯 (72) が出土している。TR5からは土師器椀 (71)、瓦器椀 (70) が出土している。基本的に後述する包含層遺物と変わらない。

⑤ 包含層出土の遺物 (5-14 図)

ほとんどが7層出土である。細片が多く図示できるものは少ない。土師質小皿 (73)、同足高高台杯 (76)、土師器椀 (77)、須恵器椀 (78)、瓦器椀 (79)、同小皿 (74・75)、白磁碗 (82)、同白磁口禿皿 (81)、瓦質羽釜 (80)、土師質鍋 (83) 常滑甕 (86)、土師質土錘 (84・85) が出土している。古代末から中世中頃までの時代幅を持っている。

表3-5区土器観察表1

遺物番号	機種	出土地点	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土・色調	特徴	備考
1	土師質小皿	SK1	(7.2)	1.9	(4.0)	精土 浅黄橙色	内外横ナデ調整、糸切り。	器高指数 24.6
2	唐津系 灰釉陶器皿	SK4		(1.3)	(4.1)	精土 にぶい黄橙色	見込みに砂目3点あり。	1610～ 1630年
3	東播系 捏鉢	〃		(2.9)	(8.0)	精土 灰色	内外横ナデ調整。	
4	土師質 杯	〃		(1.3)	(6.6)	精土 橙色	内外横ナデ調整、糸切り。	
5	土師質 小皿	〃	(8.0)	1.7	(5.8)	精土 浅黄橙色	〃	
6	土師質 小皿	SK5	(7.2)	1.3	(5.4)	精土 橙色	〃	
7	〃	〃	(6.8)	1.45	(3.4)	精土 にぶい黄橙色	内外横ナデ調整、糸切り。強い横ナデ調整により内底縁部が凹状を呈す。	
8	〃	〃	(7.7)	1.4	4.5	精土 橙色	内外横ナデ調整、糸切り。	器高指数 18.2
9	〃	〃	7.2	1.6	4.4	精土 にぶい黄橙色	〃	器高指数 22.2
10	〃	〃	(7.0)	2.0	4.4	精土 浅黄橙色	〃	
11	土師質 杯	〃	(13.0)	3.5	8.2	〃	〃	器高指数 26.9
12	〃	〃	(11.0)	3.4	(6.8)	〃	内外横ナデ調整、糸切り。口縁部が内湾気味に立上がる。	
13	〃	〃	(12.6)	3.5	(8.4)	〃	内外横ナデ調整、糸切り。	
14	〃	〃		(2.1)	(7.8)	精土 にぶい黄橙色	〃	
15	〃	〃	11.6	4.0	6.2	精土 浅黄橙色	内外横ナデ調整、糸切り。底部に板目状圧痕あり。	器高指数 34.4
16	〃	〃	(11.2)	(3.4)	(7.2)	精土 にぶい黄橙色	内外横ナデ調整、糸切り。口縁部が内湾気味に立上がる。底部に板目状圧痕あり。	
17	〃	〃	11.5	3.6	7.4	精土 浅黄橙色	内外横ナデ調整、糸切り。底部に板目状圧痕あり。	器高指数 31.3
18	〃	〃	(12.8)	(3.5)	(8.0)	〃	内外横ナデ調整、糸切り。口縁部がやや内側に屈曲。外面煤け。	
19	〃	〃		(2.6)	6.0	〃	外面はハケ状原体に横ナデ調整、糸切り。	
20	〃	〃		(1.5)	6.5	精土 にぶい黄橙色	内外横ナデ調整、糸切り。	
21	土師器 椀	〃		(1.4)	(6.0)	精土 浅黄橙色	内外横ナデ調整。	
22	〃	〃		(1.6)	(5.4)	〃	内外横ナデ調整。糸切り。	
23	瓦器 椀	〃	(13.0)	(2.8)		精土 青灰色	口縁部外面横方向の強いナデ調整、体部外面は凹凸が顕著。	
24	〃	〃	(11.0)	3.0	(3.3)	精土 灰色	痕跡的な高台。	
25	〃	〃	(12.3)	(2.7)		精土 黒色	口縁部外面横方向の強いナデ調整、体部外面は指頭圧痕が顕著でその上を弱く削っている。	
26	〃	〃	(11.7)	(2.5)		チャートの小礫を含む 青灰色	口縁部外面横方向のナデ調整。	
27	〃	〃	(11.0)	(2.7)		精土 灰色	〃	
28	〃	〃	(12.8)	(3.5)		チャートの小礫を含む 灰白色	口縁部外面の横方向のナデ調整は弱い。	
29	〃	〃	(12.4)	(2.7)		精土 暗灰色	口縁部外面の横方向のナデ調整によって段状をなす。	
30	青磁 碗	〃				灰白色精緻	内面に片切彫りの沈線3条。	
31	〃	〃				灰色精緻	鎗蓮弁文を有す。	太宰府 分類 I 5b
32	土師質 杯	SK6	(11.8)	3.4	6.5	精土 浅黄橙色	横ナデ調整、糸切り、板状圧痕。内面にはハケ状原体による横ナデ調整。	器高指数 28.8

表3-5区土器観察表2

遺物番号	機種	出土地点	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土・色調	特徴	備考
33	土師質杯	SK6	11.7	3.7	6.4	精土 浅黄橙色	横ナデ調整、糸切り。外面はハケ状原体による横ナデ調整。	
34	〃	〃			6.4	精土 にぶい黄橙色	横ナデ調整、糸切り。	
35	土師質小皿	〃	(7.2)	1.3	(4.4)	〃	〃	
36	〃	〃	(6.6)	1.3	(4.0)	精土 浅黄橙色	横ナデ調整、糸切り。板状圧痕。	器高指数 19.7
37	土師質杯	SK7	(11.8)	3.6	6.9	〃	横ナデ調整、糸切り。外面はハケ状原体による横ナデ調整。	器高指数 30.5
38	〃	〃		(1.6)	7.2	〃	横ナデ調整、糸切り。	
39	白磁碗	〃				白色精緻	玉縁口縁を有す。	太宰府 分類Ⅳ
40	白磁皿	SK8	12.0	2.8	7.0	灰白色精緻	口禿、外底も施釉。	
41	土師質杯	〃		(1.7)	(7.2)	精土 浅黄橙色	横ナデ調整、糸切り。	
42	土師質碗	〃		(1.5)	(7.5)	〃	内外面磨耗が激しい。断面カマボコ状の高台を貼付。	
43	瓦器碗	〃	(12.6)	(2.5)		チャートの小礫、粗粒砂を含む灰色	口縁部外面横方向ナデ調整。	
44	白磁碗	〃				白色精緻	見込みに太い沈線。外面は高台脇まで施釉。	太宰府 分類Ⅴ
45	東播系捏鉢	〃				精土、体部は灰色、口縁部は黒色	口縁部は自然釉がかかる。内外面四個ナデ調整。	
46	紀伊型甕	〃	(23.0)	(2.3)		チャート他の細・粗粒砂を多く含む 橙色	口縁部端部摘まみ上げ、内外横ナデ調整。	
47	〃	〃				精土 にぶい黄橙色	口縁部内外横ナデ調整、端部は上に拡張。	
48	常滑甕	〃				精土 灰色	内外横方向ナデ調整。	
49	備前搦鉢	〃		(4.8)	(17.0)	小礫を含む にぶい褐色	内面に条線8条、内面は磨耗が激しい。	
50	瓦質甕	〃				灰白色 粗粒砂を含む	外面格子叩き、内面ナデ調整。	
51	土師質小皿	P43	(7.6)	1.8	(5.0)	精土 浅黄橙色	横ナデ調整、糸切り。	
52	〃	P11	(7.0)	1.8	(4.8)	〃	〃	
53	瓦器小皿	P8				精土 青黒色	口縁部横方向ナデ調整。	
54	瓦器碗	P11	(11.8)	(2.1)		精土 灰白色	口縁部外面の横方向ナデ調整はほとんど見られない。	
55	〃	P55	(11.2)	(2.8)		チャート他の粗粒砂を含む 灰白色	口縁部横方向ナデ調整。	
56	土師器碗	P28		(1.0)	(3.8)	精土 灰白色	台形状の高台を貼付。内面ヘラ磨き。	
57	陶器鉢	P55				粗粒砂を多く含む 灰オリーブ色	内外面に灰釉施釉。産地不明。	
58	瓦器小皿	TR2	(8.4)	1.4	(4.4)	精土 灰色	口縁部外面横方向ナデ調整。	
59	瓦器碗	〃		(1.3)	(3.0)	チャートの粗粒砂を含む 灰黄色	外面は凹凸が顕著。	
60	土師質杯	〃		(1.7)	(5.0)	精土 浅黄橙色	内外横ナデ調整。	
61	陶器鉢	〃				粗粒砂を多く含む 灰オリーブ色	内外面に灰釉施釉。産地不明。	
62	土師器碗	〃		(1.9)	(5.0)	精土 浅黄色	内外横ナデ調整。	
63	常滑甕	〃				精土 暗褐色	外面に袈裟状の押印。	
64	陶器甕	〃				精土 黄灰色	外面平行叩き、内面はナデ調整。	

表3-5区土器観察表3

遺物番号	機種	出土地点	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土・色調	特徴	備考
65	土師質 小皿	TR3	(9.0)	1.4	(5.4)	精土 浅黄橙色	横ナデ調整、糸切り。	
66	土師器 椀	〃		(1.5)	(5.6)	〃	断面長方形のしっかりした高台を貼付。器表の荒れが激しい。	
67	土師質 杯	〃	(11.6)	3.6	(6.2)	〃	内外横ナデ調整、糸切り。	
68	土師器 椀	〃	(15.0)	(3.6)		〃	内外横ナデ調整。	
69	土師質 土錘	〃				〃	全長3.5cm、径1.4cm、孔径0.3cm、重さ6.1g	
70	瓦器 椀	TR5	(12.0)	(2.7)		精土 暗灰色	口縁部外面横方向ナデ調整。	
71	土師器 椀	〃		(1.6)	(6.8)	チャート他の粗粒砂を多 く含む 浅黄橙色	外面弱い削り、高台畳付けは段状をなす。	
72	土師質 杯	TR4		(2.5)	(8.0)	精土 橙色	横ナデ調整、糸切り。	
73	土師質 小皿	包含層	(7.4)	1.9	(5.0)	精土 浅黄橙色	〃	器高指数 26.4
74	瓦器 小皿	〃	(8.2)	1.0	(5.2)	精土 灰色	〃	
75	〃	〃	(7.0)	1.2	(5.4)	精土 黒色	口縁部外面横方向のナデ調整。	
76	土師質 足高高台杯	〃		(2.5)	4.4	精土 浅黄橙色	横ナデ調整、糸切り。	
77	土師器 椀	〃		(1.7)	(5.2)	チャート他の粗粒砂を含 む 浅黄橙色	太い貼付高台。外面はハケ状原体による横方向ナデ調整の上 をナデ調整。	
78	須恵器 椀	〃		(2.2)	(6.0)	石英・チャートの粗粒を 含む 灰黄色	断面カマボコ状の貼付高台。外面弱い削り、内面ナデ調整。	
79	瓦器 椀	〃	(13.0)	(2.6)		精土 灰色	口縁部外面横方向の強いナデ調整。	
80	瓦質 羽釜	〃				頁岩・チャートの小礫を 含む	内外横ナデ調整。	
81	白磁 皿	〃				白色精緻	口縁部露胎、口禿の皿。	
82	白磁 碗	〃				〃	玉縁状口縁部を有す。	太宰府 分類IV
83	土師質 鍋	〃				石英・小礫を多く含む 灰黄褐色	内外横方向ナデ調整、外面煤ける。	
84	土師質 土錘	〃				精土 浅黄橙色	全長5.2cm、径1.1cm、孔径0.6cm、重さ4.5g	
85	〃	〃				〃	全長5.3cm、径1.2cm、孔径0.4cm、重さ4.4g	
86	常滑 甕	〃	(62.0)	(14.0)		精土 灰色	口縁部は上に大きく拡張し口唇部は段状をなす。頸部外面は ハケ状原体による横方向ナデ調整。	

許諾手続き中

許諾手続き中

許諾手続き中

許諾手続き中

許諾手続き中

許諾手続き中

許諾手続き中

許諾手続き中

許諾手続き中

2. 上ノ村遺跡出土土器の年代学的調査

土佐市新居上ノ村遺跡 3 点出土土器の年代学的調査

藤尾慎一郎・坂本 稔（国立歴史民俗博物館）

(1) 調査の概要

2008 年 2 月 25 日、高知県埋蔵文化財調査センターにおいて、土佐市新居上ノ村遺跡 3 地点で出土した縄文晩期に比定された無刻目突帯文 7 点の付着炭化物を採取し、前処理後、測定を行った。計 3 点から測定値を得ることが出来た。

本稿では、土器付着炭化物から得られた測定値について報告し、その実年代について考察する。無刻目突帯文土器は、鹿児島の入佐式、大分の上菅生 B 式（現在では上菅生 B 式古）や広島の中山 B 式のように晩期中葉に位置づけられる土器である。晩期中葉は大洞 B C 式を指標とし、その年代は AMS—炭素 14 年代測定の結果、前 1100 年ごろと考えられている。

今回の測定結果は、土佐における晩期中葉の年代もさることながら、西部瀬戸内の無刻目突帯文土器との年代関係を考える上でも貴重な測定例となる。

調査の結果、炭素 14 年代値は、 3055 ± 45 $^{14}\text{C B P}$ 、 3160 ± 40 ^{14}C 、 3180 ± 50 $^{14}\text{C B P}$ であった。この炭素 14 年代は大洞 B 式の炭素年代と整合的な年代を示している。

以下、本稿では 2 で測定試料が付着していた土器について述べる。3 は前処理について記す（坂本）。4 で得られた炭素 14 年代値をもとにした測定結果を報告し（坂本）、5 で考察を行った（藤尾・坂本）。なお試料調整は、歴博年代研究グループの坂本が行った。

(2) 測定試料

測定試料は 3 点とも付着土器炭化物である。1 は口頸部の、突帯下に付着していた。見た目は吹きこぼれ様にみえる。2 は深鉢底部内面に付着していた。煮焦げの可能性がある。3 は深鉢湾曲部外面に付着していた。見た目は吹きこぼれた様にみえる。

(3) 試料処理

採取試料には、国立歴史民俗博物館の年代測定資料実験室において洗浄処理を実施した。アセトン中での超音波洗浄の後、年代測定試料に対する一般的な処理方法である酸・アルカリ・酸処理（AAA 処理）を施した。自動処理装置 [1] を用い、 80°C の温度下で 1 規定濃度（1N）の塩酸と 1N の水酸化ナトリウム溶液中で不純物を溶出させた後、純水で十分に洗浄した。

乾燥させた試料からは、元素分析計を接続した真空装置 [1] を用いて、試料中の炭素を二酸化炭素として抽出し精製した。精製された二酸化炭素は装置内で水素と混合し、還元反応によりグラファイト炭素に転換した。同様の操作で、炭素 14 を含まないブランク試料（添川理化学炭素：No. 75795A）、炭素 14 の標準試料（米国標準技術局シユウ酸：SRM4990C、通称 NISTO_xII）のグラファイト炭素を調製した。グラファイト炭素は AMS（Accelerator Mass Spectrometry：加速器質量分析法）測定に供するため、専用のホルダに充填した。炭素 14 年代測定は、東京大学タンデム加速器研究施設の AMS 装置（NEC：Pelletron 5UD）で実施した。

AAA 処理の済んだ試料は、一部を分取して昭光通商（株）に送付し、炭素・窒素の安定同位体分析を依頼した（Thermo Electron：DELTAplus Advantage）。sq

(4) 測定結果

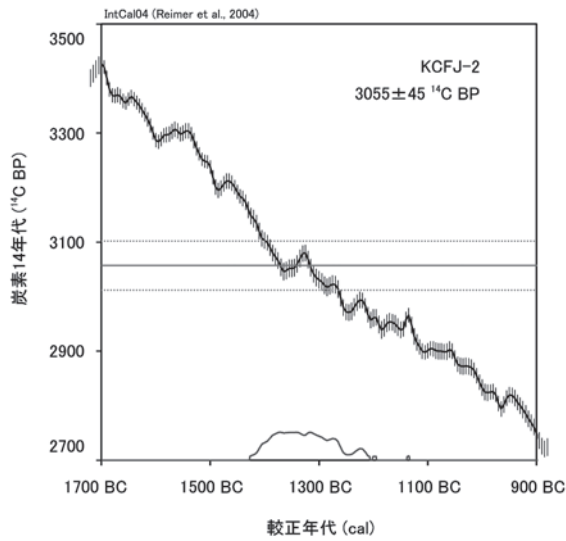
測定試料と結果の一覧を表1に示す。試料番号は、整理の目的で歴博が付したものである。測定機関番号のMTC-は、東京大学タンデム加速器研究施設のAMS装置で測定されたことを表す。炭素14年代は、同位体分別効果を補正した炭素14濃度を元に、その半減期を5,568年と仮定して計算された経過年数を、西暦1950年からさかのぼった値である。報告値は下一桁を丸めることが慣習的に行われている。

炭素14年代はモデル年代であり、実際の暦上の年代を求めるには年代の判明した試料の炭素14年代と比較する、較正（calibration）が必要である。較正曲線IntCal04に基づき、正プログラムRHCを用いて導いた較正年代の範囲を表中に示す。試料の実際の年代は、この範囲に 2σ （95.4%）の確率で存在する。較正年代の確率密度分布を6-1図に示す。

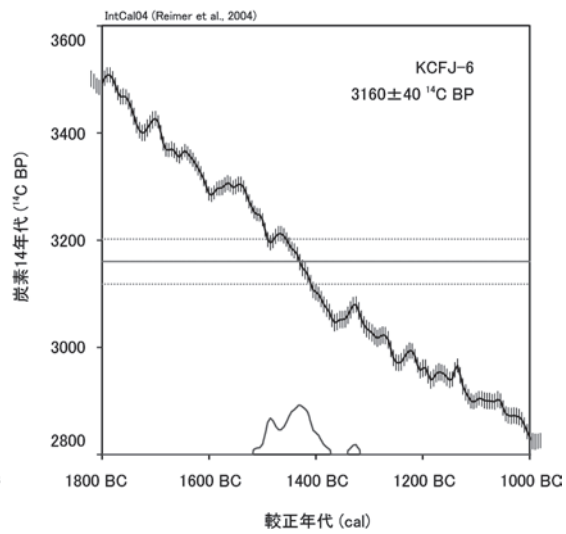
炭素・窒素分析の結果を表1に合わせて示す。炭素の安定同位体比（ $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比）、窒素の安定同位体比（ $^{15}\text{N}/^{14}\text{N}$ 比）は、それぞれの標準物質の値からの偏差の千分率を δ 値として表す。 $\delta^{13}\text{C}$ 値はいずれも -25% 前後の値を示し、また炭素と窒素の濃度比（C/N比）も比較的高いことから、典型的な陸上植物を起源とする炭化物と予想される。1と3の $\delta^{15}\text{N}$ 値は 13% 前後と高いが、これも外面に付着した炭化物として典型的な値である。一方、2の $\delta^{15}\text{N}$ 値は 4% 台で、調理に伴って土器内面に付着した内容物に起源を持つ値と予想される。

表6-4 土器付着炭化物の測定結果一覧

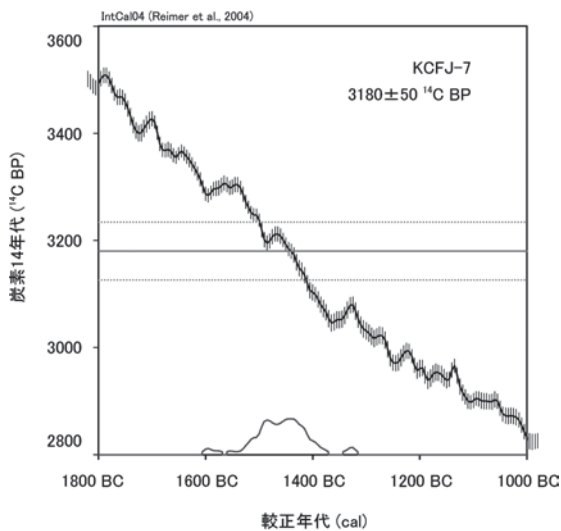
#	試料番号	採取部位	測定機関番号	炭素14年代 (^{14}C BP)	較正年代 (cal BC)	確率	$\delta^{13}\text{C}$ 値 (‰)	$\delta^{15}\text{N}$ 値 (‰)	C/N比
1	KCFJ-2	口縁部外面	MTC-11520	3055±45	1425 - 1205	94.0%	-25.8	12.9	25.0
					1205 - 1195	0.9%			
					1140 - 1135	0.6%			
2	KCFJ-6	底部内面	MTC-11504	3160±40	1515 - 1375	92.3%	-24.4	4.36	13.1
					1335 - 1320	3.1%			
					1605 - 1575	2.8%			
3	KCFJ-7	胴部外面	MTC-11505	3180±50	1555 - 1550	0.4%	-25.4	13.4	25.1
					1535 - 1370	89.6%			
					1340 - 1315	2.6%			



6-1 図 上ノ村1の確率密度分布



6-2 図 上ノ村2の確率密度分布



6-3 図 上ノ村3の確率密度分布

(5) 考察

歴博年代グループでは、無刻目突帯文土器の測定をこれまで1点行っている¹。大分市玉沢条里跡7次調査で出土した上菅生B式古の1点である²。6-4図に示した土器は、 2905 ± 30 $^{14}\text{C BP}$ (MTC-07427) で、この土器に伴う深鉢の炭素14年代は、 2955 ± 30 (MTC-07426) と 2945 ± 35 (MTC-07428) である。上ノ村遺跡出土土器に比べると、炭素14年代ベースで100炭素年から150年炭素年、新しい測定値を示している。

逆に言うと上ノ村遺跡出土土器が古い値を示しているわけだが、まず疑わなければならないのは海洋リザーバー硬化の影響を認められるという点である。坂本は、 $\delta^{13}\text{C}$ 値はいずれも -25% 前後の値を示し、また炭素と窒素の濃度比 (C/N 比) も比較的高いことから、典型的な陸上植物を起源とする炭化物と予想されるとしているので、その影響は考慮しなくてもよさそうである。

また坂本によれば、1と3は $\delta^{15}\text{N}$ 値が13%前後と高く、ススの値としては典型的な数値を占めているが、2は $\delta^{15}\text{N}$ 値が4%台なので、調理対象の影響が出ているという判断である。

となれば上ノ村遺跡の測定値が年代的に古いことをより示している可能性が高まる。晩期初頭の標識である大洞B1式の炭素14年代は、岩手県一戸町山井遺跡から出土した木胎漆器のウルシの炭素14年代が、 2940 ± 40 (IAAA - 40514) で、較正年代は前1280～前1250年ごろと考えられている。

九州南部の晩期初頭に比定される鹿児島県南さつま市諏訪牟田遺跡出土の入佐式の炭素14年代は、 2990 ± 30 (Beta - 176043) なので、上菅生B式古は晩期初頭よりはわずかに若い数値を示すが、上ノ村遺跡から出土した無刻目突帯文土器は、縄文後期までさかのぼる値を示している。要するに高知西部の無刻目突帯文土器の方が刻目文土器より単に古いだけでなく、後期末でさかのぼることを意味している。

ちなみに近年話題になっている韓国の青銅器時代早期、突帯文土器の炭素14年代は2900台なので、九州の無刻目突帯文土器の炭素14年代にきわめて近い。

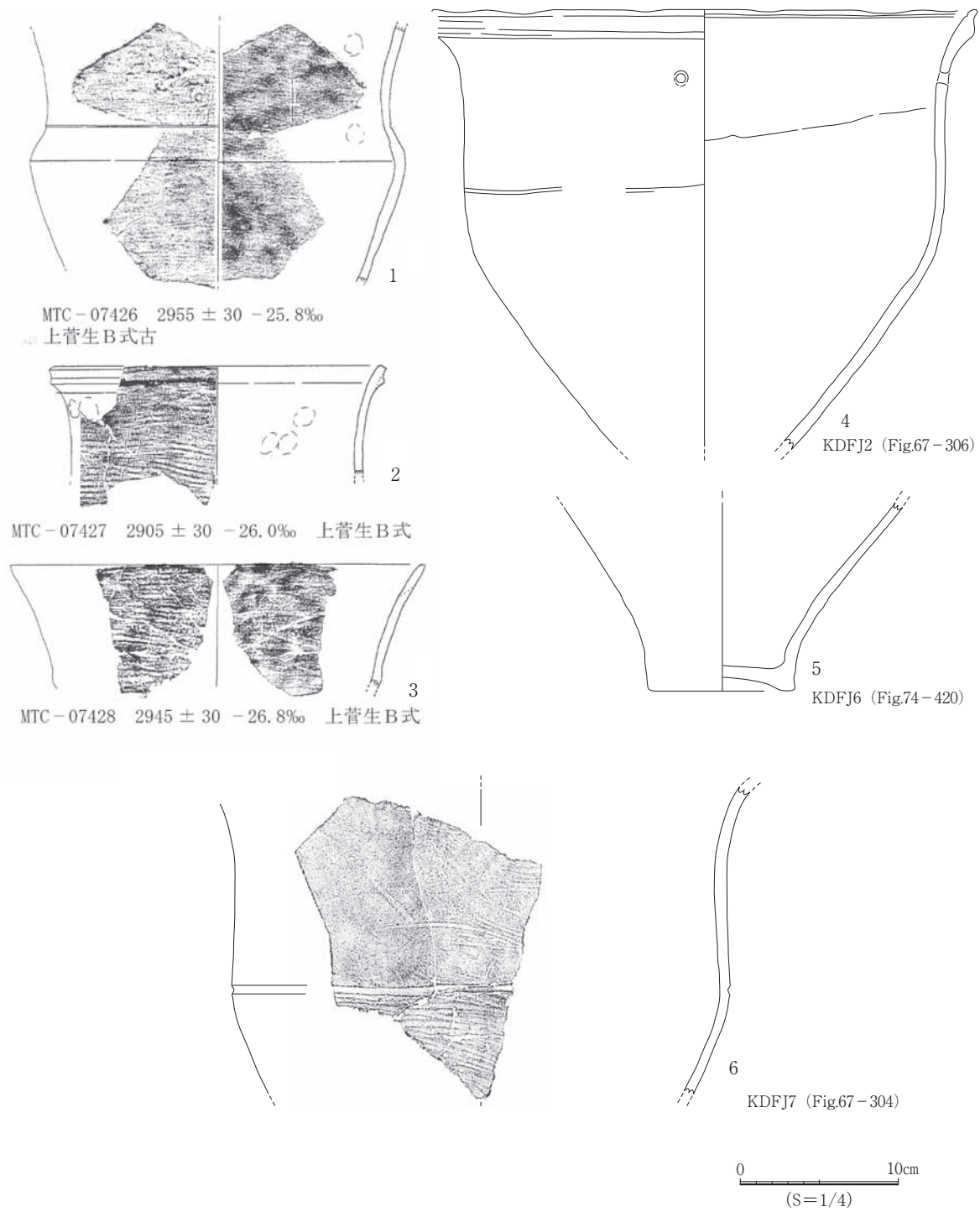
無刻目突帯文土器が縄文後期までさかのぼるのか、晩期初頭までさかのぼるのか、九州と高知では出現年代に差があるのか、といった年代的位置づけについては、もう少し測定例を増やした上で慎重に検討する必要があるだろう。

謝辞

国立歴史民俗博物館の年代測定資料実験室は、科学研究費補助金(学術創成)「弥生農耕の起源と東アジア-炭素年代測定による高精度編年体系の構築-」(西本豊弘研究代表)の実施に伴って整備されたもので、今回の試料調製においてはその資源の一部が利用された。炭素14年代測定においては、東京大学大学院の松崎浩之准教授の助力を得たことを深謝する。

文献

- 1 M Sakamoto et al. (in press) . Design and Performance Tests of an Efficient Sample Preparation System for AMS - ^{14}C Dating. Nuclear Instruments and Methods in Physics Research B.
- 2 P. J. Reimer et al. (2004) . IntCal04 Terrestrial Radiocarbon Age Calibration, 0-26 Cal Kyr BP. Radiocarbon 46: 1029 - 1058.
- 3 今村峯雄(2007) . 炭素14年代較正ソフト RHC3.2 について . 国立歴史民俗博物館研究報告 137: 79 - 88.
- 4 藤尾慎一郎・小林兼一(2006)『大分市玉沢条里遺跡出土土器に付着した炭化物の炭素14年代測定』『玉沢地区条里跡第7次発掘調査報告』pp.129 - 140 大分市教育委員会
- 5 高知県教育委員会・(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター(2011) pp.92・99



6-4 図 大分市玉沢条里跡第7次出土上菅生B式土器(1~3)と上ノ村遺跡出土土器(4~6)
(文献4・5より)

3 — 1 区写真図版



3 地点調査前の全景 南上空から



同上 南東から

図版 2



3 地点調査前の全景 北から



渡し場跡



3-1区上層完掘状況 真上から



同上 南側上空から

図版 4



3-1区上層石列 南から



同上 西から



3-1区上層石列 東から



3-1区北壁土層堆積状況①

図版6



3 - 1 区北壁土層堆積状況②



SD7



SD9 セクション



SK7



SK3 土瓶 (3) 出土状況



3-1区中層完掘状況 直上から



同上 北上から

図版 8



3 - 1 区 SD20 礫出土状況



同上遺物集中出土状況



3 - 1 区 SD20 礫出土状況 南から



同上 北から

図版 10



3-1区中層集石1 東から



同上 SD22・23 完掘状況 南から



3-1区中層集石1 南から



同上 西から

図版 12



SK10 完掘状況



SK12 セクション



SK14 セクション



SK15 検出状況 (集石 1 E の礫を除去)



SK15 礫出土状況



SK15 完掘状況



SK17 土器出土状況



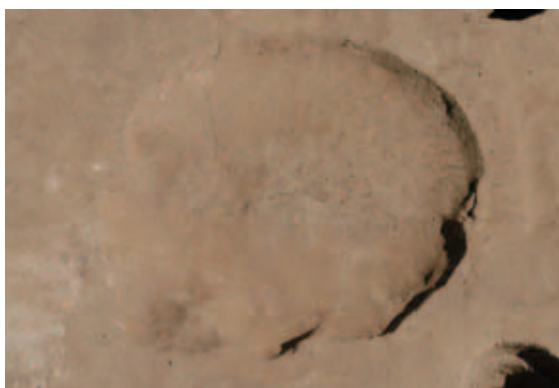
SK17



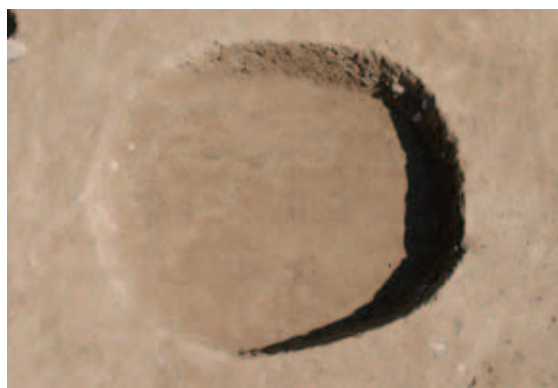
SK18 セクション



SK21 完掘状況



SK22 完掘状況



SK23 完掘状況



SK24 完掘状況



SK25 セクション



SK40 完掘状況



SK46 礫出土状況

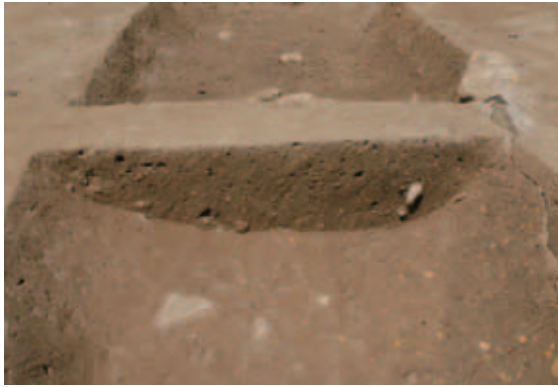
図版 14



SK42 ~ 44 完掘状況



SK47



SD20 セクション



同左



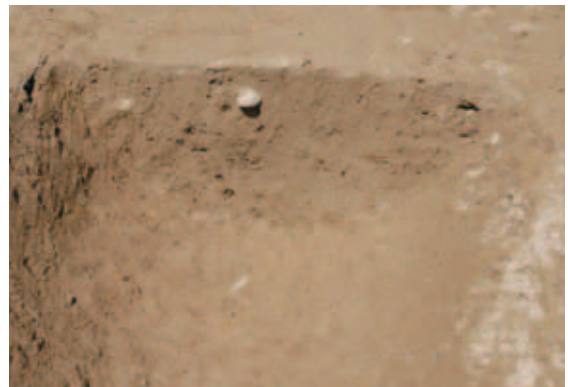
SD20 セクション



SD22 セクション



SD23 セクション



SD25 セクション



SD20 の土器集中出土状況



同左 北から



同上東播磨系甕 291 出土状況



同左常滑甕 292 出土状況



同上集石間土師器杯出土状況



集石 2

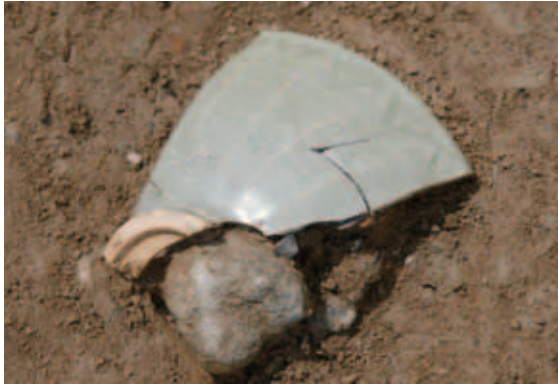


4層土器集中 2



4層出土の瓦器碗

図版 16



SD23 出土の青磁碗 380



4層土器集中1の青磁碗 495と瓦器碗 494



4層土器集中1の白磁碗 496



4層出土の青磁碗底部 690 「金玉満堂」銘



4層出土青磁皿 687



4層出土の白磁碗 696



4層出土の土師質土器杯



4層出土の瓦器碗



3 - 1 区下層完掘状況



同上 北東方向上空から

図版 18



SK51 完掘と焼土の広がり（手前はSD31）



下層東端の石列



SK51 セクション



SD31 セクション



SD32 セクション



SD33 セクション



SD33 出土の瓦器碗



SD33 出土の青磁碗 589



SD33 出土の青磁碗 588



SD39 出土の東播系甕 638

図版 20



3 - 1 区出土の土師質杯 (SK14 : 79)



同 (SK17 : 113)



同 (SK17 : 114)



同 (SK17 : 117)



同 (SK17 : 118)



同 (SK17 : 119)



同 (SK27 : 171)



同 (SK34 : 182)



3 - 1 区出土の土師質杯 (SD20 : 239)



同 (SD20 : 245)



同 (SD20 : 336)



同 (SD20 : 337)



同 (SD20 : 338)



同 (SD20 : 339)



同 (SD20 : 340)



同 (SD20 : 341)

図版 22



3 - 1 区出土の土師質杯 (SD20 : 345)



同 (SD20 : 343)



3 - 1 区出土の瓦器椀 (SD23 : 372)



同 (SD32 : 560)



同 (SD33 : 581)



同 (集石 2 : 489)



同 (包含層 : 677)



同 (包含層 : 678)



3-1区出土の白磁碗（4層土器集中1：496）



同（4層土器集中1：497）



同（包含層：696）



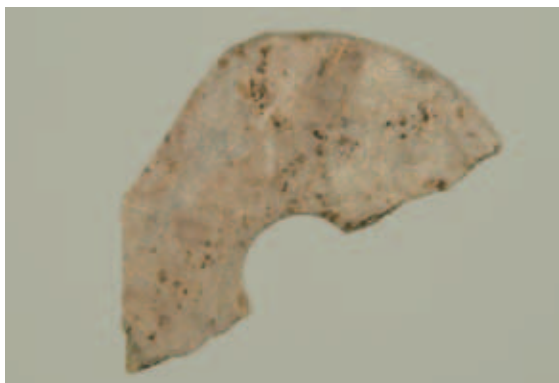
3-1区出土の青磁碗（SD33：588）



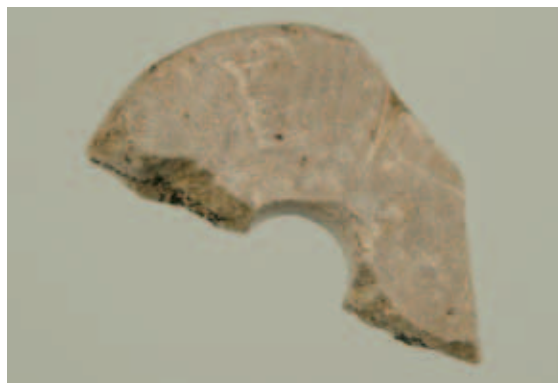
同（SD33：589）



3-1区出土の土瓶（SK3：3）

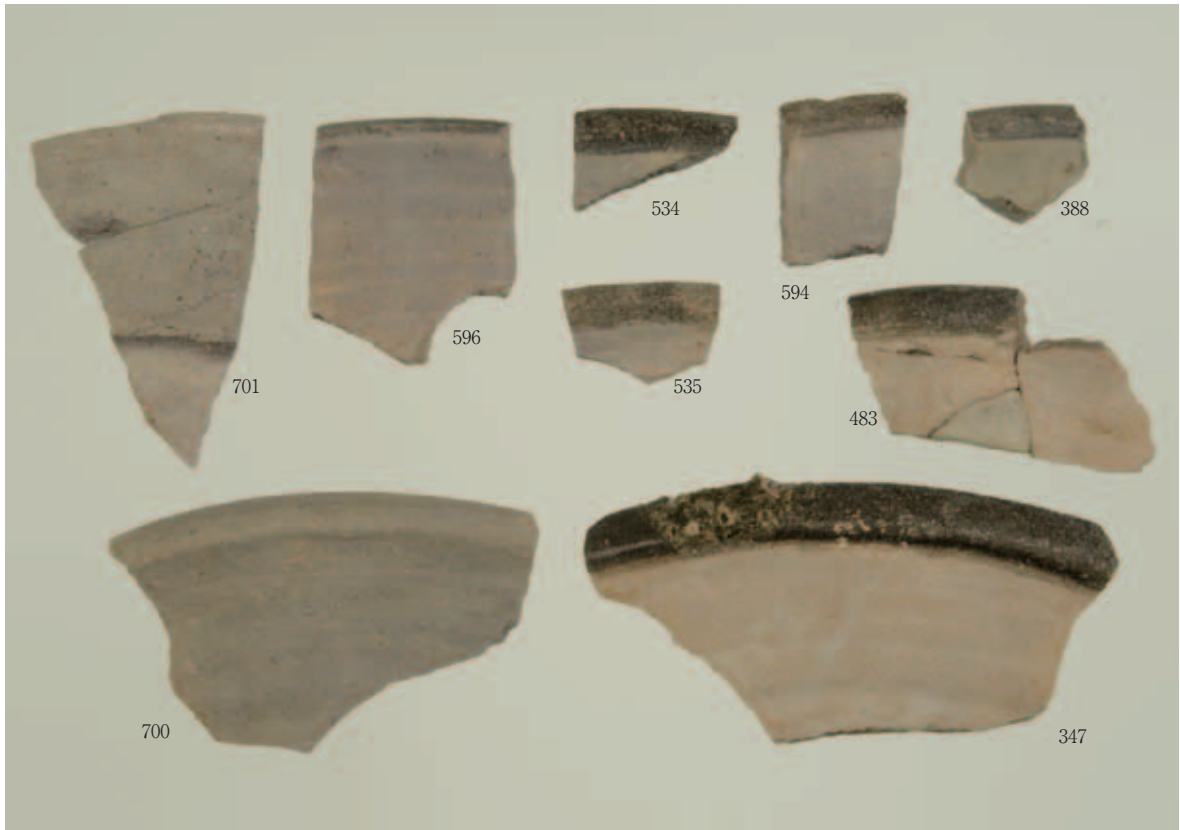


3-1区出土の温石（包含層：710）



同左裏面

図版 24



3 - 1 区出土の東播系捏鉢



同常滑甕・鉢

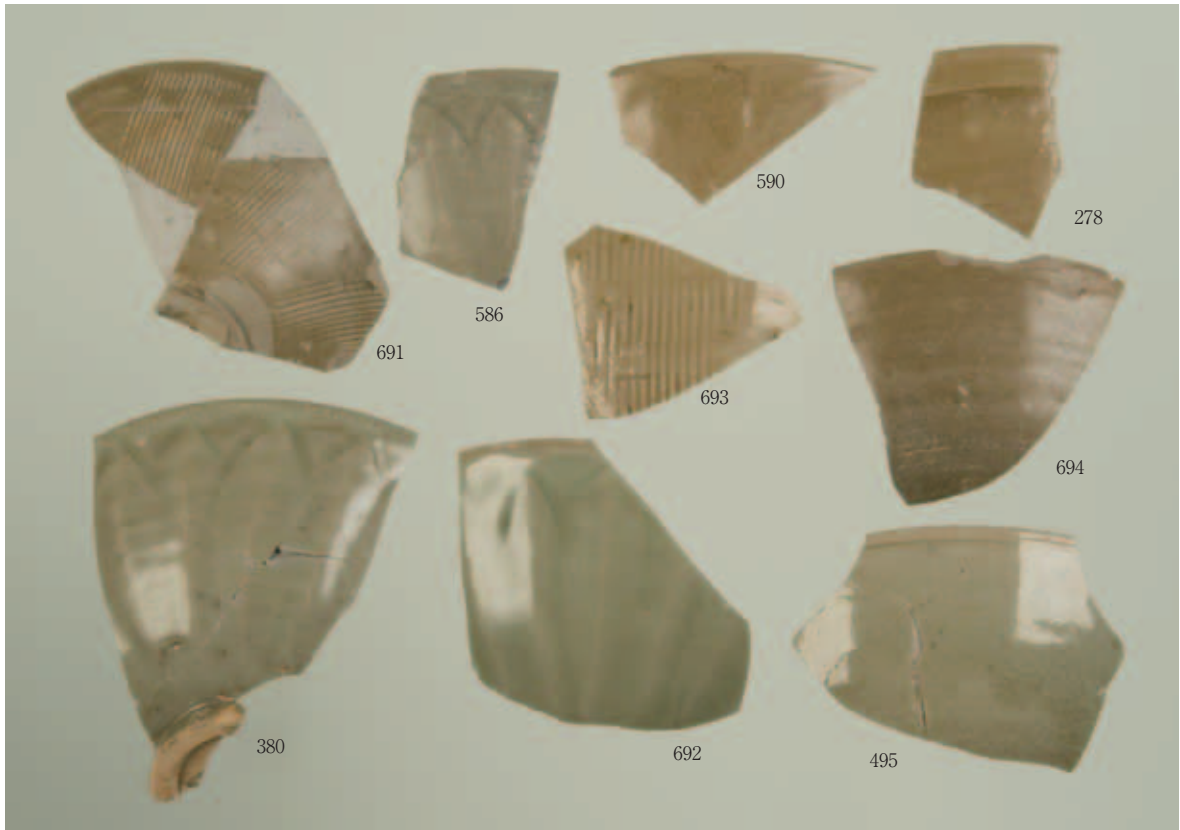


3 - 1 区出土の常滑甕胴部押印

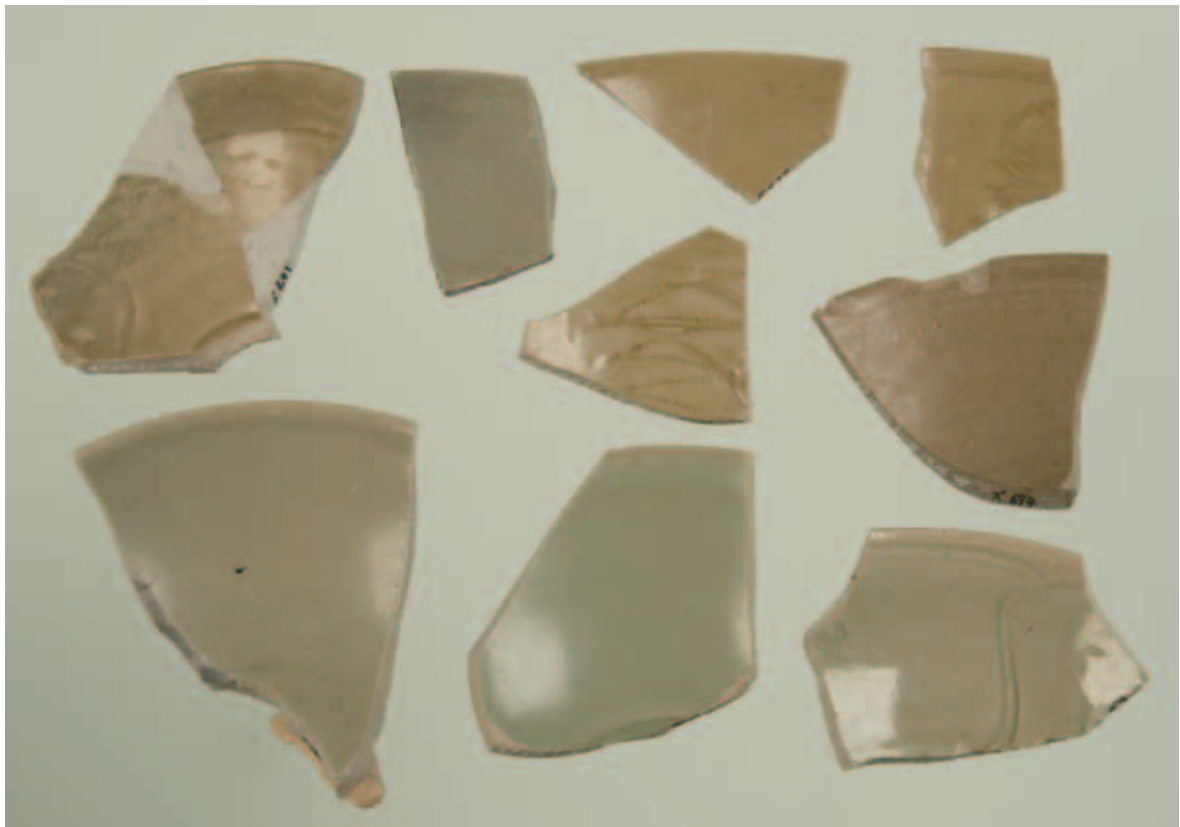


3 - 1 区出土の紀伊型甕

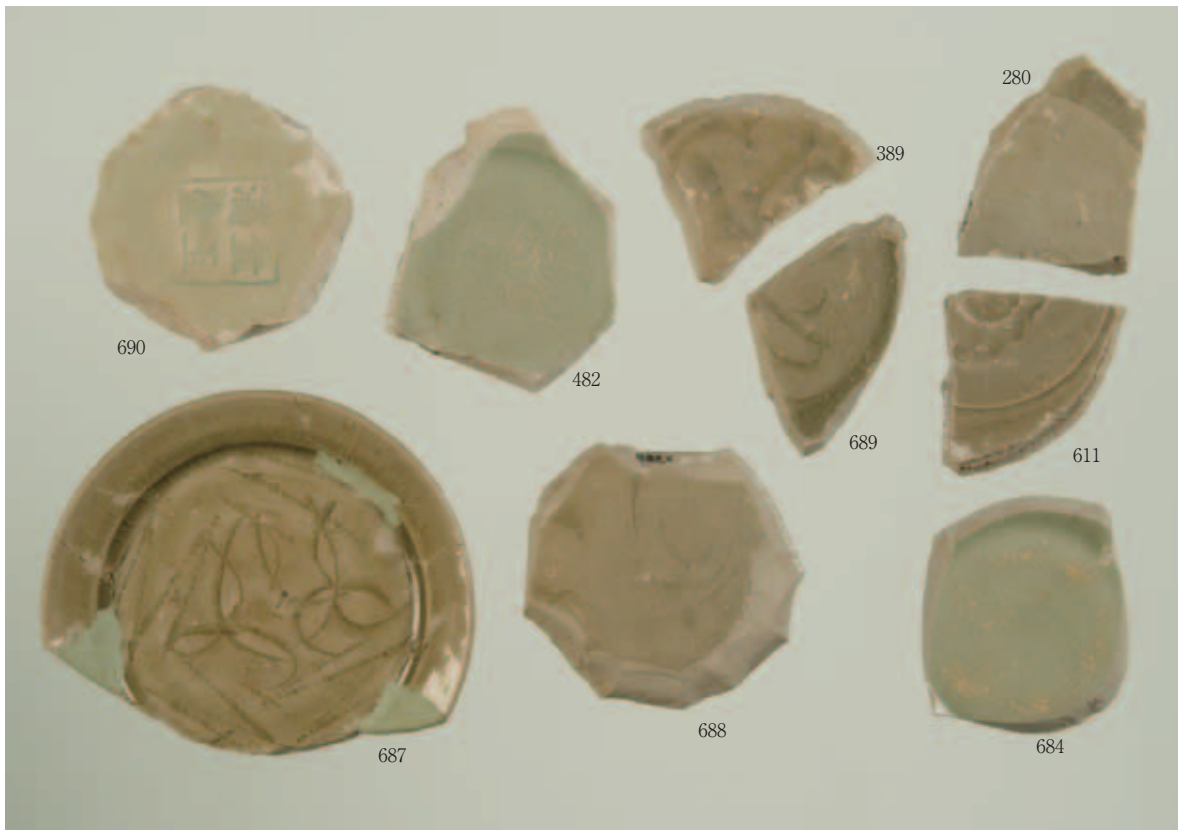
図版 26



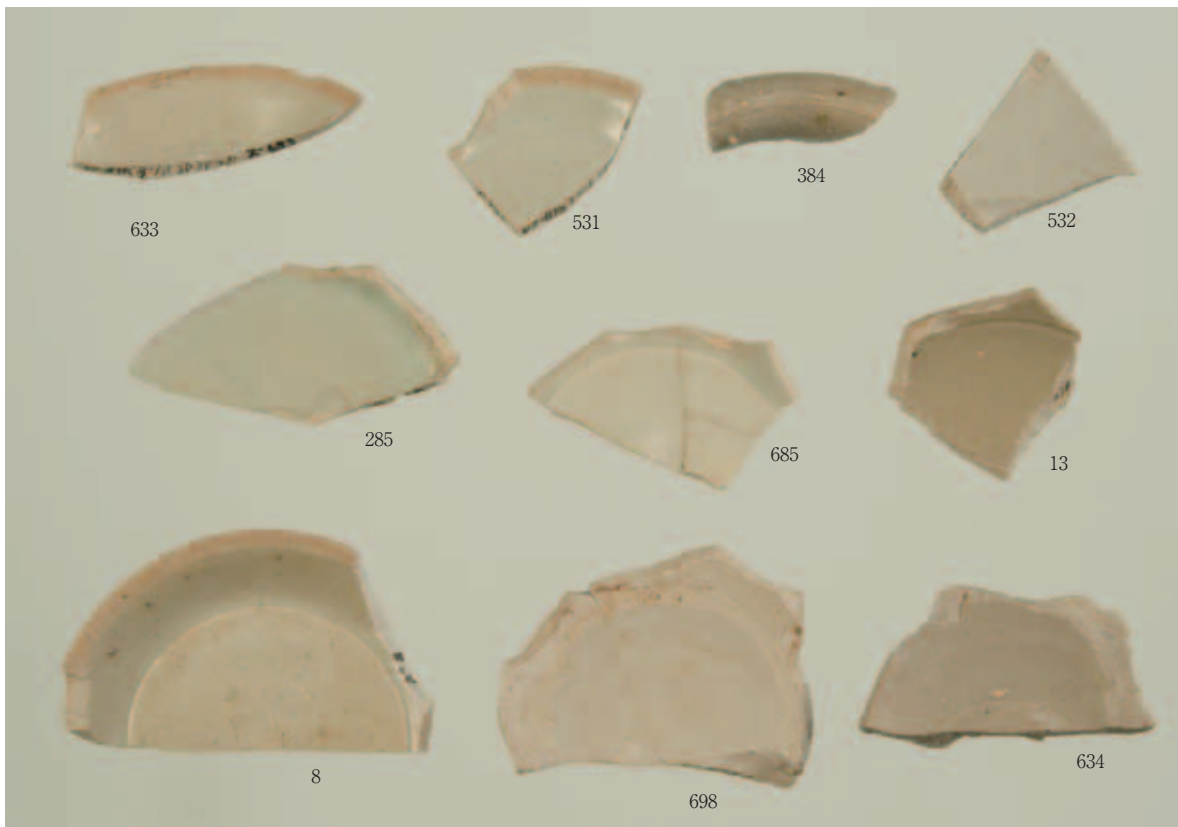
3 - 1 区出土の青磁碗



同上内面



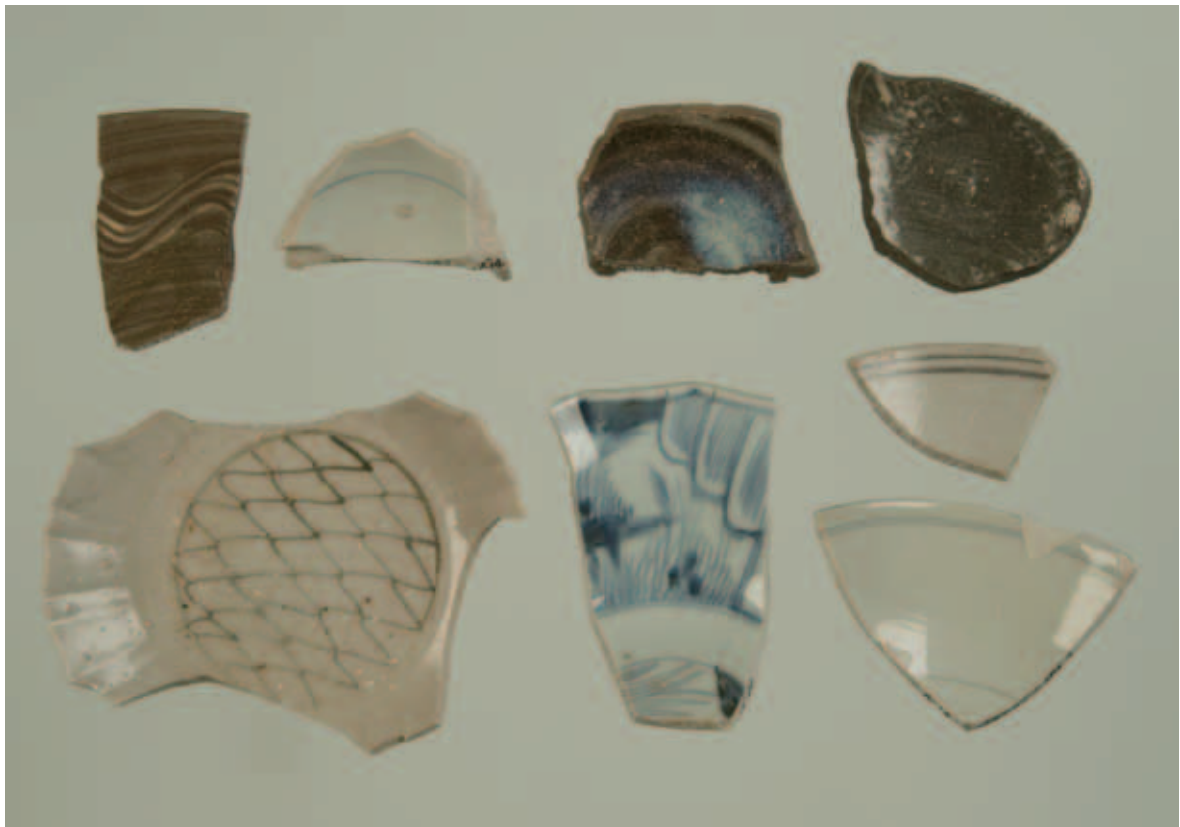
3 - 1 区出土の青磁皿 (687)・碗底部



同白磁碗・皿



3 - 1 区出土の近世陶磁器

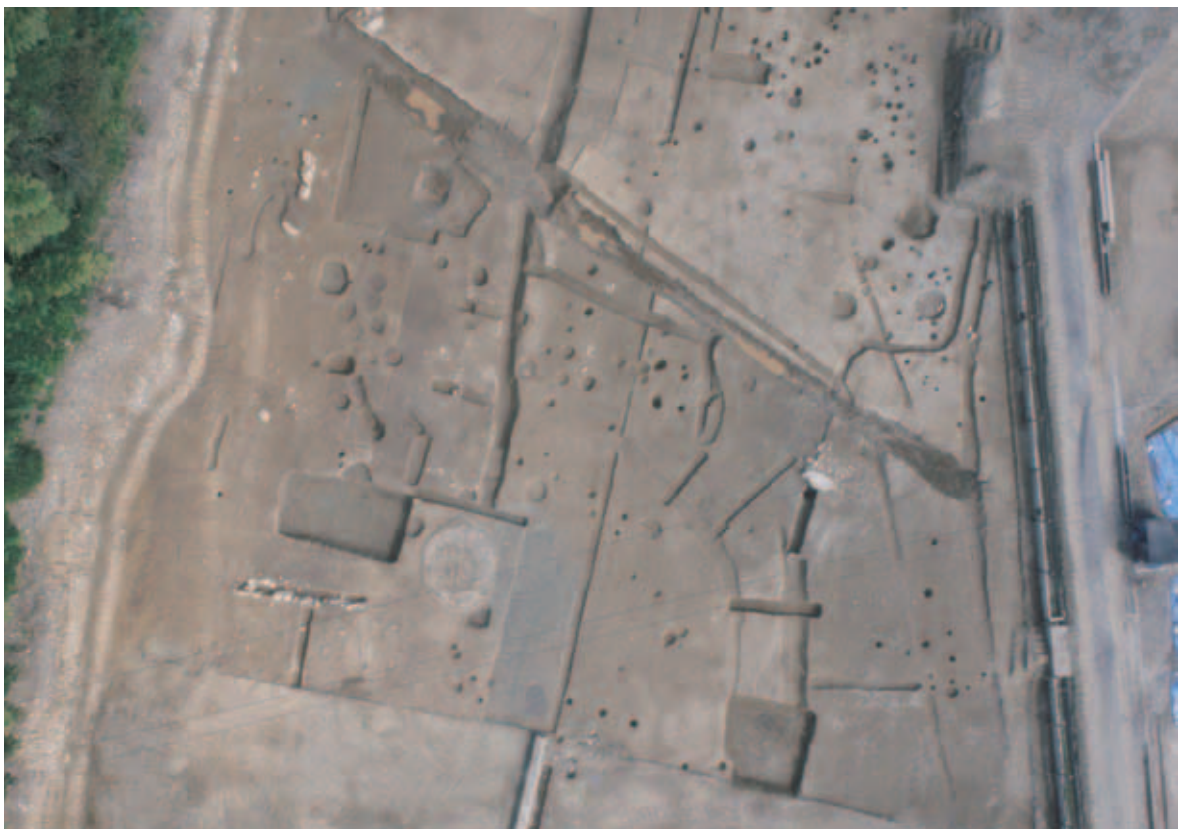


同上内面

3 — 2 区写真図版



中面完掘状況 北から



中面完掘状況 上から



中面完掘状況遠景 北から



中面完掘状況 南から



下面完掘状況 上から



下面完掘状況近景 北から

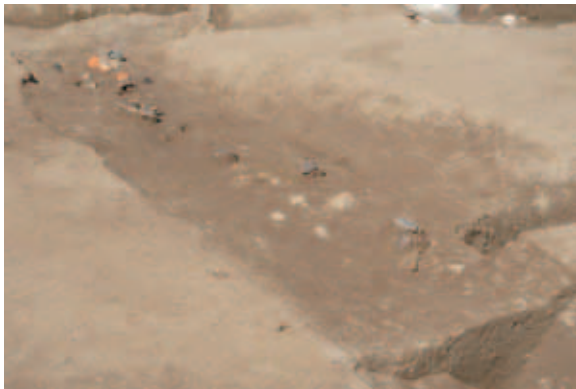
図版 32



SK1 遺物出土状況



SK38 遺物出土状況



SD20 遺物出土状況



SK38 遺物出土状況近景



SD20 遺物出土状況近景



SX1 検出状況



SX1 集石出土状況



瓦器出土状況

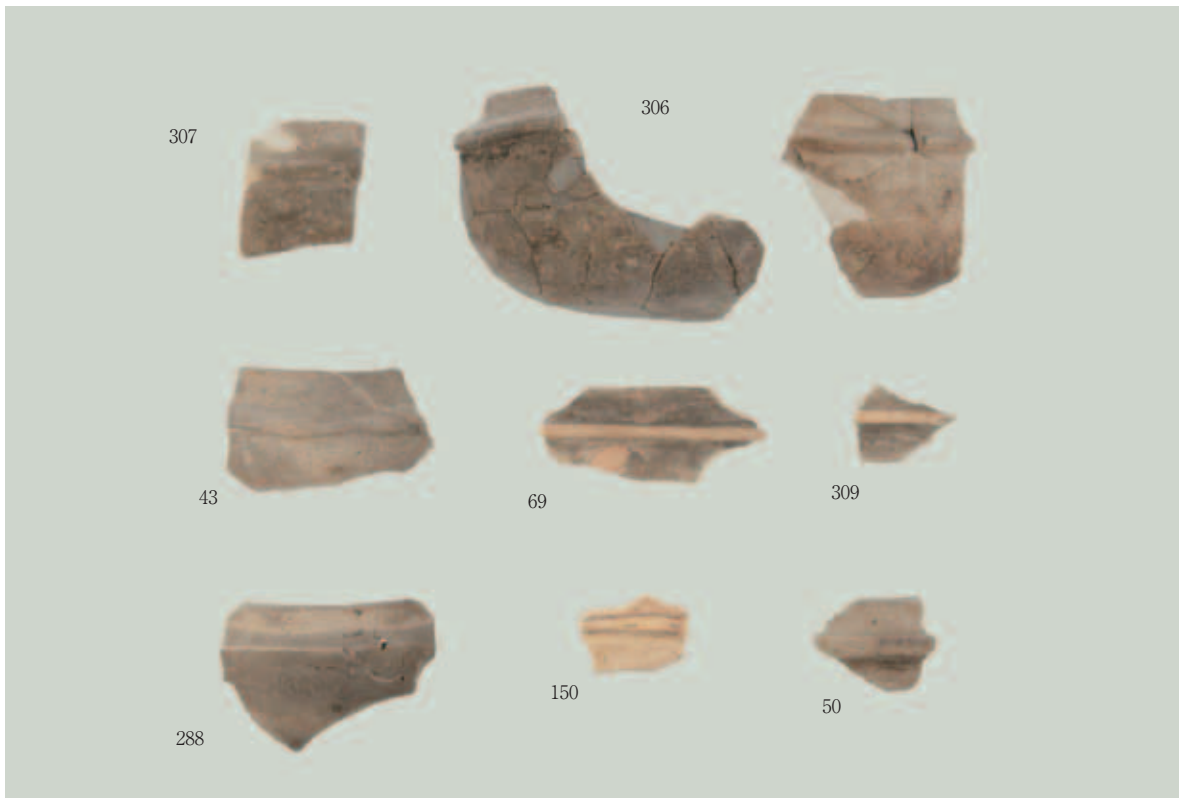


青磁



瓦器皿

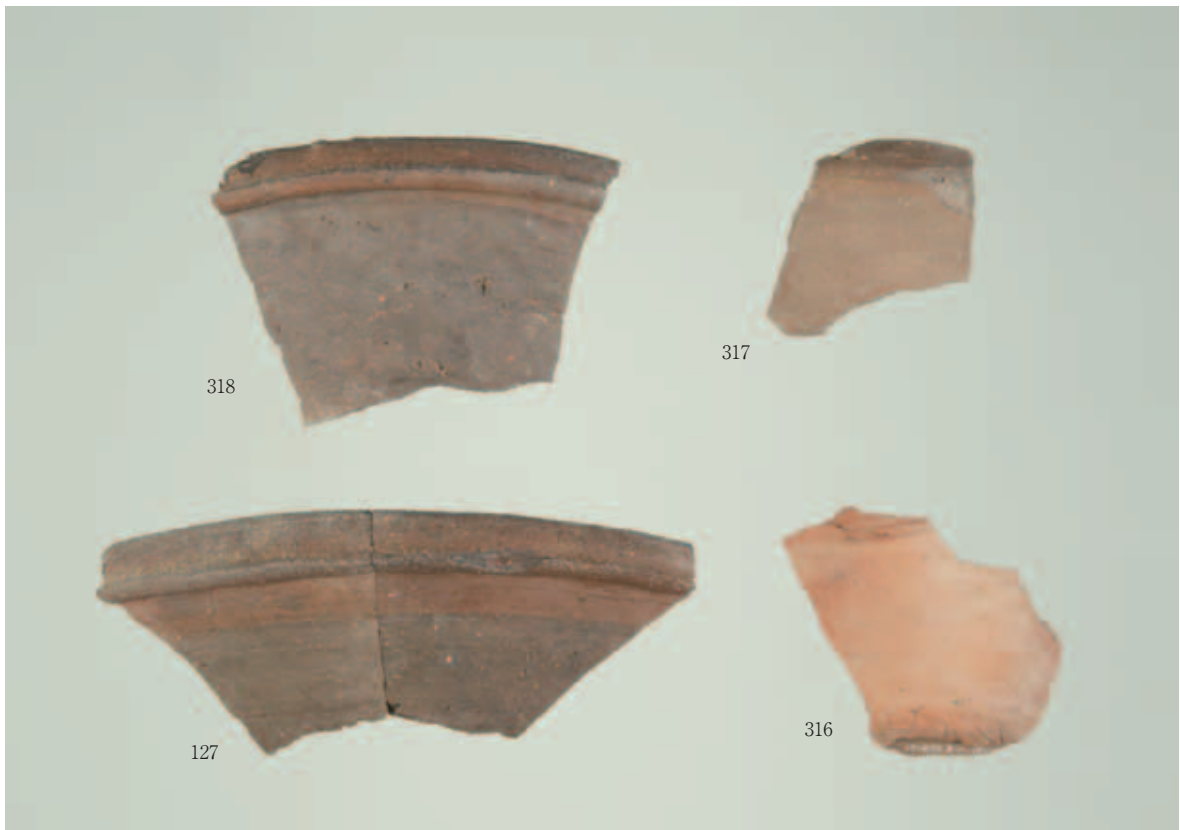
図版 34



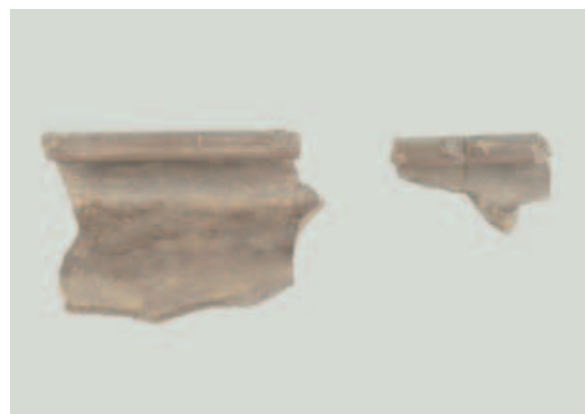
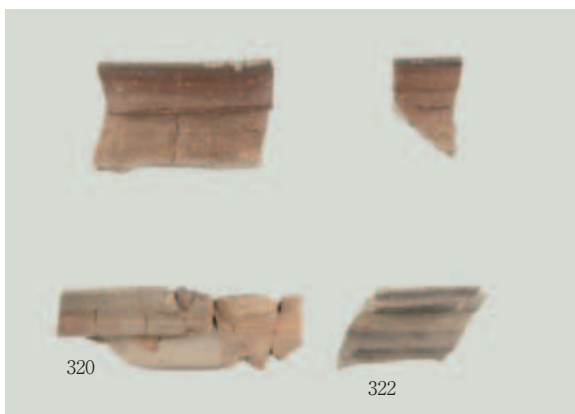
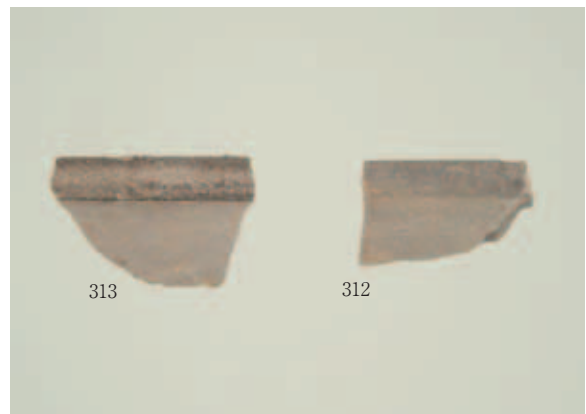
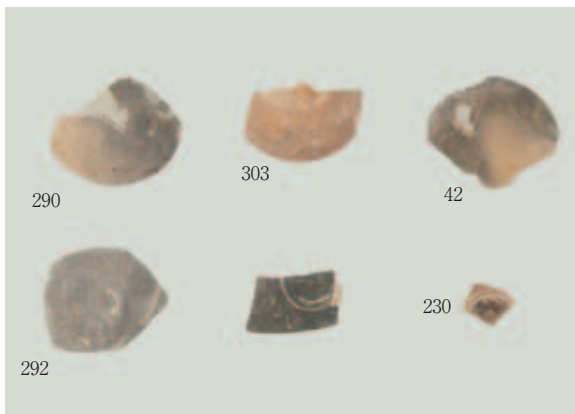
瓦質・土師質羽釜



土錘



備前焼



图版 36



1



2



3



5



10



11



13



16



17



18



19



22



23



24



25



31



32



34



40



41



50



55



59



70



80



81



85



86



89



90



91



93



94



95



100



101

图版 38



103



105



106



107



108



109



110



110



111



112



113



114



115



126



130



131



135



136



137



140



147



154



158



158



159



160



161



162



163



164



166



167



168



169



171



171

图版 40



175



172



174



176



177



178



181



182



186



187



189



191



192



193



194



195



197



199



199



200



201



205



207



210



213



214



215



219



219



225



234



249



250



255



255



256

图版 42



257



258



258



259



261



262



263



264



265



275



284



287



288



291



293



296



298



319



323



332



333



334



124 336



338



339



347



348



351



353



354



357



358



368



写真1



写真2



写真3

3 — 3 区写真図版



上面完掘状況 上から



下面検出状況 南から

図版 45



下層完掘状況 上から



下面完掘状況 南から



下 SK3 出土状況



SE1 井戸枠検出状況



SE1 井戸枠検出状況近景



SE1 井戸枠完掘状況近景



SE1 井筒



SE1 井筒



石列 1 検出状況



石列 1 作業風景

図版 47



石列検出状況 南から



石列 1・2・3 北から



石列南側 南から



遺物集中 1 出土状況



遺物集中 2 出土状況



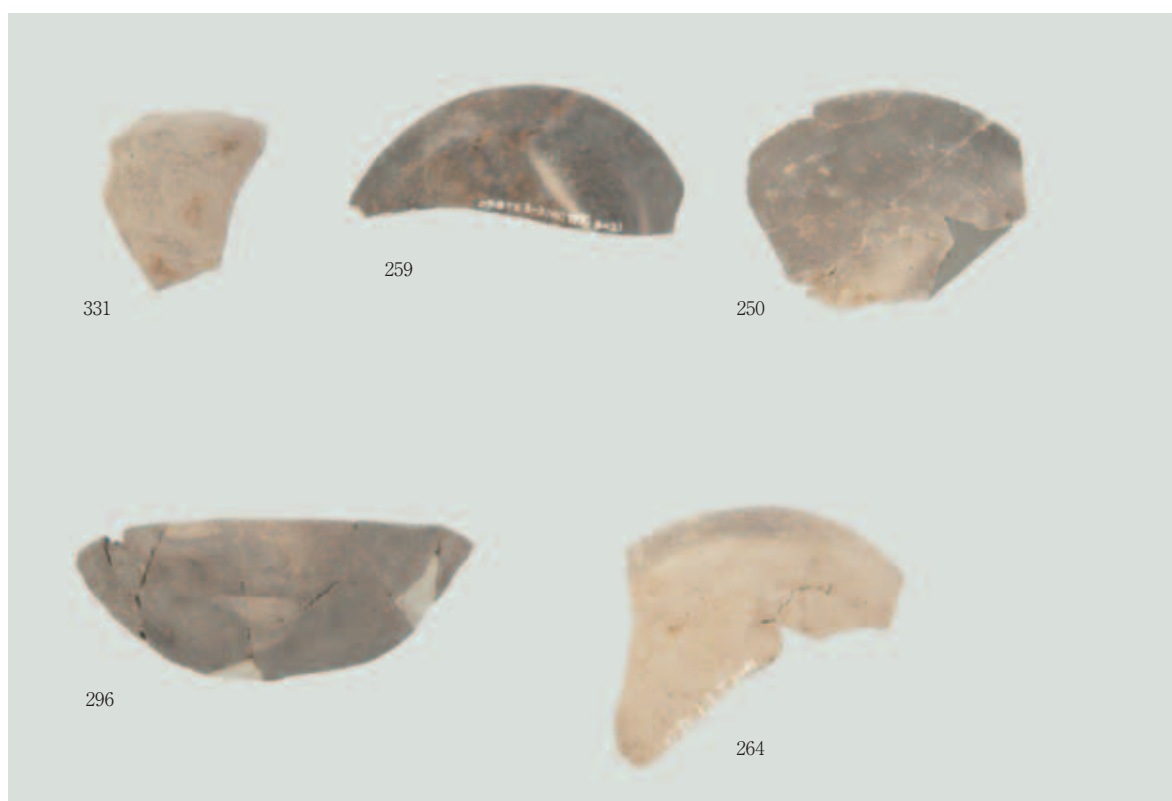
遺物集中 3



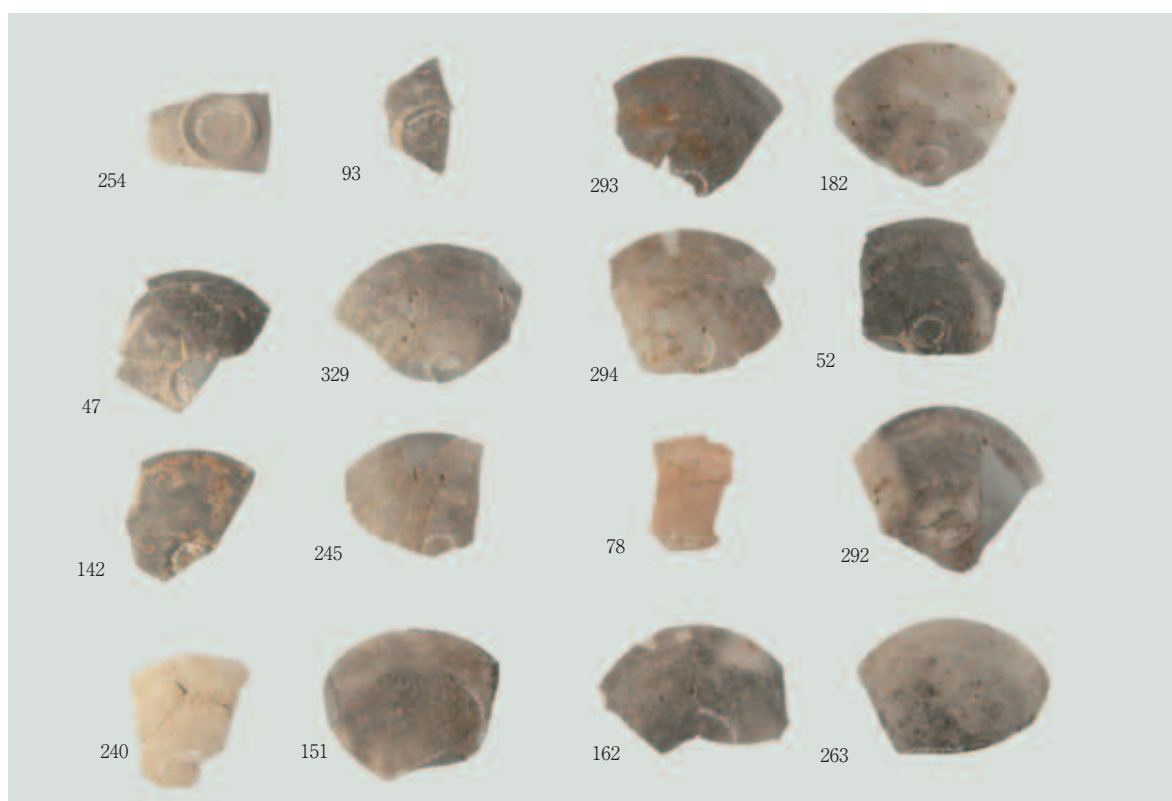
5層瓦器出土状況



5層 土錘出土状況



瓦器碗

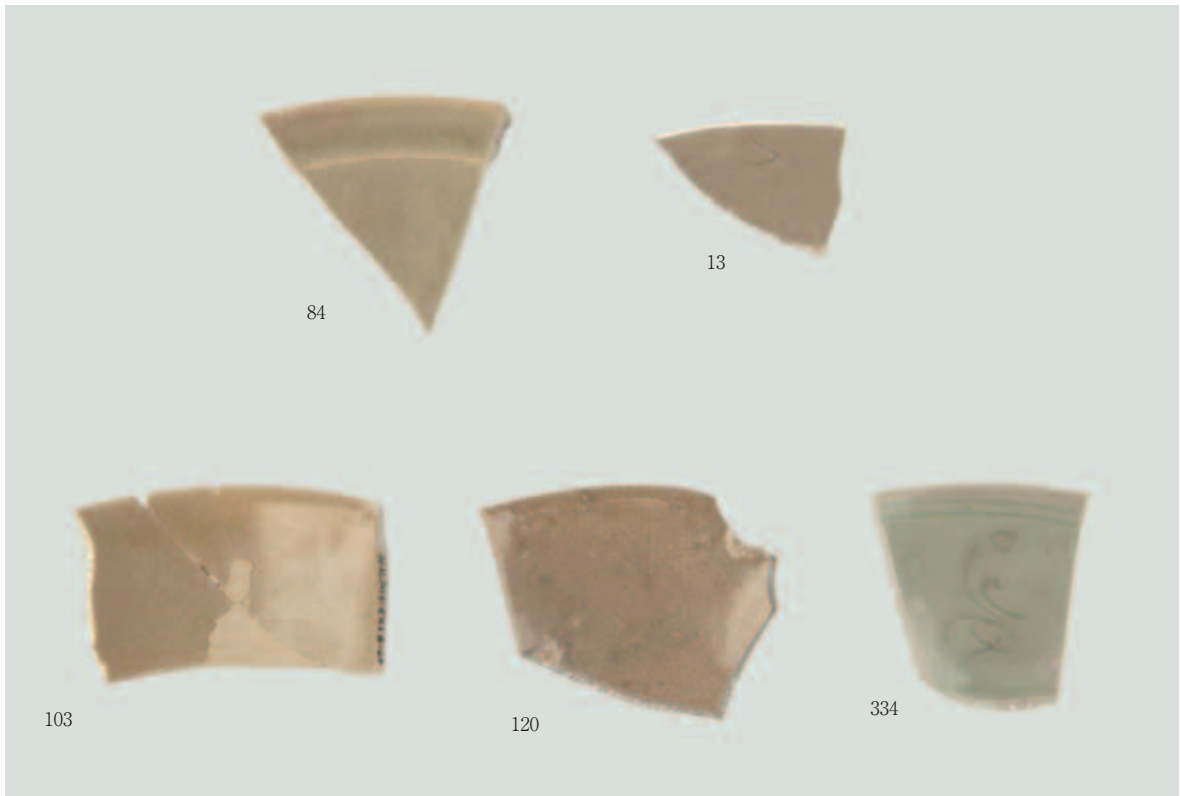


瓦器

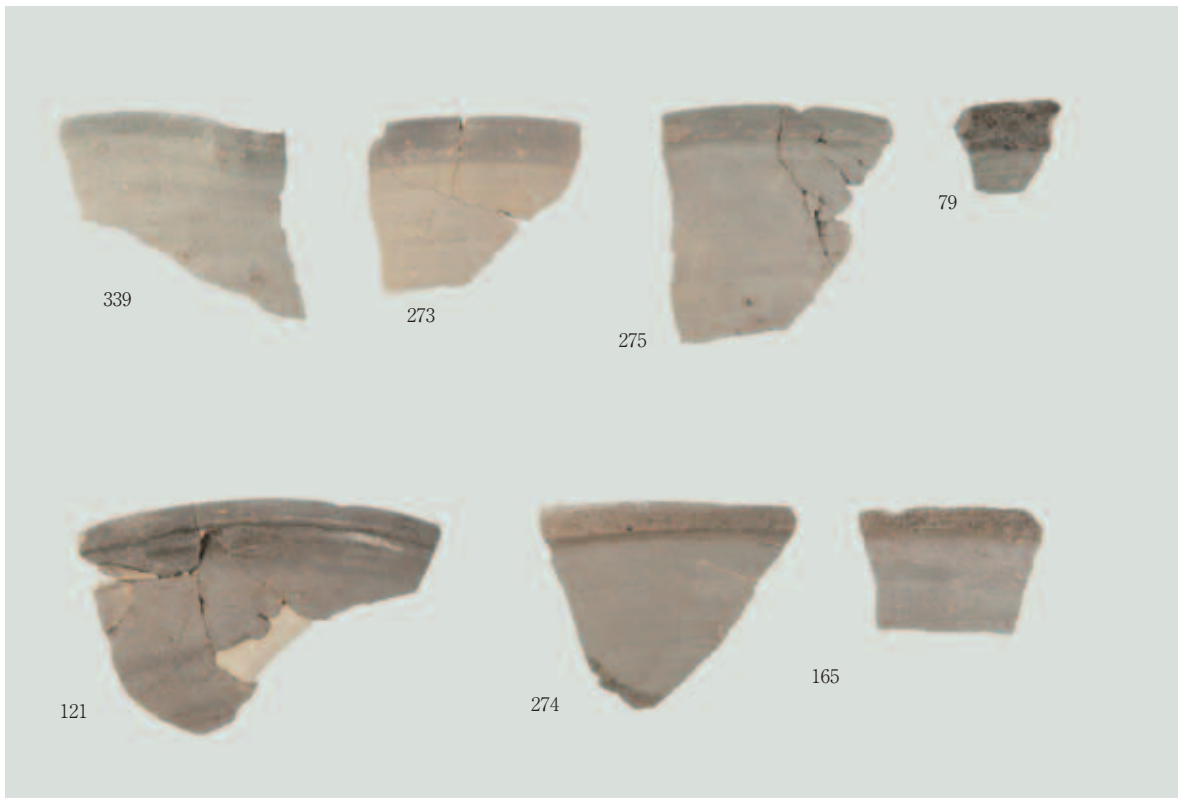
图版 49



青磁外面



青磁内面

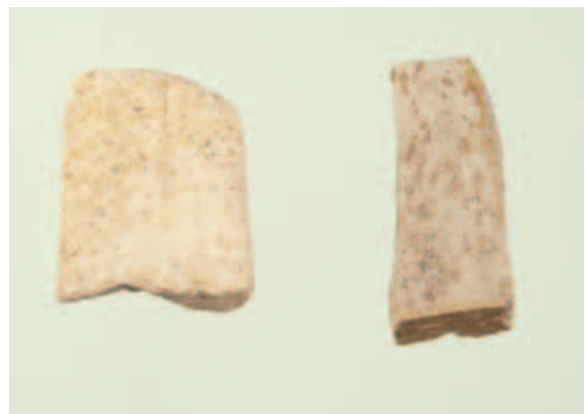
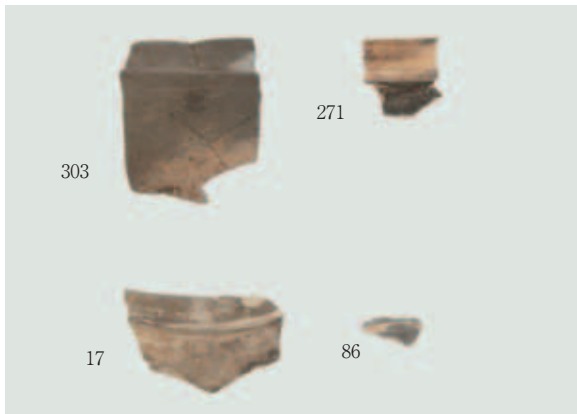
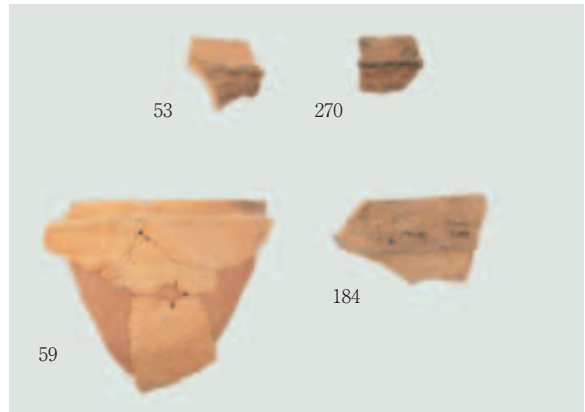
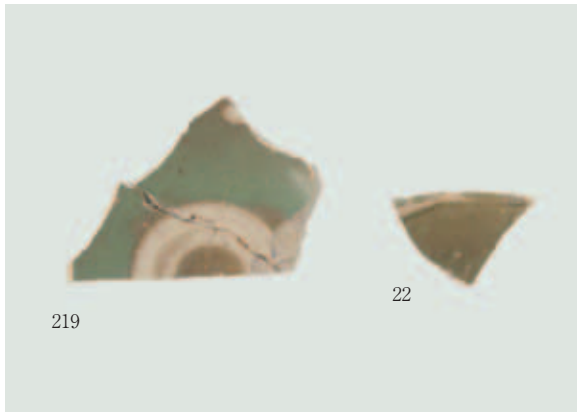
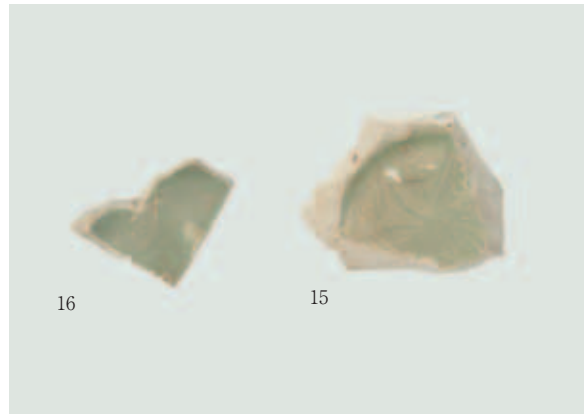
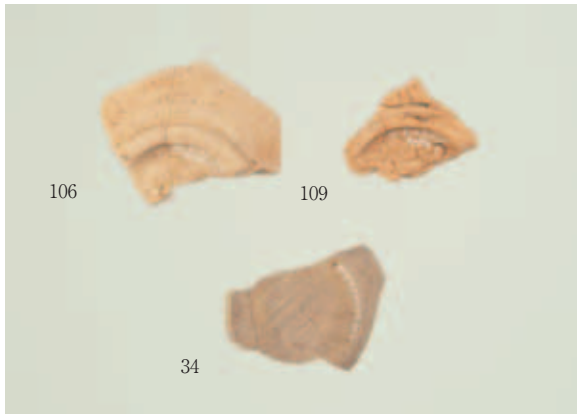


東播系須恵器



土錘

图版 51





5



6



7



9



10



18



18



24



26



27



37



40



45



46



48



50



51



55

图版 53



56



67



68



69



70



70



343·71



72



73



73



77



83



87



90



94



97



98



101



104



108



110



114



116



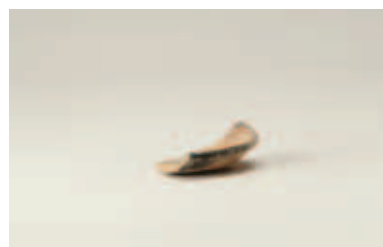
119



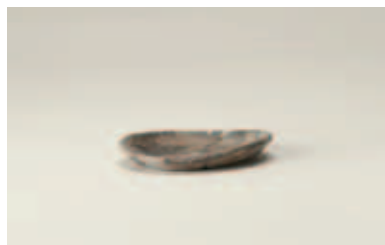
119



137



139



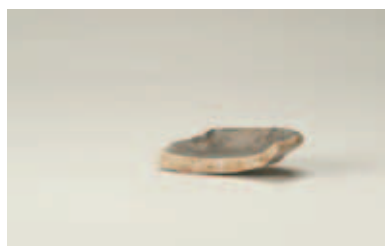
140



141



146



148



150



152



154



159



161

图版 55



163



164



167



169



170



171



172



173



175



176



178



179



181



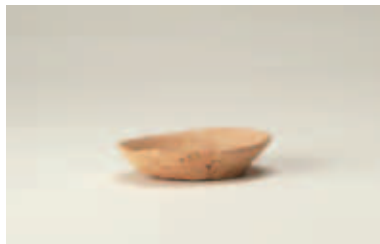
187



188



189



190



191



192



193



194



195



196



197



198



199



200



201



202



203



204



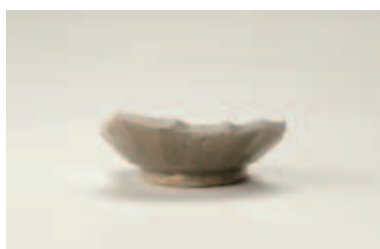
206



211



212



213



214

图版 57



216



217



218



220



221



222



223



224



225



226



227



228



229



230



231



232



233



234



235



236



237



238



241



248



251



255



256



257



258



260



261



262



265



267



268



269

图版 59



272



276



276



279



283



284



285



286



298



304



305



310



311



311



312



313



314



315



316



317



319



320



320



322



323



325



327



330



333



337



340



342



写真1



写真2



写真3

3 - 4 · 5 区写真図版



3 - 4 区完掘状況 (西から)



同上 (東から)



3 - 5 区完掘状況



3 - 5 区東壁セクション



3 - 5 区護岸状遺構 (東から)



同上 (北から)

図版 64



3-5区北壁セクションと護岸状遺構（南から）



3-5区同護岸状遺構（南から）



3-5区SK4



3-5区SK5 遺物出土状況（右側はSK4）



3-5区SK5 遺物出土状況



3-5区SK8



3-5区SD3 セクション



3-5区SD4 セクション

自然化学分析写真図版

Photo.1 椀形鍛冶滓の顕微鏡組織


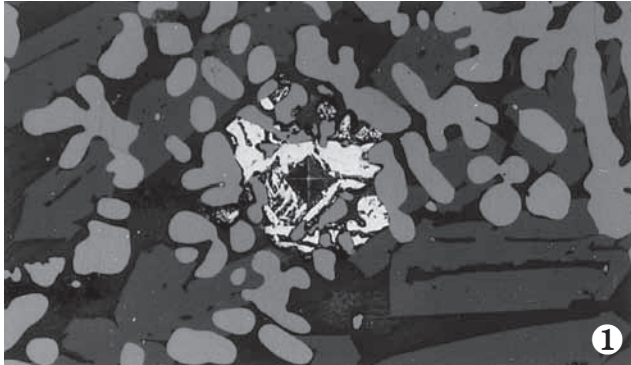


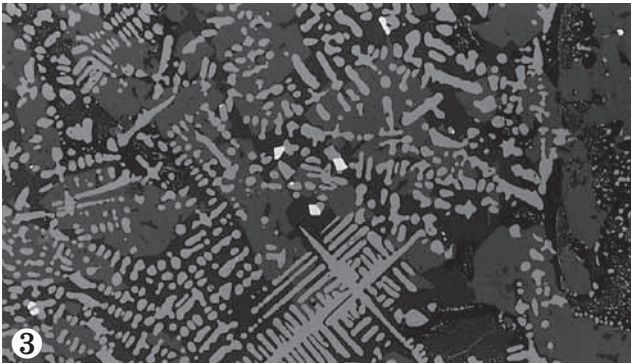
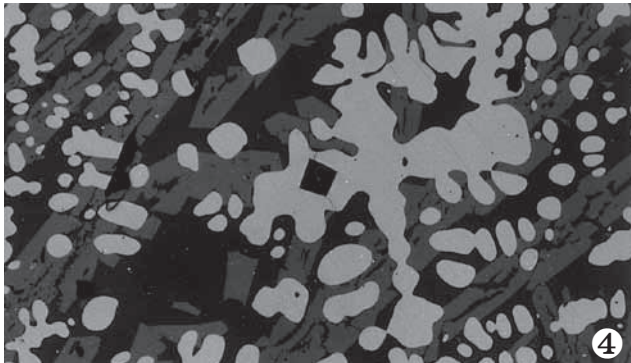

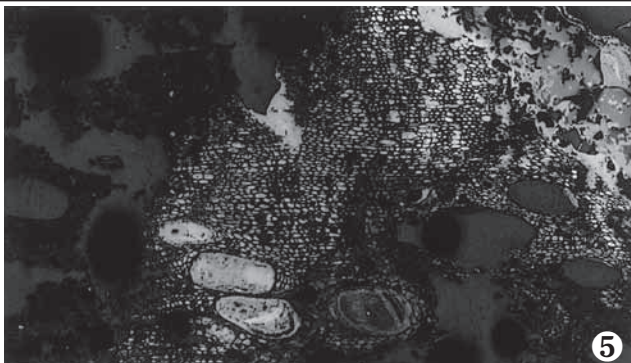
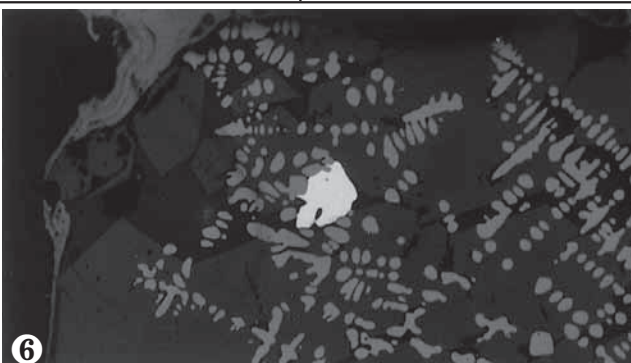
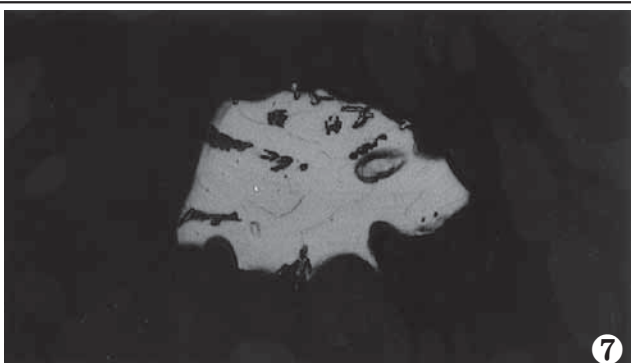

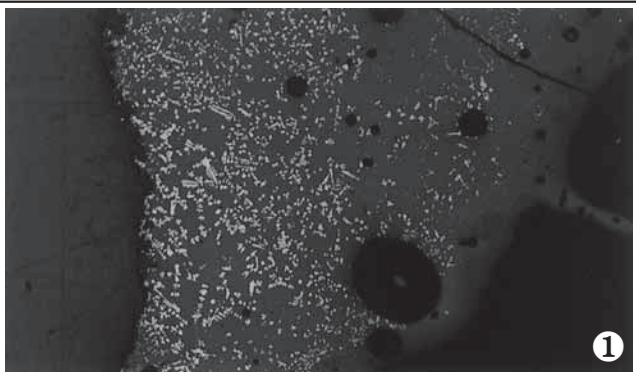

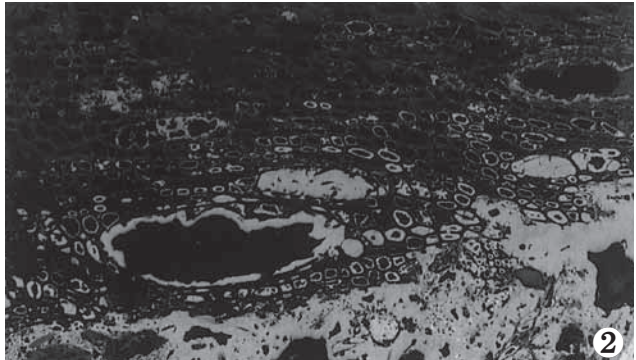

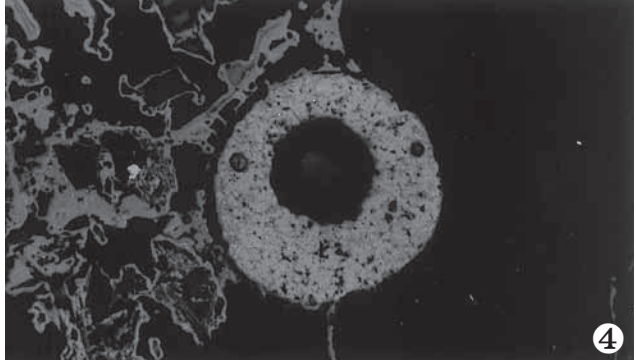
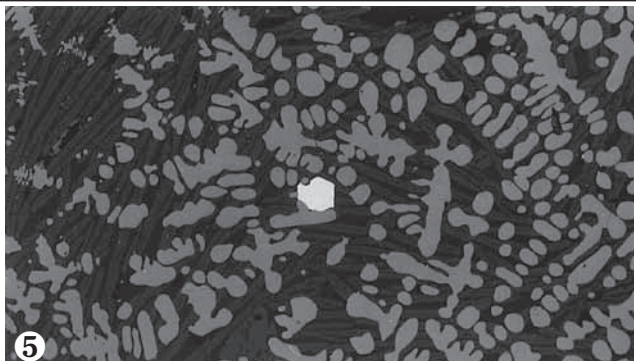
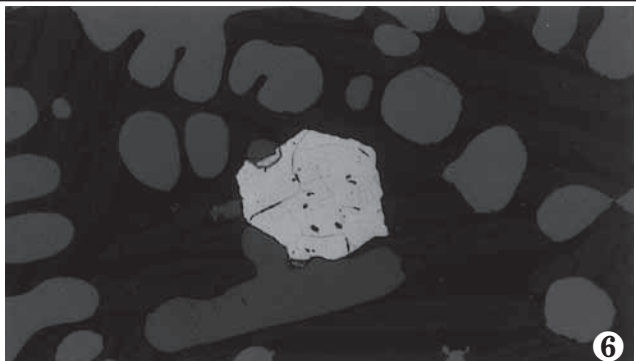

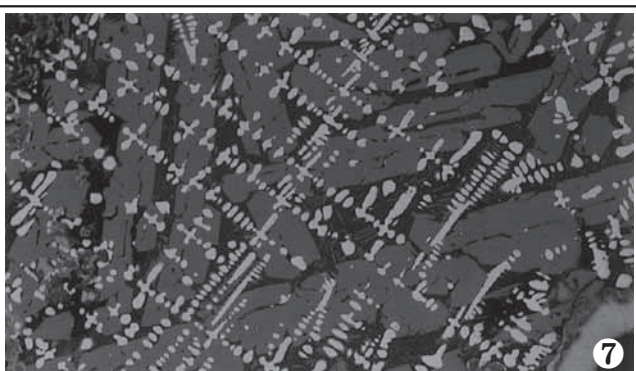
<p>No.1 椀形鍛冶滓</p> <p>①×200 中央：金属粒ナイトラル etch 亜共析組織 硬度：152Hv、(100gf) 滓部ウスタイト・ファイヤライト</p>	 <p style="text-align: center;">No. 1</p>	 <p style="text-align: right;">1</p>
<p>No.2 椀形鍛冶滓</p> <p>②×400 附着鍛造薄片 ③×400 埋白色粒：金属鉄 滓部ウスタイト・ファイヤライト ④×200 硬度：1476Hv、ウスタイト (200gf)</p>	 <p style="text-align: center;">No. 2</p>	 <p style="text-align: right;">2</p>
 <p style="text-align: left;">3</p>	 <p style="text-align: right;">4</p>	
<p>No.4 椀形鍛冶滓</p> <p>⑤×50 木炭破片、木口面：広葉樹材 ⑥×100 埋白色粒：金属鉄 滓部ウスタイト・ファイヤライト ⑦×400 ⑥の拡大 金属鉄部：ナイトラル etch フェライト単層</p>	 <p style="text-align: center;">No. 3</p>	 <p style="text-align: right;">5</p>
 <p style="text-align: left;">6</p>	 <p style="text-align: right;">7</p>	

Photo.2 ガラス質滓・椀形鍛冶滓の顕微鏡写真

<p>No.4 ガラス質滓</p> <p>①×100 ガラス質滓、マグネタイト</p>		 <p>①</p>
<p>No.5 椀形鍛冶滓</p> <p>②×100 木炭破片 ③×100 上側暗色粒：粒状滓、中央：鍛造薄片 ④×100 粒状滓 ⑤×100 明白色粒：金属鉄、滓部：ウスタイト・ファイヤライト ⑥×400 ⑤の拡大 金属鉄部：ナイトル etch フェライト単層</p>		 <p>②</p>
 <p>③</p>	 <p>④</p>	
 <p>⑤</p>	 <p>⑥</p>	
<p>No.6 椀形鍛冶滓</p> <p>⑦×100 滓部：ウスタイト・ファイヤライト</p>		 <p>⑦</p>

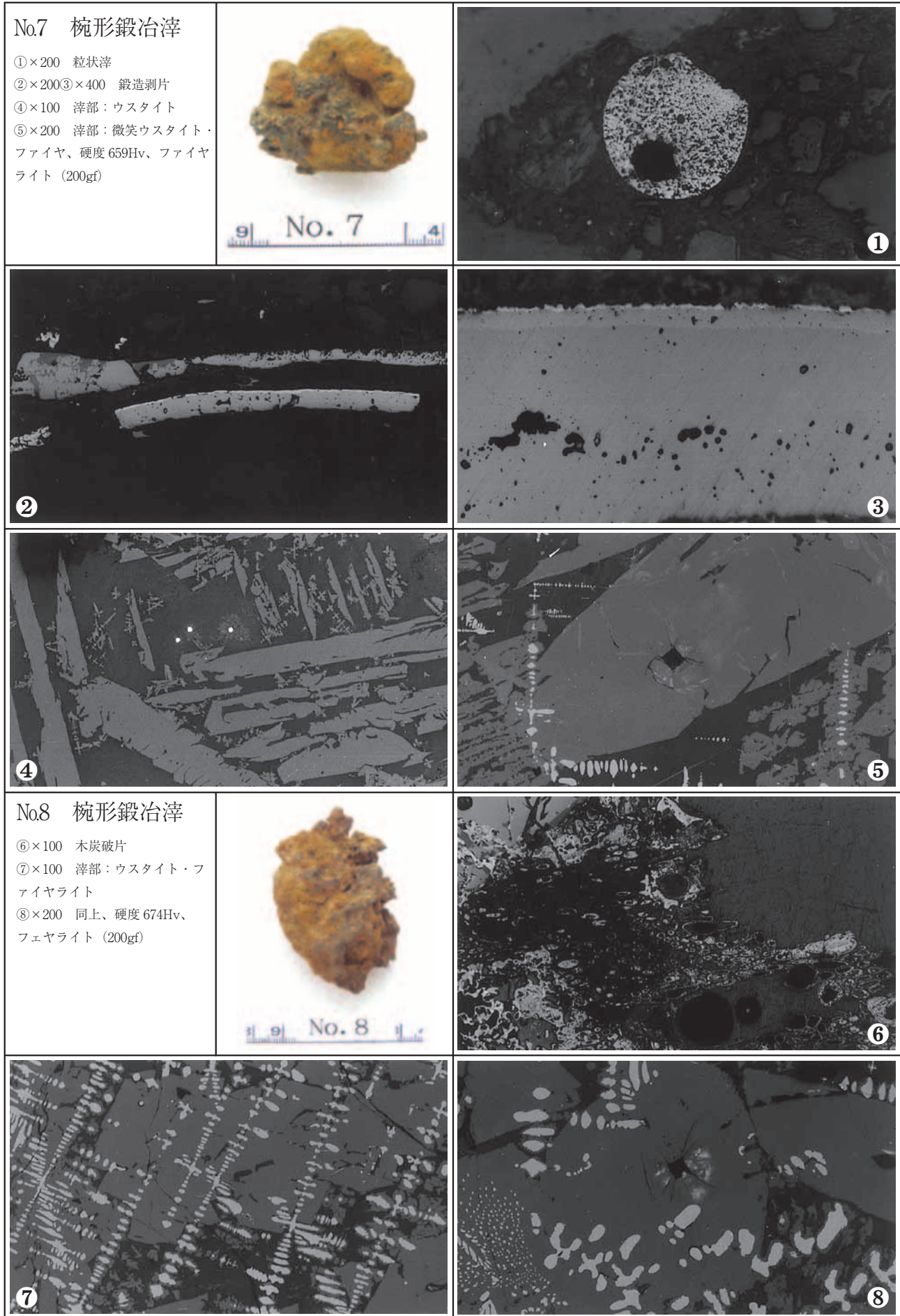
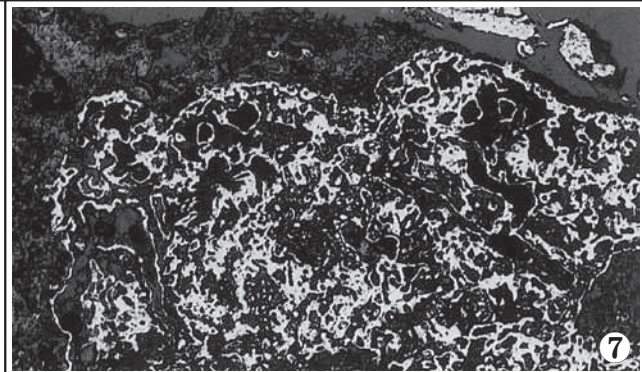
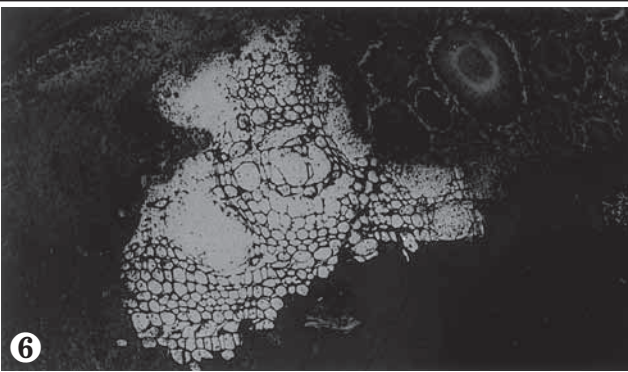
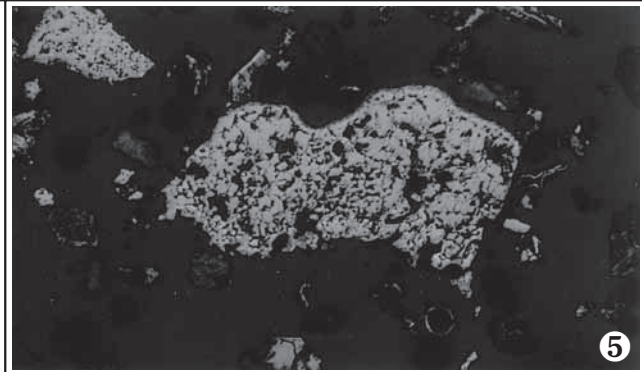
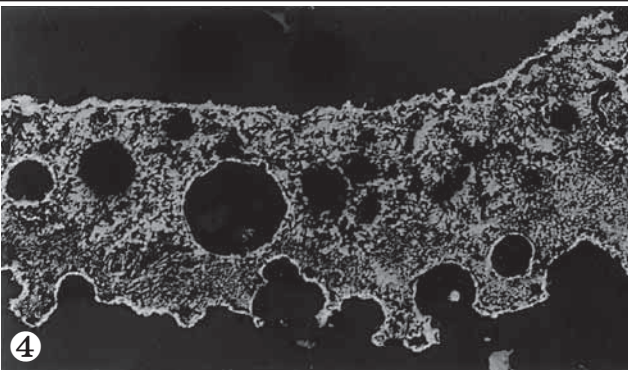
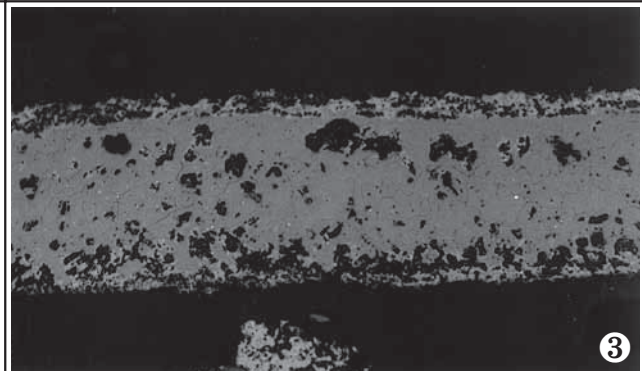
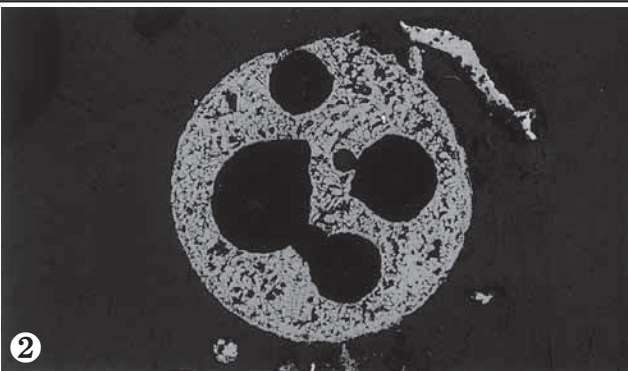
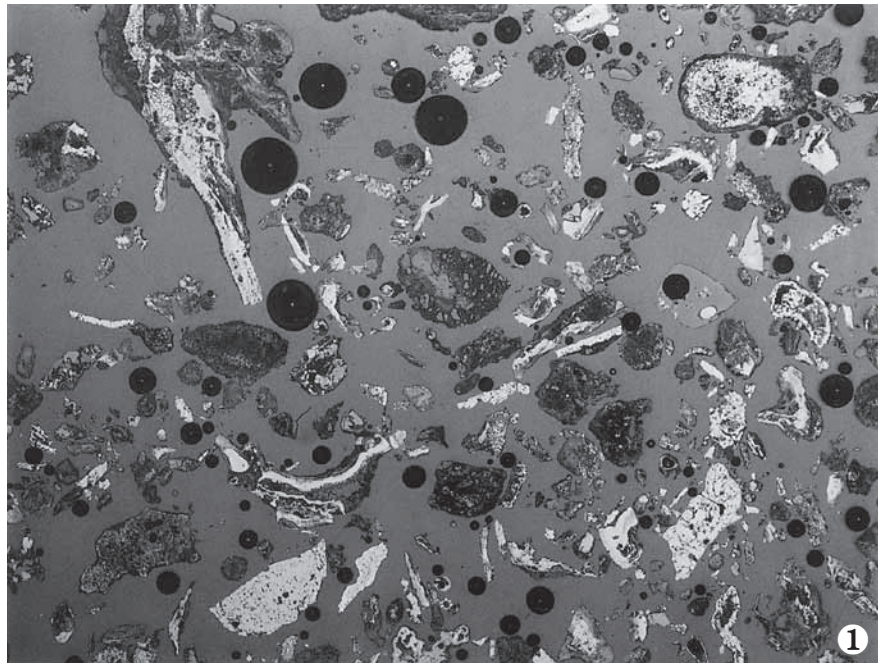


Photo.4 微細遺物の顕微鏡組織

No.7 椀形鍛冶滓

- ①×20 マクロ組織
- ②×200 粒状滓
- ③×200 鍛造剥片
- ④⑤×50 鍛冶滓片
- ⑥×100 木炭片
- ⑦×100 錆化鉄



報告書抄録

ふりがな	かみのむらいせきさん							
書名	上ノ村遺跡Ⅲ							
副書名	波介川河口導流事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅴ							
シリーズ名	高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書							
シリーズ番号	第127集							
編著者名	出原恵三 坂本憲昭 九州テクノリサーチ・TACセンター 国立歴史民族博物館 藤尾慎一郎 坂本稔							
編集機関	(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター							
所在地	〒783-0003 高知県南国市篠原1437-1 TEL 088-864-0671 FAX 088-864-1423							
発行年月日	2012年3月15日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 m ²	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
かみのむら 上ノ村遺跡	こうちけんとさしにい かみのむら 高知県土佐市新居上ノ村	39205	0190119	33° 28' 21"	133° 27' 49"	2007.6 ~ 2008.2	5,280	記録保存 調査
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
上ノ村遺跡	集落	古代末~中世 近世以降		土坑・溝跡 石列状遺構 井戸跡		中世土器 石製品 鉄器		
要約	<p>波介川の河川改修工事に伴う発掘調査で広範囲に調査を実施しており、当報告書は波介川の河川改修工事に伴う発掘調査の第3地点の調査報告書である。本書で報告した調査区以外も順次報告書が刊行されており『北ノ丸遺跡』として2冊が刊行され、上ノ村遺跡として本書を合わせて6冊が刊行される事となっている。</p> <p>当調査区は上ノ村遺跡でもっとも仁淀川に隣接した調査区である。川津関連遺構が期待されたが今回の調査では確認できなかった。溝跡を中心に遺構を検出しており、屋敷を囲う溝跡の可能性が考えられる。</p> <p>遺物では中世を中心に古代末までの遺物が出土し、特に瓦器は和泉型の最終に近い時期のものがまとまって出土しており注目される。また、常滑焼などの搬入品が目立つ事も特徴の一つで遺跡の性格を考える資料となっている。</p>							

高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第 127 集

上ノ村遺跡Ⅲ

波介川河口導流事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅴ

編 集 (財) 高知県文化財団埋蔵文化財センター

発 行 (財) 高知県文化財団埋蔵文化財センター

高知県南国市篠原 1437 - 1

電話 088 - 864 - 0671

発行日 2012 年 3 月 15 日

印 刷 株式会社 飛 鳥